

キャリア開発総合学科 専門教育科目

『学習成果』

- 社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、実践につなげることができる。
- 人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、協働することができる。
- 習得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。

『ディプロマ・ポリシー(DP)』 卒業の認定に関する方針

1. 地域社会で求める職業人の基礎となる諸分野の専門的知識と技能が習得できている。
2. 自ら見出した課題について、習得した知識・技能を活用して考察できる。
3. 身につけた教養、知識・技能をもとに、生涯学び続け地域社会に貢献する意欲をもっている。
4. 社会の一員としての責任を自覚し、多様な立場の人と協働できる。
5. 他者の考えを受けとめながら自分の考えをまとめ、場面に応じた手段を用いて的確に表現できる。

ユニット名	科目名	授業形態	単位数	開講期		担当者	ナンバリング	ページ
				1前	1後			
ホテル・ブライダル	ホスピタリティ概論*	講義	2	○		山 川 奈 美	C081	80
	ホテル総論*	講義	2	○		今 野 則 幸	C081	264
	テーブルマナー演習	演習	1		○	高 橋 見 時	C082	266
	ブライダル概論	講義	2		○	山 川 奈 美	C082	268
	ブライダルフラワービジネスⅠ	演習	2		○	山 川 奈 美	C082	270
健康スポーツ	スポーツ心理学	講義	2		○	高 間 章	C092	272
	コンディショニング実習	実習	1	○		高間 章・吉田 晴彦	C091	274
	健康管理と栄養	講義	2	○		岩田 教子・高間 章	C091	276
	スポーツ実技Ⅰ(健康スポーツ)*	実技	1	○		洪 谷 祐 子	C091	278
	スポーツ実技Ⅱ(ジュニアスポーツ)*	実技	1	○		渡 辺 篤 史	C091	280
生涯スポーツ	スポーツ生理学	講義	2		○	高 間 章	C092	282
	トレーニング演習	演習	3		○	佐々木 秀 将	C092	284
	スポーツ実技Ⅲ(球技系スポーツ)*	実技	1	○		飯 田 臣	C091	286
	スポーツ実技Ⅳ(ダンス)*	実技	1		○	及 川 佳 澄	C092	288
	コーチング実習Ⅰ(ジュニアスポーツ)*	演習	1		○	高間 章・渡辺 篤史	C092	290
ピアヘルパー	コーチング実習Ⅱ(メディカルフィットネス)*	実習	1		○	洪谷 祐子・高間 章	C092	292
	キャリアデザインⅠ	講義	2	●		専 任 教 員	C011	52
	キャリアデザインⅡ	講義	2		●	専 任 教 員	C012	54
	心理学入門	講義	2	○		齊 藤 樹 里	L001	10
	ピアヘルパー養成講座	講義	2		○	緑 川 浩 子	C092	294
フードコーディネーター	食品学Ⅰ	講義	2	○		丸 山 穰	C101	296
	食品衛生学Ⅰ	講義	2		○	丸 山 穰	C102	298
社会福祉主事	社会福祉概論	講義	2	○		高 橋 達 男	L001	14
	人体の構造・機能・疾病*	講義	2	○		丸 山 穰	C051	144
	心理学入門	講義	2	○		齊 藤 樹 里	L001	10
ケアワーク	生活援助従事者研修	演習	2		○	齋藤 美香・今出川 武志 東海林 初枝	C102	300
	ホスピタリティ概論*	講義	2	○		山 川 奈 美	C021	80
	世代間交流の理論と実践Ⅰ	演習	2	◎	◎	齋 藤 ・ 大 曾 根	C101	302
生活デザイン	人間関係とコミュニケーション	講義	2	○		永 野 篤	C101	304
	ライフデザイン総合	講義	2		○	堀 ・ 君 島 ・ 東 海 林	L002	16
	住環境論*	講義	2		○	野 津 弘	C102	306
	生活デザイン演習	演習	1	○		野 津 弘	C101	308
	生活学演習(衣・食)	演習	1	○		金 澤 ・ 佐 藤 京	C101	310
特別講座	秘書検定講座	演習	2	○		富 田 幸 重	C111	76
	エントリ試験対策講座Ⅰ	演習	2		○	岩 渕 正 則	C022	78
	MOSスペシャリスト(Word)	演習	1	○		小野寺幸子・若林 雅子	C111	312
	MOSスペシャリスト(Excel)	演習	1		○	小野寺幸子・若林 雅子	C112	314
	国内旅行業務取扱管理者試験講座	演習	2	集中		大 森 信 治 郎	C111	316
	FP技能士検定対策講座	演習	2		○	若 林 雅 子	C022	70
	簿記検定Ⅰ	演習	2	○		若 林 雅 子	C021	72
	簿記検定Ⅱ	演習	2		○	若 林 雅 子	C022	74
	ネイリスト検定講座	実習	1	○		千 葉 照 実	C061	188
	ベシクメイク	実習	1	○		芳 賀 正 明	C061	192
	公務員試験対策講座Ⅲ-A(基礎数学)	演習	1	○		堀 良平・星 伸之	C041	132
	公務員試験対策講座Ⅲ-B(一般知能・基礎)	演習	1		○	堀 良平・星 伸之	C042	134
	小論文基礎	演習	1		集中	永野 篤・堀 良平 大曾根 学	C112	318
	ミュージック	ミュージックテクニックの基礎	演習	1	○		星 律 子	C111
作詞・作曲の基礎		演習	2		○	榊 原 光 裕	C112	322
リズムトレーニング		演習	1		○	星 律 子	C112	324
ヴォーカルトレーニング		演習	1		○	庄 子 眞 理 子	C112	326
バンドアンサンブル		演習	2	◎	◎	那 須 尚 平	C111	328
スポーツ	スポーツ実技Ⅰ(健康スポーツ)	実技	1	○		洪 谷 祐 子	C091	278
	スポーツ実技Ⅱ(ジュニアスポーツ)	実技	1	○		渡 辺 篤 史	C091	280
	スポーツ実技Ⅲ(球技系スポーツ)	実技	1	○		飯 田 臣	C091	286
	スポーツ実技Ⅳ(ダンス)	実技	1		○	及 川 佳 澄	C092	288
	コーチング実習Ⅰ(ジュニアスポーツ)	演習	1		○	高間 章・渡辺 篤史	C092	290
	コーチング実習Ⅱ(メディカルフィットネス)	実習	1		○	洪谷 祐子・高間 章	C092	292
クリエイティブ・アート	茶道	実習	2	◎	◎	鎌 田 文 恵	C111	330
	カラーコーディネートⅠ	講義	2	○		三 塚 由 美 子	C061	174
	カラーコーディネートⅡ	演習	2		○	三 塚 由 美 子	C062	176
	和裁実習	実習	2		○	佐藤なおみ・金澤 千晶	C062	182
	ヘアメイク	実習	1		集中	金 澤 千 晶	C062	186
	コミックアート(漫画・イラスト)	演習	2	○		阿 部 明 子	C111	332
	ボイストレーニング(声優)	演習	2		○	三 浦 貴 子	C112	334
情報	簿記会計学	講義	2	○		畑 中 恵 司	C022	62
	AI概論	講義	2	○		岩 渕 正 則	C031	96
	データサイエンス基礎論	講義	2		○	岩 渕 正 則	C032	98

ユニット名	科目名	授業形態	単位数	開講期		担当者	ナンバリング	ページ
				1前	1後			
保健・医療・介護福祉	人間関係とコミュニケーション	講義	2	○		永 野 篤	C101	304
	人体の構造・機能・疾病	講義	2	○		丸 山 穰	C051	144
教 養	住環境論	講義	2		○	野 津 弘	C102	306
	ビジネス実務総論	講義	2	○		富 田 幸 重	C021	56
	ビジネス実務演習	演習	2		○	富田 幸重・三浦 貴子	C022	64
	生涯学習概論	講義	2	○		永 野 篤	C041	106
	生命科学	講義	2		○	丸 山 穰	C052	154
	観光概論	講義	2		○	大 森 信 治 郎	C082	248
	仙台の歴史と文化	講義	2		○	佐 藤 和 賀 子	C082	84
	ホスピタリティ概論	講義	2	○		山 川 奈 美	C081	80
	ホテル総論	講義	2	○		今 野 則 幸	C081	264
	物語を読む	講義	2		○	大 泉 浩 一	C042	122
	新聞を読む	講義	2		○	川 辺 博	C022	82
	話し言葉の基礎	演習	2	○		三 浦 貴 子	C041	124
	話し言葉の応用	演習	2		○	関 根 俊 二	C042	126
	プレゼンテーション演習	演習	2		○	永野 篤・吹谷しのぶ	C022	68
	絵本製作	演習	2		○	大 泉 浩 一	C042	128
	観光英会話	演習	2	◎	◎	ブ シ ェ ー ボ ー ル	C021	90
	韓国語会話実践Ⅰ	演習	1		○	文 慶 喆	C022	86
	中国語会話実践	演習	2	◎	◎	謝 韜	C021	88
	図書館実習	実習	1		○	関 根 俊 二	C112	336
	ビジネス心理学	講義	1	集中		永 野 篤	C111	338
発酵食品概論	講義	1		集中	丸 山 穰	C112	340	
国内語学研修	演習	1		集中	山 川 奈 美	C112	342	
ディズニーアカデミー研修	演習	1	集中		山 川 奈 美	C111	344	
現代会計と企業経営	講義	1		集中	永 野 篤	C112	346	

ユニット名	科目名	授業形態	単位数	開講期		担当者	ナンバリング	ページ
				2前	2後			
ベーシック	ベーシックゼミ	演習	2	◎	○	専任教員	C013	348
	キャリアデザインⅢ	講義	2	●	○	専任教員	C013	350
ビジネス実務士	コンピュータ会計演習*	演習	2	○	○	畑中恵司	C023	352
	オフィススタディ	講義	2	○	○	富田幸重	C024	354
金融	キャリアデザインⅢ	講義	2	●	○	専任教員	C013	350
	簿記検定Ⅰ*	演習	2	○	○	若林雅子	C021	72
グローバル	簿記検定Ⅱ*	演習	2	○	○	若林雅子	C022	74
	エントリ試験対策講座Ⅱ*	演習	2	○	○	岩瀬正則	C023	356
上級情報処理士	韓国語会話実践Ⅱ*	演習	1	○	○	文慶喆	C023	358
	中国語会話実践*	演習	2	◎	◎	謝韜	C021	88
情報環境論	観光英会話*	演習	2	◎	◎	ブシェール	C021	90
	ドラマで学ぶ英語の世界～シェイクスピアから鬼滅の刃まで～*	講義	2	○	○	永野篤	C024	360
情報ネットワーク	情報環境論	講義	2	○	○	岩瀬正則	C034	362
	コンピュータネットワーク	講義	2	○	○	丸山穰	C034	364
データベース	データベース演習*	演習	2	○	○	大澤栄子	C034	366
	ベーシックゼミ	演習	2	◎	◎	専任教員	C013	348
プログラミング	プログラミング演習	演習	2	○	○	大澤栄子	C033	368
	AI概論*	講義	2	○	○	岩瀬正則	C031	96
データサイエンス	データサイエンス基礎論*	講義	2	○	○	岩瀬正則	C032	98
	ソーシャルeスポーツ	演習	2	○	○	桑原吉成	C033	370
ウェブデザイン実務士	コンピュータネットワーク	講義	2	○	○	丸山穰	C034	364
	Webプログラミング	演習	2	○	○	大澤栄子	C033	372
Webサイト管理	Webサイト管理演習	演習	2	○	○	村上航士	C034	374
	Webプランニング	講義	2	○	○	村上航士	C033	376
図書館	図書館制度・経営論	講義	2	○	○	稲雄次	C044	378
	情報サービス論	講義	2	○	○	庄子隆弘	C043	380
情報サービス	情報サービス演習	演習	2	○	○	庄子隆弘	C044	382
	図書館情報技術論	講義	2	○	○	川辺博	C044	384
情報資源	情報資源組織演習	演習	2	◎	◎	熊谷慎一郎	C043	386
	絵本の知識	講義	2	○	○	関根非常勤	C043	388
認定絵本	絵本をめぐる技術と感性	演習	2	○	○	関根非常勤	C044	390
文芸	ノンフィクションを読む*	講義	2	○	○	関根俊二	C043	392
	書き言葉*	演習	2	○	○	大泉浩一	C043	394
日本語表現	IT時代の表現*	演習	2	○	○	川辺博	C044	396
	雑誌製作*	演習	2	○	○	大泉浩一	C043	398
創作活動	創作演習*	演習	2	○	○	関根俊二	C044	400
	公務員試験対策講座Ⅱ (政策提案)	講義	2	○	○	堀良平・鳴海渉	C043	402
公務員	公務員試験対策講座Ⅵ (一般知能・実践)*	演習	1	○	○	堀良平・星伸之	C043	404
	公務員試験対策演習 (過去問演習)	演習	2	○	○	堀本吉祥子	C043	406
公務員エキスパート	公務員試験対策演習 (直前編)	演習	1	集中	○	堀本吉祥子	C043	408
	薬理学	講義	2	○	○	渡部成子	C053	410
医療ベーシック	公衆衛生学	講義	2	○	○	渡部俊彦	C054	412
	医療事務演習Ⅱ	演習	2	○	○	加藤淳子	C053	414
医療・調剤事務	医療事務演習Ⅲ (調剤報酬)	演習	2	○	○	丸山穰・加藤淳子	C053	416
	医事接遇マナー	講義	2	○	○	加藤淳子	C053	418
医療事務	医療事務特別講座Ⅱ	講義	2	○	○	加藤淳子	C053	420
	調剤事務資格特別講座	講義	2	○	○	横尾由香	C054	422
医師事務補助	医療情報演習 (電子カルテ含む)	演習	2	○	○	横尾由香	C054	424
	医師事務補助特別講座Ⅱ	講義	2	○	○	横尾由香	C053	426
登録販売資格	薬理学	講義	2	○	○	渡部成子	C053	410
	登録販売者資格特別講座	講義	1	集中	○	加藤・渡部・丸山	C051	168
アパレル	ファッションビジネス	講義	2	○	○	江戸純美	C061	170
	ファッションアドバイザー	講義	2	○	○	江戸純美	C062	172
カラーコーディネート	カラーコーディネートⅠ*	講義	2	○	○	三塚由美子	C061	174
	カラーコーディネートⅡ*	演習	2	○	○	三塚由美子	C062	176
ファッションショー	和裁実習*	実習	2	○	○	佐藤なおり・金澤千晶	C062	182
	クリエイティブデザイン	実習	2	○	○	金澤千晶	C063	428
ファッション	ステージショー演出	実習	2	○	○	金澤千晶	C064	430
	ヘアメイク*	実習	1	集中	○	金澤千晶	C062	186

ユニット名	科目名	授業形態	単位数	開講期		担当者	ナンバリング	ページ
				2前	2後			
ビューティーファッション	ベーシックメイク*	実習	1	○	○	芳賀正明	C061	192
	アーティストメイク	実習	1	○	○	芳賀正明	C062	194
カフェ	カフェスキル演習	演習	2	○	○	松尾・兼子・土井	C073	432
	カフェデザート実習	実習	2	○	○	相良奈津・岩松秀夫	C073	434
カフェドリンク	カフェドリンク実習Ⅰ	実習	2	○	○	小野寺・吉田・細貝里館・梅津	C073	436
	カフェドリンク実習Ⅱ	実習	2	○	○	小野寺・吉田・細貝里館・梅津	C074	438
製菓衛生師試験対策	製菓衛生師試験対策講座Ⅱ	講義	2	集中	○	岩松・吉田・相良	C073	440
	製菓技術Ⅰ	実習	2	○	○	吉田・高橋・加藤・渡辺	C073	442
製菓エキスパート	製菓技術Ⅱ	実習	2	○	○	吉田・高橋・加藤・渡辺	C073	444
	製菓技術Ⅲ	実習	2	○	○	吉田・相良・高橋・加藤・堤田	C074	446
製菓技術	製菓技術Ⅳ	実習	2	○	○	吉田・相良・高橋・加藤・堤田	C074	448
	製菓学外実習Ⅰ	実習	2	○	○	吉田正	C073	450
製菓学外実習	製菓学外実習Ⅱ	実習	2	○	○	吉田正	C074	452
	インターンシップ	実習	1	集中	集中	吉田正	C073	454
観光実務士	観光事業論	講義	2	○	○	大森信治郎	C084	456
	観光英会話*	演習	2	◎	◎	ブシェール	C081	90
観光ガイド	観光ガイドトレーニング	講義	2	○	○	尾形和悦	C084	458
	ブライダル実務	講義	2	○	○	山川奈美	C083	460
ホテル・ブライダル	ゲストサービス演習	演習	1	○	○	高橋見時	C083	462
	ブライダルフラワービジネスⅡ	演習	2	○	○	山川奈美	C084	464
健康スポーツ	スポーツ社会学	講義	2	○	○	高間章	C093	466
	スポーツ方法実習Ⅲ (健康スポーツ)*	実習	2	◎	◎	渋谷祐子・高間章	C093	468
生涯スポーツ	スポーツ方法実習Ⅳ (ダンス)*	実習	1	○	○	高間章・及川佳澄	C094	470
	スポーツ資格検定対策講座	講義	2	○	○	高間章	C094	472
トレーニング	トレーニング実技	実技	1	○	○	高間章	C093	474
	運動障害と救急法	演習	3	○	○	橋本実・佐々木秀将	C093	476
運動処方	運動処方演習*	演習	3	○	○	高間章・大内昭浩	C094	478
	食文化論	講義	2	○	○	梅津裕子	C104	480
フードコーディネーター	食環境コーディネート	講義	2	○	○	佐藤睦子・今野則幸	C103	482
	フードショッププランニング	講義	2	○	○	今野則幸	C104	484
調理	調理方法と調理機器	実習	2	○	○	前澤・深見・吉田	C103	486
	テーブルコーディネート	実習	1	○	○	梅津裕子	C103	488
栄養学	栄養学A*	講義	2	○	○	梅津裕子	C103	490
	介護職員初任者研修	演習	3	◎	◎	齋藤美香・今出川武志・東海林初枝	C103	492
ケアワーク	障害・認知症の理解	講義	2	○	○	森本浩史・高橋壮	C103	494
	生活学Ⅱ	講義	2	○	○	宇田川・東海林	C103	496
防災	防災の基礎理論	講義	2	◎	◎	東海林初枝・他	C103	498
	災害時の生活支援	演習	1	◎	◎	齋藤美香・他	C103	500
防災関係	防災関係検定対策講座	講義	1	○	○	東海林初枝・他	C103	502
	エントリ試験対策講座Ⅱ	演習	2	○	○	岩瀬正則	C033	356
特別講座	ITパスポート試験実践講座	講義	1	集中	○	永野篤	C113	504
	MOSエキスパート (Word)	演習	1	○	○	大澤栄子	C113	506
MOSエキスパート	MOSエキスパート (Excel)	演習	1	○	○	大澤栄子	C114	508
	国内旅行業務取扱管理者試験講座	演習	2	集中	○	大森信治郎	C111	316
簿記検定	簿記検定Ⅰ	演習	2	○	○	若林雅子	C021	72
	簿記検定Ⅱ	演習	2	○	○	若林雅子	C022	74
ベーシックメイク	ベーシックメイク	実習	1	○	○	芳賀正明	C061	192
	公務員試験対策講座Ⅵ (一般知能・実践)	演習	1	○	○	堀良平・星伸之	C043	404
小論文	小論文応用	演習	1	集中	○	永野篤・堀良平・大曾根学	C113	510
	ミュージック	ミュージックテクニクの基礎	演習	1	○	星律子	C111	320
ミュージック	作詞・作曲の基礎	演習	2	○	○	榎原光裕	C112	322
	リズムトレーニング	演習	1	○	○	星律子	C112	324
ヴォーカル	ヴォーカルトレーニング	演習	1	○	○	庄子真理子	C112	326
	バンドアンサンブル	演習	2	◎	◎	那須尚平	C111	328
スポーツ	スポーツ方法実習Ⅲ (健康スポーツ)	実習	2	◎	◎	渋谷祐子・高間章	C093	468
	スポーツ方法実習Ⅳ (ダンス)	実習	1	○	○	高間章・及川佳澄	C094	470
運動処方	運動処方演習	演習	3	○	○	高間章・大内昭浩	C093	478

『キャリア開発総合学科専門教育科目』について

キャリア開発総合学科は、地域社会の多様なニーズにこたえることができる学生を養成することを目的とする地域総合科学科として認定された学科です。

そのため、履修にあたっては、資格等につながる科目群である「ユニット」と、学習体系上関連のあるユニットをまとめた「系」を考えながら学習の計画を立てる必要があります。

カフェ・フード、観光、スポーツ、ファッション、司書・公務員、ビジネス情報・金融、医療事務の各系に置かれたユニットは、系を超えて組み合わせて履修することが可能です。

一科目ずつ履修できるフリー科目もたくさんあります。

製菓衛生師養成課程と介護福祉士養成課程については、受験資格を得るためにそれぞれの課程の科目をすべて履修しなければなりません。

卒業には62単位以上の習得が必要ですが、専門教育科目は54単位以上の習得が必要です。別に共通教育科目8単位以上も必要です。

専門教育科目の中の必修科目として1年次には「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」、2年次には「ベーシックゼミ」または「介護総合演習Ⅱ」、「キャリアデザインⅢ」の4科目が置いてあります。

以下の教育目標を念頭に置き、卒業に必要な単位習得をめざしましょう。

キャリア開発総合学科の教育目的・教育目標

建学の精神に基づく人間教育を基本理念とし、開かれた社会性、将来につながる専門性の育成を目的とする。教育目標は次のとおりである。

1. 地域社会に貢献するための豊かな人間性と社会性を備えた人間を育成する。
社会人としての教養を深める共通教育科目と、学科の多彩な専門領域を追究する専門教育科目をあわせて学習することにより、関心の幅を広げ、地域社会の多様な分野において活躍できる知識と技能を習得する。
2. キャリア教育を通して、職業人としての意識と能力を高める。
社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を高める一方、進路の目標に沿った各種の資格・検定への挑戦や、学科が推進する行事および地域交流活動への参加などを通して、職業人としての資質向上を図る。

ユニット名	科目名	授業形態	単位数	開講期		担当者	ナンバリング	ページ
				2前	2後			
クリエイティブ・アート	茶道	実習	2	◎	◎	鎌田文恵	C111	330
	カラーコーディネートⅠ	講義	2	○		三塚由美子	C061	174
	カラーコーディネートⅡ	演習	2		○	三塚由美子	C062	176
	和裁実習	実習	2		○	佐藤なおみ・金澤千晶	C062	182
	ヘアメイク	実習	1		集中	金澤千晶	C062	186
情報	コンピュータ会計演習	演習	2	○		畑中恵司	C023	352
	データベース演習	演習	2		○	大澤栄子	C034	366
	AI概論	講義	2	○		岩渕正則	C031	96
	データサイエンス基礎論	講義	2		○	岩渕正則	C032	98
保険・医療・介護福祉	障害・認知症の理解	講義	2	○		森本浩史・高橋壮	C103	494
教養	栄養学A	講義	2	○		梅津裕子	C103	490
	生命科学	講義	2		○	丸山穰	C052	154
	ドラマで学ぶ英語の世界 ～シェイクスピアから鬼滅の刃まで～	講義	2		○	永野篤	C024	360
	ノンフィクションを読む	講義	2	○		関根俊二	C043	392
	書き言葉	演習	2	○		大泉浩一	C043	394
	IT時代の表現	演習	2		○	川辺博	C044	396
	雑誌製作	演習	2	○		大泉浩一	C043	398
	創作演習	演習	2		○	関根俊二	C044	400
	観光英会話	演習	2	◎	◎	ブシェーポール	C021	90
	韓国語会話実践Ⅱ	演習	1	○		文慶喆	C023	358
	中国語会話実践	演習	2	◎	◎	謝翰	C021	88
	病院実習	実習	1	○		丸山穰・加藤淳子	C113	512
	発酵食品概論	講義	1		集中	丸山穰	C112	340
	国内語学研修	演習	1		集中	山川奈美	C112	342
	ディズニースタディ研修	演習	1	集中		山川奈美	C111	344

科目名	キャリアデザイン I				担当者	専任教員						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp。各教員のオフィスアワーおよび電子メール											
専門的 学習成果	①	世の中のしくみと、現代社会の基本的課題について研究し、論じることができる。										
	②	社会人・職業人として自立するための協働する力を高める。										
	③	自主的・自律的に、諦めずに粘り強く取り組む姿勢を身に付け、問題解決に取り組むことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	世の中のしくみと現代社会の基本的課題について研究する事を通じて、社会的・職業的自立に必要な知見および態度を獲得し、実務に活かすことができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	組織の一員としての役割を認識し、他者理解を深め、自己表現力を高め、問題解決に向け協働できる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	自主的・自律的に、諦めずに粘り強く問題解決に取り組む事で、地域の発展に寄与する意義を再認識し、より積極的な貢献者となる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	社会を構成する主体的な一員となり、職業人として自立していくことを視野に、社会で自らを活かせるキャリアの将来について検討・洞察するための知見の獲得を協働経験を交えながら行う (Career Cooperation)。キャリア構築に必要な最新の情報が随時提供され、それらを積極活用し、自らにとって最適な選択を行うための知見の向上を目指す。学生各人にとって重要な協働経験を積む機会であり、自らのコミュニケーション力の限界や可能性に気づき、それを踏まえ、改善・向上に取り組み、自らの可能性を広げていく。キャリア開発総合学科の必修科目である。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	15回実施し、各回6.66%を配点する。								
		SPI 模試	20	2回実施し、各回50%を配点する。								
		一般常識理解 小テスト	10	8回実施し、各回12.5%を配点する。								
汎用的 学習成果	平常点	10	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。									
	汎用的学習の成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	ディスコ編	『進路ガイドブック2022-2023』				ディスコ						
	実務教育出版	『SPI 基礎からはじめる問題集』				実務教育出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	高橋俊介	『キャリア論』				東洋経済新聞社						
	就活塾キャリアアカデミー	『就職活動1冊目の教科書 オンライン就活対応』				株式会社 KADOKAWA						
	本間啓二ほか	『5訂版キャリアデザイン概論』				雇用問題研究会						
	伊藤宏ほか	『大学生のための実践的キャリア&就活講座』				中央経済社						
	稲本恵子ほか	『大学生のキャリアデザイントレーニング』				晃洋書房						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①社会人・職業人に求められる最低限の一般常識レベルの維持・向上に努めること。学習過程において、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと。(予習：週2時間程度、復習：週2時間程度) ②課題に対しては、随時フィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	レポート①授業報告書
	学習成果	短大における二年間の学生生活で行うキャリアデザインの学習計画について把握する。	
	予習復習の内容	図書館、インターネット等からキャリアデザインの在り方について調査する。	
	授業内容	短大での学生生活とキャリアデザイン	レポート②授業報告書
2回	学習成果	先輩からの体験談を通して、自身がどのような学生生活を送るべきかを検討する。	
	予習復習の内容	自分自身が短大でどのような生活を送りたいかを振り返る。	
3回	授業内容	雇用情報の研究	レポート③授業報告書 一般常識小テスト①
	学習成果	各種雇用情報について、適切に読解することができる。	
	予習復習の内容	大学内の情報、インターネット等から、多くの雇用情報に触れ、読解に慣れる。一般常識問題に取り組む。	
	授業内容	業種・職種の理解	レポート④授業報告書 SPI 確認テスト①
4回	学習成果	業種・職種の違い、代表的企業、業務上の役割などについて区別し、説明できる。	
	予習復習の内容	講義を踏まえ、自身が志向する方向について調査・研究する。SPI 確認テストに取り組む。	
5回	授業内容	業種・職種別ガイダンス	レポート⑤授業報告書 一般常識小テスト②
	学習成果	様々な業種・職種の説明を聞くことで、自身のキャリアの構築方法を理解する。	
	予習復習の内容	講義を踏まえ、自身が志向する方向について引き続き調査・研究する。一般常識問題に取り組む。	
	授業内容	企業理解	レポート⑥授業報告書
6回	学習成果	企業において求められる人材像を理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	講義を踏まえ、自身が志向する方向について引き続き調査・研究する。	
7回	授業内容	リテラシーとコンピテンシーの理解	レポート⑦授業報告書
	学習成果	事前に実施する PROG テストの結果を理解し、自身の自己分析に繋げることができる。	
	予習復習の内容	PROG テストを受験する (指示あり)	
	授業内容	自己分析の進め方	レポート⑧授業報告書 一般常識小テスト③
8回	学習成果	その必要性を理解し、今後の進路選択において積極的に自己分析を進めることができる。	
	予習復習の内容	講義を踏まえ、自身の棚卸を行い、表現できるように準備する。一般常識問題に取り組む。	
9回	授業内容	自己分析	レポート⑨授業報告書 一般常識小テスト④ 小集団活動①
	学習成果	自分自身を把握し、分析するための手法について学ぶ。	
	予習復習の内容	自分自身の過去資料を整理し、分析に役立てる準備をする。一般常識問題に取り組む。	
	授業内容	自己分析	レポート⑩授業報告書 一般常識小テスト⑤ 小集団活動②
10回	学習成果	自分自身を把握し、分析するための手法を自分自身に適応させる。	
	予習復習の内容	自分自身の傾向・特徴を明らかにし、それを表現するための準備をする。一般常識問題に取り組む。	
11回	授業内容	経営者の観点からとらえた社会人・職業人の在り方	レポート⑪授業報告書
	学習成果	社会人・職業人にとって求められる思考・態度について検討することができる。	
	予習復習の内容	図書館、インターネット等から様々なキャリアの在り方について調査する。一般常識問題に取り組む。	
	授業内容	進路選択における情報の習得	レポート⑫授業報告書 SPI 確認テスト②
12回	学習成果	進路選択における情報収集の方法について学び、自身の進路選択において効果的に活用できる。	
	予習復習の内容	講義を踏まえ、自身が志向する方向について調査・研究する。SPI 確認テストに取り組む。	
13回	授業内容	自己表現の方法	レポート⑬授業報告書 一般常識小テスト⑥
	学習成果	個性に応じた自己表現の重要性を確認する。	
	予習復習の内容	自分らしい自己表現について検討し、実行できるよう準備する。一般常識問題に取り組む。	
	授業内容	キャリアの構築の最新情報	レポート⑭授業報告書 一般常識小テスト⑦
14回	学習成果	2年次内々定者から、キャリアの築き方について学び、自分自身の将来に役立つ要素を発見する。	
	予習復習の内容	キャリアの築き方の工程について確認し、スケジュールを立てる。一般常識問題に取り組む。	
15回	授業内容	まとめ	レポート⑮授業報告書 一般常識小テスト⑧
	学習成果	本講義で学んだことを復習し、今後のキャリアデザインの方向性について検討できる。	
	予習復習の内容	これまでの講義内容を踏まえ、自身の進路選択をどのように進めるか、方向性を考える。	

科目名	キャリアデザインⅡ				担当者	専任教員							
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期	
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp。各教員のオフィスアワーおよび電子メール											
専門的 学習成果	①	世の中のしくみと、現代社会の基本的課題について研究し、論じることができる。											
	②	社会人・職業人として自立するための協働する力を高める。											
	③	自主的・自律的に、諦めずに粘り強く取り組む姿勢を身に付け、問題解決に取り組むことができる。											
汎用的 学習成果	(1)	世の中のしくみと現代社会の基本的課題について研究する事を通じて、社会的・職業的自立に必要な知見および態度を獲得し、実務に活かすことができる。(専門的学習成果①②に関連)											
	(2)	組織の一員としての役割を認識し、他者理解を深め、自己表現力を高め、問題解決に向け協働できる。(専門的学習成果②③に関連)											
	(3)	自主的・自律的に、諦めずに粘り強く問題解決に取り組む事で、地域の発展に寄与する意義を再認識し、より積極的な貢献者となる。(専門的学習成果①②③に関連)											
授業概要	社会を構成する主体的な一員となり、職業人として自立していくことを視野に、社会で自らを活かせるキャリアの将来について検討・洞察するための知見の獲得を協働経験を交えながら行う(Career Cooperation)。キャリア構築に必要な最新の情報が随時提供され、それらを積極活用し、自らにとって最適な選択を行うための知見の向上を目指す。学生各人にとって重要な協働経験を積む機会であり、自らのコミュニケーション力の限界や可能性に気づき、それを踏まえ、改善・向上に取り組み、自らの可能性を広げていく。キャリア開発総合学科の必修科目である。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	20	15回実施し、各回6.66%を配点する。									
		グループワーク	50	授業への取り組み、意欲、態度により、レポート内容等も勘案し評価する。									
		SPI 模試	10	2回実施し、各回50%を配点する。									
		一般常識理解小テスト	10	10回実施し、各回10%を配点する。									
	平常点	10	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習の成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名						
	ディスコ		『進路ガイドブック2022-2023』				ディスコ						
	実務教育出版		『SPI 基礎からはじめる問題集』				実務教育出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名						
	三隅二不二		『リーダーシップの科学—指導力の科学的診断法』				講談社						
	高橋俊介		『キャリア論』				東洋経済新聞社						
	就活塾キャリアアカデミー		『就職活動1冊目の教科書 オンライン就活対応』				株式会社 KADOKAWA						
	本間啓二ほか		『5訂版キャリアデザイン概論』				雇用問題研究会						
	伊藤宏ほか		『大学生のための実践的キャリア&就活講座』				中央経済社						
稲本恵子ほか		『大学生のキャリアデザイントレーニング』				晃洋書房							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①社会人・職業人に求められる最低限の一般常識レベルの維持・向上に努めること。学習課程において、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと。(予習：週2時間程度、復習：週2時間程度) ②学習課程において、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと(予習：週2時間程度)。課題に対しては、随時フィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス	レポート①授業報告書	
	学習成果	キャリアデザインⅡの目的とスケジュールについて適切に理解する。		
	予習復習の内容	自分にとって適切なキャリアに相応しい自分自身を構築する意義について検討する。		
2回	授業内容	業種・職種研究	レポート②授業報告書 一般常識小テスト①	
	学習成果	業種と職種の違いを理解し、自身の進路選択に繋げることができる。		
	予習復習の内容	インターネットや書籍を通して自身が興味ある業種・職種を確認する。一般常識問題に取り組む。		
3回	授業内容	企業研究(プレゼンテーション)	レポート③授業報告書 一般常識小テスト② 小集団活動①	
	学習成果	自身で研究してきた企業についてまとめ、その内容について説明することができる。		
	予習復習の内容	興味ある企業の説明会やインターンシップに参加し、業務内容等について理解を深める。		
4回	授業内容	組織人としての意義理解	レポート④授業報告書 一般常識小テスト③ 小集団活動②	
	学習成果	職業人は、通常、組織人である。その組織化の意義や目的について理解し、その一員として適切なコミュニケーション力や行動力を志向できる。		
	予習復習の内容	小集団活動を振り返り、メンバーとの連絡方法について確立し、コミュニケーションを進める。一般常識問題にも取り組む。		
5回	授業内容	SPI テスト①	レポート⑤授業報告書 SPI 模擬試験①	
	学習成果	SPI についてテストを行うことで、自身のリテラシーの傾向を理解する。		
	予習復習の内容	SPI について自身の強み弱みについて精査し、十分に復習する。		
6回	授業内容	社会的存在としての組織の目的達成の意義理解	レポート⑥授業報告書 一般常識小テスト④ 小集団活動③	
	学習成果	組織が目標設定し、それに向けて活動する意義の重要性について説明できる。		
	予習復習の内容	自らの傾向について把握し、小集団における自らの役割とその実効性について検討する。一般常識問題にも取り組む。		
7回	授業内容	社会的存在としての実務的コミュニケーション	レポート⑦授業報告書 一般常識小テスト⑤ 小集団活動④	
	学習成果	自らが属する組織以外の組織を取材するための連絡・交渉の在り方について学び、実践することができる。		
	予習復習の内容	外部組織との適切なコミュニケーションについて練習し、実行に移し、メンバーとコミュニケーションをとる。一般常識問題にも取り組む。		
8回	授業内容	効果的プレゼンテーションとシナリオ	レポート⑧授業報告書 一般常識小テスト⑥ 小集団活動⑤	
	学習成果	能力・意欲を勘案した適切な役割分担で、取材内容からシナリオの原案作成に取り組める。		
	予習復習の内容	取材内容を精査し、情報の取捨選択や、ストーリー展開などについて検討し、メンバーとコミュニケーションをとる。一般常識問題にも取り組む。		
9回	授業内容	効果的プレゼンテーションと効果	レポート⑨授業報告書 一般常識小テスト⑦ 小集団活動⑥	
	学習成果	より良い成果を求めて、シナリオの原案を客観的に精査し、校正することができる。		
	予習復習の内容	シナリオの構成の在り方について検討し、メンバーとコミュニケーションをとる。一般常識問題にも取り組む。		
10回	授業内容	効果的プレゼンテーションと協働	レポート⑩授業報告書 一般常識小テスト⑧ 小集団活動⑦	
	学習成果	高い成果を目指しつつ、良好な人間関係の維持に努め、作業することができる。		
	予習復習の内容	プレゼンテーション資料の見せ方の工夫や、メンバーとの協働のあり方について工夫する。一般常識問題にも取り組む。		
11回	授業内容	効果的協働	レポート⑪授業報告書 一般常識小テスト⑨ 小集団活動⑧	
	学習成果	これまでの成果を発表する舞台において、効果的なチームワークを発揮することができる。		
	予習復習の内容	発表に向けたリハーサルを行い、かつ、終了後は振り返りを行う。一般常識問題にも取り組む。		
12回	授業内容	取材、プレゼンテーション・協働	レポート⑫授業報告書	
	学習成果	主体的に探索し、それを纏めコンテンツを作成し、そして発表するという一連の協働の意義について理解を深めることができる。		
	予習復習の内容	他者の発表を見学し、自らの今後の活動に役立つ観点について研究する。一般常識問題にも取り組む。		
13回	授業内容	SPI テスト②	レポート⑬授業報告書 SPI 模擬試験②	
	学習成果	SPI についてテストを行うことで、自身のリテラシーの傾向を理解する。		
	予習復習の内容	SPI について自身の強み弱みについて精査し、十分に復習する。		
14回	授業内容	SPI についての理解	レポート⑭授業報告書	
	学習成果	SPI の内容について講義を通して理解し、効果的な対策方法を検討できる。		
	予習復習の内容	これまで実施したテストの結果を振り返り、自身の強み・弱みを整理する。		
15回	授業内容	まとめ	レポート⑮授業報告書	
	学習成果	これまでの講義内容を振り返り、今後のキャリアデザインを明確に進めることができる。		
	予習復習の内容	講義内容を振り返り、整理する。		

科目名	ビジネス実務総論				担当者	トミダ ユキヒコ 富田幸重						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーについては初回の授業で連絡する。授業内容に関する質問は毎回、授業前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	ビジネス実務能力が発揮できるような考え方や技術を習得し実践できる。										
	②	簡単なビジネス文書について理解し、作成することができる。										
	③	ビジネスにおける対人関係においてコミュニケーションの必要性を理解し、主体的行動をとることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	実践的なビジネス実務を学ぶことを通して社会的職業的自立につながる知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①③に関連)										
	(2)	簡単なビジネス文書の技術を習得することにより、簡潔で明快な表現を思考することができる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	ビジネスに必要とされるコミュニケーション能力が養われ、他者を理解し自己表現ができる。(専門的学習成果①③に関連)										
授業概要	学生生活と職場生活の違いは何か。組織や仕事とはどういうものなのか。基本的なビジネス社会の構造や仕事へのアプローチ及び働く意義を学ぶ。具体的には、これから社会人として仕事をしていく上での必要な基礎知識(ビジネス常識、ビジネス文書、及び対人関係におけるマナー・接遇)を習得する。さらには、あらゆる場面や人間関係に応じた敬語表現を身につけることにより、他者との豊かなコミュニケーションを築くことができるようになる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	テーマに沿ったレポートの評価 (体裁・内容・根拠・独創性にて評価する。)								
		筆記試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価する。								
	平常点	10	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②により評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前学習として、日常的に新聞・経済雑誌などを利用し、授業での学びを確認し理解を深めておくこと。(計30時間) 事後学習としては、授業の内容を復習し、課題や就職における業界研究について調べるなど、自主的に学びを発展させるようにすること。(計30時間) ②提出された課題・試験は全体的な解説・講評を行い、フィードバックするので、自らの理解を深めること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス ビジネス社会の現状 働く意義とは	講義時に配付する資料・ワークシートへの取り組み・活用
	学習成果	学生と社会人の違い、働く意義について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	仕事の基本① 仕事の基本となる8つの意識 仕事への取り組み	
	学習成果	仕事の基本となる8つの意識について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、仕事の基本となる8つの意識について理解を深める。	
3回	授業内容	仕事の基本② 会社のルールと勤務条件	
	学習成果	企業倫理(コンプライアンス)、勤務条件を理解し、内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本の勤務条件と給与のしくみについて考察する。	
4回	授業内容	仕事の基本③ 会社の組織と運営	
	学習成果	組織を効率よく動かすための分業システムを説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、分業システムを理解し整理しておく。	
5回	授業内容	ビジネス文書① 文書の目的と意義 ビジネス文書作成における留意点	
	学習成果	ビジネス文書の意義を理解し、用語・書式を説明できる。	
	予習復習の内容	ビジネス用語を復習し、理解を深める。	
6回	授業内容	ビジネス文書② 社内文書の種類と作成例	
	学習成果	簡単な社内文書が作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、社内文書についての理解を深める。	
7回	授業内容	ビジネス文書③ 社外文書と社交文書の特徴と基本構成	
	学習成果	社外文書と社交文書の慣用語、書式を説明できる。	
	予習復習の内容	社外文書と社交文書を理解し、就職内定の礼状などに役立つようにする。	
8回	授業内容	ビジネス文書④ 受信文書の取り扱い及び発信 郵便の知識	
	学習成果	葉書・封筒の宛名の書き方、郵便知識を説明できる。	
	予習復習の内容	文書の発信、郵便知識を理解し、就職活動に役立つようにする。	
9回	授業内容	ビジネス常識① 社会保険と税金	
	学習成果	社会保障の種類と仕組みを説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、社会保障について理解を深める。	
10回	授業内容	ビジネス常識② 社会常識を高める情報収集 表とグラフの読み方	
	学習成果	新聞などからの情報収集ができるようになる。	
	予習復習の内容	新聞・インターネットなどを利用し、学習や就職活動に役立つようにする。	
11回	授業内容	ビジネス常識③ ビジネス用語 経済環境の変化と企業	
	学習成果	日本の経済環境、産業構造の変化を説明できる。	
	予習復習の内容	少子高齢化社会、労働制、男女雇用機会均等法などを調べておくこと。	
12回	授業内容	対人関係① 職場の人間関係と敬語、接遇用語の使い方	
	学習成果	敬語や接遇用語の必要性を理解し、場面に応じて使い分けができるようになる。	
	予習復習の内容	相手に応じた表現の仕方を考察し、積極的に実践する。	
13回	授業内容	対人関係② 接遇マナー 来客対応 訪問のマナー	
	学習成果	出迎えから見送りまでの基本マナーが説明できる。	
	予習復習の内容	ひととりのマナーを心得ておくべき実践し、就職活動などに役立つようにする。	
14回	授業内容	対人関係③ 話し方・指示の受け方と報連相	
	学習成果	ビジネスの場にふさわしい言葉遣いを実践できる。	
	予習復習の内容	自己紹介やプレゼンテーションの構成に役立つようにする。	
15回	授業内容	対人関係④ ビジネスと円滑なコミュニケーション 職場の人間関係	
	学習成果	仕事を円滑に進める上でのコミュニケーションが実務の効率を大きく変えることを理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、職場のコミュニケーションについて理解を深める。	

科目名	情報科学				担当者	岩 淵 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	コンピュータのハードウェア分野に関する基礎理論を説明できる。										
	②	コンピュータシステムの基本構成を説明できる。										
	③	IT パスポート試験のテクノロジ系分野について、論じることができる。										
	④	コンピュータのシステム構成について、その種類と特徴を説明できる。										
	⑤	データベースの構成について、説明できる。										
	⑥	インターネットの構成について、説明できる。										
	⑦	セキュリティの構成について、説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	情報科学に関する概要を学ぶことを通じて、情報処理技術者としての職業自立につなげることができる。(専門的学習成果③に関連)										
	(2)	データベースやインターネットを通して、習得した知識や技術を活用し問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果⑤⑥に関連)										
	(3)	セキュリティの構成を学ぶことを通じて、現在のセキュリティ環境に関して、批判的に思考することができる。(専門的学習成果⑦に関連)										
	(4)	コンピュータのハードウェア構成を学ぶことを通じて、未来のハードウェア構成を探求することができる。(専門的学習成果①②に関連)										
授業概要	現代社会では、すべての職業人に共通して、情報技術の幅広い分野の総合的知識が必要である。更に、ただ IT を利用できる人材ではなく IT を活用して業務を改善するなど、情報化を推進できる人材が求められる。この授業は、IT パスポート試験におけるテクノロジ分野について学ぶ。また、情報処理技術者の登竜門である国家試験「基本情報処理技術者試験」へのテクノロジ分野についての問題解決について指導する。さらに、2020年から小学校教育に導入されるプログラミング教育の基礎知識として十分に説明できる内容を講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	小テストを毎回実施し、各2%ずつ正解率(0点、1点、2点)に沿って評価を行う。								
汎用的 学習成果	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果⑤⑥で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑦で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	岡嶋裕史		『IT パスポート合格教本』				技術評論社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前に配布した資料を読んでおくこと。(予習：週2時間程度)板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。(復習：週2時間程度) ②单元ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	数の表現	小テスト(用語の説明と2進数の特徴について)
	学習成果	ビット、バイト、ワード、2進数について説明できる。	
	予習復習の内容	2進数の特徴について調べておく。	
2回	授業内容	基数変換	小テスト(基数変換について)
	学習成果	2進数、10進数、16進数について相互変換の計算ができる。	
	予習復習の内容	各進数の特徴について調べておく。	
3回	授業内容	補助単位	小テスト(補助単位について)
	学習成果	補助単位の意味を説明できる。	
	予習復習の内容	補助単位について調べておく。	
4回	授業内容	RAMとROM	小テスト(RAMとROMの特徴について)
	学習成果	RAMとROMの区別を説明できる。	
	予習復習の内容	RAMとROMの特徴について調べておく。	
5回	授業内容	補助記憶装置	小テスト(補助記憶装置について)
	学習成果	補助記憶装置の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	補助記憶装置について調べておく。	
6回	授業内容	入出力装置	小テスト(入出力装置)
	学習成果	入出力装置の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	入出力装置について調べておく。	
7回	授業内容	入出力インタフェース	小テスト(入出力インタフェース)
	学習成果	入出力インタフェースの種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	現在の入出力インタフェースについて調べておく。	
8回	授業内容	システム構成	小テスト(システム構成)
	学習成果	システム構成の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	システム構成について調べておく。	
9回	授業内容	システムの信頼性	小テスト(システムの信頼性)
	学習成果	システムの信頼性に関する計算ができる。	
	予習復習の内容	システムの信頼性に関する計算方法を調べておく。	
10回	授業内容	ファイル管理	小テスト(ファイル管理)
	学習成果	ファイル管理の特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	ファイル管理について調べておく。	
11回	授業内容	データベース	小テスト(データベース)
	学習成果	データベースの種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	データベースについて調べておく。	
12回	授業内容	インターネット	小テスト(インターネット)
	学習成果	インターネットのしくみについて説明できる。	
	予習復習の内容	インターネットについて調べておく。	
13回	授業内容	電子メールとWEB技術	小テスト(電子メールとWEB)
	学習成果	電子メールとWEB技術について説明できる。	
	予習復習の内容	電子メールの仕組みとWEB技術について調べておく。	
14回	授業内容	暗号化技術	小テスト(暗号化技術)
	学習成果	暗号化技術について説明できる。	
	予習復習の内容	暗号化技術について調べておく。	
15回	授業内容	コンピュータウイルスと不正行為	小テスト(ウイルスと不正行為)
	学習成果	ウイルスの種類と不正行為の方法について説明できる。	
	予習復習の内容	ウイルスの種類と不正行為の方法について調べておく。	

科目名	情報処理論				担当者	岩 潤 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	コンピュータの経営全般に関する基礎理論を説明できる。										
	②	コンピュータシステムのIT管理を説明できる。										
	③	コンピュータシステムのIT技術を説明できる。										
	④	コンピュータのストラテジ系（戦略系）を説明できる。										
	⑤	コンピュータのマネジメント系（経営管理系）について、説明できる。										
	⑥	ソフトウェア開発の工程について、説明できる。										
	⑦	ITパスポート国家試験の内容について、説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	情報処理に関する概要を学ぶことを通じて、情報処理技術者としての職業自立につなげることができる。（専門的学習成果⑦に関連）										
	(2)	ストラテジ系とマネジメント系を通して、習得した知識や技術を活用し問題解決に向け行動できる。（専門的学習成果④⑤に関連）										
	(3)	経営全般やIT管理、IT技術を学ぶことを通じて、現在の情報処理環境に関して、批判的に思考することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(4)	コンピュータのソフトウェア開発を学ぶことを通じて、未来のソフトウェア開発を探究することができる。（専門的学習成果⑥に関連）										
授業概要	現代社会では、すべての職業人に共通して、情報処理の幅広い分野の総合的知識が必要である。更に、ただITを利用できる人材ではなくITを活用して業務を改善するなど、情報化を推進できる人材が求められる。この授業は、ITパスポート試験におけるストラテジ分野及びマネジメント分野について学ぶ。また、情報処理技術者の登竜門である国家試験「基本情報処理技術者試験」へのストラテジ分野及びマネジメント分野についての問題解決について指導する。さらに、2020年から小学校教育に導入されるプログラミング教育の基礎知識として十分に説明できる内容を講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	小テストを毎回実施し、各2%ずつ正解率（0点、1点、2点）に沿って評価を行う。								
	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果⑦で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (4) は専門的学習成果⑥で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	岡嶋裕史		『ITパスポート合格教本』				技術評論社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前に配布した資料を読んでおくこと。（予習：週2時間程度）板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。（復習：週2時間程度） ②単元ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ITパスポート試験についてのガイダンス		小テスト（PDCAについて）
	学習成果	ITパスポート試験について説明できる。		
	予習復習の内容	ITパスポート試験について調べておく。		
	授業内容	PDCA		
2回	学習成果	PDCAを説明できる。		
	予習復習の内容	PDCAの特徴について調べておく。		
3回	授業内容	品質管理		小テスト（品質管理について）
	学習成果	品質管理の各種手法を説明できる。		
	予習復習の内容	品質管理について調べておく。		
4回	授業内容	財務会計と管理会計		小テスト（財務会計と管理会計の特徴について）
	学習成果	財務会計と管理会計の区別を説明できる。		
	予習復習の内容	財務会計と管理会計の特徴について調べておく。		
5回	授業内容	知的財産権		小テスト（知的財産権について）
	学習成果	知的財産権の種類と特徴について説明できる。		
	予習復習の内容	知的財産権について調べておく。		
	授業内容	経営戦略		
6回	学習成果	経営戦略の種類と特徴について説明できる。		
	予習復習の内容	経営戦略について調べておく。		
7回	授業内容	システム戦略		小テスト（システム戦略）
	学習成果	システム戦略の種類と特徴について説明できる。		
	予習復習の内容	現在のシステム戦略について調べておく。		
8回	授業内容	開発モデル		小テスト（開発モデル）
	学習成果	開発モデルの種類と特徴について説明できる。		
	予習復習の内容	開発モデルについて調べておく。		
9回	授業内容	プロジェクトマネジメント		小テスト（プロジェクトマネジメント）
	学習成果	プロジェクトマネジメントに関する説明ができる。		
	予習復習の内容	プロジェクトマネジメントについて調べておく。		
10回	授業内容	サービスマネジメント		小テスト（サービスマネジメント）
	学習成果	サービスマネジメントについて説明できる。		
	予習復習の内容	サービスマネジメントについて調べておく。		
11回	授業内容	マーケティング		小テスト（マーケティング）
	学習成果	マーケティングについて説明できる。		
	予習復習の内容	マーケティングについて調べておく。		
12回	授業内容	ビジネス戦略		小テスト（ビジネス戦略）
	学習成果	ビジネス戦略のしくみについて説明できる。		
	予習復習の内容	ビジネス戦略について調べておく。		
13回	授業内容	経営管理システム		小テスト（経営管理システム）
	学習成果	経営管理システムについて説明できる。		
	予習復習の内容	経営管理システムについて調べておく。		
14回	授業内容	ソフトウェア開発		小テスト（ソフトウェア開発）
	学習成果	ソフトウェア開発手法について説明できる。		
	予習復習の内容	ソフトウェア開発について調べておく。		
15回	授業内容	システム企画		小テスト（システム企画）
	学習成果	システム企画について説明できる。		
	予習復習の内容	システム企画について調べておく。		

科目名	簿記会計学				担当者	ハナ ナカ ケイ シ 畑 中 恵 司						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	企業会計における簿記の必要性を述べることができる。										
	②	複式簿記の記帳ルールを説明できる。										
	③	財産管理ができるようになる。										
	④	財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成と経営分析ができるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	簿記を学ぶことにより、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	財産管理と財務諸表の作成並びに経営分析を学ぶことにより、社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果③④）										
授業概要	簿記とは、一定の法則にもとづいて、日々の取引および財産の増減変化を正確明瞭に記録・計算・整理するシステムである。その目的は企業の財政状態と経営成績を明らかにし企業経営者並びに利害関係者に有用な会計情報を提供することにある。企業会計の仕組みをできるだけやさしく解説し、簿記会計知識が身に付く講義をする。具体的にはまず簿記の成り立ちからはじめ、複式簿記と家計簿の違い、記帳方法（ルール）を詳しく学ぶ。次に簿記上の取引項目や決算手続きを学び、財務諸表（貸借対照表と損益計算書）を作成し分析する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	全15回分の講義内容について筆記試験を行う。								
		レポート	20	「複式簿記と家計簿」について内容・根拠・独創性で評価を行う。								
		小テスト	20	4回実施し、各回25%を配点とする。3～4回分の講義内容の理解の程度を評価する。								
		平常点	10	授業態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③及び④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	田中 弘		『簿記を学ぶ 経済常識としての簿記入門』						税務経理協会			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	渡部裕亘 編著		『簿記講義 3級』 令和5年度版						中央経済社			
	渡部裕亘 編著		『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』 令和4年度版						中央経済社			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①簿記は演習が不可欠である。事前学習としてテキストをよく読んでくること。（予習：週1時間程度）事後学習としては、テキスト並びに参考書の演習問題を解くこと。（復習：週3時間程度）電卓は必ず持参すること。 ②提出されたレポートは全体的な講評を行い、添削して返却する。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス、簿記の意義、財産の変動と貸借対照表	小テスト（仕訳と勘定への転記ルールについて）第5回に実施。	
	学習成果	簿記の役割、資産・負債・資本の内容を説明できる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP1～P17精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックのp2～4を解く			
2回	授業内容	収益・費用の発生と損益計算書		
	学習成果	収益・費用の内容と損益計算書について説明できる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP18～P37精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックのp5～7を解く			
3回	授業内容	貸借対照表と損益計算書、簿記上の取引		
	学習成果	貸借対照表と損益計算書の関係、簿記上の取引の内容を説明できる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP40～P63精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックのp8～10を解く			
4回	授業内容	取引の仕訳と勘定への記入		
	学習成果	仕訳と勘定への転記のルールを説明できる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP66～P76精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックのp11～21を解く			
5回	授業内容	試算表の作成、精算表の作成		
	学習成果	試算表と6桁精算表の作成ができる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP78～P93精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックのp22～26を解く			
6回	授業内容	現金と当座預金	小テスト（3分法と売掛金と買掛金について）第8回に実施。	
	学習成果	簿記上の現金、現金過不足と当座預金について説明できる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP95～P105精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックのp43～48を解く			
7回	授業内容	商品と商品売買益、売掛金と買掛金		
	学習成果	分記法と3分法 売掛金と買掛金について説明できる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP108～P117精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックp52～66を解く			
8回	授業内容	固定資産の取得と売却、資本金と引出金		
	学習成果	固定資産の取得と売却、資本金と引出金について説明できる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP120～P129精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックのp83～90を解く			
9回	授業内容	有価証券の取得と売却		小テスト（手形記入帳と仕訳処理について）第12回に実施。
	学習成果	有価証券の内容と仕訳処理について説明できる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP132～P141精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックのp80～82を解く			
10回	授業内容	債権と債務		
	学習成果	債権と債務の内容と仕訳処理について説明できる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP142～P147精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックのp67～70を解く			
11回	授業内容	手形取引		
	学習成果	手形の種類と仕訳処理について説明できる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP150～P160精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックのp71～79を解く			
12回	授業内容	決算① 決算手続きと試算表の作成		
	学習成果	決算手続き方法と試算表の作成ができる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP164～P175精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックp102～107を解く			
13回	授業内容	決算② 決算整理と棚卸表の作成、8桁精算表の作成	小テスト（決算整理仕訳について）第15回に実施。	
	学習成果	決算整理事項の内容と8桁精算表の作成ができる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP176～P184精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックのp108～117を解く			
14回	授業内容	決算③ 費用収益の見越し繰り延べ、現金過不足、消耗品残高処理		
	学習成果	費用収益の見越し繰り延べ、現金過不足、消耗品残高処理について説明できる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP185～P199精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックのp91～95を解く			
15回	授業内容	財務諸表（損益計算書と貸借対照表）の作成と分析		
	学習成果	財務諸表（損益計算書と貸借対照表）の作成と分析ができる。		
予習復習の内容	予習：教科書のP200～P214精読、復習：該当箇所の演習問題並びにワークブックのp118～128を解く			

科目名	ビジネス実務演習				担当者	トミ タ ユキ エ 富 田 幸 重						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワーについては初回の授業で連絡する。授業内容に関する質問は毎回、授業前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	ビジネス実務能力が発揮できるような考え方や技術を習得し実践できる。										
	②	状況に応じた的確な判断と表現を養うことにより、対人関係において豊かなコミュニケーションが取れるようになる。										
	③	日本の産業別 GDP・昨今の日本業界を理解し、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	実践的なビジネス実務能力を学ぶことを通して、社会的職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	ビジネスに必要とされるコミュニケーション能力が養われ、他者を理解し自己表現ができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	日本経済及び日本の業界を学ぶことで、将来の仕事に関わる分野を探求し、自ら課題を見出し解決に向け行動できる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	企業において求められているものは何か。それを踏まえながら社会人として仕事をしていく上で必要な実務（一般知識・対人関係・技能・マナー・接客など）の遂行について深い理解を持ち、実践できることを目的とする。特に仕事上の状況に応じた判断（予定外の仕事・クレームに対する処理・突発的な来客対応など）が自分の考えでできるように、企業人として社内外で得た実務経験及び具体的エピソードをもとに学習する。また昨今の時事問題・日本の業界を理解し、就職活動に役立てるようにする。さらには、ビジネス実務の重要性を認識し、洞察力・判断力・思考力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	テーマに沿ったレポートの評価（体裁・内容・根拠・独創性にて評価する。）								
		筆記試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価する。								
	平常点	10	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (3) は専門的学習成果③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			プリント資料配付									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①時間外学習として30時間の学習を求める。 受講後に講義内容をしっかり復習し、就職における情報収集や、専門的な知識・技術を身につけ、実践することで習得すること。節度を守った受講態度で授業に取り組むこと。 ②提出された課題・試験は全体的な解説・講評を行い、フィードバックするので、自らの理解を深めること。										

授業計画		学習成果の評価	授業計画		学習成果の評価		
1回	授業内容	ガイダンス 仕事にのぞむ意識 企業組織と社会	ワークシートへの取り 組み	16回	授業内容	人間関係の心理④ 交流分析 ジョハリの窓 アサーション	
	学習成果	企業はどのような組織で運営されているかを知り、説明できる。			学習成果	ジョハリの窓・交流分析を通して自分を客観的に捉えることができる。	
	予習復習の 内 容	ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。			予習復習の 内 容	学習内容を振り返り、ジョハリの窓・アサーションの理解を深める。	
2回	授業内容	ビジネス実務① 業務の流れと部門運営 顧客のニーズ	講義時に配付される資料・ワークシートへの取り 組み・活用	17回	授業内容	対人関係① 集団の心理 説得的コミュニケーション	
	学習成果	階層別役割分担を理解し、説明できる。			学習成果	人はどのようなときに説得されやすいのかを理解し、説明できる。	
	予習復習の 内 容	学習内容を振り返り、各部門におけるニーズ対応の例を整理しておく。			予習復習の 内 容	自分が説得されたときのメカニズムを考察する。	
3回	授業内容	ビジネス実務② 仕事への情報活用 情報の種類と性格		18回	授業内容	対人関係② 流行について 店内のディスプレイ 色の効用	
	学習成果	情報化の進展や情報活用の具体的方法を知り、作成できる。			学習成果	流行が普及する過程を理解し、説明できる。	
	予習復習の 内 容	興味のある時事問題を取り上げ、情報を収集し、まとめておく。			予習復習の 内 容	流行に対して自分がどのように思うかを考察する。	
4回	授業内容	ビジネス実務③ 統計・データの読み方、まとめ方		19回	授業内容	対人関係③ 職場の人間関係と生産性	
	学習成果	統計・データを読み取り、まとめる際のポイントを説明できる。			学習成果	仕事に影響を及ぼす人間関係を理解し、説明できる。	
	予習復習の 内 容	文献などを利用し、実際に統計・データをまとめる。			予習復習の 内 容	良好な人間関係を作るにはどうすればよいかを考察する。	
5回	授業内容	ビジネス実務④ 産業と経済知識 業界研究① 日本のGDP 世界と国内の企業収益		20回	授業内容	対人関係④ アクティブリスニング(積極的傾聴) 聴き方のステップ	
	学習成果	日本の産業構造の変化と社会の流れを理解し、概要を説明できる。			学習成果	対人関係における聴くことの重要性を理解し、実践できる。	
	予習復習の 内 容	日本の主力産業を調べておく。			予習復習の 内 容	学習内容を振り返り、正しく効果的に聴くために練習してみる。	
6回	授業内容	ビジネス実務⑤ 会議の種類と目的 基本的な流れ 業界研究② 電機・エレクトロニクス機器		21回	授業内容	対人関係⑤ 効果的な話し方 話の構成	
	学習成果	会議の種類と目的、その流れを理解し、説明できる。			学習成果	目的に応じた話し方を実践できる。	
	予習復習の 内 容	学習内容を振り返り、会議の種類と目的についての理解を深める。			予習復習の 内 容	学習内容を振り返り、相手にわかりやすく話してみる。	
7回	授業内容	ビジネス実務⑥ 就業規則と労働法 業界研究③ 情報通信・インターネット		22回	授業内容	対人関係⑥ ビジネス会話のポイント	演習への取り組み
	学習成果	就業規則と労働法、勤務条件を理解し、説明できる。			学習成果	ビジネス会話の始め方を理解し、実践できる。	
	予習復習の 内 容	男女雇用機会均等法、育児・介護休業法について調べておく。			予習復習の 内 容	学習内容を振り返り、相手に合わせた話し方を練習してみる。	
8回	授業内容	ビジネス実務⑦ ビジネスと法律知識 業界研究④ 金融・生活用品		23回	授業内容	対人関係⑦ 状況に応じた言葉づかい	課題レポート提出(テーマ・詳細は授業内で指示) 第26回までに提出 講義時に配付される資料・ワークシートへの取り 組み・活用
	学習成果	債権と債務、売買契約、知的所有権について理解し、説明できる。			学習成果	場や状況を的確に判断し、自分の立場を考えて話すことができる。	
	予習復習の 内 容	知的所有権について調べておく。			予習復習の 内 容	その場にふさわしい話し方を練習してみる。	
9回	授業内容	ビジネス実務⑧ 配慮の必要な社外文書 トラブルやクレームに関する文書 業界研究⑤ 食品		24回	授業内容	マナー接遇① 敬語・縦横語の使い方	
	学習成果	配慮の必要な社外文書を作成できる。			学習成果	ビジネスにふさわしい敬語・縦横語を理解し、実践できる。	
	予習復習の 内 容	学習内容を振り返り、作成にあたっての留意事項を整理しておく。			予習復習の 内 容	学習内容を振り返り、状況に応じて敬語・縦横語を練習してみる。	
10回	授業内容	ビジネス実務⑨ 日本経済の基本構造と変化 業界研究⑥ 生活用品		25回	授業内容	マナー接遇② 来客応対と面談のマナー 席次	
	学習成果	産業構造の変化、社会生活と価値観の変化、環境問題への対応などを理解し、説明できる。			学習成果	来客応対及び席次を理解し、説明できる。	
	予習復習の 内 容	大きく変化した価値観について考察する。			予習復習の 内 容	学習内容を振り返り、来客応対・席次について理解を深める。	
11回	授業内容	ビジネス実務⑩ 経済環境の変化 業種ごとの動向 業界研究⑦ 流通・外食		26回	授業内容	マナー接遇③ 実際の業務 慶事・弔事に伴う庶務	
	学習成果	業種ごとの動向を理解し、概要を説明できる。			学習成果	日本の慶事・弔事のマナーについて理解し、説明できる。	
	予習復習の 内 容	興味のある業種を調べておく。			予習復習の 内 容	学習内容を振り返り、慶事・弔事の情報収集について理解を深める。	
12回	授業内容	ビジネス実務⑪ 業界研究のまとめ 業界研究⑧ 娯楽・メディア	制作への取り組み	27回	授業内容	マナー接遇④ 贈答のマナー(上書きの書き方) パーティーの知識	
	学習成果	興味のある業界を調べてまとめ、レポートを提出することができる。			学習成果	贈答のマナー・パーティーについて理解し、説明できる。	
	予習復習の 内 容	レポート制作に必要な準備を行う。			予習復習の 内 容	日本の贈答のしきたりを調べておく。	
13回	授業内容	人間関係の心理① 人間関係の基礎 パーソナリティについて 要求される人柄と資質	講義時に配付される資料・ワークシートへの取り 組み・活用	28回	授業内容	マナー接遇⑤ 接遇の実際 演習	
	学習成果	パーソナリティについて理解し、説明できる。			学習成果	ビジネスにおける接遇の仕方を理解し、実践できる。	
	予習復習の 内 容	学習内容を振り返り、要求される人柄と資質について理解を深める。			予習復習の 内 容	学習内容を振り返り、接遇についての理解を深める。	
14回	授業内容	人間関係の心理② 第一印象の重要性 メラビアン法 印象形成のメカニズム		29回	授業内容	就職面接におけるビジネスマナー 立ち居振る舞い 面接の実際	演習への取り組み
	学習成果	第一印象の重要性 メラビアン法の法則を理解し、説明できる。			学習成果	面接におけるマナー・立ち居振る舞いを理解し、実践できる。	
	予習復習の 内 容	他人に会ったとき、どのように第一印象を決めるのか、考察する。			予習復習の 内 容	実際の面接を想定し、練習してみる。	
15回	授業内容	人間関係の心理③ 自己分析 人間関係と性格		30回	授業内容	まとめと総括 キャリアデザイン	筆記試験(全30回分の内容を問う)
	学習成果	自己分析を通して自分を客観的に捉えることができる。			学習成果	キャリアと仕事を考察し、目標を立てることができる。	
	予習復習の 内 容	学習内容を振り返り、人間関係と性格の理解を深める。			予習復習の 内 容	この授業の内容全体について整理し、まとめておく。	

科目名	ビジネス実務演習				担当者	ミウラカキコ 三浦貴子						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問は毎回、授業前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	自らの職業観や就労観を確立し、職業的自立に向けて情報収集、および実務能力が発揮できる。										
	②	基本的、効率的な業務の進め方を理解し、問題解決のための円滑なコミュニケーションが図れる。										
	③	日本経済の基本構造、企業の役割、責任、権限等を理解し、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	実践的なビジネス実務を学ぶことを通して、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を修得し活用できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	ビジネスに必要な自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、協働ができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	日本経済を学ぶことで、将来の仕事に関わる分野を探求し、自ら課題に向き合い行動できる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	ビジネス実務として、一般常識、キャリアマネジメント、産業と経済の基礎知識、接客営業、チームワーク等を学び、理解を深める中で、社会人としての土台を築くことを目標とする。また、グループワークを通して、ビジネスの基本となるコミュニケーション力を育み、良好な人間関係構築への自信をつけていく。そして、具体事例から、時代を読み取り、多面的な視点から考え抜く力を身につけ、変化の激しい現代社会に対応できるようになる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	グループワーク、個々の課題についてのレポートの内容、体裁、独創性で評価する。								
		小テスト	40	学習内容に基づいた記述式の問題、および口述演習の問題を課し、評価する。								
汎用的 学習成果	平常点	20	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。									
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
				印刷資料配付								
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	実務技能検定協会		『秘書検定1級集中講義』				早稲田教育出版					
	職業教育・キャリア教育財団		『ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト』				日本能率協会マネジメントセンター					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①時間外学習として週2時間の学習を求める。 事前学習として、授業内容に関連する文献を読み、理解を深めておくこと。 事後学習として、授業中に板書した内容を中心に内容を振り返り、復習しておくこと。あわせて関連する文献に触れ、理解の定着に努めること。 ②提出された課題・小テストについては、当該授業中、または次回の授業で、解答解説および講評を通し、フィードバックを行う。										

授業計画		学習成果の評価	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス キャリアと仕事へのアプローチ	16回	授業内容	電子メール、手紙、郵便の知識
	学習成果	ビジネスキャリアは自分で作り出す時代だと自覚し、将来を考え行動できる。		学習成果	電子メール、手紙、葉書の書き方、マナー、郵便知識を理解し説明できる。
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、メール、郵便の基本について理解を深める。
2回	授業内容	8つの意識	17回	授業内容	電話応対の重要性
	学習成果	顧客意識を中心とした仕事の基本となる8つの意識を理解し説明できる。		学習成果	正しい電話の受け方、かけ方、取り継ぎ方、伝言の仕方を理解し、実践できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、8つの意識の関わり合いについて振り返り、各項目を整理しておく。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、電話の応対が正しく実践できるよう理解を深める。
3回	授業内容	会社活動の基本	18回	授業内容	統計・データの読み方、まとめ方
	学習成果	会社とは何か、経営、仕事の流れ、コンプライアンス等、理解し説明できる。		学習成果	表やグラフの役割と特徴を理解し、情報を読み取ることができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、会社組織について内容を振り返り、各項目を整理しておく。		予習復習の内容	新聞記事や文献などを利用し、実際に統計・データから情報を読み取る練習をしておく。
4回	授業内容	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	19回	授業内容	情報収集とメディアの活用
	学習成果	出社から退社までの基本マナーのほか、態度や健康管理まで把握し実践できる。		学習成果	新聞からインターネットまで、状況に合わせた情報の収集、および取捨選択ができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、周囲との関わりの中で、自身のマナーや態度を客観的に確認し改善する。		予習復習の内容	新聞記事や文献などを利用し、情報を選びとる練習をしておく。
5回	授業内容	ビジネス会話の基本	20回	授業内容	会社数字の読み方
	学習成果	文章の構成、正しい敬語等、ビジネスの場に相応しい言葉遣いを習得し使いこなせる。		学習成果	企業活動の源泉、売上とコスト、利益の関係を理解し、説明できる。
	予習復習の内容	日々の会話の中で、自身の話し方が社会人として相応しいか客観的に確認し、改善する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、会社に関わる数字について理解を深める。
6回	授業内容	指示の受け方と、報告、連絡、相談	21回	授業内容	ビジネスと法律・税金知識
	学習成果	社内での伝達、報連相の重要性を理解し、伝達方法を体現できる。		学習成果	就業規則と労働法、社会保障、税金の基礎知識等について理解し、説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、正確な情報伝達の手段が取れるよう様々な状況を想定し表現してみる。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、ビジネスに関わる法律や税金について理解を深める。
7回	授業内容	話し方と聴き方のポイント	22回	授業内容	問題解決の力
	学習成果	傾聴について理解を深め、心の通った会話ができる。		学習成果	場や状況を的確に判断し、問題に対処し自身で乗り越える力をつける。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、傾聴について日常生活の中で実践してみる。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、様々な状況での問題解決について理解を深める。
8回	授業内容	来客応対と訪問の基本	23回	授業内容	日本経済の基本構造と変化
	学習成果	名刺交換やあいさつ、立ち居振る舞い等の面談のマナーを理解し実践できる。		学習成果	戦後日本の主力産業の移り変わりと現在までの歴史を理解し、説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、来客応対の基本マナーについて確認しておく。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、戦後各年代での主力産業について確認し理解を深める。
9回	授業内容	接客と営業の進め方	24回	授業内容	経済のグローバル化と社会構造の変革
	学習成果	顧客獲得、顧客満足度を高めるための接客について理解を深める。		学習成果	国際化の進む中で求められる人材の変化を理解し、説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、営業活動にあたっての留意事項を整理しておく。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、グローバル化の状況に対応するには何が必要か考えておく。
10回	授業内容	不満を信頼に変えるクレーム対応	25回	授業内容	情報リテラシー
	学習成果	顧客心理を理解し、対応の仕方が信頼を左右することを理解し、問題解決につなげられる。		学習成果	溢れる情報の中から必要なものを選び出し使いこなすことができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、営業活動トラブル解決にあたっての留意事項を整理しておく。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、図書館やインターネット等を利用し、情報の収集、取捨選択の実践を行う。
11回	授業内容	会議への出席とプレゼンテーション	26回	授業内容	ビジネス用語の基本
	学習成果	会議の種類、進行、議事録、プレゼンテーションの基本を理解し、説明できる。		学習成果	経済、環境、業界、法律、時事、各用語の理解を深め、説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、会議の種類と目的についての理解を深める。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、各種ビジネス用語の意味について確認し理解を深める。
12回	授業内容	チームワークと人のネットワーク	27回	授業内容	ビジネスの場での判断能力
	学習成果	リーダーシップとメンバーシップの意義を理解し、チームの和を築ける。		学習成果	場に合わせた敬語のレベル、社内の機密保持等、機転を利かせ正しい判断をし実践できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、チームでの目標達成に向けて必要なことについて理解を深め、整理しておく。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、状況にあわせた判断ができるように整理しておく。
13回	授業内容	会社関係での付き合い	28回	授業内容	政治の基本
	学習成果	仕事上での冠婚葬祭、会食等、お付き合いのマナーについて理解し説明できる。		学習成果	国会、内閣、選挙、地方自治等、政治の基本について理解し、説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、マナーや文化について理解を深める。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、政治の基本について確認し理解を深める。
14回	授業内容	効率的・合理的な仕事の進め方	29回	授業内容	働く意識
	学習成果	スケジュール管理、情報整理、名刺整理、定型業務等、作業の効率性を考えられる。		学習成果	今、社会に求められるには何が必要か判断し、エンプロイアビリティを身につけ行動に移せる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、効率的な作業の進め方を取り入れ実践する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、雇われうる能力について確認し行動に移せるよう理解を深める。
15回	授業内容	ビジネス文書の基本	30回	授業内容	総括
	学習成果	社内文書、社外文書それぞれの役割を理解し、正しい書き方について実践できる。		学習成果	これからの時代のキャリアマネジメントを考察し、目標を立てることができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ビジネス文書の種類について理解を深める。		予習復習の内容	この授業の内容全体について整理し、まとめておく。

科目名	プレゼンテーション演習				担当者	ナガノ野篤・吹き谷しのぶ						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的 学習成果	①	プレゼンテーションの準備を行うことができる。										
	②	わかりやすいプレゼンテーション資料を作ることができる。										
	③	効果的なプレゼンテーションを実施することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	プレゼンテーションの準備、資料作成、実施について学ぶことを通じて社会的・職業的自立に必要な知識を習得し実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	プレゼンテーションの仕組みを包括的に学び、論理的かつ人間的なプレゼンテーションを行い、説得、賛同、共感につなげることができる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	習得した専門的知見や技術を活用して地域の課題解決に役立つプレゼンテーションを実施し地域社会の発展に寄与することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	「プレゼンテーションとは何か」などの基礎的理論について学ぶ。理論を踏まえ、準備、リハーサル、実施までの流れの的確な実行を目指す。「準備力」「表現力」など「プレゼンテーション・スキル」を総合し、効果的なプレゼンテーションができる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	1回実施し、100%を配点する。								
		実技	40	2回実施し、各回50%を配点する。								
		平常点	50	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	富士通エフ・オー・エム		『よくわかる Microsoft Office PowerPoint 2013』							FOM 出版／富士通エフ・オー・エム		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2回のプレゼンテーション発表(実技①②)は必須。パワーポイントによりビジュアル資料を作成するためUSBメモリを持参することが望ましい。教科書・配布資料の指定された箇所を熟読し、理解し、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと(予習:週2時間程度)。課題に対しては、随時フィードバックを行うので、理解不足の点や錯誤した箇所について、十分に振り返りを行うこと。(復習:週2時間程度) ②実技、レポート、その他評価については、口頭でコメントとして伝え、フィードバックとする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	プレゼンテーション演習の概要	
	学習成果	各種資格における本授業の位置づけと、目的、内容について適切に理解し、説明することができる。	
2回	予習復習の内容	世界的に有名なプレゼンテーションについて調査する。	
	授業内容	プレゼンテーションの準備① 作成手順と組み立て/表現力①	
3回	学習成果	プレゼンテーションを行うための一連の流れにを把握し、作業することができる。	
	予習復習の内容	効果的なコミュニケーションの在り方について調査する。	
4回	授業内容	プレゼンテーションの準備② シナリオ準備/表現力②	
	学習成果	効果的なプレゼンテーションの在り方について探求し、独自のシナリオに活かすことができる。	
5回	予習復習の内容	効果的な演出方法について調査する。	
	授業内容	プレゼンテーションの準備③ シナリオ作成/表現力②	
6回	学習成果	コンピューターをスムーズに操作し、パワーポイントスライドを作成することができる。	
	予習復習の内容	コンピューターに触れる機会を増やし、OSおよびアプリケーションの操作方法に慣れる。	
7回	授業内容	パワーポイントを使用した資料作成① 機器の名称としくみ	
	学習成果	周辺機器の名称、操作方法を理解し、適切に運用することができる。	
8回	予習復習の内容	プレゼンテーションに関わる各種機器について調査する。	
	授業内容	パワーポイントを使用した資料作成② 調査、資料作成、練習	
9回	学習成果	実技に向け、求められる内容に合致した情報について調査し、資料作成ができる。	
	予習復習の内容	より良い資料収集に向け、図書館、インターネット等で調査する。	
10回	授業内容	パワーポイントを使用した資料作成② 資料作成、練習	
	学習成果	収集した素材を取捨選択し、効果的に組み合わせ、最適化されたコンテンツを意識し、作成していくことができる。	
11回	予習復習の内容	より良い構成について、優れた事例を調査する。	
	授業内容	プレゼンテーション(実技①)	
12回	学習成果	プレゼンテーションの実技(テスト)を行う。	
	予習復習の内容	他者のプレゼンテーションから学び、自らのプレゼンテーションのレベルアップについて思考する。	
13回	授業内容	総合演習ガイダンス	
	学習成果	調査、作成、実施の全てにおいて高いレベルを達成するために、意識を変え作業工程を見直すことができる。	
14回	予習復習の内容	他者を意識し、より優れたワークの提示の在り方について検討する。	
	授業内容	総合演習① 調査・情報収集/練習	
15回	学習成果	より良い実技を行うために求められるテーマを探求し、調査、精査をすることができる。	
	予習復習の内容	発表に向けたテーマについて調査・検討する。	
16回	授業内容	総合演習② 構成準備・情報収集/練習	
	学習成果	収集したプレゼンテーション用の素材を吟味し、取捨選択し、最適な組み合わせを志向し、最善を選択することができる。	
17回	予習復習の内容	雑多な情報群から、最適と思われる資料を探し求める。	
	授業内容	総合演習③ シナリオ作成/練習	
18回	学習成果	最善のコンテンツを志向し、校正することができる。	
	予習復習の内容	校正を繰り返し、よりよいワークになるよう、精査する。	
19回	授業内容	総合演習④ 効果測定/練習	
	学習成果	コンテンツ、デリバリーの両面から、作成中のプレゼンテーションについて再検討することができる。	
20回	予習復習の内容	自分にあつた語彙、スピード、リズムについて検討し、練習する。	
	授業内容	総合演習⑤ リハーサル	
21回	学習成果	実技に向け、最終的な調整を自分のペースで行うことができる。	
	予習復習の内容	実技に向け練習し、内容および操作の一連の手順を暗記し、スムーズにプレゼンテーションできるようにする。	
22回	授業内容	プレゼンテーション(実技②)	
	学習成果	プレゼンテーションの実技(テスト)を行う。	
23回	予習復習の内容	他者のプレゼンテーションから学び、自らのプレゼンテーションのレベルアップについて思考する。	

科目名	FP 技能士検定対策講座				担当者	ワカバシマ 若林雅子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
授業回数				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	ライフプランニングの基本を理解し、その内容を説明できる。										
	②	リスク管理についての知識を習得し、課題を解くことができる。										
	③	タックスプランニングの理解を深め、簡単な確定申告書作成や税額計算ができる。										
	④	不動産、相続について理解を深め、その内容、仕組みが説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	FP 全般に繋がるライフプランニングに関する学習を通して知識と技能を職業に活用できる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	タックスプランニングの知識と技能を生かして、地域社会の発展に貢献できる。(専門的学習成果③に関連)										
	(3)	不動産、相続等で習得した知識を職業的自立に活用できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	「年金」、「保険」、「株式や預貯金などの金融資産」、「税金」、「不動産」、「相続」などに関する理解を深めることを第一の目標とする。そのうえで、お金に関するお客様の悩みや相談を的確に判断して「ライフプランニング」、「リスク管理」を生涯にわたって担当できるよう「お金の専門家」として的確なアドバイスを行うことができる力を身に付けると同時に、FP 技能士検定3級の合格を目指し、検定試験に対応した演習等の試験対策を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	25	冬休みに過去問題を中心とした演習問題を解き提出。提出された解答を採点し評価する。								
		小テスト	45	毎回、学習した単元を中心とした演習問題を解き提出。その都度採点し評価する。								
	平常点	30	授業、演習への意欲、取り組み、態度により評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『2023～2024年版 みんなが欲しかった！FP の教科書3級』				TAC 出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『2023～2024年版 みんなが欲しかった！FP の問題集3級』				TAC 出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①当科目は、経済用語、法律用語が頻出するので、それらを理解するために授業前にテキストをしっかりと読み込んでおくこと（予習は週2時間程度必要）また、前回学習した単元の過去問題を小テストとして課し、その内容を評価の対象とする。（復習は週2時間程度必要） ②提出された小テスト課題は、採点し添削のうえ、次回授業にて返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ライフプランニング（ライフイベント、キャッシュフロー表）について	小テスト（ライフプランニング過去問題）
	学習成果	ライフプランニングの内容を理解し、キャッシュフロー表が作成できる。	
2回	予習復習の内容	ライフイベントの意味を理解し、ライフプランニングにどう繋げていくのかを考える。	小テスト（ライフプランニング過去問題）第2回に実施
	授業内容	ライフプランニングの中の社会保険（健康保険、雇用保険、労災保険等）	
3回	学習成果	社会保険の内容や仕組みを理解できる。	小テスト（ライフプランニング過去問題）第3回に実施
	予習復習の内容	年金は複雑な制度なので確実に把握すること。	
4回	授業内容	社会保険（公的年金、私的年金中心）について	小テスト（ライフプランニング・年金中心過去問題）第4回に実施
	学習成果	生活上におけるリスクに対して保険を中心とした対応策を考えることができる。	
5回	予習復習の内容	聞きなれない用語が多数あるので、しっかりと準備すること。	小テスト（リスク管理・経済知識中心過去問題）第5回に実施
	授業内容	リスク管理（生命保険編）	
6回	学習成果	様々な経済用語、経済、景気の知識が理解できる。	小テスト（リスク管理・損害保険編中心過去問題）第6回に実施
	予習復習の内容	様々なタイプの補償があるので違いをしっかりと認識すること。	
7回	授業内容	金融資産運用①（経済、景気編）	小テスト（リスク管理・損害保険編中心過去問題）第7回に実施
	学習成果	それぞれの金融商品の知識を理解でき、説明できる。	
8回	予習復習の内容	商品により税法等の処理が異なるので、それぞれをよく整理しておくこと。	小テスト（金融資産過去問題）第8回に実施
	授業内容	タックスプランニング①（基礎編）	
9回	学習成果	生活に係わる様々な種類の税の知識が理解できる。	小テスト（金融資産過去問題）第9回に実施
	予習復習の内容	課税となるもの、非課税となるものがあるので区別、整理しておくこと。	
10回	授業内容	タックスプランニング②（応用編）	小テスト（タックスプランニング過去問題）第10回に実施
	学習成果	税額の計算や簡単な申告書作成ができる。	
11回	予習復習の内容	総合所得や分離所得の違い等を認識すること。	レポート 過去問題を中心に学科を3回分実施（第11回に配布、第13回に提出）
	授業内容	不動産①（基本、法令）	
12回	学習成果	不動産の土地価格の評価、取引、建物の評価、規制等の内容が理解できる。	小テスト（不動産、相続過去問題）第13回に実施
	予習復習の内容	似た内容が混在することが多いので、丁寧に確認、整理すること。	
13回	授業内容	不動産②（税金、土地の有効活用）	小テスト（総合問題過去問題）第14・15回に実施
	学習成果	不動産の譲渡の際の税金や、土地を活用する際の知識、内容が理解できる。	
14回	予習復習の内容	不動産に関しては、税金等特殊な計算が多いので、それぞれの違い等を整理すること。	小テスト（総合問題過去問題）第14・15回に実施
	授業内容	相続①（基本、遺言、相続税の計算）	
15回	学習成果	相続に関する知識を広め、相続税等を計算することができる。	小テスト（総合問題過去問題）第14・15回に実施
	予習復習の内容	最初に相続分を誤ると最後まで間違えた結果となるので、最初を確実に理解すること。	
16回	授業内容	相続②（贈与、財産の評価）	小テスト（不動産、相続過去問題）第13回に実施
	学習成果	贈与に関する知識を身に付け、贈与税額の計算や相続財産の評価ができる。	
17回	予習復習の内容	相続と贈与のそれぞれの特例を混同しないよう確実に整理、確認しておくこと。	小テスト（総合問題過去問題）第14・15回に実施
	授業内容	総合演習① 学科問題	
18回	学習成果	FP 技能士検定3級程度（学科）の実力が発揮できる。	小テスト（総合問題過去問題）第14・15回に実施
	予習復習の内容	内容全体について確実に整理、確認しておくこと。	
19回	授業内容	総合演習② 実技問題	小テスト（総合問題過去問題）第14・15回に実施
	学習成果	FP 技能士検定3級程度（実技）の実力が発揮できる。	
20回	予習復習の内容	内容全体について確実に整理、確認しておくこと。	小テスト（総合問題過去問題）第14・15回に実施
	授業内容	総合演習③ 実技問題	
21回	学習成果	FP 技能士検定3級程度（実技）の実力が発揮できる。	小テスト（総合問題過去問題）第14・15回に実施
	予習復習の内容	内容全体について確実に整理、確認しておくこと。	

科目名	簿記検定 I				担当者	ワカバヤシマサコ 若林雅子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	小規模株式会社を前提とした簿記の構成要素や決算までの流れについて説明することができる。										
	②	仕訳による基本的な処理、簿記の基本用語や複式簿記の仕組みを説明することができる。										
	③	日商簿記3級程度の仕訳や帳簿記入に应用することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	日商簿記3級程度の実力を発揮し、地域社会の発展に貢献することができる。(専門学習成果①～③に関連)										
授業概要	簿記は、日々の企業のお金の出入りや取引を記録し、一定の期間ごとに決算を行い、報告書にまとめる作業のことである。直接実務に関わらないビジネス・パーソンにおいても簿記は身に付けておきたい知識である。本講義では、簿記について基礎的な用語や技術、取引の仕訳から勘定記入、決算手続きまでの一連の流れを学習することにより、日商簿記検定3級程度の知識を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	70	毎回学習した仕訳等を中心に7回実施、各10%ずつ正解率に沿って評価を行う。								
		平常点	30	授業への意欲、取り組み、態度により評価する。								
汎用的 学習成果	小テストで分野ごとの学習成果を評価する。 (1)は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	滝沢ななみ	『スッキリわかる 日商簿記3級 第14版』				TAC 出版						
	TAC 出版開発グループ	『2023年度版 スッキリわかる 日商簿記3級 本試験予想問題集』				TAC 出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①簿記は知識だけではなく、多くの問題を解くことで身につけることができる。そのため、事前にテキストを読んでおくこと。また、毎回2時間程度、テキスト内容を予習復習しておくこと。授業には、テキストに加え電卓を持参すること(12桁以上のものが望ましい)。普段から電卓の操作に慣れておくこと。 ②提出された小テスト課題は、毎回採点、添削し返却する。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、簿記の基礎		小テスト 〔簿記の基礎〕「商品売買」「現金」 第2回に実施
	学習成果	授業の目的と資格取得の意義、簿記について理解する。		
予習復習 の内容	基本的な用語について確認する。			
2回	授業内容	商品売買 現金		
	学習成果	商品売買や現金を扱った際の仕訳ができる。		
予習復習 の内容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。			
3回	授業内容	普通預金、定期預金、当座預金、当座借越 小口現金		小テスト 〔普通預金、定期預金、当座預金、 当座借り越し〕「小口現金」「手形 と記録債権(債務)」 第4回に実施
	学習成果	預金や小口現金を扱った際の仕訳ができる。		
予習復習 の内容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。			
4回	授業内容	手形と記録債権(債務) 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金		
	学習成果	手形や債券、貸付借入を行った際の仕訳ができる。		
予習復習 の内容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。			
5回	授業内容	その他の債権債務 その他の費用		小テスト 〔その他の債権債務〕「その他の 費用」「貸し倒れと貸倒引当金」 〔有形固定資産と減価償却〕 第6回に実施
	学習成果	仮払いや消耗品購入などを行った際の仕訳ができる。		
予習復習 の内容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。			
6回	授業内容	貸倒れと貸倒引当金 有形固定資産と減価償却		
	学習成果	貸倒れとそれに伴う処理、固定資産や原価償却について仕訳ができる。		
予習復習 の内容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。			
7回	授業内容	株式の発行、剰余金の配当と処分 法人税等と消費税		小テスト 〔株式の発行、剰余金の配当と処 分〕「法人税等と消費税」「費用・ 収益の前払い・前受と未払い・未 収、訂正仕訳」 第8回に実施
	学習成果	株式発行や配当、税金を扱った際の仕訳ができる。		
予習復習 の内容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。			
8回	授業内容	費用・収益の前払い・前受けと未払い・未収、訂正仕訳		
	学習成果	前払い、前受け、未払い、未収の仕訳、訂正仕訳ができる。		
予習復習 の内容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。			
9回	授業内容	帳簿への記入 試算表		小テスト 〔帳簿への記入〕「試算表」「伝票 と仕訳日計表、証ひょう」 第10回に実施
	学習成果	各種帳簿への記入、試算表の作成ができる。		
予習復習 の内容	用語について確認する。			
10回	授業内容	伝票と仕訳日計表、証ひょう		
	学習成果	仕訳日計表の作成と総勘定元帳への転記、証ひょうからの記帳ができる。		
予習復習 の内容	用語について確認する。			
11回	授業内容	精算表と財務諸表①決算整理		小テスト 〔精算表と財務諸表〕「帳簿の縮 め切り」 第13回に実施
	学習成果	決算手続きについて理解し、決算整理ができる。		
予習復習 の内容	用語について確認する。			
12回	授業内容	精算表と財務諸表②当期純利益または登記純損失の計上、財務諸表		
	学習成果	当期純利益または登記純損失の計上ができ、財務諸表を作成できる。		
予習復習 の内容	用語について確認する。			
13回	授業内容	帳簿の締め切り		
	学習成果	帳簿を締め切ることができる。		
予習復習 の内容	用語について確認する。			
14回	授業内容	チェックテスト		小テスト (チェックテスト) 第14回に実施
	学習成果	日商簿記3級と同様の内容に挑戦することで、弱点を克服する。		
予習復習 の内容	間違えたところは解きなおす。			
15回	授業内容	チェックテストの解説		
	学習成果	チェックテストを確実に理解することができる。		
予習復習 の内容	曖昧な部分は何度も解きなおす。			

科目名	簿記検定Ⅱ				担当者	ワカバヤシマサヨ 若林雅子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	小規模株式会社を前提とした簿記の構成要素や決算までの流れについて説明し、応用することができる。										
	②	仕訳による基本的な処理、簿記の基本用語や複式簿記の仕組みを説明し、応用することができる。										
	③	日商簿記3級程度の仕訳や帳簿記入に応用することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	日商簿記3級程度の実力を発揮し、地域社会の発展に貢献することができる。(専門学習成果①～③に関連)										
授業概要	簿記は、日々の企業のお金の出入りや取引を記録し、一定の期間ごとに決算を行い、報告書にまとめる作業のことである。直接実務に関わらないビジネス・パーソンにおいても簿記は身に付けておきたい知識である。本講義では、簿記について基礎的な用語や技術、取引の仕訳から勘定記入、決算手続きまでの一連の流れを学習することにより、日商簿記検定3級程度の知識を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	70	毎回学習した仕訳等を中心に7回実施、各10%ずつ正解率に沿って評価を行う。								
		平常点	30	授業への意欲、取り組み、態度により評価する。								
汎用的 学習成果	小テストで分野ごとの学習成果を評価する。 (1)は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	滝沢ななみ	『スッキリわかる 日商簿記3級 第14版』				TAC 出版						
	TAC 出版開発グループ	『2023年度版 スッキリわかる 日商簿記3級 本試験予想問題集』				TAC 出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①当科目は簿記検定Ⅰを履修したものの、または簿記の基礎を理解している者が受講対象となっている。授業内容は検定試験合格に向けた演習が中心となるため、事前にテキストを読んでおくこと。また、毎回2時間程度、テキスト内容を予習復習しておくこと。授業には、テキストに加え電卓を持参すること(12桁以上のものが望ましい)。普段から電卓の操作に慣れておくこと。 ②提出された小テスト課題は、毎回採点、添削し返却する。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、簿記の基礎		小テスト (「簿記の基礎」「商品売買」「現金」) 第2回に実施
	学習成果	授業の目的と資格取得の意義、簿記について理解する。		
予習復習の内容	基本的な用語について確認する。			
2回	授業内容	商品売買 現金		
	学習成果	商品売買や現金を扱った際の仕訳ができる。		
予習復習の内容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。			
3回	授業内容	普通預金、定期預金、当座預金、当座借越 小口現金		小テスト (「普通預金、定期預金、当座預金、当座借り越し」「小口現金」「手形と記録債権(債務)」) 第4回に実施
	学習成果	預金や小口現金を扱った際の仕訳ができる。		
予習復習の内容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。			
4回	授業内容	手形と記録債権(債務) 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金		
	学習成果	手形や債券、貸付借入を行った際の仕訳ができる。		
予習復習の内容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。			
5回	授業内容	その他の債権債務 その他の費用		小テスト (「その他の債権債務」「その他の費用」「貸し倒れと貸倒引当金」「有形固定資産と減価償却」) 第6回に実施
	学習成果	仮払いや消耗品購入などを行った際の仕訳ができる。		
予習復習の内容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。			
6回	授業内容	貸倒れと貸倒引当金 有形固定資産と減価償却		
	学習成果	貸倒れとそれに伴う処理、固定資産や原価償却について仕訳ができる。		
予習復習の内容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。			
7回	授業内容	株式の発行、剰余金の配当と処分 法人税等と消費税		小テスト (「株式の発行、剰余金の配当と処分」「法人税等と消費税」「費用・収益の前払い・前受と未払い・未収、訂正仕訳」) 第8回に実施
	学習成果	株式発行や配当、税金を扱った際の仕訳ができる。		
予習復習の内容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。			
8回	授業内容	費用・収益の前払い・前受けと未払い・未収、訂正仕訳		
	学習成果	前払い、前受け、未払い、未収の仕訳、訂正仕訳ができる。		
予習復習の内容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。			
9回	授業内容	帳簿への記入 試算表		小テスト (「帳簿への記入」「試算表」「伝票と仕訳日計表、証ひょう」) 第10回に実施
	学習成果	各種帳簿への記入、試算表の作成ができる。		
予習復習の内容	用語について確認する。			
10回	授業内容	伝票と仕訳日計表、証ひょう		
	学習成果	仕訳日計表の作成と総勘定元帳への転記、証ひょうからの記帳ができる。		
予習復習の内容	用語について確認する。			
11回	授業内容	精算表と財務諸表①決算整理		小テスト (「精算表と財務諸表」「帳簿の締め切り」) 第13回に実施
	学習成果	決算手続きについて理解し、決算整理ができる。		
予習復習の内容	用語について確認する。			
12回	授業内容	精算表と財務諸表②当期純利益または登記純損失の計上、財務諸表		
	学習成果	当期純利益または登記純損失の計上ができ、財務諸表を作成できる。		
予習復習の内容	用語について確認する。			
13回	授業内容	帳簿の締め切り		
	学習成果	帳簿を締め切ることができる。		
予習復習の内容	用語について確認する。			
14回	授業内容	過去問題		小テスト (過去問題) 第14回に実施
	学習成果	日商簿記3級と同様の内容に挑戦することで、弱点を克服する。		
予習復習の内容	間違えたところは解きなおす。			
15回	授業内容	過去問題の解説		
	学習成果	チェックテストを確実に理解することができる。		
予習復習の内容	曖昧な部分は何度も解きなおす。			

科目名	秘書検定講座				担当者	トミタ ユキニ 富田幸重						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。 授業内容に関する質問は毎回、授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	秘書の役割と機能について理解し、その内容を説明できる。										
	②	秘書として必要とされる職務知識・技能を理解し、説明できる。										
	③	秘書としての身だしなみ・態度・言葉づかいを習得し、実践できる。										
	④	現代社会におけるマナー・接遇を習得し、実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	秘書実務を学ぶことを通して、秘書としての職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	秘書として必要とされる実務能力を習得することによって、社会人としてその技能を活用することができる。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	秘書としてふさわしい態度・人柄を理解し、身につけることによって、他者理解ができ、コミュニケーション能力を養うことができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	秘書検定試験合格のために必要な基礎的知識と技能の習得を目的とする。具体的には秘書として必要とされる資質、職務知識、一般知識を学び、その判断力・考え方・適切な対処法の実践力を養う。また、慶弔マナー・接遇、文書技能、交際業務を習得することにより、コミュニケーションの重要性を認識し、社会人として実践できるようにする。さらに、秘書技能に最も大切な論理的思考・問題解決能力を有し、「洞察力」および、「対人能力」を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	30	小テストを2回実施し、各15%ずつ正解率に沿って評価を行う。								
		筆記試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
	平常点	10	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
	西村 この実	『現役審査員が教える秘書検定2・3級テキスト&問題集』							成美堂出版			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①受講の際は秘書検定を必ず受験することを条件とする。事前学習として、テキスト(特に授業の内容と関係の深い部分)や配付される資料をよく読んでおくこと(予習:週2時間程度)。事後学習としては、検定に向け授業内容をしっかり理解しておくこと(復習:週2時間程度)。 ②小テスト・過去問題に対しては、授業内で返却し解説を行う。講義内の対策・アドバイス・解答例を持ってフィードバックとする。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	秘書の資質① ガイダンス 社会人としての意義 求められる能力	小テスト(秘書の資質と役割について)第4回に実施 講義時に毎回配付する資料・ワークシートへの取り組み・活用	
	学習成果	秘書として求められる能力を理解し、概要を説明できる。		
予習復習の内容	検定に向けて、学習計画をたてる。			
2回	授業内容	秘書の資質② 秘書に求められるパーソナリティ 身だしなみ		
	学習成果	身だしなみについての基本的な人柄・身だしなみを習得し、実践できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、秘書に求められるパーソナリティについて理解する。			
3回	授業内容	職務知識① 秘書の役割と機能 日常業務		
	学習成果	秘書の役割と機能を理解し、内容を説明できる。		
予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深める。			
4回	授業内容	職務知識② 業務の進め方 ケーススタディー		
	学習成果	特別な状況への対処方法が説明できる。		
予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深める。			
5回	授業内容	一般知識① 企業についての基礎知識 人事・労務に関する知識 マーケティングの知識		小テスト(マナー・接遇について)第9回に実施 講義時に毎回配付する資料・ワークシートへの活用
	学習成果	経営における一般知識を理解し、説明できる。		
予習復習の内容	会社の組織形態・マーケティングについて理解を深める。			
6回	授業内容	一般知識② 企業と法律 会計・税務の基礎知識 情報処理とニューメディア		
	学習成果	企業会計、社会常識を理解し、説明できる。		
予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深めておくこと。			
7回	授業内容	マナー・接遇① 正しい敬語の使い方 接遇の表現 話し方・聞き方の応用		
	学習成果	敬語と接遇表現を習得し、実践できる。真意をとらえる聞き方ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り表現力を養うため、日常実践し、練習しておくこと。			
8回	授業内容	マナー・接遇② 来客対応の常識とケーススタディー 電話対応の基本とケーススタディー		
	学習成果	来客対応と電話対応の基本を習得し、実践できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、様々な対応のケースについて理解を深める。			
9回	授業内容	マナー・接遇③ 交際の業務 慶弔・弔事・贈答のマナー		
	学習成果	交際の業務に関する業務とマナーを理解し、説明できる。		
予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深めておくこと。			
10回	授業内容	『秘書の資質・職務知識・一般知識・マナー接遇』に関する過去問題対策		
	学習成果	検定レベルに必要な知識を正しく理解できる。		
予習復習の内容	検定に向けて、学習内容をしっかり理解し対策を立てる。			
11回	授業内容	技能① 文書の取り扱い 社内文書・社外文書の作成 ビジネス文書の慣用表現	毎回配付する資料・ワークシートへの取り組み・活用 筆記試験(全15回分の内容を問う)第15回後半に実施	
	学習成果	社内・社外文書を作成することができる。		
予習復習の内容	ビジネス文書の基礎知識について理解し、復習しておく。			
12回	授業内容	技能② グラフの種類と書き方 『秘』文書の取り扱い 通信		
	学習成果	グラフの種類を理解し、適切なグラフを作成できる。		
予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深める。			
13回	授業内容	技能③ 会議の知識 ファイリングと整理法		
	学習成果	会議の準備と秘書の仕事を理解し、説明できる。ファイルの作成、整理、保管ができる。		
予習復習の内容	テキストの該当ページを読み理解を深める。			
14回	授業内容	技能④ 資料・情報の収集 スケジュール管理		
	学習成果	上司の日程管理を理解し、説明できる。		
予習復習の内容	スケジュール作成・管理のポイントを確認し、まとめておく。			
15回	授業内容	技能⑤ 環境の整備 環境整備とレイアウトの基本		
	学習成果	オフィスのレイアウトは上司の仕事に配慮することを理解し、説明できる。		
予習復習の内容	授業の内容全体について、整理・確認しておく。			

科目名	エントリー試験対策講座 I				担当者	イワノ マサノリ 岩 渕 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1 年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				授業の前後に教室で受け付ける。								
専門的 学習成果	①	IT パスポート試験合格に合格できる。										
	②	コンピュータのソフトウェア構成の概要を説明できる。										
	③	コンピュータのハードウェア構成の概要を説明できる。										
	④	企業活動の関連業務について、その概要を説明できる。										
	⑤	経営戦略やビジネスインダストリについて、その概要を説明できる。										
	⑥	情報システムの開発やその運用について、その概要を説明できる。										
	⑦	ネットワークや情報セキュリティについて、その概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	IT パスポート試験に合格し、情報処理技術者としての職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	コンピュータのソフトウェアやハードウェアを通して、習得した知識や技術を活用し問題解決に向けて行動できる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	企業活動や経営戦略の仕組みなどを通じて、IT 社会に役立つ行動ができる。(専門的学習成果④⑤に関連)										
	(4)	情報システムの開発や情報セキュリティを学ぶことを通じて、将来のシステム構成の在り方を探求することができる。(専門的学習成果⑥⑦に関連)										
授業概要	情報処理論および情報科学で学んだ知識を基礎にして、IT パスポート試験に合格できるスキルを身につける。過去問題を解説しながら IT パスポート試験の傾向と対策を行う。更に、IT を活用して業務を改善するなど、情報化を推進できる人材を育成する。そのためには、最新の情報処理技術動向に関心を持ち、日々探求し、その仕組みについて理解する必要がある。さらに、2020年から小学校教育に導入されるプログラミング教育の基礎知識として十分に対応できる内容を講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	小テストを毎回実施し、各 2% ずつ正解率 (0 点、1 点、2 点) に沿って評価を行う。								
汎用的 学習成果	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	岡崎裕史	IT パスポート合格教本				技術評論社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点		①事前に配布した資料を読んでおくこと。(予習：週 2 時間程度) 板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。(復習：週 2 時間程度)										
②課題に対するフィードバックの方法等		②单元ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。										

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	システム戦略の実際	小テスト (システム戦略の実際)
	学習成果	システム戦略の実際例を説明できる。	
	予習復習の内容	現在のシステム戦略について調べておく。	
2 回	授業内容	開発モデルの現状	小テスト (開発モデルの現状)
	学習成果	開発モデルの現状について説明できる。	
	予習復習の内容	現在の開発モデルの現状について調べておく。	
3 回	授業内容	プロジェクトマネジメントの実際	小テスト (プロジェクトマネジメントの実際)
	学習成果	プロジェクトマネジメントの実際例について説明できる。	
	予習復習の内容	現在のプロジェクトマネジメントについて調べておく。	
4 回	授業内容	サービスマネジメントの実際	小テスト (サービスマネジメント)
	学習成果	サービスマネジメントの実際例について説明できる。	
	予習復習の内容	サービスマネジメントの現状について調べておく。	
5 回	授業内容	マーケティングの現状	小テスト (マーケティング)
	学習成果	マーケティングの現状について説明できる。	
	予習復習の内容	マーケティングの現状について調べておく。	
6 回	授業内容	ビジネス戦略の現状	小テスト (ビジネス戦略)
	学習成果	ビジネス戦略の現状について説明できる。	
	予習復習の内容	ビジネス戦略の現状について調べておく。	
7 回	授業内容	経営管理システムの実際	小テスト (経営管理システム)
	学習成果	経営管理システムの実際について説明できる。	
	予習復習の内容	経営管理システムの実際について調べておく。	
8 回	授業内容	ソフトウェア開発の実際	小テスト (ソフトウェア開発の実際)
	学習成果	ソフトウェア開発の実際について説明できる。	
	予習復習の内容	ソフトウェア開発の実際について調べておく。	
9 回	授業内容	システム企画の実際	小テスト (システム企画の実際)
	学習成果	システム企画の実際について説明できる。	
	予習復習の内容	システム企画の実際例について調べておく。	
10 回	授業内容	データベースの実際	小テスト (データベースの実際)
	学習成果	データベースの実際について説明できる。	
	予習復習の内容	データベースの実際について調べておく。	
11 回	授業内容	インターネットの現状	小テスト (インターネットの現状)
	学習成果	インターネットの現状について説明できる。	
	予習復習の内容	インターネットの現状について調べておく。	
12 回	授業内容	WEB 技術の実際	小テスト (WEB 技術の実際)
	学習成果	WEB 技術の実際について説明できる。	
	予習復習の内容	WEB 技術の実際について調べておく。	
13 回	授業内容	暗号化技術の現状	小テスト (暗号化技術の現状)
	学習成果	暗号化技術の現状について説明できる。	
	予習復習の内容	暗号化技術の現状について調べておく。	
14 回	授業内容	コンピュータウイルスの現状	小テスト (コンピュータウイルスの現状)
	学習成果	コンピュータウイルスの現状について説明できる。	
	予習復習の内容	コンピュータウイルスの現状について調べておく。	
15 回	授業内容	AI 技術	小テスト (AI 技術)
	学習成果	AI 技術について説明できる。	
	予習復習の内容	AI 技術について調べておく。	

科目名	ホスピタリティ概論				担当者	ヤマカワ ナミ						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー(初回授業で説明)か、Classroom、Eメールで行う。yamakawa.na@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	ホスピタリティの起源・語源・歴史を理解し、概要を説明できる。										
	②	ホスピタリティを活用している施設を調べ、内容を比較できる。										
	③	日常生活の中で必要な人間関係を論じ、ホスピタリティの必要性を述べることができる。										
	④	自然環境に対し、ホスピタリティの必要性を述べることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	単なる「おもてなし」ではなく、良好な人間関係を築くことができる。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	自然環境に必要なホスピタリティもあり、社会生活を営む上で重要なことを挙げるができる。(専門的学習成果①④)										
	(3)	グループワークを通し、具体的なホスピタリティを挙げるができる。(専門的学習成果②③④)										
授業概要	「ホスピタリティ」という言葉を、日本人は「おもてなし」と表現することが多い。しかし、人間関係に留まらず、動植物やその他の自然環境に対してもホスピタリティは必要である。多様で深い本質を持つ「ホスピタリティ」を学び、またグループワークを通じ議論することで、豊かな社会生活を送ることができるようにする。また、自分の考えを述べること、相手の考えを聴くことで、コミュニケーション力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	15回の講義を通じレポートを作成し、理解度を評価する。								
		グループワーク	30	小グループでのワークを通じ、プレゼンテーションを行い評価する。								
平常点	10	グループワークや授業への取り組み・意欲・態度により評価する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果②③④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
	力石寛夫		『ホスピタリティ』					商業界				
	力石寛夫		『ホスピタリティマインド実践入門』					研究社				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義内容を整理する。そしてグループワークの発表に備え、具体的な内容に基いた自分自身の考えをまとめておく(30時間)。また、日常において、自身の行動及び他者の行動を観察し振り返りをし、より良い社会の構築を考える(30時間)。 ②レポートは後期開講直後に返却し、フィードバックする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	TDRのホスピタリティ	レポート提出
	学習成果	TDRでのホスピタリティ溢れる接客を述べることができる。	
	予習復習の内容	自身が体験したTDRを思い出し、整理しておく。	
	授業内容	テーマパーク論	
2回	学習成果	国内外のテーマパークを比較し、接客の仕方を述べることができる。	
	予習復習の内容	自身が体験したテーマパークでの思い出を整理しておく。	
3回	授業内容	ホスピタリティの起源	
	学習成果	人類の始まりから続くホスピタリティを説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
	授業内容	ホスピタリティとサービス	
4回	学習成果	ホスピタリティとサービスとの概念比較を説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
5回	授業内容	ホスピタリティとサービス グループワーク	
	学習成果	グループワークをおこない、自身の考えを挙げるができる。	
	予習復習の内容	自身の考えとグループ各員の考えを整理しておく。	
	授業内容	ホスピタリティとサービス グループワーク発表	グループワークへの取り組み
6回	学習成果	先のグループワークでの意見を、全員の前でプレゼンテーションできる。	
	予習復習の内容	他グループの考えを聴き、自身の意見と比較・検討する。	
	授業内容	ホスピタリティマネジメント	
7回	学習成果	社会生活をおくる上で必要なホスピタリティを述べることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
8回	授業内容	ホスピタリティマーケティング	
	学習成果	仕事をする上で必要なホスピタリティを述べることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
	授業内容	友人間でのホスピタリティ グループワーク	
9回	学習成果	グループワークをおこない、自身の考えを挙げるができる。	
	予習復習の内容	自身の考えとグループ各員の考えを整理しておく。	
10回	授業内容	友人間でのホスピタリティ グループワーク発表	グループワークへの取り組み
	学習成果	先のグループワークでの意見を、全員の前でプレゼンテーションできる。	
	予習復習の内容	他グループの考えを聴き、自身の意見と比較・検討する。	
	授業内容	ホスピタリティと環境 自然との共生	
11回	学習成果	自然と人間のとの共生について、意見を述べることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
12回	授業内容	ホスピタリティと環境 食物との関係	
	学習成果	自然環境に配慮した食物の栽培や摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
	授業内容	職場でのホスピタリティ グループワーク	
13回	学習成果	グループワークをおこない、自身の考えを挙げるができる。	
	予習復習の内容	自身の考えとグループ各員の考えを整理しておく。	
14回	授業内容	職場でのホスピタリティ グループワーク発表	グループワークへの取り組み
	学習成果	先のグループワークでの意見を、全員の前でプレゼンテーションできる。	
	予習復習の内容	他グループの考えを聴き、自身の意見と比較・検討する。	
	15回	授業内容	自身の考えるホスピタリティ
学習成果	講義やグループワークを通して自身のホスピタリティを述べることができる。		
	予習復習の内容	レポートをまとめ提出できる。	

科目名	新聞を読む				担当者	川 辺 博						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	kawabe.hiroshi@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。											
専門的 学習成果	①	新聞を読んで活用するための技術を身につける。										
	②	時事問題に関心を持ち、自分自身に関連づけてとらえ、自分なりの考えが発表できる。										
	③	「ニュース時事能力検定」受検を目指した取り組みができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会の課題を認識することで、業務においても私生活においても自立した社会人としての役割を果たすことができる。(専門的学習成果の①②③に関連)										
	(2)	現代社会の課題について深く考察し、立場の異なる相手とも議論できる。(専門的学習成果の②に関連)										
	(3)	現代社会の課題に取り組んで地域社会の活動に貢献できる。(専門的学習成果の②に関連)										
授業概要	新聞は世界を知るための良質のメディアだが、読むには慣れとコツが必要である。この授業では各自が毎週スクラップ・ブックを作り、記事で取り上げられているできごとについて全体で討議することを通して、社会のしくみと現状、問題点についての理解を深める。また新聞記事のようないわゆる「硬い文章」を読むのに慣れ、さらには自分でも書けるように練習する。「ニュース時事能力検定」の参考書・問題集に取り組み、受検を促す。「新聞は難しいから読まない」という人ほど、むしろ歓迎する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		提出物	50	授業ごとに指定されたテーマにもとづいてスクラップ・ブックを作り、期末に提出する。								
		小テスト	20	ニュース検定や講義内容についての小テストを実施する。								
		平常点	30	授業時間中におこなうスクラップの発表の内容を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③によって評価をおこなう。 (2) は専門的学習成果②によって評価をおこなう。 (3) は専門的学習成果②によって評価をおこなう。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
	日本ニュース時事能力 検定協会 (監修)	『2023年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 3・4級対応』		毎日新聞出版								
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	池上彰	『池上彰の新聞勉強術』		文春文庫								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①各自で新聞を用意し、スクラップ・ブックを作成すること。作る際の詳細な注意点は、初回のガイダンスで指示する。授業日以外でも新聞やテレビのニュース番組、ネットのニュース・サイトに親しむ必要がある(毎日数十分程度、1週間で4時間程度)。 ②小テストや提出物は返却し、その際に解説をおこなう。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、スクラップ・ブックの作り方と「ニュース時事能力検定」について	「ニュース検定」の例題への取り組みによって評価
	学習成果	新聞というメディアの特性を理解し、スクラップ・ブックを作成する準備ができる。	
2回	予習復習の内容	スクラップを作成する。	スクラップの発表によって評価
	授業内容	新聞の種類	
3回	学習成果	流通範囲や扱う内容に応じて新聞に多くの種類があることを説明できる。	スクラップの発表によって評価
	予習復習の内容	スクラップを作成する。ニュース・サイトを閲覧する。	
4回	授業内容	アナログ・メディア(新聞紙)とデジタル・メディア(ニュース・サイト)の特徴	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	アナログとデジタルの双方の長所と短所を対比して説明できる。	
5回	予習復習の内容	スクラップを作成する。政治分野の話題についてまとめておく。	スクラップの発表によって評価
	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(1) 政治	
6回	学習成果	政治分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	予習復習の内容	スクラップを作成する。政治分野の話題を復習する。	
7回	授業内容	一日分の新聞の構成	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞の「面」ごとの特色を説明できる。	
8回	予習復習の内容	スクラップを作成する。見出しの特徴を調べておく。	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	授業内容	新聞記事の構造、見出しの役割	
9回	学習成果	新聞記事の構造や見出しの役割を説明できる。	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	予習復習の内容	スクラップを作成する。経済分野の話題についてまとめておく。	
10回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(2) 経済	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	経済分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
11回	予習復習の内容	スクラップを作成する。経済分野の話題を復習する。	スクラップの発表によって評価
	授業内容	写真、レイアウト、文字の役割	
12回	学習成果	報道写真に込められた意図に留意しながら「読み解く」ことができる。	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	予習復習の内容	スクラップを作成する。暮らしにかかわる話題についてまとめておく。	
13回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(3) 暮らし	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	暮らしにかかわる知識を整理し、問題点について論じることができる。	
14回	予習復習の内容	スクラップを作成する。新聞広告の特徴を調べておく。	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	授業内容	新聞広告の特徴	
15回	学習成果	新聞という物理メディアならではの広告の表現手法の特徴を説明できる。	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	予習復習の内容	スクラップを作成する。社会・環境分野の話題についてまとめておく。	
16回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(4) 社会・環境	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	社会・環境の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
17回	予習復習の内容	スクラップを作成する。社会・環境分野の話題を復習する。	スクラップの発表によって評価
	授業内容	新聞を読み比べる(1) 一般紙どうしの読み比べ	
18回	学習成果	複数紙の読み比べをとおして、報道と世論形成のかかわりを説明できる。	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	予習復習の内容	スクラップを作成する。国際分野の話題についてまとめておく。	
19回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(5) 国際	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	国際分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
20回	予習復習の内容	スクラップを作成する。国際分野の話題を復習する。	スクラップの発表によって評価
	授業内容	新聞を読み比べる(2) 「日本経済新聞」を読む	
21回	学習成果	「日本経済新聞」の特徴を理解し、活用できる。	スクラップの発表によって評価
	予習復習の内容	スクラップを作成する。新聞の文体の特徴を調べておく。	
22回	授業内容	新聞記事の文体をまねて記事を書く	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞記事風の文章が自分で書ける。	
23回	予習復習の内容	スクラップを作成する。授業全体を振り返り、まとめる。	スクラップの発表によって評価

科目名	仙台の歴史と文化				担当者	佐藤和賀子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回の授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	仙台の歴史と文化について理解し、学んだ知識を説明できる。										
	②	仙台の歴史と文化を観光資源として関連づけることができる。										
	③	仙台の歴史と文化を観光資源の観点からみた時、観光課題を指摘できる。										
	④	仙台の歴史と文化について学んだ知識を基に、観光プランを作成できる。										
	⑤	仙台の歴史と文化について理解を深めるために、博物館・美術館・記念館等の機関を活用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	仙台の歴史と文化を学ぶことを通して、観光業に必要な知識と技能を学び、職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)										
	(2)	仙台の歴史と文化について学んだ知識や技能を使い、仙台の文化遺産等を観光資源として活用し、地域社会に貢献することができる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	仙台の歴史と文化で学んだ知識を基に、他者のために旅行プランを作成することを通して、人との関わりに必要な論理的思考、他者理解ができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	仙台の歴史と文化に関わる事柄や人物や文化遺産を、日本史と世界史の中に位置づけ、史料・写真・地図・映像等を使い、古代から現代まで学ぶ。授業のなかで得た仙台の歴史と文化に関する知識をもとに、仙台の歴史と文化を国際的視野や現代的視点から理解する。仙台の歴史と文化を観光資源という観点から見直し、観光プランを作成する方法を理解する。仙台の歴史と文化をより深く学ぶために、博物館・美術館・記念館等の利用方法を理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格点とする。								
		レポート	20	レポート1回 評価基準は体裁5点・内容15点の20点満点で15点以上を合格点とする。								
		小テスト	20	10点満点を2回実施、各60%以上の得点を合格点とする。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		毎時、担当者が作成した資料プリントを配布する										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	仙台市史編さん委員会	『仙台市史通史編 原始』										
	同	『仙台市史通史編 古代中世』										
	同	『仙台市史通史編 近世1』『仙台市史通史編 近世2』										
	同	『仙台市史通史編 近代1』『仙台市史通史編 近代2』										
	同	『仙台市史通史編 現代1』『仙台市史通史編 現代2』										
	同	『仙台市史特別編 美術・工芸』										
	同	『仙台市史特別編 民俗』										
同	『仙台市史特別編 慶長遣欧使節』											
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は配布資料を主とし、必要に応じて視聴覚教材を使用して進める。事前学習として、毎時に次の授業内容の予告をするので、指示された文献を読み、理解を深めておくこと(予習は週2時間程度)。事後学習としては、配布資料を整理して、ノートを見直すこと(復習は週2時間程度)。 ②フィードバックとして、理解度確認のための小テストは採点して返却し、解答を解説する。レポートは採点後に返却し、全体に関わる点はコメントする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	原始の仙台	レポート課題について説明する。 小テスト(1回～7回分)を8回目に実施する。
	学習成果	原始の仙台について基本的な知識を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	古代の仙台について、指示された文献を読んでおく。	
2回	授業内容	古代の仙台	
	学習成果	古代の仙台について基本的な知識を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	中世の仙台について、指示された文献を読んでおく。	
3回	授業内容	中世の仙台	
	学習成果	中世の仙台について基本的な知識を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	伊達政宗の生涯について調べておく。	
4回	授業内容	近世の仙台①伊達政宗の生涯(前半)	
	学習成果	伊達政宗の生涯(前半)について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	伊達政宗の生涯について調べておく。	
5回	授業内容	近世の仙台②伊達政宗の生涯(後半)	
	学習成果	伊達政宗の生涯(後半)について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	伊達政宗の生涯と業績をまとめておく。	
6回	授業内容	近世の仙台③城下町仙台の形成	
	学習成果	城下町仙台の成立と特徴を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	慶長遣欧使節・支倉常長について調べておく。	
7回	授業内容	近世の仙台④慶長遣欧使節と支倉常長	
	学習成果	慶長遣欧使節と支倉常長の生涯を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	明治期の仙台について、指示された文献を読んでおく。	
8回	授業内容	明治の仙台	小テスト(8回～12回分)を13回目に実施する。
	学習成果	明治時代の仙台の歴史について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	大正期・昭和戦前期の仙台の歴史について、指示された文献を読んでおく。	
9回	授業内容	大正・昭和戦前期の仙台	
	学習成果	大正・昭和戦前期の仙台の歴史について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	戦時下の仙台について、指示された文献を読んでおく。	
10回	授業内容	戦時下の仙台	
	学習成果	戦時下の仙台について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	戦後の仙台の歴史について、指示された文献を読んでおく。	
11回	授業内容	現代の仙台①戦後復興期～高度経済成長期	
	学習成果	仙台の戦後復興期から高度経済成長期までの歴史について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	東日本大震災に関する文献を読んでおく。	
12回	授業内容	現代の仙台②安定成長期～東日本大震災	
	学習成果	仙台の安定成長期から東日本大震災までの歴史について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	仙台の戦後史についてまとめておく。	
13回	授業内容	仙台の伝統工芸品・祭り	
	学習成果	仙台の伝統工芸品と祭りについて理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	仙台とゆかりのある人物について調べておく。	
14回	授業内容	仙台ゆかりの人物	レポートを返却しコメントする。
	学習成果	仙台と関係のある人物の生涯と業績について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	仙台の旅行プラン作成の資料をまとめておく。	
15回	授業内容	仙台の観光課題・旅行プランの作成	定期試験時に、筆記試験を実施する。
	学習成果	仙台の観光課題を理解し、旅行プランを作成できる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理し確認しておくこと。	

科目名	韓国語会話実践 I				担当者	文 慶 話						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	韓国語入門で学んだ基礎を基にハングルの「書く」「読む」から「聞く」「話す」に進むことができる。										
	②	韓国語の簡単な挨拶や自己紹介ができる。										
	③	韓国語の文型を読解することができる。										
	④	韓国語の日常会話で良く用いられる基本表現を使い会話ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	外国語を学ぶ学習スキルとそれに伴う教養を身に付け、多文化グローバルな社会を生きる力を付けることができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(2)	自分の母国語とは違う外国語を学ぶことによって、国際的な感覚を身に付けることができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(3)	隣国の言語や文化を理解し、自分達の言語の特徴や良さを理解することができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(4)	積極的な自己発信ができ、また他者を理解する力を付け、多様な人と共に生きることができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
授業概要	韓国語会話実践では、「韓国語入門」で学んだ韓国語の基礎を基にして、会話能力即ち「聞く」、「話す」ことに重点を置いて行う。日常生活で良く使われている表現を中心に、相手に通じる韓国語の習得を目指す。そのために授業中には二人ずつ組んで会話の練習をする。また、韓国文化にも触れるため韓国ドラマや映画等も取り入れて行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	学期内まで学習した内容に基づき、記述式の問題を課し、成績評価を行う。								
		レポート										
		平常点	50	授業参加態度や課題提出等を総合して評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文慶話他	『かんたん！韓国語』				朝日出版社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①声を出して練習すること。 宿題や課題を真面目に提出すること。 ②毎回一時間程度で終わる課題を課す。課題は添削して返す。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	韓国語を学ぶ意義とハングル基礎	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語を学ぶ意義を理解でき、ハングルの基礎が分かる	
	予習復習の内容	韓国語の歴史や特徴、ハングル文字について予習する	
	授業内容	存在文とその疑問文	毎回小テストをする
2回	学習成果	韓国語の存在文やそれを使った疑問文で表現することができる	
	予習復習の内容	ハングルの読み方とその課題をする	
3回	授業内容	場所の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の場所に関する実践会話ができる	
	予習復習の内容	場所の語彙を覚えて、それを使った課題をする	
	授業内容	「何をする」文型とその受け答え	毎回小テストをする
4回	学習成果	韓国語の動詞文で「何をする」文型の会話ができる	
	予習復習の内容	動詞文の本文を暗記し、その関連の課題をする	
5回	授業内容	「何をしますか」文の実践会話	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語で「何をしますか」の質問と答えの会話ができる	
	予習復習の内容	「何をしますか」の答えを調べ、その関連の課題をする	
	授業内容	時間表現とその文型	毎回小テストをする
6回	学習成果	韓国語の時間表現を使った会話ができる	
	予習復習の内容	韓国語の固有語数詞や時間表現を覚え、その関連の課題をする	
7回	授業内容	趣味の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語で趣味を話題にした会話ができる	
	予習復習の内容	趣味に関連する語彙を覚え、その関連の課題をする	
	授業内容	動詞・形容詞の否定文	毎回小テストをする
8回	学習成果	韓国語の動詞・形容詞の否定文を作ることができる	
	予習復習の内容	動詞・形容詞の否定文の作り方を覚え、その関連の課題をする	
9回	授業内容	動詞・形容詞否定文とその実践会話	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の動詞・形容詞の否定形の会話ができる	
	予習復習の内容	動詞・形容詞の否定の例文を作り、その関連の課題をする	
	授業内容	「～から～まで」と手段の「～で」	毎回小テストをする
10回	学習成果	韓国語の起点と終点、手段・方法の文を作ることができる	
	予習復習の内容	起点と終点、手段・方法関連の語彙を覚え、その関連の課題をする	
11回	授業内容	会話文体の作り方とその実践会話	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の書き言葉と話し言葉の違いが分かる	
	予習復習の内容	会話文体の例文を作り、その関連の課題をする	
	授業内容	動詞・形容詞の不規則体の会話文	毎回小テストをする
12回	学習成果	韓国語の動詞・形容詞の不規則体の会話ができる	
	予習復習の内容	動詞・形容詞文の不規則体の例文を作り、その関連の課題をする	
13回	授業内容	不規則「-요」体の会話とその実践	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の会話体の不規則語彙の会話ができる	
	予習復習の内容	不規則「-요」体の例文を作り、その関連の課題をする	
	授業内容	名詞文の過去表現	毎回小テストをする
14回	学習成果	韓国語の名詞文の過去形の作り方が分かる	
	予習復習の内容	名詞文の過去形を作り、その関連の課題をする	
15回	授業内容	名詞文の過去表現とその実践会話	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の過去表現の使った会話ができる	
	予習復習の内容	名詞の過去形の例文を作り、その関連の課題をする	

科目名	中国語会話実践				担当者	シャ 謝			トウ 韜			
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	1・2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後の時間以外はEメールで行う。 wangxuan0204@gmail.com										
専門的 学習成果	①	中国語とはどんな言葉かについて理解でき、概要を説明できる										
	②	中国語の発音要領と声調の特徴を理解し、短母音、複母音、鼻母音と子音の発音ができるようになる										
	③	中国語の述語文（動詞・形容詞・名詞）の使用について区別できる										
	④	中国語の疑問詞及び疑問文が使用できる										
	⑤	中国語の時制構文を習得する。										
	⑥	使役文「让」と受身文「被」を区別して使用できる										
	⑦	モダリティ・助動詞が使えるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	中国語の基礎知識を理解し、コミュニケーション活動に必要な基礎力を身に付ける。（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	学生生活に密着した語彙・表現について理解を深め、中国語で会話する能力を高める。（専門的学習成果③④⑤⑥⑦に関連）										
	(3)	日常生活に密着したモデル会話の勉強を通して、中国語の“聴く・話す・読む・書く”4技能をバランスよく身に付ける。（専門的学習成果③④⑤⑥⑦に関連）										
授業概要	この授業は学習者の皆さんが楽しみながら中国語の基礎力を身に付けるとともに、聞く・話す・読む・書く4技能をバランスよく修得することを目的とする。簡単な会話のやり取りや、文章を読んだり書いたりすることを通して、語彙及び文法のポイントを定着させ、実践的なコミュニケーションができるようにする。さらに、中国語の学習にあたっては、中国の文化や社会に興味を持つことも重要であり、授業ではそうした面にも目を向けられるよう工夫する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	30	各回5%を6回実施する。2～4回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
汎用的 学習成果	筆記試験	70	第15回目と第30回目の授業後半に筆記と口頭試験形式で行い、全30回分の講義内容の理解について評価を行う。									
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	上野 恵司	『標準中国語・基礎編』				白帝社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストを活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、2回目以降の授業から、音節の発音、語彙の発音を読み予習しておくこと（予習：週2時間程度）。事後学習としては、授業の内容について振り返りを行い、朗読の練習及び確認問題を通して理解を深めること（復習：週2時間程度）。 ②小テストは授業で返却し解説を行う。期末試験は実施後に正解を示し、解説を行う。											

授業計画		学習成果の評価	授業計画		学習成果の評価										
1回	授業内容	中国語の基礎知識と短母音の発音	小テスト（短母音・複母音について）第3回に実施	16回	授業内容	第5課「横浜に行こう！」（語彙・会話・文法）	小テスト（第5課について）第18回に実施								
	学習成果	中国語の基礎知識を理解し、短母音の発音を身に付ける。			学習成果	動詞述語文と動詞「喜欢」を理解し、自分や友達の日常生活について会話できる。									
予習復習の内容	中国語の短母音の発音について理解を深めておくこと。	予習復習の内容		第5課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。											
2回	授業内容	中国語の複母音の発音		小テスト（子音と鼻母音について）第6回に実施	17回	授業内容		第5課「横浜に行こう！」（4技能練習）	小テスト（第6～7課について）第22回に実施						
	学習成果	中国語の複母音の発音を身に付ける。				学習成果		4技能のバランスを取りながら、自分や友達の日常生活について会話できる。							
予習復習の内容	中国語の複母音について理解を深めておくこと。	予習復習の内容			確認問題を通して、第5課の文法について整理・確認しておくこと。										
3回	授業内容	中国語の子音（前半）の発音			小テスト（第8課「夏合宿の計画」）第24回に実施	18回		授業内容		第6課「いい曲ですね」（語彙・会話・文法）	小テスト（第8～9課について）第26回に実施				
	学習成果	中国語の子音（前半）の発音を身に付ける。						学習成果		副詞「在」と様態補語を理解し、自分や友達の得意なことについて会話できる。					
予習復習の内容	中国語の子音（前半）の発音について理解を深めておくこと。	予習復習の内容				第6課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。									
4回	授業内容	中国語の子音（後半）の発音				小テスト（第11課と第2課について）第11回に実施		19回		授業内容		第6課「いい曲ですね」（4技能練習）	小テスト（第8～9課について）第26回に実施		
	学習成果	中国語の子音（後半）の発音を身に付ける。								学習成果		4技能のバランスを取りながら、自分や友達の得意なことについて会話できる。			
予習復習の内容	中国語の子音（後半）の発音について理解を深めておくこと。	予習復習の内容						確認問題を通して、第6課の文法について整理・確認しておくこと。							
5回	授業内容	中国語の鼻母音の発音						小テスト（第11課と第2課について）第11回に実施		20回		授業内容		第7課「山中君、バイクでけがをする」（語彙・会話・文法）	小テスト（第8～9課について）第26回に実施
	学習成果	中国語の鼻母音の発音を身に付ける。										学習成果		「了」と結果補語を理解し、自分や友達の体調の変化について会話できる。	
予習復習の内容	中国語の鼻母音について理解を深めておくこと。	予習復習の内容								第7課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。					
6回	授業内容	中国語の音節、数字と簡単な挨拶	小テスト（第11課と第2課について）第11回に実施				21回			授業内容		第7課「山中君、バイクでけがをする」（4技能練習）		小テスト（第8～9課について）第26回に実施	
	学習成果	中国語の音節を理解し、数字の読み方と簡単な挨拶を身に付ける。								学習成果		4技能のバランスを取りながら、自分や友達の体調の変化について会話できる。			
予習復習の内容	数字の言い方及び簡単な挨拶文の理解を深めておくこと。	予習復習の内容					確認問題を通して、第7課の文法について整理・確認しておくこと。								
7回	授業内容	第1課「はじめまして、小林！」（語彙・会話・文法）		小テスト（第11課と第2課について）第11回に実施			22回		授業内容	第8課「夏合宿の計画」（語彙・会話・文法）		小テスト（第8～9課について）第26回に実施			
	学習成果	動詞「是」の構文と人称代名詞を理解し、簡単な自己紹介ができる。							学習成果	選択疑問文と助動詞を理解し、自分ができることや、やりたいことについて会話できる。					
予習復習の内容	第1課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	予習復習の内容					第8課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。								
8回	授業内容	第1課「はじめまして、小林！」（4技能練習）			小テスト（第11課と第2課について）第11回に実施		23回		授業内容	第8課「夏合宿の計画」（4技能練習）	小テスト（第8～9課について）第26回に実施				
	学習成果	4技能のバランスを取りながら、簡単な自己紹介ができる。							学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分ができることや、やりたいことについて会話できる。					
予習復習の内容	確認問題を通して、第1課の文法について整理・確認しておくこと。	予習復習の内容					確認問題を通して、第8課の文法について整理・確認しておくこと。								
9回	授業内容	第2課「趣味は何ですか？」（語彙・会話・文法）				小テスト（第11課と第2課について）第11回に実施	24回		授業内容	第9課「はくたちは絶対に成功できる！」（語彙・会話・文法）			小テスト（第8～9課について）第26回に実施		
	学習成果	名詞述語文と疑問詞疑問文を理解し、趣味や年齢の尋ね方を身に付け、会話できる。							学習成果	前置詞と経験を表す構文「过」を理解し、自分の学校生活やアルバイトについて会話できる。					
予習復習の内容	第2課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	予習復習の内容					第9課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。								
10回	授業内容	第2課「趣味は何ですか？」（4技能練習）					小テスト（第11課と第2課について）第11回に実施	25回	授業内容	第9課「はくたちは絶対に成功できる！」（4技能練習）					小テスト（第8～9課について）第26回に実施
	学習成果	4技能のバランスを取りながら、趣味や年齢の尋ね方について会話できる。							学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分の学校生活やアルバイトについて会話できる。					
予習復習の内容	確認問題を通して、第2課の文法について整理・確認しておくこと。	予習復習の内容						確認問題を通して、第9課の文法について整理・確認しておくこと。							
11回	授業内容	第3課「彼氏いますか？」（語彙・会話・文法）	小テスト（第11課と第2課について）第11回に実施					26回	授業内容	第10課「スカイツリーを見に行こう！」（語彙・会話・文法）				小テスト（第8～9課について）第26回に実施	
	学習成果	動詞「在」と「有」を理解し、自分の家族について紹介できる。							学習成果	持続を表す構文「着」と比較表現を理解し、友達を誘ったり、物事を比較したりすることができる。					
予習復習の内容	第3課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	予習復習の内容						第10課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。							
12回	授業内容	第3課「彼氏いますか？」（4技能練習）		小テスト（第11課と第2課について）第11回に実施				27回	授業内容	第10課「スカイツリーを見に行こう！」（4技能練習）		小テスト（第8～9課について）第26回に実施			
	学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分の家族について紹介できる。							学習成果	4技能のバランスを取りながら、友達を誘ったり、物事を比較したりすることができる。					
予習復習の内容	確認問題を通して、第3課の文法について整理・確認しておくこと。	予習復習の内容						確認問題を通して、第10課の文法について整理・確認しておくこと。							
13回	授業内容	第4課「毎日が充実していて楽しい！」（語彙・会話・文法）			小テスト（第11課と第2課について）第11回に実施			28回	授業内容	第11課「ホワイトクリスマスね」（語彙・会話・文法）	小テスト（第8～9課について）第26回に実施				
	学習成果	形容詞述語文と反復疑問文を理解し、健康や勉強の状況について会話できる。							学習成果	使役「让」と無主語文を理解し、天候などの自然現象について会話できる。					
予習復習の内容	第4課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	予習復習の内容						第11課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。							
14回	授業内容	第4課「毎日が充実していて楽しい！」（4技能練習）				小テスト（第11課と第2課について）第11回に実施		29回	授業内容	第11課「ホワイトクリスマスね」（4技能練習）			小テスト（第8～9課について）第26回に実施		
	学習成果	4技能のバランスを取りながら、健康や勉強の状況について会話できる。							学習成果	4技能のバランスを取りながら、天候などの自然現象について会話できる。					
予習復習の内容	確認問題を通して、第4課の文法について整理・確認しておくこと。	予習復習の内容						確認問題を通して、第11課の文法について整理・確認しておくこと。							
15回	授業内容	ユニット1のまとめ「林林の自己紹介」（読解）					小テスト（第11課と第2課について）第11回に実施	30回	授業内容	第12課「道中ご無事で」					小テスト（第8～9課について）第26回に実施
	学習成果	名前、年齢、趣味、家族構成及び自分の大学生活について紹介できる。							学習成果	受身「被」と方向補語を理解し、別れの表現を身に付け、会話できる。					
予習復習の内容	ユニット1の語句をマスターするよう学習しておくこと。	予習復習の内容						確認問題を通して、第12課の文法について整理・確認しておくこと。							

科目名	観光英会話				担当者	プシューポール						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける										
専門的 学習成果	①	英語の単語、表現、会話を身につけ、海外での様々な場面で英会話で対応できる。										
	②	英語の単語、表現、会話を身につけ、訪日外国人と英語のコミュニケーションを行うことができる。										
	③	日本人が苦手意識をもちやすい英語の発音について点検し、正しい発音で英会話を行うことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	英会話の学びを通して、言語の背景である異文化への理解を深め、国際社会で通用する幅広い視野でものごとをとらえることができる。(専門的学習成果①、②、③)										
授業概要	テキストに沿って海外旅行中の様々な場面で役に立つ英語を実践的に学習する。単語、表現、会話をしっかり覚え、旅行中だけでなく、日本に来る外国人観光客にも対応できるように練習する。日本人が不安を感じやすいのが発音であるが、これを重点的に指導し、そのコツも覚え、分かりやすい通じる英語を身につけることを目指す。そして授業やプレゼンテーションなど通して異文化への理解を深め、国際社会に興味を持って幅広い視野を育む。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		期末テスト	50	前期・後期とも最後の授業で実施する。								
		平常点	50	授業での取り組みや宿題、小テストの達成度で評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、専門的学習成果①、②、③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	Angela Buckingham、 Lewis Lansford		『PASSPORT 1』				Oxford University Press					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		① 毎週の授業の予習 (30分) と復習 (30分) をすること。宿題が課された場合は、次の授業までに必ずやっておくこと。単語やフレーズの小テストを実施することもある。常に単語やフレーズを復習すること。配布資料はしっかり管理すること。 ② 小テストとプレゼンテーションの内容についてのフィードバックは授業中に行う。しっかり受け止めて改善に努めること。										

授業計画		学習成果の評価	授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	オリエンテーション (授業への取り組み方と自己紹介)	16回	授業内容	Have you been to the islands?	取り組む態度・英語力
	学習成果	英語で挨拶と自己紹介ができます		学習成果	旅行経験について話す	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習		予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
2回	授業内容	機内で Would you like chicken or fish?	17回	授業内容	I really like rugby!	取り組む態度・英語力
	学習成果	英語で要求、希望を伝えることができる		学習成果	好き嫌いについて話す	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習		予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
3回	授業内容	入国管理で Can I have your passport, please?	18回	授業内容	Where should we meet?	取り組む態度・英語力
	学習成果	入国管理で質問を答える		学習成果	会う計画を立てる	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習		予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
4回	授業内容	My mother has her own business.	19回	授業内容	市場で How about 400 baht for two?	取り組む態度・英語力
	学習成果	自分の家族と趣味について会話ができます		学習成果	ショッピングと価格交渉	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習		予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
5回	授業内容	Can I check my email?	20回	授業内容	Destination: Thailand	取り組む態度・英語力
	学習成果	丁寧なお願ひする		学習成果	タイの観光地について学ぶ	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習		予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
6回	授業内容	レストランで Are you ready to order?	21回	授業内容	郵便局で I'd like to send this to Japan, please.	取り組む態度・英語力
	学習成果	レストランでよく使う言葉		学習成果	パッケージを郵送する	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習		予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
7回	授業内容	Destination: the UK	22回	授業内容	We're staying five more days.	取り組む態度・英語力
	学習成果	イギリスの観光地について学ぶ		学習成果	旅行のアドバイスを求めて与える	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習		予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
8回	授業内容	Where's the station?	23回	授業内容	I lost my bag!	取り組む態度・表情・発音・積極性
	学習成果	道順を尋ねる		学習成果	紛失を報告する	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習		予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
9回	授業内容	銀行で Can I use my card in this ATM?	24回	授業内容	Which bus goes to the airport?	取り組む態度・英語力
	学習成果	銀行で両替する		学習成果	公共交通機関を利用する	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習		予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
10回	授業内容	電話で Do you have a non-smoking room?	25回	授業内容	What did you like the best?	取り組む態度・英語力
	学習成果	ホテルの部屋を予約する		学習成果	旅行体験に伝える	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習		予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
11回	授業内容	薬局で I have a stomachache	26回	授業内容	Destination: Ireland	取り組む態度・英語力
	学習成果	症状を説明し、薬を求める		学習成果	アイルランドの観光地について学ぶ	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習		予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
12回	授業内容	I'm from Japan	27回	授業内容	Interests, Opinions, Agreeing and Disagreeing	取り組む態度・表情・発音・積極性
	学習成果	故郷について話す		学習成果	興味について話し、誰かに賛成と反対の意見を述べます	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習		予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
13回	授業内容	Destination: New Zealand	28回	授業内容	TV Shows and Music	準備・英語の表現力・発音・表情
	学習成果	ニュージーランドの観光地について学ぶ		学習成果	お気に入りのテレビ番組や音楽について話す	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習		予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
14回	授業内容	観光案内所で What time does it start?	29回	授業内容	Movies	取り組む態度・英語力
	学習成果	観光案内所で情報を求める		学習成果	好きな映画について話す	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習		予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
15回	授業内容	学期末テスト	30回	授業内容	学期末テスト	期末テスト
	学習成果	さまざまな場面で英語を使ってコミュニケーションを行うことができる。		学習成果	さまざまな場面で英語を使ってコミュニケーションを行うことができる。	
	予習復習の内容	テストでの誤りを復習		予習復習の内容	テストでの誤りを復習	

科目名	基礎プログラミング演習				担当者	岩 渕 正 則						
区 分	選 択	2	単 位	授業回数	30	回	授 業 形 態	演 習	学 年	1 年	開 講 期	後 期
				授業時間数	60	時 間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	Java 言語の構成を説明できる。										
	②	Java 言語を構成する各命令を操作できる。										
	③	構造化プログラミングを説明できる。										
	④	基本的なアルゴリズムを説明できる。										
	⑤	基本的な処理をプログラミングで操作できる。										
	⑥	プログラムの開発工程を説明できる。										
	⑦	システム開発工程を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	Java 言語を習得し、情報処理技術者としての職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	プログラミングを通して、習得した知識や技術を活用し問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	企業システムや経営システムを構築することで、IT 社会に役立つ行動ができる。(専門的学習成果④⑤に関連)										
	(4)	情報システムの開発工程を学ぶことを通じて、将来のシステム構成の在り方を探求することができる。(専門的学習成果⑥⑦に関連)										
授業概要	世界的に標準言語として認められており、情報処理技術者国家試験の指定言語であるプログラミング言語を学ぶ。情報処理論および情報科学で学んだ知識を基礎として、プログラミングスキルを身につける。プログラミング技術を活用して業務を改善するなど、情報化を推進できる人材を育成する。そのためには、最新のアルゴリズム構成について理解する必要がある。さらに、2020年から小学校教育に導入されるプログラミング教育の人材として十分に活用できる内容を講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		実習レポート	30	実習課題の提出により評価を行う。実習課題1～実習課題5の各6点満点とする。								
		小テスト										
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。 (4) は専門的学習成果⑥⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書 名				出版社名						
	高橋麻奈	『やさしいJava』第7版				SB						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書 名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前に配布した資料を読んでおくこと。(予習：週2時間程度) 板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。(復習：週2時間程度) ②单元ごとに復習を行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。										

		授業計画		学習成果の評価	授業計画		学習成果の評価				
1 回	授業内容	ソフトウェアの開発手順		実習課題1 (IF 文を使った課題)	16回	授業内容	文字型配列				
	学習成果	ソフトウェアの開発手順について説明できる。				学習成果	文字型配列について説明できる。				
	予習復習の内容	ソフトウェア開発手順について調べておく。				予習復習の内容	文字型配列について調べておく。				
2 回	授業内容	プログラミングの手順			実習課題2 (関数を使ったプログラム)	17回	授業内容	文字列の代入			
	学習成果	プログラミングの手順についての説明ができる。					学習成果	文字列の代入について説明できる。			
	予習復習の内容	プログラミングの手順について調べておく。					予習復習の内容	文字列の代入について調べておく。			
3 回	授業内容	変数と値				実習課題3 (配列)	18回	授業内容	変数のアドレス		
	学習成果	変数と値を説明できる。						学習成果	変数のアドレスについて説明できる。		
	予習復習の内容	変数と値について調べておく。						予習復習の内容	変数のアドレスについて調べておく。		
4 回	授業内容	データ型					実習課題4 (クラス)	19回	授業内容	クラスの基本	
	学習成果	データ型について説明できる。							学習成果	クラスの基本について説明できる。	
	予習復習の内容	データ型について調べておく。							予習復習の内容	クラスの基本 について調べておく。	
5 回	授業内容	演算子						実習課題5 (インターフェイス)	20回	授業内容	クラスの機能
	学習成果	演算子について説明できる。								学習成果	クラスの機能について説明できる。
	予習復習の内容	演算子について調べておく。								予習復習の内容	クラスの機能について調べておく。
6 回	授業内容	IF 文		実習課題5 (インターフェイス)					21回	授業内容	クラスの利用
	学習成果	IF 文について説明できる。								学習成果	クラスの利用について説明できる。
	予習復習の内容	IF 文について調べておく。								予習復習の内容	クラスの利用について調べておく。
7 回	授業内容	Switch 文			実習課題5 (インターフェイス)				22回	授業内容	新しいクラス
	学習成果	Switch 文について説明できる。								学習成果	新しいクラスについて説明できる。
	予習復習の内容	Switch 文について調べておく。								予習復習の内容	新しいクラスについて調べておく。
8 回	授業内容	While 文				実習課題5 (インターフェイス)			23回	授業内容	インターフェイス
	学習成果	While について説明できる。								学習成果	インターフェイスについて説明できる。
	予習復習の内容	While について調べておく。								予習復習の内容	インターフェイスについて調べておく。
9 回	授業内容	Do～While 文					実習課題5 (インターフェイス)		24回	授業内容	スレッド
	学習成果	Do～While 文について説明ができる。								学習成果	スレッドについて説明できる。
	予習復習の内容	Do～While 文について調べておく。								予習復習の内容	スレッドについて調べておく。
10回	授業内容	For 文						実習課題5 (インターフェイス)	25回	授業内容	入出力処理
	学習成果	For 文について説明できる。								学習成果	入出力処理について説明できる。
	予習復習の内容	For 文について調べておく。								予習復習の内容	入出力処理について調べておく。
11回	授業内容	関数の定義		実習課題5 (インターフェイス)					26回	授業内容	例外処理
	学習成果	関数の定義について説明できる。								学習成果	例外処理について説明できる。
	予習復習の内容	関数の定義について調べておく。								予習復習の内容	例外処理について調べておく。
12回	授業内容	引数			実習課題5 (インターフェイス)				27回	授業内容	グラフィック
	学習成果	引数について説明できる。								学習成果	グラフィックについて説明できる。
	予習復習の内容	引数について調べておく。								予習復習の内容	グラフィックについて調べておく。
13回	授業内容	配列				実習課題5 (インターフェイス)			28回	授業内容	プログラム開発
	学習成果	配列の特徴について説明できる。								学習成果	プログラム開発について説明できる。
	予習復習の内容	配列の特徴について調べておく。								予習復習の内容	プログラム開発について調べておく。
14回	授業内容	配列の初期化					実習課題5 (インターフェイス)		29回	授業内容	大規模システム開発
	学習成果	配列の初期化について説明できる。								学習成果	大規模システム開発について説明できる。
	予習復習の内容	配列の初期化について調べておく。								予習復習の内容	大規模システム開発について調べておく。
15回	授業内容	多次元配列						実習課題5 (インターフェイス)	30回	授業内容	アプリケーション開発
	学習成果	多次元配列について説明できる。								学習成果	アプリケーション開発について説明できる。
	予習復習の内容	多次元配列について調べておく。								予習復習の内容	アプリケーション開発について調べておく。

科目名	マルチメディア演習 (2 DCG)				担当者	ムラカミコウジ 村上航士						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。										
専門的 学習成果	①	制作現場で最も使用されている、Illustrator と Photoshop を使用することができる。										
	②	WEB で使用できるアイコンやロゴなどの制作ができる。										
	③	制作や制作物を通して、クライアントやユーザーとコミュニケーションができる。										
汎用的 学習成果	(1)	作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	制作の流れと作成方法を学習することで、広報宣伝活動などに役立てる事ができる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(3)	デザイン的な思考と企画開発力を育てることができる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	Adobe 社のアプリケーション Illustrator と Photoshop の基本操作を通して、WEB や DTP で使われるロゴやアイコンやフライヤーといった、様々な表現の制作過程と方法を学習する。画像の補正や加工・合成、テキストのフォント選択やアレンジなど、目的に合わせたスキルを用いることで自分のアイデアを正しく伝えることができる。そのためには多くのデザインに触れ、自分のやりたいアイデアを蓄えることも重要となる。授業内では優れたデザインを紹介し、実例からどのようなスキルが使われているかも学んでいく。最終課題では、画像とテキストを組み合わせたカードを制作し、アイデアを形にする楽しさと難しさを体験して締めくくる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。								
	平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的評価①で評価を行う。 (2)は専門的評価①～③で評価を行う。 (3)は専門的評価③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
	ピクセルハウス		『世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書』					技術評論社				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
	石川洋平 / 清水健次 / 堀内良太		『Illustrator よくばり入門』					インプレス				
	senatsu		『Photoshop よくばり入門』					インプレス				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週2時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。										

授業計画		学習成果の評価	授業計画		学習成果の評価		
1回	授業内容	ガイダンス、デザインにおける各アプリケーションの使い分け	実習課題1	16回	授業内容	Illustrator の基礎知識と環境設定	実習課題4 (デザインの提出)
	学習成果	Illustrator と Photoshop の特性を理解する。			学習成果	環境設定やワークスペースを理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、アプリケーションの特性などを確認する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、Illustrator の環境を確認する。	
2回	授業内容	Photoshop の基礎知識と環境設定		17回	授業内容	図形の描画 -1	
	学習成果	環境設定やワークスペース、カラーモードを理解する。			学習成果	図形やペンツールについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、Photoshop の特性と環境を確認する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、図形などの作成と応用について確認する。	
3回	授業内容	レイヤーの基本操作		18回	授業内容	図形の描画 -2	
	学習成果	レイヤーという概念を理解する。			学習成果	フリーハンド系ツールやトレースについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、レイヤーの仕組みを確認する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、自在に描画できるよう復習しておくこと。	
4回	授業内容	色調補正と調整レイヤー		19回	授業内容	オブジェクトの選択と変形 -1	
	学習成果	色調補正の基礎知識を理解する。			学習成果	選択ツールと変形を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、色調補正の仕組みと種類を確認する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、自在に変形できるよう復習すること。	
5回	授業内容	選択範囲の操作		20回	授業内容	オブジェクトの選択と変形 -2	
	学習成果	選択範囲の基本を理解する。			学習成果	選択ツールと変形を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、選択範囲を自在に指定できるよう確認する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、自在に変形できるよう復習すること。	
6回	授業内容	色の指定とペイント	21回	授業内容	課題制作 2		
	学習成果	色の設定やペイントツールについて理解する。		学習成果	アナログデータをデジタルデータに書き起こすことができる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、色の指定やペイントツールを確認する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、効率よく変換できるよう復習すること。		
7回	授業内容	レイヤーマスク	22回	授業内容	色の設定		
	学習成果	レイヤーマスクの設定を理解する。		学習成果	色の設定、グラデーションやパターンについて理解する。		
	予習復習の内容	とても重要な箇所なので繰り返し学習すること。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、不明な箇所は復習しておくこと。		
8回	授業内容	文字と図形	23回	授業内容	オブジェクトの編集と合成		
	学習成果	文字やパスの仕組みについて理解する。		学習成果	オブジェクトを効率的に編集できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、文字とパスの仕組みについて理解する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、オブジェクトの編集について確認する。		
9回	授業内容	画像の修正	24回	授業内容	線の設定		
	学習成果	レタッチ機能について理解する。		学習成果	線とブラシの設定について理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、補正の考え方を確認する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、線とブラシの設定について確認する。		
10回	授業内容	フィルターとレイヤースタイル	25回	授業内容	文字の編集とフォント		
	学習成果	フィルターやレイヤースタイルの特性を理解する。		学習成果	文字のルールやフォントの種類について理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、フィルターの仕組みと効果を確認する。		予習復習の内容	普段目にする広告のフォントやルールなどを読み解くこと。		
11回	授業内容	写真補正の応用 -1	26回	授業内容	そのほかの機能		
	学習成果	これまで学習した機能を組み合わせ、応用問題に取り組む。		学習成果	新機能や便利な機能について理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、補正目的とその手法を考える。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、最新情報の入手場所などを確認しておく。		
12回	授業内容	写真補正の応用 -2	27回	授業内容	総合演習		
	学習成果	これまで学習した機能を組み合わせ、応用問題に取り組む。		学習成果	目的に合わせた印刷物のデータが作成できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、補正目的とその手法を考える。		予習復習の内容	カードの制作を通してこれまで学習した内容を確認する。		
13回	授業内容	総合演習	28回	授業内容	総合演習		
	学習成果	Web サイトに掲載するバナー広告の制作		学習成果	目的に合わせた印刷物のデータが作成できる。		
	予習復習の内容	バナー制作を通してこれまで学習した内容を確認する。			予習復習の内容	カードの制作を通してこれまで学習した内容を確認する。	
14回	授業内容	総合演習	29回	授業内容	総合演習		
	学習成果	Web サイトに掲載するバナー広告の制作		学習成果	目的に合わせた印刷物のデータが作成できる。		
	予習復習の内容	バナー制作を通してこれまで学習した内容を確認する。		予習復習の内容	カードの制作を通してこれまで学習した内容を確認する。		
15回	授業内容	まとめ	実習課題3 (イラストの提出)	30回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。			学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。	
	予習復習の内容	課題の講評とまとめを振り返り、自分の課題を発見する。			予習復習の内容	課題の講評とまとめを振り返り、自分の課題を発見する。	

科目名	AI 概論				担当者	イワナマサノリ 岩 瀬 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	ディープラーニング G 検定及び AI 検定に合格できる。										
	②	人工知能 (AI) の歴史と動向を説明できる。										
	③	人工知能分野の問題について説明できる。										
	④	機械学習の具体的手法を説明できる。										
	⑤	人工知能 (AI) の手法を説明できる。										
	⑥	人工知能 (AI) の研究分野について説明できる。										
	⑦	人工知能 (AI) の技術を事業に活用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	ディープラーニング G 検定又は AI 検定に合格し、AI 技術者としての職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	問題解決のために AI 技術を利用することができる。(専門的学習成果③に関連)										
	(3)	コンピュータ技術と融合することにより汎用的な成果を上げることができる。(専門的学習成果④に関連)										
	(4)	事業活動の中で AI 技術の活用分野を見つけ出し、社会に役立つことができる。(専門的学習成果⑥⑦に関連)										
授業概要	現在は第3次 AI ブームと呼ばれている。最初に人工知能 (AI) の歴史を学び、なぜ今第3次 AI ブームなのかを理解する。次に、現在注目を浴びているディープラーニングの概要と手法を学ぶ。ディープラーニングは汎用技術の一つと呼ばれている。この技術は、発明や発見が世界全体に影響を与える可能性がある技術のことである。ディープラーニングが実現できるようになった背景にはデータ量が増え、それを処理するコンピュータの性能が向上した結果でもある。続いて、現在ディープラーニングの技術がどのような分野で活用されているのかを理解し、今後どのような分野に活用できるのかを模索し、応用する方法を理解する。最後に、人工知能を取り巻く法律、倫理などについて講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	5回ごとに小テストを3回実施し、各10点満点で評価を行う。								
汎用的 学習成果	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	吉田雅裕、岡嶋裕史		『はじめての AI リテラシー』				技術評論社					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストを読んでおくこと。(予習：週2時間程度) 板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。(復習：週2時間程度) ②5回ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	人工知能 (AI) について	第1回～第5回の小テスト
	学習成果	人工知能 (AI) の定義や歴史について説明できる。	
予習復習 の内容	テキストの第1章を読んで調べておく。		
	授業内容	人工知能をめぐる動向	
2回	学習成果	探索・推論について、簡単な手法を説明できる。	
	予習復習 の内容	テキストの第2章を読んで調べておく。	
3回	授業内容	人工知能 (AI) の問題	
	学習成果	人工知能分野の問題点について説明できる。	
予習復習 の内容	テキストの第3章を読んで調べておく。		
	授業内容	機械学習の手法	
4回	学習成果	教師あり学習と教師なし学習について説明できる。	
	予習復習 の内容	テキストの第4章を読んで調べておく。	
5回	授業内容	AI 技術の概要	
	学習成果	ニューラルネットワークとディープラーニングについて説明できる。	
予習復習 の内容	テキストの第5章を読んで調べておく。		
	授業内容	AI 技術の概要②	
6回	学習成果	オートエンコーダ、ファインチューニングについて説明できる。	
	予習復習 の内容	オートエンコーダ、ファインチューニングについて調べておく。	
7回	授業内容	CPU と GPU	
	学習成果	CPU と GPU、および GPGPU について説明できる。	
予習復習 の内容	テキストの第7章を読んで調べておく。		
	授業内容	情報セキュリティの基礎	
8回	学習成果	情報セキュリティについて説明できる。	
	予習復習 の内容	情報セキュリティについて調べておく。	
9回	授業内容	統計と数学の基本	
	学習成果	AI に必要な統計と数学を説明できる。	
予習復習 の内容	テキストの第9章を読んでおく。		
	授業内容	AI とアルゴリズム	
10回	学習成果	AI とアルゴリズムについて説明できる。	
	予習復習 の内容	テキストの第10章を読んでおく。	
11回	授業内容	データの構造とプログラミング	
	学習成果	データの構造とプログラミングについて説明できる。	
予習復習 の内容	テキストの第11章を読んでおく。		
	授業内容	画像認識	
12回	学習成果	画像認識について説明できる。	
	予習復習 の内容	画像認識について調べておく。	
13回	授業内容	自然言語処理	
	学習成果	自然言語処理について説明できる。	
予習復習 の内容	自然言語処理について調べておく。		
	授業内容	音声認識	
14回	学習成果	音声認識について説明できる。	
	予習復習 の内容	音声認識について調べておく。	
15回	授業内容	人工知能の法律・倫理	
	学習成果	人工知能関連の法律について説明できる。	
予習復習 の内容	人工知能関連の法律について調べておく。		
	第11回～第15回の小テスト		

科目名	データサイエンス基礎論				担当者	岩 淵 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	統計検定3級及び2級に合格できる。										
	②	データ分析の基礎知識を論じることができる。										
	③	観測値の標準化について説明できる。										
	④	確率の基本的な性質について説明できる。										
	⑤	標本調査について説明できる。										
	⑥	ビッグデータの収集法と調査について説明できる。										
	⑦	ビッグデータの分析について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	統計検定に合格し、職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	統計的な思考を身に付け、情報処理分野や人工知能分野に役立つことができる。(専門的学習成果⑥⑦に関連)										
	(3)	統計的問題解決能力を身に付け、実際の問題解決に生かすことができる。(専門的学習成果⑤に関連)										
	(4)	多くの分野において、信頼できるデータの収集と分析を行い、合理的な解決方法ができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	情報社会において最も必要性のある学問として統計学があげられる。統計的思考の重要性を確認しながら、人工知能で扱うデータ処理やビッグデータの取り扱い方法についてのデータ分析法を学ぶ。また、統計グラフの種類や特徴について理解する。さらに、観測値の処理方法や相関関係について理解し、確率の基本的な手法について学ぶ。問題解決のためのプロセスと、実験と調査の計画法や、データの評価法と解釈法を学ぶ。その後、統計検定の合格のための対策を行う。統計検定3級と2級対策を実施し、確実にスキルアップの向上を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	小テストを3回実施し、各10点満点で評価する。								
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果⑥⑦で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う。 (4) は専門的学習成果③④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
	日本統計学会	日本統計学会公式認定 統計検定3級対応『データの分析』							東京図書			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストをよく読んでおくこと。(予習：週2時間程度)板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。(復習：週2時間程度) ②5回ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	調査項目の種類と集計	
	学習成果	調査項目の種類と集計について説明できる。	
	予習復習の内容	調査項目の種類と集計について調べておく。	
2回	授業内容	グラフの種類と特徴	
	学習成果	グラフの種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	グラフの種類と特徴について調べておく。	
3回	授業内容	時系列データの特徴	
	学習成果	時系列データの特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	時系列データの特徴について調べておく。	
4回	授業内容	度数分布とヒストグラム	
	学習成果	度数分布とヒストグラムについて説明できる。	
	予習復習の内容	度数分布とヒストグラムについて調べておく。	
5回	授業内容	5数要約と箱ひげ図	
	学習成果	5数要約と箱ひげ図について説明できる。	
	予習復習の内容	5数要約と箱ひげ図について調べておく。	
6回	授業内容	分散と標準偏差	
	学習成果	分散と標準偏差について説明できる。	
	予習復習の内容	分散と標準偏差について調べておく。	
7回	授業内容	相関と散布図	
	学習成果	相関と散布図について説明できる。	
	予習復習の内容	相関と散布図について調べておく。	
8回	授業内容	相関係数	
	学習成果	相関係数について説明できる。	
	予習復習の内容	相関係数について調べておく。	
9回	授業内容	確率	
	学習成果	確率について説明できる。	
	予習復習の内容	確率について調べておく。	
10回	授業内容	標本調査	
	学習成果	標本調査について説明できる。	
	予習復習の内容	標本調査について調べておく。	
11回	授業内容	PPDAC サイクル	
	学習成果	PPDAC サイクルについて説明できる。	
	予習復習の内容	PPDAC サイクルについて調べておく。	
12回	授業内容	実験計画法	
	学習成果	実験計画法について説明できる。	
	予習復習の内容	実験計画法について調べておく。	
13回	授業内容	ビッグデータの収集と分析	
	学習成果	ビッグデータの収集と分析について説明できる。	
	予習復習の内容	ビッグデータの収集と分析について調べておく。	
14回	授業内容	統計検定3級対策	
	学習成果	統計検定3級問題について説明できる。	
	予習復習の内容	統計検定3級問題について調べておく。	
15回	授業内容	統計検定2級対策	
	学習成果	統計検定2級問題について説明できる。	
	予習復習の内容	統計検定2級問題について調べておく。	

科目名	Web デザイン基礎				担当者	村上航士						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。											
専門的 学習成果	①	Web オーサリングツールの基本概念が説明できる										
	②	Web オーサリングツールの基本操作ができる										
	③	小規模なウェブサイトが制作できる										
汎用的 学習成果	(1)	オーサリングツールでの作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	サイト公開や管理をすることで、広報宣伝活動などに役立てる事ができる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(3)	オリジナルコンテンツの開発を通して、企画開発力を育てることができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	Microsoft 社のアプリケーション「Visual Studio Code」を使い、オーサリングツールの基本操作とサイト制作の基本を習得する。前半は基本操作を、後半では基本をベースによく使われる実践的なスキルを習得していく。簡単なページの制作を繰り返すことで、知識とスキルを結び付けていく。最後の課題制作では、それぞれ小規模の Web サイトを企画し、制作から公開までの一連を体験する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。								
		平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的評価①で評価を行う。 (2)は専門的評価①～③で評価を行う。 (3)は専門的評価②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	竹内直人、竹内留美	『これだけで基本がしっかり身につく HTML/CSS & Web デザイン』				翔泳社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	服部雄樹	『Web デザイン 見るだけノート』				宝島社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週2時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、アプリケーションの基礎知識	実習課題1 (WEBサイトの提出)
	学習成果	制作環境を確認し、セットアップできる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、アプリケーションの用語などを確認する。	
2回	授業内容	HTMLの基本的学習	
	学習成果	マークアップとは何かを理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、WEBサイト制作の流れとHTMLの仕組みを確認する。	
3回	授業内容	CSSの基本的学習	
	学習成果	CSSの書き方を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、CSSの仕組みについて確認する。	
4回	授業内容	2カラムページの作成-1	
	学習成果	2カラムページのHTMLを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、使用したHTMLタグについて確認する。	
5回	授業内容	2カラムページの作成-2	
	学習成果	2カラムページのCSSを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、使用したセレクタとCSSについて確認する。	
6回	授業内容	1カラムページの作成-1	
	学習成果	複雑な構造のHTMLを作成できる。	
	予習復習の内容	マークアップについて予習・復習をしっかりとしておくこと。	
7回	授業内容	1カラムページの作成-2	
	学習成果	新しいCSSプロパティを学び、表現の幅を広げられる。	
	予習復習の内容	多くのCSSプロパティが出るので、復習しておくこと。	
8回	授業内容	1カラムページの作成-3	
	学習成果	新しいCSSプロパティを学び、表現の幅を広げられる。	
	予習復習の内容	多くのCSSプロパティが出るので、予習復習しておくこと。	
9回	授業内容	1カラムページの作成-4	実習課題2 (WEBサイトの提出)
	学習成果	CSSアニメーションとレスポンスデザインについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、新しく出た用語について確認する。	
10回	授業内容	制作の流れとWebデザインの基本	
	学習成果	レイアウトや色彩など、Webデザインの基本を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、デザインの基本について確認する。	
11回	授業内容	レストランサイトの装飾-1	
	学習成果	複数ページのスマートフォン用サイトを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コーディングやプロパティについて確認しておく。	
12回	授業内容	レストランサイトの装飾-2	
	学習成果	複数ページのスマートフォン用サイトを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コーディングやプロパティについて確認しておく。	
13回	授業内容	レストランサイトの装飾-3	
	学習成果	複数ページのパソコン用サイトを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コーディングやプロパティについて確認しておく。	
14回	授業内容	レストランサイトの装飾-4	実習課題3 (WEBサイトの提出)
	学習成果	複数ページのパソコン用サイトを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コーディングやプロパティについて確認しておく。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEBサイト制作の理解を深める。	

科目名	Web デザイン応用				担当者	村 上 航 士						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	実習	学年	1 年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。										
専門的 学習成果	①	Web デザインの基礎を理解し、ワイヤーフレームを作成できる										
	②	デザインツールの基礎を理解し、アイデアを形にすることができる										
	③	デザインの目的と表現方法を説明できる										
汎用的 学習成果	(1)	ワイヤーフレームの構造と作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(2)	情報を整理し分類することで、広報宣伝活動などに役立てる事ができる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(3)	デザインの目的を明確に制作する事で、問題解決に向けた提案ができる。(専門的学習成果②～③に関連)										
授業概要	情報をまとめ、整理し発信することはビジネスの現場で必須である。この授業では、Web サイトを制作していく上で欠かせないワイヤーフレームの作成方法を学習していく。同時に見やすいデザインや配色など、デザインの基礎知識も身につけていく。ユーザー(閲覧者)を意識し情報の整理を学ぶことで、情報伝達の本質を理解していく。「誰のために、何を使って、どう表現するか」を意識することで、ビジネスの現場でも求められる、提案力を鍛える事ができる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。								
		平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的評価①～③で評価を行う。 (2)は専門的評価①～③で評価を行う。 (3)は専門的評価②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	阿部文人、今聖菜、田口冬菜、中川小雪	『これからはじめる Figma Web・UI デザイン入門』				マイナビ出版						
	松下絵梨	『Adobe XD ではじめる Web デザイン&プロトタイプینگ』				翔泳社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	伊東庄平、益子貴寛、久保知己、宮田優希、伊藤由暁	『Web デザインの基本 きちんと入門』				SB クリエイティブ						
	①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週2時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。									

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	ガイダンス、アプリケーションの基礎知識-1	
	学習成果	使用するアプリケーションの準備を行う。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、使用するツールの用語などを確認する。	
2 回	授業内容	アプリケーションの基礎知識-2	
	学習成果	ツールやコンポーネントなど、アプリケーションの基本を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、使用するツールの用語などを確認する。	
3 回	授業内容	デザイン制作実践-1	
	学習成果	シンプルなサイトを作成しながら、Web デザインの流れを体験する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
4 回	授業内容	デザイン制作実践-2	
	学習成果	シンプルなサイトを作成しながら、Web デザインの流れを体験する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
5 回	授業内容	デザイン制作実践-3	
	学習成果	シンプルなサイトを作成しながら、Web デザインの流れを体験する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
6 回	授業内容	デザイン制作応用-1	
	学習成果	コーポレートサイトを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
7 回	授業内容	デザイン制作応用-2	
	学習成果	コーポレートサイトを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
8 回	授業内容	デザイン制作応用-3	
	学習成果	インテリア EC サイトを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
9 回	授業内容	デザイン制作応用-4	
	学習成果	インテリア EC サイトを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
10 回	授業内容	デザイン制作応用-5	
	学習成果	レシピアプリを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
11 回	授業内容	デザイン制作応用-6	
	学習成果	マルチデバイス対応の基本を理解し、レスポンシブデザインを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
12 回	授業内容	総合演習	
	学習成果	複合ページの WEB デザインを企画し作成する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイトを完成させる。	
13 回	授業内容	総合演習	
	学習成果	複合ページの WEB デザインを企画し作成する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイトを完成させる。	
14 回	授業内容	総合演習	
	学習成果	複合ページの WEB デザインを企画し作成する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイトを完成させる。	
15 回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイト制作の理解を深める。	

科目名	動画編集				担当者	村上航士						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。										
専門的 学習成果	①	動画、ノンリニア編集の概要を理解する										
	②	基礎知識とスキルで、動画制作のプロセスが説明できる										
	③	短時間のコンテンツが制作できる										
汎用的 学習成果	(1)	オーサリングツールでの作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	サイト公開や管理をすることで、広報宣伝活動などに役立てる事ができる。(専門的学習成果③に関連)										
	(3)	オリジナルコンテンツの開発を通して、企画開発力を育てることができる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	Adobe社のアプリケーション Premiere Proの基本操作を通して、ビデオカメラやスマートフォンからの素材の取り込み、動画の並べ替えや不要部分の削除、特殊効果の設定、文字や音楽の挿入など、基本的な編集加工を習得する。また、DVDやBlu-ray ディスクへの保存やインターネット配信など、メディアに合わせた形式の理解や出力を行うことで、動画編集の一連の流れを実習する。最後の課題制作では、企画から撮影・編集までを行い、ショートムービーを制作する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。								
		平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的評価①で評価を行う。 (2)は専門的評価③で評価を行う。 (3)は専門的評価②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			『さわる、楽しむ、理解する Premiere Pro 入門』				技術評論社					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週2時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、動画編集の基礎知識	
	学習成果	動画編集の流れや動画形式を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、動画の用語などを確認する。	
	授業内容	動画編集の準備と基本操作	
2回	学習成果	素材の読み込みやワークスペースを理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、Premiere Pro の設定を確認する。	
3回	授業内容	動画編集の基本-1	
	学習成果	作例を通してカット編集と音調整の基本を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、用語などを確認する。	
	授業内容	動画編集の基本-2	
4回	学習成果	作例を通してカット編集と音調整の基本を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、用語などを確認する。	
5回	授業内容	テロップの基本	
	学習成果	文字情報の扱いについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、用語などを確認する。	
	授業内容	品質を上げるための演出-1	
6回	学習成果	エフェクトや色調補正などを用いて、映像のクオリティを調整できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、動画のさまざまな表現方法を確認する。	
7回	授業内容	品質を上げるための演出-2	
	学習成果	エフェクトや色調補正などを用いて、映像のクオリティを調整できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、動画のさまざまな表現方法を確認する。	
	授業内容	品質を上げるための演出-3	
8回	学習成果	エフェクトや色調補正などを用いて、映像のクオリティを調整できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、動画のさまざまな表現方法を確認する。	
9回	授業内容	品質を上げるための音質調整	
	学習成果	音声調整や効果音などを理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、音声の調整機能について確認する。	
	授業内容	効率を上げるテクニック	
10回	学習成果	ショートカットキーなど、効率を上げるテクニックを理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ショートカットを確認する。	
11回	授業内容	総合演習（企画と撮影準備）	
	学習成果	Premiere Pro を使用し、ショートムービーを作成する。	
	予習復習の内容	ショートムービーの制作を通して、これまで学習した内容を確認する。	
	授業内容	総合演習（撮影）	
12回	学習成果	Premiere Pro を使用し、ショートムービーを作成する。	
	予習復習の内容	ショートムービーの制作を通して、これまで学習した内容を確認する。	
13回	授業内容	総合演習（編集）	
	学習成果	Premiere Pro を使用し、ショートムービーを作成する。	
	予習復習の内容	ショートムービーの制作を通して、これまで学習した内容を確認する。	
	授業内容	総合演習（編集～書き出し）	
14回	学習成果	Premiere Pro を使用し、ショートムービーを作成する。	
	予習復習の内容	ショートムービーの制作を通して、これまで学習した内容を確認する。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、動画編集の理解を深める。	

科目名	生涯学習概論				担当者	ナガノ アツシ 永野 篤						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスパワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的 学習成果	①	生涯学習の歴史と理念を省察できる。										
	②	関連施設の運營業務のについて説明できる。										
	③	関係施設の担当の役割について解説できる。										
	④	地域の関連施設の視察を基に生涯学習の課題が見出せる。										
汎用的 学習成果	(1)	生涯学習の概要を学ぶことを通じて社会的・職業的自立に必要な知識を習得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	生涯学習の仕組みを学び、公的関連施設の機能を理解、その役割と機能について解説できる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	習得した専門的知識や知見を活用して地域の生涯学習システムの向上に貢献することができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	高齢化が進み、ライフスタイルが多様化する中、生涯学習への関心が高まっている。生涯学習の歴史と理論を学び、関連施設の取り組みと専門職の役割を調査し、理解を深める。司書・公務員として市民の期待に応えうる今後の生涯学習論、生涯学習施設について省察する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	5回実施し、各回20%を配点する。								
		小テスト	30	5回実施し、各回20%を配点する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	田中雅文他	『テキスト生涯学習 学びがつむぐ新しい社会』				学芸社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	堀薫夫／三輪健二	『生涯学習と自己実現』				放送大学教育振興会						
	近畿大学	『生涯学習概論』				樹村房						
	朝比奈大作	『図書館員のための生涯学習概論』				日本図書館協会						
	石井敦	『日本近代公共図書館の研究』				日本図書館協会						
	ポール・ラングラン著 ／波多野完治訳	『生涯教育入門』				全日本社会教育連合会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①司書資格取得及び公務員を目指す者必修。生涯学習施設の学外研究・調査は、生涯学習施設と調整のうえ土曜日に実施する予定である。教科書・配布資料の指定された箇所を熟読し、理解し、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと(予習：週2時間程度)。課題に対しては、随時フィードバックを行うので、理解不足の点や錯誤した箇所について、十分に振り返りを行うこと。(復習：週2時間程度) ②課題に対しては、随時フィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	図書館と生涯学習論のかかわり	授業内容の適切な理解確認のために、小テストを行う。
	学習成果	生涯学習概論が、司書資格の必須科目である意味・理由について説明できる。	
	予習復習の内容	司書、学芸員、社会教育主事の役割、図書館の自由について調査する。	
2回	授業内容	図書館の自由について	授業内容の理解を深めるために、レポートが課される。
	学習成果	図書館の自由の起源と内容、そして、生涯学習との関わりについて説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の自由の広まりについて調査する。	
3回	授業内容	生涯学習の起源と近代における展開と変遷	授業内容の適切な理解確認のために、小テストを行う。
	学習成果	生涯学習という考え方がどのようにして誕生したか、および、近代における変遷について説明できる。	
	予習復習の内容	古代ローマの哲学や、第一次・第二次世界大戦の歴史と惨状、冷戦時代の世界の状況について調査する。	
4回	授業内容	生涯学習施設としての図書館の役割	
	学習成果	図書館の生涯学習施設としての、思想と機能について理解を深めた上で、説明できる。	
	予習復習の内容	視察予定の図書館について事前調査する。	
5回	授業内容	生涯学習施設としての博物館の役割	
	学習成果	博物館の生涯学習施設としての、思想と機能について理解を深めた上で、説明できる。	
	予習復習の内容	視察予定の博物館について事前調査する。	
6回	授業内容	生涯学習施設としての生涯学習支援センターの役割	授業内容の理解を深めるために、レポートが課される。
	学習成果	生涯学習支援センターの、生涯学習施設としての、思想と機能について理解を深めた上で、説明できる。	
	予習復習の内容	視察予定の生涯学習支援センターについて事前調査する。	
7回	授業内容	文部科学省と生涯学習	
	学習成果	日本における生涯学習の進展における文部科学省の足跡と現状について理解を深めた上で、解説できる。	
	予習復習の内容	文部科学省の部署と仕組みについて調査する。	
8回	授業内容	生涯学習の理念と理論	授業内容の適切な理解確認のために、小テストを行う。
	学習成果	代表的な生涯学習論の理念と理論について、区別して説明ができる。	
	予習復習の内容	各生涯学習理論について、精読する。	
9回	授業内容	人間の発達段階における課題と生涯学習	授業内容の適切な理解確認のために、小テストを行う。
	学習成果	人間の発達段階についての諸説を踏まえ、生涯学習のあり方について説明できる。	
	予習復習の内容	人間の発達段階理論の諸説について、比較し検討を行う。	
10回	授業内容	自己実現と生涯学習	授業内容の適切な理解確認のために、小テストを行う。
	学習成果	代表的な自己実現にかかる諸説を踏まえ、生涯学習のあり方について説明できる。	
	予習復習の内容	自己実現理論の諸説について、比較し検討を行う。	
11回	授業内容	教育制度と生涯学習	授業内容の理解を深めるために、レポートが課される。
	学習成果	公的教育制度の歴史と役割と、生涯学習を比較し、教育のあり方について論じることができる。	
	予習復習の内容	教育制度の歴史について調査する。	
12回	授業内容	メディアリテラシーと生涯学習	
	学習成果	社会人として、現実世界の情報をどのように収集し、受容し、理解していくことが適切かについて論じることができる。	
	予習復習の内容	メディア情報の真正性(オーセンティシティ)について、検討する。	
13回	授業内容	生涯学習機会の推進	授業内容の理解を深めるために、レポートが課される。
	学習成果	各種生涯学習施設の状況、個人の生涯学習のとらえ方を踏まえ、今後どのような生涯学習の機会が提供されるべきかについて論じることができる。	
	予習復習の内容	視察した各種生涯学習支援施設について、総括する。	
14回	授業内容	ネットワーク社会における生涯学習の進展	
	学習成果	ユビキタス化され、テクノロジカル・シンギュラリティを目前に控えた現在、生涯学習の意義について論じることができる。	
	予習復習の内容	AI・ネットワーク社会がもたらす変容について調査する。	
15回	授業内容	日本における生涯学習論の将来	授業内容の理解を深めるために、レポートが課される。
	学習成果	日本における生涯学習のあるべき姿について、授業内容・調査内容に基づいて提示することができる。	
	予習復習の内容	見識ある司書として、自らの生涯学習概論を語るために必要な知識・見識・技能について検討する。	

科目名	図書館概論				担当者	関根俊二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー(初回授業で説明)か、Eメールで行う。 sekine.shunji@seiwa.ac.jp										
専門的 学習成果	①	図書館の意義について理解でき、概要を説明できる。										
	②	図書館の歴史について理解でき、概要を説明できる。										
	③	司書の使命と責任について理解でき、概要を説明できる。										
	④	多様な図書館や図書館の類縁機関について理解し概要を説明できる。										
	⑤	図書館の課題を全体的に理解し、改善のための指針を提示できる。										
汎用的 学習成果	(1)	図書館運営の概要を学ぶことを通して、司書としての職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)										
	(2)	図書館の文化や歴史を学ぶことを通し、批判的に思考することができる。(専門的学習成果②⑤に関連)										
	(3)	図書館の課題を学ぶことを通して、問題解決の方法を提示できる。(専門的学習成果⑤に関連)										
授業概要	図書館とは何か。情報の保存と提供により私たち人類の文化を支えてきた図書館について学ぶ。司書課程で学ぶ全ての専門的な受講科目の学びに先立ち、図書館運営の全体像の概要を把握する。図書館の社会的な意義や機能、図書館の成り立ちや変遷、図書館の現在の課題やそれを改善しようとする新しい試みなどについて理解する。また、図書館の館種別の違いや類縁機関について把握し、さらに専門職としての司書の使命について理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	30	3回実施し、各回10%を配点する。3～4回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
		筆記試験	70	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②及び⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	二村健	『図書館の基礎と展望』				学文社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本図書館協会	『図書館年鑑』										
	日本図書館協会	『図書館雑誌』										
			公共図書館の発行する各種のリーフレット									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストの該当部分を読みポイントを把握した上で(計15時間)授業に臨み、日常的に司書の視点を意識しながら公共図書館・短大図書館に親しみ講義内容の理解を深めておく(計30時間)。また、小テスト・筆記試験の準備を行い(計15時間)、理解の定着に努めること。 ②小テストは授業で返却し解説を行う。筆記試験は後期の開講期に「図書館サービス論」(1年後期・担当、関根)で返却し、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	図書館の役割 ①図書館とは	小テスト(図書館の役割について)第3回に実施	
	学習成果	図書館の社会的な意義を理解し概要を説明できる。		
予習復習の内容	図書館見学を行い、専門的な用語とその実際を確認しておく。			
	授業内容	図書館の役割 ②生涯学習と図書館		
2回	学習成果	生涯学習と図書館の関係を理解し概要を説明できる。		
予習復習の内容	図書館資料で生涯学習について調べておく。			
3回	授業内容	図書館の役割 ③情報社会と図書館		
	学習成果	情報社会における図書館の意義を理解し概要を説明できる。		
予習復習の内容	情報社会における図書館の意義が理解できる。			
4回	授業内容	図書館の歴史 ①古代から中世まで		小テスト(図書館の歴史について)第6回に実施
	学習成果	中世までの世界の図書館の歴史を理解し概要を説明できる。		
予習復習の内容	百科事典を活用し関連事項の理解を深めておくこと。			
5回	授業内容	図書館の歴史 ②公共図書館の成立		
	学習成果	公共図書館の意義・歴史を理解し概要を説明できる。		
予習復習の内容	公共図書館がどう生まれたか、アメリカと日本での違いについてまとめておく。			
6回	授業内容	図書館の歴史 ③戦後の日本の図書館		
	学習成果	日本の戦後の図書館の歴史を理解し概要を説明できる。		
予習復習の内容	図書館法の特徴について整理しておく。			
7回	授業内容	図書館の歴史 ④日本の公共図書館の展開	小テスト(図書館関係法規などについて)第10回に実施	
	学習成果	「市民の図書館」までの公共図書館の取り組みを理解し概要を説明できる。		
予習復習の内容	「中小レポート」「市民の図書館」の理念と実践についてまとめておく。			
8回	授業内容	地域社会と図書館		
	学習成果	地域社会と図書館の結びつきを理解し概要を説明できる。		
予習復習の内容	図書館の見学を行い、図書館が地域に向けてどんなサービスを展開しているか確認しておく。			
9回	授業内容	図書館に関する法規など		
	学習成果	図書館関係法規を理解し概要を説明できる。		
予習復習の内容	「望ましい基準」などについて、理念と実践を調べておく。			
10回	授業内容	知的自由と図書館		
	学習成果	図書館の自由について背景と理念を理解し概要を説明できる。		
予習復習の内容	図書館の自由に係る事例について調べておくこと。			
11回	授業内容	館種別の図書館		筆記試験(全15回分の内容を問う)第15回後半に実施
	学習成果	図書館の館種ごとの違いを理解し概要を説明できる。		
予習復習の内容	国立国会図書館のホームページを開き、デジタルコレクションなどについて確認しておく。			
12回	授業内容	図書館の類縁機関・関係団体		
	学習成果	図書館の類縁機関・関係団体が理解できる。		
予習復習の内容	図書館協会について、どんな活動をしているか調べる。			
13回	授業内容	図書館の現状と課題		
	学習成果	図書館の現状・課題を理解し概要を説明できる。		
予習復習の内容	「これからの図書館像」などの図書館の今日的な取り組みを理念として理解できる。			
14回	授業内容	図書館における先進的な取り組み①全国の実践		
	学習成果	図書館の今日的な取り組みの実践について理解し概要を説明できる。		
予習復習の内容	「図書館雑誌」などで図書館の今日的な取り組みについて調べておく。			
15回	授業内容	図書館における先進的な取り組み②地域の実践		
	学習成果	図書館の今日的な取り組みの実践について理解し概要を説明できる。		
予習復習の内容	この授業の内容全体について整理・確認しておくこと。			

科目名	図書館サービス概論				担当者	関根俊二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)										
専門的 学習成果	①	図書館サービスの流れ全般について概要を理解し説明できる。										
	②	近年の図書館サービスの変化と広がりを理解し、説明できる。										
	③	基礎的な行事運営を理解し実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	図書館サービスの先進的事例の理解を通し、地域課題を理解し説明できる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	行事運営の実践を通し、課題解決能力や表現力が身につく活用できる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	生涯学習や情報化の進展に伴い、図書館に寄せられる利用者の要求はますます多様化し、高度化している。現在の図書館利用者のニーズに応えられるように、司書が行うべき各種の図書館サービスについて、利用案内、閲覧、貸出、情報提供、レファレンスサービス、集会・行事活動、利用対象別サービスなどを基本から先進的事例まで学ぶ。講義を中心とするが、一部演習的な内容も含み、図書館行事の一種であるブックトークの実践にもあたってもらう。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		筆記試験	50	第15回目の授業後半に実施し、全15回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
		発表	50	ブックトークの発表による								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果②の評価で行う。 (2) は専門的学習成果③の評価で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			印刷物等配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	小田光宏		『図書館サービス論』				日本図書館協会					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①日常的に図書館を利用し、図書館サービスの様子を観察しておくこと(15時間)。各回の授業ごとに2時間程度の時間をかけ、テキストの該当部分を読みポイントを把握しておくこと。インターネットや図書館資料を活用した講義内容関連事項などの追跡調査も必要である。また、ブックトークの発表を行うが、紹介する資料の調査・決定、発表の準備などに15時間をかける。 ②ブックトーク発表はその場で評価を伝える。筆記試験は年度内に返却を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	図書館サービスの意義	
	学習成果	図書館サービスの意義と概要について理解し説明できる。	
2回	予習復習の内容	図書館の見学を行って各種の図書館サービスに触れておく。	
	授業内容	資料提供サービス① 閲覧サービス	
3回	学習成果	閲覧サービスを機能させる諸要件を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館で閲覧・貸出サービスの諸要素を確認しておく。	
4回	授業内容	資料提供サービス② 貸出サービス	
	学習成果	貸出サービスを機能させる諸要件を理解し説明できる。	
5回	予習復習の内容	閲覧・貸出サービスについて整理しておく。	
	授業内容	資料提供サービス③ 資料提供サービスの展開	
6回	学習成果	図書館相互貸借他、資料提供サービスの展開について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	応用的な資料提供サービスについて整理しておく。	
7回	授業内容	情報提供サービス レファレンスサービスなど	
	学習成果	レファレンスサービスなどの情報提供サービスについて理解し説明できる。	
8回	予習復習の内容	事例集でレファレンスサービスなどの実際に触れておく。	
	授業内容	図書館と著作権	
9回	学習成果	図書館サービスに不可欠な著作権のルールを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	インターネットを活用しケーススタディを行う。	
10回	授業内容	利用対象に応じたサービス① 高齢者・障害者・多文化	
	学習成果	高齢者・障害者・多文化サービスについて理解し説明できる。	
11回	予習復習の内容	図書館を訪問し利用対象別のサービスの実際を確認する。	
	授業内容	利用対象に応じたサービス② 児童・ヤングアダルト	
12回	学習成果	児童・ヤングアダルトについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館を訪問し利用対象別のサービスの実際を確認する。	
13回	授業内容	多様な利用者サービス 集会・文化活動ほか	
	学習成果	集会・文化活動ほかの多様な利用者サービスについて理解し説明できる。	
14回	予習復習の内容	図書館の行事に参加し視聴する。	
	授業内容	行事展開の実践 ブックトーク	
15回	学習成果	ブックトークについて理解し実践できる。	
	予習復習の内容	ブックトークの発表に備え準備を行う。	
16回	授業内容	行事展開の実践 ブックトーク	
	学習成果	ブックトークについて理解し実践できる。	
17回	予習復習の内容	ブックトークの発表に備え準備を行う。	
	授業内容	利用者とのコミュニケーション	
18回	学習成果	利用案内や図書館ツアーについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	筆記試験に備え、これまでの授業内容全般を整理・確認しておく。	
19回	授業内容	図書館サービスの広がり	
	学習成果	先進的な図書館サービスの事例について理解し説明できる。	
20回	予習復習の内容	インターネットなどを活用して様々な先進事例に触れる。	
	授業内容	図書館サービスのマネージメント	
21回	学習成果	サービス計画の立案や業務分析について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	筆記試験に備え、これまでの授業内容全般を整理・確認しておく。	
22回	授業内容	まとめ 既習事項の整理	
	学習成果	図書館のサービス全般やサービスの新しい広がりについて理解し説明できる。	
23回	予習復習の内容	筆記試験での誤答箇所について確認する。	
	筆記試験	筆記試験(全15回分の内容を範囲とする)	

科目名	図書館情報資源概論				担当者	庄 子 隆 弘						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	図書館で扱う情報資源の種類や特徴を挙げて、説明できる。										
	②	図書館情報資源を司書、図書館員の視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げることができる。										
	③	図書館情報資源を学術的視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げることができる。										
	④	図書館情報資源を社会や地域の視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げることができる。										
	⑤	図書館情報資源を経営的視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げることができる。										
	⑥	図書館情報資源に関わる技術やツールを挙げて、説明できる。										
	⑦	図書館情報資源に関する現代の課題や解決案を議論できる。										
汎用的 学習成果	(1)	図書館情報資源の基礎的な学習スキルを身につけることで、司書、図書館員として職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①～⑥に関連)										
	(2)	図書館情報資源に関わる多様な主体への理解を深めることで、総合的な判断力を身につけ、実践につなげることができる。(専門的学習成果②～⑤に関連)										
	(3)	図書館情報資源の特性を学び、活用方法を議論することで、地域社会の課題解決や発展に積極的に貢献することができる。(専門的学習成果①⑦に関連)										
授業概要	図書館を構成する要素でも重要な「情報資源」について学ぶ。図書館＝本、と考えがちであるが、雑誌や新聞はもちろん、映画や音楽などの視聴覚メディア、CD-ROMなどの電子媒体、ネットワークを通してアクセスするデータベースなど、多種多様な「情報資源」を扱うのが現代の図書館である。こうした「情報資源」の概要を学ぶことで、司書としての基盤だけでなく、社会人としてこれから対峙するであろう様々な課題解決に役立つ知識を身につけることができる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	30	3回実施し、各回10%を配点する。3～4回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
		筆記試験	70	第15回の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回の講義内容の理解について評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②～⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①及び⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	藤原是明	『図書館情報資源概論』				ミネルヴァ書房						
		『カレントアウェアネス・ポータル』※ウェブサイト										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前に前回授業の資料を読みポイントを把握した上で(計15時間)授業に臨み、日常的に触れる短大図書館の情報資源だけでなく、近隣の公共図書館や大学図書館を利用し、スマホでアクセスする情報との相違点を意識するなど、講義内容の理解を深めておく(計30時間)。また、小テスト、筆記試験の準備を行い(計15時間)、理解の定着に努めること。 ②フィードバックとして、小テスト、筆記試験は返却し解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス：前期授業概要と授業計画の説明。図書館情報資源とは何か。	
	学習成果	授業の概要を理解、到達目標を説明することができる。	
2回	予習復習の内容	図書館を見学し、所蔵資料に触れておく。	
	授業内容	アナログ資料の種類と特徴。	
3回	学習成果	主に冊子体などのアナログ資料の特徴を挙げて、説明できる。	
	予習復習の内容	図書館で「本」以外の資料を探してみる。	
4回	授業内容	デジタル資料の種類と特徴。	
	学習成果	デジタル資料の特徴を挙げて、説明できる。	
5回	予習復習の内容	スマホまたはパソコンで、本学図書館のウェブサイトを見してみる。	
	授業内容	図書館情報資源を選ぶ。選書・配架・除籍。	
6回	学習成果	司書、図書館員の視点で、図書館資料を捉え、説明できる。	
	予習復習の内容	「選書基準 図書館」で検索した結果を見ておく。	
7回	授業内容	図書館情報資源を活用する。利用説明・展示・イベント。	
	学習成果	図書館資料を活用した取り組みについて説明できる。	
8回	予習復習の内容	本学図書館の資料を使った展示企画を考えてみる。	
	授業内容	学術資料とは何か。大学図書館、専門図書館の視点も踏まえて。	
9回	学習成果	学術資料の定義と種類を挙げて、説明できる。	
	予習復習の内容	本学図書館で、学術資料と思われる資料を1冊見つける。	
10回	授業内容	研究と図書館。学術資料を活用する。	
	学習成果	学術資料の活用例などを挙げて説明できる。	
11回	予習復習の内容	授業で学んだことを踏まえて、本学図書館で、学術資料を1冊見つける。	
	授業内容	地域と行政の情報資源。	
12回	学習成果	地域資料と行政資料の定義と種類を挙げ、説明できる。	
	予習復習の内容	本学図書館で、地域資料、行政資料と思われる資料を1冊見つける。	
13回	授業内容	マイノリティサービスのための情報資源。	
	学習成果	障がい者やLGBTといったマイノリティに関する資料を挙げ、説明できる。	
14回	予習復習の内容	「マイノリティ」の意味を図書館で調べておく。	
	授業内容	図書館情報資源の流通。	
15回	学習成果	図書館情報資源を経営的視点で捉え、流通の側面から説明できる。	
	予習復習の内容	本が図書館の棚に並ぶまでの流れを理解する。	
16回	授業内容	図書館情報資源の管理。	
	学習成果	図書館情報資源を経営的視点で捉え、管理の側面から説明できる。	
17回	予習復習の内容	図書館の棚が一杯になったらどうするか?を考えておく。	
	授業内容	情報資源へのアクセス。選書ツール、検索ツール。	
18回	学習成果	図書館情報資源にたどり着くための技術やツールを挙げて説明できる。	
	予習復習の内容	最低1回、本学図書館のOPACで蔵書検索をしておく。	
19回	授業内容	インターネットとソーシャルネットワーク。	
	学習成果	図書館情報資源とネットワークの関連を説明できる。	
20回	予習復習の内容	スマホまたはパソコンで、国立国会図書館のウェブサイトを見とく。	
	授業内容	図書館が抱える課題とその解決方法を議論する。	
21回	学習成果	図書館情報資源に関する現代の課題や解決案を議論できる。	
	予習復習の内容	議論した課題について書いてある資料を図書館で探してみる。	
22回	授業内容	社会が抱える課題とその解決方法を議論する。	
	学習成果	図書館情報資源に関する現代の課題や解決案を議論できる。	
23回	予習復習の内容	議論した課題について書いてある資料を図書館で探してみる。	
	授業内容	小テスト(図書館情報資源の種類と特徴について)を第3回に実施。	
24回	学習成果	小テスト(図書館情報資源の選書、学術資料について)を第7回に実施。	
	予習復習の内容		
25回	授業内容	小テスト(社会の中の図書館について)を第9回に実施。	
	学習成果	筆記試験(全15回分の内容を問う)第15回後半に実施。	

科目名	情報資源組織論				担当者	クマ ガイ シンイチロウ 熊 谷 慎一郎						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中以外の質問や相談は、メール又は講師控室で受付ける。										
専門的 学習成果	①	図書館情報資源の書誌コントロールについて理解し、その内容を説明できる。										
	②	効率的な情報資源の組織化について理論と知識を修得し、その技法を説明できる。										
	③	分類、目録、件名の作業ツールの構造と特性を理解し、最適な手法を選択できる。										
	④	一般的な情報取得についての知識及び書誌データの活用法を修得し、実践に結びつけることができる。										
	⑤	社会における新しいメディアの普及と、図書館で扱う情報資源の急速な変化とその対処法について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	大学における他の講義のための課題や予習のために必要な情報検索手法を身につけることができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	地域の公共図書館を自由に活用できるスキルを獲得し、幅広い教養を積むのに役立てることができる。(専門的学習成果③④に関連)										
	(3)	公共図書館を始め様々な情報機関を活用し、地域の課題解決に資する活動手段を身につけ、地域社会の発展に貢献できる。(専門的学習成果④⑤に関連)										
授業概要	図書館で扱う様々な情報資源の組織化のために必要な目録、分類作業を中心に、図書館情報資源の組織化の理論と技術について、演習科目「情報資源組織演習」に先立つ科目として、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、書誌データの活用法等の基本知識を身につけ、説明できるようになることを目的とする。また、情報を様々なメディアから自由に入手できる現代にあって、図書館利用者のための最良のアクセス環境とその仕組みについて考察する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	15	第4回授業時に第1～4回分の講義内容に基づき実施し、理解度を評価する。								
		小テスト	15	第7回授業時に第5～7回分の講義内容に基づき実施し、理解度を評価する。								
		筆記試験	70	第15回授業時後半に実施し、全15回分の講義内容の理解の程度および到達度の評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	志保田務・高鷲忠美編著、平井尊士共著		『情報資源組織法 第3版』						第一法規			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	日本図書館協会目録委員会編		『日本目録規則、1987年版改訂3版』						日本図書館協会			
	日本図書館協会分類委員会編		『日本十進分類法、新訂10版』						日本図書館協会			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前に次回講義分のテキストを読み込み予習しておくこと(計15時間)。最寄りの公共図書館を、資料整理法や利用者用検索端末の操作法に注目しながら利用してみる(15時間)。レポート、小テスト、筆記試験の準備を行い、理解の定着に努めること(30時間)。 ②課題や筆記試験については、当該授業中、または次回の講義時に解答解説および講評をとおしフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	情報資源組織化の意義と目的	
	学習成果	司書科目の中における組織化理論の役割を理解し説明できる。	
2回	予習復習の内容	インターネットを活用し公共図書館の蔵書検索に実際に検索操作をしておく。	
	授業内容	配架と目録	
3回	学習成果	図書館や大型書店における資料の配置戦略について学び説明できる。	
	予習復習の内容	最寄りの公共図書館や大型書店に出向き、資料配置に留意しながら観察する。	
4回	授業内容	主題目録法1 件名目録	
	学習成果	主題検索の方法の一つ、言葉による検索法のしくみについて説明できる。	
5回	予習復習の内容	ネット上の主要な検索エンジンについてそれぞれ特色を調べておく。	
	授業内容	主題目録法2 分類目録 書架分類と書誌分類	
6回	学習成果	主題検索の方法の一つ、「日本十進分類法」による分類検索について説明できる。	
	予習復習の内容	学問の発達や知識の分類について指示するテキストの該当部分を読んでおく。	
7回	授業内容	『日本十進分類法 新訂10版』の歴史と特色	
	学習成果	『日本十進分類法 新訂10版』の構造と理論について基本概念を説明できる。	
8回	予習復習の内容	大学図書館所蔵の『日本十進分類法 新訂10版』の内容構成について確認する。	
	授業内容	『日本十進分類法 新訂10版』の分類規程	
9回	学習成果	『日本十進分類法 新訂10版』の分類規程について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	「分類規程」について指示するテキストの該当部分を読んでおく。	
10回	授業内容	分類規程の演習	
	学習成果	『日本十進分類法 新訂10版』の分類規程について設問に答え理由を説明できる。	
11回	予習復習の内容	ミニテストの解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。	
	授業内容	『日本十進分類法 新訂10版』の補助表	
12回	学習成果	『日本十進分類法 新訂10版』の補助表について理解し説明できる	
	予習復習の内容	「補助表」について指示するテキストの該当部分を読んでおく。	
13回	授業内容	印刷資料以外の資料の分類	
	学習成果	図書以外のさまざまな情報資源の分類法について理解し説明できる。	
14回	予習復習の内容	国立国会図書館の検索サイトにアクセスし、画像や、電子資料の分類を調べてみる。	
	授業内容	書誌情報ネットワークと図書館の書誌所蔵データ	
15回	学習成果	共同で作成する総合目録データベースや市販される書誌データについて説明できる。	
	予習復習の内容	国立情報学研究所や国文学研究資料館の総合目録データベースを利用してみる。	
16回	授業内容	『日本目録規則、1987年版 改訂3版』	
	学習成果	図書館目録の歴史や『日本目録規則』の変化の歴史について説明できる。	
17回	予習復習の内容	世界史における図書館の蔵書目録の発達史について調べておく。	
	授業内容	印刷資料の目録	
18回	学習成果	図書の書誌データと所在データについて学び説明できる。	
	予習復習の内容	カード目録からコンピュータ可読目録への変化についてテキストを読んでおく。	
19回	授業内容	印刷資料以外の資料の目録	
	学習成果	図書以外のさまざまな情報資源の目録法について理解し説明できる。	
20回	予習復習の内容	図書館で扱う情報資源の種類と変化について調べておく。	
	授業内容	ネットワーク情報資源の組織化とFRBR	
21回	学習成果	オンライン資料の目録(メタデータ)と目録規則の新たな考え方について説明できる。	
	予習復習の内容	図書館における紙資料と、その他の資料の割合の変化を各自予想してみる。	
22回	授業内容	情報資源組織化の総括と筆記試験	
	学習成果	情報資源の多様化に対応する図書館における組織手法の変化を理解し説明できる。	
23回	予習復習の内容	この授業の内容全体について配付資料を含めて整理・確認しておくこと。	

科目名	児童サービス論				担当者	関根俊二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)										
専門的 学習成果	①	児童サービスの意義と内容について理解し説明できる。										
	②	年齢ごとの児童サービスについて理解し説明できる。										
	③	児童向けの資料について知識をもって説明できる。										
	④	資料と児童をつなぐ各種の技法を身につけており実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	物事を的確に説明、紹介する能力をもち実践できる。(専門的学習成果④に関連)										
	(2)	地域社会で活用できる絵本の読み聞かせやブックトークなどの技術を実践できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	児童サービスの理念・内容・意義について学び、子供を取り巻く環境や子供の発達を理解した上で、絵本、昔話、児童文学、ノンフィクション、知識の本、レファレンス資料など児童向けの資料について知識を広げていく。その知識を活用して絵本の読み聞かせ発表、ストーリーテリング発表、ブックリスト制作を行い、子供と資料を結びつける実践技術を身につける。子供を取り巻く環境や発達について、年齢層ごとのサービスの違いや地域・学校との連携などについても学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		発表	50	2回実施し各回25点を配点する。絵本の読み聞かせ及びストーリーテリングを行う。								
		課題提出	10	ブックリストを作成し提出する。								
		紹介(簡単な発表)	15	3回実施し、各回5点を配点する。絵本の紹介、昔話・児童文学の紹介、知識の本の紹介を行う。								
汎用的 学習成果	(1)	は専門的学習成果④の評価で行う。										
(2)	は専門的学習成果④の評価で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	堀川照代	『ライブラリー図書館情報学7 児童サービス論』				学芸社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	高山智津子ほか	『絵本でひろがる子どものえがお』				チャイルド社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①司書になったつもりで、できるだけ多くの絵本・児童書に接して意識的にこの分野での教養を高めておくこと(計30時間程度)。授業を復習し講義内容を理解すること(各回1時間程度)。絵本の読み聞かせやストーリーテリングの発表を行うので、これらの準備に計15時間程度必要である。 ②発表・提出物はつど評価を伝える。筆記試験は前期中に返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	図書館における児童サービスの意義	
	学習成果	児童サービスの意義について理解し説明できる。	
2回	予習復習の内容	児童サービスの意義について整理しておく。	
	授業内容	児童サービスの歴史	
3回	学習成果	児童サービスの歴史について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	児童サービスの歴史について整理しておく。	
4回	授業内容	子供の環境・発達と読書	
	学習成果	読書との関連で子供を取り巻く環境や子供の発達について理解し説明できる。	
5回	予習復習の内容	子供の環境・発達について整理しておく。	
	授業内容	児童資料の理解① 絵本	
6回	学習成果	年齢ごとの代表的絵本を知り説明できる。	
	予習復習の内容	代表的な絵本に触れておく。絵本読み聞かせ発表の準備を行う。	
7回	授業内容	絵本の読み聞かせの実践	
	学習成果	子供と本とを結びつける技法として絵本の読み聞かせを理解し実践できる。	
8回	予習復習の内容	昔話や児童文学に触れておく。	
	授業内容	児童資料の理解② 昔話・児童文学	
9回	学習成果	代表的な昔話・児童文学を知り説明できる。	
	予習復習の内容	ストーリーテリング発表の準備を行う。	
10回	授業内容	ストーリーテリングの実践	
	学習成果	子供と本とを結びつける技法としてストーリーテリングを理解し実践できる。	
11回	予習復習の内容	ストーリーテリング発表の準備を行う。	
	授業内容	ストーリーテリングの実践	
12回	学習成果	子供と本とを結びつける技法としてストーリーテリングを理解し実践できる。	
	予習復習の内容	ブックリスト作成着手	
13回	授業内容	ブックリストの作成	
	学習成果	子供と本とを結びつける技法としてブックリストを制作できる。	
14回	予習復習の内容	ブックリストを完成させる。	
	授業内容	児童資料の理解③ 知識の本など	
15回	学習成果	知識の本・レファレンス資料などについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	さまざまな知識の本に触れておく。	
16回	授業内容	児童サービスの諸活動	
	学習成果	児童サービス特有の資料提供・情報提供などについて理解し説明できる。	
17回	予習復習の内容	図書館訪問やホームページ検索で児童サービスの実際を確認しておく。	
	授業内容	乳幼児サービス	
18回	学習成果	乳幼児サービスの現状や展開について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館訪問やホームページ検索で乳幼児サービスやヤングアダルトサービスの実際を確認しておく。	
19回	授業内容	ヤングアダルトサービス	
	学習成果	ヤングアダルトサービスの現状や展開について理解できる。	
20回	予習復習の内容	筆記試験に備えて準備を行う。	
	授業内容	児童サービスの運営	
21回	学習成果	児童サービス運営の諸要件について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	筆記試験に備えて準備を行う。	
22回	授業内容	地域・学校との連携	
	学習成果	児童サービスに係る地域・学校との連携について理解し説明できる。	
23回	予習復習の内容	筆記試験の誤答箇所の見直しを行う。	

科目名	図書館情報資源特論				担当者	稲 雄 次						
区 分	選択	1	単位	授業回数	7.5	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	後期の後半
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中、講師室、e-mail ineyuji@jcom.home.ne.jp										
専門的 学習成果	①	図書館における情報資源とは何かを説明できる。										
	②	図書館において情報資源を発見する方法を説明できる。										
	③	図書館における情報資源を発見して、それを発表することができる。										
	④	図書館におけるレファレンスを説明できる。										
	⑤	図書館におけるレファレンスの利用者対応を説明できる。										
	⑥	図書館においてレファレンスをする利用者の「質問は何なのか」を論じることができる。										
	⑦	図書館情報資源を提供するレファレンスの仕方をできるようにする。										
汎用的 学習成果	(1)	図書館情報資源を学び、司書として必要な知識と技術を習得、職業的自立をできるようにする。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	図書館情報資源を学び、司書として他者理解と問題解決能力に活用できるようにする。(専門的学習成果④⑤⑥に関連)										
	(3)	図書館情報資源を学び、司書としてそれを地域社会へ貢献できるようにする。(専門的学習成果⑦に関連)										
授業概要	図書館内外の情報資源の存在を理解する。どのようにすれば情報を得ることが出来るのかの方法を学ぶ。情報資源となるツールは多元的にある。司書としての立場からは、図書館の利用者に対して、レファレンス(参考調査支援)をするための情報資源の提供をする方法を習得する。司書課程の応用科目であるので、図書館を使って実践してみる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	課題に対してレポートを提出してもらい、それについて評価を行う。								
		小テスト	30	小テストを実施し、理解度を評価する。								
	平常点	10	授業内で説明する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④⑤⑥で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
			教材としてはプリントを配布する。									
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	高田高史	『図書館で調べる』		筑摩書房								
	大串夏身・田中均	『インターネット時代のレファレンス』		日外アソシエーツ								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①平成24年から改正になった図書館法の「図書館に関する科目」を履修してからの応用科目である(予習は週4時間程度)。司書課程の司書のモデルは公共図書館であるので、宮城県図書館、仙台メディアテーク、泉図書館などを事前に利用してみる。 ②レポートや小テストなどは授業で返却して解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	図書館情報資源とレファレンス	レポート提出実施(2回)
	学習成果	図書館情報資源を理解し、説明できる。	
2回	予習復習の内容	図書館情報資源概論(1年前期)を復習しておくこと。	
	授業内容	図書、逐次刊行物、新聞紙、ミニコミ紙などから見出す情報資源	
3回	学習成果	図書、逐次刊行物、新聞紙、ミニコミ紙などから情報を取り出して説明できる。	レポート提出実施(2回)
	予習復習の内容	図書館の地域資料コーナーを調べておくこと。	
4回	授業内容	地域遺産と地域資料の情報資源支援	
	学習成果	地域遺産と地域資料の情報を理解し、説明できる。	
5回	予習復習の内容	図書館内の古典文学や歴史図書などを調べておくこと。	レポート提出実施(1回)
	授業内容	経済ビジネスの情報資源支援	
6回	学習成果	経済ビジネス情報を理解し、説明できる。	小テスト、レポート提出実施(3回)
	予習復習の内容	経済情勢やビジネス情報をテレビ、新聞などから調べておくこと。	
7回	授業内容	地域遺産と地域資料の情報資源とその実践	小テスト、レポート提出実施(3回)
	学習成果	地域遺産と地域資料の実践的解説ができる。	
8回	予習復習の内容	地域遺産と地域資料の情報資源の配布物を復習しておくこと。	小テスト、レポート提出実施(3回)
	授業内容	古典文学と歴史の情報資源とその実践	
9回	学習成果	古典文学と歴史情報の実践的解説ができる。	小テスト、レポート提出実施(3回)
	予習復習の内容	古典文学と歴史の情報資源の配布物を復習しておくこと。	
10回	授業内容	経済ビジネスの情報資源とその実践	小テスト、レポート提出実施(3回)
	学習成果	経済ビジネス情報の実践的解説ができる。	
11回	予習復習の内容	経済ビジネスの情報資源の配布物を復習しておくこと。	
	授業内容		
12回	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
14回	予習復習の内容		
	授業内容		
15回	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	図書館基礎特論				担当者	関根俊二						
区分	選択	1	単位	授業回数	7.5	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期の前半
				授業時間数	15	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)										
専門的 学習成果	①	図書館サービスの現状について事例を挙げ説明できる。										
	②	図書館の施設・設備について、その理念も含め、事例を挙げ説明できる。										
	③	図書館の広報活動について事例を挙げ説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	必要な情報を的確に収集できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	物事を論理的に考え、適切に説明できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	「これからの図書館」を追求する図書館のさまざまな試みについて、施設・設備の充実と利用者サービスの深化を学んでいく。解説で動向の概要を把握し、事例調査の上、事例発表をしてもらう。利用者サービスの一環として図書館の広報についても注目する。図書館で現在どんな広報サービスが展開されているか把握していく。授業の第8回目は補講として実施する(授業の中で連絡)。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		発表	75	事例発表を3回行う。各回25%の評価を行う。								
		授業での取り組み	25	意見の提案や質問など授業での取り組みの積極性を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②③の評価で行う。 (2)は専門的学習成果①②③の評価で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		印刷物配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
		公共図書館発行の各種の広報制作物										
	日本図書館協会	『図書館雑誌』				日本図書館協会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①日常的に公共図書館を利用し、サービスや施設・設備の実態を確認しておく。図書館ではさまざまな行事や研修会が開催されているので、これに積極的に参加する(以上で週あたり2.5時間)。事例調査と発表を3回実施するが、各回3時間程度の授業外学習が必要。 ②発表については授業で評価を伝える。										

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	オリエンテーション 図書館活動の事例紹介		図書館活動の事例発表(第3回)	
	学習成果	図書館活動をリードするいくつかの先進的事例を理解し説明できる。			
予習復習 の内容	概説部分に目を通しておく。				
	授業内容	図書館活動の事例調査			
2回	学習成果	先進的事例により図書館活動の動向を理解し説明できる。			
	予習復習 の内容	問題集の復習			
3回	授業内容	図書館活動の事例発表			
	学習成果	先進的事例により図書館活動の動向を理解し発表できる。			
予習復習 の内容	問題集の復習				
	4回	授業内容	新しい図書館施設・設備の事例紹介		新しい図書館施設・設備の事例発表(第6回)
学習成果	先進的事例により図書館施設・設備の動向について理解し説明できる。				
	予習復習 の内容	問題集の復習			
5回	授業内容	新しい図書館施設・設備の事例調査			
	学習成果	先進的事例により図書館施設・設備の動向について理解し説明できる。			
予習復習 の内容	発表の準備を行う。				
	6回	授業内容	新しい図書館施設・設備の事例発表		
学習成果	先進的事例により図書館施設・設備の動向について理解し発表できる。				
	予習復習 の内容	問題集の復習			
7回	授業内容	図書館のさまざまな広報活動の事例紹介		図書館のさまざまな広報活動の事例発表(第8回)	
	学習成果	さまざまな事例から図書館の広報活動について理解し説明できる。			
予習復習 の内容	小論文を執筆する。				
	8回	授業内容	図書館のさまざまな広報活動の事例調査と発表		
学習成果	さまざまな事例から図書館の広報活動について理解し発表できる。				
	予習復習 の内容	発表の準備を行う。			
9回	授業内容				
	学習成果				
予習復習 の内容					
	10回	授業内容			
学習成果					
	予習復習 の内容				
11回	授業内容				
	学習成果				
予習復習 の内容					
	12回	授業内容			
学習成果					
	予習復習 の内容				
13回	授業内容				
	学習成果				
予習復習 の内容					
	14回	授業内容			
学習成果					
	予習復習 の内容				
15回	授業内容				
	学習成果				
予習復習 の内容					

科目名	物語を読む				担当者	大 泉 浩 一						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に対応する。										
専門的 学習成果	①	同じ物語を一緒に読んだり音読することで「読む力」を高め、読解や表現にいかすことができるようになる。										
	②	物語の構造を知り、自ら書いてみることで「読む力」を深め、読解や表現にいかすことができるようになる。										
	③	テキストの作成を通じて、社会人にとって必要な文章作成にいかすことができるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	物語についての知識を習得し、社会的・職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	物語を「読む力」を有し、論理的思考、他者理解ができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	物語を「書く力」を有し、論理的思考、自己表現ができる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	私たちはなぜ作り話に過ぎない物語に心を揺さぶられるのだろうか。小説を中心に、児童書やマンガ、映像作品なども取り上げ、一緒に物語を読みながら、その持つ力について考える。また紹介文や物語を書くことを通じて、書く力を身につける。具体的には次の通り。教員が紹介する短い物語をグループごとに音読することで、注意深く読むことの大切さや読み手による受け取り方の違いに気づく。自らが気に入っている物語を紹介し合ったり、自ら物語を書いてみることで興味関心の幅を広げ、説明能力の向上や理解能力の向上を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	毎回簡単なレポートを課す。条件を守って書けているかで評価する。								
		課題	50	紹介文や物語を書かせる。条件を守って書けているかで評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	小川洋子・河合隼雄		『生きるとは、自分の物語をつくること』				新潮文庫					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講師による一方的な講義ではなく、一緒に読んだ物語についてディスカッションする、自分が気に入っている物語を紹介し合うなどのコミュニケーション活動が中心となる。時間外学習は、物語について図書館などで調べる、紹介する物語を選び効果的な紹介の仕方を考える、など。必要な時間は1週あたり4時間である。 ②提出されたレポートや課題に問題があれば指摘して修正を求めたり、優れた点があれば具体的に口頭で評価するなどして、読む力の向上につながるよう指導する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	物語を「楽しむ」(1) アニメーション	レポートによる
	学習成果	教員が紹介するアニメーション映画を通して、物語への関心の幅を広げる。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
	授業内容	物語を「楽しむ」(2) ショートショート	レポートによる
2回	学習成果	教員が紹介するショートショートを通して、物語への関心の幅を広げる。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
	3回	授業内容	物語を「楽しむ」(3) 漫画
3回	学習成果	教員が紹介する漫画を通して、物語への関心の幅を広げる。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
	4回	授業内容	物語を「楽しむ」(4) 童話
4回	学習成果	教員が紹介する童話を通して、物語への関心の幅を広げる。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
	5回	授業内容	物語を「楽しむ」(5) 掌編小説
5回	学習成果	教員が紹介する掌編小説を通して、物語への関心の幅を広げる。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
	6回	授業内容	「物語とは何か」を考える (1) 3分間で相互に紹介
6回	学習成果	学生自身が物語を紹介し合うことで、多様な物語に触れ、考察を深める。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
	7回	授業内容	「物語とは何か」を考える (2) 4分間で相互に紹介
7回	学習成果	学生自身が物語を紹介し合うことで、多様な物語に触れ、考察を深める。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
	8回	授業内容	「物語とは何か」を考える (3) 5分間で相互に紹介
8回	学習成果	学生自身が物語を紹介し合うことで、多様な物語に触れ、考察を深める。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
	9回	授業内容	「物語とは何か」を考える (4) 5分間で相互に紹介
9回	学習成果	学生自身が物語を紹介し合うことで、多様な物語に触れ、考察を深める。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
	10回	授業内容	「物語とは何か」を考える (5) 5分間で相互に紹介
10回	学習成果	学生自身が物語を紹介し合うことで、多様な物語に触れ、考察を深める。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
	11回	授業内容	物語を「書く」(1) 人物
11回	学習成果	書くことで登場人物の設定の重要性を学ぶ。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
	12回	授業内容	物語を「書く」(2) 展開
12回	学習成果	書くことで展開の重要性を学ぶ。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
	13回	授業内容	物語を「書く」(3) 内面描写
13回	学習成果	書くことで物語の内面描写の重要性を学ぶ。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
	14回	授業内容	物語を「書く」(4) 表現
14回	学習成果	書くことで文章表現の重要性を学ぶ。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
	15回	授業内容	まとめ
15回	学習成果	他の学生の作品を読むことで、物語についての知見を深める。	
	予習復習の内容	15回の授業を振り返り、今後の物語の読み方や自分の生き方に生かす。	

科目名	話し言葉の基礎				担当者	三 浦 貴 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	人が声を発する仕組みを理解し、大きく張りのある声が出せる。										
	②	状況に応じた言葉遣いができ、敬語を正しく使えるようになる。										
	③	言葉遣いに留まらず、表情、所作、態度を含めて、好印象を与えられるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	正しい発声発音を学び、堂々と人と関わる力をつけることを通して、社会的・職業的自立につながるができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	敬語の使い方や場面に合わせた言葉の選び方を学ぶことを通して、他者を理解し、論理的な思考で問題を解決する能力を有し、協働することができる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	美しい日本語を学ぶことを通して、和を尊ぶ日本の心を理解し、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	生活の道具である「日本語」。その中でも「話し言葉」は、人との関わりへの第一歩。日々使うものだけに、雑に扱うことなく、心を込めて丁寧に発することの大切さを理解する。発声、発音の基礎的練習をはじめ、実践練習の中で、簡潔にわかりやすく内容を伝える文章の組み立て方、正しい敬語表現、場面にあわせた美しい言葉の選び方を学び、活用できるようにする。さらに、言葉に連動する好印象をもたらす表情、所作、態度を身につけ、積極的に社会とつながることができるようになる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	筆記小テスト	20	「敬語」の理解について筆記試験を行い評価する。								
		期末テスト	40	声の大きさ・高低的の表現、言葉選び、態度、表情、姿勢、全般にわたり、「スピーチ」「ロールプレイング」の2つの項目を通して評価する。								
		平常点	40	演習や実習への取り組み、意欲、態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	プリント資料配付											
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	NHK 放送文化研究所		『日本語発音アクセント新辞典』						NHK 出版			
	実務技能検定協会		『秘書検定1級集中講義』						早稲田教育出版			
実務技能検定協会		『ビジネス電話検定受験ガイド』						早稲田教育出版				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①配付する資料、および視聴覚教材をもとに授業を進める。 事前学習として、授業内容理解のため、資料を読み予習してくる。特に、前の授業で告知する次回の課題については、繰り返し声に出し練習し、授業に望めるようにしておくこと。(予習：週2時間程度) 事後学習として、授業での内容を意識し、数多くの人との「会話」を実践して、理解を深めるようにすること。(復習：週2時間程度) ②実技テストでは、その場で良い点、改善を進める点を指摘する。筆記テストは、終了後に正解を伝え解説をおこなう。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	あいさつ・返事・あいづち	取り組み：発声発音
	学習成果	相手に与える印象の重要性を理解し、あいさつ、表情、所作から、好印象を残すことができる。	
2回	予習復習の内容	一人でも多くの方に話しかけ周囲とコミュニケーションを図り、好印象を残すことを全身で覚えるように実践を重ねる。	
	授業内容	発声・響鳴・発音	
3回	学習成果	声から与える印象を良くするために、発声発音の仕組みを理解し、明瞭な発音ができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で伝えるボイストレーニング法を毎日実践し、大きく張りのある声を出せるようになる。	
4回	授業内容	話し方お悩み別対処法	
	学習成果	自分の話し方のクセを確認し、耳障りになりそうな点を修正する。距離感にあわせた話し方ができる。	
5回	予習復習の内容	大きな声を出す、言葉に言い淀まないなど、目的を持って、聴きやすい話し方を意識し練習する。	
	授業内容	敬語① ～丁寧に話す～	
6回	学習成果	上下に関係なく物事を丁寧に表すことで相手への敬意を伝え、信頼される存在になる。	筆記小テスト：敬語
	予習復習の内容	学生ならではの話し方は社会でどう見えるか、一方、品格のある話し方はなにかを意識し、会話を実践する。	
7回	授業内容	敬語② ～敬う心を表す～	
	学習成果	尊敬語、謙譲語の正しい理解ができ、立場や場面によって瞬時に使い分けられる。	
8回	予習復習の内容	敬語の正誤が瞬時にわかるように、多くのビジネス会話(映像資料、接客業等)を意識して聴いて慣れる。	
	授業内容	好印象につながる表現 ～慣用句・クッション言葉・あとよし言葉・鼻濁音・無声化～	
9回	学習成果	肯定的な言葉を選ぶことで良好な人間関係が築けることを理解し、品格を身につける。	
	予習復習の内容	好印象につながるための言葉には、具体的にどのようなものがあるのか挙げて語彙を増やし、会話を実践する。	
10回	授業内容	伝える技術 ～間・強弱・高低・緩急～	取り組み：表現ワーク
	学習成果	相手にわかりやすく正しく情報を伝えるための4つの技術を理解し、実際に使えるようになる。	
11回	予習復習の内容	4つの技術を使って話している具体例をテレビラジオ等で見つけること。授業でよむ文章を練習する。	
	授業内容	きく技術 ～聞く・聴く・訊く～	
12回	学習成果	会話は相手とのやりとりで成り立つことに気づき「きく」力をつけ、正しい理解判断ができるようになる。	
	予習復習の内容	抑揚や間から意図を汲めるか、話を興味をもった態度で聴いているか、日常の中で意識し、相手が話しやすい雰囲気作りを実践してみる。	
13回	授業内容	文章を組み立てる	
	学習成果	主述部を意識した簡潔な文、相応しい接続詞句での展開、目的を意識した構成で、話を組み立てられるようになる。	
14回	予習復習の内容	誰かに何かを説明する場合どうしたらわかりやすいのか等、相手の立場に立った丁寧な会話を実践してみる。	
	授業内容	言葉を選ぶ	
15回	学習成果	感謝、謝罪、苦情、祝福、労い、さまざまな場面での適切な言葉遣いを身につけ表現できるようになる。	
	予習復習の内容	様々な状況をイメージし、その場に相応しい言葉を選べるよう、本や新聞、各メディアから語彙を拾い自分のものにする。	
16回	授業内容	電話① ～うける～	取り組み：電話応対
	学習成果	デモ電話機を用いて、固定電話の使い方を把握する。電話の受け方で社会での対応力をつける。	
17回	予習復習の内容	授業で伝える電話応対のポイントを意識し、声に出して練習し、ボイスレコーダーに録り確認する。	
	授業内容	電話② ～かける～	
18回	学習成果	電話をかけるときの要点をおさえる。電話で聴き取りやすい声はどのようなものか理解し実践できる。	
	予習復習の内容	授業で伝える電話応対のポイントを意識し、声に出して練習し、ボイスレコーダーに録り確認する。	
19回	授業内容	さまざまな受付で	取り組み：ロールプレイング
	学習成果	接客用語を理解し、立ち居振る舞いとあわせて正しく使えるようになる。	
20回	予習復習の内容	来客、婚、葬での受付、言葉と行動、態度が重なるように、各自ロールプレイングを繰り返し行って慣れる。	
	授業内容	多様性社会でのコミュニケーション	
21回	学習成果	聴覚・視覚障害者、高齢者等、多様性社会での情報伝達、意思疎通のためにできることを理解する。	取り組み：グループワーク
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実践できるように場面を想定して練習を重ねてみる。	
22回	授業内容	日常の場面で	期末テスト：自己紹介
	学習成果	日頃の生活の中でも話し言葉で印象が左右されることを認識し、その場にあわせた適切な表現ができるようになる。	
23回	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理、確認をすること。	

科目名	話し言葉の応用				担当者	関根俊二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)										
専門的 学習成果	①	社会人にふさわしく、正確にわかりやすく話し言葉で説明できる。										
	②	言葉についての理解をもち、言葉の使い分けなど、言葉を意識的に活用できる。										
	③	傾聴する能力をもち、コミュニケーションを円滑に行うことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	場面・状況に応じた対応ができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	コミュニケーションを通して社会で協働することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	1年次前期に学ぶ「話し言葉の基礎」の応用の授業である。社会やビジネスシーンに通用する開かれた話し言葉の習得をめざして、発表を繰り返し行って実践的に学ぶ。既習事項の整理をしながら、傾聴、自由題スピーチ、情報の正確な説明、魅力的な説明など新たな課題に取り組んでもらう。日本語検定2級程度の敬語やら抜き言葉の知識も身につけてもらう。言うまでもなく、話し言葉の技術を磨くためには、聞き手の反応に触れながら自覚的に話し言葉を使い続けるしか方法はない。発表には長所を伝えアドバイスを送り続けるので、ぜひ社会人にふさわしい話し言葉の技術を習得してほしい。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		発表	70	計5回。①が20%、②③④が各10%、⑤が20%の評価。発表で課題の達成度をみる。								
		小テスト	30	計2回実施し、各回15%で評価を行う。理解度を問う。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②の評価で行う。 (2)は専門的学習成果①②③の評価で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			印刷物配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本語検定委員会		『日本語検定公式2級過去・練習問題』				東京書籍					
	鴻上尚史		『コミュニケーションのレッスン 聴く・話す・交渉する』				大和書房					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		話し言葉の技術習得の授業であるので、しばしば発表を行う。落ち着いて(あるいは楽しい感じで)話しやすい環境を作ることに配慮するので、グループ内や人前での発表に、目的意識をもって積極的にチャレンジしてもらいたい。 ①発表等の準備のために授業外で計60時間程度の学習が必要である。 ②発表に対しては、口頭で、または書面でつどアドバイスと評価を伝える。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 傾聴と他者紹介	人の話を傾聴できるか。内容を要約して効果的に説明できるか。
	学習成果	人の話を傾聴でき、それを要約して伝えることができる。	
2回	予習復習の内容	次回発表の準備	発表①(課題-自由題3分間スピーチ)
	授業内容	話をデザインする① 自由題3分間スピーチ	
3回	学習成果	構成を意識してスピーチを展開することができる。	発表②(課題-電話かけなどの実践)
	予習復習の内容	発表の振り返り	
4回	授業内容	話をデザインする② 自由題3分間スピーチ	発表③(課題-正確な説明)
	学習成果	構成を意識してスピーチを展開することができる。	
5回	予習復習の内容	発表の振り返り	発表④(課題-正確な説明)
	授業内容	電話と会社訪問の言葉について	
6回	学習成果	電話と会社訪問の方法を理解し説明できる。	発表⑤(課題-物事の効果的な紹介)
	予習復習の内容	授業内容の復習	
7回	授業内容	電話と会社訪問の言葉を習得する	発表⑥(課題-グループディスカッション)
	学習成果	電話と会社訪問の方法を理解し実践できる。	
8回	予習復習の内容	授業内容の復習。次回発表の準備	発表⑦(課題-グループディスカッション)
	授業内容	正確な表現で説明する① 身近な出来事	
9回	学習成果	簡単な出来事について、言葉を選び正確に説明できる。	発表⑧(課題-グループディスカッション)
	予習復習の内容	次回発表の準備	
10回	授業内容	正確な表現で説明する① 社会的な出来事	発表⑨(課題-グループディスカッション)
	学習成果	より複雑な出来事について、言葉を選び正確に説明できる。	
11回	予習復習の内容	発表の振り返り	発表⑩(課題-グループディスカッション)
	授業内容	正しい言葉を使う① 敬語など	
12回	学習成果	敬語について理解し、活用できる。	発表⑪(課題-グループディスカッション)
	予習復習の内容	授業内容の復習。	
13回	授業内容	正しい言葉を使う② ら抜き言葉など	発表⑫(課題-グループディスカッション)
	学習成果	ら抜き言葉に注意して言葉を活用できる。	
14回	予習復習の内容	授業内容の復習。	発表⑬(課題-グループディスカッション)
	授業内容	円滑で生産的なコミュニケーション リレートーク	
15回	学習成果	人の話を確実に傾聴でき、的確な言葉を続けることができる。	発表⑭(課題-グループディスカッション)
	予習復習の内容	授業での実践についての振り返り	
16回	授業内容	グループディスカッション① 身近な出来事	発表⑮(課題-グループディスカッション)
	学習成果	協働に向けたグループディスカッションに積極的に取り組める。	
17回	予習復習の内容	授業内容の振り返り。	発表⑯(課題-グループディスカッション)
	授業内容	グループディスカッション② 社会的な出来事	
18回	学習成果	協働に向けたグループディスカッションに円滑に取り組める。	発表⑰(課題-グループディスカッション)
	予習復習の内容	プレゼンテーション発表に向けた準備	
19回	授業内容	プレゼンテーションの準備	発表⑱(課題-グループディスカッション)
	学習成果	プレゼンテーションの目的・方法について理解し説明できる。	
20回	予習復習の内容	プレゼンテーション発表に向けた準備	発表⑲(課題-グループディスカッション)
	授業内容	プレゼンテーションの発表	
21回	学習成果	手法を選択しながら、効果的に基本的なプレゼンテーションを行える。	発表⑳(課題-グループディスカッション)
	予習復習の内容	プレゼンテーション発表の振り返り	
22回	授業内容	まとめ	話し言葉の活用に必要な態度・知識・方法について理解し説明ができるか。
	学習成果	話し言葉の活用に必要な態度・知識・方法について理解し説明ができる。	
23回	予習復習の内容	習得した知識・技術の整理	話し言葉の活用に必要な態度・知識・方法について理解し説明ができるか。

科目名	絵本製作				担当者	大 泉 浩						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
授業時間数				30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に対応する。										
専門的 学習成果	①	絵本という優れた表現方法についての知識を、社会人として必要な表現に応用できるようになる。										
	②	印刷物製作の知識と技術が身につく、社会人として必要な表現に応用できるようになる。										
	③	グループ課題の製作を通してコミュニケーション能力が身につく、社会人として必要な協働に活用できるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	絵本についての知識を習得し、社会的・職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	絵本製作の過程から社会人として必要な他者理解の能力を有し、表現することができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	絵本製作の過程から人との関わりに必要な自己表現、他者理解の能力を有し、協働することができる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	さまざまな絵本を読み比べ、また自分で作ってみることで、子どもだけでなく大人にとっても魅力的な、絵本という表現方法について学ぶ。具体的には次の通り。教員が紹介する絵本を通して、作り手の工夫に目を向ける。学生自身が絵本を紹介することで、多様な絵本に触れ、作り手としての目を養う。実際に手を動かして絵を描いたり言葉を考えていたりすることで、表現の技術を磨くとともに表現の喜びを味わう。グループで1冊の絵本を製作することで、読み手とのコミュニケーション、メンバー同士のコミュニケーションについて体験的に学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		個人課題	30	条件を守って作成できているかで評価する。								
		グループ課題	70	提出日に間に合わせ、条件を守って作成できているかで評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	長谷川集平		『絵本づくりトレーニング』				筑摩書房					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①絵本作りや印刷物の製作に興味・意欲があれば、絵を描くことや文章を書くことが苦手でも履修に問題はない。授業時間外にも、様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にしたり、絵本に関する書籍やウェブサイトを目を通すなど、準備学習に努めること。必要な時間は1週あたり4時間である。 ②提出された課題に問題があれば指摘して修正を求めたり、優れた点があれば具体的に口頭で評価するなどして、より良い作品作りにつながるよう指導する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	絵本を読む(1) 絵本の種類	個人課題による
	学習成果	教員が紹介する絵本を通して、作り手の工夫に目を向ける。	
予習復習 の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。		
	授業内容	絵本を読む(2) 絵本の再読と紹介	
2回	学習成果	学生自身が絵本を紹介することで、多様な絵本に触れ、作り手としての目を養う。	
	予習復習 の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。	
3回	授業内容	絵本の作り方(1) 顔を描く	
	学習成果	簡単な図形の組み合わせで8ページの絵本が作れる。初級。	
予習復習 の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。		
	4回	授業内容	
4回	学習成果	簡単な図形の組み合わせで8ページの絵本が作れる。中級。	
	予習復習 の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。	
5回	授業内容	絵本の作り方(3) 物語を描く	
	学習成果	簡単な図形の組み合わせで8ページの絵本が作れる。上級。	
予習復習 の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。		
	6回	授業内容	絵本の作り方(4) 企画を考える
6回	学習成果	絵と言葉を工夫し、読み手に喜ばれる12ページの絵本が作れる。企画編。	
	予習復習 の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。	
7回	授業内容	絵本の作り方(5) 工夫して描く	
	学習成果	絵と言葉を工夫し、読み手に喜ばれる12ページの絵本が作れる。作成編。	
予習復習 の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。		
	8回	授業内容	絵本の作り方(6) 彩色して仕上げる
8回	学習成果	絵と言葉を工夫し、読み手に喜ばれる12ページの絵本が作れる。仕上げ編。	
	予習復習 の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。	
9回	授業内容	グループ製作実習(1) 企画を考える	グループ課題による
	学習成果	読み手を意識した絵本の企画ができる。	
予習復習 の内容	絵本に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かす。		
	10回	授業内容	
10回	学習成果	展開を考えてページの割り付けができる。	
	予習復習 の内容	絵本に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かす。	
11回	授業内容	グループ製作実習(3) 表現を工夫する	
	学習成果	絵や文の内容と表現を工夫できる。	
予習復習 の内容	絵本に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かす。		
	12回	授業内容	
12回	学習成果	実際に絵や文を書いて製作ができる。	
	予習復習 の内容	絵本に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かす。	
13回	授業内容	グループ製作実習(5) 印刷を考えて原稿を作る	
	学習成果	実際に絵や文を書いて製作ができる。	
予習復習 の内容	絵本に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かす。		
	14回	授業内容	グループ製作実習(6) 仕上げる
14回	学習成果	印刷・製本・彩色して絵本を仕上げることができる。	
	予習復習 の内容	絵本に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かす。	
15回	授業内容	自己評価・相互評価	
	学習成果	他の作品との比較を通して自らの作品の客観的な評価ができる。	
予習復習 の内容	友人・家族・知人などに作品を紹介し、意見や感想を次の機会に生かす。		

科目名	公務員試験対策講座Ⅰ（自治体研究）				担当者	堀 良 平 ・ 鳴 海 渉						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） classroom（登録必須）での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。										
専門的 学習成果	①	地方自治法などに規定されている目的、役割等を説明、思考できる。										
	②	地方自治体が目指すべき指針について説明、思考できる。										
	③	議会が果たしている役割について説明、思考できる。										
	④	自治体の財政状況等を知り、今後の政策形成を論じることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、公務員として行政を遂行することができる。 （専門的学習成果①②③④）										
	(2)	地域社会において人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、市民と協働することができる。（専門的学習成果①②③）										
	(3)	法律等修得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展及び安全・安心に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果④）										
授業概要	公務員として必要とされる自治の仕組み、市民と自治体行政の運営、地方財政・予算、議会の役割、自治体と国との関係など自治体業務の基本的な仕組みを知り、自治法など各種法律に基づいて議会の承認を経て政策を執行していくことについて考察し、公務員としての知識を高める。また、公務員にどのような役割が求められているのか市役所等の視察等をとおして職員がどのように業務を進めているのか討議研究を進め、公務員として市民の安全・安心のため尽くすことができる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	毎回の講義で授業の感想・次回の予習を期日までに Web 上で提出するとともに、定期的に記述式の800字程度のレポートを提出し、その内容を評価する。								
		討 論	20	講義内で行う、討議・グループワークにおける発表・参加態度を評価する。								
	視察対応	20	職場見学の際における対応・レポート内容を評価する。									
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④により行う。 (2) は専門的学習成果①②③により行う。 (3) は専門的学習成果④により行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	今村照	『地方自治のしくみ』第5次改訂版				学陽書房						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	平谷英明	『一番やさしい地方自治の本』第2次改訂版				学陽書房						
	吉田勉	『はじめて学ぶ地方自治法』第2次改訂版				学陽書房						
	大森彌, 大杉覚	『これからの地方自治の教科書』				第一法規						
	地方自治法令研究会	『自治六法 令和4年版』				ぎょうせい						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①準備学習等履修上の留意点 テキスト及び参考文献、授業で配布する参考資料、地方自治体等が提供する広報誌、HP等を活用し授業を進める。 ＜事前学習＞テキスト及び地方自治体の広報資料等を参考にテーマについて考察をするとともに、課題等を抽出し公務員として基本的対処法について授業展開する。（予習：週1時間程度） ＜事後学習＞地方自治法、公務員法などの法規を知り接遇研修、アクティブラーニング、ワールドカフェ等をおしグループ討議が行われるので、簡潔に課題となった内容を要約、確認、資料等の整理を行うこと。（復習：週1時間程度） ＜自治体等視察研修＞市役所等の視察研修を行うが、視察先により日程が前後するので初回の授業で日程及び視察事項を通知する。事前に質問事項等をまとめ、事後に討論した内容について要約しレポートを提出すること。現地集合、現地解散となる。 ②フィードバックの方法等 提出した各種レポートについては講義時にフィードバックを行う。内容によってはグループワークを通してクラス内での共有を図っていく。 ③その他 公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JAなどを目指す学生も対象となる。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	1回目終了後から次回の実施単元を示し、その内容についての概要を予習し、Webを通して提出する。また、講義から得たことや今後に生かしていくべきこと、疑問点についても同様に提出する。授業内では適宜グループワークを通して、理解の共有を図り、そこでも発言や参加態度なども評価の対象としていく。さらに定期的にレポートを提出させ、理解状況の確認を行うこととする。
	学習成果	本講座での学習計画について把握する。	
	予習復習の内容	シラバスとテキストの目次を読み、学習内容を確認する。	
2回	授業内容	自治って何だろう	
	学習成果	地方自治の概要を理解し、特徴や役割分担について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、自治体の歴史と現状を理解する。	
3回	授業内容	住民と自治体行政の運営	
	学習成果	住民と自治の関わりについて理解し、今後の展望について検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、住民自治の概要と現状を理解する。	
4回	授業内容	自治体の種類と合併	
	学習成果	現状を把握し、今後の自治体運営がどうあるべきか検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、自治体の種類や合併について理解する。	
5回	授業内容	議会と長の緊張関係	
	学習成果	地方議会、首長、委員会の内容を理解し、その関わりについて説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、地方議会の概要を理解する。	
6回	授業内容	自治体の財政・財務	
	学習成果	自治体の財政・財務状況を理解し、今後の展望について検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、自治体財政の仕組みを理解する。	
7回	授業内容	自治体と国の関係、自治体の紛争処理	
	学習成果	自治体と国の関係や自治体の紛争処理について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、自治体と国の関係について理解する。	
8回	授業内容	直面する課題①人口減少	
	学習成果	地方が直面する人口問題の原因を理解し、今後の展望と対策について検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読むとともに、出身地の自治体の人口動向を把握する。	
9回	授業内容	直面する課題②東京一極集中と地域間格差	
	学習成果	一極集中がもたらす地方への影響を理解・分析し、地域間格差をなくす取り組みについて検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読むとともに、出身地の自治体の人口流出の状況を把握する。	
10回	授業内容	直面する課題③大災害と自治体	
	学習成果	今後も予想される大災害で想定される事態を把握し、具体的な対策を検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読むとともに、出身地の災害発生状況や対策を把握する。	
11回	授業内容	自治体研究	職場見学を行う自治体について研究し、質問事項を事前に提出する。
	学習成果	職場見学に向けた自治体研究を通して、概要や課題を説明できる。	
	予習復習の内容	見学自治体のホームページなどを通して、現状を理解する。	
12回	授業内容	職場見学	現地調査等に基づき、レポート提出する。
	学習成果	疑問点について質問することで、その内容や展望を説明できる。	
	予習復習の内容	見学自治体のホームページなどを通して、現状を理解する。	
13回	授業内容	職場見学	
	学習成果	見学して得たこと等を整理し、その内容を説明できる。	
	予習復習の内容	見学自治体のホームページなどを通して、現状を理解する。	
14回	授業内容	地方自治の新しい仕組み	1～10回に同じ
	学習成果	時代に合わせて改正を行う地方自治の特性を理解し、今後の展望について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストや参考文献を通して地方自治法の改正点を理解する。	
15回	授業内容	まとめ、最終レポート作成	学習内容を整理し、レポートとして提出する。
	学習成果	本講座を通して学習したことを整理し、その内容を説明できる。	
	予習復習の内容	ここまでの授業内容を復習する。	

科目名	公務員試験対策講座Ⅲ－A（基礎数学）				担当者	堀 良 平 ・ 星 伸 之						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） classroom（登録必須）での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。										
専門的 学習成果	①	これまで学んできた数学を復習し、様々な問題に取り組むことで理解を深めることができる。										
	②	公務員試験における一般知能ならびにSPI試験における非言語分野に活用できる知識の習得ができる。										
	③	社会における様々な場面において、習得した数学の知識を活用することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	具体的な問題演習を通して進路に向けた目標を明確にすることで、社会的・職業的自立に向けての意識が向上する。（専門的学習成果①・②に関連）										
	(2)	社会人として必要とされる基礎的な一般教養について理解を深めることができる。（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	公務員試験における一般知能科目や、多くの企業等で実施されるSPI試験の非言語分野等において、算数・数学の内容が出題されており、苦手意識を抱えたまま卒業後の進路選択、就職活動に直面することも少なくない。この授業では各試験の実情に合わせて必要な分野について取り上げ、公式や基本的な解法の説明を行ったのち、問題演習を通して理解を深めていく。さらに社会に出てからも様々な場面において数字と関わることが多いことから、そういった場面でも活用できるよう具体的なイメージを加えながら講義を展開していく。 受講人数や理解度に応じ、個人の希望をふまえたレベル別クラス編成を行う可能性がある。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	60	毎回授業の最初に実施し、各回5％程度を配点する。前回の授業内容についての理解の程度を評価する。								
		まとめ テスト	40	第15回目に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①・②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	東洋英和女学院大学 学習サポートセンター		『文系女子大学生の数学演習』						誠文堂新光社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ地方初級＜教養試験＞過去問350』						実務教育出版			
	柳本新二		『ドリル式 SPI 問題集』						永岡書店			
	畑中敦子		『畑中敦子の算数・数学キソキソ55』						エクシア出版			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JAなどを公的機関を目指す学生も対象となる。 広範な範囲にわたるため15回の授業としてはある程度を分野を絞らざるを得ないので、「桜サクE-RUN！」その他を活用して自習したり、授業以外の範囲についても自ら積極的に学習することが望ましい。 ②毎回の小テストは評価の対象として最重視するので、講義内容を十分復習して臨むこと（復習：週1時間程度）。 評価後、次回の授業時に返却するので、間違いや苦手を理解しさらに復習に努めること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、公務員試験ほか就職試験における基礎数学について	
	学習成果	講義の進め方を踏まえて、基礎数学の概要を説明できる。	
2回	予習復習の内容	中学・高校での数学の各自の学習状況を確認しておく。	
	授業内容	計算問題、割合と比	
3回	学習成果	計算問題や割合と比の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
4回	授業内容	1次方程式、1次不等式、連立方程式	
	学習成果	1次方程式、1次不等式、連立方程式の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
5回	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
	授業内容	因数分解と2次方程式、関数（1次関数、2次関数）	
6回	学習成果	因数分解と2次方程式、関数の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
7回	授業内容	料金の割引、代金の清算	
	学習成果	料金の割引、代金の清算の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
8回	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
	授業内容	分割払い、損益算	
9回	学習成果	分割払い、損益算の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
10回	授業内容	速さ、集合	
	学習成果	速さ、集合の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
11回	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
	授業内容	順列、組み合わせ	
12回	学習成果	順列、組み合わせの重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
13回	授業内容	確率	
	学習成果	確率の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
14回	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
	授業内容	図形①（平面図形、合同と相似）	
15回	学習成果	平面図形、合同と相似の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
16回	授業内容	図形②（円の性質、空間図形、三平方の定理）	
	学習成果	円の性質、空間図形、三平方の定理の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
17回	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
	授業内容	推論	
18回	学習成果	推論の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
19回	授業内容	資料の読み取り、グラフと領域	
	学習成果	資料の読み取り、グラフと領域の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
20回	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
	授業内容	いろいろな問題（1）、（2）	
21回	学習成果	これまでの学習内容を再確認し、応用問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
22回	授業内容	まとめテスト・解説	
	学習成果	まとめテストを実施し、その解説を通して基礎数学の問題に取り組むことができる。	
23回	予習復習の内容	授業内容を復習しておく。	

科目名	公務員試験対策講座Ⅲ－B（一般知能・基礎）				担当者	堀 良 平 ・ 星 伸 之						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） classroom（登録必須）での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。										
専門的 学習成果	①	これまで学んできた基礎数学を活用し、様々な問題に取り組むことができる。										
	②	公務員試験における一般知能に活用できる知識を習得することができる。										
	③	多くの問題に取り組むことで各自の弱点を理解し、一般教養の向上につなげることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	具体的な問題演習を通して進路に向けた目標を明確にすることで、社会的・職業的自立に向けての意識が向上する。（専門的学習成果①・②・③に関連）										
	(2)	社会人として必要とされる基礎的な一般教養について理解を深めることができる。（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	公務員試験で出題される一般知能における数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈の科目内容に沿って、公式や基本的な解法を説明したうえで、具体的な問題演習・解答解説を行い、出題内容の理解、解法の習得、そこから見える各自の弱点の把握を通して、効果的な試験対策を進める。公務員志望者に即した内容とはなるが、一般企業などで多く課されるSPI試験等の内容にも対応している。 受講人数や理解度に応じ、個人の希望をふまえたレベル別クラス編成を行う可能性がある。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	60	毎回授業の最初に実施し、各回5％程度を配点する。前回の授業内容についての理解の程度を評価する。								
		まとめ テスト	40	第15回目に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①・②・③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	東京アカデミー		『オープンセサミシリーズ 国家公務員・地方初級⑤一般知能』						七賢出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ 地方初級＜教養試験＞過去問350』						実務教育出版			
	資格試験研究会		『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ 数的推理』						実務教育出版			
	資格試験研究会		『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ 判断推理』						実務教育出版			
	資格試験研究会		『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ 文章理解・資料解釈』						実務教育出版			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JAなどを公的機関を目指す学生も対象となる。 広範な範囲にわたるため15回の授業としてはある程度を分野を絞らざるを得ないので、「桜サクE-RUN！」その他を活用して自習したり、授業以外の範囲についても自ら積極的に学習することが望ましい。 ②毎回の小テストは評価の対象として最重視するので、講義内容を十分復習して臨むこと（復習：週1時間程度）。 評価後、次回の授業時に返却するので、間違いや苦手を理解しさらに復習に努めること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、公務員試験における一般知能について	小テストを行う。毎回の授業の最初に行い、前回授業内容についての確認の内容となる。
	学習成果	講義の進め方を踏まえて、公務員試験における一般知能の概要を説明できる。	
予習復習 の内容	インターネットなどを通して公務員試験の概要について確認する。		
	授業内容	数的推理①方程式、整数、計算パズル、規則性	
2回	学習成果	方程式、整数、計算パズル、規則性の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習 の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。	
3回	授業内容	数的推理②割合	
	学習成果	割合の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習 の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
	4回	授業内容	
学習成果		速さの重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習 の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
	5回	授業内容	
学習成果		確率の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習 の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
	6回	授業内容	数的推理⑤図形の計量
学習成果		図形の計量の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習 の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
	7回	授業内容	判断推理①順序関係、手順
学習成果		順序関係、手順の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習 の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
	8回	授業内容	判断推理②対応関係、試合
学習成果		対応関係、試合の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習 の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
	9回	授業内容	判断推理③位置関係、数量
学習成果		位置関係、数量の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習 の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
	10回	授業内容	判断推理④論理、集合、証言ほか
学習成果		論理、集合、証言ほかの重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習 の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
	11回	授業内容	空間把握①平面図形、折り紙、軌跡
学習成果		平面図形、折り紙、軌跡の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習 の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
	12回	授業内容	空間把握②立体構成、展開図、投影
学習成果		立体構成、展開図、投影の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習 の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
	13回	授業内容	空間把握③切断、回転体・移動、経路
学習成果		切断、回転体・移動、経路の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習 の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
	14回	授業内容	資料解釈
学習成果		資料解釈の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習 の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
	15回	授業内容	まとめテスト・解説
学習成果		まとめテストを実施するとともに、その解説講義を通して一般知能全般について解答することができる。	
予習復習 の内容	授業内容を復習しておく。		まとめテストを実施する。すべて授業内容からの出題とする。

科目名	公務員試験対策講座Ⅳ（理科・社会・政治）				担当者	堀 良平 ・ 星 伸之 ・ 本吉 祥子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付け、もしくはオフィスアワーで対応する。 classroom（登録必須）での対応も行う。 それ以外はEメール（horiryoho@seiwa.ac.jp）で行う。											
専門的 学習成果	①	社会科学分野（政治・経済・社会）について基礎学力を高め、問題を解くことができる。										
	②	人文科学分野（日本史・世界史・地理・文学芸術）について基礎学力を高め、問題を解くことができる。										
	③	自然科学分野（物理・化学・生物・地学）について基礎学力を高め、問題を解くことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	社会科学分野の基礎知識修得を通して、それが生活に直結していることを学び、社会の一員としての自立につなげることができる。										
	(2)	人文科学分野の基礎知識修得を通して、それが生き方のヒントになることを学び、豊かな選択肢を持って自ら志向することができる。										
	(3)	自然科学分野の基礎知識修得を通して、それが論理的思考や問題解決の礎であることを学び、科学技術社会の一員として感わず理的選択ができる。										
授業概要	公務員試験で問われる一般知識は、「社会科学（政治・経済・社会）」「人文科学（日本史・世界史・地理・文学芸術）」「自然科学（物理・化学・生物・地学）」の各分野にわたって広く出題されるが、過去の各分野ごとの出題率や高校における科目修得状況を踏まえて分野を絞り、基本事項を学んでいく。また当該分野の基礎知識確認問題や応用問題を通して基礎学力向上に努め、過去問題や類似問題の反復を通して解答のコツをつかんでいく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	60	毎回授業の最初に実施し、各回5%程度を配点する。前回の授業内容についての理解の程度を評価する。								
		筆記試験	40	第15回目に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
	資格試験研究会	『初級公務員 一般知識らくらくマスター』							実務教育出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ地方初級＜教養試験＞過去問350』							実務教育出版			
	資格試験研究会	『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ社会科学』							実務教育出版			
	資格試験研究会	『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ人文科学』							実務教育出版			
	資格試験研究会	『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ自然科学』							実務教育出版			
	鈴木俊士	『鈴木俊士の公務員教養試験 一般知識 一問一答』							株式会社 KADOKAWA			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JAなどを公的機関を目指す学生も対象となる。 広範な範囲にわたるため15回の授業としてはある程度分野を絞らざるを得ないので、「桜サクE-RUN!」その他を活用して自習したり、授業以外の範囲についても自ら積極的に学習することができる。 ②毎回の小テストは評価の対象として最重視するので、講義内容を十分復習して臨むこと（復習：週1時間程度）。 評価後、次回の授業時に返却するので、間違いや苦手を理解しさらに復習に努めること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、公務員試験一般知識科目についてのガイダンス	小テストを行う。毎回の授業の最初に行い、前回授業内容についての確認の内容となる。
	学習成果	講義の進め方を踏まえて、一般知識科目をどのように学習していくかを説明できる。	
予習復習の内容	一般知識科目の出題内容について整理し、確認しておく。		
2回	授業内容	政治 ①民主政治の基本原則、日本国憲法、基本的人権	
	学習成果	日本国憲法の三大原則と、憲法が保障する基本的人権について説明できる。	
予習復習の内容	日本国憲法や基本的人権について、具体的内容を整理し、確認しておく。		
3回	授業内容	政治 ②政治機構、国際政治	
	学習成果	国会・内閣・裁判所の役割と権限について説明できる。	
予習復習の内容	憲法条文をもとに国会・内閣・裁判所の位置付けや権限を整理し、確認しておく。		
4回	授業内容	経済 ①市場経済	
	学習成果	価格機構と独占寡占について、国民経済の流れについて説明できる。	
予習復習の内容	価格機構、独占寡占、株式会社、国民所得について整理し、確認しておく。		
5回	授業内容	経済 ②金融財政、戦後経済	
	学習成果	日銀の金融政策、財政のしくみ、租税について説明できる。	
予習復習の内容	日銀の金融政策、財政、日本経済の発展について整理し、確認しておく。		
6回	授業内容	社会 ①人口問題、社会保障	
	学習成果	少子高齢化社会とその諸問題および日本の社会保障制度について説明できる。	
予習復習の内容	少子高齢化の進行について統計データに目を通し、社会保障制度について整理し、確認しておく。		
7回	授業内容	社会 ②労働問題、消費者問題、環境問題	
	学習成果	日本が抱えている労働問題、消費者問題、環境問題の概要を説明できる。	
予習復習の内容	労働関連法とその法改正、主な環境問題や消費者問題とその関連法を整理し、確認しておく。		
8回	授業内容	日本史 ①律令国家～中世	
	学習成果	政治システムと主要人物、時代背景と文化の特色や代表的遺産等について説明できる。	
予習復習の内容	土地制度や対外関係、文化・宗教などについて、時代横断的に整理し、確認しておく。		
9回	授業内容	日本史 ②近世～近現代	
	学習成果	江戸時代の三大改革や明治維新～日清日露戦争を背景とする時代の動きを説明できる。	
予習復習の内容	織豊の政策～第二次大戦後まで、体制や文化について時代の前後を比較しながらその流れを整理し、確認しておく。		
10回	授業内容	世界史 ①古代・中世ヨーロッパ～近代ヨーロッパ	
	学習成果	ルネサンス、宗教革命、市民革命など、特に近代ヨーロッパについて具体的に説明できる。	
予習復習の内容	四大文明～産業革命まで、時代ごとの重要ポイントについて整理し、確認しておく。		
11回	授業内容	世界史 ②現代ヨーロッパ、東洋史	
	学習成果	地図上を横断的に同時代の歴史的出来事の順序関係を説明できる。	
予習復習の内容	列強のアジア進出～第二次大戦後まで、および中国史について重要ポイントを整理し、確認しておく。		
12回	授業内容	地理 ①地形、気候・土壌、世界地理	
	学習成果	特徴的な地形・気候・土壌ならびに世界地理について理解し、説明できる。	
予習復習の内容	地形、気候・土壌、および世界地理について重要ポイントを整理し、確認しておく。		
13回	授業内容	地理 ②日本地理、地図図法、人口	
	学習成果	日本の地理、地図図法や人口問題について理解し、説明できる。	
予習復習の内容	日本地理の特徴や、地図図法、人口の現状を確認しておく。		
14回	授業内容	理科（生物・地学・化学・物理）、文学芸術思想	
	学習成果	理科、文学芸術思想について重要事項を理解し、説明できる。	
予習復習の内容	理科、文学芸術思想について重要ポイントを整理し、確認しておく。		
15回	授業内容	まとめテスト、解説	筆記試験（全15回の内容を問う）
	学習成果	まとめテストを実施するとともにその解説講義を通して、一般知識全般について解答することができる。	
予習復習の内容	授業内容を復習しておく。		

科目名	公務員試験対策講座V（文章理解・文学）				担当者	関根俊二							
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期	
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー（初回授業で説明）											
専門的 学習成果	①	現代文を適切に理解し、設問を解くことができる。											
	②	国語のルールを理解し正しく活用できる。											
	③	自分の考えを小論文にまとめることができる。											
汎用的 学習成果	(1)	論理的な思考力や文章表現能力が身につく活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）											
授業概要	国家公務員、地方公務員、独立行政法人、JA など、筆記試験において「教養試験（文章読解）」と「小論文」が課される職種への就職を希望する学生を対象にして、過去問等の演習と解説、小論文執筆と添削を行い、公務員試験に対応できる能力を育成する。文章読解は時間の制約のある中での解答で、コツを踏まえた解答が必要であり、これを確認しながら学んでいく。小論文執筆は、まず話題の確認から行うこととする。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		小テスト	80	授業内の解答を小テストとして扱う。10回実施し、各回8%の評価を行う。									
		提出文	20	小論文を2回提出する。各回10%で評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②③の評価で行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名				
	資格試験研究会編		『新・初級スーパー過去問ゼミ 文章理解 資料解釈』						実務教育出版				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名				
	鶴田秀樹		『公務員試験 独学で合格する人の勉強法』						実務教育出版				
	山下純一		『論文試験の秘伝』						YAC 出版				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①新聞記事やテレビ報道などに日常的に触れ、地域や世界の動きをしておくこと。また、授業で紹介する資料も読んでおいてほしい（以上、各回あたり2時間）。授業の復習、小論文執筆の予習などで各回1時間の予習・復習が必要となる。 ②授業での正解状況を報告してもらい、小テストとして扱うので、評価は自己管理できる。提出された小論文は添削の上、すみやかに返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 公務員試験の概要と準備・対策	
	学習成果	公務員試験の概要と準備・対策について理解し説明できる。	
2回	予習復習の内容	概説部分に目を通しておく。	
	授業内容	文章理解	
3回	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
4回	授業内容	文章理解 漢字の読み	
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
5回	予習復習の内容	問題集の復習	
	授業内容	文章理解 漢字の読み	
6回	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	発表の準備を行う。	
7回	授業内容	文章理解 漢字の読み	
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
8回	予習復習の内容	問題集の復習	
	授業内容	小論文の理解 テーマの探求	
9回	学習成果	小論文執筆の方法や社会的話題を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	小論文を執筆する。	
10回	授業内容	小論文の執筆	
	学習成果	社会的話題について小論文が執筆できる。	
11回	予習復習の内容	小論文推敲	
	授業内容	文章理解	
12回	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	発表の準備を行う。	
13回	授業内容	文章理解 文学史	
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
14回	予習復習の内容	問題集の復習	
	授業内容	文章理解	
15回	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
16回	授業内容	文章理解	
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
17回	予習復習の内容	問題集の復習	
	授業内容	小論文の理解 テーマの探求	
18回	学習成果	小論文執筆の方法や社会的話題を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	小論文を執筆する。	
19回	授業内容	小論文の執筆	
	学習成果	社会的話題について小論文が執筆できる。	
20回	予習復習の内容	小論文推敲	

科目名	公務員試験対策演習（基礎編）				担当者	堀 良平 ・ 星 伸之 ・ 本吉 祥子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。											
専門的 学習成果	①	公務員試験に必要な対策について確認し、効果的な取り組みを進められる。										
	②	公務員試験出題科目それぞれの要点を理解し、適切な解法が実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策が進捗する。（専門的学習成果①・②に関連）										
授業概要	公務員試験において出題される科目について講義で基本的な解法パターンや学習方法を示し、教材を通して各自での学習を効率よく進めることができることを目的とする。今期においては基礎数学、一般知能科目（数的推理、判断推理、空間把握）ならびに一般知識科目（政治・経済）を中心に講義を行う。 公務員試験合格を目標とする講義となることから、講義を受動的に受講するだけでなく、主体的に家庭学習を進められる姿勢を強く求める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		習熟度テスト & レポート	100	講義実施内容についての習熟度を確保するテスト&レポートを最終回に行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①・②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	資格試験研究会		高卒・短大卒程度公務員コース【通信講座教材】						実務教育出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ地方初級 教養試験 過去問350』						実務教育出版			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ国家一般職（高卒・社会人）教養試験 過去問350』						実務教育出版			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ高卒警察官 教養試験 過去問350』						実務教育出版			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義時に学習方法等の指示を行うので、その内容に沿って各自家庭学習を進めること。 ②習熟度テストは実施後適宜解説を行う。（復習2時間程度）										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	
	学習成果	講義の進め方を踏まえつつ、公務員試験に向けての学習計画を立てることができる。	
	予習復習の内容	インターネットなどを通して公務員試験の概要について確認する。	
2回	授業内容	数学の基礎	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
3回	授業内容	数学の基礎	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
4回	授業内容	数学の基礎	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
5回	授業内容	数的推理	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
6回	授業内容	数的推理	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
7回	授業内容	数的推理	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
8回	授業内容	判断推理	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
9回	授業内容	判断推理	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
10回	授業内容	判断推理	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
11回	授業内容	空間把握	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
12回	授業内容	政治・経済	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
13回	授業内容	政治・経済	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
14回	授業内容	政治・経済	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの講義内容を振り返り、今後の学習に繋げることができる。	
	予習復習の内容	この期間内の学習内容を振り返る。	
			習熟度テスト&レポートを実施する。

科目名	公務員試験対策演習（応用編）				担当者	堀 良平 ・ 星 伸之 ・ 本吉 祥子						
区分	選択	1	単位	授業回数	10	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	20	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。											
専門的 学習成果	①	公務員試験に必要な対策について確認し、効果的な取り組みを進められる。										
	②	公務員試験出題科目それぞれの要点を理解し、適切な解法が実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策が進捗する。（専門的学習成果①・②に関連）										
授業概要	公務員試験において出題される科目について講義で基本的な解法パターンや学習方法を示し、教材を通して各自での学習を効率よく進めることができることを目的とする。今期においては文章理解、一般知能科目（数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈）ならびに一般知識科目（政治・経済）を中心に講義を行う。 公務員試験合格を目標とする講義となることから、講義を受動的に受講するだけでなく、主体的に家庭学習を進められる姿勢を強く求める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		模擬試験	100	模擬試験を実施しその内容で評価を行う。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①・②で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	資格試験研究会	高卒・短大卒程度公務員コース【通信講座教材】				実務教育出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ地方初級 教養試験 過去問350』				実務教育出版						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ国家一般職（高卒・社会人）教養試験 過去問350』				実務教育出版						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ高卒警察官 教養試験 過去問350』				実務教育出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義時に学習方法等の指示を行うので、その内容に沿って各自家庭学習を進めること。また指定されたコース教材を購入するとともに、公務員試験対策演習（基礎編）の受講を必須とする。 ②模擬試験を実施したのち、解説講義を実施する。（復習2時間程度）											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	政治・経済	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
3・4回	授業内容	数的推理・資料解釈	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
5・6回	授業内容	判断推理・空間把握	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
7・8回	授業内容	文章理解	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
9・10回	授業内容	模擬試験、解説・まとめガイダンス	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
11・12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13・14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15・16回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
17・18回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
19・20回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
21・22回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
23・24回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
25・26回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
27・28回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
29・30回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	人体の構造・機能・疾病				担当者	丸山 穰						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	①	医療関係に従事する者に必要な基礎的な医学の知識として体の仕組みを説明できる。										
	②	他の医療関連科目履修の基礎となる基本的な臨床例を挙げることができる。										
	③	他の医療関連科目履修の基礎となる基本的な体の仕組みを説明することができる。										
	④	体の仕組みについて、食・栄養素の視点から説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	体の仕組みの基本という医療の業界における共通認識を学び職業的自立につなげることができる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
	(2)	体の仕組みの基礎知識を習得した事務員として活躍することができる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
	(3)	体の仕組み、物質の流れの学習を通して、論理的思考ができるようになる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
授業概要	生命の仕組み、人体の構造と働き、それらの名称やそこで用いられる専門用語を体の各器官別に学び、理解する。医学の基礎として、体の構造や働きを知ると同時にそこで行われる物質の移動、化学変化も概観していく。更に、疾病について、各器官の代表的な臨床例にも触れ、基礎知識の集積に努めていく。カウンターの向こう側、医療分野の一員として従事する者また介護サービスに関わる者に期待される、必要な医学的知識・用語等の意味を理解し活用できるようになる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	講義内容に関連した課題を用意する。文脈・内容・体裁・文字数・構成の工夫から理解度及び取り組みの姿勢を判断し、評価する。								
		平常点	30	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	専門的学習効果①②③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	志村二三夫 他編	『解剖生理学 人体の構造と機能 第3版』				羊土社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	志村二三夫 他編	『解剖生理学ノート 人体の構造と機能 改訂第2版』				羊土社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①医療ベーシックユニット履修者必修。教科書で指示するので、予習復習(週に各2時間程度)を行い、確実に自身の知識として定着させること。 ②課題レポートについては実施後、適宜解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス(医学一般で学ぶこと)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	この授業で学ぶ概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書の前書き部分をよく読み、全体に目を通しておくこと。	
	2回	授業内容	細胞と組織
	学習成果	生命の基本単位である細胞の構造を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	3回	授業内容	消化器系
	学習成果	消化器系の仕組み働きを説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	4回	授業内容	血液・造血管・リンパ系
	学習成果	血液の成分や作られ方を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	5回	授業内容	循環器系
	学習成果	循環器系の仕組みや調節方法を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	6回	授業内容	呼吸器系
	学習成果	呼吸器系の仕組みや機能を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	7回	授業内容	腎・尿路系
	学習成果	腎臓～尿路系の機能や調節の仕組みを説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	8回	授業内容	生殖器系
	学習成果	生殖器の機能や仕組みを説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	9回	授業内容	骨格系
	学習成果	骨格の構造、機能、名称を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	10回	授業内容	筋肉系と運動機能
	学習成果	筋肉や運動の機能、仕組みについて概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	11回	授業内容	内分泌系
	学習成果	内分泌系の機能・調節の仕組みについて概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	12回	授業内容	神経系
	学習成果	神経系について機能を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	13回	授業内容	感覚器系
	学習成果	感覚器系について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	14回	授業内容	免疫系
	学習成果	免疫の働きについて概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	15回	授業内容	皮膚組織、体温調節
	学習成果	皮膚組織、体温調節について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	

科目名	疾病論				担当者	ワタナベシゲ子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等には、各講義の前後に対応する。										
専門的 学習成果	①	主な疾病の発症機序が説明できる。										
	②	主な疾病の症状が説明できる。										
	③	主な疾病の予防や早期発見の方法について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療事務職員として、医療スタッフのサポートが適切に行える。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	医療事務職員として、患者さんからの質問や相談に適切に対応できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	医療の現場で遭遇する機会の多い疾病について、症状や発症機序を解説する。また、疾病の発生要因を学び、その知識に基づいた病気の予防方法や早期発見・早期治療について解説を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	90	講義で説明した学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		平常点	10	講義中に行う理解度テストの解答内容から、授業への態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	井上泰		『疾病論』						健帛社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストを授業前に読んで、問題集の問題を解いてみる(予習:2時間程度)。講義終了後に内容を復習する(復習:2時間程度)。 ②教本の記載内容が理解できない、練習問題が解けない場合は質問すること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	鉄欠乏性貧血	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	鉄欠乏性貧血を説明できる。	
2回	予習復習の内容	鉄欠乏性貧血の定義を理解する。	理解度テストを実施し、評価する。
	授業内容	脳血管系疾患	
3回	学習成果	脳卒中を説明できる。	理解度テストを実施し、評価する。
	予習復習の内容	脳血管系疾患の定義を理解する。	
4回	授業内容	高血圧	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	高血圧を説明できる。	
5回	予習復習の内容	高血圧の定義を理解する。	理解度テストを実施し、評価する。
	授業内容	心筋梗塞	
6回	学習成果	心筋梗塞を説明できる。	理解度テストを実施し、評価する。
	予習復習の内容	心筋梗塞の定義を理解する。	
7回	授業内容	気管支ぜん息	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	気管支ぜん息を説明できる。	
8回	予習復習の内容	気管支ぜん息の定義を理解する。	理解度テストを実施し、評価する。
	授業内容	肺炎	
9回	学習成果	肺炎を説明できる。	理解度テストを実施し、評価する。
	予習復習の内容	肺炎の定義を理解する。	
10回	授業内容	消化器系癌	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	主に胃癌、大腸癌について説明できる。	
11回	予習復習の内容	消化器系癌の定義を理解する。	理解度テストを実施し、評価する。
	授業内容	乳癌	
12回	学習成果	乳癌を説明できる。	理解度テストを実施し、評価する。
	予習復習の内容	乳癌の定義を理解する。	
13回	授業内容	腎・泌尿器疾患	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	腎・泌尿器疾患を説明できる。	
14回	予習復習の内容	腎・泌尿器疾患の定義を理解する。	理解度テストを実施し、評価する。
	授業内容	骨粗鬆症	
15回	学習成果	骨粗鬆症を説明できる。	理解度テストを実施し、評価する。
	予習復習の内容	骨粗鬆症の定義を理解する。	
16回	授業内容	糖尿病	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	糖尿病を説明できる。	
17回	予習復習の内容	糖尿病の定義を理解する。	理解度テストを実施し、評価する。
	授業内容	中枢神経疾患	
18回	学習成果	中枢神経疾患を説明できる。	理解度テストを実施し、評価する。
	予習復習の内容	中枢神経疾患の定義を理解する。	
19回	授業内容	花粉症・アトピー性皮膚炎	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	花粉症・アトピー性皮膚炎を説明できる。	
20回	予習復習の内容	花粉症・アトピー性皮膚炎の定義を理解する。	理解度テストを実施し、評価する。
	授業内容	生活習慣病・メタボリックシンドローム	
21回	学習成果	生活習慣病特にメタボリックシンドロームを説明できる。	理解度テストを実施し、評価する。
	予習復習の内容	生活習慣病およびメタボリックシンドロームの定義を理解する。	
22回	授業内容	感染症	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	国内外で発生している話題の感染症について説明できる。	
23回	予習復習の内容	インフルエンザ・新型コロナウイルス・結核・MRSA などについて理解する。	理解度テストを実施し、評価する。

科目名	医療と検査				担当者	ワタナベ トシヒコ 渡部 俊彦						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等にはメールで対応する										
専門的 学習成果	①	検査を行う目的と重要性が説明できる。										
	②	検査に関わる専門用語を説明できる。										
	③	主な疾患で行われる検査項目を挙げられる。										
	④	主な検査方法の概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療事務職員として、医療スタッフのサポートが適切に行える。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	医療事務職員として、患者さんの質問に適切に回答できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	臨床検査がどのような目的で行われるのかを学ぶ。また、検査結果の意味を理解できるようになるために、検査方法の概要、疾病と検査との関係、検査に関わる専門用語などについても学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	100	講義で説明した内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	井上 肇		『検査・薬理学』				健帛社					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義前、講義後に講義内容に関する確認試験を行う。 その日講義する内容を教科書で確認すること(予習:2時間程度)。 また、講義終了後は確認試験を活用し、講義内容を理解できているか確認する。 理解できていない部分は、しっかりと復習すること(復習:2時間程度)。 ②確認試験を回収し、正解率が悪い項目については、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	検査の基礎知識	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	生理機能検査と献体検査の違いが説明できる。	
予習復習 の内容	生理機能検査と献体検査の定義を覚える。		
	授業内容	一般検査(尿検査・糞便検査・髄液検査・消化液検査など)	確認試験を実施し、評価する。
学習成果	一般検査の結果から、病態を予測することができる。		
予習復習 の内容	一般検査の検査目的を理解する。		
3回	授業内容	血液検査(ヘモグロビン、白血球、血液凝固)	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	血液検査の結果から、病態を予測することができる。	
予習復習 の内容	血液を構成する細胞の働きを理解する。		
4回	授業内容	血液検査(血液型、輸血)	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	血液検査の結果から、病態を予測することができる。	
予習復習 の内容	ABO式の血液型分類法を理解する。		
5回	授業内容	生化学的検査(蛋白質)	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	抗体の役割を説明することができる。	
予習復習 の内容	赤ちゃんを母乳で育てる利点を理解する。		
6回	授業内容	生化学的検査(糖)	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	糖から生命エネルギーを作り出す仕組みを説明することができる。	
予習復習 の内容	糖の生体内での役割を理解する。		
7回	授業内容	生化学的検査(糖尿病)	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	糖尿病がどのような病気かを説明することができる。	
予習復習 の内容	糖尿病が起こる原因を理解する。		
8回	授業内容	免疫学的検査で使用する基本的反応	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	免疫学的検査の結果から、病態を予測することができる。	
予習復習 の内容	免疫とは何かを理解する。		
9回	授業内容	アレルギー(I, II, V型)	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	アレルギー(I, II, V型)によって引き起こされる病状を説明することができる。	
予習復習 の内容	アレルギー(I, II, V型)の発生メカニズムを理解する。		
10回	授業内容	アレルギー(III, IV型)	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	アレルギー(III, IV型)によって引き起こされる病状を説明することができる。	
予習復習 の内容	アレルギー(III, IV型)の発生メカニズムを理解する。		
11回	授業内容	感染症検査(ノロウイルス)	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	ノロウイルスによる食中毒の予防方法を説明することができる。	
予習復習 の内容	ノロウイルスの感染経路を理解する。		
12回	授業内容	感染症検査(肝炎ウイルス)	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	肝炎ウイルス感染を予防する方法を説明することができる。	
予習復習 の内容	肝炎ウイルスの感染経路を理解する。		
13回	授業内容	感染症検査(結核菌)	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	結核菌感染を予防する方法を説明することができる。	
予習復習 の内容	結核菌の感染経路を理解する。		
14回	授業内容	遺伝子検査	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	遺伝子検査による診断理論を説明することができる。	
予習復習 の内容	親子鑑定、臓器移植とは何かを理解する。		
15回	授業内容	生理機能検査	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	生理機能検査の結果から、病態を予測することができる。	
予習復習 の内容	心電図とは何かを理解する。		

科目名	医療の制度				担当者	横尾由香						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	医療保険制度の全体像を理解し、概要を説明できる。										
	②	各種の健康保険制度を理解し、概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療保険制度の全体像をつかむことにより、幅広い教養を身につけ社会生活に活かすことができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	各種の健康保険制度を理解することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	憲法で規定された「生存権」を保障するための社会保険制度の中で、医療機関は「医療保障制度」に深くかかわっている。国民が一定水準の適正な医療を安心して受けることができるために医療機関の施設・人的基準等の医療提供体制を定めている「医療法」、国民皆保険制度・現物給付制度・フリーアクセスを原則とする「健康保険法」等の医療保険に関する基本的な法律を学習することにより、専門的知識を持った医療従事者になることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	15	小テストを3回実施し、正答率に沿って5%ずつ評価を行う。								
		筆記試験	75	第15回目の授業において筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『医療保障制度』（テキスト1）				ソラスト						
		『医療関連法規』				ソラスト						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること。(復習：週2時間程度) ②小テストに対するフィードバックは、実施後に正解を示し、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	医療機関の分類、保険医療機関	小テスト①を第3回に実施する	
	学習成果	医療機関の分類、保険医療機関の施設基準等について理解し、概要を説明できる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
2回	授業内容	医療保険とは		
	学習成果	国民皆保険、保険者と被保険者等について理解し、概要を説明できる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
3回	授業内容	医療保険の分類、保険料		
	学習成果	社保、国保、保険料納付について、概要を説明できる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
4回	授業内容	保険給付		小テスト②を第7回に実施する
	学習成果	療養の給付、入院時食事療養費、入院時生活療養費について概要を説明できる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
5回	授業内容	保険給付		
	学習成果	保険外併用療養費、訪問看護療養費、療養費等について概要を説明できる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
6回	授業内容	保険給付		
	学習成果	高額療養費の概要を説明できる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
7回	授業内容	保険給付率、負担率		
	学習成果	年齢に応じた一部負担金を正しく計算できる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
8回	授業内容	社保の種類	小テスト③を第10回に実施する	
	学習成果	協会けんぽ、組合健保等について理解し、概要を説明できる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
9回	授業内容	国保の種類		
	学習成果	一般国保、組合国保について理解し、概要を説明できる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
10回	授業内容	後期高齢者医療制度		
	学習成果	後期高齢者医療制度について理解し、概要を説明できる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
11回	授業内容	診療報酬請求		第15回に筆記試験を実施する
	学習成果	診療報酬請求の仕組みを理解し、概要を説明できる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
12回	授業内容	療養担当規則		
	学習成果	療養担当規則について理解し、概要を説明できる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
13回	授業内容	療養担当規則		
	学習成果	療養担当規則について理解し、概要を説明できる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
14回	授業内容	まとめ		
	学習成果	知識の確認ができる。		
	予習復習の内容	総復習をする。		
15回	授業内容	筆記試験		
	学習成果	知識の確認ができる。		
	予習復習の内容	総復習をする。		

科目名	医事・薬事法規				担当者	横尾由香						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	医療保障制度の全体像を理解し、概要を説明できる。										
	②	各種の公費負担医療等に関連する法規を理解し、概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療保障制度の全体像をつかむことにより、幅広い教養を身につけ社会生活に活かすことができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	各種の公費負担医療に関連する法規を理解することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	憲法25条「生存権」を保障するための社会保障制度の中で、医療機関は医療保障制度に深く関わっている。前期の「医療の制度」で学習した医療保険制度の他に、医療従事者として知っておくべき様々な法律を学習する。医療機関において基本となる「医療法」や、「医療従事者に関する法規」、各種公費負担医療に関する法規、介護保険や労災保険、医薬品医療機器等法などを幅広く学習することにより、より専門的知識をもった医療従事者になることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	20	小テストを4回実施し、正答率に沿って5%ずつ評価を行う。								
		筆記試験	70	第15回目の授業において筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『医療保障制度』				ソラスト						
		『医療関連法規』				ソラスト						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①「医療の制度」を履修していること。 テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては、单元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること。(復習：週2時間程度) ②小テストに対するフィードバックは、実施後に正解を示し、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	医療法	小テスト①を第3回に実施する		
	学習成果	医療機関の施設基準や開設許可等について理解し、概要を説明できる。			
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			
2回	授業内容	医療法			
	学習成果	医療機関の施設基準や開設許可等について理解し、概要を説明できる。			
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			
3回	授業内容	医療従事者に関する法規			
	学習成果	医師法等について理解し、概要を説明できる。			
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			
4回	授業内容	予防衛生に関する法規		小テスト②を第5回に実施する	
	学習成果	感染症法等による医療について理解し、概要を説明できる。			
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			
5回	授業内容	保健衛生に関する法規			
	学習成果	精神保健福祉法等による医療について理解し、概要を説明できる。			
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			
6回	授業内容	薬事関連法規	小テスト③を第7回に実施する		
	学習成果	医薬品医療機器等法等について理解し、概要を説明できる。			
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			
7回	授業内容	薬事関連法規			
	学習成果	医薬品医療機器等法等について理解し、概要を説明できる。			
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			
8回	授業内容	医療保険に関する法規			小テスト④を第10回に実施する
	学習成果	健康保険法等について理解し、概要を説明できる。			
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			
9回	授業内容	社会福祉関連法規			
	学習成果	生活保護法等について理解し、概要を説明できる。			
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			
10回	授業内容	介護保険法			
	学習成果	介護保険制度について理解し、概要を理解できる。			
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			
11回	授業内容	療養担当規則	小テスト⑤を第13回に実施する		
	学習成果	療養担当規則について理解し、概要を理解できる。			
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			
12回	授業内容	その他の医療関連法規			
	学習成果	労災保険法等について理解し、概要を説明できる。			
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			
13回	授業内容	その他の医療関連法規			
	学習成果	難病法等について理解し、概要を説明できる。			
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			
14回	授業内容	まとめ		これまでの内容すべての筆記試験を15回目に実施する	
	学習成果	これまでの知識の確認ができる。			
	予習復習の内容	総復習をする。			
15回	授業内容	筆記試験			
	学習成果	これまでの知識の確認ができる。			
	予習復習の内容	総復習をする。			

科目名	生命科学				担当者	丸 山 穰						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。										
専門的 学習成果	①	生命の基本単位を理解し、説明できる。										
	②	ゲノム・遺伝子・発生と分化について各用語の意味と一連の流れを説明できる。										
	③	最新のバイオ技術と生命倫理について考察し、討議できる。										
	④	生命の大切さを理解し、生物多様性の保全について討議できる。										
汎用的 学習成果	(1)	生命現象の基本原則という医療の業界における共通認識を学び職業的自立につなげることができる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
	(2)	生命科学の基礎知識を習得した事務員として活躍することができる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
	(3)	生命科学の学習を通して、論理的思考ができるようになる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
授業概要	人間を知るうえで非常に重要な基礎知識として、人間を含む生物の生命現象について概観する。ヒトの基礎としての生命の基本単位の細胞やゲノムについて学び、ヒトの生理として発生と分化、がん、感染と免疫をより深く探求し、ヒトと社会に関して、生命倫理や遺伝子技術・クローン技術等について考察する。また、生命科学分野の進歩は目覚ましく、生命に対する倫理観も急速に変化してきているため、ヒトゲノムやバイオテクノロジーの基礎知識について、最新のトピックスも取り入れながら学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	講義内容に関連した課題を用意する。文脈・内容・体裁・文字数・構成の工夫から理解度及び取り組みの姿勢を判断し、評価する。								
		平常点	30	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	専門的学習効果①②③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	白戸亮吉、小川由香里、鈴木研太		『生理学・生化学につながる ていねいな生物学』				羊土社					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	東京大学生命科学教科書編集委員会／編		『現代生命科学 第3版』				羊土社					
	石浦章一		『小説みたい楽しく読める生命科学講義』				羊土社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等			①医療ベーシックユニット履修者必修。テレビや新聞等で、生命科学分野の話題に注目すること(週2時間程度)。毎回の講義の当該項目について、予め教科書を読んで概要を把握しておくこと(週1時間程度)。課題レポート作成に期間合計15時間程度。 ②課題レポートについては実施後、適宜解説を行う。									

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	生命科学と現代社会のかかわり 生物とは何か、起源と進化	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命科学で扱う範囲と生物の定義を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書の冒頭をよく読み、全体にも目を通し、「生命」について考える。	
	授業内容	細胞を構成する分子、生命科学	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
2回	学習成果	生命の基本単位である細胞について構造と構成分子を説明できる。	
	予習復習の内容	細胞の構造と構成分子の確認を行う。	
3回	授業内容	生命はどのように設計されているか 細胞、遺伝情報	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	遺伝情報の伝達の仕組みを説明できる。	
	予習復習の内容	遺伝子、DNA、転写、翻訳など、用語や概念、仕組みを確認する。	
4回	授業内容	ゲノム情報はどのように発現するのか ゲノム、エピゲノム	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	ゲノムという概念や発現を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
5回	授業内容	複雑な体はどのようにしてつくられるか 発生、分化	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	ゲノム情報がどのように利用されるか概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
6回	授業内容	脳はどこまでわかったか	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	思考を司る脳について役割の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
7回	授業内容	がんとはどのような現象か	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	がんの基本的な仕組みや治療方法について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
8回	授業内容	食と健康の関係 消化、酵素、エネルギー	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食と物質移動、エネルギーの関係について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
9回	授業内容	ヒトは病原体にどのように備えるか	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	病原体と免疫について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
10回	授業内容	環境と生物はどのようにかわるか 適応、生態系、生物多様性	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生物が環境の中で適応・進化してきたことを説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
11回	授業内容	生命科学技術はここまで進んだ	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	最先端の生命科学技術について例を挙げられる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
12回	授業内容	生命倫理はどこに向かいつつあるのか	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命倫理について、概念の成立の過程と概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
13回	授業内容	生命や生物の不思議をどのように理解するか 1 (生命の不思議)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命の誕生と進化の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
14回	授業内容	生命や生物の不思議をどのように理解するか 2 (生命の理解)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命現象の説明方法について、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
15回	授業内容	私たちが今知っておくべき生命科学(まとめ)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命科学の明らかにしてきたこと、今後の課題について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	

科目名	医療事務				担当者	加藤 淳子						
区分	選択	4	単位	授業回数	30	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	医療保険制度、公費負担制度、後期高齢者医療制度を学び、医療全体の仕組みを理解でき説明できる。										
	②	診療報酬の基礎を学び、診療報酬請求事務を理解し正しく請求ができる。										
	③	請求書である診療報酬明細書を正確に記入する事ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	日本国民が関わる医療の保険制度の種類や内容を学ぶことで、医療事務員として職業自立につながる事ができる。(専門的学習成果：①)										
	(2)	診療費の計算は診療項目毎に規則があるためそれぞれの計算ルールを理解することで、正しく診療費の請求ができるようになる。(専門的学習成果：②③)										
授業概要	日本では国民皆保険が出来た事により、国民の誰もが保険で医療を受ける事が出来る。そこで医療保険制度、公費負担医療制度、後期高齢者医療制度の内容を理解する。医療機関は診療にかかった費用を患者様や保険先に請求する。この請求をするためには診療報酬請求事務をしっかり学び、診療録(カルテ)から請求書である診療報酬明細書の作成が正確にできるように、多くの練習問題を解く。当校で目指す医療事務の資格を取得できるように学習する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	ニチイ学館		『医療事務講座 医科テキスト1～4』						ニチイ学館			
	ニチイ学館		『医療事務講座 医科スタディブック』						ニチイ学館			
ニチイ学館		『医科 診療報酬点数表ハンドブック』						ニチイ学館				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等			①メディカルクラークの資格取得に必修。テキストを使用し授業を進めるため、必ずテキストを準備の上受講すること。多くの計算をするため、各自電卓を準備すること。この科目は専門用語が多く、事前にテキストを読み理解を深めておくこと。(予習：週1時間程度) 事後学習としては、毎時間学習した注意点を確認しながら宿題等の課題をこなし、技術を高めておく。(復習：週3時間程度) ②課題については実施後解答・解説を行う。									

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	この授業の概要、医療事務とは、医療事務の仕組みについて	
	学習成果	本授業の目的と内容を理解できる。医療事務の業務内容や仕組みについて理解を深める。	
3・4回	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。	
	授業内容	投薬料の算定方法 内服薬・屯服薬・外用薬の違い	
5・6回	学習成果	内服・屯服・外用薬の違いを理解し、薬剤料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、薬剤料の算定ができるように問題を解く。	
7・8回	授業内容	投薬料の算定方法 調剤料・処方料、その他加算など	
	学習成果	投薬料の調剤料、処方料など算定する項目を理解し、投薬料の算定が出来る。	
9・10回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、投薬料の算定ができるように問題を解く。	
	授業内容	投薬料 総合問題練習	
11・12回	学習成果	薬剤料、調剤料、処方料、その他の加算など理解し、投薬料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、投薬料全般の問題を解く。	
13・14回	授業内容	注射料の算定方法 皮下筋肉内注射・静脈内注射	
	学習成果	注射の種類を知り、それぞれの算定方法を理解し注射料の算定が出来る。	
15・16回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、皮下筋、静脈内注射料の問題を解く。	
	授業内容	注射料の算定方法 点滴注射などその他の注射、注射料総合問題	
17・18回	学習成果	点滴注射、その他の注射を理解し、注射料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、点滴、その他の注射の問題を解く。	
19・20回	授業内容	初診料・再診料の算定方法	
	学習成果	初診料、再診料の違いを理解し、初診、再診料の算定が出来る。	
21・22回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、初診、再診料の問題を解く。	
	授業内容	初診料・再診料の加算について	
23・24回	学習成果	時間外、休日、深夜などの加算を理解し、初診、再診料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、加算を含む初診、再診料の問題を解く。	
25・26回	授業内容	投薬・注射・初診再診料含むカルテ内容から請求書を作成する	
	学習成果	ここまでの内容を含んだ診療内容を算定し、請求書を作成する事が出来る。	
27・28回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、請求書の作成をする。	
	授業内容	医学管理料、在宅医療の計算方法	
29・30回	学習成果	医学管理料の種類と在宅医療の算定方法を理解し、それぞれの算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、医学管理料、在宅医療の問題を解く。	
21・22回	授業内容	処置料の計算方法	
	学習成果	一般、救急、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科処置の算定方法を理解しそれぞれの算定が出来る。	
23・24回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
	授業内容	処置料含むカルテ内容から請求書を作成する。	
25・26回	学習成果	耳鼻咽喉科、整形外科的処置、ギブス料の算定方法を理解し、請求書作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの診療行為を算定し、請求書の作成をする。	
27・28回	授業内容	検査料の計算方法 検体検査について (1) 尿糞便等検査、血液学的検査	
	学習成果	尿糞便等、血液学的検査料の算定方法を理解し、算定が出来る。	
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
	授業内容	検査料の計算方法 検体検査について (2) 生化学的検査Ⅰ・Ⅱ、免疫学的検査など	
21・22回	学習成果	生科学的検査Ⅰ・Ⅱ、免疫学的検査の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
23・24回	授業内容	検査料の算定方法 検体検査について (3) 微生物学的検査、練習問題	
	学習成果	微生物学的検査の算定方法を理解し、算定が出来る。	
25・26回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、検体検査全体の問題を解く。	
	課題提出	これまでの内容と検査料を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。	

科目名	医療事務演習 I				担当者	加藤 淳子						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	診療報酬請求事務の問題を解き自分のレベルを確認できる。										
	②	診療報酬の基礎を学び、診療報酬請求事務を理解し正しく請求ができる。										
	③	入院料の基礎を学び、入院の診療報酬明細書を正確に記入することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	診療報酬請求事務に必要な知識と技術を確認し自分の苦手箇所を知り、レベルアップに繋げる。(専門的学習成果：①②)										
	(2)	診療費の計算は診療項目毎に規則があるためそれぞれの計算ルールを理解することで、正しく診療費の請求ができるようになる。(専門的学習成果：②③)										
授業概要	前期の医療事務で学んだ知識と技術で、診療報酬明細書の作成を迅速かつ正確に作成できるように、診療項目の算定方法などを再度確認しながら、多くカルテ問題を解く。これにより医療事務の知識と診療報酬明細書の作成技術の向上ができる。メディカルクラークの資格を取得するための対策として、学生個々のレベルと苦手箇所を把握しかつ個人に合わせた様々な事例のカルテの問題を解く事で、苦手箇所の減少とレベルアップを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		前期の医療事務で使用した教材一式										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①1年前期で学習した「医療事務」の続きの学習となるため、授業に必要な教材、電卓の準備を忘れないこと。事前にテキストの該当部分を読み、ポイントを把握した上で授業に臨む。(予習：週1時間程度) ②宿題課題を課し翌週に提出する。採点、添削の上返却する。(復習：週1時間程度)										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	前期医療事務の復習 カルテを読み請求書作成 初再診料、投薬料、注射料含む	
	学習成果	初再診料、投薬料、注射料の請求が出来る。	
3・4回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	授業内容	前期医療事務の復習 カルテを読み請求書作成 初再診料、投薬料、注射料、処置料含む	
5・6回	学習成果	初再診料、投薬料、注射料、処置料の請求が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
7・8回	授業内容	前期医療事務の復習 カルテを読み請求書作成 初再診、投薬、注射、処置、検体検査含む	
	学習成果	検体検査料を含む請求が出来る。	
9・10回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	授業内容	検査料の計算方法 生体検査について (1) 呼吸循環機能検査、超音波検査など	
11・12回	学習成果	呼吸循環機能、超音波検査の算定方法を理解し、請求書作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
13・14回	授業内容	検査料の計算方法 生体検査について (2) 脳波検査、耳鼻咽喉科学的検査など	
	学習成果	脳波検査、耳鼻咽喉科学的検査の算定方法を理解し、請求書作成が出来る。	
15・16回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
	授業内容	検査料の計算方法 生体検査について (3) 内視鏡検査	
17・18回	学習成果	内視鏡検査の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、内視鏡検査を含む問題を解く。	
19・20回	授業内容	手術料の計算方法 手術料について	
	学習成果	手術料の算定方法を理解し、算定が出来る。	
21・22回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	授業内容	手術料の計算方法 麻酔料、輸血料について	
23・24回	学習成果	麻酔料、輸血料の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、手術料含む問題を解く。	
25・26回	授業内容	手術料を含むカルテ内容から請求書を作成する	
	学習成果	ここまでの内容を含んだ診療内容を算定し、請求書を作成する事が出来る。	
27・28回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、請求書の作成をする。	
	授業内容	画像診断料の計算方法 (1) エックス線診断料について	
29・30回	学習成果	単純撮影、造影剤使用撮影、特殊撮影などの算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、画像診断料の問題を解く。	
31・32回	授業内容	画像診断料の計算方法 (2) コンピューター断層撮影料について	
	学習成果	CT撮影、MRI撮影の算定方法を理解し、算定できる。	
33・34回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コンピューター断層撮影料の問題を解く。	
	授業内容	入院料の計算方法	
35・36回	学習成果	入院料の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、入院料の問題を解く。	
37・38回	授業内容	入院時食事療養費について	
	学習成果	入院時食事療養費の算定方法を理解し、算定が出来る。	
39・40回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、入院料と食事療養費の問題を解く。	
	授業内容	総合問題練習 (1) 外来カルテ問題	
41・42回	学習成果	外来カルテを読み診療内容を算定し、請求書の作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、総合問題を解く。	
43・44回	授業内容	総合問題練習 (2) 入院カルテ問題	
	学習成果	入院カルテを読み診療内容を算定し、請求書の作成が出来る。	
45・46回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、総合問題を解く。	

科目名	医事コンピュータ（レセコン）				担当者	加藤 淳子						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける										
専門的 学習成果	①	医事コンピュータの操作ができる。										
	②	外来診療録の入力ができる。										
	③	入院診療録の入力ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	医事コンピュータの操作技術の習得により、専門的スキルを活用した業務に取り組むことができる（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	外来診療録、入院診療録の入力技術の習得により、専門的スキルを活用した業務に取り組むことができる（専門的学習成果②③に関連）										
授業概要	初めに医事コンピュータの役割を理解する。次に「カルテ例題集」を使用し、診療所、病院、様々な診療科や年齢、傷病名の診療内容を「診療報酬点数早見表」で確認しながら正確に入力できるようにする。様々な傷病名に対する検査内容や治療内容についても、できる限り理解しながら入力できるように指導する。各自入力したレセプトを適時出力させ、正確にチェックすることにより実践に役立つまでの力を身につけることができるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	課題を2回提出させ、5%ずつ内容に沿って評価を行う。								
		入力試験	80	第15回目の授業において入力試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
			『カルテ例題集』						ケアアンドコミュニケーション			
			『スタディー2』						ニチイ			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①診療報酬の内容をしっかりと身に付けておくこと。「カルテ例題集」を活用した入力により授業を進める。事前学習としては、入力内容について不明な点をあらかじめ調べておくこと、事後学習としては授業中に習得した入力上の注意点を各自ノート等にまとめておくこと。（週1時間程度） ②随時、入力レベルのチェックを行い、その都度解説をしていく。 ③飲食物持ち込み厳禁。										

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	基本操作、外来カルテ：初診料、再診料、投薬		第9回に課題を提出させる。	
	学習成果	基本的な操作方法を習得し、簡単な入力ができる。			
	予習復習の内容	基本操作の復習をする。			
2回	授業内容	外来カルテ：医学管理、注射			
	学習成果	医学管理、注射まで入力できる。			
	予習復習の内容	操作方法の復習をする。			
3回	授業内容	外来カルテ：在宅医療、処置			
	学習成果	在宅医療、処置まで入力できる。			
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。			
4回	授業内容	外来カルテ：手術、麻酔			
	学習成果	手術、麻酔まで入力できる。			
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。			
5回	授業内容	外来カルテ：検体検査			
	学習成果	検体検査まで入力できる。			
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。			
6回	授業内容	外来カルテ：病理診断			
	学習成果	病理診断まで入力できる。			
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。			
7回	授業内容	外来カルテ：生体検査			
	学習成果	生体検査まで入力できる。			
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。			
8回	授業内容	外来カルテ：画像診断			
	学習成果	画像診断まで入力できる。			
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。			
9回	授業内容	外来総合演習			
	学習成果	さまざまな外来カルテを入力できる。			
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。			
10回	授業内容	入院カルテ		第13回に課題を提出させる。	
	学習成果	外来と入院の違いに留意しながら入力できる。			
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。			
11回	授業内容	入院カルテ			
	学習成果	外来と入院の違いに留意しながら入力できる。			
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。			
12回	授業内容	入院カルテ			
	学習成果	外来と入院の違いに留意しながら入力できる。			
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。			
13回	授業内容	入院カルテ			
	学習成果	さまざまな入院カルテを入力できる。			
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。			
14回	授業内容	総合演習			第15回に入力試験を行う。
	学習成果	学習内容を総復習することができる。			
	予習復習の内容	総復習をしておく。			
15回	授業内容	まとめ（入力試験）			
	学習成果	学習内容を総復習することができる。			
	予習復習の内容	総復習をしておく。			

科目名	医療事務特別講座 I				担当者	加藤 淳子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	受付窓口での様々な問題を想定し、その対応を適切に実践できる。										
	②	医療保険制度、高齢者医療、公費負担医療等の知識の確認ができる。										
	③	診療報酬請求事務の請求書作成と点検ができる。										
	④	資格取得に向けて、検定試験の出題範囲を理解し、検定試験の対策方法を実践する。										
汎用的 学習成果	(1)	医療機関の受付窓口で行われる、様々な事例を通して医療事務の判断力、態度、説明性など身に付く。(専門的学習成果：①)										
	(2)	国民が関わる様々な保険制度を理解できる。(専門的学習成果：②)										
	(3)	カルテ内容から請求書作成と、点検作業ができる。(専門的学習成果：③④)										
	(4)	目標とする資格取得に向けて、傾向を把握し対策を行う。(専門的学習成果：①②③④)										
授業概要	様々な患者様が来院される医療機関での窓口対応では、常に臨機応変の対応が必要とされるため、受付担当者としての判断力、言葉遣い、態度、表現、説得性が求められる。窓口で想定される事例に沿って問題点を的確に把握し、常に相手の立場に立つ技術を身につける。医療保険制度、高齢者医療、公費負担医療等を理解する事で、窓口会計の計算が確実に実践できる。医療事務の資格の取得を目標に多くの過去問題を練習し資格取得に繋げることができる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③④で評価を行う。 (4) は、専門的学習成果①②③④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	ニチイ学館		『技能審査問題集 医科 問題編』				ニチイ学館					
	ニチイ学館		『技能審査問題集 医科 解答編』				ニチイ学館					
			前期科目医療事務で使用した教材一式									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①資格取得を目標としているため、事前に該当ポイントを把握した上で授業に臨むこと。(予習：週1時間程度必要) ②宿題課題を課し翌週に提出する。採点、添削の上返却する。(復習：週3時間程度)										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	外来カルテ問題 (1) 時間外等、幼児加算等を含む診療内容	
	学習成果	時間外、幼児加算等を含む外来カルテを読み診療内容を算定し、請求書の作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、外来カルテの請求書を作成する。	
	授業内容	外来カルテ問題 (2) 初再診から検査料を含む診療内容	
2回	学習成果	初再診から検査を含む外来カルテを読み診療内容を把握し、請求書の作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、外来カルテの請求書を作成する。	
3回	授業内容	外来カルテ問題 (3) 初再診から手術、画像診断料を含む診療内容	
	学習成果	初再診から手術、画像診断を含む外来カルテを読み診療内容を把握し、請求書の作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、外来カルテの請求書を作成する。	
	授業内容	入院カルテ問題 (1) 入院料、手術、麻酔料を含む診療内容	
4回	学習成果	入院料、手術、麻酔を含む入院カルテを読み診療内容を把握し、請求書の作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、入院カルテの請求書を作成する。	
5回	授業内容	患者対応問題 (1) 診察券不備の患者様、薬をなくした患者様対応など	
	学習成果	急な来院で診察券不備の患者様、処方した薬をなくした患者様の対応が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、類似する事例に対応する。	
	授業内容	患者対応問題 (2) 健康診断後に診察する患者様、待たされて苦情を言う患者様対応など	
6回	学習成果	健康診断後に診察する患者様、待たされて苦情を言う患者様への対応が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、類似する事例に対応する。	
7回	授業内容	患者対応問題 (3) 会計で金額不足の患者様、保険証が変更になる患者様対応など	
	学習成果	金額不足の患者様、保険証が変更になる患者様への対応が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、類似する事例に対応する。	
	授業内容	学科問題 (1) 医療保険制度、公費負担制度、入院料、投薬、処置などの算定	
8回	学習成果	医療保険制度、公費負担制度、入院料、投薬、処置の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	
9回	授業内容	学科問題 (2) 療養担当規則、初再診料、医学管理、検査などの算定	
	学習成果	療養担当規則、初再診料、医学管理、検査の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	
	授業内容	学科問題 (3) 介護保険制度、窓口徴収額、注射などの算定	
10回	学習成果	介護保険制度、窓口徴収額、注射の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	
11回	授業内容	学科問題 (4) 法別番号、健康保険法、手術、麻酔などの算定	
	学習成果	法別番号、健康保険法、手術、麻酔の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	
	授業内容	実技問題 レセプト点検 (1) 外来問題2問	
12回	学習成果	カルテ内容を読み間違っているレセプトを点検し修正・削除等を行い正しい請求書を作成する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	
13回	授業内容	実技問題 レセプト点検 (2) 外来問題1問、入院問題1問	
	学習成果	カルテ内容を読み間違っているレセプトを点検し修正・削除等を行い正しい請求書を作成する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	
	授業内容	実技問題 レセプト点検 (3) 外来問題3問	
14回	学習成果	カルテ内容を読み間違っているレセプトを点検し修正・削除等を行い正しい請求書を作成する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	
15回	授業内容	実技問題 レセプト点検 (1) 外来問題3問、入院問題1問	
	学習成果	カルテ内容を読み間違っているレセプトを点検し修正・削除等を行い正しい請求書を作成する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	

科目名	医事業務				担当者	ヨコ 横 尾 由 香						
区 分	選択	4	単位	授業回数	30	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	医師事務作業補助者誕生の経緯を理解し、その必要性を説明することができる。										
	②	医療機関における個人情報の取り扱いや電子カルテについての注意事項について、述べることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	医師事務作業補助者誕生の経緯、その必要性を理解し、職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	医師事務作業補助者に必要な知識を習得することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	医師事務作業補助者が誕生した背景として、医師不足や医師の過重労働という極めて深刻な現状がある。その現状をしっかりと理解し、医師事務作業補助者の技能を習得することにより医師の業務負担軽減につながる医療従事者になることを目指す。また、医師事務作業補助者に必要な個人情報の適切な取り扱い、電子カルテシステムについて、医療機関の安全管理、院内感染予防等について学習し、「医師事務作業補助者技能認定試験」合格レベルを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	レポートを提出させ、内容に沿って評価を行う。								
		小テスト										
		筆記試験	70	第15回目と第30回目の授業において筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。										
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『医師事務作業補助者養成講座 テキスト1・2』				ソラスト						
		『医療関連法規』				ソラスト						
		『医学入門』				ソラスト						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『医療保障制度』(テキスト1)				ソラスト						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①「医師事務補助ユニット」履修者必修。医療の制度、医事業事法規も履修していること。テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりすること。(復習：週2時間程度) ②小テストに対するフィードバックは、実施後に正解を示し、解説を行う。レポートに対するフィードバックは、添削を行う。											

授業計画			学習成果の評価	授業計画			学習成果の評価				
1回	授業内容	医師事務作業補助者とは	第6回にレポートを提出する	16回	授業内容	薬の基本知識	第24回にレポートを提出する				
	学習成果	医師事務作業補助者の誕生経緯を理解し、概要を説明できる。			学習成果	薬の基本知識について理解し、重要性を説明することができる。					
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。					
2回	授業内容	医師事務作業補助者とは		第11回にレポートを提出する	17回	授業内容		薬の基本知識			
	学習成果	医師事務作業補助者の業務範囲を理解し、概要を説明できる。				学習成果		薬の基本知識について理解し、重要性を説明することができる。			
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。				予習復習の内容		テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。			
3回	授業内容	医師事務作業補助者とは			第19回にレポートを提出する	18回		授業内容	薬の基本知識		
	学習成果	医師事務作業補助者の業務範囲を理解し、概要を説明できる。						学習成果	薬の基本知識について理解し、重要性を説明することができる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。						予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
4回	授業内容	個人情報保護				第24回にレポートを提出する		19回	授業内容	学科レポート	
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。							学習成果	第六・七部・薬の基本知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。							予習復習の内容	レポートの振り返りをする。	
5回	授業内容	個人情報保護						第30回に筆記試験を実施する	20回	授業内容	診療録の記載について
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。								学習成果	診療録の役割や構成を学び、文書作成に役立てることができる。
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。								予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。
6回	授業内容	学科レポート	第19回にレポートを提出する						21回	授業内容	診療録の記載について
	学習成果	第一・二・三部の知識の確認ができる。								学習成果	診療録の役割や構成を学び、文書作成に役立てることができる。
	予習復習の内容	レポートの振り返りをする。								予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。
7回	授業内容	電子カルテシステム		第19回にレポートを提出する					22回	授業内容	処方せんの記載について
	学習成果	電子カルテシステムの概要を理解し、カルテ等の代行人力に活かすことができる。								学習成果	処方せんについて学び、代行作成をすることができる。
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。								予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。
8回	授業内容	電子カルテシステム			第19回にレポートを提出する				23回	授業内容	処方せんの記載について
	学習成果	電子カルテシステムの概要を理解し、カルテ等の代行人力に活かすことができる。								学習成果	処方せんについて学び、代行作成をすることができる。
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。								予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。
9回	授業内容	医療機関の安全管理				第19回にレポートを提出する			24回	授業内容	学科レポート
	学習成果	医療機関の安全管理について理解し、その重要性を説明することができる。								学習成果	診療録・処方箋の知識の確認ができる。
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。								予習復習の内容	レポートの振り返りをする。
10回	授業内容	医療機関の安全管理						第19回にレポートを提出する	25回	授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」学科問題
	学習成果	医療機関の安全管理について理解し、その重要性を説明することができる。								学習成果	問題集を使って認定試験へ向けた知識を習得することができる。
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。								予習復習の内容	ここまでの総復習、過去問の振り返り。
11回	授業内容	学科レポート	第19回にレポートを提出する				26回		授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」学科問題	
	学習成果	第四・五部の知識の確認ができる。							学習成果	問題集を使って認定試験へ向けた知識を習得することができる。	
	予習復習の内容	レポートの振り返りをする。							予習復習の内容	ここまでの総復習、過去問の振り返り。	
12回	授業内容	院内感染予防		第19回にレポートを提出する			27回		授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」学科問題	
	学習成果	院内感染について理解し、予防の重要性を説明することができる。							学習成果	問題集を使って認定試験へ向けた知識を習得することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。							予習復習の内容	ここまでの総復習、過去問の振り返り。	
13回	授業内容	院内感染予防			第19回にレポートを提出する		28回		授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」学科問題	
	学習成果	院内感染について理解し、予防の重要性を説明することができる。							学習成果	問題集を使って認定試験へ向けた知識を習得することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。							予習復習の内容	ここまでの総復習、過去問の振り返り。	
14回	授業内容	医療知識(一般的な医療内容)				第19回にレポートを提出する	29回		授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」学科問題	
	学習成果	診療録の構成を理解し、重要性を説明することができる。							学習成果	問題集を使って認定試験へ向けた知識を習得することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。							予習復習の内容	ここまでの総復習、過去問の振り返り。	
15回	授業内容	医療知識(医療用語)					第19回にレポートを提出する	30回	授業内容	筆記試験	
	学習成果	診療録や処方箋に記載される用語について、調べ方を学習する。							学習成果	1年間の知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。							予習復習の内容	1年間の総復習をする。	

科目名	医師事務補助特別講座 I				担当者	横尾由香						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	様々な医療文書の役割、内容について説明することができる。										
	②	カルテを読み取り、各種の医療文書を代行作成することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療文書の役割を学習することにより、正確に文書の代行作成を行うことができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	医師事務作業補助者に必要な医療文書の代行作成技術を習得することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	医療保険制度や公費負担医療等の概要を学習したうえで各種文書の利用目的を正確に理解することと、病名から必要な検査や治療を確認しながらカルテを丁寧に読み込む力を身に付けることにより、医療現場において迅速かつ正確に診療録の代行入力や医療文書作成などができる医師事務作業補助者になることを目指す。また、各種の医療文書を的確に作成できるようになることにより、「医師事務作業補助者技能認定試験」合格レベルを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	作成した医療文書を随時提出させ、内容に沿って評価を行う。								
		筆記試験	70	第15回目の授業において筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『医師事務作業補助者養成講座 テキスト1・2』				ソラスト						
		『医療関連法規』				ソラスト						
		『医学入門』				ソラスト						
		『医療保障制度』(テキスト1)				ソラスト						
		『医師事務作業補助者 検定試験問題集』				ソラスト						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①「医師事務補助ユニット」履修者必修。 医療の制度、医事業事法規も履修していること。 テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してくること。(予習：週2時間程度)事後学習としては授業中に行う練習問題の復習をしっかりとすること。(復習：週2時間程度) ②授業中に行う練習問題に対して、その場でチェック・解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	診療録の記載について	
	学習成果	診療録の役割や構成を学び、文書作成に役立つことができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	処方せんの記載について	
2回	学習成果	処方せんについて学び、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
3回	授業内容	入院診療計画書、一般診断書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	4回	授業内容	入院・手術診断書、傷害保険診断書
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
5回	授業内容	死亡診断書・死体検案書、出生証明書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	6回	授業内容	おむつ使用証明書、傷病手当金支給申請書
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
7回	授業内容	出産手当金支給申請書、診療情報提供書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	8回	授業内容	医療要否意見書、自賠責保険診断書
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
9回	授業内容	休業(補償)給付支給申請書、主治医意見書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	10回	授業内容	退院時要約、健康診断書
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
11回	授業内容	出産育児一時金支給申請書、臨床調査個人票	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	12回	授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」実技問題
	学習成果	問題集を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	ここまでの総復習、問題集の振り返り。	
13回	授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」実技問題	
	学習成果	問題集を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	ここまでの総復習、問題集の振り返り。	
	14回	授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」実技問題
	学習成果	問題集を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	ここまでの総復習、問題集の振り返り。	
15回	授業内容	筆記試験	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	全体の総復習をする。	

科目名	登録販売者資格特別講座				担当者	丸山 稔・加藤 淳子・渡部 成子・渡部 俊彦						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		学内教員の丸山が窓口となって、非常勤講師陣への連絡や質問に対応する。										
専門的 学習成果	①	薬を服用する目的と重要性を説明できる。										
	②	薬に関わる専門用語を説明できる。										
	③	主な疾患の治療に使用される薬を挙げられる。										
	④	薬に関する法律・制度の概要を説明できる。										
	⑤	医薬品の使用方法を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	登録販売者として、医薬品を適切に提供することができる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)										
	(2)	登録販売者として、患者の質問に適切に回答できる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)										
授業概要	登録販売者の業務を遂行するために必要とされる知識を学ぶ。また、学んだ知識が登録販売者試験に活用できるように演習問題を使った学習を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	100	講義で説明した知識に関する試験を行い、知識を理解度・定着度の評価を行う。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	藤澤節子		『完全攻略 医薬品 登録販売者試験合格テキスト』						中央法規			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義する内容を教科書で確認すること（予習：1時間程度）。 また、講義内容を理解できているかを練習問題を使って確認すること（復習：1時間程度）。 ②解説を見ても解けない練習問題があれば質問すること。質問についての回答は、講義中またはメールを用いて行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	薬の作用を知るための理論を学ぶ。		小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	医薬品の薬理作用を説明できる。		
	予習復習の内容	代表的な医薬品の薬理作用に関する練習問題を解く。		
	授業内容	医薬品が人体に与える影響を学ぶ。		小テストを実施し、理解度を評価する。
2回	学習成果	医薬品の副作用を説明できる。		
	予習復習の内容	医薬品の副作用に関する練習問題を解く。		
	授業内容	主な医薬品の効果や作用機序を学ぶ (1)。		小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	主な医薬品の効果や作用機序を説明することができる。		
3回	予習復習の内容	主な医薬品の効果や作用機序に関する練習問題を解く。		
	授業内容	主な医薬品の効果や作用機序を学ぶ (2)。		小テストを実施し、理解度を評価する。
4回	学習成果	主な医薬品の効果や作用機序を説明することができる。		
	予習復習の内容	主な医薬品の効果や作用機序に関する練習問題を解く。		
	授業内容	外用薬・禁煙補助薬・一般用検査薬等について学ぶ。		小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	外用薬・禁煙補助薬・一般用検査薬等の効果や作用機序を説明することができる。		
5回	予習復習の内容	外用薬・禁煙補助薬・一般用検査薬等に関する練習問題を解く。		
	授業内容	薬事関係法規、制度について学ぶ。		小テストを実施し、理解度を評価する。
6回	学習成果	薬事関係法規や制度について説明することができる。		
	予習復習の内容	薬事関係法規や制度に関する練習問題を解く。		
	授業内容	医薬品の適正使用、安全対策について学ぶ。		小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	医薬品を正しく、安全に使用方法を説明できる。		
7回	予習復習の内容	医薬品を正しく、安全に使用方法に関する練習問題を解く。		
	授業内容	登録販売者試験の過去問を使い、1～7回目の内容についての復習とまとめを行う。		小テストを実施し、理解度を評価する。
8回	学習成果	登録販売者試験の過去問を解くことができる。		
	予習復習の内容	登録販売者試験の過去問を解く。		
	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
	授業内容			
	学習成果			
		予習復習の内容		
授業内容				
	学習成果			
		予習復習の内容		
授業内容				
	学習成果			
		予習復習の内容		
授業内容				
	学習成果			
		予習復習の内容		

科目名	ファッションビジネス				担当者	江 戸 純 美						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は、毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	ファッション業界について客観的に理解でき、その流れを説明できる。										
	②	ファッションビジネスの歴史について理解でき、その概要を説明できる。										
	③	ファッション業界にかかわる者としての使命と責任について理解でき、概要を説明できる。										
	④	ファッション業界の課題を理解し、改善のための指針を提示できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたファッションビジネスに関する学習を通じて、ファッションに関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を修得し活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	ファッションマップの作成とプレゼンテーションを通じて、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果①③④に関連)										
	(3)	ファッションマップの作成とプレゼンテーションを通じて、修得した知識や技能を活用し課題解決に向けた行動ができる。(専門的学習成果①③④に関連)										
授業概要	ファッション業界を、消費者側と企業側の両面からとらえ、マーケティング、マーチャンダイジング、ディストリビューション、ロジスティクス、小売り産業、VMD、消費者心理、計数管理等、多方面にわたって基礎知識を学ぶ。また、雑誌から写真の切り貼りを行うことで、マーケティングの分類方法を学び、ファッションを広い角度から理解する。同時に、「ファッションビジネス能力検定・3級」のファッションビジネス知識分野の対策を行い、プリント学習によって検定試験の合格を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	各自でショッピングリサーチを行い、期日までに提出する。各項目の理解の程度および完成度で評価を行う。								
		小テスト	30	3回実施し、各回10%を配点する。2～4回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
		課題	50	ファッションマップ作成を通して、様々なファッションイメージの分類を行う。第15回目にプレゼンテーションを行い、理解の程度および完成度で評価を行う。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①③④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本ファッション教育 振興協会	『ファッションビジネス [I] 改訂版』										
	日本ファッション教育 振興協会	『ファッションビジネス用語辞典 改訂第3版』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前にテキストの該当部分を読みポイントを把握したうえで(計15時間)授業に臨み、ファッションビジネス能力検定試験の受験を常に意識し、講義内容の理解を深めておく(計30時間)。また、小テストと課題の作成には十分な準備を行い(計15時間)理解の定着に努めること。課題の作成に必要な雑誌、ハサミ、ノリは各自で準備すること。 ②小テストは授業で返却し解説を行う。また、学習プリントも同様に解説を行う。レポートと課題は、授業の中で講評を行い、返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ファッションビジネスの概要、定義、特性、市場調査の基礎とショッピングリサーチの実践	
	学習成果	ファッションについて、客観的に考えることができる。	
2回	予習復習の内容	テキストの該当ページを予め読んでおくこと。リサーチしたい店舗をあらかじめ準備しておくこと。	
	授業内容	ファッション消費と消費者行動、ファッション表現	
3回	学習成果	消費者に関して、客観的に考えることができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを予め読んでおくこと。	
4回	授業内容	アパレル産業の概要	
	学習成果	商品の流れについて理解できる。	
5回	予習復習の内容	テキストの該当ページを予め読んでおくこと。	
	授業内容	小売り産業の概要	
6回	学習成果	店舗の特徴について理解できる。	
	予習復習の内容	普段から様々な店舗を見学しておくこと。	
7回	授業内容	ファッションマーケティングの基礎知識	
	学習成果	マーケティングの必要性が理解できる。	
8回	予習復習の内容	テキストの該当ページを予め読んでおくこと。	
	授業内容	ファッションマーチャンダイジングの基礎知識	
9回	学習成果	商品の開発、企画の手順について理解できる。売り場の構成しくみやVMDの役割について理解できる。	
	予習復習の内容	人気商品の特徴など、人気の理由について考えてみること。普段から様々な店舗を見学しておくこと。	
10回	授業内容	ファッション流通、流通業務と小売企業の仕組み	
	学習成果	小売店の業種、業態について理解できる。	
11回	予習復習の内容	小売店の種類について確認しておくこと。	
	授業内容	会社の組織、計数管理の基礎知識	
12回	学習成果	電卓を使用し、店舗運営に必要な計算ができる。	
	予習復習の内容	会社の役職等について確認しておくこと。	
13回	授業内容	ファッションの歴史	
	学習成果	衣服とデザインの歴史について理解し、概要を説明できる。デザイン画とその他の名称についても理解し、概要を説明できる。	
14回	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。人体のプロポーションについて、確認しておくこと。	
	授業内容	ファッションコーディネート基礎知識と企業の商品提案	
15回	学習成果	企業のスタイリングと個人のコーディネートの違いが理解できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
16回	授業内容	ファッションイメージ分類① 写真収集とグループ分け	
	学習成果	写真からイメージ分類を判断理解できる。	
17回	予習復習の内容	様々なジャンルの雑誌の準備、写真の収集(80体以上)を予めしておくこと。	
	授業内容	ファッションイメージ分類② グループ分けと貼付	
18回	学習成果	写真からイメージ分類を判断・理解できる。	
	予習復習の内容	様々なジャンルの雑誌の準備、写真の収集(80体以上)を予めしておくこと。	
19回	授業内容	オケージョンとスタイリング分類	
	学習成果	写真からオケージョン分類を判断・理解できる。	
20回	予習復習の内容	様々なジャンルの雑誌の準備、写真の収集(80体以上)を予めしておくこと。	
	授業内容	課題作成の仕上げとプレゼンテーション、講評	
21回	学習成果	課題作品によって自己表現ができる。	
	予習復習の内容	発表内容を予め準備しておくこと。	
22回	授業内容	検定対策授業 過去問と解説	
	学習成果	検定試験に向けての意識付けとスキルアップができる。	
23回	予習復習の内容	フィードバックされた内容を確認すること。	
	授業内容	ファッションマーケティングの基礎知識	
24回	学習成果	マーケティングの必要性が理解できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを予め読んでおくこと。	
25回	授業内容	ファッションマーチャンダイジングの基礎知識	
	学習成果	商品の開発、企画の手順について理解できる。売り場の構成しくみやVMDの役割について理解できる。	
26回	予習復習の内容	人気商品の特徴など、人気の理由について考えてみること。普段から様々な店舗を見学しておくこと。	
	授業内容	ファッション流通、流通業務と小売企業の仕組み	
27回	学習成果	小売店の業種、業態について理解できる。	
	予習復習の内容	小売店の種類について確認しておくこと。	
28回	授業内容	会社の組織、計数管理の基礎知識	
	学習成果	電卓を使用し、店舗運営に必要な計算ができる。	
29回	予習復習の内容	会社の役職等について確認しておくこと。	
	授業内容	ファッションの歴史	
30回	学習成果	衣服とデザインの歴史について理解し、概要を説明できる。デザイン画とその他の名称についても理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。人体のプロポーションについて、確認しておくこと。	
31回	授業内容	ファッションコーディネート基礎知識と企業の商品提案	
	学習成果	企業のスタイリングと個人のコーディネートの違いが理解できる。	
32回	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
	授業内容	ファッションイメージ分類① 写真収集とグループ分け	
33回	学習成果	写真からイメージ分類を判断理解できる。	
	予習復習の内容	様々なジャンルの雑誌の準備、写真の収集(80体以上)を予めしておくこと。	
34回	授業内容	ファッションイメージ分類② グループ分けと貼付	
	学習成果	写真からイメージ分類を判断・理解できる。	
35回	予習復習の内容	様々なジャンルの雑誌の準備、写真の収集(80体以上)を予めしておくこと。	
	授業内容	オケージョンとスタイリング分類	
36回	学習成果	写真からオケージョン分類を判断・理解できる。	
	予習復習の内容	様々なジャンルの雑誌の準備、写真の収集(80体以上)を予めしておくこと。	
37回	授業内容	課題作成の仕上げとプレゼンテーション、講評	
	学習成果	課題作品によって自己表現ができる。	
38回	予習復習の内容	発表内容を予め準備しておくこと。	
	授業内容	検定対策授業 過去問と解説	
39回	学習成果	検定試験に向けての意識付けとスキルアップができる。	
	予習復習の内容	フィードバックされた内容を確認すること。	

科目名	ファッションアドバイザー				担当者	江 戸 純 美						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は、毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	ファッション販売にかかわる接客技術、販売知識、消費者心理について理解し、実践することができる。										
	②	ファッションビジネスに関する基礎知識を理解し、概要を説明できる。										
	③	店舗運営に関する基礎知識と、営業中のオペレーションの流れを理解し、概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたファッション販売に関する学習を通して、販売員の社会的地位向上に取り組むことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	多様化する消費者ニーズを把握し、課題解決の方法を提示できる。(専門的学習成果①③に関連)										
	(3)	ファッション業界が社会に与える影響を理解し、消費者への適切な提案ができる。(専門的学習成果①③に関連)										
授業概要	ファッションビジネスの基礎知識を学び、プロ販売員としての自覚を養うことを目的とする。接客・販売はもちろんのこと、店舗運営や情報収集、計数管理などの様々な業務の流れについても、事例をあげながら解説を行う。同時に、ファッション販売能力検定3級A分野の対策授業であり、小テストや過去問題によるプリント学習を行い、検定の合格を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	課題	40	コーディネート提案シートを作成し、第15回にプレゼンテーションを行う。理解の程度と完成度で評価する。								
		レポート	20	学外授業にて、ショップでの接客リサーチを行い、レポートにまとめ期日までに提出する。各項目の理解の程度および完成度で評価を行う。								
		小テスト	40	4回実施し、各回10%を配点する。2～4回分の授業内容について、理解の程度を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本ファッション教育振興協会		『ファッション販売3』									
	日本ファッション教育振興協会		『ファッションビジネス用語辞典 改訂第3版』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストの該当部分を読みポイントを把握したうえで(計15時間)授業に臨み、ファッション販売能力検定試験の受験を常に意識し、講義内容の理解を深めておく(計30時間)。また、小テストとプリント学習には十分な準備を行い(計15時間)理解の定着に努めること。 ②小テストは授業で返却し解説を行う。また、学習プリントも同様に解説を行う。課題は第12回に講評を行い授業内で返却を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ファッション販売知識と販売技術の基礎知識	
	学習成果	ファッション業界を企業側の目線で考えることができる。	
2回	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
	授業内容	ファッション専門用語解説①基礎用語について	
3回	学習成果	ファッション業界で使用する専門用語を理解し、使うことができる。	
	予習復習の内容	配布された資料に目を通しておくこと。	
4回	授業内容	接客の基本とコンサルティングセールス	
	学習成果	購買心理を理解し、接客の基本ステップを実践できる。	
5回	予習復習の内容	日頃から様々なサービスを受けてみること。	
	授業内容	販売スタッフの業務①	
6回	学習成果	開店から閉店までの仕事の流れを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
7回	授業内容	販売スタッフの業務②	
	学習成果	営業中の業務について理解し説明できる。	
8回	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
	授業内容	販売スタッフの業務③ 備品、商品管理、店舗計数知識	
9回	学習成果	業務に関わる備品商品管理について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
10回	授業内容	店舗演出について	
	学習成果	店舗レイアウトや商品の見せ方について理解し、説明できる。	
11回	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
	授業内容	色彩と配色の知識	
12回	学習成果	色彩と配色の知識について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
13回	授業内容	課題作成① トーンイメージの分類	
	学習成果	色の持つイメージについて理解し、選択・収集することができる。	
14回	予習復習の内容	雑誌写真の収集は各自で行うこと、レイアウトを考えること。	
	授業内容	課題作成②	
15回	学習成果	色の持つイメージについて理解し、選択・収集することができる。	
	予習復習の内容	雑誌写真の収集は各自で行うこと、レイアウトを考えること。	
16回	授業内容	課題作成③ 仕上げ・発表の準備	
	学習成果	色の持つイメージについて理解し、選択・収集することができる。	
17回	予習復習の内容	雑誌写真の収集は各自で行うこと、レイアウトを考えること。	
	授業内容	課題プレゼンテーション講評	
18回	学習成果	自分の作品の特徴を、他者に伝達できる。	
	予習復習の内容	他者の発表をよく聞き、自己の長所と改善点を見つけること。	
19回	授業内容	検定試験対策①ファッション販売知識に関する過去問題	
	学習成果	検定試験に対する意識を持ち、合格を目指すことができる。	
20回	予習復習の内容	配布資料に目を通し、過去問題は繰り返しチャレンジすること。	
	授業内容	検定試験対策②店舗演出に関する過去問題	
21回	学習成果	検定試験に対する意識を持ち、合格を目指すことができる。	
	予習復習の内容	配布資料に目を通し、過去問題は繰り返しチャレンジすること。	
22回	授業内容	検定試験対策③ファッション販売業務に関する過去問題	
	学習成果	検定試験に対する意識を持ち、合格を目指すことができる。	
23回	予習復習の内容	配布資料に目を通し、過去問題は繰り返しチャレンジすること。	

科目名	カラーコーディネートⅠ				担当者	ミツヅカ ユミ子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は、毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	色彩の基礎を理解し、概要を説明することができる。										
	②	用途や目的に合わせた色を選択し、提案をすることができる。										
	③	色彩の知識を習得し、デザインなどの現場で活用することができる。										
	④	配色の基礎を理解し、適切な配色提案をすることができる。										
	⑤	色の心理的な効果を理解し、概要を説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた色彩の学習を通じて、色彩に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識・技術を習得し、活用することができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
	(2)	カード演習を通じて、目的に応じた色彩の選択・提案を行うことができる。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	色彩心理を理解し、生活に密着した安全で安心な色の使用方法を提案できる。(専門的学習成果①②⑤に関連)										
	(4)											
授業概要	色彩の基礎知識を学び、色の様々な効果や機能を理解する。安全な生活やデザインに色彩の知識を生かすため、配色カードによる演習を行い、目的に合わせた色の使い方を身に付ける。色彩能力検定3級の検定対策授業であるため、配色演習の他、プリント問題、過去問題による学習を中心に行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	40	全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
		小テスト	10	2回実施し各5%の配点とする。								
		平常点	50	テキスト中のカラーサークル作成、配色演習を時間内に完成させることで、評価を行う。10回実施し、各回5%を配点する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)(3)については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③④で評価を行う。 (3)は専門的学習成果①②⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	色彩検定協会	『色彩検定公式テキスト3級編』				色彩検定協会						
	日本色研事業(株)	『新配色カード199a』				日本色研事業						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等											
①色彩能力検定3級の受験対策として開講する。テキストと配色カードの他、ハサミとノリを各自で準備すること。配色演習によって評価を行う回があるため、忘れ物がある場合には遅れをとることになるので注意が必要。 事前にテキストの該当部分を読みポイントを把握したうえで(計15時間)授業に臨み、色彩能力検定試験の受験を常に意識し、講義内容の理解を深めておく(計30時間)。また、プリント学習には十分な準備を行い(計15時間)理解の定着に努めること。 ②配色演習については、その都度詳しく説明を行うので、指示に従うこと。学習プリントや過去問題については、講義の中で解説し返却する。												

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	色の三属性、光と色について	小テスト 2回目に実施
	学習成果	色の三属性と光の特性について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	配布資料に目を通しておくこと。	
	授業内容	色が見える仕組み、眼球の構造と脳への伝達について	
2回	学習成果	色が見える仕組みについて理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
3回	授業内容	PCCS ヒュートーンシステムと配色カードの使い方、カラーサークル作成	小テスト
	学習成果	ヒュートーンシステムを理解し、配色カードを使うことができる。	
	予習復習の内容	カードの裏面を確認し、記号と番号を覚えておくこと。	
4回	授業内容	色彩心理効果、色の表示方法、カラーサークル作成	カラーサークル作成
	学習成果	色の心理効果と三属性の関係を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
5回	授業内容	色名表示、等色相面、色立体、カラーサークル作成	カラーサークルの完成
	学習成果	色立体と色の配置、順序を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	カラーサークルは5回終了時までに完成させること。	
6回	授業内容	色の対比①対比現象とは 明度対比、配色演習	配色演習
	学習成果	対比について理解し、明度対比の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
7回	授業内容	色の対比②彩度対比、配色演習、プリント学習	配色演習
	学習成果	対比について理解し、彩度対比の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
8回	授業内容	色の対比③対比色相、配色演習	配色演習
	学習成果	対比について理解し、色相対比の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
9回	授業内容	色の対比④補色対比。配色演習、プリント学習	配色演習
	学習成果	対比について理解し、補色対比の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
10回	授業内容	色の同化効果、その他の色彩効果、配色演習	配色演習
	学習成果	色の対比効果と同化効果の違いを理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
11回	授業内容	配色とは 色相配色①同一色相配色、配色演習、プリント学習	配色演習
	学習成果	配色の意味を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
12回	授業内容	色相配色②隣接色相配色、類似色相配色、配色演習	配色演習
	学習成果	色相配色の計算方法を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
13回	授業内容	色相配色③中差色相配色、対照色相配色、配色演習	配色演習
	学習成果	配色方法の計算方法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
14回	授業内容	色相配色④補色色相配色、配色演習、検定対策プリント学習	配色演習
	学習成果	配色方法の計算方法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
15回	授業内容	検定対策過去問題解説	
	学習成果	過去の検定試験の傾向をつかみ、問題を解くことができる。	
	予習復習の内容	学習プリントと過去問題は、繰り返しチャレンジすること。	

科目名	カラーコーディネートⅡ				担当者	三塚 由美子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は、毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	多様な配色方法を理解し、目的や機能に合わせた提案やアドバイスができる。										
	②	様々な事例について、色の使い方を分析し、応用、実践することができる。										
	③	色彩検定3級の受験にチャレンジし、資格を取得することで就職活動に生かすことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	多様な事例に対して、消費者への適切なアドバイスができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	資格取得に向けた色彩への取り組みを通じて、あらゆる方面への色彩活用を理解し、実践することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	課題作品の作成を通して、自己表現と他者への理解ができる。										
授業概要	前期開講の「カラーコーディネートⅠ」に引き続いて、テキスト途中のトーン配色から開講する。配色カードを使って多様な配色方法について学び、スキルを身に付ける。様々な事例を用いながら解説し、実践に応用できるようレッスンを行う。また、色彩能力検定3級の受験対策授業であり、学習プリントや過去問題に繰り返しチャレンジし、合格を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		平常点	25	テキスト中の配色演習と配色種類の作成を時間内に完成または提出することで、評価を行う。5回実施し、各回5%を配点する。								
		課題提出	50	第11回～15回で課題を作成し、時間内に提出すること。理解の程度と完成度で評価を行う。各回10%を配点する。								
汎用的 学習成果		25	5回実施し、各回5%の配点とする。									
	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
	色彩検定協会	『色彩検定公式テキスト3級編』			色彩検定協会							
	日本色研事業(株)	『新配色カード199a』			日本色研事業							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名			出版社名							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①色彩能力検定3級の受験対策として開講する。そのため、「カラーコーディネートⅠ」の履修者に限って受講することができる。テキストと配色カードの他、ハサミとノリを各自で準備すること。配色演習と課題提出によって評価を行う回があるため、忘れ物がある場合には遅れをとることになるので注意が必要。 事前にテキストの該当部分を読みポイントを把握したうえで(計15時間)授業に臨み、色彩能力検定試験の受験を常に意識し、講義内容の理解を深めておく(計30時間)。また、プリント学習には十分な準備を行い(計15時間)理解の定着に努めること。 ②配色演習については、その都度詳しく説明を行うので、指示に従うこと。学習プリントや過去問題については、講義の中で解説し返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	トーン配色①同一トーン配色、類似トーン配色、配色演習	配色演習
	学習成果	トーンから考える配色を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
	授業内容	トーン配色②対照トーン配色、明度方向と彩度方向、配色演習	配色演習
2回	学習成果	トーンから考える配色を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
	3回	授業内容	アクセントカラー、セパレーションカラー、グラデーション、配色演習
	学習成果	色の面積配分、分離の目的、段階的变化について理解し、実践できる。	配色演習
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
4回	授業内容	生活と色彩	小テスト
	学習成果	生活全般にわたる色の効果について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
	5回	授業内容	ファッションと色彩
	学習成果	ファッションに必要な色の知識を深め、提案を実践できる。	小テスト
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
6回	授業内容	インテリア、環境と色彩	小テスト
	学習成果	インテリアや環境に必要な色の知識を深め、提案を実践できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
	7回	授業内容	検定対策、過去問題解答解説
	学習成果	色彩検定に向けて、過去問題に取り組み理解することができる。	小テスト
	予習復習の内容	配布資料と学習プリントに目を通しておくこと。	
8回	授業内容	検定対策、過去問題解答解説	小テスト
	学習成果	色彩検定に向けて、過去問題に取り組み理解することができる。	
	予習復習の内容	配布資料と学習プリントに目を通しておくこと。	
	9回	授業内容	配色類型①2色～6色配色の作り方、配色演習
	学習成果	多色配色による提案を理解し、実践することができる。	配色演習
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
10回	授業内容	配色類型②様々な配色類型、配色演習	配色演習
	学習成果	多色配色による提案を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
	11回	授業内容	色彩分析①ファッションの色彩、課題作成、提出
	学習成果	ファッションの配色の特徴を理解し、実践することができる。	課題提出
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
12回	授業内容	色彩分析②インテリアの色彩、課題作成、提出	課題提出
	学習成果	インテリアの配色の特徴色を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
	13回	授業内容	色彩分析③景観の色彩、課題作成、提出
	学習成果	景観の配色の特徴を理解し、実践することができる。	課題提出
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
14回	授業内容	色彩分析④雑貨・小物の色彩、課題作成、提出	課題提出
	学習成果	雑貨・小物の配色の特徴を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
	15回	授業内容	色彩分析⑤食品パッケージの色彩、課題作成、提出
	学習成果	食品パッケージの配色の特徴を理解し、実践することができる。	課題提出
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	

科目名	ファッションデザイン				担当者	カナザワチキ晶							
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期	
				授業時間数	30 <th>時間</th>	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		2階204教室（洋裁室）の隣の研究室にいらして下さい。											
専門的 学習成果	①	ファッションデザインの歴史・過程を知り、各年代のデザイナーを知ることができる。											
	②	洋服のデザイン（シルエット・ディテール）の名称を知ることができる。											
	③	新たなデザインの発想をする力を身に付け、提案することができる。											
	④	フォーマルの場に着用する正しい服装を知ることができる。											
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたフォーマルの場に着用する服装の学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果④に関連）											
	(2)	ファッションのデザインを発想し、デザイン画に表現することを通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果②③に関連）											
	(3)	ファッションデザインの種類や名称を学習することを通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③④に関連）											
授業概要	衣服は人間が直接身につけるものであるため、非常に関心が高く、ファッションの個性化が求められる。基礎となるデザインを統計的に習得し、写真やイラストにより視覚的に理解することを目的とした。ファッションデザインの基礎的な知識や豊かで美的なデザイン発想力が養われるよう、デザインの発想法や美的形式原理などについて学ぶ。また、フォーマルスペシャリスト検定準2級の合格を目指す。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	10	レポート課題を実施し、講義内容の理解の程度を評価する。									
		小テスト	10	授業内容の理解の程度を評価する。									
		筆記試験	70	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。									
汎用的 学習成果	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。										
		(1) は専門的学習成果④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②及び③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
	日本フォーマル協会	『フォーマルウェア・ルールブック』				日本フォーマル協会							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
	飯塚弘子・万江八重子 共著	『服飾デザイン論』				文化出版局							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①日常的にファッション誌の閲覧やファッションの流行などを意識し（計30時間）、講義内容の理解を深める。また、レポート・筆記試験の準備を行い（計30時間）、理解の定着に努めること。 ②レポートは返却し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	全15回の内容を理解できたか 資格の内容を理解できたか
	学習成果	取得できる資格について理解し、全15回の授業内容を知ることができる。	
2回	予習復習の内容	ファッションデザインに関心を持ち、ファッション誌など積極的に読むようにすること。	レポート（デザイン画制作）
	授業内容	デザインの意義	
3回	学習成果	デザインの語彙や歴史、創造性などについて理解し、説明できる。	質問を通してデザインの分野を理解できたか
	予習復習の内容	デザインについて理解し、発想ができるようにすること。	
4回	授業内容	デザインの分野	質問を通してデザインの過程が理解できたか
	学習成果	ファッションおよび他業界におけるデザインの分野を理解し、説明できる。	
5回	予習復習の内容	デザインを利用する業界を理解しておくこと。	質問を通して服装の意味が理解できたか
	授業内容	デザインの過程	
6回	学習成果	デザインが生み出され、生産され、製品になっていく工程を理解し、説明できる。	質問を通して服装の美が理解できたか
	予習復習の内容	一般的なデザインの過程とファッションの工場生産の流れを理解しておくこと。	
7回	授業内容	服装の意味	質問を通して美的形式原理が理解できたか
	学習成果	服装の類語および服の役割について理解し、説明できる。	
8回	予習復習の内容	専門的な言葉の使い分けができ、服の役割を理解し、説明できるようにしておくこと。	質問を通して点と線のデザインを理解できたか
	授業内容	服装の美	
9回	学習成果	デザイナーおよび服装の美しさについて、その条件を理解し、説明できる。	小テスト（デザインの種類と名称について）
	予習復習の内容	服装の美しさとは何か、内容美と形式美の違いについて理解しておくこと。	
10回	授業内容	美的形式原理	小テスト（デザインの種類と名称について）
	学習成果	服装が美しく見えるテクニックについて理解し、説明できる。	
11回	予習復習の内容	原理の5つのパターンについて、理解し、コーディネートできるようにすること。	小テスト（デザインの種類と名称について）
	授業内容	点と線のデザイン	
12回	学習成果	ファッションデザインにおける点と線を利用したデザインの種類と見え方の違いについて理解する。	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回目を実施
	予習復習の内容	点と線のデザインについて理解し、コーディネートの問題解決ができるようにすること。	
13回	授業内容	シルエットとディテール	小テスト（デザインの種類と名称について）
	学習成果	服装全体のシルエットの種類と細かなディテール部分のデザインの種類を知り、説明できる。	
14回	予習復習の内容	シルエットとディテールの違いとデザインの種類を理解し、説明できるようにしておくこと。	小テスト（デザインの種類と名称について）
	授業内容	服種と用途	
15回	学習成果	フォーマルとカジュアルのデザインおよびTPOに合わせたデザインを知ることができる。	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回目を実施
	予習復習の内容	TPOに合わせた服装を理解し、説明できるようにしておくこと。	
16回	授業内容	アクセサリ	小テスト（デザインの種類と名称について）
	学習成果	ネックレス、帽子、靴や宝石など、デザインの種類を理解し、説明できる。	
17回	予習復習の内容	アクセサリのデザインの種類を理解し、コーディネートできるようにすること。	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回目を実施
	授業内容	素材の効果性	
18回	学習成果	柄やテキスタイルによる見え方の違いについて理解し、説明できる。	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回目を実施
	予習復習の内容	テキスタイルについて理解し、説明できるようにしておくこと。	
19回	授業内容	色彩の役割	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回目を実施
	学習成果	色の基礎、感情、配色、流行色について理解し、説明できる。	
20回	予習復習の内容	色彩の原理について理解し、配色を利用してコーディネートできるようにすること。	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回目を実施
	授業内容	体型とタイプ	
21回	学習成果	人間の体型の種類、人格のタイプ、コーディネートのタイプについて理解し、コーディネートできる。	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回目を実施
	予習復習の内容	人と服の着装、スタイルについて理解し、コーディネートできるようにすること。	
22回	授業内容	服飾デザインにおける演習・まとめ	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回目を実施
	学習成果	全15回のまとめと筆記試験を行い、ファッションデザインの知識を習得しコーディネートできる。	
23回	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理・確認しておくこと。	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回目を実施

科目名	洋裁実習				担当者	カナザキ 千晶						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。										
専門的 学習成果	①	洋裁の使用道具の使い方を覚え、体型に合う原型を製作することができる。										
	②	布地の特性を知り、基本的なデザインの作図および縫製することができる。										
	③	デザインに合わせたダーツやギャザーの入れ方が分かるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	服の製作の学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	自由な発想による襟や袖のデザインおよび縫製を通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(3)	縫製テクニックを学習することを通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	ブラウスの製作実習を通して、被服造形のための理論と技術を学ぶ。原型の基礎から縫製の技術を習得し、部分的（衿・袖・カフス・裾など）に学生の自由なデザイン発想を取り入れ、応用・発展への能力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	第15回目に製作した作品に関するレポートについて評価を行う。								
		作品提出	60	第15回目に製作した作品について評価を行う。								
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①及び②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	文化服装学院		『文化ファッション大系 服飾造形講座① 服飾造形の基礎 文化服装学院編』				文化出版局					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続の授業。布地等の材料は各自準備する。洋裁用備品については一部貸出可能。事前に資料を配布するので、作業内容について、授業前に資料をよく読んでおくこと（計30時間）。 ②製作した作品が評価の対象となるため、毎時間ごとに製作した修正点などを見直し、手直し作業を行うこと。製作した部分について、毎時間、授業の時に点検し、講評する。										

授業計画			学習成果の評価	
1・2回	授業内容	洋裁用具説明・採寸・原型作製（身頃の基礎線）		洋裁用具が分かり、原型の基礎線の作製の作製
	学習成果	洋裁用具を知り、採寸および原型の作製に取りかかることができる。		
3・4回	予習復習の内容	洋裁用具が分かり、原型の基礎線を完成させる。		原型の身頃と袖の作製
	授業内容	原型作製（身頃の輪郭線）・原型作製（袖）		
5・6回	学習成果	原型の輪郭線と袖を完成させることができる。		ブラウスの型紙（身頃）の作製
	予習復習の内容	原型の見頃の輪郭線を描き、袖の原型を完成する。		
7・8回	授業内容	ブラウスの型紙作製（身頃）		ブラウスの型紙（衿）の作製
	学習成果	展開図であるブラウスの型紙の身頃を作製することができる。		
9・10回	予習復習の内容	ブラウスの型紙（身頃）を完成する。		ブラウスの型紙（袖）の作製
	授業内容	ブラウスの型紙作製（衿）		
11・12回	学習成果	ブラウスの型紙の衿を作製することができる。		裁断への取り組み
	予習復習の内容	ブラウスの型紙（衿）を完成する。		
13・14回	授業内容	ブラウスの型紙作製（袖）		印付けへの取り組み
	学習成果	ブラウスの型紙の袖を作製することができる。		
15・16回	予習復習の内容	ブラウスの型紙（袖）を完成する。		接着芯付けへの取り組み
	授業内容	布地の裁断		
17・18回	学習成果	型紙に合わせ、布地の裁断をすることができる。		身頃のダーツの縫製
	予習復習の内容	型紙に合わせ、布地の裁断を終える。		
19・20回	授業内容	印付け		身頃の肩・脇の縫製
	学習成果	チャコペーパーとルーレットで布地に本縫いの印を付けることができる。		
21・22回	予習復習の内容	布地に本縫いの印をつける。		衿の作製
	授業内容	接着芯付け・ミシンの使用方法について		
23・24回	学習成果	布地に接着芯を付け、ミシンの使用方法を知ることができる。		衿の縫製（身頃に付ける）
	予習復習の内容	布地に接着芯を付け、ミシンの使用方法を理解する。		
25・26回	授業内容	本縫い説明・示範・実習（身頃のダーツ）		袖の作製
	学習成果	身頃にダーツを入れることができる。		
27・28回	予習復習の内容	身頃にダーツの入れ方が分かり、実際に縫製する。		袖の縫製（身頃に付ける）
	授業内容	本縫い説明・示範・実習（身頃の肩・脇）		
29・30回	学習成果	身頃の肩・脇を縫製することができる。		レポート及び作品提出により評価を行う
	予習復習の内容	身頃の肩・脇を縫製をする。		
29・30回	授業内容	本縫い説明・示範・実習（衿作り）		ブラウスの完成させ、レポート記入と作品の提出をする。
	学習成果	本縫い説明・示範・実習（衿付け）		
29・30回	予習復習の内容	身頃の衿を作るができる。		ブラウスにボタンを取り付け、全体の仕上げを行う。また、レポートの記入をして作品を提出することができる。
	授業内容	本縫い説明・示範・実習（袖作り）		
29・30回	学習成果	身頃の袖を作ることができる。		袖の縫製（身頃に付ける）
	予習復習の内容	身頃の袖の作製をする。		
29・30回	授業内容	本縫い説明・示範・実習（袖付け）		袖の縫製（身頃に付ける）
	学習成果	身頃の袖を縫製することができる。		
29・30回	予習復習の内容	身頃の袖を縫製をする。		レポート及び作品提出により評価を行う
	授業内容	本縫い説明・示範・実習（ボタン付け・仕上げ）・レポート・作品提出		

科目名	和裁実習				担当者	佐藤 なおみ ・ 金澤 千晶						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	実習	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容の質問等については、毎回授業の前後に受け付ける。										
専門的 学習成果	①	和服の基礎が理解できる。										
	②	和裁の基礎技術・知識を身につける。										
	③	反物、布の扱いに慣れる。										
	④	自分自身で和服が着られようになる。										
	⑤	独自のアレンジを加える等、現代のファッションとしての着物を考える。										
汎用的 学習成果	(1)	民族衣装である和服が自ら着られようになる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	異文化に接した際にも、自分たちの文化を和服を通して説明できるようになる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(3)	課題である浴衣を最後まで自らの手で仕上げることによって、手作り、物を作る喜びを知り、消費社会における自分の立ち位置を再考確認する。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
授業概要	日本の民族衣装でありながら日常生活において触れる事も着る機会も少なくなった「きもの」だが、浴衣(ゆかた)を実際に自分の手で縫うことによって和服、和裁にふれてみる。その過程で日本の気候風土に根ざした衣服の意匠(形・柄)を知るとともに、そこに施された知恵と工夫を学ぶこととする。又、現代のファッションにおいて着物の構造や色彩、柄等が見直される事もあり、洋服・洋裁だけではなく和服の知識を習得し、服飾において幅広くいかす事が出来る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		作品製作過程	40	授業内容を理解し、スムーズかつ丁寧に作業が出来ているか評価する。								
		作品提出	40	期日内に完成し提出する。又は、未完成でも進度により評価する。								
	平常点	20	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。									
	汎用的 学習成果	(1)は、①により評価する。 (2)は、①～④により評価する。 (3)は、①～⑤により評価する。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
	土井幸代		『和裁』					同文書院				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①布地(浴衣用反物、又は木綿地)その他裁縫道具(針、縫い糸等)は各自用意する。布地、裁縫道具、プリント等を忘れずに持ってくる。プリントと説明を聞きのがす事なくスムーズに実技に入れるようにする。②提出された作品の採点后、成果について説明する事により結果のフィードバックを行う。(15時間)										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス、和服の基礎的な成り立ちを知る。	浴衣の成り立ちを知り手縫いで部分縫いを始める。
	学習成果	授業内容の理解。	
3・4回	予習復習の内容	ガイダンスの内容を理解し、次回まで必要な材料を準備する。	第2回から第14回まで作品製作への取り組み
	授業内容	採寸、寸法の割り出し・柄合わせ、裁断①	
5・6回	学習成果	製作課題の浴衣製作の準備の完了	
	予習復習の内容	製作内容を理解し次回までの準備	
7・8回	授業内容	柄合わせ、裁断②、背縫い①	
	学習成果	和服の柄の置き方、反物の扱い方を習得する。	
9・10回	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
	授業内容	背縫い②、身頃の標付け①	
11・12回	学習成果	基本的な縫い方、標付けの技術の習得。	
	予習復習の内容	製作する作品の全体像(独自のアレンジ等)を考える。	
13・14回	授業内容	身頃の標付け②、肩当て、居敷当てつけ	
	学習成果	肩当て等、和服独特の仕立てを理解する。	
15・16回	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
	授業内容	脇縫い、脇縫い代始末①	
17・18回	学習成果	数種類の縫い方の習得。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
19・20回	授業内容	脇縫い、脇縫い代始末①脇縫い代始末②	
	学習成果	数種類の縫い方を習得する。	
21・22回	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
	授業内容	衿付け、衿縫い代始末①	
23・24回	学習成果	和服の独特の衿について理解する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
25・26回	授業内容	衿付け、衿縫い代始末②	
	学習成果	和服独特の衿について理解する。	
27・28回	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
	授業内容	衿下、裾始末、衿付け①	
29・30回	学習成果	新しい縫い方を習得する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
29・30回	授業内容	衿付け②、衿付け始末	
	学習成果	新しい縫い方を習得する。	
29・30回	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
	授業内容	袖縫い	
29・30回	学習成果	洋服と和服の袖の違いを理解する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
29・30回	授業内容	袖縫い、袖付け、袖付け始末①	
	学習成果	洋服と和服の袖の違いを理解する。	
29・30回	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
	授業内容	袖付け始末②、全体の仕上げおよびたたみ方	
29・30回	学習成果	和服のたたみ方、扱い方を習得する。	
	予習復習の内容	次回までに完成させる。	
29・30回	授業内容	まとめ、着付け、作品提出	作品の完成、着付けの技術の取得
	学習成果	自分で着られようになる、帯等の小物類のコーディネートの工夫ができる。	
29・30回	予習復習の内容	着方、帯結びを忘れないよう練習する。	

科目名	ファッションコーディネート				担当者	金澤千晶						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。											
専門的 学習成果	①	スタイリストとしての基本を習得することができる。										
	②	トータルスタイリングについて知ることができる。										
	③	ファッション商品について理解を深めることができる。										
	④	ファッションショーのコーディネートの提案ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	トータルスタイリングの学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	ファッションのコーディネートを通して、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	スタイリストの基本やファッションコーディネートを提案することの学習を通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	ファッションコーディネートとはあらゆるモノの組合せに伴う調整、調和などの技術の提案である。ファッションに関する基本的な商品知識やファッションコーディネートに必要な基本的な知識や技術などを具体的に取り上げ、実践してゆく。さらに、次年度のファッションショーに向けて、ショーに関わる仕事内容を理解し、ショーの構成、テーマやコンセプト、衣装のデザイン、モデルの選定など、実施に向けて企画を行い、2年次の4月から衣装製作に取り組めるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	レポート課題を実施し、講義内容の理解の程度を評価する。								
		平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文化服装学院		『コーディネートテクニク 演出編』						文化出版局			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①提出課題に必要な準備物（色鉛筆など）については、その都度説明するので、各自が用意すること。授業前に資料・テキストをよく読んでおくこと（計30時間）。また、授業終了後、毎時間ごとに課題に取り組み（計30時間）、理解の定着に努めること。 ②レポート課題については、添削し返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	コーディネートのスペシャリスト／スタイリストとコーディネーター (教員：三塚)	ファッション業界の職業の違いについて理解できたか
	学習成果	コーディネーター、アドバイザー、スタイリストの共通点・相違点を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	ファッションに関する様々な職業について調べておくこと。	
2回	授業内容	ファッションコーディネートの必要性／スタイリストとは (教員：三塚)	スタイリストについて理解できたか
	学習成果	スタイリストの仕事内容について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	スタイリストの仕事内容について、調べてみること。	
3回	授業内容	スペシャリストに必要な知識／20世紀ファッションの歴史とデザインの4要素 (教員：三塚)	4つの要素について説明できるか
	学習成果	ファッションやデザインの歴史について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	ファッションデザインのリバイバルについて、理解を深めること。	
4回	授業内容	ファッションと流行／ファッショントレンドサイクル、最新コレクション情報 DVD (教員：三塚)	コレクション情報とトレンド予測について理解できたか
	学習成果	トレンド予測について理解し、コレクション情報を活用できる。	
	予習復習の内容	トレンド予測とインスピレーションについて、理解を深めること。	
5回	授業内容	ファッションコーディネートの基本的な知識と技術 (教員：三塚)	オケージン別の提案ができるか
	学習成果	コーディネートの目的について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	マーケティング分類方法について、復習しておくこと。	
6回	授業内容	ファッションコーディネートとは／様々な要素に視点を置いたコーディネート (教員：三塚)	視点別にコーディネート提案ができるか
	学習成果	カラー、シルエット、素材、ライフスタイルなどに視点を置いたコーディネートができる。	
	予習復習の内容	デザインの4要素とライフスタイルについて復習しておくこと。	
7回	授業内容	課題作成と提出 (教員：三塚)	課題作成。配布するシートに条件通りの提案を行い、理解の程度と完成度で評価を行う。
	学習成果	与えられた条件の下で適切なコーディネート提案を行い、時間内に提出できる。	
	予習復習の内容	課題内容は事前に説明するので、準備物等忘れ物のないようにすること。	
8回	授業内容	ファッションショーの説明・スタイリストについて (教員：金澤)	ファッションショーのスタイリストについて理解できたか
	学習成果	ファッションショーのスタイリストに求められる資質と役割について理解する。	
	予習復習の内容	ファッションショーの制作過程やショーに関わる職種の内容について理解し、説明できるようにすること。	
9回	授業内容	ファッションショーの演出・衣装のコーディネート・シーン（場面）説明 (教員：金澤)	レポート（各シーンのタイトル・コンセプトについて）
	学習成果	映像で複数のショーを視聴し、ショーの演出方法、衣装、シーン構成について学ぶことができる。	
	予習復習の内容	インターネット等で各種のファッションショーを見て、演出・衣装等を見て理解を深めること。	
10回	授業内容	ファッションショーのテーマ決定 (教員：金澤)	レポート（衣装のデザイン画について）
	学習成果	次年度、自分たちが開催するショーのテーマを決定することができる。	
	予習復習の内容	各種のファッションショーを見て、実施するショーに取り入れたいことをピックアップしておくこと。	
11回	授業内容	シーン（場面）コンセプト決定・メンバー決定及び役割分担 (教員：金澤)	レポート（衣装のデザイン画について）
	学習成果	ショーのシーン（場面）それぞれのコンセプトとメンバー、役割分担を決めることができる。	
	予習復習の内容	ショーのコンセプトに合った衣装のイメージを覚えておくこと。	
12回	授業内容	デザイン画作成（各シーンの提案） (教員：金澤)	シーンのメンバーと話し合いなど 取り組み姿勢
	学習成果	各シーンごとに衣装のデザインの話し合いや型紙を調べることができる。	
	予習復習の内容	衣装の型紙等を次回の授業に持参したり、自分の考えを説明できるようにすること。	
13回	授業内容	デザイン画作成（各シーンの打合せ） (教員：金澤)	
	学習成果	コンセプトに合わせた各シーンのデザイン画を描き、型紙を決定することができる。	
	予習復習の内容	インターネット等で複数のショーの衣装を見たり、衣装の情報収集や型紙等を探しておくこと。	
14回	授業内容	デザイン画作成（各シーンの決定） (教員：金澤)	
	学習成果	シーンのメンバーと話し合いを通してデザイン画を描き直し、各シーンごとに最終的な衣装のデザインを決定することができる。	
	予習復習の内容	衣装の素材などについて、布地の店舗で見たり、インターネット等で情報収集すること。	
15回	授業内容	デザイン画作成（材料について検討）・まとめ (教員：金澤)	
	学習成果	各シーンごとに衣装に必要な材料をまとめ、費用等の計算、型紙の整理などを行い、来年度の製作方法を知ることができる。	
	予習復習の内容	布地など必要な材料を店舗で調べておくこと。	

科目名	ヘアメイク				担当者	金澤千晶						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1・2年	開講期	後期集中
授業時間数				30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		2階204教室（洋裁室）の隣の研究室にいらして下さい。										
専門的 学習成果	①	髪のケア、スタイリング方法、髪に優しいヘアアイロンの使用方法やテクニックを実践できる。										
	②	ヘアスタイルのアレンジの種類について、ダウンスタイル・ハーフアップスタイル、アップスタイルのテクニックをマスターすることができる。										
	③	服装に合わせたヘアスタイル（アレンジ）やメイクを提案することができ、ステージショー向けのヘアメイクをモデルさんにすることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	身だしなみを整えるヘアセットやメイクの方法に関する学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	ヘアアレンジやメイクのテクニックに関する学習を通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(3)	日常のヘアメイクだけでなく、TPO に合わせたアレンジを実践していく学習を通して、修得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	ヘアケアを含めながら日常用のヘアセットを基本に学び、舞台やダンス、各種のショーなどで使用する衣装に合わせたアーティスティックなヘアメイクのデザインなど、創造性の高いヘアメイクまで実践できるように、テクニックを身につける。カットマネキンを使用し練習を重ね、最終的には人頭にヘアメイクし、ファッションショーなどステージに立つモデルにセットできるように、ヘアメイクの技術を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		作品提出	40	映像やヘアメイクなど制作した作品について評価を行う。								
		平常点	60	授業の態度・関心・意欲・ファッションショーへの取り組み姿勢を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続の授業。ヘアセット用品については実習費（10,000円）の自己負担がある。授業ごとに取り組んだ内容を振り返り、練習をすること（計30時間）。 ②練習した成果が次回の授業内容に反映されるので、その際に上達具合をチェックし、講評する。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ヘアメイクの授業概要の説明、材料について		ヘアメイクの授業内容の理解
	学習成果	TPO に合わせたヘアメイクを知ることができる。全15回の講義の流れ、材料について理解することができる。		
2回	予習復習の内容	ヘアメイクの授業内容、材料、ヘアメイクの目的や概要について理解する。		コームの使用方法、ブロッキングの取り組み
	授業内容	マネキンを使用して、コームの使用方法、ブロッキング方法、ピン留めの基本		
3回	学習成果	コームの使い方を学び、ブロッキングの仕方や、ピン留めの方法を学ぶことができる。		ピン留めの取り組み
	予習復習の内容	コームの使用方法、ブロッキングやピン留めの練習をする。		
4回	授業内容	ピン留めをキレイに留められるようにマスターする。		ピン留めの取り組み
	学習成果	基本のピン留めから応用のピン留めまでキレイに留められるようになる。		
5回	予習復習の内容	マネキンを使用して、ピン留めの練習をする。		逆毛やボンパドールの取り組み
	授業内容	三つ編み、編み込み（表編み、裏編み、片編み、ツイスト編み等）		
6回	学習成果	三つ編み、編み込み（表編み、裏編み、片編み、ツイスト編み等）をすることができる。		三つ編み、編み込みの取り組み
	予習復習の内容	マネキンを三つ編み、編み込みの練習をする。		
7回	授業内容	ハードスプレーの使用方法、逆毛のテクニック、ボンパドールについて		逆毛やボンパドールの取り組み
	学習成果	ハードスプレーの使用方法、逆毛のテクニック、ボンパドールをすることができる。		
8回	予習復習の内容	マネキンを使用して、ハードスプレーを使用して逆毛やボンパドールをする。		ヘアアイロンの使い方の取り組み
	授業内容	ストレートアイロンやカールアイロンのテクニック（ストレート、内巻き、外巻き、ミックス巻き等）		
9回	学習成果	ストレートアイロンやカールアイロンのテクニックをマスターすることができる。		ヘアアイロンの使い方の取り組み
	予習復習の内容	ストレートアイロンやカールアイロンで、ストレート・内巻き・外巻き・ミックス巻きの練習をする。		
10回	授業内容	ダウンスタイルのセット		ダウンスタイルへの取り組み
	学習成果	前髪の作り方やストレートや巻き髪など、ダウンスタイルを完成することができる。		
11回	予習復習の内容	マネキンを使用して、ダウンスタイルの練習をする。		洋風のアップスタイルへの取り組み
	授業内容	基本的なハーフアップスタイルのセット		
12回	学習成果	ハーフアップの盛り方など、基本的なハーフアップスタイルをセットをすることができる。		洋風のアップスタイルへの取り組み
	予習復習の内容	マネキンを使用して、盛り方などハーフアップスタイルの練習をする。		
13回	授業内容	片流しなどハーフアップスタイルのセット		片流しのハーフアップスタイルへの取り組み
	学習成果	片流しのハーフアップスタイルのセットをすることができる。		
14回	予習復習の内容	マネキンを使用して、片流しのハーフアップスタイルの練習をする。		和風のアップスタイルへの取り組み
	授業内容	基本のアップスタイルからパーティー用のスタイル		
15回	学習成果	アップスタイルの方法について、基本からパーティー用のスタイルをセットをすることができる。		和風のアップスタイルへの取り組み
	予習復習の内容	マネキンを使用して、アップスタイルの練習をする。		
16回	授業内容	和髪用のアップスタイル		和風のアップスタイルへの取り組み
	学習成果	和髪のアップスタイルをセットをすることができる。		
17回	予習復習の内容	マネキンを使用して、和髪のアップスタイルの練習をする。		ステージ上のヘアスタイルへの取り組み
	授業内容	ステージ用のヘアアレンジ		
18回	学習成果	ステージ用のヘアスタイル、アレンジ、リボンヘアなど応用的なスタイルを提案し、セットすることができる。		ステージ上のヘアスタイルへの取り組み
	予習復習の内容	ステージ上で魅力的なヘアスタイルの練習をする。		
19回	授業内容	小物を使用したステージ用のヘアアレンジ		クリエイティブなヘアスタイルへの取り組み
	学習成果	花、わた、紐など小物を使用したアートのスタイルを提案し、セットをすることができる。		
20回	予習復習の内容	ステージで映えるアートのヘアスタイルの練習をする。		ステージ用のヘアメイク検討の取り組み
	授業内容	ファッションショーなどステージ用のヘアメイク検討、提案、実践		
21回	学習成果	ステージ用のヘアメイクのアイデアを出し、実際に練習することができる。		ステージ用のヘアメイク検討の取り組み
	予習復習の内容	ステージ用のヘアメイクを検討し練習する。		
22回	授業内容	課題に合わせたステージ用のヘアメイク（タイムチェック）		ステージ用のヘアメイクの時間計測、ヘアセットの取り組み
	学習成果	ショー用の課題のヘアメイクを実際に行い、タイムを計測する。		
23回	予習復習の内容	ステージ用のヘアメイクが規定の時間内に終わるように練習し、マスターする。		ステージ用のヘアメイクの時間計測、ヘアセットの取り組み

科目名	ネイリスト検定講座				担当者	千 葉 照 実						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	実習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	爪の構造を理解し説明できる。										
	②	衛生管理について理解し説明できる。										
	③	ネイル材料について理解し説明できる。										
	④	JNEC ネイリスト技能検定試験3級取得のための知識と技術を実践することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	ネイリストに必要な知識と技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(2)	ネイリストとして人との関わりに必要な自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、協働することができる。(専門的学習成果④に関連)										
	(3)	習得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
授業概要	身体の一部である爪の構造を理解し、ネイリスト技能検定試験受験に必要な内容の理解を深め知識と技術及びネイルアートを学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		提出物	40	授業中に制作した作品を評価								
		実習	40	実技や模擬試験時の手順や課題達成を評価								
	平常点	20	授業への関心・意欲・態度を評価									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	NPO 法人日本ネイリスト協会・教育委員会	『JNA テクニカルシステム・ベーシック』				NPO 法人日本ネイリスト協会						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①クラス内で2人1組の相モデルでの実技練習になるため、やむをえない理由以外での欠席をしないように心がける。 材料の不備があると実習不可の為、忘れず毎回持参する。 実習費23,100円(税込)がかかるので注意する事。 準備学習として検定試験の筆記に対して対策プリントを渡し自宅にて週1時間程度の学習後翌週に提出する。 ②実技・筆記ともに模擬テストを行い、フィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ネイルケアー概論	授業への関心・意欲・態度を評価 授業中に制作した作品を評価 実技の手順や課題達成を評価
	学習成果	ネイリスト技能検定試験の概要を説明できる。	
予習復習の内容	テキストを熟読する。		
2回	授業内容	爪の構造と材料の理解	
	学習成果	爪の各部位の名称を述べることができる。	
予習復習の内容	次回までに爪の各部位の名称を覚えてくる。		
3回	授業内容	ネイルケアー実技(削り方)	
	学習成果	爪の削り方について実施できる。	
予習復習の内容	削り方を反復練習してくる。		
4回	授業内容	ネイルケアー実技(キューティクルカット)	
	学習成果	キューティクルカットが実施できる。	
予習復習の内容	ニッパーの取り扱いの練習		
5回	授業内容	ネイルケアー実技(キューティクルカット)	
	学習成果	キューティクルカットが実施できる。	
予習復習の内容	ニッパーの取り扱いの練習		
6回	授業内容	ネイルケアー実技(カラーリング)	
	学習成果	カラーリング技法が実施できる。	
予習復習の内容	チップにカラーリングしてくる。		
7回	授業内容	ネイルケアー実技(課題アート)	
	学習成果	3級試験の課題アート実技を実践できる。	
予習復習の内容	5種類のアートを描いてくる。		
8回	授業内容	ネイルケアー実技(課題アート)	
	学習成果	3級試験の課題アート実技を実践できる。	
予習復習の内容	モデルを決定する。		
9回	授業内容	検定試験受験の心得	授業への関心・意欲・態度を評価
	学習成果	ネイリスト技能検定試験の概要を手順どおり実践できる。	
予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終われる練習をする。		
10回	授業内容	通し練習	
	学習成果	ネイリスト技能検定試験の概要を手順どおり実践できる。	
予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終われる練習をする。		
11回	授業内容	通し練習	
	学習成果	ネイリスト技能検定試験の概要を手順どおり実践できる。	
予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終われる練習をする。		
12回	授業内容	模擬試験①	
	学習成果	検定試験の採点基準に合わせた実技ができる。	
予習復習の内容	試験内容について復習する。		
13回	授業内容	模擬試験②	
	学習成果	検定試験の採点基準に合わせた実技ができる。	
予習復習の内容	試験内容について復習する。		
14回	授業内容	タイムトライアル	
	学習成果	検定試験の手順通り実施し、制限時間内に終了することができる。	
予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終われる予習をする。		
15回	授業内容	受験準備	
	学習成果	受験に備え適切な準備を整えることができる。	
予習復習の内容	受験に必要な準備を整える。		

科目名	ジェルネイル検定講座				担当者	千葉 照実						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	爪の構造を理解し説明できる。										
	②	衛生管理について理解し説明できる。										
	③	ネイル材料について理解し説明できる。										
	④	JNA ジェルネイル技能検定試験初級取得のための知識と技術を実践することができる。										
	⑤	ジェルネイルアートの作品を制作できる。										
汎用的 学習成果	(1)	ネイリストに必要な知識と技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(2)	ネイリストとして人との関わりに必要な自己表現、他者理解の能力を有し、協働することができる。(専門的学習成果④に関連)										
	(3)	習得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
授業概要	身体の一部である爪の構造を理解し、ジェルネイル技能検定試験初級受験に必要な内容の理解を深め知識と技術及びネイルアートを学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		提出物	40	授業中に制作した作品を評価								
		実習	40	実技や模擬試験時の手順や課題達成を評価								
	平常点	20	授業への関心・意欲・態度を評価									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
			不要(講師プリント準備)									
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①クラス内で2人1組の相モデルでの実技練習になるため、やむをえない理由以外での欠席をしないように心がける。 材料の不備があると実習不可の為、忘れず毎回持参する。 実習費28,600円税込がかかるので注意する事。 準備学習として検定試験の筆記に対して対策プリントを配付し自宅にて週1時間程度学習後翌週までに提出する。 ②実技・筆記ともに模擬テストを受験し、その結果をフィードバックする。その後校内にて検定筆記・実技試験を実施する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ジェルネイルケア概論	授業への関心・意欲・態度を評価
	学習成果	ジェルネイル技能検定試験の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを熟読する。	
	授業内容	爪の構造と材料の理解	
2回	学習成果	爪の各部位と材料の名称を述べることができる。	
	予習復習の内容	次回までに爪の各部位の名称を覚えてくる。	
3回	授業内容	ジェルネイル基本実技(プリパーレーション)	実技の手順や課題達成を評価
	学習成果	プリパーレーションについて実施できる。	
	予習復習の内容	プリパーレーションの反復練習	
	授業内容	ジェルネイル基本実技(塗布)	
4回	学習成果	赤ジェルの塗布が実施できる。	
	予習復習の内容	塗布の反復練習	
5回	授業内容	ジェルネイル基本実技(塗布)	
	学習成果	赤ジェルの塗布が実施できる。	
	予習復習の内容	塗布の反復練習	
	授業内容	受験用通し練習	実技の手順や課題達成を評価
6回	学習成果	時間内に規定の技術が達成できる。	
	予習復習の内容	時間制限を設けた練習	
7回	授業内容	受験用通し練習	
	学習成果	時間内に規定の技術が達成できる。	
	予習復習の内容	時間制限を設けた練習	
	授業内容	筆記試験(初級試験筆記試験校内実施)	課題達成を評価
8回	学習成果	初級試験筆記試の採点基準をクリアできる。	
	予習復習の内容	筆記試験対策用のプリント学習	
9回	授業内容	実技試験(初級試験実技校内実施)	課題達成を評価
	学習成果	初級試験実技の採点基準をクリアできる。	
	予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終われる練習をする。	
	授業内容	ジェルアート作品制作(授業中にテーマを発表)	授業への関心・意欲・態度を評価 制作した作品を評価
10回	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	作品制作のためのモチーフ集めをする。	
11回	授業内容	ジェルアート作品制作(授業中にテーマを発表)	
	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	
	授業内容	ジェルアート作品制作(授業中にテーマを発表)	
12回	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	
13回	授業内容	ジェルアート作品制作(授業中にテーマを発表)	
	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	
	授業内容	ジェルアート作品制作(授業中にテーマを発表)	
14回	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	
15回	授業内容	ジェルアート作品制作(授業中にテーマを発表)	
	学習成果	今まで習得した技術をもとにした作品を提出することができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	

科目名	ベーシックメイク				担当者	ハガマサアキ 芳賀正明						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1・2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	皮膚に関する知識を理解し、その内容を説明できる。										
	②	化粧品の使用目的を理解し、ケアを実践できる。										
	③	色彩とメイクアップの関係性を理解し、メイクアップテクニックを実践できる。										
	④	正しいメイクアップテクニックや情報を理解し、セルフメイクアップを実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	皮膚と化粧品の関係から、必要なケア商品を選択できる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	ポイントメイクアップのテクニックを自己表現できる。(専門的学習成果③④に関連)										
	(3)	メイクアップテクニックをマスターし、ファッションバランスを養う。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	フェイスプロポーション分析と、化粧品概論から皮膚とスキンケア(洗顔、化粧水、乳液、美容液、その他のスキンケア商品)の関係と、メイクアップの知識とテクニック(スキンケア、ベースメイク、アイシャドー、アイライン、ビューラー、マスカラ、チーク、リップ、ローライト、ハイライト)を専門的に習得し、カラーとメイクアップの関連性・トレンド情報を提供し個々の内面的美・外面的美の総合的自己表現バランスの実践力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	メイクアップ表現を評価する。								
		テクニック	40	実習時のテクニックを評価する。								
		平常点	30	実習の取り組み・意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)(3)については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②により評価を行う。 (2)は専門的学習成果③④により評価を行う。 (3)は専門的学習成果③④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		随時資料を配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週約1時間程度行うこと。事前学習としてファッション誌や情報を深めておくこと(予習約1時間程度)。メイクアップパレット教材(10,000円+税)を徴収する。評価【優】以上の者はベーシックメイクアップ修了時ディプロマ授与。ただし欠席3回以上の者は評価が良くてもディプロマ無。 ②レポート提出により自己まとめ及び情報吸収ができる為、授業内で課題に対するフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、自己フェイスバランス分析	自己フェイスバランス分析シート提出
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
2回	予習復習の内容	スキンケア化粧品の目的を理解する。	レポート作成し提出
	授業内容	スキンケア・ベースメイクアップの肌別分析	
3回	学習成果	目的に応じて商品が選択できる。	レポート作成し提出
	予習復習の内容	皮膚とスキンケア商品の関係を理解する。	
4回	授業内容	皮膚知識とスキンケアの関係	レポート作成し提出
	学習成果	スキンケアが皮膚に対する効果を説明できる。	
5回	予習復習の内容	ベースメイクアップの種類を理解する。	レポート作成し提出
	授業内容	スキンケアとベースメイクアップ	
6回	学習成果	スキンケア効果とベースメイクアップの仕上げ方を説明できる。	レポート作成し提出
	予習復習の内容	アイシャドーと色彩の関係を理解する。	
7回	授業内容	色彩知識とアイシャドー	色相環レポート作成し提出
	学習成果	アイシャドーと色のバランスの説明ができる。	
8回	予習復習の内容	トレンドカラーを理解する。	レポート作成し提出
	授業内容	アイシャドーとアイラインテクニック	
9回	学習成果	アイシャドーカラーバランスとアイライン目的が説明できる	レポート作成し提出
	予習復習の内容	ビューラー・マスカラ・アイブロウを理解する。	
10回	授業内容	アイメイクアップ(アイシャドー・アイライン・ビューラー・マスカラ)	レポート作成し提出
	学習成果	アイメイクアップの仕上げバランスが説明できる。	
11回	予習復習の内容	アイブロウの形、仕上げ方を理解する。	レポート作成し提出
	授業内容	アイメイクアップ・アイブロウ	
12回	学習成果	アイブロウの大切さと形の完成度が説明できる。	レポート作成し提出
	予習復習の内容	チーク・リップの仕上げ方を理解する。	
13回	授業内容	ナチュラルメイクアップのフルメイクアップ	デザイン画作成し提出
	学習成果	フルメイクアップしたマイフェイスバランスを説明できる。	
14回	予習復習の内容	色彩とアイシャドーバリエーションを理解する。	アイシャドーバリエーション作成と提出
	授業内容	アイシャドーバリエーション	
15回	学習成果	定番アイシャドーから多色使用のアイシャドーを説明できる。	デザイン画作成し提出
	予習復習の内容	各ジャンルメイクアップバリエーションを理解する。	
16回	授業内容	ジャンル別メイクアップ	デザイン画作成し提出
	学習成果	各ジャンルのメイクアップ仕上げを説明できる。	
17回	予習復習の内容	テーマ別(提案)メイクアップを理解できる。	デザイン画作成し提出
	授業内容	テーマ別(提案)メイクアップ仕上げ	
18回	学習成果	提案したメイクアップテーマを説明できる。	デザイン画作成し提出
	予習復習の内容	トレンドメイクアップを理解できる。	
19回	授業内容	トレンドメイクアップ(化粧品メーカー)	デザイン画作成し提出
	学習成果	メーカー別メイクアップを説明できる。	
20回	予習復習の内容	トレンドメイクアップ(ファッション編)を理解できる。	デザイン画作成し提出
	授業内容	トレンドメイクアップ(ファッション編)	
21回	学習成果	トレンドファッションとメイクアップ関係が説明できる。	デザイン画作成し提出
	予習復習の内容	トータルメイクアップとフォトを理解できる。	
22回	授業内容	トータルメイクアップと撮影	デザイン画作成し提出
	学習成果	メイクアップ効果のある表情を説明できる。	
23回	予習復習の内容	授業内容全体について確認しておくこと。	デザイン画作成し提出

科目名	アーティストメイク				担当者	ハ 芳 賀 正 明						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	実習	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	メイクアップアドバイスの知識を説明できる。										
	②	相モデルでコミュニケーションを計るテクニックを説明できる。										
	③	メイクアッププランを提案しイベントに実践できる。										
	④	クリエイティヴな発想やメイクアップテクニックを実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	メイクアップをして上げる時の相手とのコミュニケーションを養う。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	相手のフェイスバランスを把握し、ポイントメイクアップのアドバイスができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	ファッション・スチール・ステージ・イベントメイクの実践ができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	相手のフェイスプロポーション分析をしながら、アイシャドーカラーアドバイス、アイライン提案、アイブロウデザインアドバイス、チークカラーアドバイス、リップカラー提案等を行いトータルメイクアップアップを仕上げる。生かすメイクアップの提案と各ジャンルのメイクアップテクニック（ファッション・スチール・ステージ・年代別・キャラクター・イベント等）をマスターし、撮影効果の效果的に仕上げ映えるメイクアップを完成させる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	仕上げたメイクアップのデザイン画を評価する。								
		テクニック	40	仕上げるプロセスと完成度を評価する。								
		平常点	30	実技の取り組み・意欲・態度・相手とのコミュニケーションにより評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		随時資料配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週約1時間行うこと。事前学習としてファッション誌や情報を深めておくこと（予習約1時間程度）。メイクアッププラシセット（ケース付）教材10,000円+税を徴収する。評価【優】以上の者は日本メイクアップ協会ディプロマ授与。ただし欠席3回以上の者はディプロマ授与無。 ②レポート提出により自己まとめ及び情報吸収ができる為、授業内で課題に対するフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス・相モデルでフェイスプロポーション分析	相手のフェイスプロポーション分析
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	相モデルへのアドバイスメッセージを理解する。	
	授業内容	相モデルにてスキンケア	スキンケア施術
2回	学習成果	モデルに対し、肌に合う施術ができる。	
	予習復習の内容	ベースメイクアップの施術法を理解する。	
3回	授業内容	相モデルにてベースメイクアップ	ベースメイクアップ施術
	学習成果	ベースメイクアップの仕上げ方を説明できる。	
	予習復習の内容	相モデルに対し、アイシャドーのアドバイスを理解する。	
4回	授業内容	イベントメイクアップ	セルフでイベントメイクを完成させレポート提出
	学習成果	メイクアップデザインと仕上げ方を説明できる。	
	予習復習の内容	メイクアップデザイン案を理解する。	
5回	授業内容	メイクアップデザイン画作成しメイクアップ仕上げ	レポート作成し提出
	学習成果	デザイン画をモデルに提案し説明できる。	
	予習復習の内容	ファッション誌のメイクアップを理解する。	
	授業内容	雑誌ファッションメイクアップ	レポート作成し提出
6回	学習成果	模写メイクアップの説明ができる。	
	予習復習の内容	提案するメイクアップデザインを理解する。	
	授業内容	ステージメイクアップ	レポート作成し提出
7回	学習成果	ステージ（舞台等）の效果的な説明ができる。	
	予習復習の内容	ファッションショーのメイクアップを理解する。	
	授業内容	イベントにおけるファッションショー（フロア）メイクアップ	レポート作成し提出
8回	学習成果	会場によってメイクアップの表現が違うので、その説明ができる。	
	予習復習の内容	撮影用メイクアップを理解する。	
	授業内容	撮影用メイクアップ	撮影を行い、レポート作成し提出
9回	学習成果	カメラを通してのメイクアップ仕上げと照明（ライト）の説明ができる。	
	予習復習の内容	ファッション（モード）メイクアップを理解する。	
	授業内容	モードメイクアップ①	レポート作成し提出
10回	学習成果	斬新なメイクアップの説明ができる。	
	予習復習の内容	提案メイクアップを理解する。	
	授業内容	モードメイクアップ②	レポート作成し提出
11回	学習成果	創造と感性を育む。	
	予習復習の内容	メイクアップデザイン案と完成までのプロセスを理解する。	
	授業内容	テーマ別メイクアップ（提案）	レポート作成し提出
12回	学習成果	提案したメイクアップテーマを説明できる。	
	予習復習の内容	トレンドメイクアップを理解できる。	
	授業内容	トレンドメイクアップ	レポート作成し提出
13回	学習成果	ファッションや化粧品メーカーのトレンドを説明できる。	
	予習復習の内容	トータルメイクアップ（ヘアメイクアップ等）を理解する。	
	授業内容	ヘアメイクアップ	デザイン画作成し提出
14回	学習成果	ヘアセッティングを含めメイクアップの説明ができる。	
	予習復習の内容	修了作品案を理解する。	
	授業内容	修了作品（撮影）	レポート作成し提出
15回	学習成果	ナチュラルメイクからファッションメイクのジャンルを説明できる。	
	予習復習の内容	メイクアップ各ジャンルの再確認と情報を確認する。	

科目名	カフェプランニング				担当者	ヨシダ 正						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	カフェビジネス全般を体系的に分類することができる。										
	②	カフェ業界の職業人としての社会貢献について自身の考えを論じることができる。										
	③	カフェ文化の現状と課題について論じることができる。										
	④	多様化するカフェショップのビジネススタイルの違いを理解し、その概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	カフェの文化と歴史を学ぶことで飲食業界に従事の際、自己表現と問題解決ができる。(専門的学習成果①③)										
	(3)	飲食業界において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を身に付ける。(専門的学習成果①②③④)										
授業概要	カフェ業界には様々な料理・ドリンクのメニュー開発から、マーケティングに至るまでの幅広い専門知識を持ち、カフェ出店から始まり、経営管理、販売促進までのすべてに精通した人材が求められている。この授業では「カフェをつくる」ためのプロセスを段階的に学習して「自分スタイルのカフェ」を構築できるようにする。併せてカフェについての歴史や文化などを探り、現代のカフェビジネスの現状を理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。								
		レポート	20	2回実施し各回10%に配点する。カフェ開業のプランニングができていないか評価する。								
		市場調査	20	市場調査した内容をプレゼンテーションする。								
		平常点	10	授業に取り組む姿勢、意欲、理解度を総合評価する。								
汎用的 学習成果												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	有限会社バウンド		『人気カフェが開ける本』				インフォレスト					
		日本フードライセンス 国際協会		『カフェプロデュース検定教本』				書肆侃侃房				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①普段の生活でも街・地域にある飲食店、特にカフェスタイルで経営している店舗に興味をもち、積極的に利用をしてみる。(予習として時間外学習30時間程度)その後、利用したカフェについて立地条件、メニュー内容(商品、金額)客層等を自分なりにレポート形式でまとめておく(復習として時間外学習30時間程度) ②レポート内容、試験については実施後に適宜解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 実習室・器材の使用法	ワークシートへの取り組み
	学習成果	授業内容を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。次回以降の学習計画を立てる。	
2回	授業内容	カフェビジネスとは	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。
	学習成果	ビジネスとしてカフェを運営する為の概要を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
3回	授業内容	日本のカフェ市場と歴史	
	学習成果	日本のカフェ市場と歴史を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返りカフェの市場と歴史について理解を深める。	
4回	授業内容	バリスタの仕事 ①カフェスキル	
	学習成果	バリスタの仕事、特に技術について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
5回	授業内容	バリスタの仕事 ②サービス	
	学習成果	バリスタの仕事、特に接客サービス、ホスピタリティについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
6回	授業内容	マーケティングと出店戦略	
	学習成果	マーケティングと出店戦略の方法を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
7回	授業内容	コンセプトとカフェスタイル	
	学習成果	コンセプトとカフェスタイルを構築できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
8回	授業内容	カフェリサーチ・フィールドワーク	
	学習成果	調査方法を理解してカフェに向いて調査を実践できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
9回	授業内容	メニュープランニング①ドリンクメニュー	
	学習成果	ドリンクメニューのプランニングを理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
10回	授業内容	メニュープランニング②フードメニュー	
	学習成果	フードメニューのプランニングを理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
11回	授業内容	空間プロデュース①食空間のありかた	
	学習成果	カフェにおける食空間のありかたを理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
12回	授業内容	空間プロデュース②テーブルコーディネートとカラーコーディネート	
	学習成果	テーブルコーディネートとカラーコーディネートの概要を理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
13回	授業内容	カフェ開業計画①手続きと届け出	
	学習成果	カフェを開業するにあたり必要な手続きと届け出を理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
14回	授業内容	カフェ開業計画②事業計画と経営計画	
	学習成果	カフェ開業に必要な事業計画と経営計画を理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
15回	授業内容	カフェプランニングまとめ	
	学習成果	カフェを開業する為のプランニングを理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	

科目名	カフェフード実習				担当者	前澤正人・阿部加奈子						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
授業時間数	60											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	食産業、外食産業の基本的な教養調理技術を身につけ、その内容を説明できる。										
	②	調理理論の知識基礎技術を習得し実践できる。										
	③	旬の調理基礎から食育的栄養学の応用まで食の大切さを習得し実践できる。										
	④	実習で習得した知識と技能を活用し習得し実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	外食産業全般、職業自立に必要な知識と基礎技術を習得し実践活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連する)										
	(2)	季節の基本調理法の習得により、栄養のバランス、食の大切さを習得と活用できる。(専門的学習成果③に関連する)										
	(3)	習得した専門知識や技能を活用して作品発表し、新たな発想や課題の解決に向け、行動ができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	外食産業、カフェビジネスが大きな産業として発展して行くなか、今後大いに活躍が期待できる。将来、第一線で活躍する上で基本技術を身に付ける事は非常に重要である。基本技術を理解し外食産業、カフェビジネスの展開について考え今後の新たな食文化について実戦力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	10	16回目に筆記試験を行い、講義内容の理解について評価する。								
		レポート										
		平常点	20	授業態度、関心、意欲を評価する。								
実習作品 提出	70	毎日の実習作品を試験評価する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①調理実習が中心の授業なので、重要な事は実習内容を忘れない内に実習調理を自宅で作成し復習、調理準備から手順、盛り付けデッサン、仕上げ味覚表現まで調理の理解を深め能力を身につける事を求める。自宅で再現調理(1時間程度)を行うこと。 ②前回の課題の調理実習の正確な分量をレポート提出フィードバック、実習調理の理解を深め自らの考察をしっかりと記述する事を求める。予習として料理のデザイン、色調、立体感などに興味を持ち専門誌を絶えず観る様にする事を求める。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	スモークサーモンと海老、アボカドのチャパタ ジャガイモのポタージュ	前澤
	学習成果	イタリア風サンドウィッチの表現、季節感の表現、栄養のバランスの習得ができる。	
3・4回	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	
	授業内容	パリジャンの3種ハムとチーズのサンドウィッチ、野菜のブイヨンスープ	前澤
5・6回	学習成果	パリ風サンドウィッチの表現、季節感の表現、栄養のバランスの習得ができる。	
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	
7・8回	授業内容	アメリカンクラブハウスサンド、アサリのチャウダースープ	前澤
	学習成果	アメリカ風のサンドウィッチ、栄養のバランスの習得、調理技術の習得ができる。	
9・10回	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	
	授業内容	オムライスと温製サラダ	前澤
11・12回	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	
13・14回	授業内容	ミネストローネ、3種のブルスケッタ	阿部
	学習成果	イタリア各州の郷土料理の把握、季節感の表現、調理技術の習得ができる。	
15・16回	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。	
	授業内容	トマトソースパゲッティ、タコとセロリのサラダ	阿部
17・18回	学習成果	イタリア各州の郷土料理の把握、季節感の表現、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。	
19・20回	授業内容	ジャガイモのニョッキ、サルティンボッカ	阿部
	学習成果	イタリア各州の郷土料理の把握、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。	
21・22回	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。	
	授業内容	ポーニャ風タリアテッレ、洋梨のサラダ	阿部
23・24回	学習成果	調理技法の習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。	
25・26回	授業内容	オレキエッテ、パブリカマリネ	阿部
	学習成果	調理技法の習得、調理技術の習得ができる。	
27・28回	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。	
	授業内容	マスカルポーネチーズのリゾット、カツレツケッカソース	阿部
29・30回	学習成果	調理技法の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。	
29・30回	授業内容	ラザニア、レンズ豆のサラダ	阿部
	学習成果	調理技法の習得、調理技術の習得ができる。	
29・30回	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。	
	授業内容	ドライカレー 海老のクリームソース ジャガイモのサラダ	阿部
29・30回	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	
29・30回	授業内容	白身魚のパン粉焼き シチリア風 キャベツとソーセージのスープ	前澤
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。	
29・30回	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	
	授業内容	鶏肉のクリーム煮 キノコのサラダ	前澤
29・30回	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	
29・30回	授業内容	鶏肉のソテー ベーコンと野菜のソテー添え、さつま芋のポタージュ	前澤
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。	
29・30回	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	

科目名	食品学 I (製菓)				担当者	丸 山 穰						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1 年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	①	製菓技術者として、個々の食材についてあらためて意識する。										
	②	食品に要求される機能・条件を理解する。										
	③	個々の食材の特徴を理解する。										
	④	製菓衛生師試験の食品学の分野に十分な知識を習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた食品に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
	(2)	食品の成分や機能を学ぶことを通して論理的思考方法をもつようになる。(専門的学習効果②③に関連)										
	(3)	食品に関連した専門知識を活用して地域社会の発展に貢献することができる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
授業概要	私達は一生を通じて食品を食物として食べ、その成分を代謝、利用して健康を維持、増進し、社会生活を営んでいる。このように、食品はヒトの一生の営みの根本にかかわりあう重要なものである。本講義では、製菓技術者として、また、製菓衛生師資格取得に必要とされる幅広い知識や技能のうち、『食品学』の分野に関する基本的な知識を幅広く学ぶ。更に、15回の講義を通して、サイエンスとしての基本的発想方法・論理的な思考についても触れていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	90	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格とする。								
		レポート										
		平常点	10	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習効果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習効果②、③で評価を行う。 (3) は専門的学習効果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名										出版社名
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本』										全国製菓衛生師養成施設協会
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書 和洋菓子・パンのすべて』										日本菓子教育センター
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名										出版社名
	新栄養士課程講座	『食品学総論』										建帛社
	新栄養士課程講座	『食品学各論』										建帛社
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義中に次回の内容の予告をするので、教科書の該当項目に目を通しておくこと(週1時間程度)。また、普段の生活の中で、食材やそのラベル表示、加工方法など意識していること(週3時間程度)。 ②試験については実施後、適宜解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	ガイダンス(製菓衛生師資格、学び方、食品に対する姿勢)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	製菓技術者として食品に対する姿勢を表明できる。	
	予習復習の内容	教科書全体に目を通しておくこと。	
	2 回	授業内容	食品学とは
	学習成果	製菓衛生師として、食品学の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常での食について理解を深める。	
	3 回	授業内容	食品の機能と条件
	学習成果	食品の機能と必要な条件を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	4 回	授業内容	食品の分類と特性(種類、分類)
	学習成果	食品の分類の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	5 回	授業内容	食品の分類と特性(食品の特性)
	学習成果	食品の分類の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	6 回	授業内容	食品の分類と特性(食品微生物応用食品)
	学習成果	食品の分類の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	7 回	授業内容	食品の成分と性質(水分、たんぱく質・アミノ酸)
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	8 回	授業内容	食品の成分と性質(炭水化物)
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	9 回	授業内容	食品の成分と性質(脂質)
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	10 回	授業内容	食品の成分と性質(ビタミン類、無機質)
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	11 回	授業内容	食品の成分と性質(嗜好成分とその他)
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	12 回	授業内容	食品成分表について
	学習成果	食品成分表の意味、役割を理解して活用できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	13 回	授業内容	食品の生産と消費(消費構造の変化)
	学習成果	食品の消費構造の変化の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	14 回	授業内容	食品の生産と消費(食品生産)
	学習成果	食品生産について生産の動向や有機農産物、遺伝子組み換え食品など概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	15 回	授業内容	まとめ(総合的にまとめ)
	学習成果	食品学の総論的内容を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	

科目名	栄養学 B				担当者	菊地香保里						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。										
	②	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。										
	③	人体での水の働きについて学び、水分補給の重要性を説明できる。										
	④	健康を維持増進するために、6つの基礎食品をバランスよく摂取することを学び、6つの基礎食品を説明することができる。										
	⑤	体内でのホルモンの働きについて学び、ホルモンの名前と働きを挙げることができる。										
	⑥	排泄の仕組みについて学び、腸内細菌の働き、食物繊維（水溶性・不溶性）の重要性を説明することができる。										
	⑦	製菓衛生師国家試験の過去問題を解くことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	栄養学で習得した知識を活用して健康を維持増進する食生活の課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	栄養学の学習を通して、健康な食生活、アレルギー対応の商品開発などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(3)	栄養学の学習を通して社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、疾病予防などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①③④に関連）										
	(4)	栄養学の学習を通して、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、製菓衛生師国家試験などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連）										
授業概要	栄養学の基礎として5大栄養素の働きと消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学ぶ。また、エネルギーにはならないが、第六の栄養素として生活習慣病の予防に効果があると近年注目されている食物繊維の働きや、栄養素に含まれないが身体のエネルギー代謝に必要な水の働きについても学ぶ。自分の食生活と健康について理解し、水分や栄養の摂取を意識して生活できるようにする。身体の消化器官についても理解を深め、消化、吸収、代謝、排泄が日々スムーズに行われるよう意識し、自分の健康についても考察する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	20	8回実施し、各回2.5%を配点する。体裁、文脈、内容で評価を行う。								
		小テスト	30	6回実施し、各回5%を配点する。2～3回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『新訂製菓衛生師教本』							全国製菓衛生師養成施設協会		
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書』							日本菓子教育センター		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	中村丁次監修		『栄養の基本がわかる図解事典』							成美堂出版		
	新食品成分表編集委員会編		『新食品成分表 FOOD 2019』							東京法令出版		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。（予習：週2時間程度）。事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりすること。（復習：週2時間程度）。 ②フィードバックとして、小テスト（理解度確認テスト）を回収後、解答の解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、栄養の意義	○レポート提出 課題「炭水化物、糖質について」をまとめる。4回目までに提出。 ○小テスト1回～3回までの内容を4回目の終盤30分で実施する。栄養素の種類、炭水化物、糖質について復習しておくこと。
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の栄養素に関する問題を解く。		
2回	授業内容	栄養素の種類	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の栄養素の種類に関する問題を解く。		
3回	授業内容	炭水化物、糖質	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の炭水化物、糖質に関する問題を解く。		
4回	授業内容	脂質	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の脂質に関する問題を解く。	
5回	授業内容	たんぱく質	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集のたんぱく質に関する問題を解く。		
6回	授業内容	無機質①	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の無機質（カルシウム、リン、マグネシウム、カリウム、ナトリウム）に関する問題を解く。	
7回	授業内容	無機質②	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の無機質（鉄、銅、亜鉛、マンガン、ヨウ素他）に関する問題を解く。		
8回	授業内容	脂溶性ビタミン	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の脂溶性ビタミンに関する問題を解く。	
9回	授業内容	水溶性ビタミン	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の水溶性ビタミンに関する問題を解く。		
10回	授業内容	水、6つの基礎食品、ホルモンとその機能	
	学習成果	人体での水の働きについて学び、水分補給の重要性を説明できる。健康を維持増進するために、6つの基礎食品をバランスよく摂取することを学び、6つの基礎食品を説明することができる。体内でのホルモンの働きについて学び、ホルモンの名前と働きを挙げることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の水、6つの基礎食品、ホルモンに関する問題を解く。	
11回	授業内容	消化と吸収	
	学習成果	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の消化酵素に関する問題を解く。		
12回	授業内容	消化酵素と各器官での働き	
	学習成果	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の消化酵素と各器官での働きに関する問題を解く。	
13回	授業内容	栄養素の代謝	
	学習成果	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の栄養素の代謝に関する問題を解く。		
14回	授業内容	排泄の仕組み、水の働き、食物繊維（水溶性、不溶性）	
	学習成果	排泄の仕組みについて学び、腸内細菌の働き、食物繊維（水溶性・不溶性）の重要性を説明することができる。人体での水の働きについて学び、水分補給の重要性を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の食物繊維に関する問題を解く。	
15回	授業内容	栄養素の吸収、消化吸収率	
	学習成果	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の消化吸収率に関する問題を解く。		

科目名	食品衛生学 I (製菓)				担当者	ワタナベ トシヒコ 渡 部 俊 彦						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1 年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等にはメールで対応する メールアドレス： twatanab@tohoku-mpu.ac.jp										
専門的 学習成果	①	食品衛生の意義が説明できる。										
	②	食品添加物の役割について説明できる。										
	③	食品添加物の人体への影響を説明できる。										
	④	食品添加物の使用上の規則が説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に関わる仕事で、食品添加物を適切に使用することができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	食品衛生の意味を解説し、食品衛生が人の食生活や健康に深く関わっていることを学ぶ。また、食品添加物には食品を作る上で便利な働きと、人の健康を害する働きがあることを理解し、食品添加物を安全に適切に使用するための知識を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	100	講義で説明した内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師 試験問題集』				全国製菓衛生師養成施設協会						
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上』				全国製菓衛生師養成施設協会						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義前、講義後に講義内容に関する確認試験を行う。 その日講義する内容を教科書で確認すること (予習：1時間程度)。 また、講義終了後は確認試験を活用し、講義内容を理解できているか確認する。 理解できていない部分は、しっかりと復習すること (復習：1時間程度)。 ②確認試験を回収し、正解率が悪い項目については、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	食品衛生学の概要	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	食品衛生学を学ぶ目的を説明できる。	
	予習復習 の 内 容	食品衛生の定義を理解する。	
	授業内容	食品添加物の概要	確認試験を実施し、評価します
2 回	学習成果	食品添加物の食品衛生法上の分類を説明できる。	
	予習復習 の 内 容	食品添加物の定義を理解する。	
	授業内容	保存料、防ばい剤、殺菌料	確認試験を実施し、評価します
	3 回	学習成果	
	予習復習 の 内 容	保存料、防ばい剤、殺菌料の定義を理解する。	
	授業内容	甘味料、発色料	確認試験を実施し、評価します
	4 回	学習成果	
	予習復習 の 内 容	甘味料発色料の定義を理解する。	
	授業内容	調味料、酸味料	確認試験を実施し、評価します
	5 回	学習成果	
	予習復習 の 内 容	調味料、酸味料の定義を理解する。	
	授業内容	栄養強化剤	確認試験を実施し、評価します
	6 回	学習成果	
	予習復習 の 内 容	栄養強化剤の定義を理解する。	
	授業内容	香料、乳化剤	確認試験を実施し、評価します
	7 回	学習成果	
	予習復習 の 内 容	香料、乳化剤の定義を理解する。	
	授業内容	結着剤、膨張剤、防虫剤	確認試験を実施し、評価します
	8 回	学習成果	
	予習復習 の 内 容	結着剤、膨張剤、防虫剤の定義を理解する。	
	授業内容	酸化防止剤	確認試験を実施し、評価します
	9 回	学習成果	
	予習復習 の 内 容	酸化防止剤の定義を理解する。	
	授業内容	チューインガム基剤	確認試験を実施し、評価します
	10回	学習成果	
	予習復習 の 内 容	チューインガム基剤の定義を理解する。	
	授業内容	消泡剤	確認試験を実施し、評価します
	11回	学習成果	
	予習復習 の 内 容	消泡剤の定義を理解する。	
	授業内容	食品取扱者の衛生管理	確認試験を実施し、評価します
	12回	学習成果	
	予習復習 の 内 容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
	授業内容	食品の表示、食品の保存、菓子製造業の営業施設基準準則	確認試験を実施し、評価します
	13回	学習成果	
	予習復習 の 内 容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
	授業内容	食品の表示、アレルギー物質を含む食品の表示について、食品表示法	確認試験を実施し、評価します
	14回	学習成果	
	予習復習 の 内 容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
	授業内容	総まとめ	演習問題を使い、評価します
	15回	学習成果	
	予習復習 の 内 容	演習問題を解いてみて、理解できない点を明確にしておく。	

科目名	食品学Ⅱ				担当者	丸山 穰						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。										
専門的 学習成果	①	製菓技術者として、個々の食材についてあらためて意識する。										
	②	食品に要求される機能・条件を理解する。										
	③	個々の食材の特徴を理解する。										
	④	製菓衛生師試験の食品学の分野に十分な知識を習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた食品に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
	(2)	食品の成分や機能を学ぶことを通して論理的思考方法をもつようになる。(専門的学習効果②③に関連)										
	(3)	食品に関連した専門知識を活用して地域社会の発展に貢献することができる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
授業概要	私達は一生を通じて食品を食物として食べ、その成分を代謝、利用して健康を維持、増進し、社会生活を営んでいる。このように、食品はヒトの一生の営みの根本にかかわりあう重要なものである。本講義では、食品学Ⅰに続いて、製菓技術者として、また、製菓衛生師資格取得に必要なとされる幅広い知識や技能のうち、『食品学』の分野に関する基本的な知識を幅広く学ぶ。更に、15回の講義を通して、サイエンスとしての基本的発想方法・論理的な思考についても触れていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	90	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格とする。								
		レポート										
		平常点	10	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習効果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習効果②、③で評価を行う。 (3) は専門的学習効果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国製菓衛生師養成施設協会		『製菓衛生師教本』				全国製菓衛生師養成施設協会					
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書 和洋菓子・パンのすべて』				日本菓子教育センター					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	新栄養士課程講座		『食品学総論』				建帛社					
	新栄養士課程講座		『食品学各論』				建帛社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義中に次回の内容の予告をするので、教科書の該当項目に目を通しておくこと(週1時間程度)。また、普段の生活の中で、食材やそのラベル表示、加工方法など意識していること(週3時間程度)。 ②試験については実施後、適宜解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス(食品学Ⅰの振り返りとⅡの概要について)	
	学習成果	食品学Ⅰの範囲の定着、Ⅱの概要を説明できる。	
2回	予習復習の内容	教科書の当該する章を確認する。	
	授業内容	食品の特性 穀類(米)及び、でんぷん	
3回	学習成果	米及びでんぷんについて特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
4回	授業内容	食品の特性 穀類(麦・とうもろこし、他)	
	学習成果	麦・とうもろこし他について特性と利用を説明できる。	
5回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	授業内容	食品の特性 いも類・でんぷん類、砂糖・甘味類	
6回	学習成果	いも類・でんぷん類、砂糖・甘味類について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
7回	授業内容	食品の特性 豆類、種実類、野菜類、果実類、きのこ類、藻類	
	学習成果	豆類、種実類、野菜類、果実類、きのこ類、藻類について特性と利用を説明できる。	
8回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	授業内容	食品の特性 肉・魚	
9回	学習成果	肉・魚について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
10回	授業内容	食品の特性 卵・乳製品、油脂、嗜好品	
	学習成果	卵・乳製品、油脂、嗜好品について特性と利用を説明できる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	授業内容	食品の特性 調味料・香辛料、調理加工食品類	
12回	学習成果	調味料・香辛料、調理加工食品類について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
13回	授業内容	日本の醸造食品	
	学習成果	日本の特徴的な醸造食品について概要を説明できる。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	授業内容	微生物利用食品	
15回	学習成果	微生物利用食品について特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
16回	授業内容	食品の変質と機構	
	学習成果	食品の変質について概要を説明できる。	
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	授業内容	食品の変質の防止と保存法(変質の防止)	
18回	学習成果	変質防止方法について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
19回	授業内容	食品の変質の防止と保存法(保存方法)	
	学習成果	変質を防止した保存方法について説明できる。	
20回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	授業内容	食品に関する最近の話題	
21回	学習成果	食品に関係した話題に関心を持てる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
22回	授業内容	まとめ(総合的振り返り)	
	学習成果	食品に関係した話題に関心を持てる。	
23回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	

科目名	栄養学各論				担当者	菊地香保里						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける。								
専門的 学習成果	①	三大栄養素のエネルギーが理解でき、基礎代謝、活動代謝を説明できる。										
	②	日本人の食事摂取基準について三大栄養素の一日に必要なエネルギー摂取量の目標量を挙げることができる。										
	③	国民の健康・栄養状態の現状を説明できる。										
	④	健康を維持増進するために、食事バランスガイドを説明することができる。										
	⑤	人生の諸段階（ライフステージ）に必要な栄養摂取の仕方を説明できる。										
	⑥	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。										
	⑦	製菓衛生師国家試験の過去問題を解くことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	栄養学各論で習得した知識を活用して健康を維持増進する食生活の課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(2)	栄養学各論の学習を通して、健康な食生活につながる商品開発などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(3)	栄養学各論の学習を通して社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、疾病予防などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(4)	栄養学各論の学習を通して、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、製菓衛生師国家試験などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連）										
授業概要	<p>栄養素のエネルギー、基礎代謝、活動代謝、推定エネルギー必要量について学び、食事によるエネルギー摂取の重要性を理解する。日本人の食事摂取基準、国民健康・栄養調査から、国民の健康・栄養状態の現状を知り、食事バランスガイドについても学ぶ。</p> <p>人生の諸段階（ライフステージ）において必要な栄養のとり方を学び、健康増進について理解し、「栄養」「運動」「休養」を意識して生活し、一生涯を通して病気を予防する知識を得る。健康増進における今後の課題についても考察する。</p>											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	20	4回実施し、各回5%を配点する。体裁、文脈、内容で評価を行う。								
		小テスト	30	3回実施し、各回10%を配点する。5回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名										出版社名
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『新訂製菓衛生師教本』										全国製菓衛生師養成施設協会
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』										日本菓子教育センター
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名										出版社名
	中村丁次監修	『栄養の基本がわかる図解事典』										成美堂出版
	新食品成分表編集委員会編	『新食品成分表 FOOD 2019』										東京法令出版
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。（予習：週2時間程度）。事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること。（復習：週2時間程度）。</p> <p>②フィードバックとして、小テスト（理解度確認テスト）を回収後、解答の解説を行う。</p>											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	栄養素のエネルギー、エネルギー代謝、消費エネルギー、基礎代謝	
	学習成果	三大栄養素のエネルギーが理解でき、基礎代謝、活動代謝を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集のエネルギー代謝に関する問題を解く。	
2回	授業内容	日本人の食事摂取基準	
	学習成果	日本人の食事摂取基準について三大栄養素の一日に必要なエネルギー摂取量の目標量を挙げることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の日本人の食事摂取基準に関する問題を解く。	
3回	授業内容	国民の健康・栄養状態の現状と施策	
	学習成果	国民の健康・栄養状態の現状を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の国民健康・栄養調査に関する問題を解く。	
4回	授業内容	食事バランスガイド	
	学習成果	健康を維持増進するために、食事バランスガイドを説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の食事バランスガイドに関する問題を解く。	
5回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（妊娠期）	
	学習成果	妊娠期に必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の妊娠期に関する問題を解く。	
6回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（授乳期）	
	学習成果	授乳期に必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の授乳期に関する問題を解く。	
7回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（乳児期）	
	学習成果	乳児期に必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の乳児期に関する問題を解く。	
8回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（幼児期）	
	学習成果	幼児期に必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の幼児期に関する問題を解く。	
9回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（学童期・思春期・青年期）	
	学習成果	学童期・思春期・青年期に必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の学童期・思春期・青年期に関する問題を解く。	
10回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（成人期・更年期・高齢期）	
	学習成果	成人期・更年期・高齢期に必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の成人期、更年期、高齢期に関する問題を解く。	
11回	授業内容	病態と栄養、栄養素の過不足と病気、糖尿病	
	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の糖尿病に関する問題を解く。	
12回	授業内容	消化管の病気と栄養	
	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の消化管の病気に関する問題を解く。	
13回	授業内容	循環器の病気と栄養	
	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の循環器の病気に関する問題を解く。	
14回	授業内容	痛風、貧血、骨粗鬆症、食物アレルギーと栄養	
	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の痛風、貧血、食物アレルギーに関する問題を解く。	
15回	授業内容	栄養機能食品、特定保健用食品	
	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の栄養機能食品、特定保健用食品に関する問題を解く。	

○レポート課題「糖尿病、消化管、循環器、痛風その他の病気」についてまとめる。○小テスト15回目の終盤30分で実施する。糖尿病、消化管、循環器、痛風その他の病気について復習しておくこと。

科目名	公衆衛生学 I				担当者	ワタナベ トシヒコ 渡 部 俊 彦						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等にはメールで対応する メールアドレス： twatanab@tohoku-mpu.ac.jp										
専門的 学習成果	①	公衆衛生を学ぶ意義を説明できる。										
	②	公衆衛生の現状を説明できる。										
	③	衛生統計の内容を理解できる。										
	④	衛生統計に関する用語を理解できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に関わる仕事で発生する産業廃棄物の廃棄を適切に行うことができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	製菓の現場で公衆衛生学で習得した内容に基づき製菓を安全かつ衛生的に実施できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	公衆衛生を維持するために、国や行政がどのような制度に基づき活動しているかを学ぶ。また、国民生活の現状や未来を考える上で重要な指標となる統計データに関する用語や統計解析方法について学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	100	講義で説明した内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師 試験問題集』				全国製菓衛生師養成施設協会						
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上』				全国製菓衛生師養成施設協会						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義前、講義後に講義内容に関する確認試験を行う。 その日講義する内容を教科書で確認すること (予習：2時間程度)。 また、講義終了後は確認試験を活用し、講義内容を理解できているか確認する。 理解できていない部分は、しっかりと復習すること (復習：2時間程度)。 ②確認試験を回収し、正解率が悪い項目については、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	公衆衛生の概要	
	学習成果	公衆衛生を学ぶ意義を説明することができる。	
	予習復習 の内容	公衆衛生の定義を理解する。	
	授業内容	予防医学の概要	
2回	学習成果	一次予防、二次予防、三次予防を説明することができる。	
	予習復習 の内容	一次予防、二次予防、三次予防の定義を理解する。	
3回	授業内容	世界の公衆衛生に関わる組織の概要	
	学習成果	世界の公衆衛生に関わる組織とその業績について説明することができる。	
	予習復習 の内容	WHO という組織の概要と業績を理解する。	
	授業内容	日本の公衆衛生に関わる組織の概要	
4回	学習成果	日本の公衆衛生に関わる組織とその業績について説明することができる。	
	予習復習 の内容	公衆衛生に関わる省庁について理解する。	
5回	授業内容	労働者の健康に関わる法律	
	学習成果	労働環境を衛生条件を守るための制度について説明することができる。	
	予習復習 の内容	労働衛生法の概要について理解する。	
	授業内容	衛生統計概要	
6回	学習成果	衛生統計の解析結果から、その地域の文化や習慣を理解することができる。	
	予習復習 の内容	人口動態統計、人工静態統計の定義を理解する。	
7回	授業内容	衛生統計各論 (老年人口指数、老年化指数、従属人口指数、労働力率)	
	学習成果	老年人口指数、老年化指数、従属人口指数、労働力率の活用方法を説明できる。	
	予習復習 の内容	老年人口指数、老年化指数、従属人口指数、労働力率の定義を理解する。	
	授業内容	衛生統計各論 (出生率)	
8回	学習成果	出生率の活用方法を説明できる。	
	予習復習 の内容	出生率の定義を理解する。	
9回	授業内容	衛生統計各論 (粗死亡率、年齢調整死亡率)	
	学習成果	粗死亡率、年齢調整死亡率の活用方法を説明できる。	
	予習復習 の内容	粗死亡率、年齢調整死亡率の定義を理解する。	
	授業内容	寿命 (平均寿命、平均余命)	
10回	学習成果	生命表を用いて、平均寿命、平均余命を算出することができる。	
	予習復習 の内容	平均寿命、平均余命の定義を理解する。	
11回	授業内容	食中毒統計 (細菌)	
	学習成果	発生頻度の高い細菌性食中毒の予防方法を説明できる。	
	予習復習 の内容	食中毒を引き起こす細菌について理解する。	
	授業内容	食中毒統計 (ウイルス)	
12回	学習成果	発生頻度の高いウイルス性食中毒の予防方法を説明できる。	
	予習復習 の内容	食中毒を引き起こすウイルスについて理解する。	
13回	授業内容	感染症発生動向調査	
	学習成果	国内外に蔓延している感染症について説明することができる。	
	予習復習 の内容	結核、麻疹、風疹、ポリオ、狂犬病について理解する。	
	授業内容	国民健康・栄養調査	
14回	学習成果	国民の健康と食事との関係性を説明することができる。	
	予習復習 の内容	食事をとらないことによる健康への影響について理解する。	
15回	授業内容	総まとめ	
	学習成果	公衆衛生学 I に関する演習問題を解くことができる。	
	予習復習 の内容	演習問題を解いてみて、理解できない点を明確にしておく。	

科目名	公衆衛生学Ⅱ				担当者	ワタ ナベ シゲ コ 渡 部 成 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等には、各講義の前後に対応する										
専門的 学習成果	①	人が生活している環境について説明できる。										
	②	公衆衛生を維持するための仕組みを説明できる。										
	③	環境保健と人の健康の関係について説明できる。										
	④	環境改善の方法を具体的に例示できる。										
汎用的 学習成果	(1)	人が安全で快適に働ける理想的な労働環境を提案することができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	公衆衛生とは何かを身の回りの環境(空気、水、土、生き物など)と関連させて学ぶ。環境と人の生活との関わりを理解した上で、人が健康的に生活するための環境条件や人の健康を害する環境汚染について学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	90	講義で説明した学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		平常点	10	講義中に行う理解度テストの解答内容から、授業への態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国製菓衛生師養成施設協会		『製菓衛生師 試験問題集』				全国製菓衛生師養成施設協会					
	全国製菓衛生師養成施設協会		『製菓衛生師教本 上』				全国製菓衛生師養成施設協会					
日本菓子教育センター		『製菓衛生師全集』				日本菓子教育センター						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストを授業前に読んで、問題集の問題を解いてみる(予習：2時間程度)。講義終了後に内容を復習すること(2時間程度) ②教本の記載内容が理解できない、練習問題が解けない場合は質問すること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	公衆衛生	定期試験を実施し、評価する
	学習成果	生活環境の衛生を説明できる。	
予習復習 の内容	公衆衛生の定義を理解する。		
	授業内容	環境因子・大気の組成・住居	
2回	学習成果	現代の生活環境、環境因子・大気の組成・住居の生活との関わりを説明できる。	
	予習復習 の内容	生活環境、環境因子の定義、大気を構成する成分・住居の定義を理解する。	
3回	授業内容	気候・上下水道・衣服	
	学習成果	気候・上下水道・衣服と生活との関わりを説明できる。	
予習復習 の内容	気候・上下水道・衣服の定義を理解する。		
	4回	授業内容	
学習成果	ごみ、その属・衛生害虫、電離放射線と生活との関わりを説明できる。		
	予習復習 の内容	ごみ、その属・衛生害虫、電離放射線の定義を理解する。	
5回	授業内容	空気汚染・水質汚染	
	学習成果	空気汚染・水質汚染と生活との関わりを説明できる。	
予習復習 の内容	空気汚染・水質汚染の定義を理解する。		
	6回	授業内容	騒音、振動、悪臭、環境ホルモン、地球温暖化
学習成果	騒音、振動、悪臭、環境ホルモン、地球温暖化と生活との関わりを説明できる。		
	予習復習 の内容	騒音、振動、悪臭、環境ホルモン、地球温暖化の定義を理解する。	
7回	授業内容	酸性雨、オゾン層の破壊、循環型社会の形成	
	学習成果	酸性雨、オゾン層の破壊、循環型社会の形成と生活との関わりを説明できる。	
予習復習 の内容	酸性雨、オゾン層の破壊、循環型社会の形成の定義を理解する。		
	8回	授業内容	生活習慣病・メタボリックシンドロームについて解説する。
学習成果	メタボリックシンドロームについて説明できる。		
	予習復習 の内容	メタボリックシンドロームを未然に防ぐための実生活上の注意点を考察する。	
9回	授業内容	生活習慣病、特に、糖尿病について解説する。	
	学習成果	糖尿病について説明できる。	
予習復習 の内容	糖尿病を未然に防ぐための実生活上の注意点を考察する。		
	10回	授業内容	生活習慣病、特循環器系疾患、がんについて解説する。
学習成果	循環器系疾患・がんについて、具体的に説明できる。		
	予習復習 の内容	循環器系疾患を未然に防ぐための生活上の注意点、実生活上においてがんにならないための注意点について考察する。	
11回	授業内容	健康増進法について具体的に解説する。	
	学習成果	健康増進法について内容を説明できる。	
予習復習 の内容	健康増進法の実生活での応用について考察する。		
	12回	授業内容	新しい健康作りについて解説する。
学習成果	実生活上での健康作りについて説明できる。		
	予習復習 の内容	実生活上で新しい健康作りをするに当たっての注意点を考察する。	
13回	授業内容	労働者の健康に関わる法律	
	学習成果	労働環境を衛生条件を守るための制度について説明できる。	
予習復習 の内容	労働衛生法の概要について理解する。		
	14回	授業内容	労働衛生管理について解説する。
学習成果	製菓の現場での労働衛生管理の実施方法を説明できる。		
	予習復習 の内容	労働衛生管理の実施上の注意点を考察する。	
15回	授業内容	総まとめ	
	学習成果	公衆衛生学Ⅱに関する演習問題を解くことができる。	
	予習復習 の内容	演習問題を解いてみて、理解できない点を明確にしておく。	

科目名	衛生法規				担当者	アイハラケンジ 相原健二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業前後に質問等を受け付ける。										
専門的 学習成果	①	衛生法規の意義が説明できる。										
	②	食品衛生法を菓子製造業務に関連付けることができる。										
	③	製菓衛生師法の目的を論じることができる。										
	④	製菓衛生師として菓子等の食品を安全に提供するにあたり、関係法規を関連付けることができる。										
	⑤	製菓衛生師として公衆衛生に寄与できる基本知識を身につけ、実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食関連の仕事に従事した際、法的な視点から社会的自立や専門的自立において客観視できる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
	(2)	食の安全を理解することで日頃から健康保持や健康増進を実践できる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
	(3)	製菓衛生師として食の安全を保持し提供できる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
授業概要	一般に衛生とは人の健康の保持及び増進を図ることである。この授業では主として製菓衛生師として、「菓子製造業に従事する者の資質を向上させ、もって公衆衛生の向上および増進に寄与する」という法の目的を達成すべく食品に関する法規・法令について学ぶ。製菓衛生師養成課程の必修授業である。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。								
		レポート										
		平常点	30	授業に取り組む姿勢、意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①～⑤で行う。 (2) は専門的学習評価①～⑤で行う。 (3) は専門的学習評価①～⑤で行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『製菓衛生師教本』				全国製菓衛生師養成施設協会						
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』				日本菓子教育センター						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本食品衛生協会	新訂『早わかり食品衛生法』(食品衛生法逐条解説) 第8版				公益社団法人日本食品衛生協会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①製菓衛生師養成課程必修。 日常の飲食物の購入の際、当品がどのような法に規制され、製造されているのか意識する。 また、食品表示は妥当であるかを法律に照らし併せて自主学習し、ノートにまとめておく。(時間外学習60時間必要) ②試験・レポートに対するフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、法学に関する基礎的事項	
	学習成果	法学に関する基礎的事項について理解する。	
2回	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	
	授業内容	衛生行政概説①	
3回	学習成果	衛生行政に関する基礎的事項について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	
4回	授業内容	衛生行政概説②	
	学習成果	わが国の衛生行政機構について理解し説明できる。	
5回	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	
	授業内容	製菓衛生師法①	
6回	学習成果	製菓衛生師法の沿革について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	
7回	授業内容	製菓衛生師法②	
	学習成果	製菓衛生師法の概要について理解し説明できる。	
8回	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	
	授業内容	関係法令 食品衛生法①	
9回	学習成果	概要、食品及び添加物、食品規格基準、器具及び容器包装の規格基準を理解できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	
10回	授業内容	関係法令 食品衛生法②	
	学習成果	表示の規制、臨検取去、食品衛生監視員による監視指導を理解できる	
11回	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	
	授業内容	関係法令 食品衛生法③	
12回	学習成果	公衆衛生上必要な措置の基準、施設基準、営業許可、行政処分、食中毒調査を理解できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	
13回	授業内容	関係法令 食品衛生法④	
	学習成果	準用、罰則、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理を理解できる。	
14回	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	
	授業内容	関係法令 食品表示法等食品表示関連法規	
15回	学習成果	食品表示関連法規について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	
16回	授業内容	一般衛生法規①	
	学習成果	地域保健法、健康増進法等について理解し説明できる。	
17回	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	
	授業内容	一般衛生法規②	
18回	学習成果	感染症予防法等について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	
19回	授業内容	一般衛生法規③	
	学習成果	食品安全基本法、食育基本法等について理解し説明できる。	
20回	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	
	授業内容	関係法令 その他の関係法令	
21回	学習成果	環境保全法規、消費者政策関連法規、その他の衛生法規について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	
22回	授業内容	衛生法規についてのまとめ	
	学習成果	衛生法規全般を理解し、説明できる。製菓衛生師国家試験問題に解答できる能力がある。	
23回	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。	

科目名	食品衛生学Ⅱ				担当者	アイハラケンジ 相原健二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業前後に質問等を受け付ける										
専門的 学習成果	①	食中毒の発生状況を説明できる。										
	②	食中毒の病因物質の予防対策が説明できる。										
	③	菓子と食中毒の関連を説明できる。										
	④	食の安全を提供する製菓衛生師としての基本的な衛生知識を習得し実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食関連の仕事で食品衛生面から社会的自立や専門的自立において客観視できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(2)	食中毒について理解することで、健康保持や健康増進を実践できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(3)	製菓衛生師として食の安全を保持し提供できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
授業概要	食品衛生学Ⅱでは、主に食中毒と衛生管理について学ぶ。食中毒とは食中毒菌が付着した飲食物あるいは器具、容器包装を介して摂取することにより起きる健康障害である。食品衛生の目的は飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止することにあるが、ここでは主として食中毒についての概要、病因物質と予防対策について学ぶ。製菓衛生師養成課程は必修授業である。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。								
		レポート										
		平常点	30	授業に取り組む姿勢、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①～④で行う。 (2) は専門的学習評価①～④で行う。 (3) は専門的学習評価①～④で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『製菓衛生師教本』									
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキスト、配布資料、視聴覚教材を活用し、授業を進める。事前学習として、新聞・テレビ・インターネット等で報道される飲食物による食中毒事件、食の安全に関わる記事等を日々探求し、自己研鑽すること。探求した内容はノートにまとめておく。(時間外学習60時間程度) ②試験・レポートに対するフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、食中毒の概要	
	学習成果	食中毒の概要について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
	2回	授業内容	食中毒の分類、発生状況
	学習成果	食中毒の分類と発生状況を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
3回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策 細菌性食中毒 (1) 感染型食中毒	
	学習成果	サルモネラ属菌、腸炎ビブリオ、病原性大腸菌、ウェルシュ菌、カンピロバクター、エルシニア菌、リステリア菌等について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
	4回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策 細菌性食中毒 (2) 毒素型食中毒
	学習成果	黄色ブドウ球菌、ボツリヌス、セレウス菌等について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
5回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策 ウィルス性食中毒	
	学習成果	ノロウイルスについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
	6回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策 化学性食中毒、アレルギー物質
	学習成果	化学物質、アレルギー物質について、理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
7回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策 自然毒食中毒	
	学習成果	自然毒について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
	8回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策 寄生虫食中毒
	学習成果	寄生虫(アニサキス等)について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
9回	授業内容	菓子と食中毒、異物混入	
	学習成果	和菓子、洋菓子、パンによる食中毒や異物混入の事例と予防対策を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
	10回	授業内容	食中毒の予防①
	学習成果	微生物(細菌、ウイルス、かび)による食中毒の予防について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
11回	授業内容	食中毒の予防②	
	学習成果	化学物質、自然毒、寄生虫等による食中毒の予防について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
	12回	授業内容	食品衛生法及び食品表示法に基づく食品の取扱い
	学習成果	食品衛生法及び食品表示法に基づく食品の規格基準、製造基準、保存基準、表示基準を説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
13回	授業内容	消毒の方法(物理的消毒方法、科学的消毒方法)	
	学習成果	菓子製造者として、食品衛生についての知識を学び、科学的な根拠をもとに実践方法を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
	14回	授業内容	HACCPによる衛生管理(概論)
	学習成果	菓子製造者として、HACCPについての知識を学び、科学的な根拠をもとに実践方法を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
15回	授業内容	食品衛生についてのまとめ	
	学習成果	食中毒、衛生管理全般を理解し、説明できる。製菓衛生師国家試験問題に解答できる能力がある。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本 製菓衛生師試験問題集を読み予習・復習しておく。	

科目名	食品衛生学Ⅲ				担当者	ワタ ナベ シダ コ 渡 部 成 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等には、各講義の前後に対応する。										
専門的 学習成果	①	食物連鎖について説明できる。										
	②	重金属、化学物質、農薬などの人体への影響を説明できる。										
	③	農薬や異物が食品に混入する原因を説明できる。										
	④	農薬や放射線の適切な利用方法を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食材に混入する可能性がある有害成分を考慮して、食材を選ぶことができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	野菜などを栽培する際に、農薬を適切に選択し、使用することができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	食品に混入する危険性がある有害物質(重金属、化学物質、農薬など)の性質や人体への影響について学ぶ。また、こうした有害物質の安全で有効的な活用方法や食品への混入を防ぐ方法などについても学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	90	講義で説明した学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		平常点	10	講義中に行う理解度テストの解答内容から、授業への態度・関心・意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2)は専門的学習成果③～④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師 試験問題集』				全国製菓衛生師養成施設協会						
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上』				全国製菓衛生師養成施設協会						
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全集』				日本菓子教育センター						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストを授業前に読んで、問題集の問題を解くこと(予習:週1時間程度)。講義終了後に内容を復習すること(復習:週3時間程度)。 ②教本の記載内容が理解できない、練習問題が解けない場合は質問すること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	食物連鎖	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	食物連鎖と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	食物連鎖の定義を理解する。	
	授業内容	生物濃縮	理解度テストを実施し、評価する。
2回	学習成果	生物濃縮と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	生物濃縮の定義を理解する。	
	授業内容	重金属	理解度テストを実施し、評価する。
	3回	学習成果	
	予習復習の内容	重金属の定義を理解する。	
	授業内容	放射性物質	理解度テストを実施し、評価する。
	4回	学習成果	
	予習復習の内容	放射性物質の定義を理解する。	
	授業内容	放射線、滅菌	理解度テストを実施し、評価する。
	5回	学習成果	
	予習復習の内容	放射線、滅菌の定義を理解する。	
	授業内容	有機塩素系農薬	理解度テストを実施し、評価する。
	6回	学習成果	
	予習復習の内容	有機塩素系農薬の定義を理解する。	
	授業内容	PCB	理解度テストを実施し、評価する。
	7回	学習成果	
	予習復習の内容	PCBの定義を理解する。	
	授業内容	ダイオキシン	理解度テストを実施し、評価する。
	8回	学習成果	
	予習復習の内容	ダイオキシンの定義を理解する。	
	授業内容	残留農薬	理解度テストを実施し、評価する。
	9回	学習成果	
	予習復習の内容	残留農薬の定義を理解する。	
	授業内容	残留動物用医薬品	理解度テストを実施し、評価する。
	10回	学習成果	
	予習復習の内容	残留動物用医薬品の定義を理解する。	
	授業内容	残留飼料添加物	理解度テストを実施し、評価する。
	11回	学習成果	
	予習復習の内容	残留飼料添加物の定義を理解する。	
	授業内容	動物性の異物	理解度テストを実施し、評価する。
	12回	学習成果	
	予習復習の内容	動物性の異物の定義を理解する。	
	授業内容	植物性の異物	理解度テストを実施し、評価する。
	13回	学習成果	
	予習復習の内容	植物性の異物の定義を理解する。	
	授業内容	鉱物性の異物	理解度テストを実施し、評価する。
	14回	学習成果	
	予習復習の内容	鉱物性の異物の定義を理解する。	
	授業内容	総まとめ	演習問題を使い、評価する。
	15回	学習成果	
	予習復習の内容	演習問題を解いてみて、理解できない点を明確にしておく。	

科目名	食品衛生学Ⅳ（衛生管理）				担当者	菊地香保里						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける										
専門的 学習成果	①	衛生管理を実習を通して学び、清潔な身だしなみができる。										
	②	衛生管理についての知識を学び、日常生活の健康管理の重要性を科学的な根拠をもとに説明できる。										
	③	衛生管理を学び、食品の衛生管理を実践することができる。										
	④	衛生管理について実習を通して学び、洗剤の使用法や消毒剤の使用法を説明することができる。										
	⑤	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、実践することができる。										
	⑥	製菓業務における HACCP システムについて学び、危害リストの作成ができ、説明できる。										
	⑦	製菓衛生師国家試験の過去問題を解くことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	衛生管理で習得した知識を活用して、衛生管理の課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(2)	衛生管理で習得した知識や技能を活用して菓子製造現場の課題に取り組み、問題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(3)	衛生管理で習得した知識を活用して菓子製造現場の衛生管理に取り組み、実践することができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(4)	衛生管理で習得した知識を活用して、製菓衛生師国家試験等の資格取得に活用することができる。（専門的学習成果①～⑦に関連）										
授業概要	食に携わるものの義務として、人々に製造した食品を販売する社会的責任について十分に理解し、食品衛生法を遵守する重要性を学ぶ。そのために食品衛生法で定められている衛生管理全般についての知識が必要である。食品衛生法では、洋生菓子の衛生規範、営業施設基準、食品の表示、アレルギー物質を含む食品の表示等が示されている。食品衛生法について理解を深め、行動しながら考える習慣を身につけ、衛生管理の現状と今後の課題について考察する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	40	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	40	7回レポート、学習プリントを提出し、各回5%を配点する。内容により評価する。								
		衛生点検表	20	10回実施し、各回2%を配点する。特につめが長い、ネイル、濃い化粧、マスカラ等は評価が低くなる。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	高谷 幸		『食品衛生責任者/実践マニュアル 食品取扱者・調理従事者必携 衛生管理ガイドブック』							社団法人 日本食品衛生協会		
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『新訂製菓衛生師教本』							全国製菓衛生師養成施設協会		
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書』							日本菓子教育センター		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	仙台市健康福祉局保健衛生部生活衛生課監修		『食品衛生責任者養成講習会テキスト・知っておきたい食品衛生』							社団法人 仙台市食品衛生協会		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。（予習：週2時間程度）。事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりすること。（復習：週2時間程度）。授業計画の1回目と2回目と3回目は講義とし、4回目以降は演習を行う。 ②フィードバックとして、小テスト（理解度確認テスト）を回収後、解答の解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、衛生管理の意義、健康管理の重要性、食品取扱の三原則	○レポート課題1「衛生管理の意義」「食品取扱の三原則」を2回目までに提出する。「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	衛生管理を実習を通して学び、個人の健康管理、清潔な身だしなみを学ぶ。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
2回	授業内容	施設、設備の要件と管理、営業者の責務	○レポート課題2「菓子製造業者として人々に食品を販売する社会的責任について」のまとめを3回目までに提出。「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
3回	授業内容	総合衛生管理製造過程、食品の保存と表示	○レポート課題3「食品の保存と表示」のまとめを4回目までに提出する。「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
4回	授業内容	服装、身だしなみ、入室マニュアル	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
5回	授業内容	手洗い、手洗いチェック	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
6回	授業内容	食材および加工済み食品の受け入れと保管時の衛生管理	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	衛生管理を実習を通して学び、清潔な身だしなみができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
7回	授業内容	食材の適切な下処理、解凍と保存（実習室）	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	衛生管理を学び、食品の衛生管理を実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
8回	授業内容	食材の加熱処理、加工工程のない食材の取扱い（実習室）	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	衛生管理を学び、食品の衛生管理を実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
9回	授業内容	滅菌、殺菌、消毒、牛乳の殺菌方法（実習室）	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	菓子製造者として、食品衛生についての知識を学び、科学的な根拠をもとに実践することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
10回	授業内容	調理終了から喫食までの衛生管理 器具、容器、設備の洗浄、消毒、保管（実習室）	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	衛生管理を学び、食品の衛生管理を実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
11回	授業内容	食品事業者の危機管理、事故など発生時の対応方法、異物混入の防止対策（実習室）	○学習プリントの練習問題1～5記入。レポート課題4「製品説明書」「製造工程一覧図」を記入し13回目まで提出。
	学習成果	洗剤の使用法や消毒剤の使用法を学び、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
12回	授業内容	給水・汚物処理、菓子製造業の施設基準と施設設備の構造（実習室）	○学習プリントの練習問題6～10記入。レポート課題5「HACCPの計画書」に記入し、14回目まで提出。
	学習成果	食品衛生法に基づいた管理運営基準、洋生菓子の衛生規範を学び、食品の衛生管理を実践することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
13回	授業内容	製菓業務における HACCP システムの検討	○学習プリントの練習問題11～15記入。レポート課題6「標準作業手順書」に記入し作成14回目まで提出。
	学習成果	製菓業務における HACCP システムについて学び、危害リストの作成ができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
14回	授業内容	製菓業務における HACCP システムの検討	○学習プリントの練習問題16～20記入。レポート課題7「ノロウイルスの予防対策」をまとめ、15回目まで提出。
	学習成果	製菓業務における HACCP システムについて学び、衛生標準作業手順書の作成ができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
15回	授業内容	細菌性食中毒、ウイルス性食中毒の特徴と予防対策	○学習プリントの練習問題21～30記入。学習プリントファイルを点検し、記入状況で評価する。
	学習成果	衛生管理について実習を通して学び、洗剤の使用法や消毒剤の使用法を説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	

科目名	製菓社会論				担当者	サガ ラ ナ ツ 相 良 奈 津						
区 分	選 択	2	単 位	授業回数	15	回	授業 形態	講 義	学 年	1 年	開 講 期	後 期
				授業時間数	30	時 間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		sagara.natsu@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	菓子店を開業する為の必要最低限の事を説明できる。										
	②	菓子店経営の為に何が必要か説明できる。										
	③	菓子店経営の為にすべき事を体系的に論じることができる。										
	④	繁盛店になる為には何をすべきか説明できる。										
	⑤	菓子の歴史・文化について理解する。										
	⑥	菓子・製菓業界の現状と課題について理解し考察しプレゼンテーションができる。										
	⑦	自らの製菓観、菓子製造者・経営観を構築できる。										
汎用的 学習成果	(1)	製菓衛生師養成課程必須科目である、菓子店経営・菓子文化論に関する学習を通じて、菓子に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を修得し活用できる。(専門的学習成果①②③⑤⑦に関連)										
	(2)	経営に関連した専門知識を活用して、地域社会の発展に貢献できる。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	菓子・製菓業界の現状の調査や、プレゼンテーションを通じて、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果④に関連)										
	(4)	菓子・製菓業界の現状の調査を通じて、修得した知識を活用し課題の設定や解決法について考察ができる。(専門的学習成果⑦に関連)										
授業概要	製菓衛生師必須科目である。テキストに沿って、菓子店開業の為に必要な届け出や準備すべき備品・什器、資金等、様々な角度から見つけ出す。さらに菓子店を運営していく上で売るための仕組みと、売り上げ向上に繋がる為に必要不可欠な事や留意点を実体験に基づき具体例を交えて講義するしていく。受講学生自らオーナーの立場となって繁盛店となるポイントを探る授業とする。菓子の歴史や現代生活との結びつきをテキストや文献に基づき深く見つめなおす。具体的には菓子の始まりから、日本における和・洋菓子文化に重点を置き知識を修得する。フランス等、欧州の古典菓子の名前と由来などについては講義の中で解説をする。また、調査を通じ現在の日本の菓子店・菓子の動向を調べ、自らの製菓観、菓子製造者・経営者感を構築しプレゼンテーションを行い、自己表現を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	30	筆記試験形式で行い全15回分の講義の内容の理解について評価を行う。								
		レポート										
		プレゼンテーション	30	テーマに基づいたプレゼンテーションの内容・発表により評価する。								
		平常点	10	調査やプレゼンテーションへの取り組み・意欲・態度により評価する。								
		提出物	10	パワーポイントについてその内容・形式により評価する。								
	小テスト	20	第8回、第15回に実施。各回10%を配点する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) (4) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習評価①③⑤⑦により評価を行う (2) は専門的学習評価②③④により評価を行う (3) は専門的学習評価④⑥により評価を行う (4) は専門的評価⑦により評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『製菓衛生師教本』				全国製菓衛生師養成施設協会					
			『製菓衛生師全書 和洋菓子・パンのすべて』				日本菓子教育センター					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	猫井 登		『お菓子の由来物語』				幻冬舎ルネッサンス					
	大森由紀子		『フランス菓子図鑑 お菓子の名前と由来』				世界文化社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①製菓衛生師養成課程必須科目である。 テキストを使用し授業を進めるため、必ずテキストを準備のうえ受講すること。授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週4時間程度行うこと。また、日常的に菓子店・製パン店・和菓子店・デパート食品売り場等に出向き菓子店の動向などを視察し考察を深めること。 ②小テスト・筆記試験は答案を返却するとともに、問題・解答についての解説を行うことにより、結果のフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、菓子店経営論概要、菓子と食生活	○小テスト 8回目に実施
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンス内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	ビジネスプランの企画開発の手順・企業戦略の確立	
	学習成果	ビジネスプランの企画開発の手順と企業戦略の確立を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
3回	授業内容	企業戦略の確立・店舗オペレーションの原理原則	
	学習成果	企業戦略の確立方法と店舗オペレーションの原理原則を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
4回	授業内容	商品計画・商品の価値・味	
	学習成果	商品計画の方法・商品の価値・味を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
5回	授業内容	店舗計画・店舗設計について	
	学習成果	店舗計画の方法・店舗設計について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
6回	授業内容	経営計画の立て方・マニュアルの作成方法	
	学習成果	経営計画の立て方・マニュアルの作成方法を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
7回	授業内容	人事に関する法規・サービスからホスピタリティに	
	学習成果	人事に関する法規・サービスからホスピタリティを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
8回	授業内容	接客サービスの基本・販売促進計画・開店計画・菓子店経営についてのまとめ	
	学習成果	接客サービスの基本・販売促進計画・開店計画・菓子店経営全般についてのまとめを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
9回	授業内容	菓子の役割 (1) 歴史的背景 (2) 現代社会の場合	○小テスト 15回目に実施 15回分の授業内容の理解について筆記試験で評価。
	学習成果	菓子の歴史的背景・現代社会での役割を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、菓子の歴史的背景・現代社会での役割について理解を深める。	
10回	授業内容	日本の工芸菓子文化・都市部の菓子店の現状の調査	
	学習成果	ジャパンケーキショーを調査し、工芸菓子について説明ができる。都市部の菓子店を調査し、店のポイントや味、地方との違いについて説明ができる。	
	予習復習の内容	調査を振り返り、日本の工芸菓子文化、都市部の菓子店の現状について理解を深める。	
11回	授業内容	調査研究の発表	
	学習成果	パワーポイントを製作し、他者の前で発表できる。	
	予習復習の内容	パワーポイント製作及び発表に向けて必要な準備を行う。	
12回	授業内容	菓子の歴史 (1) 縄文時代から鎌倉時代まで (2) 江戸時代から現代まで	
	学習成果	菓子の歴史の縄文時代から現代まで、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、菓子の歴史の縄文時代から現代までについて理解を深める。	
13回	授業内容	パンの歴史 (1) 世界編 (1) 日本編	
	学習成果	パンの歴史の世界編・日本編について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、パンの歴史の世界編・日本編について理解を深める。	
14回	授業内容	菓子製造の要件 (1) 美と味覚 (2) 衛生と栄養	
	学習成果	菓子製造の要件の美と味覚・衛生と栄養について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、菓子製造要件の美と味覚・衛生と栄養について理解を深める。	
15回	授業内容	菓子の生産と消費・菓子の包装	
	学習成果	菓子の生産と消費・菓子の包装について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、菓子の生産と消費・菓子の包装について理解を深める。	

科目名	製菓理論 I				担当者	岩 松 秀 夫						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				授業前後に質問等を受け付ける。								
専門的 学習成果	①	製菓原材料の種類を理解しその内容を説明できる。										
	②	菓子の分類を理解し、その内容を説明できる。										
	③	製菓材料の加工適性を理解し、その内容を説明できる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓理論分野に関する知識を習得し、実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	製菓分野に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	製菓理論で習得した知識を活用した菓子製造現場での課題解決と問題解決の行動ができる。（専門的学習製菓①②③）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を身に付ける。（専門的学習成果①②③④）										
授業概要	菓子製造をするにあたり、小麦粉、砂糖、卵など主に製菓で使用する食材の持つ特徴や働きを理解でき実践の際に活用することができる。また、国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、製菓材料（和菓子・洋菓子・製パン）を分類・種類・等級がどのような基準・規格によるものかを理解し、どのような使用例があるか理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	全15回分の講義内容を基に記述式の問題を課す。70%以上の得点を合格とする。								
		レポート	20	各授業でレポート課題を課し、次授業で提出する。								
		平常点	20	授業態度、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価する。 (2) は専門的学習評価①②③にて評価する。 (3) は専門的学習評価①②③④にて評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	日本菓子教育センター編		『製菓衛生師全書』						日本菓子教育センター			
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『製菓衛生師教本』						全国製菓衛生師養成施設協会			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	河田昌子		『お菓子「こつ」の科学』						柴田書店			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①製菓衛生師必修科目である。 製菓原材料の種類及び加工適性を理解する。製菓理論を理解し、実習で確認する。 授業前によくテキストを読み十分に理解して授業に臨むこと。（予習として週2時間程度） 単元ごとに授業にレポートを課し、その内容を評価の対象とする。（復習として週2時間程度） ②レポート課題は次回授業内にて解説を実施する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、製菓材料の総論	
	学習成果	菓子里に使用される原料の概要が説明できる。	
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読み授業内容を理解する。	
	授業内容	甘味料（種類・特徴）	
3回	学習成果	菓子里に使用される甘味料の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「甘味料」分野を予習・復習しておく。	
4回	授業内容	甘味料（でん粉糖・その他の糖類）	
	学習成果	菓子里に使用される甘味料であるでん粉糖と他糖類の特徴を説明できる。	
5回	予習復習の内容	製菓衛生師全書「甘味料」分野を予習・復習しておく。	
	授業内容	小麦粉（種類・特徴）	
6回	学習成果	菓子里に使用される小麦粉の種類とその特徴を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「小麦粉」分野を予習・復習しておく。	
7回	授業内容	小麦粉（加工適性）	
	学習成果	菓子里に使用される小麦粉の加工適性を理解し、説明できる。	
8回	予習復習の内容	製菓衛生師全書「小麦粉」分野を予習・復習しておく。	
	授業内容	でん粉（種類・加工適性）	
9回	学習成果	菓子里に使用されるでん粉の種類と加工適性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「でん粉」分野を予習・復習しておく。	
10回	授業内容	米 粉（種類と加工適性）	
	学習成果	菓子里に使用される米粉の種類と加工適性を理解し、説明できる。	
11回	予習復習の内容	製菓衛生師全書「米粉」分野を予習・復習しておく。	
	授業内容	鶏 卵（加工適性）	
12回	学習成果	菓子里に使用される鶏卵の加工適性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「鶏卵」分野を予習・復習しておく。	
13回	授業内容	油 脂（種類・特徴）	
	学習成果	菓子里に使用される油脂の種類と特徴を理解し、説明できる。	
14回	予習復習の内容	製菓衛生師全書「油脂」分野を予習・復習しておく。	
	授業内容	油 脂（加工適性）	
15回	学習成果	菓子里に使用される油脂の加工適性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「油脂」分野を予習・復習しておく。	
16回	授業内容	牛乳及び乳製品（種類）	
	学習成果	菓子里に使用される牛乳と乳製品を理解し、説明できる。	
17回	予習復習の内容	製菓衛生師全書「牛乳及び乳製品」分野を予習・復習しておく。	
	授業内容	牛乳及び乳製品（加工適性）	
18回	学習成果	菓子里に使用される牛乳と乳製品の加工適性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「牛乳及び乳製品」分野を予習・復習しておく。	
19回	授業内容	原料チョコレート（種類）	
	学習成果	菓子里に使用されるチョコレートの種類を理解し、説明できる。	
20回	予習復習の内容	製菓衛生師全書「チョコレート」分野を予習・復習しておく。	
	授業内容	原料チョコレート（加工適性）	
21回	学習成果	菓子里に使用されるチョコレートケーキの加工適性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「チョコレート」分野を予習・復習しておく。	
22回	授業内容	菓子の原材料についてのまとめ	
	学習成果	菓子里に使用される原料全般の特性を理解し、説明できる。	
23回	予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓理論「菓子の原材料」分野を予習・復習しておく。	

科目名	製菓理論Ⅱ				担当者	岩 松 秀 夫						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に質問等を受け付ける。											
専門的 学習成果	①	製菓原材料の種類を理解しその内容を説明できる。										
	②	菓子の分類を理解し、その内容を説明できる。										
	③	製菓材料の加工適性を理解し、その内容を説明できる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓理論分野に関する知識を習得し、実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	製菓分野に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	製菓理論で習得した知識を活用した菓子製造現場での課題解決と問題解決の行動ができる。（専門的学習製菓①②③）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を身に付ける。（専門的学習成果①②③④）										
授業概要	菓子製造をするにあたり、果実、凝固剤、食品添加物等、主に製菓で使用する食材の持つ特徴や働きを理解でき実践の際に活用することができる。また、国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、製菓材料（和菓子・洋菓子・製パン）を分類・種類・等級がどの様な基準・規格によるものかを理解し、どの様な使用例があるか理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	全15回分の講義内容を基に記述式の問題を課す。70%以上の得点を合格とする。								
		レポート	20	各授業でレポート課題を課し、次授業で提出する。								
		平常点	20	授業態度、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価する。 (2) は専門的学習評価①②③にて評価する。 (3) は専門的学習評価①②③④にて評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名										出版社名
	日本菓子教育センター編	『製菓衛生師全書』										日本菓子教育センター
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『製菓衛生師教本』										全国製菓衛生師養成施設協会
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名										出版社名
	河田昌子	『お菓子「こつ」の科学』										柴田書店
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。 製菓原材料の種類及び加工適性を理解する。製菓理論を理解し、実習で確認する。 授業前によくテキストを読み十分に理解して授業に臨むこと。（予習として週2時間程度） 単元ごとに授業にレポートを課し、その内容を評価の対象とする。（復習として週2時間程度） ②レポート課題は次回授業内にて解説を実施し返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、製菓分類の総論	授業態度、意欲を評価する。 授業終了後に課題として、レポートを課す。レポート内容は評価の対象とする。 次回の授業にてレポートを提出する。適宜解説を行う。 全15回分の講義内容を基に記述式の問題を課す。
	学習成果	菓子分類の概要が説明できる。	
予習復習の内容	シラバスを事前に読み授業内容を理解する。		
	授業内容	果実及び果実加工品（種類）	
2回	学習成果	菓子里に使用される果実及び果実加工品の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「果実及び果実加工品」分野を予習・復習しておく。	
3回	授業内容	果実及び果実加工品（加工適性）	
	学習成果	菓子里に使用されるの果実及び果実加工品の加工適性を説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「果実及び果実加工品」分野を予習・復習しておく。		
	4回	授業内容	
4回	学習成果	菓子里に使用される凝固剤の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「凝固剤」分野を予習・復習しておく。	
5回	授業内容	凝固材（加工適性）	
	学習成果	菓子里に使用される凝固剤の加工適性を説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「凝固剤」分野を予習・復習しておく。		
	6回	授業内容	風味・調味料（酒・香料）
6回	学習成果	菓子里に使用される風味・調味料の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「風味・調味料」分野を予習・復習しておく。	
7回	授業内容	風味・調味料（香辛料・乳化性香料）	
	学習成果	菓子里に使用される風味・調味料の種類と特徴を説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「風味・調味料」分野を予習・復習しておく。		
	8回	授業内容	補助材料（イースト・食塩・水）
8回	学習成果	菓子里に使用される補助材料の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「補助材料」分野を予習・復習しておく。	
9回	授業内容	製パン改良剤（イーストフード）	
	学習成果	菓子里に使用される製パン改良剤の種類と特徴を説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン改良剤」分野を予習・復習しておく。		
	10回	授業内容	製パン改良剤（膨張剤・乳化剤）
10回	学習成果	菓子里に使用される製パン改良剤の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン改良剤」分野を予習・復習しておく。	
11回	授業内容	着色料（種類）	
	学習成果	菓子里に使用される着色料の種類と特徴を説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「着色料」分野を予習・復習しておく。		
	12回	授業内容	その他の補助材料
12回	学習成果	菓子里に使用される補助材料の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「補助材料」分野を予習・復習しておく。	
13回	授業内容	食品添加物（分類）	
	学習成果	菓子里に使用される食品添加物の種類と特徴を説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「食品添加物」分野を予習・復習しておく。		
	14回	授業内容	食品アレルギー
14回	学習成果	菓子原料での食品アレルギーについて説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「食品添加物」分野を予習・復習しておく。	
15回	授業内容	菓子の原材料についてのまとめ	
	学習成果	菓子里に使用される原料全般の特性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓理論「菓子の原材料」「補助材料」を予習・復習しておく。	

科目名	製菓理論Ⅲ				担当者	ヨシダ 正						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	洋菓子の種類、材料について基本的理論を理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子の基本製造を理解し、古典菓子から流行菓子まで説明、表現できる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓理論に関する知識を習得し、理解できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を身に付ける。（専門的学習成果①②③④）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、主に洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。 小麦粉、バター、卵などの、洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解し、なおかつ、ルセット（配合）に置き換えた際の性質を理解して実習授業で活用していく方法を習得する。 また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性について理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	全15回分の講義内容を基に記述式の問題を課す。70%以上の得点を合格とする。								
		レポート										
		小テスト	30	隔週にて実施し、授業内容理解度を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習評価①③にて評価を行う。 (3) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』							日本菓子教育センター			
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』							日本菓子教育センター			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上・下』							全国製菓衛生師養成施設協会			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。授業計画に沿って教科書の内容を事前に確認しておく。（事前学習として週1時間程度） 授業後は配布したプリントにまとめ、次回の小テストに向けた自主学習をする。（復習2時間程度） ※国家試験の資格取得の為に学習時間が定められている。欠席者に対しては補講を課す。 ②小テストは実施後に適宜総評、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、製菓衛生師とは	ワークシートの取り組み。 授業終了後、提出する。
	学習成果	授業の内容を理解し製菓衛生師について説明できる。	
2回	予習復習の内容	事前学習としてシラバスを読み、内容を理解する。	
	授業内容	洋菓子の分類 洋菓子製造に用いる用具、機器・パートジェノワーズ	
3回	学習成果	洋菓子の分類 洋菓子製造に用いる用具。機器を理解し説明できる。	小テスト（原材料基礎知識について）4回目に実施
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
4回	授業内容	原材料の基礎知識 1) 小麦粉・澱粉・米粉・糖類・パートビスキュイ	
	学習成果	上記食材の洋菓子材料としての役割と物性変化を理解して説明できる。	
5回	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	小テスト（基本生地とその応用1・2について）6回目に実施
	授業内容	原材料の基礎知識 2) 油脂・鶏卵・乳製品・チョコレート・果実	
6回	学習成果	上記食材の洋菓子材料としての役割と物性変化を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
7回	授業内容	基本生地とその応用 1) パータフォンセ・パータシュクレ・フィユタージュ	小テスト（基本生地とその応用3・4について）8回目に実施
	学習成果	生地の違いと使用用途を理解して説明できる。	
8回	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
	授業内容	基本生地とその応用 2) パータシュー・パートプリゼ	
9回	学習成果	生地の違いと使用用途を理解して説明できる。	小テスト（基本生地とその応用5・6について）10回目に実施
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
10回	授業内容	基本生地とその応用 3) カトルカール・ムラング・マカロン	
	学習成果	生地の仕込み方法と焼成温度を理解して実習授業で実践できる。	
11回	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	小テスト（副材料について）12回目に実施
	授業内容	基本生地とその応用 4) パートルヴェ・ブディング・ババロア・ムース・ジュレ	
12回	学習成果	発酵菓子の温度管理の理解と冷菓に使用するゲル化剤を正しく分類・使用できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
13回	授業内容	基本生地とその応用 5) クリーム・ソース・スフレ	小テスト（チョコレートについて）14回目に実施
	学習成果	クリーム類を安全に正しく管理・製造できる。	
14回	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
	授業内容	基本生地とその応用 6) プティフル・細工物	
15回	学習成果	プティフルを分類して説明できる。細工物を分類して説明できる。	小テスト（製菓衛生師試験洋菓子分野）15回目に実施
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
16回	授業内容	副材料 1) ジャム・フルーツなどの砂糖漬け	
	学習成果	ジャム類の規格を理解と製造原理を理解する。糖液と糖度を説明できる。	
17回	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
	授業内容	副材料 2) プラリネ・ヌガー・自家製リキュール・マジパン・フォンダン	
18回	学習成果	上記材料についての原理を理解して製法を説明できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
19回	授業内容	チョコレート 1) チョコレートの基本知識	小テスト（チョコレートについて）14回目に実施
	学習成果	歴史、カカオ豆、製造工程、成分、分類について理解し説明できる。	
20回	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
	授業内容	チョコレート 2) チョコレートの理論と応用	
21回	学習成果	温度管理、カカオバターの結晶化、ガナッシュについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
22回	授業内容	古典菓子から現代菓子への変化 製菓衛生師試験への取り組み	小テスト（製菓衛生師試験洋菓子分野）15回目に実施
	学習成果	食材や技術の発展により洋菓子が変化していった過程を理解して説明できる。	
23回	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
	授業内容	これまでの授業内容を理解深め、国家試験過去問題に取り組む。	

科目名	洋菓子入門				担当者	ヨシダ 正						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	洋菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子の基本製造を理解し製作できる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる。（専門的学習成果②③④）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する基礎知識と基本技能について学習する。洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して洋菓子実習にて活用していく技法を習得する。実習では主にフランス菓子の基本パートの製法と、そのパートを使用したケーキ、菓子を製作する。また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。デコレーションの技術を習得する為に、授業時間以外での練習が必要とされる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	洋菓子製造に必要な技法（デコレーション）の実技試験を実施する								
		レポート	30	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う (2) は専門的学習評価①③にて評価を行う (3) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う (4) は専門的学習評価②③④にて評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』				日本菓子教育センター						
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』				日本菓子教育センター						
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上・下』				全国製菓衛生師養成施設協会						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。2コマ連続で授業を行う。授業計画に沿って制作する菓子・ケーキの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週1時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる（復習として週2時間程度） ②課題として提出されたノートは点検後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス 実習室の使用方法 用具・機器の理解	ワークシートへの取り組み
	学習成果	授業内容を十分に理解し、実習室と機器類を的確に操作できる。	
3・4回	予習復習の内容	ガイダンス内容を踏まえ、次回授業に必要なとされる事を準備する。	毎授業で制作したケーキ・菓子について評価・総評を行う。また、自身で作製したケーキ・菓子を写真に撮り、提出用ノートに張り付ける。 12・13回目については、授業内で一定の水準に到達しない場合、技術習得の練習を課す。
	授業内容	基本生地とその製法 1) パータジェノワーズ	
学習成果	ジェノワーズ生地の基本配合と共立て製法を習得する。		
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
5・6回	授業内容	基本生地とその製法 2) パータビスキュイ	
学習成果	パータビスキュイの基本配合と別立て製法を習得する。		
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
7・8回	授業内容	基本生地とその応用 3) パータシュクレ	
学習成果	パータシュクレの基本配合と仕込み製法を習得する。		
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
9・10回	授業内容	基本生地とその応用 4) パータプリゼ	
学習成果	パタープリゼの基本配合と仕込み製法を習得する。		
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
11・12回	授業内容	基本生地とその応用 5) パータシュー	
学習成果	基本配合と製法を習得する。		
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
13・14回	授業内容	基本生地とその応用 6) パータフィユタージュ	
学習成果	基本配合と製法を習得する。		
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
15・16回	授業内容	クリーム類と副材料 1) クレームフロマージュ	
学習成果	基本配合と製法を習得する。		
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
17・18回	授業内容	クリーム類と副材料 2) ババロア プディング	
学習成果	基本配合と製法を習得する。		
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
19・20回	授業内容	クリーム類と副材料 3) クレームソース	
学習成果	基本配合と製法を習得する。		
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
21・22回	授業内容	基本生地とその応用 4) ショコラ ガナッシュ	
学習成果	基本配合と製法を習得する。		
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
23・24回	授業内容	基本の動作とデコレーション 1) ナッペ	
学習成果	パレットナイフを使い適切な動作を実践できる。		
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
25・26回	授業内容	基本の動作とデコレーション 2) 絞り	
学習成果	絞り袋を使い適切な動作を実践できる。		
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
27・28回	授業内容	アントルメ制作 1) パータビスキュイを使用	
学習成果	基本の生地・クリームを使用したアントルメを完成できる。		
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
29・30回	授業内容	アントルメ制作 2) パータシュクレを使用	
学習成果	基本の生地・クリームを使用したアントルメを完成できる。		
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		

科目名	和菓子入門				担当者	岩 松 秀 夫						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業前後に質問等を受け付ける。										
専門的 学習成果	①	和菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	和菓子を創りだす為の製法や配合を正しく述べることができる。										
	③	和菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	④	製菓衛生師養成課程「製菓実習実技試験ガイドライン」の内容で60点以上の成績を修める。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	和菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現ができる。(専門的学習成果①②③④)										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。(専門的学習成果①②③④)										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、和菓子に関する基礎知識と基本技能について学習する。和菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して実習にて活用していく技法を習得する。実習では主に基本生地と餡の製法や和菓子の原材料を使用した伝統と気候風土をまじえた菓子を製作する。また、食を提供する観点から、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	和菓製造に必要な技法の実技試験を実施する。								
		レポート	10	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
		平常点	10	授業態度と意欲、理解力の総合評価とする。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (3) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			毎回、実習課題プリント配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本菓子教育センター編		『製菓衛生師全書』				日本菓子教育センター					
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『製菓衛生師教本』				全国製菓衛生師養成施設協会					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①製菓衛生師必修科目である。2コマ連続で授業を行う。授業計画に沿って制作する菓子の内容はテキストを利用して事前に確認しておく。(事前学習として週1時間程度) 授業後は実習で作製した菓子のレシピと製法をまとめる(復習として週2時間程度) ②課題として提出されたノートは点検後返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	蒸し物 小麦粉饅頭、流し物 栗羊羹	授業態度と意欲、理解力の総合評価を行う。 授業毎に示されるレシピと製法についてまとめたレポートを提出し評価する。 授業・試験にて制作した和菓子を個別に点検し評価する。
	学習成果	器具の使用方法和原材料を理解して上記の菓子が製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
3・4回	授業内容	製餡 小豆澆餡、小豆粒餡、蒸し物 イチゴ大福	
	学習成果	製餡方法を理解し上記の菓子が製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
5・6回	授業内容	蒸し物 柏餅、串団子	
	学習成果	蒸し物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
7・8回	授業内容	蒸し物 蒸しかすてら、おはぎ	
	学習成果	蒸し物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
9・10回	授業内容	蒸し物 みそ松風、流し物 カスタード羹	
	学習成果	蒸し物製法と流し物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
11・12回	授業内容	蒸し物 ウイロウ、揚物 揚饅頭	
	学習成果	蒸し物製法と揚げ物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
13・14回	授業内容	うどん、かき揚げ 蒸し物 抹茶プリン	
	学習成果	小麦粉と卵の加工を理解して上記の菓子と食品が製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
15・16回	授業内容	蒸し物 こなし 流し物 グレープフルーツゼリー	
	学習成果	凝固剤を使用して菓子を製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
17・18回	授業内容	蒸し物 浮島 練り物 求肥、練切	
	学習成果	和菓子の技法で造形菓子を製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
19・20回	授業内容	蒸し物 栗蒸羊羹 焼物 焼皮桜餅	
	学習成果	焼き物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
21・22回	授業内容	焼物 だら焼、岡物 最中、抹茶アイス	
	学習成果	焼き物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
23・24回	授業内容	焼物 栗饅頭 流し物 フルーツあんみつ	
	学習成果	焼き物製法と流し物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
25・26回	授業内容	干菓子 寒水、豆餡、雲平、打ち物	
	学習成果	干菓子製法を理解して上記菓子が製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
27・28回	授業内容	蒸し物 葛桜、薯蕷饅頭	
	学習成果	蒸し物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
29・30回	授業内容	流し物 づんだ羹 蒸し物 道明寺桜餅	
	学習成果	流し物製法と蒸し物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		

科目名	製パン入門				担当者	小 島 進 ・ 江 刺 俊 紀						
区 分	選択	3	単位	授業回数	45	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に実習室で受けつける。										
専門的 学習成果	①	製パンに必要な器具 / 道具の名称を述べることができる。										
	②	パン製造に使用される原材料の特性と機能を説明できる。										
	③	手仕込みによるパン生地の仕込み方法を実施できる。										
	④	仕込み・成形・焼成までの製パン製造の一連の流れを実行できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	製パンの文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現ができる。(専門的学習成果①②③④)										
	(3)	製パン分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。(専門的学習成果①②③④)										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、製パンに関する基礎知識と基本技能について学習する。 パン製造に欠かせない原料の特性を理解して実習にて活用していく技法を習得する。実習では主に基本となる食パンやロールパン等を手仕込みと機械仕込みの製法を習得する。また、食を提供する観点から、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	パン製造に必要な技法の実技試験を実施する。								
		レポート										
		平常点	20	授業態度と意欲、理解力の総合評価とする。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (3) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	竹谷 光司	『新しい製パン基礎知識・再改訂版』				パンニュース社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	大阪あべの辻製パン技術専門カレッジ	『パンの基本大図鑑』				講談社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師養成課程必修科目である。3コマ連続授業で行う。 授業計画に沿って制作する菓子の内容はテキストを利用して事前に確認しておく。(事前学習として週1時間程度) 1回目～21回目の授業担当：小島 22回目～45回目の授業担当：江刺 授業の順番は変更する為、初回授業時に説明する。 授業後は実習で作製した菓子のレシピと製法をまとめる(復習として週2時間程度) ②実技試験実施後に適宜実技指導を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1・2・3回	授業内容	器具の説明、製パンの流れ、バターロールの仕込み	授業・試験にて制作したパンを個別に点検し評価する。
	学習成果	器具の説明、製パンの流れ、バターロールの仕込みを理解し実践できる。	
4・5・6回	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
	授業内容	レーズンブレッド、グラハムブレッド、動物パン	
7・8・9回	学習成果	レーズンブレッド、グラハムブレッド、動物パンの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
10・11・12回	授業内容	パン・オ・ゴルゴンゾーラ、フォカッチャ、ペーグル	
	学習成果	パン・オ・ゴルゴンゾーラ、フォカッチャ、ペーグルの製法を理解し実践できる。	
13・14・15回	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
	授業内容	30%中種バケット、セモリナブレッド	
16・17・18回	学習成果	30%中種バケット、セモリナブレッドの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
19・20・21回	授業内容	カルトフェルブロート、ミッシュブロート、ラウゲンブレツェル	
	学習成果	カルトフェルブロート、ミッシュブロート、ラウゲンブレツェルの製法を理解し実践できる。	
22・23・24回	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
	授業内容	ビザ、ピタ、グリッシーニ	
25・26・27回	学習成果	ビザ、ピタ、グリッシーニの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
28・29・30回	授業内容	酒種あんパン、菓子パン(メロンパン)	
	学習成果	酒種あんパン、菓子パン(メロンパン)の製法を理解し実践できる。	
31・32・33回	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
	授業内容	食パン(ブルマン型)、ビザ	
34・35・36回	学習成果	食パン(ブルマン型)、ビザの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
37・38・39回	授業内容	くるみパン(甘め)、くるみカマンベール赤ワイン仕込	
	学習成果	くるみパン(甘め)、くるみカマンベール赤ワイン仕込の製法を理解し実践できる。	
40・41・42回	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
	授業内容	レーズン練り込み、豆パン巻き込み	
43・44・45回	学習成果	レーズン練り込み、豆パン巻き込みの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
40・41・42回	授業内容	トレコン、パン・オ・セーブル(ドイツ)	
	学習成果	トレコン、パン・オ・セーブル(ドイツ)の製法を理解し実践できる。	
37・38・39回	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
	授業内容	フランスパン、バンドカンパーニュ	
40・41・42回	学習成果	フランスパン、バンドカンパーニュの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
43・44・45回	授業内容	イギリスパン、ホットチーズ三昧	
	学習成果	イギリスパン、ホットチーズ三昧の製法を理解し実践できる。	
43・44・45回	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
	授業内容	タイヨール、編みパン(スイス)	
43・44・45回	学習成果	タイヨール、編みパン(スイス)の製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	

科目名	洋菓子専門				担当者	ヨシダ 吉田 正・加藤 信樹・相良 奈津・芳賀 卓						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
授業時間数	60 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	洋菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子の基本製造を基に専門的な菓子製作できる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する専門的知識と高度な技能について習得する。洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解することにより、専門的な洋菓子実習で活用していく技法を習得する。主に現代フランス菓子を中心にケーキ・焼き菓子を製作する。更に、個人でアントルメを製作できる技術を身につける。パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	洋菓子製造に必要な専門的技法（アントルメ）の実技試験を実施する								
		レポート	30	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う (2) は専門的学習評価①③にて評価を行う (3) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う (4) は専門的学習評価②③④にて評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書』						日本菓子教育センター			
	日本菓子教育センター		『洋菓子教本』						日本菓子教育センター			
	全国製菓衛生師養成施設協会		『製菓衛生師教本 上・下』						全国製菓衛生師養成施設協会			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。2コマ連続で授業を行う。授業計画に沿って制作する菓子・ケーキの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週1時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる（復習として週2時間程度）授業で使用する食材等の入荷状況により授業が入れ替わる事もある。 ②課題として提出されたノートは点検後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	基本生地 ビスキュイジョコンドを使用した菓子製作	
	学習成果	フランス菓子 オペラを正しい手順で作ることができるようになる。	
3・4回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	基本生地 パートサブレを使用した菓子製作	
5・6回	学習成果	フランス菓子 フロランタンを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
7・8回	授業内容	基本生地 バターケーキを使用した菓子製作 1)	
	学習成果	フランス菓子 ウィークエンドオランジュを正しい手順で作ることができるようになる。	
9・10回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	基本生地 バターケーキを使用した菓子製作 2)	
11・12回	学習成果	フランス菓子 ケークキャラメルバナースを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
13・14回	授業内容	基本生地 メレンゲを使用した菓子製作 1)	
	学習成果	抹茶のシフォンケーキを正しい手順で作ることができるようになる。	
15・16回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	フィナンシェ生地を使用した菓子製作	
17・18回	学習成果	ショコラロートヌを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
19・20回	授業内容	アパレイユプリンを使用した菓子製作	
	学習成果	かぼちゃのプリンを正しい手順で作ることができるようになる。	
21・22回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	クッキー生地を使用した菓子製作	
23・24回	学習成果	スノーボールを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
25・26回	授業内容	基本生地 メレンゲを使用した菓子製作 2)	
	学習成果	マカロン4種を正しい手順で作ることができるようになる。	
27・28回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	基本生地 メレンゲを使用した菓子製作 3)	
29・30回	学習成果	ズコットチーズケーキを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
31・32回	授業内容	基本生地 メレンゲを使用した菓子製作 4)	
	学習成果	モンブランを正しい手順で作ることができるようになる。	
33・34回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	チョコレートのテンパリング	
35・36回	学習成果	テンパリングの理解と実践 モールド仕上げを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
37・38回	授業内容	餡細工	
	学習成果	砂糖の温度変化の理解と実践 シュクレクレ・シュクレティレを正しい手順で作ることができるようになる。	
39・40回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	アントルメ制作 1) パータビスキュイを使用	
41・42回	学習成果	プリンセスを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
43・44回	授業内容	アントルメ制作 2) パートプリゼを使用	
	学習成果	タルトシブストバイザンヌを正しい手順で作ることができるようになる。	
45・46回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	

科目名	製パン・和菓子専門				担当者	小島 進 ・ 江刺 俊紀 ・ 岩松 秀夫						
区 分	選択	4	単位	授業回数	60	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に実習室で受けつける。										
専門的 学習成果	①	高度な製パンと和菓子製造を理解して実践できる。										
	②	原材料特性を理解して最適な製造方法を実施できる。										
	③	仕込み・成形・焼成までの製パンの製作を実施できる。										
	④	仕込み・成形・完成までの和菓子の製作を実施できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	和菓子と製パンの文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現ができる。(専門的学習成果①②③④)										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。(専門的学習成果①②③④)										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、和菓子と製パンの入門編より発展した専門的知識と高度な技能について学習する。和菓子製造と製パン技能に欠かせない食材の特性を理解して実習にて活用していく専門技法を習得する。実習では主に季節や行事を取り入れた菓子やパンを製作する。また、食を提供する観点から、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解し実践していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	パン・和菓子製造に必要な高度な技法の実技試験を実施する。								
		レポート	10	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
		平常点	10	授業態度と意欲、理解力の総合評価とする。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (3) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	竹谷 光司	『新しい製パン基礎知識・再改訂版』				パンニュース社						
	日本菓子教育センター編	『製菓衛生師全書』				日本菓子教育センター						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	大阪あべの辻製パン技術専門カレッジ	『パンの基本大図鑑』				講談社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。4コマ連続で授業を行う。 授業計画に沿って製作する和菓子・パンの内容はテキストを利用して事前に確認しておく。(事前学習として週2時間程度) 日常の生活において、パンや和菓子を購入し食べ比べ自分なりに、評価が出来る様にしておく。 1回目～20回目 担当：小島 21回目～40回目 担当：江刺 41回目～60回目 担当：岩松 ②授業の終わりに製作した製品の評価を行う。 授業後は実習で作製した菓子のレシピと製法をまとめる(復習として週2時間程度)											

授業計画			学習成果の評価	
1・2・3・4回	授業内容 学習成果	おさつロール、シナモンロール、セサミロール 上記のパン製法を理解して完成させることができる。	授業・試験にて製作したパンを個別に点検し評価する。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。		
5・6・7・8回	授業内容 学習成果	ブランチブレッド、バナナブレッド、バケット 上記のパン製法を理解して完成させることができる。		
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。		
9・10・11・12回	授業内容 学習成果	クロワッサン、デニッシュ、三色食パン 上記のパン製法を理解して完成させることができる。		
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。		
13・14・15・16回	授業内容 学習成果	シュトーレン、パネトーネ 上記のパン製法を理解して完成させることができる。		
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。		
17・18・19・20回	授業内容 学習成果	30%中種生クリーム食パン、カレーパン、モーンクーヘン 上記のパン製法を理解して完成させることができる。		
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。		
21・22・23・24回	授業内容 学習成果	メープルクーヘン、ほうしパン 上記のパン製法を理解して完成させることができる。		
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。		
25・26・27・28回	授業内容 学習成果	にんじん焼カレーパン、コーヒーロール 上記のパン製法を理解して完成させることができる。		
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。		
29・30・31・32回	授業内容 学習成果	カボチャパン、くり、さつまいも、カトフェル(ドイツ) 上記のパン製法を理解して完成させることができる。		
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。		
33・34・35・36回	授業内容 学習成果	シュトーレン、サンタパン 上記のパン製法を理解して完成させることができる。		
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。		
37・38・39・40回	授業内容 学習成果	クロワッサン、デニッシュペストリー 上記のパン製法を理解して完成させることができる。		
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。		
41・42・43・44回	授業内容 学習成果	栗渋皮煮、薯蕷饅頭、村雨、よもぎ羊羹 上記の和菓子を理解して完成させることができる。		授業・試験にて製作した和菓子を個別に点検し評価する。
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
45・46・47・48回	授業内容 学習成果	軽羹(カルカン)、白羊羹、こなし(山路) 上記の和菓子製法を理解して完成させることができる。		
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
49・50・51・52回	授業内容 学習成果	白羊羹(姫椿)、どら焼、花びら餅 上記の和菓子製法を理解して完成させることができる。		
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
53・54・55・56回	授業内容 学習成果	練切、ウイロウ(甘柿)、そば薯蕷饅頭 上記の和菓子製法を理解して完成させることができる。		
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		
57・58・59・60回	授業内容 学習成果	わらび餅、焼芋、亥の子餅 上記の和菓子製法を理解して完成させることができる。		
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。		

科目名	洋菓子応用 I				担当者	吉田 正・相良・加藤 奈津・信樹・芳賀・渡辺 靖美・卓						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	洋菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子の基本製造を基に専門的な菓子製作ができる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を習得する。										
	⑤	造形菓子の取り組みから菓子製作の芸術性を習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。 洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。 また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。 更に造形菓子（マジパン細工）の技法を習得し、色彩やバランスの感性を磨くことで、菓子の芸術性を表現できる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	洋菓子製造に必要な専門的技法（アントルメ）の実技試験を実施する								
		レポート	30	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う (2) は専門的学習評価①③にて評価を行う (3) は専門的学習評価①②③④⑤にて評価を行う (4) は専門的学習評価②③④にて評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』				日本菓子教育センター						
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』				日本菓子教育センター						
全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上・下』				全国製菓衛生師養成施設協会							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。2コマ連続で授業を行う。洋菓子応用IIへと続く。 授業計画に沿って制作する菓子・ケーキの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週1時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる（復習として週2時間程度） 授業で使用する食材等の入荷状況により授業が入れ替わる事もある。 ②課題として提出されたノートは点検後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	マジパン細工の基本 1)	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。また、自身で作製したケーキ・菓子を写真に撮り、提出用ノートに張り付ける。
	学習成果	マジパンの扱いと加工 マジパン造形 花・果物の作製ができるようになる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
3・4回	授業内容	マジパン細工の基本 2)	
	学習成果	マジパン造形 人形・動物の作製・テーマ課題の制作ができるようになる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
5・6回	授業内容	ケーキ店の菓子 1) 基本生地からの応用	
	学習成果	クレームブリュレ・ガトーマロンを正しい手順で作ることができる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
7・8回	授業内容	ケーキ店の菓子 2) 基本生地からの応用	
	学習成果	フレッシュロール・クッキーを正しい手順で作ることができる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
9・10回	授業内容	ケーキ店の菓子 3) 基本生地からの応用	
	学習成果	かぼちゃのプリンを正しい手順で作ることができる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
11・12回	授業内容	ケーキ店の菓子 4) 焼き菓子の応用	
	学習成果	パンプキンマドレーヌ・スノーボールクッキーを正しい手順で作ることができる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
13・14回	授業内容	ケーキ店の菓子 5) 卵白を使用した焼き菓子の応用	
	学習成果	オリジナルフィナンシェ4種類を正しい手順で作ることができる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
15・16回	授業内容	ケーキ店の菓子 5) トルテケーキ	
	学習成果	ブルーベリートルテ・エンゼルトルテを正しい手順で作ることができる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
17・18回	授業内容	ケーキ店の菓子 6) フールセックとドゥミセック	
	学習成果	アーモンドチュイル・スフレ・フィナンシェショコラを正しい手順で作ることができる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
19・20回	授業内容	フランス菓子の応用 1) ビスキュイを使用したロールケーキ	
	学習成果	ルレ・オ・ショコラ/ルレ・オ・フリユイを正しい手順で作ることができる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
21・22回	授業内容	フランス菓子の応用 2) チーズとチョコレートのフランス菓子	
	学習成果	ガトーフロマージュ/ガトーショコラ・アラ・マロンを正しい手順で作ることができる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
23・24回	授業内容	フランス菓子の応用 3) フランス古典菓子	
	学習成果	シブストキャラメルボンムを正しい手順で作ることができる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
25・26回	授業内容	フランス菓子の応用 4) イベントケーキ	
	学習成果	ルーローマロン・デリスショコラビスターシュを正しい手順で作ることができる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
27・28回	授業内容	フランス菓子の応用 5) フールセックとドゥミセック	
	学習成果	ガレットブルトヌ・ブラウニーを正しい手順で作ることができる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
29・30回	授業内容	チョコレートの応用	
	学習成果	オランジュット・チェリーボンボン・キャラメルシトロンペールを正しい手順で作ることができる。	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		

科目名	洋菓子応用Ⅱ				担当者	吉田 正・相良・加藤 信樹・芳賀 渡辺 靖美・						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	洋菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子の基本製造を基に専門的な菓子製作できる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を習得する。										
	⑤	造形菓子の取り組みから菓子製作の芸術性を習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる。（専門的学習成果②③④）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。 洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。 また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。 更に造形菓子（マジパン細工）の技法を習得し、色彩やバランスの感性を磨くことで、菓子の芸術性を表現できる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	洋菓子製造に必要な専門的技法（アントルメ）の実技試験を実施する								
		レポート	30	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習評価①③にて評価を行う。 (3) は専門的学習評価①②③④⑤にて評価を行う。 (4) は専門的学習評価②③④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』				日本菓子教育センター						
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』				日本菓子教育センター						
全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上・下』				全国製菓衛生師養成施設協会							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。2コマ連続で授業を行う。洋菓子応用Ⅰからの続きである。 授業計画に沿って制作する菓子・ケーキの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週1時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる。（復習として週2時間程度） 授業で使用する食材等の入荷状況により授業が入れ替わる事もある。 ②課題として提出されたノートは点検後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	マジパン細工の基本 1)	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。また、自身で作製したケーキ・菓子を写真に撮り、提出用ノートに張り付ける。
	学習成果	マジパンの扱いと加工 マジパン造形 花・果物の作製	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
3・4回	授業内容	マジパン細工の基本 2)	
	学習成果	マジパン造形 人形・動物の作製 テーマ課題の制作	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
5・6回	授業内容	ケーキ店の菓子 1) 基本生地からの応用	
	学習成果	クレームブリュレ ガトーマロン	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
7・8回	授業内容	ケーキ店の菓子 2) 基本生地からの応用	
	学習成果	フレッシュロール クッキー	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
9・10回	授業内容	ケーキ店の菓子 3) 基本生地からの応用	
	学習成果	かぼちゃのプリン	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
11・12回	授業内容	ケーキ店の菓子 4) 焼き菓子の応用	
	学習成果	パンプキンマドレーヌ スノーボールクッキー	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
13・14回	授業内容	ケーキ店の菓子 5) 卵白を使用した焼き菓子の応用	
	学習成果	オリジナルフィナンシェ4種類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
15・16回	授業内容	ケーキ店の菓子 5) トルテケーキ	
	学習成果	ブルーベリートルテ エンゼルトルテ	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
17・18回	授業内容	ケーキ店の菓子 6) フールセックとドゥミセック	
	学習成果	アーモンドチュイル スフレ フィナンシェショコラ	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
19・20回	授業内容	フランス菓子の応用 1) ビスキュイを使用したロールケーキ	
	学習成果	ルレ・オ・ショコラ ルレ・オ・フリユイ	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
21・22回	授業内容	フランス菓子の応用 2) チーズとチョコレートのフランス菓子	
	学習成果	ガトーフロマージュ ガトーショコラ・アラ・マロン	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
23・24回	授業内容	フランス菓子の応用 3) フランス古典菓子	
	学習成果	シブストキャラメルボンム	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
25・26回	授業内容	フランス菓子の応用 4) イベントケーキ	
	学習成果	ルーローマロン デリシショコラビスターシュ	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
27・28回	授業内容	フランス菓子の応用 5) フールセックとドゥミセック	
	学習成果	ガレットブルトンヌ ブラウニー	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		
29・30回	授業内容	チョコレートの応用	
	学習成果	オランジェット チェリーボンボン キャラメルシトロンペール	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。		

科目名	校外実習				担当者	ヨシダ タダシ ・ サガ ラ ナ ツ 吉 田 正 ・ 相 良 奈 津						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	実習	学年	1 年	開講期	後期集中
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	製菓店での業務活動の実際について理解する。										
	②	ビジネスマナーの理解と実践ができる。										
	③	製菓店で基本的な業務が行えるようになる。										
	④	将来の職業について考え、志望業界の仕組み、仕事内容を理解する。										
汎用的 学習成果	(1)	社会人としての職業自立につなげることができる。(専門学習①②③④)										
	(2)	製菓店研修を行うことで、自己表現と他者理解ができる。(専門学習①②③④)										
	(3)	製菓店研修を行うことで、問題解決に向けて行動できる。(専門学習①②③④)										
授業概要	製菓衛生師の業務を実地経験し、製菓衛生師としての職業意識及び態度を学ぶことを通じて、製菓衛生師として具備すべき専門的知識及び技能を習得することを目的とする。業界研究及び企業研究を行い研修先を自ら選定し、5日間以上の実務研修を実施する。実務研修を通して働く意義と目的を見出す。実務研修に先立ち、学内授業においてビジネスマナーと社会人としての心得を理解し実践できる能力を身に付けた後、研修にあたる。製菓店の業務内容を体験することから、職業選択の際に活用できる。 ※原則として研修時期については1年次の春休み期間を利用して行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	製菓衛生師の業務内容の理解度により評価する。								
		実習報告書	40	研修先での業務日報報告書を研修終了後担当教員に提出する。内容により評価する。								
		企業評価	40	研修製菓店から後日、評価が示される。								
	平常点	10	取り組みの態度、授業内容の理解度により評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う (2) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う (3) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①出席及び課題の達成度が不十分である場合は、企業・施設での研修を認めないので注意すること。 事前学習として研修先の企業調査と訪問(15時間程度)を必要とする。 ②業務日報報告書は担当教員が点検後、返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	ガイダンス 研修企業・業界調査	
	学習成果	授業内容を理解し、実習施設での研修の意義と目的を理解する	
	予習復習 の 内 容	学習内容の振り返り	
	2 回	授業内容	ビジネスマナーと実践 エチケットとマナー/話し方・聞き方/ビジネス文書/電話・メール/企業訪問
	学習成果	ビジネスマナーの基本を理解し実践できる	
	予習復習 の 内 容	学習内容の振り返り	
3 回	授業内容	菓子店における製造業務の心得 菓子製造の技術と衛生管理/実習施設での業務	
	学習成果	菓子製造の技術と衛生管理、実習施設での業務についてを理解して説明できる。	
	予習復習 の 内 容	学習内容の振り返り	
	4 回	授業内容	研修前事前指導
学習成果		企業研修にむけたビジネスマナー全般を理解して実践できる。	
	予習復習 の 内 容	研修内容の確認と目標を設定する	
	5 回	授業内容	企業研修(インターンシップ)1日目
学習成果		研修先からの報告	
	予習復習 の 内 容	業務日報の作成	
	6 回	授業内容	企業研修(インターンシップ)1日目
学習成果		研修先からの報告	
	予習復習 の 内 容	業務日報の作成	
	7 回	授業内容	企業研修(インターンシップ)2日目
学習成果		研修先からの報告	
	予習復習 の 内 容	業務日報の作成	
	8 回	授業内容	企業研修(インターンシップ)2日目
学習成果		研修先からの報告	
	予習復習 の 内 容	業務日報の作成	
	9 回	授業内容	企業研修(インターンシップ)3日目
学習成果		研修先からの報告	
	予習復習 の 内 容	業務日報の作成	
	10回	授業内容	企業研修(インターンシップ)3日目
学習成果		研修先からの報告	
	予習復習 の 内 容	業務日報の作成	
	11回	授業内容	企業研修(インターンシップ)4日目
学習成果		研修先からの報告	
	予習復習 の 内 容	業務日報の作成	
	12回	授業内容	企業研修(インターンシップ)4日目
学習成果		研修先からの報告	
	予習復習 の 内 容	業務日報の作成	
	13回	授業内容	企業研修(インターンシップ)5日目
学習成果		研修先からの報告	
	予習復習 の 内 容	業務日報の作成	
	14回	授業内容	企業研修(インターンシップ)5日目
学習成果		研修先からの報告	
	予習復習 の 内 容	業務日報の作成	
	15回	授業内容	研修報告とまとめ
学習成果		報告書の研修レポートを作成し提出する	
	予習復習 の 内 容	担当教員への報告	

科目名	製菓衛生師試験対策講座 I				担当者	イワマフ 岩松 秀夫 ・ ヨシダ 吉田 正 ・ サガラ 相良 ナツ						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1 年	開講期	後期集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業前後に対応する。										
専門的 学習成果	①	製菓衛生師として必要とされる食品衛生を理解し、その内容を説明できる										
	②	製菓衛生師として必要とされる公衆衛生を理解し、その内容を説明できる										
	③	製菓衛生師として必要とされる食品や栄養、法令に関することを理解し、その内容を説明できる										
	④	製菓衛生師として必要とされる製菓理論を理解し、その内容を説明できる										
	⑤	製菓衛生師として必要とされる職務知識・技能を理解し実践できる										
汎用的 学習成果	(1)	製菓衛生師養成課程を学ぶことを通して、製菓衛生師としての職業自立につなげることができる（専門的学習成果①②③④⑤）										
	(2)	製菓衛生師として必要とされる実務能力を習得することによって、社会人としてその技能を活用することができる（専門的学習成果①②③④⑤）										
	(3)	製菓衛生師としてふさわしい態度・人柄を理解し、身につけることによって他者理解ができコミュニケーション能力を養うことができる（専門的学習成果⑤に関連）										
授業概要	菓子製造業に従事する者の資質向上をもって製菓衛生師試験合格のために必要な基礎知識と技能の習得を目的とする。具体的には製菓衛生師として必要とされる、食品衛生、公衆衛生、食品学、栄養学、衛生法規、衛生管理、製菓理論を製菓衛生師ユニットで学び、試験対策講座として、各都道府県の過去問題や、宮城県での製菓衛生師試験の傾向などをふまえて講座を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	過去問題をもとにした課題を課し、評価する								
		模擬試験	10	検定直前に模擬試験を行い、得点を評価する								
	平常点	60	授業への取り組み・態度・意欲を評価する									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う (2) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『これで合格 製菓衛生師試験問題集』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『新訂製菓衛生師教本』									
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書』									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前学習として配布される課題のレポートに取り組み授業に臨むこと（予習、復習共に週2時間程度） ②レポートに対しては授業内で回収し解説を行う。講義内の解答を持ってフィードバックとする。										

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	ガイダンス 製菓衛生師試験について	
	学習成果	製菓衛生師試験の概要を説明できる	
2 回	予習復習の内容	製菓衛生師試験の概要を把握しておく	
	授業内容	過去問題 衛生法規	
3 回	学習成果	衛生法規試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組みこと。	
4 回	授業内容	過去問題 公衆衛生学	
	学習成果	公衆衛生学試験の傾向と対策を講じることができる	
5 回	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組みこと。	
	授業内容	過去問題 食品学	
6 回	学習成果	食品学試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組みこと。	
7 回	授業内容	過去問題 食品衛生学	
	学習成果	食品衛生学試験の傾向と対策を講じることができる	
8 回	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組みこと。	
	授業内容	過去問題 衛生管理	
9 回	学習成果	衛生管理試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組みこと。	
10 回	授業内容	過去問題 栄養学	
	学習成果	栄養学試験の傾向と対策を講じることができる	
11 回	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組みこと。	
	授業内容	過去問題 社会学	
12 回	学習成果	社会学試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組みこと。	
13 回	授業内容	過去問題 製菓理論	
	学習成果	製菓理論試験の傾向と対策を講じることができる	
14 回	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組みこと。	
	授業内容	過去問題 製菓実習（洋菓子）	
15 回	学習成果	製菓実習試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組みこと。	
16 回	授業内容	過去問題 製菓実習（和菓子）	
	学習成果	製菓実習試験の傾向と対策を講じることができる	
17 回	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組みこと。	
	授業内容	過去問題 製菓実習（製パン）	
18 回	学習成果	製菓実習試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組みこと。	
19 回	授業内容	模擬試験① 製菓衛生師試験（宮城県）	
	学習成果	合格点（7割以上正解）に達する	
20 回	予習復習の内容	試験内容について復習する	
	授業内容	模擬試験② 製菓衛生師試験（宮城県外）	
21 回	学習成果	合格点（7割以上正解）に達する	
	予習復習の内容	試験内容について復習する	
22 回	授業内容	受験準備	
	学習成果	受験に備え適切な準備を整えることができる	
23 回	予習復習の内容	受験に必要な準備を整える	

科目名	観光概論				担当者	大森信治郎						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室にて受け付ける。										
専門的 学習成果	①	観光の概念や歴史、現在の制度について理解し、説明することができる。										
	②	観光と社会のかかわり（経済、地域社会、開発と保護、情報、環境）について理解し、説明することができる。										
	③	観光を成立させる機制（余暇社会、観光の心理、観光の対象）について理解し、説明することができる。										
	④	観光を支える社会システムについて理解し、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	需要者、供給者両面において、社会一般の常識としての観光の基礎知識を習得し、豊かな社会生活に役立てることができる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	観光領域の職業人としての基本を理解して、観光のビジネスの領域で活躍できる。（専門的学習成果②～④に関連）										
	(3)	21世紀最大の産業に成長しつつある観光産業の、日本における発展に貢献できる。（専門的学習成果①～④に関連）										
授業概要	本講義では、観光全般にわたる基礎的な知識を身に付けることを目的とする。第一ステップとして、観光を理解するための基礎的な知識である、概念、歴史、構成要素、影響について学習する。教養として観光を学ぶ上でも重要な部分である。次に第二ステップとして、観光という行動や現象の社会との関わりについて学ぶ。21世紀において観光は、産業としても個々の人々の生活においても極めて重要な意義を持っており、社会的な影響と効果も非常に大きい。経済、情報、環境、地域社会、開発と保護、などについて論考する。第三ステップは観光を支えている社会的なシステムについて。旅行業、交通、宿泊、飲食、小売業、その他の関連サービスなどの諸事業とそれを支える労働と人材について考える。三つのステップを通して、広いすそ野を持つ現代の観光を多層的に学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	65	学習内容について、選択式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	20	各ステップごとに3回程度、レポートを課し、評価を行う。								
		小テスト										
		平常点	15	受講態度、学習に対する意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	前田勇		『新現代観光総論』						学文社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	高橋一夫		『1からの観光』						硯学社			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①毎回の授業で習得した知識を復習し、次の授業及びレポートに備える。事前・事後学習として各回4時間を要する。 ②レポートは、次回の授業までに評価の結果を付けて返却するので、それに基づいて復習を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	「観光」の概念、観光の構造と構成要素について。	
	学習成果	観光の基礎的知識を身に付け、現代観光の特徴を説明できる。	
2回	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
	授業内容	観光の歴史 世界史の視点	
3回	学習成果	古代ギリシャ以降の観光の歴史について、概観を把握し、説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
4回	授業内容	観光の歴史 日本史の視点	
	学習成果	我が国の旅行に見られる特徴を、歴史的経緯をふまえて、概説できる。	
5回	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
	授業内容	観光行政・観光政策	
6回	学習成果	国際的、国内的な観光政策や国際的協力について学び、その概要を説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
7回	授業内容	観光の効果・影響（第5回講義までのレポート課題）	
	学習成果	観光が社会全般に与える効果を総合的に学び、自身の身近な地域に当てはめて説明できる。	
8回	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
	授業内容	(前回レポート課題の総括) 観光と情報	
9回	学習成果	観光における情報の重要性、情報通信技術の活用について、自分の身近な事例で説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
10回	授業内容	観光と環境問題	
	学習成果	環境問題に関する観光の役割、環境に調和した観光のあり方について、説明できる。	
11回	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
	授業内容	観光と地域社会	
12回	学習成果	観光が地域社会に与える正負の影響などについて、実際の事例を取り上げて説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
13回	授業内容	観光における開発と保護	
	学習成果	開発と保護というグローバルな課題に沿って、持続可能な観光について概説できる。	
14回	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
	授業内容	(第6回から10回講義までのレポート課題) 余暇活動としての観光	
15回	学習成果	余暇の概念、余暇の増大の歴史的経緯、などについてデータにもとづいて説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
16回	授業内容	(前回レポート課題の総括) 観光の心理学	
	学習成果	観光行動が成立する仕組み、観光者の心理について学び、説明できる。	
17回	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
	授業内容	観光対象 自然と文化	
18回	学習成果	観光の対象となる自然観光資源、人文観光資源、複合型観光資源について概説できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
19回	授業内容	観光対象 暮らしと交流	
	学習成果	観光対象の今日的対象である地域の生活文化について学び、説明できる。	
20回	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
	授業内容	(第1回から14回講義までのレポート課題) 観光と教育・福祉	
21回	学習成果	観光の教育的意味や福祉との関連について学び、概説できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
22回	授業内容	(前回レポートの総括) 観光を支える社会システム	
	学習成果	交通、宿泊、旅行業、他の関連事業などの諸事業について学び、解説できる。	
23回	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
	授業内容	(前回レポートの総括) 観光を支える社会システム	
24回	学習成果	交通、宿泊、旅行業、他の関連事業などの諸事業について学び、解説できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	

科目名	観光ビジネス実務総論				担当者	大森信治郎・今野則幸						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー(初回授業で説明)か、Eメールで行う。konno.noriyuki@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	観光関連産業の概要と結びつきを関連づけることができる。										
	②	国内及び海外地理を理解し、地域の観光を述べることができる。										
	③	観光産業に必要なホスピタリティを論じることができる。										
	④	観光産業と密接な関係にあるホテルについて説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	観光関連産業を学ぶことを通じて、観光ビジネスに関わる職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	ホスピタリティを理解することにより、観光実務を実践できる。(専門的学習成果③)										
	(3)	ホテルを学ぶことを通じて、接客に関わる職業自立につなげることができる。(専門的学習成果④)										
授業概要	今後の日本社会では、観光ビジネスはますます重要になっていく。旅行代理店・交通輸送・ホテル等の施設・観光スポット等、観光関連産業の裾野は広く、それら各産業の結びつきを学習し実務に繋げることにより、各仕事の魅力を探っていく。日本人の国内旅行やアウトバウンド、海外からのインバウンドに適切な対処ができるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		筆記試験	80	第7回目及び第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、講義内容の理解について評価を行う。								
		平常点	20	講義への取り組み・意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④により評価する。 (2) は専門的学習成果③により評価する。 (3) は専門的学習成果④により評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	JTB 能力開発編	『観光概論』				JTB 能力開発						
	(財) 日本ホテル教育センター編	『新ホテル総論』				(財) 日本ホテル教育センター						
	JTB 総合研究所	『旅行業入門2023』				JTB 総合研究所						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①常に新聞等で世界の最新社会情勢や旅行事情を入手し理解しておく(20時間)。テキスト及び配布された資料を通読しておくこと(30時間)。また、仙台市内等のホテルを利用し、社員や利用しているお客様の様子を観察し、レポートを作成すること。なお、レポートについては、講義内フィードバックを基に専門的理解を深めていくこと(10時間)。 ②試験は2年次開講直後返却する。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	旅行業の概要(定義、歴史、現状)	(大森)	
	学習成果	旅行業とはどのような仕事か、歴史や現状をふまえて説明できる。	前半部分の小テストを7回目に行う。	
	予習復習の内容	図書館などで旅行業関係の文献を探し、目を通しておく。		
2回	授業内容	旅行業の特性(他の産業との比較)		(大森)
	学習成果	財務特性の側面から旅行業の特性を説明することができる。		
	予習復習の内容	経営学上の概念(財務諸表の内容)を復習する。		
3回	授業内容	旅行業務の種別Ⅰ(募集型企画旅行)		(大森)
	学習成果	いわゆるパッケージツアーの特徴、その登場の背景について説明することができる。		
	予習復習の内容	市中の旅行業者のオフィスでパンフレットを入手し、募集型企画旅行の実際の形態を把握する。		
4回	授業内容	旅行業の種別Ⅱ(受注型企画旅行)		(大森)
	学習成果	修学旅行などの旅行契約の内容を説明することができる。		
	予習復習の内容	自身の経験に照らして受注型企画旅行の実際の形態を把握する。		
5回	授業内容	旅行業の種別Ⅲ(手配旅行業務)		(大森)
	学習成果	伝統的旅行業の業務形態である手配業務について説明することができる。		
	予習復習の内容	インターネット上での、交通、宿泊の手配を疑似体験してみる。		
6回	授業内容	旅行業の営業(旅行業の具体的実務内容)		(大森)
	学習成果	外務員としての業務、カウンター業務、添乗業務などについて概要を説明することができる。		
	予習復習の内容	実際の旅行業者のオフィスを訪れるなどして、実務の現状を観察する。		
7回	授業内容	旅行業の課題と展望(現代観光の中での新しい役割と課題)	(大森)	
	学習成果	インターネットの普及などの旅行業の置かれている現状をふまえて、旅行業の展望を説明することができる。		
	予習復習の内容	新聞報道などのメディア報道によく注意し、学習した内容と照らし合わせる。		
8回	授業内容	ホスピタリティの起源、西洋と日本のホスピタリティ文化の違い	(今野)	
	学習成果	ホスピタリティの起源を知り、ホスピタリティ文化の違いを説明できる。	筆記試験(8回分の内容を問う)後半実施	
	予習復習の内容	パワーポイントによる講義を整理しておく。		
9回	授業内容	ホテルの歴史		(今野)
	学習成果	西洋、東洋、日本のホテルの歴史を説明できる。		
	予習復習の内容	パワーポイントによる講義を整理しておく。		
10回	授業内容	ホテルの宿泊部門概要		(今野)
	学習成果	ホテルの宿泊部門概要を述べることができる。		
	予習復習の内容	パワーポイントによる講義を整理しておく。		
11回	授業内容	ホテルの料飲部門概要		(今野)
	学習成果	ホテルの料飲部門概要を述べることができる。		
	予習復習の内容	パワーポイントによる講義を整理しておく。		
12回	授業内容	ホテルの宴会部門概要		(今野)
	学習成果	ホテルの宴会部門概要を述べることができる。		
	予習復習の内容	パワーポイントによる講義を整理しておく。		
13回	授業内容	ホテルの調理部門概要		(今野)
	学習成果	ホテルの調理部門概要を述べることができる。		
	予習復習の内容	パワーポイントによる講義を整理しておく。		
14回	授業内容	旅行業の中のホテル	(今野)	
	学習成果	旅行業の中のホテルを論じることができる。		
	予習復習の内容	パワーポイントによる講義を整理しておく。		
15回	授業内容	観光ビジネスの中のホテル	(今野)	
	学習成果	広く観光ビジネスの観点からホテルを論じることができる。		
	予習復習の内容	全体を通した内容を整理しておく。		

科目名	地域観光論				担当者	オオモリシンジロウ 大森信治郎						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室にて受け付ける。										
専門的 学習成果	①	日本の地理に関する知識を高め、説明することができる。										
	②	地域ごとの、自然や文化に関する観光資源について理解し、説明することができる。										
	③	観光対象（テーマ別）ごとの、観光資源について理解し、説明することができる。										
	④	旅行業務取扱管理者の国家資格の取得を目指す基礎を作る。										
汎用的 学習成果	(1)	観光領域の職業人としての基本的な知識である観光地理の内容を理解して、観光のビジネスの領域で活躍できる。（専門的学習成果の①～③に関連）										
	(2)	観光ビジネスの場面で、顧客や取引先の円滑な関係性を構築できる。（専門的学習成果の③～④に関連）										
	(3)	21世紀最大の産業に成長しつつある観光産業の、日本における発展に貢献できる。（専門的学習成果の④に関連）										
授業概要	本講義では、観光ビジネスの領域で求められる日本国内各地域における観光資源の知識を身に付けることを目的とする。日本は国土が狭いわりに、地理的、文化的に実に多様性をもっており、従って観光資源も多種多様である。こうした観光資源をまず地域（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州）ごとに学習し、次にテーマ別（世界遺産、国立公園、温泉、海岸・岬・半島、山岳、湖沼、祭、年中行事、寺社仏閣、歴史的町並み、食、伝統工芸、等々）に整理し理解を深める。授業では毎時間前回の講義内容について的小テストを行い、知識の確認を行う。こうした学習を通して、観光ビジネスの場面で、あるいは実社会での常識的知識を身に付ける一助とすると同時に、国家資格である旅行業務取扱管理者試験の実務科目に対応できる力を養成する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	65	学習内容について、選択式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	20	毎時間過去の学習内容について的小テストを行う。								
汎用的 学習成果	平常点	15	受講態度、学習に対する意欲を評価する。									
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	JTB 総合研究所	『旅行業務シリーズ3 国内地理 2023』				JTB 総合研究所						
		『なるほど知図帳日本 2023』				昭文社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	高橋一夫	『1からの観光事業論』				硯学社						
	前田勇	『新現代観光総論』				学文社						
	JTB 総合研究所	『旅行業務入門 2023』				JTB 総合研究所						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①毎回の授業で習得した知識を復習し、次の授業及び小テストに備える。小テストの結果を踏まえ、その結果にもとづいて再度復習する。事前、事後学習に各回4時間を要する。 ②課題を課す場合は、次回の授業までに評価の結果を付けて返却するので、それに基づいて復習を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	地域の観光資源 北海道	
	学習成果	北海道の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
2回	予習復習の内容	自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
	授業内容	小テストの実施。地域の観光資源 東北	
3回	学習成果	東北の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
4回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。地域の観光資源 関東	
	学習成果	関東の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
5回	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。地域の観光資源 中部	
6回	学習成果	中部の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
7回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。地域の観光資源 近畿	
	学習成果	近畿の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
8回	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。地域の観光資源 中国	
9回	学習成果	中国の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
10回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。地域の観光資源 四国	
	学習成果	四国の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
11回	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。地域の観光資源 九州・沖縄	
12回	学習成果	九州・沖縄の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
13回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。世界遺産と国立公園	
	学習成果	世界遺産と国立公園について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
14回	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。自然観光資源① 海洋性観光資源	
15回	学習成果	海洋性観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
16回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。自然観光資源② 山岳系観光資源	
	学習成果	山岳系観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
17回	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。自然観光資源③ 温泉	
18回	学習成果	各地の温泉について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
19回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。人文観光資源① 寺社仏閣等	
	学習成果	寺社仏閣等について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
20回	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。人文観光資源② 祭・年中行事等	
21回	学習成果	祭・年中行事等について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
22回	授業内容	特別演習。1～14回までの学習内容についての質問形式の演習。	
	学習成果	日本の観光資源について理解し、解説することができる。	
23回	予習復習の内容	テキスト、ノート、小テストの内容を整理し、反復学習。資格試験に備える。	

科目名	観光ビジネス実務実習				担当者	ヤマカワ ナミ 山 川 奈 美						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー（初回授業で説明）か、Classroom、Eメールで行う。yamakawa.na@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	社会人として働くことの意義を説明できる。										
	②	観光ビジネス各現場業務の実体験を通し、業界の状況を把握することができる。										
	③	実習を通して、社会人としての基礎の向上を図り、自己の進路決定の指針とすることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	企業研究を通して、社会の中での企業の存在意義を説明することができる。（専門的学習成果①②）										
	(2)	仕事の実体験を通し、働くことの意義を述べることができる。（専門的学習成果①③）										
	(3)	社会人としてのマナーを実施することができる。（専門的学習成果①②③）										
授業概要	現代社会では急速にIT化が進展している。人と機械が接することが益々増えていくであろう。しかしそれに反し、観光ビジネス業界においては人と人の結びつきはより強くなっていくものと思われる。この授業では、本学が指定する仙台市内観光施設において、7日間以上の実務実習を行う。但し、実習の事前指導と実習後の報告書の提出を要件とし、実習企業からの評価表を参考に単位認定を行う。尚、事前指導及び普段の観光系授業の履修態度等から、実習学生として不適格と判断される学生に対しては、実習を取りやめることもある。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	実習後のレポート提出により、実習に対する取組みを評価する。								
		グループワーク										
		平常点	10	授業に対する意欲・取組みを評価する。								
	企業評価	70	実習中の態度・意欲・取組みを、企業担当者が評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②により評価する。 (2) は専門的学習評価①③により評価する。 (3) は専門的学習評価①②③により評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①自身の実習先企業研究（15時間）。また、常に新聞等で観光に関する最新の情報を入手し、理解を深めておくこと（10時間）。 ②レポートは2年次開講直後フィードバックの上返却する。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス		実習先企業の研究レポート提出による評価
	学習成果	実習の意義を指摘できる。		
予習復習の内容	実習先を調査・研究する。			
	2回	授業内容	社会人になるということ	
学習成果	社会人として必要なスキルを論じることができる。			
予習復習の内容	業界・職種を研究する。			
	3回	授業内容	第一印象・挨拶	
学習成果	より良い職場環境について述べるができる。			
予習復習の内容	あいさつの重要性をまとめる。			
	4回	授業内容	自己プロフィール作成	
学習成果	企業に提出する自己プロフィールを作成し、アピールできる。			
予習復習の内容	自己分析をする。			
	5回	授業内容	実習先を調査・研究する。	
学習成果	決定した実習先企業情報を説明できる。			
予習復習の内容	実習先を調査・研究する。			
	6回	授業内容	実習先を調査・研究する。	
学習成果	決定した実習先企業情報を発表できる。			
予習復習の内容	実習先を調査・研究する。			
	7回	授業内容	事前研修	
学習成果	研究内容を確認し、実習に参加する準備ができる。			
予習復習の内容	仕事内容の確認			
	8回	授業内容	実習先観察	
学習成果	実習先調査・研究に基づき、実際の現場との乖離を説明できる。			
予習復習の内容	実際の現場で経験したことをレポートにまとめる。			
	9回	授業内容	実習先での役割の確認	
学習成果	企業から与えられた役割を果たすことができる。			
予習復習の内容	実際の現場で経験したことをレポートにまとめる。			
	10回	授業内容	実習先での役割の確認	
学習成果	企業から与えられた役割を果たすことができる。			
予習復習の内容	実際の現場で経験したことをレポートにまとめる。			
	11回	授業内容	役割の検証	
学習成果	全3回で行った経験を検証し、次回からの仕事に活用できる。			
予習復習の内容	検証結果をレポートにまとめる。			
	12回	授業内容	実習先での役割の確認	
学習成果	企業から与えられた役割を果たすことができる。			
予習復習の内容	実際の現場で経験したことをレポートにまとめる。			
	13回	授業内容	実習先での役割の確認	
学習成果	企業から与えられた役割を果たすことができる。			
予習復習の内容	実際の現場で経験したことをレポートにまとめる。			
	14回	授業内容	役割の検証	
学習成果	前2回で行った経験を検証し、次回からの仕事に活用できる。			
予習復習の内容	検証結果をレポートにまとめる。			
	15回	授業内容	企業研究と現場の比較	
学習成果	自身が行った研究と現場体験を比較・検討できる。			
予習復習の内容	実習全体をレポートにまとめる。			
				レポート提出

科目名	旅行業法				担当者	佐藤芳郎							
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期	
教員との連絡方法 質問等の受付方法		各授業の前後教室で受けつける。											
専門的 学習成果	①	旅行業法は各国家試験では必須の科目であるので、それを学ぶことにより、旅行業務取扱管理資格（総合・国内）を取得する。											
	②	旅行業法は各国家試験では必須の科目であるので、それを学ぶことにより、旅行サービス手配業務取扱管理者資格を取得する。											
	③	旅行業法は各国家試験では必須の科目であるので、それを学ぶことにより、旅程管理資格（総合・国内）を取得する。											
汎用的 学習成果	(1)	旅行業法を学ぶことを通して、法律のあり方を学び、社会生活に活かすことができる。(専門的学習成果①～③に関連)											
	(2)	旅行業法のあり方を学ぶことを通して、消費者保護のありようについて社会生活に活かすことができる。(専門的学習成果①～③に関連)											
	(3)	旅行業法を学ぶことにより、地域の活性化がいかにあるべきを学び活かすことができる。(専門的学習成果①～③に関連)											
	(4)	旅行業法を学ぶことにより、地域のコミュニケーションのあるべき姿を創生し、地域の活性化ができる。(専門的学習成果①～③に関連)											
授業概要	法律のあり方と旅行業法の関係について学ぶ。旅行業法の目的とその達成手段を学ぶ。旅行業の定義・旅行サービス業の定義をとおしてその構成を学ぶ。その他関連する表示法・景表法・消費者契約法を学ぶ。それらの法律を学ぶことを通して知識を習得・社会生活に実践する。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験	60	試験期間中に実施する。									
		レポート	15	旅行業法各章 / 節ごとのまとめを行い、何を趣旨としているかを目的把握する。									
		小テスト	15	理解度チェックを通してどこまで理解しているか評価する。									
		平常点	10	積極的に授業に参加する意思を持つ学生を評価する。									
汎用的 学習成果	事前にテキストを予習してもらいポイント（覚えるポイント）を理解してもらう 授業を通して、その事項を説明する 復習はその覚えるポイントを自分なりにレポートでまとめてもらう (1)～(4)は専門的学習成果①～③で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名						
	JTB 総合研究所		旅行業実務シリーズ『2023 旅行業法及びこれに基づく命令』				JTB 総合研究所						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名						
			『旅行業法関係法令集』				一般社団法人日本旅行業協会						
				『旅行業法解説 約款例集解説』				一般社団法人日本旅行業協会					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストを読み学習してもらう。予習・復習は各2時間程度。 ②各授業毎に理解度レポートを作成してもらい、その理解度をみる。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	①法律とは 法律の基本的なあり方と条文の読み方 用語について学ぶ	レポートを通して理解度の確認を行う（旅行業法とは）
	学習成果	法律の基本を学ぶことにより、社会の在り方について説明できる	
予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出		
2回	授業内容	②旅行業法とは（Ⅰ） 旅行業法と約款の関係・旅行業法の構成・法令の専門用語・旅行業法史・施行規則について学ぶ	
	学習成果	旅行業法の構成を学ぶことにより、社会生活での法のありようについて説明できる	
予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出 / 予習は教科書の事前学習		
3回	授業内容	②旅行業法とは（Ⅱ）改正旅行業法について・旅行業法の目的・定義について学ぶ	
	学習成果	改正旅行業法の目的を学び、また、法の本来の目的・定義を学ぶことを通して、社会において旅行業法が貢献している役割を説明できる	
予習復習の内容	学んだことへのレポートの提出と知識の整理		
4回	授業内容	登録制度について学ぶ（登録・登録拒否事由・有効期限・等）	
	学習成果	何故登録が必要かを説明できる	
予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出		
5回	授業内容	営業保証金制度について学ぶ（改正旅行業法）	
	学習成果	営業保証金制度について趣旨・目的が説明できる	
予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出		
6回	授業内容	旅行業務取扱管理者制度について学ぶ	
	学習成果	管理者制度について説明ができる	
予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出		
7回	授業内容	料金揭示・旅行業約款について学ぶ	
	学習成果	料金揭示の必要性と約款について説明ができる	
予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出		
8回	授業内容	取引条件書面について学ぶ	
	学習成果	契約のあり方について説明できる	
予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出		
9回	授業内容	外務員の証明書携帯・広告標識の表示について学ぶ	
	学習成果	外務員のあり方や、パンフレットについて説明ができる	
予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出		
10回	授業内容	旅程管理について学ぶ	
	学習成果	旅程管理者制度について説明ができる	
予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出		
11回	授業内容	旅行業法における禁止行為・受委託契約について学ぶ	
	学習成果	旅行者としてやってはいけないこと、やらなければいけないことの説明ができる	
予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出		
12回	授業内容	事業の廃止・業務改善命令・登録の取消等について学ぶ	
	学習成果	事業の廃止・業務改善命令・登録の取消等はなにゆえ必要か説明できる	
予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出		
13回	授業内容	旅行サービス手配業（改正旅行業法）/ 取扱い管理者資格について学ぶ	
	学習成果	そのできた趣旨と内容を理解して、説明ができる	
予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出		
14回	授業内容	旅行業協会・弁済業務保証金・雑則について学ぶ	
	学習成果	その設立の趣旨を理解して、説明できる	
予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出		
15回	授業内容	不当景品防止法・消費者契約法・個人情報保護法について学ぶ	
	学習成果	旅行業法との関連法律を理解して説明できる	
予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出		
			各項目の理解度をとうため問題を通して理解度チェックを行う
			旅程管理についての理解度確認（レポートを通して行う）
			旅行業法の禁止行為について理解度確認（レポートを通して）
			旅行業法の事業廃止・業務改善命令・登録取消について理解度確認（レポートを通して）
			旅行サービス手配業理解度確認（レポートを通して行う）
			レポートを通して理解度の確認を行う

科目名	観光関連約款				担当者	大森信治郎						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				授業の前後に講師室にて受け付ける。								
専門的 学習成果	①	「約款」の概念を理解し、その社会的必要性、観光の領域における役割について説明することが出来る。										
	②	観光の領域における主要な約款について、その約款が確立した経緯、社会的背景を理解し、各々の約款についてその特徴を論じることが出来る。										
	③	各約款について、具体的な条項の内容を理解し、その意図について説明することが出来る。										
	④	資格試験等の関連で特に重要な「旅行業約款」について、十分な理解に基づいた論考と説明が出来る。										
	⑤	この教科の学習を通して、旅行業実務取扱管理者の国家資格の取得を目指す基礎をつくる事が出来る。										
汎用的 学習成果	(1)	観光の領域での職業人としての実践的なスキルである約款の理解を通して、実社会で活躍できる。(専門的学習成果の①～③に関連)										
	(2)	観光におけるビジネスの場面で、顧客や取引先との適正な関係性を構築できる。(専門的学習成果の③～④に関連)										
	(3)	21世紀最大の産業に成長しつつある観光産業の、日本における発展に貢献できる。(専門的学習成果の④～⑤に関連)										
授業概要	観光のビジネス（商取引）の場面で重要な役割を果たす「約款」について、その概念をまずよく理解する。その上で、各種約款の内容についてそれぞれ学習していく。観光は構造的に観光主体（観光者）、観光対象、そしてこの両者をつなぐ観光媒介の三者によって構成されている。観光者は観光行動の過程で様々なサービスを利用するがそのほとんどが有料の商取引であり、それが公正に行われるためには何らかの契約が必要である。その契約の内容を示すものが約款である。具体的には「標準旅行業約款」「航空運送約款」「一般貸切旅客自動車運送事業運送約款」「フェリー標準運送約款」「モデル宿泊約款」「JR旅客営業規則」である。このうち国家資格（旅行業実務取扱管理者試験）に関連して最も重要な「標準旅行業約款」について中心的に（9時間）学習する。他の約款の学習と合わせて、旅行業実務取扱管理者試験に臨む基本的な知識を習得する。同時に観光のビジネス場面の円滑な業務運営のための基礎を身に付ける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	65	学習内容について、選択式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	20	2時間に1度、計7回程度の割合で過去の学習内容についての小テストを行う。								
	平常点	15	受講態度、学習に対する意欲を評価する。									
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④～⑤で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	JTB 総合研究所	『旅行業務シリーズ2 旅行業約款、運送・宿泊約款2023』				JTB 総合研究所						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	高橋一夫	『1からの観光事業論』				硯学社						
	前田勇	『新現代観光総論』				学文社						
	JTB 総合研究所	『旅行業務入門 2023』				JTB 総合研究所						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①毎回の授業で習得した知識を復習し、次の授業及び小テストに備える。小テストの結果を踏まえ、その結果にもとづいて再度復習する。事前、事後学習時間は各4時間を要する。 ②課題を課す場合は、次回の授業までに評価の結果を付けて返却するので、それに基づいて復習を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	約款の概念と学習する約款の種類・領域。	
	学習成果	「約款」という用語の意味を理解し、学習する約款の種類領域を知る。	
2回	予習復習の内容	観光の分野でのビジネスの大まかな区分を考え、関連するメディアの報道に注意する。	
	授業内容	標準旅行業約款の成り立ちと構成。	
3回	学習成果	標準旅行業約款の構成を理解し、その適用範囲や用語の定義を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの目次に目を通す。	
4回	授業内容	1回2回の内容の小テスト。募集型企画旅行の部 ①契約の締結、契約の変更。	
	学習成果	旅行業務の種類を理解し、その中の募集型企画旅行の部について説明できる。	
5回	予習復習の内容	条文の意図を読み取る。	
	授業内容	前回小テストの解説。募集型企画旅行の部 ②契約の解除、旅程管理、責任。	
6回	学習成果	契約という概念を理解し、締結、変更、解除、責任などについて説明できる。	
	予習復習の内容	小テスト結果を踏まえた復習。	
7回	授業内容	3回4回の内容の小テスト。受注型企画旅行の部 ①契約の締結、変更。	
	学習成果	募集型企画旅行と受注型企画旅行の違いを理解し、受注型の特徴を説明できる。	
8回	予習復習の内容	受注型に特徴的な条文をよく復習する。	
	授業内容	前回小テストの解説。受注型企画旅行の部 ②契約の解除、責任。	
9回	学習成果	募集型企画旅行と受注型企画旅行の違いを理解し、受注型の特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	受注型に特徴的な条文をよく復習する。小テストを踏まえた復習。	
10回	授業内容	5回6回の内容の小テスト。特別補償規定。	
	学習成果	企画旅行に適用される補償制度について説明できる。	
11回	予習復習の内容	企画旅行全体の構成をよく復習する。	
	授業内容	前回テストの解説。手配旅行の部。契約の成立、変更、解除、責任。	
12回	学習成果	企画旅行と手配旅行の違いを理解しそれを説明できる。	
	予習復習の内容	小テストを踏まえた復習。	
13回	授業内容	7回8回の内容の小テスト。旅行相談契約。渡航手続代行契約。	
	学習成果	企画旅行、手配旅行の他にも旅行業務があることを理解し、その特徴を説明できる。	
14回	予習復習の内容	標準旅行業約款全体の構成を改めて見直し、各部の重要項目を比較学習する。	
	授業内容	小テストの解説。特別演習 標準旅行業約款全体についての質問形式の演習。	
15回	学習成果	標準旅行業約款全体を理解し、この約款の意義を説明できる。	
	予習復習の内容	標準旅行業約款全体の構成を改めて見直し、各部の重要項目を比較学習する。	
16回	授業内容	9回10回の内容の小テスト。国内航空運送約款。	
	学習成果	国内の航空運送約款の内容を実際の搭乗のプロセスに従って説明できる。	
17回	予習復習の内容	出来れば実際に空港に見学に行くとい。現実味をもって約款の内容を学習する。	
	授業内容	小テストの解説。一般貸切自動車運送事業標準運送約款。	
18回	学習成果	いわゆるバス約款について、近年の重要性の認識の高まりを理解し、その内容を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
19回	授業内容	11回12回の内容の小テスト。フェリー標準運送約款。	
	学習成果	フェリー約款に特徴的な条項を指摘し、説明できる。	
20回	予習復習の内容	実際の乗船のイメージを持ちながら復習する。	
	授業内容	小テストの解説。モデル宿泊約款。	
21回	学習成果	各種運送約款にはない宿泊約款に特徴的な条項を指摘し、説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。最終回の演習に備えた全体の復習をする。	
22回	授業内容	特別演習。約款全体についての質問形式の演習。	
	学習成果	観光関連の約款全体を通して、その重要性を認識し、詳細に解説できる。	
23回	予習復習の内容	各約款の特徴を整理して確認しておく。	

科目名	旅行業実務 I				担当者	大森信治郎						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室にて受け付ける。										
専門的 学習成果	①	JRを中心とした運賃・料金の体系を理解し、旅行業をはじめ多くの観光の領域での運賃、料金、価格を算出することができる。										
	②	公共性を持った交通機関等の運賃・料金の設定の根拠、法則を理解し、説明することができる。										
	③	具体的な旅程を組み立て、その旅程に要する運賃について計算、説明することができる。										
	④	旅行業務取扱管理者の国家資格の取得を目指す基礎を作る。										
汎用的 学習成果	(1)	観光の領域での職業人としての実践的かつ基礎的な知識である運賃・料金の体系を理解して、実社会で活躍できる。(専門的学習成果の①～③に関連)										
	(2)	観光におけるビジネスの場面で、正確な知識に基づいた計算能力を身に着け顧客や取引先との適正な関係性を構築できる。(専門的学習成果の③～④に関連)										
	(3)	21世紀最大の産業に成長しつつある観光産業の、日本における発展に貢献できる。(専門的学習成果の④に関連)										
授業概要	本講義は、観光ビジネスとりわけ旅行業において不可欠となる運賃・料金の体系や規則の理解と具体的な計算の能力を身に付けることを目的としている。具体的には、JR各社の運賃・料金、団体の取扱、航空運賃・料金、貸切バスの運賃・料金、フェリーの運賃料金である。こうしたきわめて実務的な知識、技能の習得に必要なのは、第一に基本となるその運賃・料金の体系と法則や規則の理解であり、第二にその知識に基づいた反復的な計算の演習である。授業では毎時間前回の講義内容について的小テストを行い、知識の確認を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	65	学習内容について、選択式および計算の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	20	毎時間過去の学習内容について的小テストを行う。								
	平常点	15	受講態度、学習に対する意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	JTB 総合研究所	『旅行業務シリーズ3 国内運賃・料金2023』				JTB 総合研究所						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	高橋一夫	『1からの観光事業論』				硯学社						
	前田勇	『新現代観光総論』				学文社						
	JTB 総合研究所	『旅行業務入門 2023』				JTB 総合研究所						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①毎回の授業で習得した知識を復習し、次の授業及び小テストに備える。小テストの結果を踏まえ、その結果にもとづいて再度復習する。事前、事後学習として各回4時間を要する。 ②課題を課す場合は、次回の授業までに評価の結果を付けて返却するので、それに基づいて復習を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	JRの概要 旅客鉄道6社 旅客営業規則の用語の定義を学ぶ。	
	学習成果	JRで用いられる用語を理解し、その意味を説明できる。	
	予習復習の内容	基本用語の意味を十分に理解し、反復学習する。	
	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの運賃。(運賃計算)	
2回	学習成果	幹線と地方交通線、距離に関する用語と法則、それに応じた運賃計算を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
3回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの運賃。(運賃の特例)	
	学習成果	運賃の特例 特定都区市内、乗車券の効力、割引の種類、について説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの料金。(料金の体系)	
4回	学習成果	料金の体系、シーズン区分、新幹線の特急料金、グリーン等料金について説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
5回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの料金。(乗継割引)	
	学習成果	乗継割引について説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの料金。(変更、取り消し)	
6回	学習成果	変更、取り消し、払い戻しについて説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
7回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの団体の取扱。	
	学習成果	団体の種別やそれに応じた割引、割引率の異なる期間の設定、について説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの特別企画乗車券。	
8回	学習成果	特別な割引とその適用条件について説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
9回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの時刻表の読み方。	
	学習成果	各種記号の意味を理解し、時刻や所要時間、サービス内容を読み取ることが出来る。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。総合演習。	
10回	学習成果	JRの運賃・料金全般にわたる計算能力を高め、正確な算出ができるようになる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
11回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。国内航空運賃。	
	学習成果	運賃・料金のクラス、割引運賃、変更、取り消し、払い戻し、について説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。貸切バス。	
12回	学習成果	近年の厳密な運賃計算を求められるバスの運賃・料金の内容を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
13回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。フェリーの運賃料金。	
	学習成果	人、自動車、荷物などに応じたフェリーの運賃・料金を理解し、計算・説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。宿泊料金。	
14回	学習成果	宿泊施設の種別に応じた料金の考え方を理解し、計算、説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。最終回の演習に備えた全体の復習をする。	
15回	授業内容	特別演習。各種運賃・料金全体についての質問形式の演習。	
	学習成果	各種運賃・料金についてその体系を理解し、詳細に計算および解説ができる。	
	予習復習の内容	運送、宿泊機関の運賃・料金の特徴を整理して確認しておく。	

科目名	旅行業実務Ⅱ				担当者	尾 形 和 悦							
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に受け付ける											
専門的 学習成果	①	旅行業に必要な業務知識（海外旅行）の内容を説明できる。											
	②	国際航空運賃の内容、仕組みを説明できる。											
	③	旅券、渡航先国の査証（ビザ）、及びワクチン接種証明書（海外検疫）所得方法について説明できる。											
	④	出入国手続きの流れを述べることができる。											
	⑤	総合旅行業務取扱管理者試験の「海外旅行実務」の科目の内、出入国関連法令、海外旅行実務を説明できる。											
汎用的 学習成果	(1)	資格所得に向けた海外旅行実務に関する学習を通し、社会的、職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③④⑤に関連）											
	(2)	海外の地理、文化の違いを学習し、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果①③に関連）											
	(3)	旅券の所得方法、出入国に必要な手続きについて習得した知識や技能を活用して、課題解決に向けて行動できる。（専門的学習成果①③④に関連）											
授業概要	旅行会社の海外旅行に必要な実務知識の内、航空会社の時刻表、国際列車の時刻表の見方をインターネットを利用して情報収集する方法、併せて海外渡航に必要な旅券、査証、及びワクチン接種証明書の所得方法を学ぶ。観光地理、主な観光施設、空港の Three Letter Code、航空会社の Two Letter Code 等の専門用語についても学習し、総合旅行業務取扱管理者試験の海外旅行実務分野の実践的学力を養成する。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		平常点	20	授業に取り組む姿勢									
		小テスト	30	3回実施し、各回10点を配点する。2,3回分の講義内容について理解の程度を評価する。									
	筆記試験	50	前回実施の小テストを元にした問題を回答して全体の理解度を評価する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①及び③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③④で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名						
			『るるぶ 台湾 '23』				JTB パブリッシング						
			『るるぶ フランス』				JTB パブリッシング						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名						
			授業で必要に応じて紹介する										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキスト、配布する参考資料及びインターネットに接続可能な PC/Tablet 経由得た情報を資料として授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストなどを読み予習しておくこと。（予習：2時間程度）事後学習として、単元毎に小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること。（復習：週2時間程度） ②フィードバックとして、理解度確認テストを回収後、回答・解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンスと国家試験における海外旅行実務	
	学習成果	海外旅行実務の内容を理解し、概要を説明することができる。	
2回	予習復習の内容	時差表に表示される国及び地域を確認する。	
	授業内容	海外旅行実務－観光英語	
3回	学習成果	旅行業界で使用される業界英語（用語）を説明することができる。	
	予習復習の内容	英語本来の意味との違いを確認する。	
4回	授業内容	海外旅行実務－日本航空、全日空、仙台発国際線の時刻表	
	学習成果	時刻表を読み取ることができる。	
5回	予習復習の内容	JR・国内線航空機の時刻表との違いを理解する。	
	授業内容	演習（1）－国際線時刻表の読み方	
6回	学習成果	時刻表から時差のある海外旅行地との飛行時間を説明できる。	
	予習復習の内容	時刻表と時差表から時差のある国間の所要時間を理解する。	
7回	授業内容	出入国関連法令・実務－旅券法	
	学習成果	旅券所得に必要な書類を説明することができる。	
8回	予習復習の内容	旅券申請用紙に記載されている内容を理解する。	
	授業内容	出入国関連法令－日本人の出入国手続き	
9回	学習成果	日本人の免税範囲を説明することができる。	
	予習復習の内容	検疫・免税範囲を理解する。	
10回	授業内容	出入国関係法令－海外での入出国手続き	
	学習成果	CIQ の流れを説明することができる。	
11回	予習復習の内容	渡航先国別の査証、旅券の残存期間の説明ができる。	
	授業内容	演習（2）－出入国関連手続き	
12回	学習成果	CIQ 全般について説明することができる。	
	予習復習の内容	主要国の検疫・通関手続きを理解する。	
13回	授業内容	国際航空券－基礎 普通運賃	
	学習成果	国際航空券のルールを説明することができる。	
14回	予習復習の内容	運賃に付属する各種税金およびサーチャージを理解する。	
	授業内容	国際航空運賃－特別運賃	
15回	学習成果	特別運賃の種類及びシーズンリティについて説明することができる。	
	予習復習の内容	特別運賃にどういったものがあるか確認する。	
16回	授業内容	演習（3）－航空券購入時に留意すること	
	学習成果	国際航空運賃のルールを説明することができる。	
17回	予習復習の内容	同区間で飛行している航空会社の運賃の違いを理解する。	
	授業内容	海外旅行の出発前に準備すること	
18回	学習成果	両替、旅行傷害保険等の説明ができる。	
	予習復習の内容	新聞等で主要通貨の交換レートを理解する。	
19回	授業内容	海外の観光資源－仙台空港発着便を利用時の渡航先	
	学習成果	韓国、中国、台湾、バンコック	
20回	予習復習の内容	アジア各国の魅力とリスクを理解する。	
	授業内容	海外の観光資源－ヨーロッパ、アメリカ、オセアニア編	
21回	学習成果	日本人が多く訪れる観光地を説明することができる。	
	予習復習の内容	地図帳で主要国及び主要観光資源を理解する。	
22回	授業内容	海外旅行実務まとめ	
	学習成果	海外旅行実務に関して多方面から案内することができる。	
23回	予習復習の内容	旅行業界に必要な基本的業務知識を理解する。	
	学習成果	小テスト（出入国関係法令実務について）第8回に実施	
24回	授業内容	小テスト（国際航空運賃について）第11回に実施	
	学習成果	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回後半に実施	

科目名	ホテル総論				担当者	今野則幸(実務家教員)						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー(初回授業で説明)か、Eメールで行う。konno.noriyuki@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	ホテル産業の歴史過程を踏まえ、社会的有用性を説明できる。										
	②	ホテルの組織を理解し、概要を説明できる。										
	③	ホテル内の各セクションを理解し、実践できる。										
	④	ホテルビジネス実務検定2級資格所得を目指すことにより、ホテル全般を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたホテルに関する学習を通し、社会の中でのホテルの役割を学び活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	ホテル内の各セクションの業務内容を学ぶことにより、他者に対してマナー実践ができる。(専門的学習成果②③)										
授業概要	現在、日本国内及び海外から観光やビジネス目的で、多くのお客様がホテルを訪れる。ホスピタリティ産業の中心的な役割を果たしているホテルの歴史・組織や具体的な業務内容を学び、地域社会に貢献できるようにする。講師がシティ・ホテル、リゾート・ホテルで勤務した宿泊・宴会・料飲部門の実務経験を基に、ホテル内全般に通じる知識はもとより、各セクションの特徴などを講義に取り入れる。また、国際的に通用する社会人としての幅広いマナーを身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	各部門レポート3回提出。各10%配点し、評価する。								
		筆記試験	60	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、講義内容の理解について評価を行う。								
	平常点	10	講義への取り組み・意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本ホテル教育センター編		『新ホテル総論』				プラザ出版					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本ホテル教育センター編		『ホテルビジネス基礎編』				日本ホテル教育センター					
	日本ホテル教育センター編		『ホテルビジネス基礎 練習問題700選』				日本ホテル教育センター					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストを読み、内容を把握する(30時間)。また、仙台市内や旅行先でホテルを利用し、お客様の動向やホテルマン・ホテルウーマンの行動を観察し実践に活用できるようにする(30時間)。 ②筆記試験は後期の開講期に「プライダル概論」(1年後期・担当、今野)で返却し、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、検定試験内容	
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
2回	予習復習の内容	ガイダンス内容を踏まえ、学習計画を立てる。	
	授業内容	ホテルの定義	
3回	学習成果	観光関連、ホテルに関する法律を学び、社会の中でのホテルの位置を説明できる。	
	予習復習の内容	関連法律を確認しておく。	
4回	授業内容	ホテルの分類	
	学習成果	シティホテル、ビジネスホテル、リゾートホテル等比較・分類できる。	
5回	予習復習の内容	様々なホテルの形態を整理しておく。	
	授業内容	ホテルの歴史(国外)	
6回	学習成果	ヨーロッパ、アメリカ、アジアのホテルの歴史を述べることができる。	
	予習復習の内容	国外のホテルの歴史的背景を整理しておく。	
7回	授業内容	ホテルの歴史(国内)	
	学習成果	日本国内のホテルの歴史を述べることができる。	
8回	予習復習の内容	国内のホテルの歴史的背景を整理しておく。	
	授業内容	宿泊部門(ホテル内での役割)	
9回	学習成果	ホテル内での宿泊部門の役割、位置づけを説明できる。	
	予習復習の内容	関連セクションとの繋がりを調べる。	
10回	授業内容	宿泊部門(フロントオフィス)	
	学習成果	予約、レセプション、インフォメーション等、説明できる。	
11回	予習復習の内容	仕事内容の理解を深める。	
	授業内容	宿泊部門(フロントサービス、ハウスキーパー)	
12回	学習成果	ドアマン、ベルマン、ハウスキーパーの業務内容を説明できる。	
	予習復習の内容	仕事内容の理解を深める。	
13回	授業内容	料飲部門(洋食・和食・中華レストラン)	
	学習成果	各レストランの業務内容を説明できる。	
14回	予習復習の内容	各レストランの料理内容の整理、お客様対応を整理しておく。	
	授業内容	料飲部門(コーヒーショップ、バー)	
15回	学習成果	コーヒーショップの業務内容、飲料の説明ができる。	
	予習復習の内容	アルコール飲料を整理しておく。	
16回	授業内容	宴会部門(一般宴会)	
	学習成果	MICE等、一般宴会の内容が説明できる。	
17回	予習復習の内容	一般宴会を比較し、内容を調べる。	
	授業内容	宴会部門(婚礼)	
18回	学習成果	婚礼の歴史や挙式・披露宴を説明できる。	
	予習復習の内容	挙式形態、披露宴形態を調べる。	
19回	授業内容	調理部門(食材)	
	学習成果	フランス料理、中華料理、和食の食材を説明できる。	
20回	予習復習の内容	肉、魚、野菜等を整理しておく。	
	授業内容	調理部門(調理方法)	
21回	学習成果	フランス料理、中華料理、和食の調理方法を説明できる。	
	予習復習の内容	各料理を比較し、整理しておく。	
22回	授業内容	社会の中のホテルの役割	
	学習成果	社会の中でホテルが果たす役割を挙げることができる。	
23回	予習復習の内容	現在の社会情勢を調べておく。	
	学習成果	レポート提出(自身が利用したホテルの感想)	
24回	予習復習の内容	レポート提出(ホテルにおけるフロント業務の重要性)	
	学習成果	レポート提出(ホテルにおける料飲業務の重要性)	
25回	予習復習の内容	レポート提出(ホテルにおける宴会業務の重要性)	
	学習成果	筆記試験(全15回分の内容を問う)後半に実施	

科目名	テーブルマナー演習				担当者	高橋 見 時						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー。										
専門的 学習成果	①	フランス料理・日本料理・中国料理の歴史を理解する。										
	②	フランス料理のマナー及びセッティングを習得し実践できる。										
	③	日本料理・中国料理のマナーを習得する。										
	④	社会人の基本的常識としての各種パーティーマナーを身につけ実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	夫々の料理の歴史に関する学習を通じて、社会人としての幅広い知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	社会人の基本的常識としてのテーブルマナーを身につけ実践できる。(専門的学習成果②～④に関連)										
授業概要	シティホテル内の料飲サービスの基本である西洋料理の歴史とテーブルマナー、併せて日本料理、中国料理の歴史及び実務の基礎やマナーを学ぶと同時に、社会人の基本的常識としての各種パーティーのマナーの実務やマナーについても学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	筆記試験形式で行い、講義内容の理解度の評価を行う。								
		レポート										
		平常点	20	実技及び授業態度により評価を行う。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②～④により評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	岩下宣子・吉村景美	『これが美しい食べ方のマナーです』				亜紀書房						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストを使用し授業を進めるため、必ずテキストを準備の上受講のこと。又事前にテキストを読み授業内容を把握しておくこと。事前、事後学習に4時間を要する。 ②カトラリーの用途や名称、セッティングについては改めて翌週の授業の最初に行いフィードバックする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、何故テーブルマナーは必要か	マナーの必要性の説明を評価
	学習成果	テーブルマナーの必要性について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスの内容を理解し、ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
	授業内容	フランス料理の歴史	歴史の説明の評価
2回	学習成果	イタリアの食文化が、現在のフランス料理のスタイルをもたらしたことを説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容とプリントにより、理解を深める。	
	授業内容	主な国のブレイクファストとセッティング	セッティングの評価
	3回	学習成果	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ブレイクファストについて理解を深める。	
	授業内容	カトラリーの名称と用途について	カトラリーの用途説明の評価
	4回	学習成果	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、名称と用途について理解を深める。	
	授業内容	ディナー(コース料理)のマナーについて	マナーのポイント説明の評価
	5回	学習成果	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、食べ方について理解を深める。	
	授業内容	市内シティホテルでのフランス料理テーブルマナー	マナー実践の評価
	6回	学習成果	
	予習復習の内容	テーブルマナーの実践を通じ、完全にマナーを身につける。	
	授業内容	和室での立ち居振る舞いと玄関での振舞い	立ち居振る舞い説明の評価
	7回	学習成果	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、自宅やレストランなどでも意識して、身につける。	
	授業内容	伝統的な形式の日本料理とマナーの基本	マナーの基本の説明を評価
	8回	学習成果	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、自宅やレストランなどでも意識して、身につける。	
	授業内容	フォーマルな日本料理のマナーと、会席料理の食べ方	器の扱い方の説明を評価
	9回	学習成果	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、自宅やレストランなどでも意識して、身につける。	
	授業内容	中国料理の食卓作法	料理の特徴の説明を評価
	10回	学習成果	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	中国料理をスマートに食べるポイント	食べ方のポイント説明を評価
	11回	学習成果	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、自宅やレストランなどでも意識して、身につける。	
	授業内容	ターンテーブルと中国料理のフルコース	コース料理の説明を評価
	12回	学習成果	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	立食パーティーの基本マナー	基本マナー説明を評価
	13回	学習成果	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	ビュッフェの食べ方のマナー	取り方と食べ方説明の評価
	14回	学習成果	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	お酒の席の基本マナーと飲み物の種類	基本マナーの説明を評価
	15回	学習成果	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、自宅やレストランなどでも意識して、身につける。	

科目名	ブライダル概論				担当者	ヤマカワ ナミ						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー（初回授業で説明）か、Classroom、Eメールで行う。yamakawa.na@seiwa.ac.jp.										
専門的 学習成果	①	ブライダルの歴史を理解し、概要を説明できる。										
	②	挙式の種類や内容についての知識を習得し、概要を説明できる。										
	③	披露宴についての知識を習得し、概要を説明できる。										
	④	現在のブライダル市場を理解し、オリジナル・ブライダルを提案できる。										
	⑤	ブライダル・コーディネート技能検定資格を目指し、ブライダル全般を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	ブライダル産業を通し、マナーを身につけ、他者に配慮できる。（専門的学習成果①～⑤）										
	(2)	ブライダルの幅広い知識を習得し、創意・工夫することができる。（専門的学習成果①～④）										
	(3)	グループ・ワークを通し、協調性を養うことができる。（専門的学習成果④）										
授業概要	ブライダル商品は、過去約50年間にわたりホテル業界が様々な創意・工夫を重ね高い評価を受けてきた。他方、近年は神前式やキリスト教式に拘らず、人前式に見られるような自分たちの個性を重視した挙式・披露宴も多くなっている。それを受けて、結婚プロデュース業やレストラン・ハウスウェディング業が広がりを見せている。この講座ではブライダルに関する基礎知識とともに、グループ及び個人でのオリジナル・ウェディングを考え、多様化するニーズに対応できるよう学習していく。また、国家検定である「ブライダルコーディネート検定資格」を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	個人でオリジナル・ウェディングを考え、創意・工夫を評価する。								
		グループ ワーク	40	少人数グループによるオリジナル・ウェディングを考え、発表する。その際の創意・工夫を評価する。								
		平常点	10	講義やグループ・ワークへの取組み・意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本ブライダル文化振興協会編		『ブライダルコーディネーターテキストスタンダード』				日本ブライダル文化振興協会					
	日本ホテル教育センター編		『ブライダル概論』				日本ホテル教育センター					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	岩下 宣子		『冠婚葬祭恥をかかないマナー事典』				日本文芸社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストをよく読み、授業内容を把握しておくこと（30時間）。ホテルや専門式場のブライダルフェアを見学し、最新のブライダル市場の理解を深めること（10時間）。また、結婚情報誌を購読すること（20時間）。 ②レポートは2年次前期の開講期に「ブライダル実務」で返却し、フィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス、ブライダルの定義		小テスト
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。		
	予習復習の内容	ブライダルの定義を整理する。		
	授業内容	ブライダル関連法規		
2回	学習成果	結婚に関する法的な概要を説明できる。		
	予習復習の内容	憲法・民法等を調べる。		
3回	授業内容	ブライダルと宗教		
	学習成果	宗教的な結婚の意義、内容について説明できる。		
	予習復習の内容	宗教を比較し、理解を深める。		
	授業内容	ブライダルの歴史（西洋、アジア）		
4回	学習成果	ヨーロッパ、アメリカ、アジア各国のブライダルの歴史を説明できる。		
	予習復習の内容	各国のブライダルを比較・検討する。		
5回	授業内容	ブライダルの歴史（日本）		
	学習成果	日本のブライダルの歴史を説明できる。		
	予習復習の内容	日本独自のブライダルの理解を深める。		
	授業内容	挙式		小テスト
6回	学習成果	神前式、キリスト教式、仏前式、人前式を説明できる。		
	予習復習の内容	挙式を比較・整理すること。		
7回	授業内容	披露宴		
	学習成果	披露宴内容を理解し、提案することができる。		
	予習復習の内容	披露宴で行われる様々な演出を調べる。		
	授業内容	婚礼衣装		小テスト
8回	学習成果	洋装・和装を理解し、説明することができる。		
	予習復習の内容	衣装店を見学し、衣装に限らず小物も調べる。		
9回	授業内容	西洋の結婚式の慣習		
	学習成果	西洋の結婚式にまつわる慣習を理解し、説明することができる。		
	予習復習の内容	宗教上の儀式等を調べ、整理する。		
	授業内容	日本の結婚式の慣習		小テスト
10回	学習成果	日本の結婚式にまつわる慣習を理解し、説明することができる。		
	予習復習の内容	神道、仏教の儀式等を調べ、整理する。		
11回	授業内容	ブライダルマーケット		
	学習成果	現在行われているブライダルについて理解し、今後の提案ができる。		
	予習復習の内容	ブライダルフェア・情報誌等で調べ、整理しておく。		
	授業内容	オリジナル・ウェディング グループワーク（挙式）		グループワークへの取組み
12回	学習成果	小グループに分かれ、オリジナル・ウェディング挙式の提案ができる。		
	予習復習の内容	ブライダルフェア・情報誌等で調べ、グループ員同士で情報共有をする。		
13回	授業内容	オリジナル・ウェディング グループワーク（披露宴）		グループワークへの取組み
	学習成果	小グループに別れ、オリジナル・ウェディング披露宴の提案ができる。		
	予習復習の内容	ブライダルフェア・情報誌等で調べ、グループ員同士で情報共有をする。		
	授業内容	オリジナル・ウェディング発表		グループワークへの取組み
14回	学習成果	グループで考えたオリジナル・ウェディングをプレゼンテーションできる。（パワーポイント等）		
	予習復習の内容	プレゼンテーションができるよう、準備をしておく。		
15回	授業内容	個人のオリジナル・ウェディング		レポート提出
	学習成果	個人でオリジナル・ウェディング挙式・披露宴の提案ができる。		
	予習復習の内容	プレゼンテーションができるよう、準備をしておく。		

科目名	ブライダルフラワービジネスⅠ				担当者	山 川 奈 美						
区 分	選 択	2	単 位	授業回数	15	回	授業形態	演 習	学 年	1 年	開 講 期	後 期
				授業時間数	30	時 間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業毎に配布する小テストにて質問等を受付ける。もしくは授業中や授業後に直接。(内容によるので必要に応じて個別にメール可、アドレスは yamakawa.na@seiwa.ac.jp)										
専門的 学習成果	①	フラワーデザインの歴史を知り、時代背景と共に説明することができる										
	②	植物に関する知識を理解し、実技に応用することができる										
	③	フラワーデザインの基礎的な技術を学び、実践することができる										
	④	ブライダルに関する装花の用途や意義などについて理解し、説明することができる										
	⑤	商業ラッピングにおける基礎知識を学び、実践することができる										
	⑥	ブライダルフラワービジネス3級の受検レベルの知識を持ち、応用することができる										
汎用的 学習成果	(1)	植物に関する知識、アレンジメント技術を身につけ、職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果②、③、⑥に関連)										
	(2)	フラワーデザイン知識、ブライダルにおける装花技術を職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①～④、⑥に関連)										
	(3)	ラッピングの基礎知識を持ち、基本の簡単な包み方ができることによって、社会的・職業的自立に活用することができる。(専門的学習成果⑤に関連)										
授業概要	フラワーデザインとは何か…歴史から順にひもとき、植物の生態や分類を通して論理的に説明していき、それを実践(実技学習)していく。植物に関する知識を活かした上で、フラワーデザインの技術を取得し、更にブライダルの現場での装花全般について学んでいく。ブライダルフラワービジネス検定3級を取得できるレベルの学習を行う。また、商業ラッピングの技術を身につけ、一般的なサービス業で必要とされることの多いラッピングを学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		筆記試験	40	講義内容全般、各講義内容に基づいた小テストから出題する筆記試験を第14回目の講義内で行う。(60分)								
		作品評価	40	講義内で2回練習したラウンドのアレンジメントを、3回目で実技試験を行う。(60分、予定では第10回目の講義)								
		平常点	20	講義中の態度、取り組み姿勢(準備物・服装含む)、小テストの理解度・提出状況、などにより総合的に評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果②、③、⑥により評価を行う。 (2)は専門的学習成果①～④、⑥により評価を行う。 (3)は専門的学習成果⑤により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	栗林 登		『全国フラワーデザイン検定テキスト』						NPO 法人フラワーデザイン普及協会			
	商業ラッピング協会テキスト委員会		『ラッピングテキスト3級』						(社) 商業ラッピング協会			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
			ブライダル関連雑誌(ゼクシー、ヴァンサンカンウェディングなど)									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①準備として、花の名称、植生状態を知っておくとよい。刃物を扱う授業なので注意が必要。花代、資材、テキスト類の費用別途あり。(そのまま2年生履修時にも使用) 授業計画に従って、予習復習を計4時間程行うこと。予習は基本的にテキストを読むこと、講義内容はしっかり聴き、その都度行う小テストにて理解を確認する。小テストは返却するので必ず事後学習(復習)に努めること。小テストは講義中(終盤10～20分程度)、事後学習用に配布する。 ②フィードバックとして全体評価をみながら小テストの解説を行う。小テストには質疑応答の場を設けるので積極的に活用し、疑問や不明なことをそのままにしないようにする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	テキスト配布、講義における注意点などの説明、フラワーデザインの歴史	小テスト(各回共に、講義内容に関して)
	学習成果	講義前の準備、心構えなどから、技術よりも前に大切なことを説明できる	
	予習復習の内容	花(植物)について調べておく(花の名前を調べる、ブライダルの装花を調べてくる、など)	
2回	授業内容	第1回の内容の続き(歴史)からフラワーデザインとは何かを学ぶ	小テスト
	学習成果	フラワーデザインの歴史と合わせてフラワーデザインはどのようなものかを説明できる	
	予習復習の内容	テキストを復習 花束の作り方を予習する	
3回	授業内容	(実技)花束を作る(ラッピングまで)	小テスト
	学習成果	フラワーデザインの基本をもとに一つの商品となるまでの過程を説明できる	
	予習復習の内容	花束を花瓶に活け、水を替える、ということを実際に行ってみる テキストの復習	
4回	授業内容	フラワーデザインの基礎、用具や資材、植物の分類	小テスト
	学習成果	実際にどんな道具を使ってどんなものができるのかを関連づけることができる	
	予習復習の内容	植物の分類を、植物の名前と共に覚える	
5回	授業内容	植物の分類から、形態、水揚げ方法	小テスト
	学習成果	分類や形態に関する知識が必要な理由を知り、フラワーデザインの基本的な組立へ応用できる	
	予習復習の内容	植物の分類、形態、水揚げを名前と共に覚える	
6回	授業内容	(実技)三角形のアレンジメントを作る	小テスト
	学習成果	植物の分類を考慮しながら、実際に基本的な形のアレンジメントを作ることができる	
	予習復習の内容	分類や形態、水揚げを考えながら、余った花材も無駄なく使用する	
7回	授業内容	チャペルにおける装花や基本的な仕組み、用語の説明	小テスト
	学習成果	日本のブライダルにおける現状やチャペルでの決まり事などを比較検討できる	
	予習復習の内容	チャペルについての知識を確認する ラウンドのアレンジメントの予習	
8回	授業内容	(実技)ラウンドのアレンジメント(1回目)	小テスト
	学習成果	最もポピュラーなアレンジメントを作成することができる	
	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する	
9回	授業内容	(実技)ラウンドのアレンジメント(2回目)	小テスト
	学習成果	実技試験のために復習、再確認、質問などより完成度をあげることができる	
	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する	
10回	授業内容	(実技)ラウンドのアレンジメント(3回目)実技試験	小テスト
	学習成果	時間内に作品を仕上げることができる	
	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する これまでの復習(分類など)	
11回	授業内容	(実技)季節を感じるアレンジメントとしてクリスマスのアレンジメントを作成	小テスト
	学習成果	フラワーデザインにおいても重要なクリスマステーマに商業的な視点で議論できる	
	予習復習の内容	クリスマスだけでなく、季節を取り入れた場合を考えてみる ラッピングの予習(テキストを読む)	
12回	授業内容	ラッピングの基礎知識、合わせ包み	小テスト 休み中に復習レポート(必須ではない)
	学習成果	包装紙をきれいに切ることができ、用途に合わせた包み方を区別し実行することができる	
	予習復習の内容	異なる箱の包み方を予習しながら、基本の包み方も復習する	
13回	授業内容	箱の厚みが異なる場合の合わせ包み 斜め包み	小テスト
	学習成果	様々な箱の合わせ包みができる 斜め包みと合わせ包みを比較できる	
	予習復習の内容	全ての包み方を復習する 用語なども確認する	
14回	授業内容	学科試験(60分)	学科試験(小テストの内容と講義内容全般から)
	学習成果	今までの学習内容を総括し、フラワーデザインの基礎を説明することができる	
	予習復習の内容	小テストを中心に全てを復習する	
15回	授業内容	検定試験(希望者のみ)、学科試験・実技試験 再試験	2つの試験の成績次第でレポート提出あり(内容は必要に応じて対応するため未定)
	学習成果	ブライダルフラワービジネス3級の資格を取得できる 1回目の試験で不合格者のみ学科・実技共に再試験を受けることができる	
	予習復習の内容	学科試験の結果を発表するので全員出席 不合格の場合に備え、復習しておく	

科目名	スポーツ心理学				担当者	高 間 章						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。								
専門的 学習成果	①	スポーツ心理学の基礎知識・諸問題について説明できる。										
	②	自分自身の競技活動や日常生活、また指導の現場における応用方法を説明できる。										
	③	運動技能の効果的な習得につながる心理的要因を説明できる。										
	④	身体運動と心身の健康の関わりを説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	スポーツ心理学の学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	スポーツ心理学を学ぶことで適切なスポーツ活動を思考し、自身の生活の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果①②に関連）。										
	(3)	スポーツ心理学の専門的知識、技術を習得し、指導する経験から地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的学習成果③④に関連）。										
授業概要	スポーツにおける「こころ」の重要性について学ぶ。競技スポーツや健康スポーツ、そして指導者という立場になった場合での心理的諸問題の予防法・対処法について学習する。また、運動・スポーツの心理学的な効果、運動・スポーツと動機づけ、心身の発達と運動・スポーツ指導、スポーツメンタルトレーニングの理論と技術等を学ぶ。生活習慣病予防に關しての行動変容の心理的方策を学び、ヘルспロモーションとカウンセリングの基礎を学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	平常点	10	取組・意欲・態度により評価する								
		レポート	20	課題を理解できているかを観点に評価を行う								
		筆記試験	70	第15回目の授業後半に筆記試験を行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本スポーツ協会		『リファレンスブック』				日本スポーツ協会					
	日本スポーツ協会		『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』				日本スポーツ協会					
	健康・体力づくり事業財団		『健康運動実践指導者養成用テキスト』				南江堂					
日本フィットネス協会		『GFIのためのフィットネス基礎理論』				日本フィットネス協会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に4時間程度行うこと。事前学習として授業資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②提出されたレポートにはコメントをつけて返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	行動としてのスポーツ、スポーツにおける動機づけ	レポート課題 「個人差に応じてやる気を高める コーチング方法について」6回目に配布、8回目に回収「理想的な心理状態とコンディション方法について」11回目に配布、13回目に回収
	学習成果	スポーツと心の関係について説明できる。	
2回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	メンタルマネジメント	
3回	学習成果	メンタルマネジメントの理論と各種方法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
4回	授業内容	他者観察と個人差を考慮したコーチング	
	学習成果	他者観察と個人差を考慮したコーチングについて説明できる。	
5回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	運動感覚と運動学習	
6回	学習成果	運動感覚と運動学習について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
7回	授業内容	メンタルトレーニングの実際 リラクゼーション イメージトレーニング	
	学習成果	リラクゼーションやイメージトレーニングについて説明できる。	
8回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	メンタルトレーニングの実際 集中力のトレーニング	
9回	学習成果	集中力のトレーニングについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
10回	授業内容	コーチングとは コーチングの定義とグッドコーチ プレイヤーズセンタードなコーチング	
	学習成果	コーチングの定義とグッドコーチ、プレイヤーズセンタードなコーチングについて説明できる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	コーチングに求められる知識とスキル	
12回	学習成果	コーチングに求められる知識とスキルについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
13回	授業内容	対他者力を磨こう (1) コミュニケーションスキル リーダーシップスキル	
	学習成果	コミュニケーションスキル リーダーシップスキルについて説明できる。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	対他者力を磨こう (2) プレゼンテーションスキル、ファシリテーションスキル	
15回	学習成果	プレゼンテーションスキル、ファシリテーションスキルについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
16回	授業内容	対自己力を磨こう (1) コーチの学び	
	学習成果	コーチに必要な学びについて説明できる。	
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	対自己力を磨こう (2) コーチのセルフマネジメント 様々な思考法や伝達法	
18回	学習成果	セルフマネジメントの方法、思考法や伝達法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
19回	授業内容	運動の実践に関わる社会・心理・環境的要因と運動実践の効果	
	学習成果	運動実践を妨げる要因と運動実践のメンタルヘルスに及ぼす効果について説明できる。	
20回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	トランスセオレティカル・モデルとソーシャルマーケティング	
21回	学習成果	運動を採択・継続、停止する行動理論や多くの参加者を得るための留意点について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
22回	授業内容	指導と受講のミスマッチと解決方法、個別指導における動機づけとカウンセリング方法	
	学習成果	ミスマッチの解決方法と動機づけ、カウンセリングについて説明できる。	
23回	予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。	

科目名	コンディショニング実習				担当者	ヨシダハルヒコ						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	コンディショニングという言葉の意味とその内容について理解する。										
	②	コンディショニングに関わる手技・手法を実践できる。										
	③	傷害予防を目的としたコンディショニング方法の1つであるテーピングについて目的・効果及び種類を理解し、テーピングを実施することができる。										
	④	スポーツ活動中に生じる基本的な障害とその処置について理解する。										
汎用的 学習成果	(1)	コンディショニングに関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	グループで協力してコンディショニングを学ぶ経験から、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果②、③に関連）。										
	(3)	コンディショニングの専門的知識、技術を習得し、指導する経験から、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③④に関連）。										
授業概要	スポーツは体力の保持・増進、健康管理、競技、レクリエーション等多様な目的で行われ、心理的效果も大きく、現代社会において重要な役割を担っている。特に競技スポーツでは日常や試合での体調管理を中心としたコンディショニングが重要となる。スポーツのパフォーマンスを高めるためのコンディショニング法として身体的、防衛的、精神的、栄養、休養の5本の柱を全て充実させるための基礎的な理論や方法を理解し、手技・手法の実践を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		平常点	20	取組・意欲・態度により評価する								
		実技試験	40	課題のステップの習熟度について評価する								
		筆記試験	40	授業の感想カードの内容により評価する								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②、③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	メディカル・フィットネス協会		『コンディショニング』						嵯峨野書院			
	メディカル・フィットネス協会		『やさしいスポーツ医科学の基礎知識』						嵯峨野書院			
メディカル・フィットネス協会		『テーピング』						嵯峨野書院				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等			①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テストを毎回実施し、回答について解説する。									

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要と進め方の説明、コンディショニングについて	
	学習成果	授業の概要と進め方について理解し、コンディショニングについて説明できる。	
2回	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	ストレッチングの実際	
3回	学習成果	セルフストレッチング、パートナーズストレッチングについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ストレッチングの理解を深める。	
4回	授業内容	PNFの実際 PNFの理論と基本テクニック	
	学習成果	PNFについて理解し、基本テクニックを説明できる。	
5回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
	授業内容	PNFの実際 PNFのパターンと各部位のテクニック	
6回	学習成果	PNFのパターンについて理解し、各部位のテクニックを説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
7回	授業内容	関節モビリティゼーションの実際	
	学習成果	関節モビリティゼーションの基礎知識、基本原則について理解し、説明できる。	
8回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
	授業内容	関節モビリティゼーションのテクニック	
9回	学習成果	関節モビリティゼーションの注意事項、四肢へのテクニックについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
10回	授業内容	スポーツマッサージの実際	
	学習成果	スポーツマッサージの基礎知識、基本原則について理解し、説明できる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
	授業内容	スポーツマッサージの基本手技	
12回	学習成果	スポーツマッサージの基本手技について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
13回	授業内容	アイシングの実際	
	学習成果	コンディショニングのためのアイシングについて理解し、説明できる。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
	授業内容	テーピングの実際	
15回	学習成果	テーピングの目的や効果を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、リズム、BPMの使い方の理解を深める。	
16回	授業内容	テーピングの基本テクニック 足部	
	学習成果	足部のテーピングの基本テクニックを理解し、説明できる。	
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本姿勢を習得する。	
	授業内容	テーピングの基本テクニック 足首	
18回	学習成果	足首のテーピングの基本テクニックを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
19回	授業内容	テーピングの基本テクニック 上肢	
	学習成果	上肢のテーピングの基本テクニックを理解し、説明できる。	
20回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
	授業内容	コンディショニングの理論の確認	
21回	学習成果	コンディショニングについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本姿勢を習得する。	
22回	授業内容	テーピングの基本テクニックの確認	
	学習成果	テーピングの基本テクニックの課題を理解し、実践できる。	
23回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	

科目名	健康管理と栄養				担当者	高 間 章 ・ 岩 田 教 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	健康と健康増進の概念について説明し、生活習慣変容の重要性を理解し、説明できる。										
	②	わが国の現状と健康づくり施策（第一次健康づくり対策からの歴史的変遷、運動指針）について理解し、説明できる。										
	③	生活習慣病、メタボリックシンドロームの概念を説明し、運動や栄養・食生活による予防効果について理解し、説明できる。										
	④	わが国の高齢社会の現状を説明し、介護予防について理解し、説明できる。										
	⑤	運動を始める前のメディカルチェックの重要性や、健診項目の内容と基準値について理解し、説明できる。										
	⑥	五大栄養素の種類と主な働きなどの栄養に関する基礎的知識を理解し、説明できる。										
	⑦	体重調整と運動および栄養や女性と栄養障害について理解し、説明できる。										
	⑧	食生活全般について改善する方法や対策を考える力を習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた健康管理概論に関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦⑧に関連）。										
	(2)	身体の仕組みを学ぶことで適切な生活習慣、体力トレーニングの方法を思考し、自身の生活の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果③④⑤⑦関連）。										
	(3)	健康管理に関する専門的知識を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果③④⑤⑦⑧に関連）。										
授業概要	健康管理に関わる基本的事項を解説する。また近年、罹患者が増加している生活習慣病に焦点をあて、危険因子や運動を中心とした予防対策について講義する。さらに食事・栄養の基本的知識を学び、食事や栄養素、運動や身体活動が肥満や生活習慣病などの健康と関わっていることについて理解を深め、食生活や運動習慣について改善する方法や対策を考察する。また、運動と食事・栄養の関わりについて、特に栄養障害や水分補給、サプリメントについて学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	80	4回実施し、内容を理解できているかを観点に評価を行う。								
		平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③～⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③～⑤で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	健康・体力づくり事業財団		『健康運動実践指導者養成用テキスト』				南江堂					
	日本フィットネス協会		『GFIのためのフィットネス基礎理論』				日本フィットネス協会					
	日本スポーツ協会		『Reference Book』				日本スポーツ協会					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テスト及びレポートに対するフィードバックは実施後に正解を示し、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	健康と栄養、5大栄養素の役割と特徴について		レポート課題「健康と栄養・食事」について 第3回で具体的な題名とともに配布、第4回で回収	
	学習成果	健康と栄養、各種栄養素の機能について理解し説明できる。			
	予習復習の内容	各種栄養素の機能について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
2回	授業内容	日本人の食事摂取基準と食生活指針			
	学習成果	日本人の食事摂取基準と食生活指針について理解し説明できる。			
	予習復習の内容	日本人の食事摂取基準と食生活指針について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
3回	授業内容	食物の消化・吸収と食品群、食事バランスガイドの理解			
	学習成果	食物の消化・吸収、食品群の理解と食事バランスガイドの活用方法について理解し説明できる。			
	予習復習の内容	食物、各種栄養素の消化吸収について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
4回	授業内容	運動時におけるエネルギー源、エネルギー消費量の推定法			
	学習成果	運動時におけるエネルギー源、エネルギー消費量の推定法について理解し説明できる。			
	予習復習の内容	エネルギー消費量の推定法を調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
5回	授業内容	減量計画や栄養・食事計画の立案			レポート課題「発育発達段階と栄養・食事」について 第6回で配布、第7回で回収
	学習成果	適切な減量計画、栄養・食事計画について理解し説明できる。			
	予習復習の内容	適切な減量計画について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
6回	授業内容	生活習慣と栄養・食生活、貧血予防、女性アスリートの食事について			
	学習成果	生活習慣と栄養・食生活について理解し説明できる。			
	予習復習の内容	生活習慣と栄養・食生活について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
7回	授業内容	ジュニア期の食生活・栄養について			
	学習成果	ジュニア期の食生活・栄養について理解し説明できる。			
	予習復習の内容	ジュニア期の食生活・栄養について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
8回	授業内容	健康と健康増進の概念		レポート「メタボリックシンドロームと生活習慣病について」12回目まで配布、13回目まで提出	
	学習成果	世界的な健康の概念の理解を深め、健康増進の概念を説明できる。			
	予習復習の内容	健康の多面的な捉え方の理解を深める。学習内容を振り返り、理解を深める。			
9回	授業内容	ライフステージからみた健康管理① 幼児期、児童期、学童期の健康管理			
	学習成果	幼児期、児童期、学童期の健康管理について理解し、説明できる。			
	予習復習の内容	幼児期、児童期、学童期の健康管理について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
10回	授業内容	ライフステージからみた健康管理② 青年期、成人期、壮年期の健康管理			
	学習成果	青年期、成人期、壮年期の健康管理について理解し、説明できる。			
	予習復習の内容	青年期、成人期、壮年期の健康管理について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
11回	授業内容	わが国の現状と健康づくり施策① 第1次国民健康づくり対策から健康日本21まで			
	学習成果	国民健康づくり対策と社会背景について理解し説明できる。			
	予習復習の内容	国民健康づくり対策について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
12回	授業内容	わが国の現状と健康づくり施策② 第二次健康日本21			
	学習成果	第二次健康日本21の取り組みと社会背景について理解し説明できる。			
	予習復習の内容	第二次健康日本21について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
13回	授業内容	ライフステージからみた健康管理③ 老年期の健康管理			
	学習成果	老年期の健康管理について理解し、説明できる。			
	予習復習の内容	老年期の健康管理について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
14回	授業内容	運動と安全管理について		レポート「介護予防 リーフレットを読んで」14回目まで配布、15回目まで提出	
	学習成果	運動と安全管理について理解し、説明できる。			
	予習復習の内容	運動と安全管理について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
15回	授業内容	健康づくりのための運動と各種効果について			
	学習成果	健康づくりのための運動とその効果について理解し、説明できる。			
	予習復習の内容	健康づくりのための運動について調べておく、学習内容を振り返り理解を深める。			

科目名	スポーツ実技 I (健康スポーツ)				担当者	シブ タニ ユキ コ 渋谷 祐 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実技	学年	1 年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。								
専門的 学習成果	①	安全で効果的な運動プログラムを作成する。										
	②	健康スポーツの理論、指導者の心構えを習得する。										
	③	健康づくりの運動であるジョギング・ウォーキングエアロビックダンスの特性について理解する。										
	④	姿勢を改善し、体の適切な使い方を習得する。										
	⑤	仲間とスポーツを楽しむコミュニケーション能力が向上する。										
汎用的 学習成果	(1)	健康スポーツに関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	グループで協力して健康スポーツを楽しむ経験から、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果⑤に関連）。										
	(3)	健康スポーツ指導の専門的知識、技術を習得し、指導する経験から、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的学習成果①②③④⑤に関連）。										
授業概要	高齢社会を迎え、健康な生活の基盤となる体力が重要視されている。この授業では将来、健康のために自分で体力トレーニングを処方・実践できるような知識と方法を修得する。ジョギング・ウォーキングとエアロビックダンスは健康・体力づくりを目的として幅広い年代に楽しまれている。ジョギング・ウォーキング、エアロビックダンスの特性・効果などについて理解し、適切な動作を身につけて生活で実践できる能力を習得する。授業を通して仲間とスポーツを楽しむ、心身共に健康になれる健康スポーツの魅力を実感する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		平常点	50	取組・意欲・態度により評価する								
		実技試験	25	課題のステップの習熟度について評価する								
		レポート	25	授業の感想カードの内容により評価する								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	日本スポーツ協会		『リファレンスブック』						日本スポーツ協会			
	日本スポーツ協会		『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』						日本スポーツ協会			
	健康・体力づくり事業財団		『健康運動実践指導者養成用テキスト』						南江堂			
	日本フィットネス協会		『GFI のためのフィットネス基礎理論』						日本フィットネス協会			
	日本フィットネス協会		『ADBI・ADI のためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論』						日本フィットネス協会			
	日本フィットネス協会		『SEBI・SEI のためのストレッチングエクササイズ指導理論』						日本フィットネス協会			
	日本フィットネス協会		『REBI・REI のためのレジスタンスエクササイズ指導理論』						日本フィットネス協会			
	宮下充正		『ウォーキング ブック』						フックハウスエイチディ			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等			①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。									

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	授業の概要と進め方の説明、健康スポーツの特性について	
	学習成果	授業の概要と進め方について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
2 回	授業内容	ジョギング・ウォーキングの特性と基本的なフォーム、障害とその予防法	
	学習成果	ジョギング・ウォーキングの基本的なフォームと障害について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ジョギング・ウォーキングの特性の理解を深める。	
3 回	授業内容	ウォーミングアップとクールダウン	
	学習成果	ウォーミングアップ、クールダウンについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
4 回	授業内容	ジョギング・ウォーミングの強度設定方法とプログラミングについて	
	学習成果	適切なプログラミングとの強度の設定方法について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ジョギング・ウォーキングのプログラミングの理解を深める。	
5 回	授業内容	ジョギング・ウォーミングのエネルギー消費量の算出	
	学習成果	ジョギング・ウォーキングの効果とエネルギー消費量の算出方法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、効果とエネルギー消費量の算出方法の理解を深める。	
6 回	授業内容	ジョギング・ウォーミングのレジスタンストレーニング、ストレッチング	
	学習成果	レジスタンストレーニング、ストレッチングの基本的な方法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
7 回	授業内容	ジョギング・ウォーミングの指導実践	
	学習成果	ジョギング・ウォーキングの指導を実践し、基本的な指導法や注意点を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
8 回	授業内容	エアロビックダンスの体験	
	学習成果	リズムによってエアロビックダンスを楽しむ	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、エアロビックダンスの特性の理解を深める。	
9 回	授業内容	フィットネス概論、エアロビックダンスの効果について	
	学習成果	リズムによってエアロビックダンスを楽しむ、健康効果について学ぶ。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、フィットネス運動の種類や効果の理解を深める。	
10回	授業内容	エアロビックダンスの音楽の使い方について	
	学習成果	リズムによってエアロビックダンスを楽しむ、リズムやBPMの使い方を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、リズム、BPMの使い方の理解を深める。	
11回	授業内容	正しい姿勢の理解	
	学習成果	リズムによってエアロビックダンスを楽しむ、基本姿勢を身につける。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本姿勢を習得する。	
12回	授業内容	基本動作の習得	
	学習成果	リズムによってエアロビックダンスを楽しむ、基本動作を習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ステップの習得を深める。	
13回	授業内容	ローインパクトステップの理解	
	学習成果	リズムによってエアロビックダンスを楽しむ、ローインパクトのステップを習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ステップの習得を深める。	
14回	授業内容	ハイインパクトステップの理解	
	学習成果	リズムによってエアロビックダンスを楽しむ、ハイインパクトのステップを習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ステップの習得を深める。	
15回	授業内容	運動強度のコントロール方法	
	学習成果	メインエクササイズにおけるステップや重心移動といった強度の調節方法を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ステップの習得を深める。	

科目名	スポーツ実技Ⅱ（ジュニアスポーツ）				担当者	ワタ ナベ アツ シ 渡 辺 篤 史						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	実技	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	スポーツ種目に興味を持ち、種目の特性やルールを説明できる。										
	②	各年代の発達課題を理解し、必要な運動経験を説明できる。										
	③	ジュニアスポーツの指導法を習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたスポーツ実技の学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③に関連）。										
	(2)	集団でスポーツ実技に取り組む経験から、自身の生活の問題解決に活用できる（専門的学習成果②に関連）。										
	(3)	ジュニア期の子ども達との適切な関わり方を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活用できる（専門的な学習成果③に関連）。										
授業概要	様々なスポーツ種目を経験し、種目の特性や練習方法、ルールを学ぶ。また、ジュニア期の発育発達、運動技能を解説し、ジュニアスポーツの指導法を紹介する。また、授業内で日本サッカー協会公認キッズリーダー（U-6,U-8,U-10）の講習を実施し、ボール運動を始めとしたジュニア期に必要な運動経験を理解し、安全や発育発達段階に応じた指導法を習得し、資格を取得することができる。身につけた指導技術を学内サッカー教室で指導実践を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	経験したスポーツ種目についてのレポート、キッズリーダー講習についてのレポートを実施し、評価を行う。								
		平常点	60	授業や指導実践への取り組み・意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	日本スポーツ協会		『リファレンスブック』							日本スポーツ協会		
	日本スポーツ協会		『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』							日本スポーツ協会		
	日本サッカー協会技術委員会テクニカルハウス		『JFA キッズ（U-6）ハンドブック』							日本サッカー協会		
	日本サッカー協会技術委員会テクニカルハウス		『JFA キッズ（U-8/U-10）ハンドブック』							日本サッカー協会		
	日本サッカー協会技術委員会テクニカルハウス		『グラスルーツフェスティバル ガイドライン』							日本サッカー協会		
日本サッカー協会技術委員会テクニカルハウス		『めざせベストサポーター』							日本サッカー協会			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①各スポーツ種目について、基本的なルールを学習しておくこと。週2時間程度の学習が必要。 ②レポートはコメントをつけて返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	各スポーツ種目の特性について	
	学習成果	スポーツ種目を分類し、各スポーツ種目の特性を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各スポーツ種目の特性を理解する。	
	授業内容	バドミントン	
2回	学習成果	バドミントン競技のルール技術を説明できる。	
	予習復習の内容	バドミンントンのルール、技術について理解を深める。	
3回	授業内容	卓球	
	学習成果	卓球競技のルール技術を説明できる。	
	予習復習の内容	卓球のルール、技術について理解を深める。	
4回	授業内容	バレーボール	
	学習成果	バレーボールのルール技術を説明できる。	
	予習復習の内容	バレーボールのルール、技術について理解を深める。	
	授業内容	バスケットボール	
5回	学習成果	バスケットボールのルール技術を説明できる。	
	予習復習の内容	バスケットボールのルール、技術について理解を深める。	
6回	授業内容	コーディネーション運動	
	学習成果	コーディネーション運動の種類や特性を説明できる。	
	予習復習の内容	コーディネーション運動について理解を深める。	
7回	授業内容	ジュニアスポーツ実技（U-6）理論	
	学習成果	U-6年代の特性を理解し、適切な指導法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、U-6年代の理解を深める。	
8回	授業内容	ジュニアスポーツ実技（U-6）実技	
	学習成果	U-6年代の特性を理解し、適切な指導法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、U-6年代の理解を深める。	
9回	授業内容	ジュニアスポーツ実技（U-8）理論	
	学習成果	U-8年代の特性を理解し、適切な指導法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、U-8年代の理解を深める。	
10回	授業内容	ジュニアスポーツ実技（U-8）実技	
	学習成果	U-8年代の特性を理解し、適切な指導法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、U-8年代の理解を深める。	
11回	授業内容	ジュニアスポーツ実技（U-10）理論	
	学習成果	U-10年代の特性を理解し、適切な指導法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、U-10年代の理解を深める。	
12回	授業内容	ジュニアスポーツ実技（U-10）実技	
	学習成果	U-10年代の特性を理解し、適切な指導法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、U-10年代の理解を深める。	
13回	授業内容	ジュニアスポーツ実技 指導実践 準備	
	学習成果	サッカー教室参加者に対して授業で学んだ指導法を計画できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り指導案を作成するために理解を深める。	
14回	授業内容	ジュニアスポーツ実技 指導実践 実施	
	学習成果	サッカー教室参加者に対して授業で学んだ指導法を実践できる。	
	予習復習の内容	作成した指導案から具体的な指導内容への理解を深める。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	スポーツ種目の特性やジュニアスポーツの指導法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返りジュニアスポーツへの理解を深める。	
			レポート「各年代の理論、実技内容について」7回目で配布、13回目で提出
			レポート「スポーツ教室指導案と反省」13回目で配布、14・15回目で提出

科目名	スポーツ生理学				担当者	高 間 章						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	身体運動に関係する主な骨と筋と関節と機能を説明できる。										
	②	バイオメカニクスの観点から各種の身体運動を説明できる。										
	③	身体活動実施時の生体反応や、継続的なトレーニングによる身体機能の適応を説明できる。										
	④	体力と発育発達と老化の関係について説明できる。										
	⑤	ウォームアップとクールダウンの目的と効果を説明できる。										
	⑥	有酸素運動とレジスタンス運動の種類と方法、効果について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたスポーツ生理学に関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④⑤⑥に関連）。										
	(2)	身体の仕組みを学ぶことで適切な生活習慣、体力トレーニングの方法を思考し、自身の生活の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果①②③④⑤⑥に関連）。										
	(3)	主に身体的な発育発達を理解し、専門的知識や技能を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的学習成果④に関連）。										
授業概要	運動器の骨、筋、靭帯、関節の名称と機能や、それらを関連づけて力学的視点から運動の仕組みを解説する。さらに身体活動・運動・スポーツ実施時の一過性の生体反応や、継続的なトレーニングによって身体機能がどのように適応するか解説していく。授業後半では発育発達と老化の概観や、スポーツ活動に必要な科学的なウォームアップとクールダウン、有酸素運動とレジスタンス運動の種類と方法、効果について解説する。科学的根拠に基づいたスポーツ指導、トレーニング指導の基礎を理解することが目的である。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	80	2回実施し、内容を理解できているかを観点に評価を行う。								
		平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑥で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』				日本スポーツ協会						
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』				日本スポーツ協会						
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』				南江堂						
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』				日本フィットネス協会						
	①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テスト及びレポートに対するフィードバックは実施後に返却し、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	身体運動に関する筋と骨	小テストを毎回の授業で実施し評価を行う。 6回目に「幼児・児童期に必要な運動経験について」の題名でレポートを出題し8回目に回収し、9回目に解説する 13回目に「青年期に必要な運動経験について」レポートを出題して14回目に回収して15回目に返却する
	学習成果	筋と骨の構造について理解し、概要を説明できる。	
予習復習の内容	筋と骨の構造について理解を深める。		
	授業内容	単関節・多関節運動	
2回	学習成果	単関節・多関節運動について理解し、概要を説明できる。	
予習復習の内容	各関節部位の単関節・多関節運動について理解を深める。		
3回	授業内容	筋腱複合体の弾性要素と弾性エネルギーが利用できる運動様式、着地衝撃とその緩和法	
	学習成果	筋腱複合体の弾性要素と弾性エネルギーと運動様式を理解し、説明できる。	
予習復習の内容	筋腱複合体の弾性要素と弾性エネルギーと運動様式の理解を深める。		
4回	授業内容	投動作と打動作の共通点、運動と流体力	
	学習成果	筋線維タイプの特徴や、筋力を決定する要因や力の調節の仕組みを理解し、概要を説明できる。	
予習復習の内容	筋線維タイプの名称、特徴について理解を深める。		
5回	授業内容	スキルトレーニング	
	学習成果	スキルトレーニングについて理解し、概要を説明できる。	
予習復習の内容	スキルトレーニングの理解を深める。		
6回	授業内容	スポーツバイオメカニクス	
	学習成果	スポーツバイオメカニクスについて理解し、概要を説明できる。	
予習復習の内容	スポーツバイオメカニクスの理解を深める。		
7回	授業内容	運動の発現、骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構	
	学習成果	骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構、筋線維タイプと収縮特性を理解し、概要を説明できる。	
予習復習の内容	骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構、筋線維タイプと収縮特性の理解を深める。		
8回	授業内容	筋線維タイプと収縮特性、運動と筋線維タイプ、筋収縮の様式と筋力	
	学習成果	運動と筋線維タイプ、筋収縮の様式と筋力を理解し、概要を説明できる。	
予習復習の内容	運動と筋線維タイプ、筋収縮の様式と筋力の理解を深める。		
9回	授業内容	運動の持続と呼吸循環系、呼吸循環系の機能の指標と調節機構	
	学習成果	運動に伴う呼吸循環系の機能の指標と調節機構の変化を理解し、概要を説明できる。	
予習復習の内容	運動に伴う呼吸循環系の機能の指標と調節機構の変化について理解を深める。		
10回	授業内容	運動に伴う呼吸循環系機能の変化、運動時の酸素利用	
	学習成果	トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液について理解し、概要を説明できる。	
予習復習の内容	トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液について理解を深める。		
11回	授業内容	トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液	
	学習成果	トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液について理解し、概要を説明できる。	
予習復習の内容	トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液について理解を深める。		
12回	授業内容	発育期の体格・体力、動きの発達	
	学習成果	発育期の体格・体力、動きの発達を理解し、概要を説明できる。	
予習復習の内容	発育期の体格・体力、動きの発達について理解を深める。		
13回	授業内容	成長期、成人以降の体力の変化・基本的動作スキルの発達、体力に及ぼす先天的要因と後天的要因	
	学習成果	成長期、成人以降の体力の変化・基本的動作スキルの発達を理解し、概要を説明できる。	
予習復習の内容	成長期、成人以降の体力の変化・基本的動作スキルの発達について理解を深める。		
14回	授業内容	レジスタンストレーニングと骨格筋	
	学習成果	レジスタンストレーニングの効果を理解し説明できる。	
予習復習の内容	レジスタンストレーニングの効果について理解を深める。		
15回	授業内容	持久的トレーニングと呼吸循環系の適応	
	学習成果	持久的トレーニングの効果を理解し説明できる。	
予習復習の内容	持久的トレーニングの効果について理解を深める。		

科目名	トレーニング演習				担当者	ササキ ヒデアキ 佐々木 秀 将						
区 分	選択	3	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	トレーニングの方法や種類を理解し、説明できる。										
	②	ストレッチングの方法や種類を理解し、説明できる。										
	③	トレーニングの原理、原則について理解し、説明できる。										
	④	基礎的な筋力トレーニングを実践できる。										
	⑤	基礎的なストレッチングを実践できる。										
	⑥	基礎的な筋力トレーニングの方法を教えることができる。										
	⑦	基礎的なストレッチングの方法を教えることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	トレーニング実習の学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連）。										
	(2)	グループで協力してトレーニングを行い、お互いに指導し合う経験から、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果⑥⑦関連）。										
	(3)	トレーニングの専門的知識、技術を習得し、指導する経験から地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果⑥⑦に関連）。										
授業概要	スポーツ・健康体力づくりの現場で、適切に体力トレーニングを指導できる技能とプログラム作成能力を習得し、自己のトレーニングに実践できるようにする。自分自身の体にある関節や筋肉について理解し、筋力トレーニングによる体力づくり、健康増進のために、正しいアライメントや可動域などを理解し、目的に応じたトレーニング方法を習得する。またストレッチングを中心としたウォーミングアップ、クールダウンの方法と注意点を学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		平常点	20	取組・意欲・態度により評価する								
		実技試験	50	トレーニングの基本技術、指導技術の習得により評価する								
		レポート	30	トレーニング理論を理解できているかを観点に評価を行う								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	日本スポーツ協会		『リファレンスブック』				日本スポーツ協会					
	日本スポーツ協会		『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』				日本スポーツ協会					
	健康・体力づくり事業財団		『健康運動実践指導者養成用テキスト』				南江堂					
	日本フィットネス協会		『GFIのためのフィットネス基礎理論』				日本フィットネス協会					
	日本フィットネス協会		『ADBI・ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会					
	日本フィットネス協会		『SEBI・SEIのためのストレッチングエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会					
	日本フィットネス協会		『REBI・REIのためのレジスタンスエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会					
	NPO 法人トレーニング指導者協会		『トレーニング指導者テキスト理論編 改訂版』				大修館書店					
	NPO 法人トレーニング指導者協会		『トレーニング指導者テキスト実践編 改訂版』				大修館書店					
NPO 法人トレーニング指導者協会		『トレーニング指導者テキスト実技編 改訂版』				大修館書店						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に1時間程度行うこと。事前学習として授業資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。運動ができる服装、体育館用のシューズを準備すること。 ②授業ノートを提出し、担当教員の確認後に返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	スポーツトレーニングサイクル スポーツパフォーマンス構造論	
	学習成果	スポーツトレーニングサイクル スポーツパフォーマンス構造論について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
3・4回	授業内容	トレーニング目標・方法・計画論	
	学習成果	トレーニング目標・方法・計画論についての理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
5・6回	授業内容	ストレッチングの目的・効果と実際	
	学習成果	ストレッチングの目的と効果を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
7・8回	授業内容	ウォーミングアップ、クールダウンの効果と実際	
	学習成果	ウォーミングアップ、クールダウンの効果と方法を理解し正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
9・10回	授業内容	レジスタンス運動の分類	
	学習成果	筋の活動様式や運動様式のトレーニングを理解し正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
11・12回	授業内容	アイソニックトレーニングの実際 (1) 適切なプログラムの立案、基礎体力の養成	
	学習成果	基礎体力の養成に必要な適切なプログラムを作成し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
13・14回	授業内容	アイソニックトレーニングの実際 (2) 目的別トレーニング、マックスの測定法	
	学習成果	目的別のトレーニング強度を理解し、正しくマックス測定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
15・16回	授業内容	アイソニックトレーニングの実際 (3) 部位別トレーニング 上肢	
	学習成果	上肢や体幹の基本的なトレーニングを正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
17・18回	授業内容	アイソニックトレーニングの実際 (4) 部位別トレーニング 下肢	
	学習成果	下肢や体幹の基本的なトレーニングを正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
19・20回	授業内容	アイソニックトレーニングの実際 (5) 自重や用具を使ったトレーニング	
	学習成果	チューブやセラバンドを使用した基本的なトレーニングを正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
21・22回	授業内容	アイソメトリックトレーニングの実際	
	学習成果	アイソメトリックトレーニングの理論や注意点を理解し、正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
23・24回	授業内容	サーキットトレーニングの実際	
	学習成果	サーキットトレーニングの理論を理解し、正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
25・26回	授業内容	トレーニングアセスメント トレーニングプログラムの立案	
	学習成果	トレーニングアセスメントを理解しプログラム立案を正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
27・28回	授業内容	トレーニングと休養のバランス 環境の整備	
	学習成果	トレーニングと休養のバランスについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
29・30回	授業内容	トレーニング理論、実技の確認	
	学習成果	授業内でこれまでの指導を振り返り、反省点や改善点を説明できる。	
	予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。	

科目名	スポーツ実技Ⅲ（球技系スポーツ）				担当者	飯 田 臣						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	実技	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	バレーボール競技のルールについて理解している。										
	②	バレーボールの基本技術を習得している。										
	③	バレーボールの簡単な技術を教えることができる。										
	④	積極的に周囲と関わり、コミュニケーション技術を向上させる。										
汎用的 学習成果	(1)	学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	グループで協力してプレイし、お互いに指導し合う経験から、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果③④関連）。										
	(3)	各競技の専門的知識、技術を習得し、指導する経験から地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果③④に関連）。										
授業概要	生涯にわたり楽しむことができ人気スポーツ種目である球技系スポーツを安全に楽しむための基本的な技術・知識を身につける。各競技の基本技術を磨き、正しいルール、競技の発祥や世界的なスポーツとなる発展、ルールの変遷について学ぶ。各競技に必要な体力要素についても学習し、可能な限り授業を通して高めようとする。さらに、安全で楽しいゲーム管理方法を理解し、実践する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		平常点	50	取組・意欲・態度により評価する								
		実技試験	25	各競技の基本技術の習得により評価する								
	レポート	25	レポートの状況により評価する									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本スポーツ協会		『リファレンスブック』				日本スポーツ協会					
	日本スポーツ協会		『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』				日本スポーツ協会					
	健康・体力づくり事業財団		『健康運動実践指導者養成用テキスト』				南江堂					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習として授業資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。運動ができる服装、体育館用のシューズを準備すること。 ②授業ノートを提出し、担当教員の確認後に返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要と進め方の説明	
	学習成果	バレーボールの発祥、発展、ルールの変遷について説明できる。	
2回	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	アンダーハンドパスの基本技術	
3回	学習成果	アンダーハンドパスの基本技術について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
4回	授業内容	オーバーハンドパスの基本技術	
	学習成果	オーバーハンドパスの基本技術について説明できる。	
5回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
	授業内容	スパイクの基本技術	
6回	学習成果	スパイクの基本技術について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
7回	授業内容	サーブの基本技術	
	学習成果	サーブの基本技術について説明できる。	
8回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
	授業内容	ブロックの基本技術	
9回	学習成果	ブロックの基本技術について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
10回	授業内容	フォーメーションの基本	
	学習成果	バレーボールのフォーメーションについて説明できる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
	授業内容	バレーボールの基礎的ゲーム管理法	
12回	学習成果	ルール、用具、環境設定について学びバレーボールのゲームが運営できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
13回	授業内容	バレーボールゲームの運営	
	学習成果	チーム毎に試合を行い、リーグ戦が運営できる。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
	授業内容	バスケットボールの基本技術 ドリブルの基本	
15回	学習成果	ドリブルを中心とした基礎練習について基本技術と指導法について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
16回	授業内容	バスケットボールの基本技術 パスの基本	
	学習成果	パスを中心とした基礎練習について基本技術と指導法について説明できる。	
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
	授業内容	フォーメーションの基本	
18回	学習成果	バスケットボールのフォーメーションについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
19回	授業内容	バスケットボールの基礎的ゲーム管理法	
	学習成果	ルール、用具、環境設定について学びバスケットボールのゲームが運営できる。	
20回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
	授業内容	バスケットボールゲームの運営	
21回	学習成果	チーム毎に試合を行い、リーグ戦が運営できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
22回	授業内容	バレーボール、バスケットボールの基本技術	
	学習成果	基本技術について説明できる。	
23回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	

「バスケットボールの歴史と発展、ルールの変遷」を10回目に配布し、12回目に提出する。
バレーボール、バスケットボールの基本技術の習得について15回目に実技試験を実施する。

科目名	スポーツ実技Ⅳ（ダンス）				担当者	及川佳澄						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実技	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	エアロビックダンス、ストリートダンスの特性を理解する。										
	②	ダンス運動の強度を変化させる方法について理解する。										
	③	仲間とダンスを楽しみ、ダンス発表を行うことでコミュニケーション能力が向上する。										
汎用的 学習成果	(1)	ダンスに関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③に関連）。										
	(2)	グループで協力してダンスを楽しむ経験から、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果③に関連）。										
	(3)	ダンス指導の専門的知識、技術を習得し、指導する経験から、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③に関連）。										
授業概要	多様な表現を仲間と共に「踊る・創る・見る・評価する」活動を通して、エアロビックダンス、ストリートダンスの創作方法や基礎知識を身につけます。また、中学校においてダンスが必修化された経緯や現代における身体表現活動の意義について、理論と実践を通して理解を深めていきます。学校現場やフィットネス、ジュニアスポーツの指導経験をもとに、今日的なダンス指導の課題や身体の動かし方についてのレクチャーも行います。ダンス経験の有無にとらわれることなく、全身を使って表現する楽しさを見出し、心身の解放と身体表現の可能性を発見できるようになることを目的とします。また、多様な他者との活動を通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、自己の役割を発見し、能動的に活動できるようになることを目的とします。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		平常点	50	取組・意欲・態度により評価する								
		実技試験	25	動作のパフォーマンスについて評価する								
	レポート	25	授業の感想カードの内容により評価する									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本スポーツ協会		『リファレンスブック』				日本スポーツ協会					
	日本スポーツ協会		『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』				日本スポーツ協会					
	健康・体力づくり事業財団		『健康運動実践指導者養成用テキスト』				南江堂					
	日本フィットネス協会		『GFIのためのフィットネス基礎理論』				日本フィットネス協会					
	日本フィットネス協会		『ADBI・ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会					
	日本フィットネス協会		『SEBI・SEIのためのストレッチングエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会					
日本フィットネス協会		『REBI・REIのためのレジスタンスエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要と進め方の説明、ヒップホップダンスの基礎的な概要説明	
	学習成果	授業の概要と進め方について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	ダンスの基礎練習 リズムの特徴をとらえた動き	
2回	学習成果	縦のりがとれるように、4ビート、8ビートのリズム、裏打ちのアクセントを体感する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ダンスの体力向上効果の理解を深める。	
3回	授業内容	主要なステップ練習	
	学習成果	ボックス、ランニングマン、キックの基礎と応用を経験し、動作を習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各ステップを練習し、動作の習得を深める。	
4回	授業内容	フレーズ1・2・3の練習 ユニゾン、対立、ずらし	
	学習成果	振付を習得しながら、対立やずらしを理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、振付の習得を深める。	
	授業内容	フレーズ4・5・6の練習 隊形移動のバリエーション	
5回	学習成果	振付を習得しながら、隊形移動のバリエーションを理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、振付の習得を深める。	
6回	授業内容	ダンスステップの確認	
	学習成果	これまで体験してきた基本的なステップを習得し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、振付の習得を深める。	
7回	授業内容	ダンス指導練習 キューイングと指導の循環	
	学習成果	ダンス指導の基本として、キューイングの方法、指導の循環を理解し、習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法の習得を深める。	
8回	授業内容	ダンス指導の実践	
	学習成果	グループの学生を対象にダンス指導を実践し、ダンスに必要な指導法を習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法の習得を深める。	
9回	授業内容	授業の概要と進め方の説明、エアロビックダンスプログラムの理解	
	学習成果	授業の概要と進め方について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
10回	授業内容	エアロビックダンスのプログラム ウォーミングアップ	
	学習成果	ウォーミングアップの基礎知識とプログラムについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ウォーミングアップの種類を理解を深める。	
11回	授業内容	エアロビックダンスのプログラム メインエクササイズ	
	学習成果	メインエクササイズの基礎知識とプログラムについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、エアロビックダンスの理解を深める。	
12回	授業内容	エアロビックダンスのプログラム クールダウン	
	学習成果	クールダウンの基礎知識と特にストレッチングについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ストレッチングの理解を深める。	
13回	授業内容	エアロビックダンスの動作の習得	
	学習成果	良い姿勢で明確に動くための方法について理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
14回	授業内容	エアロビックダンスの指導 キューイング	
	学習成果	キューイングを使った指導を体験する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法の習得を深める。	
15回	授業内容	エアロビックダンスの実演と指導	
	学習成果	良い姿勢で明確に動き、タイミングの良いキューイングを使った指導について体験する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法の習得を深める。	

科目名	コーチング実習Ⅰ（ジュニアスポーツ）				担当者	高 間 章 ・ 渡 辺 篤 史						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	現代の子どもを取り巻く生活・社会環境の変化から運動・スポーツ活動の重要性を説明できる。										
	②	生涯にわたるスポーツライフスタイルの基礎を培うジュニア期のスポーツ指導のあり方について説明できる。										
	③	幼児、児童の発育発達段階を理解し、それに応じた適切な指導法を理解し、実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたジュニアスポーツの学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③に関連）。										
	(2)	ジュニアスポーツに関わる団体、企業の理解を深めて、自身の進路活動の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果①②③に関連）。										
	(3)	ジュニアスポーツの指導法を理解し、専門的知識や技能を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①③に関連）。										
授業概要	スポーツとの出会いの時期となるジュニア期は特に大切な時期といえる。子ども達の指導に関わるジュニアスポーツの指導者は、その子ども達が将来築いていくスポーツライフスタイルに大きな影響を与える。そのために講義では幼児、児童の体力、動き、心理等の発育発達や、コーチングのあり方について理解を深め、適切な指導ができる力を養成する。また実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、ジュニアスポーツに関連するスポーツ教室やイベントにおける企画・運営及び実技指導に関する体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	4回実施し、理解の程度を評価する。								
		実習評価	40	実習先の指導者からの評価シートをもとに評価を行う。								
	平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①、③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	日本スポーツ協会		『リファレンスブック』							日本スポーツ協会		
	日本スポーツ協会		『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』							日本スポーツ協会		
	健康・体力づくり事業財団		『健康運動実践指導者養成用テキスト』							南江堂		
	日本フィットネス協会		『GFIのためのフィットネス基礎理論』							日本フィットネス協会		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後に評価を示し、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	子どもの体力・運動能力、スポーツ活動の現状と課題		レポート課題「ジュニア期のスポーツ指導のあり方について」第5回で配布、第7回で回収
	学習成果	子どもの体力・運動能力、スポーツ活動の現状を理解し説明できる。		
予習復習の内容	シラバスを事前に読み、内容を理解する。授業内容の理解を深める。			
	授業内容	ジュニア期のコーチング		
2回	学習成果	ジュニア期のコーチングを理解し説明できる。		
	予習復習の内容	ジュニア期のコーチングについて理解を深める。		
3回	授業内容	ジュニア期の体力と動きの発達		
	学習成果	ジュニア期の体力と動きの発達を理解し説明できる。		
予習復習の内容	ジュニア期の体力と動きの発達について理解を深める。			
	4回	授業内容	ジュニア期の心理、遊びとしての運動	
4回	学習成果	ジュニア期の心理、遊びとしての運動を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	ジュニア期の心理、遊びについて理解を深める。		
5回	授業内容	ジュニア期の運動遊び・スポーツ		
	学習成果	適切なジュニア期の運動遊び・スポーツを理解し説明できる。		
予習復習の内容	ジュニア期の運動遊び・スポーツについて理解を深める。			
	6回	授業内容	ジュニア期のコーチングの留意点	
6回	学習成果	ジュニア期のコーチングの留意点を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	ジュニア期のコーチングの留意点について理解を深める。		
7回	授業内容	実習（1）学内スポーツクラブにおける体験		レポート「実習報告書」第6回で配布、第9回で提出
	学習成果	学内スポーツクラブを体験し内容を理解する。		
予習復習の内容	事前に実習の適切な準備を行い、学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。			
	8回	授業内容	体験の振り返りと次回実習の準備 運動遊び・スポーツの理解	
8回	学習成果	実習での学習内容を振り返り、実習レポートを作成し、次回の指導プログラムを作成できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、時間毎の役割、行動をまとめておく。		
9回	授業内容	指導プログラムの作成とリーダーシップスキルの養成		
	学習成果	実習体験での学習内容を振り返り、実習レポートを作成し、次回の指導プログラムを作成できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、時間毎の役割、行動をまとめておく。			
	10回	授業内容	実習（2）学内スポーツスクールでの実習 全体指導の実践	
10回	学習成果	児童へのサッカー指導において全体指導を実践できる。		レポート「実習報告書」第9回で配布、第12回で提出
	予習復習の内容	練習メニューを作成し、指導後に反省点をまとめ実習レポートを作成する。		
11回	授業内容	実習の振り返りと学内実習の準備 指導メニュー作成に向けて		
	学習成果	実習での学習内容を振り返り、実習レポートを作成し、次回の指導プログラムを作成できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、時間毎の役割、行動をまとめておく。			
	12回	授業内容	実習（3）学内スポーツスクールでの実習 指導メニューの実践	
12回	学習成果	児童へのスポーツ指導においてメニューを作成し、実践できる。		
	予習復習の内容	練習メニューを作成し、指導後に反省点をまとめ実習レポートを作成する。		
13回	授業内容	実習の振り返りと学内実習の準備 プレゼンテーションスキル		レポート「実習報告書」第12回で配布、第15回で提出
	学習成果	実習での学習内容を振り返り、実習レポートを作成し、次回の指導プログラムを作成できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、時間毎の役割、行動をまとめておく。			
	14回	授業内容	実習（3）学内スポーツスクールでの実習 指導メニューの実践	
14回	学習成果	児童へのスポーツ指導においてメニューを作成し、実践できる。		
	予習復習の内容	練習メニューを作成し、指導後に反省点をまとめ実習レポートを作成する。		
15回	授業内容	実習報告会 プレゼンテーションスキル		
	学習成果	実習を振り返り、実習レポートを発表できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、ジュニアスポーツについて理解を深める。			

科目名	コーチング実習Ⅱ（メディカルフィットネス）				担当者	シバ ユウコ ・ タカマ 章						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	発達、成熟の過程での身体活動・運動の重要性を説明できる。										
	②	メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームといった健康問題に対して身体活動・運動の有効性を説明できる。										
	③	アيسブレイクやコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。										
	④	見学を通して健康づくりの現場の理解を深め、施設の概要や運動の内容を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた健康づくりの学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	健康づくりに関わる団体、企業の理解を深めて、自身の進路活動の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果④に関連）。										
	(3)	健康づくりの指導法を理解し、専門的知識や技能を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③④に関連）。										
授業概要	人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活、高齢者の健康について講義を行う。また健康支援・介護予防の指導に必要な知識と指導技術、特にアيسブレイクやコミュニケーションスキルについて、講義、実技、実習の学習形態を通して教授する。学内の健康づくり教室やフィットネスクラブ、デイサービスセンターの見学体験を通じて健康づくりの現場の理解を深めて、現代社会の健康問題の考察や自身の将来の職業選択に役立てる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	4回実施し、理解の程度を評価する。								
		実習評価	40	実習先の指導者からの評価シートをもとに評価を行う。								
		平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』					日本スポーツ協会					
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』					日本スポーツ協会					
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』					南江堂					
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』					日本フィットネス協会					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後に評価を示し、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	成人期・老年期の発達と成熟		レポート課題「アيسブレイク、コミュニケーションゲームの指導案」第5回で配布、第7回で回収
	学習成果	成人期・老年期の定義、発達課題や老人福祉法と老人保健法について理解し説明できる。		
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、内容を理解する。授業内容の理解を深める。		
2回	授業内容	身体機能、精神機能の変化と日常生活への影響		
	学習成果	発達、成熟による心身の機能の変化について理解し説明する。		
	予習復習の内容	成人期・老年期の心身の特徴について理解を深める。		
3回	授業内容	メタボリックシンドロームと健康運動		
	学習成果	メタボリックシンドロームを予防・改善するための運動を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	メタボリックシンドロームと運動の内容や注意点について理解を深める。		
4回	授業内容	ロコモティブシンドロームと健康運動		
	学習成果	ロコモティブシンドロームを予防・改善するための運動を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	ロコモティブシンドロームと運動の内容や注意点について理解を深める。		
5回	授業内容	アيسブレイクを目的としたコミュニケーション演習		
	学習成果	アيسブレイクの概念と方法を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	アيسブレイク技法の理解を深める。		
6回	授業内容	グループの関係づくりを目的としたコミュニケーション演習		
	学習成果	グループを円滑にできるコミュニケーションゲームの方法を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	コミュニケーション技法の理解を深める。		
7回	授業内容	楽しい運動指導のためのコミュニケーション ロールプレイング		
	学習成果	アيسブレイクやコミュニケーションゲームの指導法を理解し実践できる。		
	予習復習の内容	各自が指導した内容を振り返り感想をまとめる。		
8回	授業内容	実習（1）学内スポーツクラブにおける体験		
	学習成果	学内スポーツクラブでの健康づくり教室を体験し内容を理解する。		
	予習復習の内容	事前に実習の適切な準備を行い、学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。		
9回	授業内容	実習の振り返り		
	学習成果	実習での学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、次回の実習の準備を行う。		
10回	授業内容	実習（2）フィットネスクラブの見学実習 ①		
	学習成果	フィットネスクラブを見学し、施設の概要を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	事前に実習の適切な準備を行い、学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。		
11回	授業内容	実習（2）フィットネスクラブの見学実習 ②		
	学習成果	フィットネスクラブを見学し、運動プログラムやレッスン内容を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	事前に実習の適切な準備を行い、学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。		
12回	授業内容	実習の振り返り		
	学習成果	実習での学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、次回の実習の準備を行う。		
13回	授業内容	実習（3）デイサービスセンター等での見学実習		
	学習成果	デイサービスを見学し、施設の概要を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	練習メニューを作成し、指導後に反省点をまとめ実習レポートを作成する。		
14回	授業内容	実習（3）デイサービスセンター等での見学実習		
	学習成果	デイサービスを見学し、運動プログラムやレッスン内容を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	事前に実習の適切な準備を行い、学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。		
15回	授業内容	実習報告会 プレゼンテーションスキル		
	学習成果	実習を振り返り、実習レポートを発表できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ジュニアスポーツについて理解を深める。		

科目名	ピアヘルパー養成講座				担当者	ミドリ カワ ヒロ ヌ子 緑 川 浩 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	開講時に、担当教員よりコンタクト方法が案内される。											
専門的 学習成果	①	カウンセリングの歴史の概略と理論について説明できる。										
	②	カウンセリングの基本的スキルを身に付け、実践することができる。										
	③	青年期の課題とピアヘルパーの留意点について解説できる。										
汎用的 学習成果	(1)	ピアヘルパーについて学ぶことを通じて社会的・職業的自立に必要な知識を習得し実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	ピアヘルパーのメカニズムを包括的に学び、理論に基づいたコミュニケーションを行い、受容、共感、自己一致につなげることができる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	習得した専門的知見や技術を活用して地域の課題解決に役立つピアヘルピングを実施し地域社会の発展に寄与することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	「カウンセリング」とは何かなどの基礎的理論について学ぶ。理論を踏まえ、カウンセリングの諸技法を身に付けていく。青年期の課題やピアヘルパーの留意点についても学び、実務上、効果的なピアヘルパーになれることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	2回実施し、各回50%を配点する。								
		実技	30	3回実施し、各回33%を配点する。								
		平常点	40	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習の成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本教育カウンセラー協会	『ピアヘルパーハンドブック』				図書文化						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本教育カウンセラー協会	『ピアヘルパーワークブック』				図書文化						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①専門的学習成果ならびに汎用的学習成果を意識し、その修学に最大限の努力を払うこと。学習課程において、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと。(予習：週2時間程度、復習：週2時間程度) 良好な対人関係の構築を志向し、その継続がなされるよう配慮することが望まれている。 ②課題に対しては、随時フィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ピアヘルピングの意義と学び方	2回目に実施： 実技1回目。ピアヘルピングの意義を理解を踏まえ、協働的にエンカウンターグループメンバーとして適切なエクササイズへの参加姿勢を示すことができているかを把握する。
	学習成果	資格取得における本授業の位置づけと、目的、内容について適切に理解し、説明することができる。	
予習復習の内容	教員より紹介のある著作物の中から読みやすいものを選び、ピアヘルピングの基礎的理解を行う。		
2回	授業内容	カウンセリング概論① 導入・構成的グループエンカウンター	
	学習成果	エンカウンターを狙いを把握し、基礎的なエクササイズをすることができる。	
予習復習の内容	エンカウンターについて、自主的な練習を行う。		
3回	授業内容	カウンセリング概論② カウンセリングの定義と歴史と必要性	
	学習成果	カウンセリングの定義ができ、その略史を説明ができ、更に、必要性について語ることができる。	
予習復習の内容	カウンセリングの略史、定義、意義について適切な説明ができるよう記憶の定着と理解を深める。		
4回	授業内容	カウンセリング概論③ カウンセリングの種類	
	学習成果	カウンセリングを、目的別、対象別、方法別、トピック別、領域別、理論別に区別することができる。	
予習復習の内容	カウンセリングの種類について記憶を定着させ、理解を深める。		
5回	授業内容	カウンセリング概論④ ピアヘルピングの関係領域	
	学習成果	カウンセリング、教育、心理療法、人事・労務管理、キャンパスポリスについて区別ができる。	
予習復習の内容	カウンセリングの関係領域についての記憶の定着と、理解を深める。		
6回	授業内容	カウンセリング概論⑤ ピアヘルピングのプロセス	
	学習成果	リレーションづくり、問題の把握、問題の解決における基礎的理解ができる。	
予習復習の内容	ピアヘルピングのプロセスにおける諸概念について理解ができる。		
7回	授業内容	カウンセリング概論⑥ ピアヘルパーのパーソナリティー	
	学習成果	人好き、共感性、自己開示そして、自分の人生をもつことについて理解ができる。	
予習復習の内容	共感性、自己開示などについて自らを洞察する。		
8回	授業内容	カウンセリングスキル① 言語的技法	
	学習成果	受容、繰り返し、明確化、指示、質問を理解し、統合できる。	
予習復習の内容	カウンセリングスキルの言語的技法について、繰り返し練習する。		
9回	授業内容	カウンセリングスキル② 非言語的技法	
	学習成果	視線、表情、ジェスチャー、身体接触、声の質量、服装、座り方、時間厳守、歩き方、言葉遣い、挨拶のカウンセリング上の意義について理解できる。	
予習復習の内容	カウンセリングスキルの非言語的技法について、繰り返し練習する。		
10回	授業内容	カウンセリングスキル③ 対話上の諸問題への対処法	
	学習成果	面接の切り上げ方、私的感情、話が進展しないとき、抵抗、沈黙について理解できる。	
予習復習の内容	対話上の諸問題への対処法について、繰り返しイメージトレーニングを行う。		
11回	授業内容	カウンセリングスキル④ ピアヘルパーの心構えと上達への道	
	学習成果	わかるということ、感情をつかむということ、ビリーフをつかむこと、について理解できる。	
予習復習の内容	ピアヘルパーの心構えの実践に向け、自らを洞察する。		
12回	授業内容	青年期の課題① ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点	
	学習成果	ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点について、授業についていけない状況について、理解できる。	
予習復習の内容	新聞記事などで、ピアヘルパーに関連する青年期の課題について抽出し、探求する。		
13回	授業内容	青年期の課題② 進路選択	
	学習成果	進路の意味と、自己実現および、自己肯定感について学び理解できる。	
予習復習の内容	自らの進路選択について、エクササイズを行い、自らの自己実現の方向性について洞察する。		
14回	授業内容	青年期の課題③ 友人領域、グループ領域、関係修復	
	学習成果	心理的離乳、ギブアンドテイク、自己開示、グループ、リーダーの資質、関係の修復について理解できる。	
予習復習の内容	自らの友人関係、グループのなかの位置づけ、関係修復の在り方について洞察し、実践に活かせるヒントを見つける。		
15回	授業内容	ピアヘルピング総括	
	学習成果	カウンセリング概論、カウンセリングスキル、青年期の課題とピアヘルパーの留意点について統合的観点から復習し、記憶へ定着させ、適切な理解がなされていることを示すことができる。	
予習復習の内容	ピアヘルパー試験への合格を意識し、ワークブックによる復習を行う。		

科目名	食品学 I (フード)				担当者	丸 山 穰						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1 年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。										
専門的 学習成果	①	個々の食材について、日常生活に於いてあらためて意識していくようになる。										
	②	食品に必要な機能・条件を理解する。										
	③	個々の食材の特徴を理解する。										
	④	得た知識を実際の食生活に応用できるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた食品に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
	(2)	食品の成分や機能を学ぶことを通して論理的思考方法をもつようになる。(専門的学習効果②③に関連)										
	(3)	食品に関連した専門知識を活用して地域社会の発展に貢献することができる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
授業概要	フードコーディネーター3級の資格取得に必修である。私たちは一生を通じて食品を食物として食べ、その成分を代謝、利用して健康を維持、増進し、社会生活を営んでいる。このように、食品はヒトの一生の営みにかかわりあう重要なものである。フードコーディネーターに期待される幅広い知識のうち、本講義では『食品学』の分野の基本的な知識を学ぶ。また、15回の講義を通してサイエンスとしての基本的発想方法についても触れる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格とする。								
		レポート										
		平常点	30	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習効果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習効果②、③で評価を行う。 (3) は専門的学習効果①～④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本フードコーディネーター協会編		『新フードコーディネーター教本2023』				柴田書店					
	新食品成分表編集委員会		『新食品成分表 FOODS 2023』				東京法令出版					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	新栄養士課程講座		『食品学総論』				建帛社					
	新栄養士課程講座		『食品学各論』				建帛社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①フードコーディネーターユニット学生向け。講義中に次回の予告をするので、該当項目について教科書に目を通しておくこと(週1時間程度)。また、普段の生活の中で、食品・食材やそのラベル表示、調理方法など意識していること(週3時間程度)。 ②試験については実施後、適宜講評と解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	ガイダンス (フードコーディネーター資格について・食品学とは)	
	学習成果	本講義の内容を理解し、概要を説明できる。	
2 回	予習復習の内容	教科書全体を概観し、授業の内容を踏まえて学習計画を立てる。	
	授業内容	食品の機能と条件	
3 回	学習成果	食品の機能と必要な条件を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常での食について理解を深める。	
4 回	授業内容	食品の種類	
	学習成果	食品の分類の仕方を説明できる。	
5 回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	授業内容	食品の成分	
6 回	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
7 回	授業内容	食品成分表	
	学習成果	食品成分表の意味、役割を理解して活用できる。	
8 回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材に於いて成分表示など確認し理解を深める。	
	授業内容	穀物 (米)	
9 回	学習成果	米の種類やでんぷんの性質、利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、食している米や店頭に並ぶ米を観察し理解を深める。	
10 回	授業内容	穀物 (麦・とうもろこし他)	
	学習成果	麦・とうもろこし他の特徴と利用を説明できる。	
11 回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	授業内容	肉・魚	
12 回	学習成果	肉・魚の特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
13 回	授業内容	豆・大豆・大豆製品	
	学習成果	豆・大豆・大豆製品の特徴と利用を説明できる。	
14 回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	授業内容	野菜・キノコ・海藻	
15 回	学習成果	野菜・キノコ・海藻の特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
16 回	授業内容	乳・乳製品・卵	
	学習成果	乳・乳製品・卵の特徴と利用を説明できる。	
17 回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	授業内容	醸造食品	
18 回	学習成果	醸造食品の特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
19 回	授業内容	酒・ドリンク類	
	学習成果	酒・ドリンク類の特徴と利用を説明できる。	
20 回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
	授業内容	調味料・香辛料・油脂・加工食品	
21 回	学習成果	調味料・香辛料・油脂・加工食品の特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
22 回	授業内容	食品保蔵	
	学習成果	食品の保存・保管方法について説明できる。	
23 回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実際の食材に於ける状況を確認し理解を深める。	

科目名	食品衛生学 I (フード)				担当者	丸 山 穰						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1 年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	①	生命を維持するのに絶対不可欠である食の安全について意識できるようになる。										
	②	食中毒の原因と予防方法を理解する。										
	③	食品において、健康に害があるということがどういうことか理解する。										
	④	食の安全について常に心がけた生活ができるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた食品に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
	(2)	食品の安全を学ぶことを通して論理的思考方法をもつようになる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
	(3)	食品衛生に関連した専門知識を活用して地域社会の発展に貢献することができる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
授業概要	フードコーディネーター3級の資格取得に必修である。食物は生命の維持、成長、そして活動のために欠くことのできないものである。それは身体にとって安全なものという大前提がある。フードコーディネーターに期待される幅広い知識のうち、本講義では『食品衛生学』の分野の基本的な知識を学ぶ。微生物や添加物、毒物の混入など食の危険について考察し、食の安全を確保・維持していくことを学ぶ。また、講義を通して、サイエンスの基本的発想法にも触れていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格とする。								
		レポート	40	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)～(3)は専門的学習効果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	日本フードコーディネーター協会編		『新フードコーディネーター教本2023』						柴田書店			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	新栄養士課程講座		『食品学総論』						建帛社			
	新栄養士課程講座		『食品学各論』						建帛社			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①フードコーディネーターユニット学生向け。講義中に次回の予告をするので、該当項目について教科書に目を通しておくこと(週1時間程度)。授業後、各用語等、確認すること(週1時間程度)。また、普段の生活の中で、テレビや新聞等で、食の安心・安全に関係した話題に注目していること(週2時間程度)。 ②試験については実施後、適宜解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス(食の安全について。扱う分野・範囲の確認。)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食の安全について概要を説明できる。医療分野との境界を把握できる。	
2回	予習復習の内容	教科書の当該する章全体を把握する。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	衛生微生物	
3回	学習成果	衛生微生物について生育の条件を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
4回	授業内容	経口伝染病とその他の病気	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品を通してもたらされる病気を説明できる。	
5回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	食中毒と予防、食品衛生対策	
6回	学習成果	食中毒の原因、予防について説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
7回	授業内容	食中毒の原因微生物(感染型)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食中毒の原因微生物について、特徴と予防方法を説明できる。	
8回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	食中毒の原因微生物(毒素型)	
9回	学習成果	食中毒の原因微生物について、特徴と予防方法を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
10回	授業内容	食中毒の原因微生物(その他)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食中毒の原因微生物について、特徴と予防方法を説明できる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	寄生虫	
12回	学習成果	寄生虫について特徴と予防方法を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
13回	授業内容	食品異物	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品異物について、種類や原因、その予防方法を説明できる。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	食品添加物の概要	
15回	学習成果	食品添加物の定義、概要を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
16回	授業内容	食品添加物の働き	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品添加物の機能を説明できる。	
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	食品の腐敗・変質	
18回	学習成果	食品の腐敗・変質について、概要と防止方法を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
19回	授業内容	食品の品質表示制度	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の品質表示制度を説明できる。	
20回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	食物アレルギー	
21回	学習成果	食物アレルギーの原理や危険な食材について概要を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
22回	授業内容	食の安全についてまとめ	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	安全な食について理解し概要を説明できる。	
23回	予習復習の内容	授業全体について整理し確認しておくこと。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。

科目名	生活援助従事者研修				担当者	<small>サイトウ</small> 齋藤 <small>ミカ</small> 美香・ <small>イマダガワ</small> 今出川 <small>タケシ</small> 武志・ <small>トウカイリン</small> 東海林 <small>ハツエ</small> 初枝						
区分	選択	2	単位	授業回数	40	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		齋藤美香研究室への訪問、または saito.mika@seiwa.ac.jp への連絡（学籍番号、氏名記載必須）										
専門的 学習成果	①	基本的な生活援助中心型の介護を実践するために最低限必要な知識・技術を理解できる。										
	②	介護の実践については、正しい知識とアセスメント結果に基づく適切な介護技術の適用が必要であることを理解できる。										
	③	自立の助長と重度化防止・遅延化のために、介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させるという視点が大切であることを理解できる。										
	④	利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活を送れるようにするために、利用者一人ひとりに対する生活状況の的確な把握が必要であることを理解できる。										
	⑤	他者の生活観及び生活の営み方への共感、相手の立場に立って考えるという姿勢を持つことの大切さについて理解できる。										
	⑥	自立支援に資するサービスを多職種と協働して総合的、計画的に提供できる能力を身につけることが、自らの将来の到達目標となりうることを理解できる。										
	⑦	利用者本位のサービスを提供するため、チームアプローチの重要性を理解し、その一員として業務に従事するという視点を持つことができる。										
	⑧	利用者、家族、多職種との円滑なコミュニケーションのとり方の基本を理解できる。										
	⑨	的確な記録・記述の大切さを理解できる。										
	⑩	人権擁護の視点、職業倫理の基本を理解できる。										
	⑪	介護に関する社会保障の制度、施策、サービス利用の流れについての概要を理解できる。										
汎用的 学習成果	(1)	在宅で働くうえで必要となる基本的な知識・技術を習得することができる。										
	(2)	指示を受けながら、一定水準の介護業務を実践することができる。										
授業概要	「宮城県介護員養成研修事業実施要綱」に基づき、本学が宮城県の指定を受けて実施する。 生活援助中心型のサービスに従事する者の裾野を広げるとともに、担い手の質を確保できるようにするため、生活援助中心型のサービスに従事する者に必要な知識等を習得することを目的として行われる。①職務の理解、②介護における尊厳の保持・自立支援、③介護の基本、④介護・福祉サービスの理解と医療と連携、⑤介護におけるコミュニケーション技術、⑥老化と認知症の理解、⑦障害の理解、⑧ことごとからだのしくみと生活支援技術、⑨振り返りについて学ぶ。 ※原則、欠席は認めない。やむを得ず欠席しなければならない場合は、必ず事前に申し出ること。相応の課題を課すことがある。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	研究テスト	100	宮城県介護員養成研修事業実施要綱に基づき評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) (2) は、専門的学習成果①～⑪にて評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
	黒澤 貞夫		『はじめて学ぶ生活援助』					日本企画医療				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
①準備学習等履修上の留意点		①授業に臨む際は、該当範囲を精読して出席すること。またわからない用語は調べて理解しておくこと。各科目、カリキュラムの進度に合わせ確認テストやレポートが課される場合もある。										
②課題に対するフィードバックの方法等		②レポートは、コメント付けて返却する。実技試験については、口頭で事後指導を行う。										

授業計画		学習成果の評価		授業計画		学習成果の評価					
1回	授業内容	ガイダンス（授業のねらい、進め方、評価について）		単元ごとに確認テストを実施する。		25回	授業内容	ことごとからだのしくみと生活支援技術・介護に関することごとからだのしくみの基礎的理解		単元ごとに確認テストを実施する。	
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。					学習成果	感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因を理解している。			
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。					予習復習の内容	第八章②を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。			
2回	授業内容	職務の理解		単元ごとに確認テストを実施する。		26回	授業内容	ことごとからだのしくみと生活支援技術・介護に関することごとからだのしくみの基礎的理解		単元ごとに確認テストを実施する。	
	学習成果	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える生活援助中心型のケアの実践について、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。					学習成果	人体の構造や機能の基礎知識を習得し、何故行動が起こるのかを概要を理解している。			
	予習復習の内容	第一章を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。					予習復習の内容	第八章③を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。			
3・4・5・6回	授業内容	介護における尊厳の保持・自立支援		単元ごとに確認テストを実施する。		27・28回	授業内容	ことごとからだのしくみと生活支援技術・生活と家事		単元ごとに確認テストを実施する。	
	学習成果	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。					学習成果	家事援助の機能の概要について列挙できる。			
	予習復習の内容	第二章を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。					予習復習の内容	第八章④を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。			
7・8・9回	授業内容	介護の基本		単元ごとに確認テストを実施する。		29・30回	授業内容	ことごとからだのしくみと生活支援技術・快適な居住環境整備と介護		単元ごとに確認テストを実施する。	
	学習成果	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。					学習成果	快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点を理解している。			
	予習復習の内容	第三章を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。					予習復習の内容	第八章⑤を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。			
10・11回	授業内容	介護・福祉サービスの理解と医療の連携		単元ごとに確認テストを実施する。		31・32回	授業内容	ことごとからだのしくみと生活支援技術・移動・移乗に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護		単元ごとに確認テストを実施する。	
	学習成果	介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ等について、その概要のポイントを列挙できる。					学習成果	移動・移乗の意味と関連する用具・機器、および移動・移乗に関するからだのしくみを理解し、立ち上がりや移動の際の声かけ、歩行等が不安定な者の移動支援・見守りを行うことができる。			
	予習復習の内容	第四章を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。					予習復習の内容	第八章⑥を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。			
12・13・14・15回	授業内容	介護におけるコミュニケーション技術		単元ごとに確認テストを実施する。		33・34回	授業内容	ことごとからだのしくみと生活支援技術・食事に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護		単元ごとに確認テストを実施する。	
	学習成果	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、生活援助中心型サービスの職務に従事する者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。					学習成果	食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法のポイントを理解し、食事に関するからだのしくみを理解している。			
	予習復習の内容	第五章を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。					予習復習の内容	第八章⑦を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。			
16・17・18回	授業内容	老化の理解		単元ごとに確認テストを実施する。		35・36回	授業内容	睡眠に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護		単元ごとに確認テストを実施する。	
	学習成果	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。					学習成果	睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみを理解している。			
	予習復習の内容	第六章①②を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。					予習復習の内容	第八章⑧を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。			
19・20・21回	授業内容	認知症の理解		単元ごとに確認テストを実施する。		37・38回	授業内容	死にゆく人に関連したことごとからだのしくみと終末期介護		単元ごとに確認テストを実施する。	
	学習成果	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症ケアの基本を理解している。					学習成果	ターミナルケアの考え方について列挙できる。			
	予習復習の内容	第六章③④⑤⑥を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。					予習復習の内容	第八章⑨を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。			
22・23回	授業内容	障害の理解		単元ごとに確認テストを実施する。		39回	授業内容	介護過程の基礎的理解		単元ごとに確認テストを実施する。	
	学習成果	障害の概念と ICF について概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について、障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。					学習成果	介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチについて列挙できる。			
	予習復習の内容	第七章を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。					予習復習の内容	第八章⑩を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。			
24回	授業内容	ことごとからだのしくみと生活支援技術・介護の基本的な考え方		単元ごとに確認テストを実施する。		40回	授業内容	振り返り		レポート課題の提出を求める。	
	学習成果	理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、法的根拠に基づく介護を理解している。					学習成果	就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
	予習復習の内容	第八章⑪を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。					予習復習の内容	第九章を精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。			

科目名	世代間交流の理論と実践 I				担当者	齋 藤 美 香 ・ 大曾根 学						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	通年
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問または、メールへの連絡（学籍番号・氏名記載必須）										
専門的 学習成果	①	世代間交流の概要（意義・歴史的背景・課題等）について説明できる。										
	②	世代間交流活動の対象地域の特徴について説明できる。										
	③	世代間交流活動の対象者と交流する際の留意点について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	世代間交流活動における能力（知識・コミュニケーション）を身につけ、実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	活動計画立案・運営を通して、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(3)	交流が深まる工夫を実践して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果②③に関連）										
	(4)	世代間交流活動に必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、チームで協働し、活動を最後までやり遂げることができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	「地域」（特に短大の立地する仙台市・泉区）歴史的背景や文化等の現状を踏まえた上で、地域の課題や問題についてどのように解決していくかを具体的な事例演習等を通して学びを深める。また、館地区の老人クラブ「カトレアクラブ」との交流にあたり、企画・運営を行う。課題検討や理解を深めるために新聞記事、ネット記事等を用いる。演習としてグループワークを行いますので、他の学生との積極的なコミュニケーションが必要となる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		平常点	50	授業およびグループワークの態度								
		課題	50	活動報告書の作成および考察								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う (2) は専門的学習成果①②③で評価を行う (3) は専門的学習成果②③で評価を行う (4) は専門的学習成果①②③で評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
			『新訂 アクティビティ・サービス』						中央法規			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業に関連する資料を事前に調べるとともに、学習した内容を復習する。 ② COVID-19感染拡大での授業実施形態・内容・予定が変更になる場合があります。その際は改めてお知らせします。活動によって、春季・夏季・冬季休み中や土・日・祝、補講日に活動する場合があります。受講を検討している場合には、必ず第1回のオリエンテーションを受講してください。地域のニーズに合わせた時間調整ができるようにしてください。無為な欠席は避け、自分自身およびグループにも不利益にならないようにすること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション・（世代間交流実践の事例紹介）	
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。	
2回	授業内容	世代間交流実践の事例紹介	
	学習成果	事例紹介から活動の展開方法を知る。	
	予習復習の内容	事例から実践の方法を学ぶ。	
3回	授業内容	理論①・世代間交流の考え方と取り組みについて	
	学習成果	世代間交流の考え方と取り組みについて説明できる。	
	予習復習の内容	世代間交流の考え方と取り組みについて調べる。	
4回	授業内容	理論②・世代間交流活動地域を理解する・仙台市泉区	
	学習成果	仙台市泉区館地区の概況について説明できる。	
	予習復習の内容	仙台市泉区館地区の概況について調べる。	
5回	授業内容	世代間交流活動の際の留意点	
	学習成果	世代間交流活動の際の留意点について説明できる。	
	予習復習の内容	世代間交流活動の際の留意点について調べる。	
6回	授業内容	世代間交流活動の実践の事前準備①	
	学習成果	活動計画立案・運営ができる。	
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、綿密なりハーサル行う。必要であれば修正をする。	
7回	授業内容	世代間交流活動の実践①	
	学習成果	チームで協働し、地域のニーズに対応できる実践ができる。	
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、綿密なりハーサル行う。必要であれば修正をする。	
8回	授業内容	世代間交流実践の振り返り①	
	学習成果	自身の活動を振り返り、考察しチームでフィードバックができる。	
	予習復習の内容	自身の活動を振り返り、考察する。	
9回	授業内容	世代間交流活動の実践の事前準備②	
	学習成果	活動計画立案・運営ができる。	
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、綿密なりハーサル行う。必要であれば修正をする。	
10回	授業内容	世代間交流活動の実践②	
	学習成果	チームで協働し、地域のニーズに対応できる実践ができる。	
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、綿密なりハーサル行う。必要であれば修正をする。	
11回	授業内容	世代間交流実践の振り返り②	
	学習成果	自身の活動を振り返り、考察しチームでフィードバックができる。	
	予習復習の内容	自身の活動を振り返り、考察する。	
12回	授業内容	世代間交流活動の実践の事前準備③	
	学習成果	活動計画立案・運営ができる。	
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、綿密なりハーサル行う。必要であれば修正をする。	
13回	授業内容	世代間交流活動の実践③	
	学習成果	チームで協働し、地域のニーズに対応できる実践ができる。	
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、綿密なりハーサル行う。必要であれば修正をする。	
14回	授業内容	世代間交流実践の振り返り③	
	学習成果	自身の活動を振り返り、考察しチームでフィードバックができる。	
	予習復習の内容	自身の活動を振り返り、考察する。	
15回	授業内容	活動の総括	
	学習成果	報告書作成・発表	
	予習復習の内容	発表に向けての準備	

科目名	人間関係とコミュニケーション				担当者	ナガノアツシ 永野篤						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
授業時間数				30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーで受け付ける。オフィスアワーは初回授業で連絡する。											
専門的 学習成果	①	情報伝達に必要なコミュニケーションの基礎を理解し、説明できる。										
	②	介護実践に必要な人間関係の形成について理解し、説明できる。										
	③	利用者の心身の状況や価値観等を深く理解し、実践につなげることができる。										
	④	信頼関係の形成と他者理解、自己覚知について理解し、実践につなげることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	対人援助関係におけるコミュニケーションと人間関係の形成の基礎を理解し、習得した専門知識や技能を活用して課題に取り組み、介護実践で活用することができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	職業的自立に必要な利用者理解に関する知識とコミュニケーションの基礎的技能を習得し、介護福祉士及び社会人としてコミュニケーション能力を高めることができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	真に有用な介護技術を身につけるためには、現実の生活困難場面に向き合い、人間性の豊かさに裏付けられた共感・洞察による利用者理解が必要となる。本講義では、具体的な事例を用いて介護におけるコミュニケーションの基本と技術について学ぶ。また、利用者の心身の状況や生活の歴史等を踏まえた、利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践について学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格点とする。								
		小テスト	30	各10%を3回実施。60%以上の得点を合格点とする。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価で評価する。 (1) は専門的学習成果①②で評価する。 (2) は専門的学習成果③④で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	介護福祉士養成講座編集委員会	『新・介護福祉士養成講座 5. コミュニケーション技術』				中央法規						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	F・P・バイステック、尾崎新他訳	『ケースワークの原則 新訳版-援助関係を形成する技法』				誠信書房						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①日常生活の中で介護におけるコミュニケーションや、自分のコミュニケーションについて意識し、考えること。特に授業内容に関連する部分については、テキスト該当部分の読了に加え事前に関係する文献を読み、理解を深めておくこと(予習:週2時間程度)。テキストをもとに授業時間外学習を行って授業に臨むこと。また、授業後半に介護福祉士国家試験対策として過去問題等のプリントを配布し、取り組みを促す(復習:週2時間程度)。 ②毎回授業終了後にミニツレポートの提出を促し、次の授業でフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	コミュニケーションの意義と目的	小テスト ・介護におけるコミュニケーションの役割 ・バイステックの7原則 ・様々なコミュニケーションの技術 第4回授業後半で実施
	学習成果	コミュニケーションの意義と目的について説明できる。	
予習復習の内容	コミュニケーションの意義と目的を理解する。自分のコミュニケーションについて説明できるようにしておく。		
	授業内容	介護におけるコミュニケーションの役割	
2回	学習成果	利用者・家族との信頼関係の形成に果たすコミュニケーションの役割を説明できる。	
	予習復習の内容	信頼関係を形成するコミュニケーションについて説明できるようにしておく。	
3回	授業内容	介護における生活支援とコミュニケーション	
	学習成果	コミュニケーション実践と介護実践の関係について説明できる。	
予習復習の内容	介護過程におけるコミュニケーション実践の目的を説明できるようにしておく。		
	4回	授業内容	
学習成果	バイステックの7原則を理解し、傾聴の技法を実践につなげることができる。		
	予習復習の内容	バイステックの7原則を理解する。日常生活を通じて傾聴の技法を意識する。	
5回	授業内容	コミュニケーション技術: 利用者の感情表現を察する技法	小テスト ・様々なコミュニケーション技術 第11回授業後半で実施
	学習成果	高齢者の持っている感情の表現に関する様々な側面について理解し、共感する技法を実践につなげることができる。	
予習復習の内容	事例を通して利用者の感情表現を察することができるようにしておく。		
6回	授業内容	コミュニケーション技術: 利用者の納得と同意を得る技法	
	学習成果	「明確化」「焦点化」「要約」「直面化」の技法を学び、実践につなげることができる。	
予習復習の内容	事例を読み、共感に裏付けられた利用者の納得と同意を得る技法を理解する。		
7回	授業内容	コミュニケーション技術: 質問の技法	
	学習成果	質問についての理解を深め、「開かれた質問」「閉じられた質問」を実践に繋げることができる。	
予習復習の内容	事例を通して、「開かれた質問」「閉じられた質問」の技法を理解する。		
8回	授業内容	コミュニケーション技術: 相談・助言・指導の技法	
	学習成果	介護職に求められる相談の技術を理解し、実践につなげることができる。	
予習復習の内容	事例を通して相談・助言・指導の技法を理解する。		
9回	授業内容	コミュニケーション技術: 利用者の意欲を引き出す技法	
	学習成果	利用者の意欲低下の背景を理解し、意欲を引き出す技法を学び実践につなげることができる。	
予習復習の内容	事例を通して利用者の意欲を引き出す技法について理解する。		
10回	授業内容	コミュニケーション技術: 利用者と家族の意向を調整する技法	
	学習成果	利用者の意向を家族に伝える技法を理解し、実践につなげることができる。	
予習復習の内容	事例を通して利用者や家族の意向の一致に向けた支援を理解する。		
11回	授業内容	コミュニケーション技術: 複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法	
	学習成果	グループの特徴と意義を理解し、グループにおける介護職のコミュニケーション技法を理解し実践につなげることができる。	
予習復習の内容	事例を通してグループの発達を理解する。グループでのコミュニケーション技法を理解する。		
12回	授業内容	コミュニケーション障害の理解	小テスト ・コミュニケーション障害の理解 ・コミュニケーション障害のある利用者への対応 第14回授業後半で実施
	学習成果	コミュニケーション障害の原因を理解し、生活支援に必要な障害の評価方法を説明できる。	
予習復習の内容	コミュニケーション障害の定義と原因、種類、評価方法を説明できるようにしておく。		
13回	授業内容	コミュニケーション障害のある利用者への対応	
	学習成果	コミュニケーション障害のある利用者への対応の基本技術(分析・解釈・評価)を理解し、実践につなげることができる。	
予習復習の内容	コミュニケーション障害の傾向を分析・解釈・評価する技術を理解する。		
14回	授業内容	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践	
	学習成果	事例を通して個々のコミュニケーション障害に応じた対応を学び、実践につなげることができる。	
予習復習の内容	事例を通して利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践を理解する。		
15回	授業内容	介護におけるチームのコミュニケーション	
	学習成果	利用者、家族、多職種協働におけるチームのコミュニケーション能力を身につけるための知識と方法を理解し、実践につなげることができる。	
予習復習の内容	介護実践に必要とされるチームのコミュニケーションにおける記録・報告・連絡・相談の重要性について理解する。		

科目名	住環境論				担当者	野 津 弘						
区 分	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期	
			授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後の時間以外は、クラスルームで行う。										
専門的 学習成果	①	日本の歴史・風土を理解し、我国における住まいの特徴と求められる機能についてインテリアも含めて学習し、住まいの特徴と機能を説明できる。										
	②	ライフサイクルに根差した住まいの在り方について子供の成長から高齢者期に至るまで考え論じることができると同時に健康的な住環境の獲得についても説明ができる。										
	③	高齢者及び身体障がい者の視点からバリアフリー、ユニバーサルデザインについて考え論じることができると同時に健康的な住環境の獲得についても説明ができる。										
	④	世界と日本における住環境のエネルギーの現況を比較でき、生活に利用されるエネルギーについての現状から対策まで学習し、SDGsの観点からこれからのエネルギーについて論じることが出来る。										
	⑤	福祉住環境コーディネーター3級資格に挑戦できる。										
汎用的 学習成果	(1)	住環境の概要を学ぶことにより住まいに関して自ら課題を見つけることが出来、職業人の基礎となる専門知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①～④)										
	(2)	ライフサイクルに基づく住まいの変化及び高齢者、身体障がい者の暮らしの学びから他者の考えを受け止めながら自分の考えをまとめ、的確に表現できる。(専門的学習成果②③)										
	(3)	SDGsの考えとエネルギーについて学ぶことにより社会の一員として責任を自覚し、多様な人々との協働しながら地域社会に貢献できる。(専門的学習成果④)										
	(4)	福祉住環境コーディネーター3級資格に挑戦することを通して社会的・職業的な自立に必要な知識と技能を取得し、実践につなげることができる。(専門的学習効果⑤)										
授業概要		住環境に関する基礎的な知識を学び具体的な住環境の改善の考え方や技法を取得する。また、ライフサイクルの中での変化や弱者(高齢者・障がい者等)への対応についてそれぞれの観点から学ぶと同時にSDGsの観点からエネルギーについての知識と考えを学習する。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	3回のレポート提出の内容で講義の理解度を評価する。								
		平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～④にて評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③にて評価を行う。 (3)は専門的学習成果④にて評価を行う。 (4)は専門的学習効果⑤にて評価を行う										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	東京工業会議所		『福祉住環境コーディネーター検定3級公式テキスト』						東京商工会議所			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	山本直哉/浦上智子/ 中根芳一		『生活科学』						オーム社			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストの該当部分を読み要点を把握し授業に臨む。事後学習として振り返りを行い疑問や興味を持った事項について調べるなど復習をする。(週4時間程度) ②レポートは返却し解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の目標等のガイダンス。住まいの外国の文化とわが国の住環境の特徴について。	
	学習成果	日本の住まいの歴史の変遷を理解し、その特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	日本の住まいの歴史的な流れについて予習し、授業の復習する。	
	授業内容	日本の住環境の問題点と地域社会の関連性について。	
2回	学習成果	日本の住環境の問題点と地域社会の関連性について説明できる。	
	予習復習の内容	日本の住環境の問題点と地域社会の関連性について予習し、授業を復習する。	
3回	授業内容	住環境に求められる安全、安心を確保するための機能について。	
	学習成果	家庭内事故、防災、環境の面から住まいを考え、必要な住まいの機能を説明できる。	
	予習復習の内容	住環境にとっての安全と安心について事前に調べるとともに授業の復習をする。	
	授業内容	生活の変容(ライフサイクル)と住環境について。	
4回	学習成果	ライフサイクルを理解し、住環境の変化の必要性が説明できる。	
	予習復習の内容	ライフサイクルについて住環境との関連を調べるとともに授業の復習する。	
5回	授業内容	高齢者の自立した生活を支える介護保険制度と取り巻く状況について。	
	学習成果	介護保険制度と高齢者を取り巻く状況について説明できる。	
	予習復習の内容	介護保険制度と高齢者を取り巻く状況について予習し、授業の復習する。	
	授業内容	高齢者の生活と住環境について。	
6回	学習成果	加齢による心身の変化を理解し、住環境での対応について論じることができる。	
	予習復習の内容	高齢になると現れる変化について調べるとともに授業の復習をする。	
7回	授業内容	障がい者の自立した生活を支える障害者総合支援法と取り巻く状況について。	
	学習成果	障がい者の環境と法的、社会的バックアップについて論じることが出来る。	
	予習復習の内容	障害者総合福祉法と障がい者を取り巻く状況について予習し、授業の復習する。	
	授業内容	障がい者の生活と住環境について。	
8回	学習成果	障害による心身の変化を理解し、住環境での対応について論じることができる。	
	予習復習の内容	障害の内容を調べると同時に住まいの現況についても予習するし、授業の復習をする。	
9回	授業内容	バリアフリーとユニバーサルデザインでこれからの社会を考える。	
	学習成果	バリアフリー・ユニバーサルデザインを理解しこれからの社会の在り方を説明できる。	
	予習復習の内容	バリアフリー・ユニバーサルデザインを予習し、授業の復習をする。	
	授業内容	自立に向けた住環境の整備の方法(安全・快適な住まい、屋外移動と外出について)	
10回	学習成果	安全・快適な住まいと屋外移動と外出について課題と解決方法を説明できる。	
	予習復習の内容	安全・快適な住まいと屋外移動と外出について予習し、授業の復習をする。	
11回	授業内容	自立に向けた住環境の整備の方法(屋内移動と水回りの整備)	
	学習成果	屋内移動と水回りの整備により自立に向けた住環境となることが説明できる。	
	予習復習の内容	屋内移動と水回りの整備が自立に向けた環境となる事を予習し、授業後に復習する。	
	授業内容	自立に向けた住環境の整備の方法(日常生活動作と住まい、弱者にたいする配慮)	
12回	学習成果	日常生活動作と住まい、弱者にたいする配慮の必要性を説明できる。	
	予習復習の内容	弱者の状況、日常を予習し、安全安心な住環境の形成について復習する。	
13回	授業内容	室内の生活環境と生活に利用されるエネルギーについて。(SDGsの観点から)	
	学習成果	SDGsの視点の室内温熱環境とエネルギーを学び、これからの住環境を説明できる。	
	予習復習の内容	室内の温熱環境に影響を与える因子について事前に調べ、かつ授業の復習をする。	
	授業内容	福祉住環境コーディネーターの役割とその資格取得の為に必要な視点について。	
14回	学習成果	福祉住環境コーディネーターの役割を学び、資格取得の為に要点が理解できる。	
	予習復習の内容	福祉住環境コーディネーターについて事前に調べるとともに、授業の復習をする。	
15回	授業内容	住環境のまとめと振り返りで授業のポイントを再確認する。	
	学習成果	授業の振り返りにより、大切な部分の再確認をし、学習の定着を目指す。	
	予習復習の内容	前回までの授業の内容を振り返り、重要だと思える部分を調べる。	

科目名	生活デザイン演習				担当者	野津弘						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の連絡、質問受付の方法は、Google Classroom「生活デザイン演習」に提示する。										
専門的 学習成果	①	ワークショップの中で、他者の考えを受け止め、社会における協同について自分の考えを伝えることができる。										
	②	学生生活の中から課題を発見し、その解決方法を具体的に発表することができる。										
	③	家庭内・地域社会内の様々な課題を注出し、その解決方法をプロトタイプとして視覚化し、発表することができる。										
	④	お互いの違いを見つけ、認め合い、自己表現からの他者理解といった相互評価ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	ワークショップ型の学習を通して、社会的・職業的に自立につながる知識と方法を修得し活用できる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	生活の中の課題発見から解決に導く過程を通して家庭内から地域社会の発展に寄与する行動ができる。(専門的学習成果②～③に関連)										
	(3)	共同作業を通して他者との関りに必要な論理的思考、自己表現、他者理解を深めることができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	日常生活の中で身近な家庭内、学校生活について課題の発見、改善の方法をワークショップを通して考え、議論し、発表することにより、課題の発見方法や協働の仕組みその方法を学ぶ。また、アウトプットの重要性を身に着けるためにプロトタイプの製作等の表現についても考え、発表につなげる。身近なことから発展させ地域社会の問題、課題についても考え、未来の社会のあり方まで視野に入れた思考を身に着ける内容である。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	3回のレポートの小論文の内容により授業への理解を評価する。								
		平常点	50	演習への態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果②～③にて評価を行う。 (3) は専門的学習成果④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①演習の課題については日ごろの生活の中で問題点を考えることが重要であり、常にその観点から生活を見直す。 また、自分の意見や考えを常日頃から言えるように書き留めておく習慣をつける。(各回4時間計60時間の予習又は復習を要する) ②各フェーズ毎に振り返りを行い、成果の発表に関してコメントする。レポートに関しては添削し返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、生活デザイン演習概論及び家庭生活の課題の講義	
	学習成果	生活デザインの概要と必要性を説明できる。	
2回	予習復習の内容	生活デザインに関して事前に調べる。	
	授業内容	家庭生活の中から課題を見つけるためのワークショップ	
3回	学習成果	家庭内の生活についての課題がまとめられる。	
	予習復習の内容	自分の家庭生活についての課題を考える。	
4回	授業内容	家庭生活の課題からその課題解決の方法を探るためのワークショップ	
	学習成果	課題解決の方法を考え、提案できる。	
5回	予習復習の内容	課題解決のための提案を考える。	
	授業内容	家庭生活の課題解決に向けたアイデアを表現・制作するためのワークショップ	
6回	学習成果	課題解決のための提案をプレゼンテーションできる方法で表現する。	
	予習復習の内容	プレゼンテーションの表現について事前に考える。	
7回	授業内容	家庭生活の課題解決に向けた成果・アイデアを発表するワークショップ	
	学習成果	課題解決の発表で自分たちの意見を伝えられる。	
8回	予習復習の内容	発表の仕方を協議し役割分担し、発表後の振り返りを行う。	
	授業内容	生活デザインを通して考える家庭生活の課題解決と大学生生活の課題の講義	
9回	学習成果	家庭生活の振り返りと次回の課題である大学生生活について説明できる。	
	予習復習の内容	大学生生活の課題を予習しリストアップを行う。	
10回	授業内容	大学生生活の中から課題を見つけ出すワークショップ	
	学習成果	大学生生活の課題を考えまとめられる。	
11回	予習復習の内容	大学生生活の課題について考える。	
	授業内容	大学生生活の課題からその課題を解決する方法を探し出すワークショップ	
12回	学習成果	課題解決の方法を考え、提案できる。	
	予習復習の内容	課題解決のための提案方法を事前に考える。	
13回	授業内容	大学生生活の課題を解決にむけたアイデアを表現・制作するワークショップ	
	学習成果	課題解決のための提案をプレゼンテーションできる方法で表現する。	
14回	予習復習の内容	プレゼンテーションの表現について事前に考える。	
	授業内容	大学生生活の課題解決に向けた成果・アイデアを発表するワークショップ	
15回	学習成果	課題解決の発表で自分たちの意見を伝えられる。	
	予習復習の内容	発表の仕方を協議し役割分担し、発表後の振り返りを行う。	
16回	授業内容	生活デザインを通して考える大学生生活の課題解決と地域生活の課題についての講義	
	学習成果	大学生生活の振り返りと次回の課題である地域生活について説明できる。	
17回	予習復習の内容	地域生活の課題のリストアップを行う。	
	授業内容	地域生活の課題を見つけ出すワークショップ	
18回	学習成果	地域生活の課題を考えまとめられる。	
	予習復習の内容	地域生活の課題について考える。	
19回	授業内容	地域生活の課題からその課題を解決する方法を探し出すワークショップ	
	学習成果	課題解決の方法を考え、提案できる。	
20回	予習復習の内容	課題解決のための提案を考える。	
	授業内容	地域生活の課題解決に向けたアイデアを表現・作成するワークショップ	
21回	学習成果	課題解決のための提案をプレゼンテーションできる方法で表現する。	
	予習復習の内容	プレゼンテーションの表現について事前に考える。	
22回	授業内容	地域生活の課題解決に向けた成果・アイデアを発表するワークショップ	
	学習成果	課題解決の発表で自分たちの意見を伝えられる。	
23回	予習復習の内容	発表の仕方を協議し役割分担し、発表後の振り返りを行う。	

科目名	生活学演習（衣・食）				担当者	カナザワチキ晶・佐藤京子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		連絡方法、質問の受付方法は、Google classroom「生活学演習（衣・食）」に提示する										
専門的 学習成果	①	被服の機能・管理に関する知識を基に、縫製等の基本的な技法が実践出来る。										
	②	食に関する基本的な知識を基に、調理の基本的な技法が実践出来る。										
汎用的 学習成果	(1)	衣・食に関する基本的技法の実習、時事の話題への取組を通し、社会的自立につながる知識と技能を修得し活用できる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	衣・食の学習を通して、社会的自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①②に関連）										
授業概要	日常生活を構成するうえで最も基本的な単位となる家庭の中で営まれる生活の構成要素となる衣（被服）と食（調理）の基礎的知識と技術を学習する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	試験期間各回のワークシート等により授業への理解を評価する。								
		平常点	50	演習への態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	実務出版編集部		『2023 生活学 Nabi』						実教出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続の授業。積み重ね方式の授業展開であり、相手がいなければ成り立たない授業なので、無為な欠席は避け、自分自身及びグループにも不利益にならないようにすること。 事前にテキストの該当部分を読み要点を把握し授業に臨む。事後学習として振り返りを行い疑問や興味を持った事項について調べるなど復習をする。 ②レポートは返却し解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業ガイダンス・衣生活（世界と日本）（金澤）	ワークシート・実習への取り組み
	学習成果	世界の民族衣装、衣服の歴史、文化について知ることができる。	
	予習復習の内容	世界の衣服の種類や特徴について調べて説明できるようにしておくこと。	
	授業内容	被服管理（素材、洗濯）（金澤）	ワークシート・実習への取り組み
2回	学習成果	被服の機能、材料、管理（洗濯や保管）について知ることができる。	
	予習復習の内容	洗濯について理解し家庭生活で実践すること。	
3回	授業内容	被服管理（修繕①手縫いの基本原理）（金澤）	ワークシート・実習への取り組み
	学習成果	縫製の基礎技法、手縫いの運針、ボタン付けなどの方法を知る。	
	予習復習の内容	実際に縫製・修繕ができるよう練習すること。	
4回	授業内容	被服管理（修繕②手縫いの作業）（金澤）	ワークシート・実習への取り組み
	学習成果	縫製の基礎技法、手縫い縫製ができる。	
	予習復習の内容	実際に縫製・修繕ができるよう練習すること。	
5回	授業内容	被服管理（修繕②ミシンの基本原理）（金澤）	ワークシート・実習への取り組み
	学習成果	縫製の基礎技法、ミシンの使い方を知る。	
	予習復習の内容	実際に縫製・修繕ができるよう練習すること。	
6回	授業内容	被服管理（修繕②ミシンの作業）（金澤）	ワークシート・実習への取り組み
	学習成果	縫製の基礎技法、ミシンを使用して縫製ができる。	
	予習復習の内容	実際に縫製・修繕ができるよう練習すること。	
7回	授業内容	衣生活まとめ（金澤）	ワークシート・実習への取り組み
	学習成果	衣生活全般について復習ができる。	
	予習復習の内容	衣服の歴史、文化、素材、洗濯などについてテキストの内容を把握すること。	
8回	授業内容	授業ガイダンス 文化としての食生活、現状、健康との関連、食品の選択力について（佐藤）	ワークシート・実習への取り組み
	学習成果	生活の基盤としての食生活を自分の事としてとらえ意識することができる。	
	予習復習の内容	講義資料の復習と自宅での調理。	
9回	授業内容	調理に関する基本的知識 用語、操作、下ごしらえ、調味料の計算、味付け、調理法（佐藤）	ワークシート・実習への取り組み
	学習成果	調理の基本的知識を習得し、一般的料理レシピを解説できる。	
	予習復習の内容	講義資料の復習と自宅での調理。	
10回	授業内容	栄養素と食品。適量で栄養バランスの良い献立の立て方（佐藤）	ワークシート・実習への取り組み
	学習成果	栄養バランスを考えた食品の組み合わせや適量を考慮した献立を考えることができる。	
	予習復習の内容	講義資料の復習と自宅での調理。	
11回	授業内容	実習 切り方、火加減水加減。みそ汁、即席漬けなどの実習	ワークシート・実習への取り組み
	学習成果	レシピを読み簡単な料理を作ることができる（準備、調理器具の操作、調理、片付けの一連の操作）。	
	予習復習の内容	講義資料の復習と自宅での調理。	
12回	授業内容	実習 調理の実際 調理の5法 煮物、炒め物、蒸し物、味つけのコツ（佐藤）	ワークシート・実習への取り組み
	学習成果	日常食の基本的な調理法と味つけのコツを習得し実践できる。	
	予習復習の内容	講義資料に目を通し疑問点をまとめる。	
13回	授業内容	実習 調理の実際 調理の5法 煮物 炒めもの、蒸し物、味つけのコツ（佐藤）	ワークシート・実習への取り組み
	学習成果	同じ食材で調理法により異なる料理になる事を習得しバリエーションを増やすことができる。	
	予習復習の内容	講義資料の復習と自宅での調理。	
14回	授業内容	実習 ライフステージに合った献立（青年期）配膳、マナーに配慮（佐藤）	ワークシート・実習への取り組み
	学習成果	青年期の献立の総合的調理実習で、これまでの授業内容を確認することができる。	
	予習復習の内容	ライフステージと栄養の資料を読み青年期の特徴をつかむ。	
15回	授業内容	実習 ライフステージに合った献立（青年期）配膳、マナーに配慮（佐藤）	ワークシート・実習への取り組み
	学習成果	青年期の献立の総合的調理実習で、これまでの授業内容を確認することができる。	
	予習復習の内容	自宅での食生活でのポイントになる事項を実践する。	

科目名	MOS スペシャリスト (Word)				担当者	オノデラ サチ コ子 ・ ワカ バシ マサ コ子 小野寺 幸 子 ・ 若 林 雅 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける											
専門的 学習成果	①	問題文や解説を読み解く力をつけ、求められたことを実践できる。										
	②	身につけたパソコンスキルを実務に応用できる。										
	③	Microsoft Office Specialist Word 2019検定に合格するレベルの操作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンによる実践的なドキュメント作成について学ぶ。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	社会に通用する資格取得を目指して学習することで、一般ビジネス文書はもとより、訴求力の高い文書や長文作成など、Wordの幅広い操作や文書管理などを効率的よく学び、実務に生かせるパソコンスキルを習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		実技試験	70	15回目授業内にて実技試験を行い全授業内容の理解について評価する。								
	汎用的 学習成果	提出物	30	全5回の提出物で各回6%を配点する。3～4回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかるマスター MOS Word 2019対策テキスト & 問題集』				FOM 出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	全15回の授業終了後、別日に設定される MOS 検定試験を受験すること。 合格スキルに達するよう、各自必要に応じて授業外にも模擬試験などで自習すること。 模試などで判明する苦手分野など、その場で評価を行い、解説と補足を行う。 さまざまな機能の知識と実際の操作が連動してこそスキルとなるので、毎回の復習を欠かさないと(復習：週1時間程度)											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、教室の利用方法、タイピング、文書作成練習問題実施	
	学習成果	授業の目的と資格取得の意義を理解する。	
2回	予習復習の内容	基本的な操作について確認する。	
	授業内容	文書作成(外部データの利用)、文書内の移動、文書全体の書式設定	
3回	学習成果	基本的な文書の作成について操作ができる。	
	予習復習の内容	基本的な操作について確認する。	
4回	授業内容	文書のオプション、表示のカスタマイズ、印刷、保存、マクロ、プロパティ	
	学習成果	Wordのオプションと表示のカスタマイズ設定、マクロの操作ができる。	
5回	予習復習の内容	基本的なオプション操作について確認する。	
	授業内容	文字や段落の書式設定、行の間隔、段落の間隔、インデント、配置	
6回	学習成果	基本的な文書のレイアウトを操作できる。	
	予習復習の内容	一般的な文書のレイアウトについて確認する。	
7回	授業内容	書式のコピー、ワードアートの挿入・変更、スタイル、セクション、段組	
	学習成果	文書内での編集操作ができる。	
8回	予習復習の内容	効率よく文書編集できることと、複雑なレイアウトについて確認する。	
	授業内容	表の作成、テーブルスタイル、表の変更、セルの結合・分割、タイトル行の繰り返し	
9回	学習成果	文書内に表を取り組み編集操作ができる。	
	予習復習の内容	基本的な表操作について確認する。	
10回	授業内容	行頭文字、段落番号の定義、リストのレベルの変更、リストの書式設定	
	学習成果	文書内の箇条書きや段落の操作ができる。	
11回	予習復習の内容	簡潔に伝える箇条書きについて確認する。	
	授業内容	脚注、文末脚注の挿入と書式設定、資料文献、引用文献、文献目録、目次	
12回	学習成果	参考資料の機能追加などを操作できる。	
	予習復習の内容	補足や資料文献追加について確認する。	
13回	授業内容	図形の挿入、図の挿入、スクリーンショット、テキストボックスの挿入	
	学習成果	文書内に図形や図、オブジェクトを利用して編集操作ができる。	
14回	予習復習の内容	文書内に図やオブジェクトを利用して作成できるか確認する。	
	授業内容	SmartArtの作成・書式設定、内容の変更	
15回	学習成果	伝えたい内容を一目で表現できる SmartArt の操作ができる。	
	予習復習の内容	SmartArt の機能について確認する。	
16回	授業内容	コメントの追加・編集、変更履歴の管理	
	学習成果	共同文書内にコメントを追加、変更履歴記録操作ができる。	
17回	予習復習の内容	コメントの追加や変更記録の操作について確認する。	
	授業内容	模擬プログラム1解説	
18回	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
19回	授業内容	模擬プログラム2解説	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
20回	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
	授業内容	模擬プログラム自己対策	
21回	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	模擬プログラムを通じて、実践的なドキュメント作成に応用ができる。	
22回	授業内容	実技テスト 50分+解説	
	学習成果	積極的に資格取得に取り組む。	
23回	予習復習の内容	模擬プログラムを通じて、実践的なドキュメント作成に応用ができる。	

科目名	MOS スペシャリスト (Excel)				担当者	オノデラ サチ コ子 ・ ワカ バシ マサ コ子 小野寺 幸 子 ・ 若 林 雅 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける											
専門的 学習成果	①	問題文や解説を読み解く力をつけ、求められたことを実践できる。										
	②	身につけたパソコンスキルを実務に応用できる。										
	③	Microsoft Office Specialist Excel 2019検定に合格するレベルの操作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンによる実践的なドキュメント作成について学ぶ。(専門的学習成果①②③)										
授業概要	社会に通用する資格取得を目指して学習することで、データ集計や視覚的に表現できるグラフなど幅広い操作やシート・ブックの利活用など Excel を効率よく学び、実務に生かせるパソコンスキルの実務力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		実技試験	70	15回目授業内にて実技試験を行い全授業内容の理解について評価する。								
	汎用的 学習成果	提出物	30	全5回の提出物で各回6%を配点する。3～4回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
	汎用的 学習成果	各提出物で分野ごとの学習成果を評価する。 実技試験および検定試験で全体的な学習成果を評価する。 (1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかるマスター MOS Excel 2019対策テキスト & 問題集』				FOM 出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	全15回の授業終了後、別日に設定される MOS 検定試験を受験すること。 合格スキルに達するよう、各自必要に応じて授業外にも模擬試験などで自習すること。 模試などで判明する苦手分野など、その場で評価を行い、解説と補足を行う。 さまざまな機能の知識と実際の操作が連動してこそスキルとなるので、毎回の復習を欠かさないこと(復習：週1時間程度)											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、教室の利用方法、表作成練習問題実施	
	学習成果	授業の目的と資格取得の意義を理解する。	
2回	予習復習の内容	基本的な操作について確認する。	
	授業内容	ワークシートやブックの作成、移動、書式設定	
3回	学習成果	基本的な表の作成について操作ができる。	
	予習復習の内容	基本的な操作について確認する。	
4回	授業内容	表のオプション、表示のカスタマイズ、印刷、保存、プロパティ	
	学習成果	Excel のオプションと表示のカスタマイズ設定の操作ができる。	
5回	予習復習の内容	基本的なオプション操作について確認する。	
	授業内容	セルやセル範囲にデータを挿入、行列の設定、書式設定(フォント、配置)	
6回	学習成果	基本的な表のレイアウトを操作できる。	
	予習復習の内容	一般的な表のレイアウトについて確認する。	
7回	授業内容	条件付き書式、スパークライン、名前付き範囲	
	学習成果	表内での編集操作、条件を設定した書式設定の操作ができる。	
8回	予習復習の内容	効率よく表を編集できることと、複雑なレイアウトについて確認する。	
	授業内容	テーブルの作成、テーブル名、追加、削除、スタイル設定、オプション設定	
9回	学習成果	表をテーブルに変換し編集の操作ができる。	
	予習復習の内容	基本的なテーブル操作について確認する。	
10回	授業内容	テーブルの並べ替え(昇順、降順)、フィルタ(抽出)、重複データ削除	
	学習成果	テーブル内のデータの並べ替え抽出の操作ができる。	
11回	予習復習の内容	テーブル操作(並べ替え、抽出)について確認する。	
	授業内容	四則演算、数式の入力、編集、相対参照、絶対参照、オートSUM、基本の関数	
12回	学習成果	基本的な関数の挿入や数式を入力操作できる。	
	予習復習の内容	基本の関数(SUM、AVERAGE、COUNT、MAX、MIN)について確認する。	
13回	授業内容	条件付き論理関数、文字列関数について	
	学習成果	応用的な関数について操作ができる。	
14回	予習復習の内容	論理関数、文字列関数について確認する。	
	授業内容	グラフの作成、編集、書式設定、グラフの変更、レイアウト、スタイル	
15回	学習成果	表からグラフを作成し、編集の操作ができる。	
	予習復習の内容	基本的なグラフを作成して編集、書式設定について確認する。	
16回	授業内容	オブジェクトの作成(画像の挿入、図形やテキストボックスの挿入、SmartArtの挿入)	
	学習成果	表やグラフのほかにオブジェクト操作ができる。	
17回	予習復習の内容	オブジェクト操作(画像、図形、SmartArt)について確認できる。	
	授業内容	模擬プログラム1解説	
18回	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
19回	授業内容	模擬プログラム2解説	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
20回	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
	授業内容	模擬プログラム自己対策	
21回	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	模擬プログラムを通じて、実践的なドキュメント作成に応用ができる。	
22回	授業内容	実技テスト 50分+解説	
	学習成果	積極的に資格取得に取り組む。	
23回	予習復習の内容	模擬プログラムを通じて、実践的なドキュメント作成に応用ができる。	

科目名	国内旅行業務取扱管理者試験講座				担当者	大森信治郎						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	前期集中
授業時間数				30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室にて受け付ける。										
専門的 学習成果	①	旅行業法、及び観光関連約款についてその概要を説明することができ、国家試験の解答を導くことができる。										
	②	国内観光地理の概要を理解し、国家試験の解答を導くことができる。										
	③	JRをはじめとする国内運送の運賃、料金の仕組みを理解し、国家試験の解答を導くことができる。										
	④	旅行業務取扱管理者試験の合格水準の知識を習得し、併せて旅行業における有為な人材として活躍できる基礎を作ることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	旅行業務業務取扱管理者試験の合格レベルの知識の習得によって、自身の社会生活と社会全般がより豊かになるための一助となる。										
	(2)	観光領域の職業人としての専門的な知識を身に付け、観光のビジネスの領域で活躍できる。										
	(3)	21世紀最大の産業に成長しつつある観光産業の、日本における発展に貢献できる。										
授業概要	本講義は、毎年9月前半に行われる国家資格試験「国内旅行業務取扱管理者試験」に向けた講座であり、夏季集中の形で展開するものである。本講座の受講のためには1年前期において関連科目である「旅行業実務Ⅰ」「旅行業法」「観光関連約款」「地域観光論」を履修しておく必要がある。講義日程の中には2度の模擬試験が実施され、その結果を踏まえて、各人の達成度に応じた課題が課せられる。資格取得は就職やその後の職業人としての社会生活に大変重要な意味を有している。本講義で同レベルへの到達を達成する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	模擬試験	65	本番の試験を模した形式の試験を2回程度行い、評価を行う。								
		課題	20	模擬試験の結果に基づいた個別の課題を課し、評価を行う。								
		小テスト										
	平常点	15	受講態度、学習に対する意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	JTB 総合研究所	『2019旅行業務シリーズ 1～4』				JTB 総合研究所						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『なるほど知図帳2019』				昭文社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①毎回の授業で習得した知識を復習し、次の授業及びレポートに備える。準備学習時間として週4時間必要。 ②模擬試験の結果を反復学習し、問題の形式に慣れる。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	旅行業法の重点ポイント	
	学習成果	旅行業法の目的、定義、登録制度、などについて簡潔に説明できる。	
	予習復習の内容	特に第一目的などについては暗唱できる程度に復習を行う。	
2回	授業内容	旅行業約款の重点ポイント	
	学習成果	約款の意義と構成を理解し、特に企画旅行について詳しく解説できる。	
	予習復習の内容	学習内容を反復して覚える。	
3回	授業内容	JR 運賃料金の重点ポイント	
	学習成果	JR 運賃料金について、体系的かつ詳細に理解し、正確な計算ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を反復して覚える。	
4回	授業内容	国内観光地理の重点ポイント	
	学習成果	地域別に重要項目を記憶し、各地域の観光資源について解説できる。	
	予習復習の内容	学習内容を反復して覚える。	
5回	授業内容	第一回模擬試験	
	学習成果	業法、約款、実務（運賃料金、観光地理）についての模擬試験によって、合格レベルに近づく。	
	予習復習の内容	間違えた問題を、徹底して復習する。	
6回	授業内容	模擬試験解説	
	学習成果	前回の模擬試験の解説を通して、個別の課題を見つけ、強化することができる。	
	予習復習の内容	間違えた問題を中心に、徹底して復習する。	
7回	授業内容	旅行業法のポイント	
	学習成果	業務の適正な運営、組織する団体の適正な活動、について簡潔に説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を反復して覚える。	
8回	授業内容	約款のポイント	
	学習成果	航空運送、バス、フェリー、宿泊の各約款の概要と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を反復して覚える。	
9回	授業内容	運賃・料金のポイント	
	学習成果	国内航空運賃・料金、バスの運賃・料金、宿泊の運賃・料金について正確な計算ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を反復して覚える。	
10回	授業内容	テーマ別の国内観光地理	
	学習成果	温泉、山岳、湖沼、などの自然観光資源、寺社仏閣、年中行事などの人文観光資源について正確に解説できる。	
	予習復習の内容	学習内容を反復して覚える。	
11回	授業内容	第二回模擬試験	
	学習成果	業法、約款、実務（運賃料金、観光地理）についての模擬試験によって、合格レベルに近づく。	
	予習復習の内容	間違えた問題を中心に、徹底して復習する。	
12回	授業内容	模擬試験解説	
	学習成果	前回の模擬試験の解説を通して、個別の課題を見つけ、強化することができる。	
	予習復習の内容	間違えた問題を中心に、徹底して復習する。	
13回	授業内容	個別課題の強化	
	学習成果	各自の最も弱い部分を見つけ出し、克服することができる。	
	予習復習の内容	曖昧な部分の明確化を図り、反復して復習する。	
14回	授業内容	第三回模擬試験	
	学習成果	業法、約款、実務（運賃料金、観光地理）についての模擬試験によって、合格レベルに近づく。	
	予習復習の内容	間違えた問題を中心に、徹底して復習する。	
15回	授業内容	模擬試験解説	
	学習成果	前回の模擬試験の解説を通して、個別の課題を見つけ、強化することができる。	
	予習復習の内容	間違えた問題を中心に、徹底して復習する。	

科目名	小論文基礎				担当者	ナガノ アツシ ・ 堀 リョウヘイ ・ オオソノ マサキ 永野 篤 ・ 堀 良平 ・ 大曾根 学						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期集中
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール										
専門的 学習成果	①	適切・妥当な小論文について評価することができる。										
	②	適切・妥当な小論文に求められる文体について検討することができる。										
	③	適切・妥当な小論文の構成について検討することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	論理的文章に関する知識を身につけ、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	文体に関する知見を身につけ、表現の幅を広げ実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	論理構成に関する知見を身につけ、付与された条件内での説得力のある書き言葉を作成する技術を身につけ、実務に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	既存の考え方を批判なく受容し、それらを自らの思考の結果として表明するのではなく、データを直視し、論理を構成し、まとまりのある見解に構成していく志向・姿勢をもつことは、社会を構成する一員としての重要な責任である。授業では、思考力とその表現の一つである文章化を、各自の認知傾向、文体力、論理性を踏まえ、小論文という形式として成立させていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	100	各回のテスト・文章作成により、各回12.5%を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①1年次学生の、夏休みに行う集中講義である。オンラインを介した資料配布、小テストを行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノートPCなどを持参すること。 ②小テストおよび文章作成等は、原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。予習復習には、それぞれ1時間程度かけることが期待されるが、集中授業のため授業と授業の間に行うことは難しいことが予想される。そのため、事前課題、事後学習を入念に行うこと。紙または電子形式による辞書を携帯すること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	小論文とは何か？	
	学習成果	小論文に期待されていることは何かを理解し、適切にアプローチするマインドを身につける。	
2回	予習復習の内容	複数の小論文を読み、比較検討し、評価を行う。	
	授業内容	文体の理解	
3回	学習成果	小論文にふさわしい文体について評価することができる。	
	予習復習の内容	複数の文体を読み、比較検討し、評価を行う。	
4回	授業内容	構成の理解	
	学習成果	小論文にふさわしい構成について評価することができる。	
5回	予習復習の内容	複数の小論文を読み、比較検討し、構成の観点から評価を行う。	
	授業内容	センテンスの理解	
6回	学習成果	小論文にふさわしいセンテンスについて評価することができる。	
	予習復習の内容	複数のセンテンスを読み、比較検討し、評価を行う。	
7回	授業内容	センテンスを組み合わせ全体を構成する。	
	学習成果	小論文として適切な全体構成のあり方について検討することができる。	
8回	予習復習の内容	複数のセンテンスを、妥当な小論文となるように構成する。	
	授業内容	小論文を作成する①300文字	
9回	学習成果	300文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。	
	予習復習の内容	300文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。	
10回	授業内容	小論文を作成する②500文字	
	学習成果	500文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。	
11回	予習復習の内容	500文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。	
	授業内容	小論文を作成する③700文字	
12回	学習成果	700文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。	
	予習復習の内容	700文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。	
13回	授業内容		
	学習成果		
14回	予習復習の内容		
	授業内容		
15回	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	ミュージックテクニックの基礎				担当者	星 律 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中又は講師室にて対応する。										
専門的 学習成果	①	音楽理論の基礎を理解し演奏又は作曲、編曲に応用することが出来る。										
	②	楽譜を読む力を身につけ演奏をすることが出来る。										
	③	自身で楽譜を制作し詳細を説明することが出来る。										
	④	基本のコードを理解し演奏に応用することが出来る。										
汎用的 学習成果	(1)	音楽の基礎知識、読譜力の専門的知識を習得することによって音楽的表現につなげることが出来る。(専門的学習成果①②)										
	(2)	コードを習得し曲を分析発表することで自己表現や他者との理解をすることが出来る。(専門的学習成果③④)										
授業概要	演奏、作曲等音楽に関するあらゆることに共通する音楽理論の基礎を学び土台を築くことによって積極的に音楽に関わり豊かな感性で音楽表現を養い表現する喜びや達成感、満足感を持つことが出来る。技術的な礎となる基礎と自ら音楽活動をする基本を身につける。一次表現である創作においては自身の意図が旋律やリズムに反映していくことが出来る。また、ソルステージュで音階を学びながら読譜力を身につけることにより二次表現である演奏で個性を取り入れ独自の表現を完成させていくことが出来る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	50	小テストを3回実施し各項目の理解を確認し評価する。								
		提出物	30	既存の曲を譜面作成しコードネームの理解をキーボードで確認して評価する。								
	平常点	20	授業への意欲、態度、取り組みを評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2)は専門的学習成果③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
			『音楽通論』				教育芸術社					
			『楽典ワーク・基礎知識編』				ドレミ楽譜出版社					
				『ジュニアクラスの楽典問題集』				ドレミ楽譜出版社				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①毎回の授業で参考資料を配布する。5線ノートを準備し資料を参考に音符の練習をする。また、資料に従った問題集で毎回理解度を確認するので同様に各自保管ファイリングし予習、復習に使用し毎回必ず持参すること。(週2時間程度) ②3回の小テストでは授業中に解答、解説を行い結果のフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	音名(イタリア語、英語、日本語)	
	学習成果	音の高さにつけられている固有の名称である音名を学習する。	
2回	予習復習の内容	音名(イタリア語、英語、日本語)を区分し説明できるようにする。	
	授業内容	音符と休符の長さ	
3回	学習成果	音符や休符を見てそれらが示す長さの割合をすばやく判断できる。	
	予習復習の内容	音符や休符からリズムを説明することが出来る。	
4回	授業内容	拍子と拍子記号	
	学習成果	単純拍子、複合拍子の違いを理解し説明することが出来る。	
5回	予習復習の内容	楽譜を見てその曲の拍子を説明することが出来る。	
	授業内容	音部記号と譜表	
6回	学習成果	音部記号の形の由来を理解し譜面に書けるようになる。	
	予習復習の内容	5線譜に高音部、低音部記号を書いて理解を深める。	
7回	授業内容	変化記号(♯、b、q)	
	学習成果	変化記号が付いた音の高さを譜面上で説明することが出来る。	
8回	予習復習の内容	既存の曲を見て変化記号を説明することが出来る。	
	授業内容	変化記号の効力	
9回	学習成果	調号と臨時記号の違いを理解し譜面を見ながら説明することが出来る。	
	予習復習の内容	変化記号を鍵盤上で応用することが出来る。	
10回	授業内容	強弱記号の意味と読み方	
	学習成果	音の強さを示す強弱記号の意味とイタリア語を読めるようにする。	
11回	予習復習の内容	楽譜を用いて強弱記号を応用できる。	
	授業内容	速度記号と速度標語	
12回	学習成果	数字によって示す方法と言葉によって示す方法を使い分けることが出来る。	
	予習復習の内容	メトロノームを使用し大体の速度を示すことが出来る。	
13回	授業内容	奏法に関する用語と記号の理解	
	学習成果	音符に記された記号を理解しキーボードで表現することが出来る。	
14回	予習復習の内容	記号の読みと意味を説明できる。	
	授業内容	反復記号の理解	
15回	学習成果	楽譜を見やすくする省略記号を理解し楽譜の進み方を説明できる。	
	予習復習の内容	既存の曲からどのように演奏するのか説明できる。	
16回	授業内容	楽譜の書き方	
	学習成果	これまでの授業内容を振り返りながら簡単な楽譜を制作することが出来る。	
17回	予習復習の内容	既存の曲を写譜し楽譜の基本を理解する。	
	授業内容	音階(長音階、短音階)の成り立ち	
18回	学習成果	理論上からと演奏上から音階の違いと組み立て方を理解する。	
	予習復習の内容	既存の曲をキーを変えて歌ったり演奏して理解する。	
19回	授業内容	和音の種類と和音記号の理解	
	学習成果	高さの異なる2つ以上の音が同時に響く和音の組み合わせを理解する。	
20回	予習復習の内容	3和音の種類と和音記号をつかって楽譜に記してみる。	
	授業内容	音程と度数の理解	
21回	学習成果	音符間の度数から音程を割り出しそれぞれの違いを理解できる。	
	予習復習の内容	キーボード上で音程を確かめる。	
22回	授業内容	コードネームの理解	
	学習成果	3和音についているコードネームを覚えそれだけで楽譜を演奏したり理解できる。	
23回	予習復習の内容	楽譜に記してあるあらゆる記号の理解を深める。	

小テスト 4回目の終盤15分でこれまでの内容の理解を確認する。

小テスト 8回目の授業終盤15分でこれまでの理解を確認する。

小テスト 12回目の授業終盤でこれまでの理解を確認する。

既存の曲を使って和音とコードネームをつけて楽譜を完成させる。

科目名	作詞・作曲の基礎				担当者	サカキ 榊 原 光 裕						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		講義の前後にスタジオで受け付ける。										
専門的 学習成果	①	作詞作曲のノウハウについて述べることができる。										
	②	自分自身の心の中の言葉を見つけながら作詞することができる。										
	③	メッセージの発信、物語の創作の観点から自己表現をもとにした作詞ができる。										
	④	心に浮かんだメロディを、PC アプリなどを利用して曲として作品化できる。										
	⑤	お互いの自己表現の価値を高めるような相互評価ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	作詞・作曲に関する知識と技能を習得し、そこから「ものづくり」の考え方を学び、社会的・職業的自立の実践につなげることができる。(専門的学習成果①④に関連)										
	(2)	自分の心象風景を見つめることで、精神的背景を再確認し、自己表現の可能性を高め、他者理解を深めることができる。(専門的学習成果②～⑤に関連)										
	(3)	作詞、作曲の過程で行う様々な作業を活用して、問題解決の能力を高め、他者との協働をすることができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
授業概要	作詞作曲に関する基礎知識・ノウハウ等を学びながら、オリジナル楽曲を創作し、それを自信の声、または友人の助けを借りて歌唱し、録音して音楽作品として提出する。作品の編曲、伴奏については教師がサポートするが、各個人の知識・経験度などの力量に応じて、それらを行う場合は加点評価する。単に音楽的技術の習熟度や作品の完成度のレベルを評価対象とするのではなく、各自が自分のレベルに応じて、どのように努力し、独自の作品を作り上げるかを評価する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		課題提出	50	作詞・作曲の過程で提出する課題が各10% (計20%)。最終課題 (録音作品) は30%								
		作品に対する 創意工夫	20	音楽的一定レベルの習得ではなく、各個人の取組姿勢と向上度を評価する。								
	平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①④で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②～⑤で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①～⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 創作活動は、授業時間内だけで実現できるものではないので、各自が時間外においても創作に対する気持ちを維持することが重要である。(週、最低4時間程度) また、日常的に聞く音楽に対して、その詞の要素、曲の要素に着目して、分析的に聴くように試みる。特に、曲(詞)の構造、演奏の形態(楽器の使用法)等について、それぞれの楽曲による違いを探ること。また、自分の心の中の風景(イメージ)を見つめ、その中にある物語を表現することを意識すること。② 各学生の作品を、合評会において相互評価(コメント)する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション(作詞、作曲とは)	
	学習成果	作詞作曲の概要を説明できる	
2回	予習復習の内容	日常耳にする音楽を、作詞作曲という観点から聞く習慣を身につける	
	授業内容	<作詞> 作詞の基礎 ― 身のまわりに素材を求める	
3回	学習成果	自分の言葉を自由連想で羅列するマインドマップを作成できる	
	予習復習の内容	身の回りの何気ないもの、動きなどに意識を向ける	
4回	授業内容	詩と詞の違いは? 詞で表されるストーリーとメッセージ	
	学習成果	自己表現の指向性を意識することができる	
5回	予習復習の内容	喋り言葉、書き言葉とも異なる歌い言葉を意識する	
	授業内容	歌いやすく聴きやすい詞にするには ― 表現のテクニック	
6回	学習成果	表現のなかでの、言葉の扱いを知り、適切な表現ができる	
	予習復習の内容	論理構造や文法に頼らない言葉の持つ力を感じる	
7回	授業内容	<作曲> 楽器が弾けなくても曲は作れる ― 自分の声に耳をすます	
	学習成果	音楽的知識や楽譜読解、楽器演奏ができなくとも作曲できる	
8回	予習復習の内容	「だれでも歌える」ことを意識する	
	授業内容	歌いやすいメロディ、覚えやすいメロディとは	
9回	学習成果	言葉やメロディの繰り返しの効果を説明できる	
	予習復習の内容	日常聞く音楽の「繰り返し」を意識する	
10回	授業内容	コード 曲作りの強力アイテム	
	学習成果	コード(和音)が曲の雰囲気を変えることを実践できる	
11回	予習復習の内容	曲による雰囲気の違いに耳を傾ける	
	授業内容	曲の構造を知る ― サビの威力	
12回	学習成果	サビが聞く人の心に与える力について実践できる	
	予習復習の内容	曲を構造的に聞く	
13回	授業内容	<編曲> アレンジの力 ― ジャンルと楽器編成を知る	
	学習成果	世界の様々なジャンルの音楽について論じることができる	
14回	予習復習の内容	自分の好きなジャンルが、どのような楽器で演奏されているか意識する	
	授業内容	曲を料理する ― 素材を活かしながら、思い思いの味付けを	
15回	学習成果	楽器や伴奏法などによって、曲の性質が変化することを論じることができる	
	予習復習の内容	様々な音楽のパラエティ(表現の広さ)を意識する	
16回	授業内容	曲で表現する ― 誰に聞いてもらうのか	
	学習成果	表現の受け手(相手)の心の動きを意識した作曲ができる	
17回	予習復習の内容	自分の感じることを、他者の気持ちに置き換えることを意識する	
	授業内容	<実習> 自分の歌を録音し、作品化する	
18回	学習成果	自分の声に耳を傾け、推敲しながら作品化できる	
	予習復習の内容	鼻歌を歌ってみる	
19回	授業内容	録音作品化(継続)	
	学習成果	表現の幅を広げた作品を作ることができる	
20回	予習復習の内容	他者に伝える声を意識する	
	授業内容	録音作品化(継続)	
21回	学習成果	今までの技術をもとに、より完成度を高めた作品を作ることができる	
	予習復習の内容	音楽として完成していく過程を意識する	
22回	授業内容	合評会、自己評価	
	学習成果	他者の評価を受け取り、自分の創作・表現を再認識することができる	
23回	予習復習の内容	(鑑賞者=消費者としてではなく) 創作者としての評価の仕方を考える	
	最終作品(録音された音楽)を提出	相互評価を受け、最終的自己評価を行う	

科目名	リズムトレーニング				担当者	星 律 子						
区 分	選 択	1	単 位	授業回数	15	回	授 業 形 態	演 習	学 年	1・2年	開 講 期	後 期
				授業時間数	30	時 間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中又は講師室にて行う。										
専門的 学習成果	①	アンサンブルを通してお互いの役割を理解しあい実践することが出来る。										
	②	楽譜を読む力を養い瞬時に対応することが出来る。										
	③	読譜を通してテンポ感、リズム感、ビート感を養い応用することが出来る。										
	④	完成した曲を学内で発表することによって演奏者、聴衆の関係の中で他者との共感を持つことが出来る。										
汎用的 学習成果	(1)	トーンチャイムアンサンブルを習得することにより自己表現と他者理解が出来る。(専門的学習成果①④)										
	(2)	ジャンベ、トーンチャイムを表現の手段とし専門的知識や技能を身につけ積極的な表現方法を探求することが出来る。(専門的学習成果①②③)										
授業概要	ジャンベ、トーンチャイムを使用し音楽の基本であるリズムを楽譜から又は聴き取りながらテクニックを身につける。各楽器での演奏は主旋律と伴奏の担当がありその区別を理解することにより演奏しながらお互いの音に注意を向けることによって役割が明確になる。また、観察力、判断力が養われ関心→意欲→創造→音楽表現へとアンサンブル内容が充実したものとなり表現する喜びと他者との協力の上に成り立つ責任感、満足感、達成感を理解し社会生活においても応用することが出来る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	20	各20%を2回実施し正確にリズム譜を演奏できるかの評価を行う。								
		学内発表	60	各自のパートに責任を持ち演奏できることを判断する。								
	平常点	20	発表やアンサンブルへの取り組み、意欲を判断する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	大石由紀子著		『トーンチャイムのためのプライダル曲集』						サーベル社			
	大石由紀子著		『トーンチャイムのためのスタジオジブリ作品集』						サーベル社			
	大石由紀子著		『トーンチャイムのためのクリスマスソング集』						サーベル社			
	大石由紀子著		『トーンチャイムのためのJポップ集』						サーベル社			
	大石由紀子著		『トーンチャイムのためのクラシック曲集』						サーベル社			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①配布される楽譜は各自ファイリングし自分のパートに印をつけ保管すること。事前学習として受け持ちのパートのリズム譜を練習すること。(週1時間程度) アンサンブル終了後出来ない場所を反復練習すること。(週1時間程度) ②小テスト、各回のアンサンブルでリズム譜を確認、解説し小テスト実施後フィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ジャンベ、簡易打楽器の奏法	小テスト 4回目授業の終盤に行う。ビートに合わせて反復リズムが出来るようになる。	
	学習成果	楽器の奏法を理解し反復練習でリズムを体で表現できる。		
	予習復習の内容	覚えたリズムを繰り返し練習すること。		
2回	授業内容	リズムとビート		
	学習成果	リズムとビートの違いを理解しお互いの音を聴きとることが出来る。		
	予習復習の内容	普段聴いている曲のビートを理解する。		
3回	授業内容	ジャンベアンサンブル		
	学習成果	違うリズムを組み合わせビートに乗りながら演奏できる。		
	予習復習の内容	自身の受け持ったリズムを反復練習する。		
4回	授業内容	ラテンのリズム		
	学習成果	リズム譜を使って読譜力を身につけ、曲に合わせてアンサンブルを体験する。		
	予習復習の内容	ラテン楽器の奏法と名称を覚える。		
5回	授業内容	トーンチャイム奏法		学内発表を通して受け持ちのチャイムを正確に読譜してアンサンブルの質を高める。
	学習成果	トーンチャイムで簡単な曲の主旋律を演奏しながら読譜力を養う。		
	予習復習の内容	音名を読めるようにする。		
6回	授業内容	トーンチャイムアンサンブルの基礎		
	学習成果	クリスマスコンサートに向けて6曲、曲目選択と受け持ちの音を決め楽譜を制作する。		
	予習復習の内容	自分の受け持ちの音名を読めるようにする。		
7回	授業内容	トーンチャイムアンサンブル1 クラシック曲とジブリ作品集		
	学習成果	コンサートの曲2曲を個々に練習し授業終盤にアンサンブルで役割を理解する。		
	予習復習の内容	担当の音を演奏するリズムを確認する。		
8回	授業内容	トーンチャイムアンサンブル2 クリスマス曲集		
	学習成果	前回の曲をアンサンブル練習し完成させ新曲を譜読みする。		
	予習復習の内容	担当のチャイムでできないところは個々に練習する。		
9回	授業内容	トーンチャイムアンサンブル3 クリスマス曲とJポップ曲集		
	学習成果	クリスマス曲を完成させ新曲の譜読みと個々の練習をする。		
	予習復習の内容	担当の音に印をつけリズムを理解する。		
10回	授業内容	トーンチャイムアンサンブル4 クリスマス曲とプライダル曲		
	学習成果	Jポップアンサンブルのビート感覚を理解する。		
	予習復習の内容	ジャンベで学んだビートをトーンチャイムアンサンブルに応用する。		
11回	授業内容	トーンチャイムアンサンブル5		
	学習成果	コンサート全曲のアンサンブルを練習しお互いの役割を再確認する。		
	予習復習の内容	楽譜を理解し自分の担当に責任を持つ。		
12回	授業内容	学内発表		
	学習成果	演奏者として音楽表現を聴衆に伝えることとアンサンブルの楽しさを理解する。		
	予習復習の内容	自分達の演奏結果と聴衆がどのように反応したのかを分析する。		
13回	授業内容	2重奏のアンサンブル	小テスト15回目の終盤で行う。デュエット、トリオの小編成アンサンブルから役割分担を理解し全パートをリズム演奏できるようにする。	
	学習成果	二人組でリズム譜をジャンベを使って演奏し読譜力を確認する。		
	予習復習の内容	担当のリズムを個々に練習する。		
14回	授業内容	3重奏のアンサンブル		
	学習成果	ジャンベでトリオを組みビートとリズム担当に別れそれぞれの音を聴きあう。		
	予習復習の内容	リズムが明確に聞こえるよう反復練習をする。		
15回	授業内容	2重奏と3重奏のアンサンブル		
	学習成果	これまでの曲を役割を変えながら復習しどのパートでも演奏可能にする。		
	予習復習の内容	担当のパート以外も譜読みをしておく。		

科目名	ヴォーカルトレーニング				担当者	ショウジ マリコ 眞理子							
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後											
専門的 学習成果	①	腹式呼吸で発声できる。											
	②	発声するために身体を使うことができる。											
	③	発声のために必要な呼吸法ができる。											
	④	基本的な音楽用語を覚え読譜力を身につけ音楽を表現できる。											
	⑤	腹式呼吸での発声で歌・音楽・言葉を表現できる。											
汎用的 学習成果	(1)	腹式呼吸による発声で言葉をはっきり話すなど職業的自立に活用できる。(専門的学習成果①②③⑤)											
	(2)	腹式呼吸の発声で人前で話すこと、声を出すことに自信を持ち自己表現ができる。(専門的学習成果①②③⑤)											
	(3)	ヴォーカルトレーニングを通して習得した音楽の知識や技能を活用し地域社会の発展に貢献できる。(専門的学習成果①②③④⑤)											
授業概要	ヴォーカルトレーニングでは喉を使った胸式呼吸の発声ではなく、腹式呼吸で身体を使った発声を身につけていく。そのために必要なストレッチ、呼吸法などのトレーニングを積み重ねていく。カラオケなどでは喉を絞めた状態で歌うことが多いが、喉を開けることを意識した練習も取り入れる。できるだけ一人ずつ発声のチェックを行い指導していく。音楽に必要な読譜力、音楽用語の知識を身につけ音程を正確にとり表現力を高めていき歌う楽しさを学ぶ。また、人前でもはっきりとした言葉で自信をもって声を出し表現する力を養う。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		筆記試験	10	基本的な音楽用語の筆記試験を行い評価する。									
		実技	40	課題曲・ソルフェージュの実技試験を一人ずつ行う。									
	平常点	50	授業態度・取り組み・意欲により評価する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う												
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①ストレッチなど身体を動かすこともあるので動きやすい服装で授業に臨むこと。配布された楽譜・プリントは各自ファイルなどにまとめ忘れないようにすること。単元ごとに行ったプリント・楽譜をよく理解しておくこと（予習1時間程度）。 ②授業の中で音楽用語の課題を行い返却解説を行う。積み重ねが大事な授業なので授業内での発表・態度などが評価の対象となる。定期試験は授業の中で行い音楽用語の筆記試験・一人ずつのソルフェージュ・歌唱発表となる。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ヴォーカルトレーニングとは何か	小テスト音楽用語ソルフェージュ
	学習成果	ヴォーカルトレーニングの学習方法を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	配布された楽譜と音楽用語を覚える。	
	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方	
2回	学習成果	実際にからだを動かし、腹式呼吸・呼吸法・発声ができる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。	
3回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュで読譜、音程の取り方	
	学習成果	腹式呼吸で、ソルフェージュを歌い発声できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。読譜の練習。	
	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解	
4回	学習成果	腹式呼吸で、ソルフェージュを歌い発声できる。課題曲を覚える。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。課題曲の練習。	
5回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法。発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解	
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲を練習。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。音楽用語を理解し。課題曲を練習。	小テスト課題曲
	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解	
6回	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲を練習。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。音楽用語を理解し。課題曲を練習。	
7回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲のまとめ。音楽用語の理解	
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲をまとめる。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。課題曲を覚える。	
	授業内容	腹式呼吸・呼吸法。発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解	
8回	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い、新課題曲を覚える。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。課題曲を覚える。	
9回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解	小テスト音楽用語ソルフェージュ
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲を練習。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。音楽用語を理解し、課題曲を練習。	
	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解	
10回	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲の練習。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。音楽用語を理解し課題曲を練習。	
11回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解。	
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲の練習。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。音楽用語を理解し課題曲の練習。	小テスト
	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解	
12回	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲の練習。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。音楽用語を理解し課題曲の練習。	
13回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解。	
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲を暗譜する。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。音楽用語を理解し課題曲を暗譜する。	
	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。試験に向けて課題曲の練習。	
14回	学習成果	ソルフェージュ、課題曲、音楽用語を覚える。	
	予習復習の内容	試験範囲の練習。	
15回	授業内容	ソルフェージュ。課題曲。音楽用語の試験。	実技試験 音楽用語試験
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュ、課題曲を歌い音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	ソルフェージュ、課題曲、音楽用語を覚える。	

科目名	バンドアンサンブル				担当者	ナ 那 須 尚 平						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	1・2年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業前後に教室で受け付ける										
専門的 学習成果	①	音楽理論を基に楽器を演奏することができる										
	②	ポピュラー音楽の歴史的背景を論じることができる										
	③	アンサンブルの知識やノウハウを習得し総合的な音楽操作ができる										
	④	イベントや制作業務に携ることにより、積極的に社会との繋がりを持つことができる										
汎用的 学習成果	(1)	楽器演奏を基に社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し活用できる（専門的学習成果①③に関連）										
	(2)	音楽理論や音楽史を基に論理的思考、自己表現、他者理解ができる（専門的学習成果②④に関連）										
	(3)	イベントや制作業務に携ることにより、協働し地域社会の発展に積極的に貢献することができる（専門的学習成果②④に関連）										
授業概要	ギター、ベース、ドラムスやその他の楽器の演奏を通して、ポピュラーミュージックの基礎の理解と、バンドアンサンブル力の習得を目標とする。様々なイベントやライブでの演奏、レコーディングやCDの制作を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		演奏法習得力	40	授業時の演奏やライブ等の発表で評価する								
		授業参加の積極性	40	授業中や制作業務への意欲、態度を評価する								
		準備物他	20	授業やイベント、制作業務の準備について総合的に評価する								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			資料随時配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
			各種バンドスコア等									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①各々のレベルに応じた演奏技術の習得を目指すため、経験の有無は問わない。 積極的な授業参加とバンド運営を期待する。 1週間に1～2時間、授業中で学習した楽器の演奏方法を復習されたい。 ただし、楽器が使用不可能な場合は、配布したプリントの復習や演奏のイメージトレーニングを奨励する。 ②前回の内容をふまえつつ、授業内で技術のフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価	授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション	授業中や制作業務への意欲、態度を評価する。 授業時の演奏を評価する。 授業やイベント、制作業務の準備について総合的に評価する。	16回	授業内容	バンドアンサンブルの応用（演奏）	
	学習成果	このコースの内容や音楽的教養について論じることができる			学習成果	課題曲2を理解し読譜できる	
	予習復習の内容	五線譜、ギター用ピックの準備			予習復習の内容	読譜力の定着	
2回	授業内容	基本リズムの歴史		17回	授業内容	応用アンサンブル（読譜）	
	学習成果	資料や音源による音楽基礎について説明できる			学習成果	課題曲2を理解し読譜できる	
3回	予習復習の内容	配布資料の復習		18回	予習復習の内容	読譜の復習	
	授業内容	ポップスの歴史			授業内容	応用アンサンブル（理解）	
4回	学習成果	資料や音源による音楽基礎について説明できる		19回	学習成果	課題曲2を理解し読譜できる	
	予習復習の内容	配布資料の復習			予習復習の内容	読譜の復習	
5回	授業内容	基本コードの歴史		20回	授業内容	応用アンサンブル（読譜）	
	学習成果	Eギター、パワーコードを理解し実践できる			学習成果	課題曲2を理解し読譜できる	
	予習復習の内容	配布資料を使い、パワーコードフォームの復習			予習復習の内容	読譜の復習	
6回	授業内容	ロックの歴史		21回	授業内容	応用アンサンブル（理解）	
	学習成果	Eギター、パワーコードを理解し発展の歴史を説明できる			学習成果	課題曲2を理解し読譜できる	
	予習復習の内容	パワーコードフォームの復習			予習復習の内容	読譜の復習	
7回	授業内容	バンドアンサンブルの基礎（楽器）	22回	授業内容	バンドアンサンブルの応用（楽器）		
	学習成果	各楽器の特性や仕組みを説明できる		学習成果	各楽器の演奏方法について説明できる		
	予習復習の内容	各楽器の復習		予習復習の内容	演奏方法の復習		
8回	授業内容	基礎アンサンブル（読譜）	23回	授業内容	応用アンサンブル（ドラム）		
	学習成果	課題曲1を理解し読譜できる		学習成果	各楽器（ドラム）の実践的な演奏ができる		
	予習復習の内容	読譜方法の復習		予習復習の内容	各楽器の特性や仕組みを理解する		
9回	授業内容	基礎アンサンブル（理解）	24回	授業内容	応用アンサンブル（ドラム）		
	学習成果	課題曲1を理解し実践できる		学習成果	各楽器（ドラム）の実践的な演奏ができる		
	予習復習の内容	課題曲の譜面読譜の復習		予習復習の内容	各楽器の特性や仕組みを理解する		
10回	授業内容	基礎アンサンブル（実践）	25回	授業内容	応用アンサンブル（ベース）		
	学習成果	課題曲1を理解し実践できる		学習成果	各楽器（ドラム）の実践的な演奏ができる		
	予習復習の内容	課題曲の譜面読譜の復習		予習復習の内容	各楽器の特性や仕組みを理解する		
11回	授業内容	基礎アンサンブル（総合）	26回	授業内容	応用アンサンブル（ベース）		
	学習成果	課題曲1を理解し実践できる		学習成果	各楽器（ドラム）の実践的な演奏ができる		
	予習復習の内容	課題曲の譜面読譜の復習		予習復習の内容	各楽器の特性や仕組みを理解する		
12回	授業内容	バンドアンサンブルの基礎（演奏）	27回	授業内容	応用アンサンブル（バンド）		
	学習成果	各楽器の基本的な演奏方法について説明できる		学習成果	バンドを組み、実践的な演奏ができる		
	予習復習の内容	演奏の基礎知識の復習		予習復習の内容	読譜の復習		
13回	授業内容	基礎アンサンブル（ドラム）	28回	授業内容	応用アンサンブル（バンド）		
	学習成果	各楽器（ドラム）の基礎的な演奏ができる		学習成果	バンドを組み、実践的な演奏ができる		
	予習復習の内容	各楽器の特性や仕組みを理解する		予習復習の内容	読譜の復習		
14回	授業内容	基礎アンサンブル（ベース）	29回	授業内容	ライブ実習1（連続授業）		
	学習成果	各楽器（ベース）の基礎的な演奏ができる		学習成果	制作準備をスムーズにこなし、演奏力が定着できる		
	予習復習の内容	各楽器の特性や仕組みを理解する		予習復習の内容	スケジュールの予習、読譜の復習		
15回	授業内容	基礎アンサンブル（バンド）	30回	授業内容	ライブ実習2（連続授業）		
	学習成果	バンドを組み、演奏できる		学習成果	演奏力の定着		
	予習復習の内容	各楽器の役割を理解する		予習復習の内容	読譜の予習		
	授業内容	基礎アンサンブル（バンド）		授業内容	ライブ実習3（連続授業）		
	学習成果	バンドを組み、演奏できる		学習成果	演奏力の定着		
	予習復習の内容	各楽器の役割を理解する		予習復習の内容	読譜の復習、まとめ		

科目名	茶道				担当者	鎌 田 文 恵						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	実習	学年	1・2年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業前後にオフィスアワーを設ける										
専門的 学習成果	①	茶道における初めの一步であり、基本動作でもある「薄茶点前」を行うことができる。										
	②	利休の教えである「和敬静寂」の理念を説明できる。										
	③	「利休七則」に則り、一碗を通して相手を思いやり、もてなすことができる。										
	④	茶道の歴史から茶器や墨蹟などの諸芸術に対する造詣を考察することができる。										
	⑤	閑寂の知見を広め、自己を内省し、実社会へ適用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	茶道の作法を通して、人との関わりに必要な自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	人間関係の尊重、集団の規律を遵守を通して、協働し、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。(専門的学習成果②③④⑤)										
授業概要	<p>仏教を建学の精神とする本学園の方針に基づき、日本の伝統的精神文化である茶道の作法を通じて、国際社会に生きる日本人としての基礎的資質を育むとともに豊かな情操を養い人格完成を目指す学習を行う。</p> <p>具体的には運び、薄茶点前を行う。</p> <p>特に人間相互の関係を尊重しあいながら集団の規律を遵守し、相手を思いやる心を養い、実技を通じて礼儀作法、点前の基礎、使用する茶器や花を通じて美的感覚を身につける。</p> <p>具体的には茶会を行う。</p>											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		実技試験	50	各種点前、礼儀作法の内容を評価する。								
		平常点	50	実習への取り組み・意欲・態度により評価する。随時到達度、理解の程度を確認する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④⑤により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			『裏千家茶道』				淡交社					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		<p>①帛紗、古帛紗、扇子、懐紙、足袋（白ソックス）一括購入約5,000円と実習費6,000円がかかる。裏千家初級が習得できる。(許状申請も可能)</p> <p>時間外学習（30時間）として、点前に必要な基本動作を習得するまで繰り返し稽古に励むことを挙げたい。一方で茶道の理念ともいべき精神文化に触れる機会も見いだすこと。</p> <p>具体的な方法としては茶室を訪れ、露地（茶室の庭）を散策し、さらには博物館や美術館などの文化施設に足を運ぶなどして精神的、普遍的教養を身に付ける。</p> <p>②小テスト後や実技試験後に具体的な作法の注意点について指摘し、解説を行う。</p>										

		授業計画		学習成果の評価	授業計画		学習成果の評価							
1回	授業内容	茶道とは何か。歴史、意義など		美しい姿でお辞儀等の所作振る舞いができるかを確認	16回	授業内容	茶道の精神	上手に茶を点てる ことができるかを 評価						
	学習成果	茶道の精神性への理解				学習成果	和敬清寂、利休七則の理解							
	予習復習 の内容	四規、和休七則の熟読玩味				予習復習 の内容	自己を顧みつつ、先達に思いを致す							
2回	授業内容	基礎、基本の実技			各茶道具の適切な 扱いができるかを 確認	17回	授業内容		風炉薄茶点前③ 運び	流れるような点前 ができるか一連の 動作を確認				
	学習成果	茶道具の扱い方					学習成果		道具を選び、点てること					
	予習復習 の内容	茶道具の名称、使い道を知る					予習復習 の内容		客と亭主、それぞれの立場を理解する					
3回	授業内容	座る、立つ、歩くの基本動作				各茶道具の適切な 扱いができるかを 確認	18回		授業内容		風炉薄茶点前④ 手前	流れるような点前 ができるか一連の 動作を確認		
	学習成果	滞りない一連の動き							学習成果		人前で茶を出し、片付けの手前ができる			
	予習復習 の内容	基本動作の体得							予習復習 の内容		心を込めて茶を点てる			
4回	授業内容	礼節の基本。お辞儀、ふすまの開閉など					各茶道具の適切な 扱いができるかを 確認		19回		授業内容		風炉薄茶点前⑤ 動作	流れるような点前 ができるか一連の 動作を確認
	学習成果	正しい姿勢を保つ									学習成果		滞りない一連の動作ができる	
	予習復習 の内容	「真・行・草」の習得		予習復習 の内容				姿勢、動作の反復練習						
5回	授業内容	割り稽古		各茶道具の適切な 扱いができるかを 確認				20回	授業内容		風炉薄茶点前⑥ 点茶		上手に茶を点てる ことができるかを 評価	
	学習成果	基本動作、道具扱いの習得							学習成果		滞りない一連の動作ができる			
	予習復習 の内容	反復練習			予習復習 の内容				姿勢、動作の反復練習					
6回	授業内容	帛紗の扱い方			各茶道具の適切な 扱いができるかを 確認			21回	授業内容	風炉薄茶点前⑦ 点茶	流れるような点前 ができるか一連の 動作を確認			
	学習成果	茶器を正しく拭き、腰に付ける							学習成果	滞りない一連の動作ができる				
	予習復習 の内容	反復練習				予習復習 の内容			姿勢、動作の反復練習					
7回	授業内容	棗（なつめ）の清め方				各茶道具の適切な 扱いができるかを 確認		22回	授業内容	風炉薄茶点前⑧ 総合		流れるような点前 ができるか一連の 動作を確認		
	学習成果	正しく扱い、帛紗で清める							学習成果	滞りない一連の動作ができる				
	予習復習 の内容	反復練習					予習復習 の内容		姿勢、動作の反復練習					
8回	授業内容	茶杓の扱い					各茶道具の適切な 扱いができるかを 確認	23回	授業内容	風炉薄茶点前⑨ 確認				上手に茶を点てる ことができるかを 評価
	学習成果	正しく扱い、清める							学習成果	正しい姿勢を保つ				
	予習復習 の内容	反復練習		予習復習 の内容					鏡に自分を映し確認					
9回	授業内容	茶巾の扱い		各茶道具の適切な 扱いができるかを 確認				24回	授業内容	風炉薄茶点前⑩ 確認			流れるような点前 ができるか一連の 動作を確認	
	学習成果	主旨は清浄、清潔、たたみ方を知り、碗に仕組める							学習成果	正しい姿勢を保つ				
	予習復習 の内容	反復練習			予習復習 の内容				反復練習					
10回	授業内容	茶筌の扱い			各茶道具の適切な 扱いができるかを 確認			25回	授業内容	風炉薄茶点前⑪ 点前	流れるような点前 ができるか一連の 動作を確認			
	学習成果	正しく扱う							学習成果	滞りない一連の動作ができる				
	予習復習 の内容	反復練習				予習復習 の内容			反復練習					
11回	授業内容	茶碗の清め方				各茶道具の適切な 扱いができるかを 確認		26回	授業内容	風炉薄茶点前⑫ 道具の拝見		客、亭主の立場を 理解し適切な立ち 居振る舞いので きる		
	学習成果	茶巾を仕組み、茶碗を清める							学習成果	無の心での点前の実践				
	予習復習 の内容	反復練習					予習復習 の内容		自己を顧みつつ、茶道の精神の理解					
12回	授業内容	柄杓の扱い 等					各茶道具の適切な 扱いができるかを 確認	27回	授業内容	風炉薄茶点前⑬ 道具の拝見				客、亭主の立場を 理解し適切な立ち 居振る舞いので きる
	学習成果	湯水の汲み方、収め方を会得							学習成果	茶道具の鑑賞				
	予習復習 の内容	置き、切り、引きの反復練習		予習復習 の内容					書籍、美術館への探訪					
13回	授業内容	客の心得、お茶、お菓子のいただき方		各茶道具の適切な 扱いができるかを 確認				28回	授業内容	風炉薄茶点前⑭ 道具の拝見			客、亭主の立場を 理解し適切な立ち 居振る舞いので きる	
	学習成果	美しい所作で茶をいただく							学習成果	滞りない動作で客をもてなすことができる				
	予習復習 の内容	茶会への自主的参加			予習復習 の内容				水屋での準備、計画を立てる					
14回	授業内容	風炉薄茶点前① 道具			各茶道具の適切な 扱いができるかを 確認			29回	授業内容	客の心得、水屋の心得、道具の拝見	客、亭主の立場を 理解し適切な立ち 居振る舞いので きる			
	学習成果	道具を選び、正確な位置に座す							学習成果	相手を慮る				
	予習復習 の内容	足の運び、道具の扱いの反復練習				予習復習 の内容			亭主の立場の理解					
15回	授業内容	風炉薄茶点前② 建水、柄杓				各茶道具の適切な 扱いができるかを 確認		30回	授業内容	お祝いの茶事		客、亭主の立場を 理解し適切な立ち 居振る舞いので きる		
	学習成果	建水を持ち出し、柄杓の引き方を学ぶ							学習成果	茶事を体験し、茶の湯の味わいを知る				
	予習復習 の内容	指先、手の動きなど細部にわたる自己研鑽					予習復習 の内容		一年間の授業を終え、改めて「茶道とは」に思いを致す					

科目名	コミックアート（漫画・イラスト）				担当者	阿部明子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業後10分間を対応の時間とする。										
専門的 学習成果	①	コミックアートへの興味関心を深め、情報収集の必要性を説明できる。										
	②	描画ソフトを使用し、作業手順を説明できる。										
	③	鉛筆を用いたクロッキー会に参加しモデルと画家両方の役割を担える。										
	④	プリンタを使用し作品を内外に発表できる。										
汎用的 学習成果	(1)	趣味と仕事両方の観点から知識と技術を学び、伝統的な練習方法を実践する。										
	(2)	ソフトの習得は学生同士の意見、情報交換を行いながら上達できる。										
	(3)	自分の作品は課題として作業手順をメイキングに起こし、他者に紹介できる。										
	(4)	スキャナー、プリンタなど周辺機器を操作できる。										
授業概要	コミックアートの世界は時代により技術と方法を変えながら古代から現代まで続いているコミュニケーションツールである。現代はパソコンやスマートフォンを使用し、SNSやインターネットを通じて情報を発信する。技術や流行を把握し自己表現を学び、社会に貢献する人間になる。クロッキー会と人体解剖の説明でデジタルツール以外での学習方法を通じて基礎を学び、学生のニーズに合った指導を通して卒業後もみずから学ぶ姿勢を培う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		デッサン課題	40	2回行い一回ごと配点を10点とする。								
	イラスト課題	60	1回行うが可能な場合は複数回提出し、その都度加算し上限を40点とする。									
汎用的 学習成果	(1) 専門的学習評価3で評価を行う。 (2) 専門的学習評価4で評価を行う。 (3) 専門的学習評価4で評価を行う。 (4) 専門的学習評価4で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①イラスト課題は事前にイメージを紙に描いてくること。このとき画材、サイズは自由である。(週4時間程度) ②提出されたデッサン課題は赤入れをし返却する。イラストはプリントアウトを行い自分用に一枚返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	アンケート記入 講義	アンケート内容で評価する
	学習成果	業界理解、スケジュール確認し、説明できる。	
2回	予習復習の内容	イラストを描いて持参、添削し次回再提出。	作業状況を見て評価する
	授業内容	ソフトの基本操作	
3回	学習成果	メニュー、ツール、ツールプロパティを操作できる。	作業スピードを見て評価する
	予習復習の内容	メニュー、ツール、ツールプロパティの位置を暗記する。	
4回	授業内容	図形描画、ベクターツールの使用	提出課題で評価する
	学習成果	フリーハンドでない直線、曲線を描けるようになる。	
5回	予習復習の内容	ベクターとラスターの違いを調べてくる。	提出課題のクオリティで評価する
	授業内容	キャラクタートレース、着色練習	
6回	学習成果	既存のキャラクターの線画を描画できる。	体幹の描画ができているかどうかで評価する
	予習復習の内容	キャラクターを選んでくる。	
7回	授業内容	デッサン入門	下肢の描画ができているかどうかで評価する
	学習成果	簡単な立体を鉛筆で立体的に描画することができる。	
8回	予習復習の内容	デッサンについて調べてくる。	上肢含む全身を表現できたかどうかで評価する
	授業内容	人体解剖学（体幹）クロッキー会	
9回	学習成果	体幹を重視したクロッキーができる。	下調べと発表で評価する
	予習復習の内容	クロッキー。	
10回	授業内容	人体解剖学（下肢）クロッキー会	下調べと発表で評価する
	学習成果	下肢を重視したクロッキーができる。	
11回	予習復習の内容	前回の授業内容を生かしたクロッキーを描いてくる。	画力と構成で評価する
	授業内容	人体解剖学（上肢）クロッキー会	
12回	学習成果	上肢を重視したクロッキーができる。	線画の丁寧さで評価する
	予習復習の内容	前回の授業内容を生かしたクロッキーを描いてくる。	
13回	授業内容	イラスト描画1 イメージマップ・構図づくり	スピードと正確さを評価する
	学習成果		
14回	予習復習の内容	構図とは何か調べてくる。	デッサン力を評価する
	授業内容	イラスト描画2 レイアウト・視線誘導	
15回	学習成果		プリントアウトできたか否かで評価する（間に合わない人は途中でデータのみ提出）
	予習復習の内容	視線誘導とは何か調べてくる。	
16回	授業内容	イラスト描画3 下書き	線画の丁寧さで評価する
	学習成果	オープンキャンパス展示用のイラストを制作することができる。	
17回	予習復習の内容	イメージを決めてくる。	スピードと正確さを評価する
	授業内容	イラスト描画4 線書き	
18回	学習成果	ラスター、ベクターどちらかの手法で線画を描画できる。	デッサン力を評価する
	予習復習の内容	線画終わらなければ宿題。	
19回	授業内容	イラスト描画5 下塗り	スピードと正確さを評価する
	学習成果	バケツツールで下塗りできる。	
20回	予習復習の内容	プロの配色を研究してくる。	デッサン力を評価する
	授業内容	イラスト描画6 影入れ	
21回	学習成果	ブラシツールで影を入れることができる。	プリントアウトできたか否かで評価する（間に合わない人は途中でデータのみ提出）
	予習復習の内容	プロの影入れを研究してくる。	
22回	授業内容	プリントアウト、提出	プリントアウトできたか否かで評価する（間に合わない人は途中でデータのみ提出）
	学習成果	周辺機器を操作しプリントアウトできる。	
23回	予習復習の内容		プリントアウトできたか否かで評価する（間に合わない人は途中でデータのみ提出）
	授業内容		

科目名	ボイストレーニング（声優）				担当者	三 浦 貴 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1 年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				授業の前後に教室で受け付ける。								
専門的 学習成果	①	人が声を発する仕組みを理解し、大きく張りのある声が出すことができる。										
	②	敬語、アクセント等を意識し、正しく美しい日本語を話すことができる。										
	③	日常生活の話し方と、声を仕事にする話し方の違いを理解し、表情豊かに表現ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	正しい日本語の発声を学び、堂々と人と関わる力をつけることを通して、社会的・職業的自立につなげることができる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	敬語の使い方や正しい発音を学ぶことを通して、他者を理解し、論理的な思考で問題を解決する能力を有し、協働することができる。（専門的学習成果②に関連）										
	(3)	声に関わる仕事の専門的知識や技能を活用して、豊かな自己表現ができる。（専門的学習成果②③に関連）										
授業概要	声の仕事とは何か。声優、ナレーター、MC、レポーター、アナウンサー等、声を使うエンターテインメント業界の仕組みを知り、人を惹きつける活き活きとした話し方を学ぶ。「呼吸」「共鳴」「発音」3段階で正しい日本語の発し方を理解し、日々のトレーニングを重ねることで、自身の魅力的な声を手に入れる。さらに、正しく美しい日本語の使い方、場面にあわせた表現の仕方を覚え、自信を持って人と関わることのできるコミュニケーション能力を高めていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		平常点	20	声の大きさ、照れずに取り組む姿勢、態度、学校行事「キャリアフェスティバル」への参加意欲で評価する。								
		実技小テスト	20	「外郎売り」「ニュース」の読みで2回の実技試験を行い評価する。								
		課題発表	60	「キャラクター」「番組ナレーション」「CMナレーション」の3つの課題の制作内容、作品の仕上がりで評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	プリント配付											
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	NHK 放送文化研究所		『日本語発音アクセント新辞典』						NHK 出版			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①配付するプリント資料をもとに授業を進める。 事前学習として、最初の授業で伝える、胸式・腹式呼吸練習、発音滑舌練習、腹筋を中心とする筋力トレーニングを毎日行うこと。（1日15分＝週1時間45分程度） 授業内容理解のため、テキストを読み、声に出して予習してくる。特に、前の授業で告知する次回の課題については、繰り返し声に出し練習し、授業に臨めるようにしておくこと。（予習：週1時間30分程度） 事後学習として、授業での内容を意識し、数多くの人との「会話」を実践して、理解を深めるようにすること。（復習：週2時間程度） ②実技テストでは、その場で良い点、改善を進める点を指摘する。 課題発表は、終了後にその場で良い点、改善を進める点を伝え、解説評価を行うとともに、同じ受講学生の皆さんからの感想を聞いてもらう。										

授業計画			学習成果の評価	
1 回	授業内容	声の仕事について		取り組み：発声発音トレーニング
	学習成果	声を使う仕事の概要とプロへの道程を把握し、ふだんの生活の道具である声との違いについて理解を深める。		
	予習復習の内容	ガイダンスで伝える正しい発声のためのトレーニング（呼吸・腹筋）を毎日実践する。		
2 回	授業内容	声の基礎をつくる		取り組み：腹式呼吸の習得
	学習成果	声の材料である息の使い方、及び、胸、口、鼻での響かせ方を理解し、豊かな声を発することができる。		
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、響かせ方で変化する自分の声を全身で確認する。		
3 回	授業内容	自分の声を確かめる		取り組み：照れなく大きな声が出せるか
	学習成果	喉を開くことを覚える。長時間でも疲れずに、大きな声が出せるようになる。		
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、テキスト内の指示した文章を読みこなせるように練習する。		
4 回	授業内容	正しい発音で話す：あ～な行		実技小テスト：「外郎売り」
	学習成果	基本の母音、及び50音の前半「な行」までの正しい口の形を覚え、きれいな発音ができるようになる。		
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、テキストあ～な行の発音練習文を正しく読めるように練習する。		
5 回	授業内容	正しい発音で話す：は～わ行		実技小テスト：「ニュース」
	学習成果	50音の後半「は～わ行」の正しい口の形を覚え、きれいな発音ができるようになる。		
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、テキストは～わ行の発音練習文を正しく読めるように練習する。		
6 回	授業内容	滑舌をよくする		実技小テスト：「ニュース」
	学習成果	口の形の切り替えを素早く行い、歯切れの良い発音ができるようになる。		
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、「外郎売り」の練習をはじめる。		
7 回	授業内容	アクセント		実技小テスト：「ニュース」
	学習成果	単語の音には一つ一つアクセントがあることを理解し、正しい発音ができるようになる。		
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、アクセント辞典の使い方を把握し、ふだんの生活から意識する。		
8 回	授業内容	イントネーション		取り組み：キャリアフェスティバル MC
	学習成果	文章は音の高低で文脈が変化することを理解し、正しく伝わる表現ができるようになる。		
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、長い文章を安定して読めるように練習する。		
9 回	授業内容	イベント MC の基本		取り組み：キャリアフェスティバル MC
	学習成果	学校行事「キャリアフェスティバル」の MC のシナリオを基に司会の仕事の基本を理解する。		
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、シナリオに頼り切らず、人前で自然に話しかける練習をする。		
10 回	授業内容	レポートの基本		課題発表：キャラクター
	学習成果	パブリシティ番組や天気予報など、ラジオ・テレビのレポーターの仕事を理解し、表現できるようになる。		
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、周囲に興味を持ち、表現する題材を見つけられるようになる。		
11 回	授業内容	プロミネンスとポーズ		課題発表：キャラクター
	学習成果	文章の中で、強弱と間を使い分け、相手が理解しやすいように伝えることができる。		
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、多くのラジオ番組を聴き各パーソナリティの表現に触れてくる。		
12 回	授業内容	キャラクターの声		課題発表：キャラクター
	学習成果	場面にあわせ、声質を使い分けて表現することができるようになる。		
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、少なくとも3つ以上のキャラクターの声が表現できる。		
13 回	授業内容	番組ナレーション		課題発表：番組ナレーション
	学習成果	バラエティ、報道、ドキュメンタリー、制作の意向にそった表現ができるようになる。		
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、自分の声や個性にあいそうな実在の番組をみつけ模倣をする。		
14 回	授業内容	CM ナレーション：原稿作り・練習		課題発表：CM ナレーション
	学習成果	短い言葉で最大限のアピールが必要な CM ナレーションで、思い切り表現できるようになる。		
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、作品の参考になるように多くの CM ナレーションを聴く。		
15 回	授業内容	CM ナレーション：作品発表		課題発表：CM ナレーション
	学習成果	自分の個性を活かしたオリジナルの CM で、声の魅力を胸を張って伝えることができるようになる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、仕事として声で表現することについて理解を深める。		

科目名	図書館実習				担当者	関根俊二						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明) 実習中は電話・メールにも対応する(直前指導で伝える)。										
専門的 学習成果	①	司書の業務全般について概要を理解し説明できる。										
	②	基本的な司書の業務を担当することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	訪問時のマナー、電話のマナーなどを理解し、社会やビジネスの場で必要に応じて活用できる。(専門的学習成果②に関連)										
	(2)	社会性をもち、周囲とコミュニケーションをとりながら活動できる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	業務の質の改善を意識しながら活動できる。(専門的学習成果①②に関連)										
授業概要	市内の公共図書館で司書業務に係る実習を行って、司書養成課程で学ぶ知識・技術を実践的に確立する。実習は3日間とし、事前・事後の指導を行い、グループに分かれて実施する。司書業務全般を学び、基本的な業務が確実に担当できるように学ぶ。事前指導では一般的なビジネスマナーを確認・習得するほか、市内の公共図書館について統計的データ等を把握し理解を図る。事後指導では実習報告書に基づき実習の活動を振り返り、点検・評価を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		実習館の評価	50	実習館記載の「評価報告書」								
	授業中の課題の達成度	50	ビジネスマナー15% 図書館理解15% 実習報告(報告・連絡・相談を含む)20%									
	汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②の評価で行う。 (2)は専門的学習成果①②の評価で行う。 (3)は専門的学習成果②の評価で行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			印刷物を配布する。									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	気賀沢よし子他		『マナーの基本と就職対策』				専門教育出版					
	宮城県図書館		『みやぎの公共図書館』									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		学外での実習を行う授業であるので、とりわけ出席やマナー、各課題への取り組みに注意して取り組むこと。これらの点で適性或改善が認められない場合は、授業開始後であっても実習を許可しないことがあるので注意する。 ①日常的に公共図書館を利用し親しんでおくこと。調査活動や図書館の下見見学など、授業外の実習も適宜求める。 ②提出物については評価を添え返却する。実習については実習終了後の報告会で評価を示す。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	オリエンテーション 図書館実習の概要		授業の内容の把握とその説明
	学習成果	授業の内容を把握し説明できる。		
2回	予習復習の内容			
	授業内容	ビジネスマナーの習得① 訪問時のマナー/実習中のマナー		小テスト(課題-ビジネスマナーの習得)
学習成果	訪問時のマナーを理解し、社会やビジネスの場で必要に応じて活用できる。			
3回	予習復習の内容			
	授業内容	ビジネスマナーの習得② 電話のマナー		
学習成果	電話のマナーを理解し、社会やビジネスの場で必要に応じて活用できる。			
4回	予習復習の内容			
	授業内容	ビジネスマナーの習得③ 業務活動中のマナー		
学習成果	業務活動中のマナーを理解し、社会やビジネスの場で必要に応じて活用できる。			
5回	予習復習の内容	小テストに備えた準備を行う。		
	授業内容	実習館の理解① 各館の目標・特徴		レポート(課題-市内図書館の現状)第6回に提出
学習成果	実習館の現状について概要を理解し説明できる。			
6回	予習復習の内容			
	授業内容	実習館の理解② 図書館サービスに係る各種のデータ調査		
学習成果	実習館の現状について概要を理解し説明できる。			
7回	予習復習の内容			
	授業内容	実習館の理解③ 国内図書館との比較調査		
学習成果	実習館の現状について概要を理解し説明できる。			
8回	予習復習の内容	レポート提出に備えてデータを整理しておく。		
	授業内容	短大図書館での業務体験①		基本的な司書業務の遂行
学習成果	体験を通して司書業務の一端を理解し、行うことができる。			
9回	予習復習の内容			
	授業内容	短大図書館での業務体験②		
学習成果	体験を通して司書業務の一端を理解し、行うことができる。			
10回	予習復習の内容			
	授業内容	実習館の見学		実習報告(報告・連絡・相談等、実習活動全般について)
学習成果	実習館の施設・サービスの特徴について理解し説明できる。			
11回	予習復習の内容			
	授業内容	直前指導 実習の流れ 書類の確認 諸注意・連絡		
学習成果	実習を行うのに必要な事項を理解し説明できる。			
12回	予習復習の内容			
	授業内容	市内図書館での実習① 実習館が指定する業務を行う		
学習成果	司書の業務全般について概要を理解し、改善を図りながら基本的な業務を行うことができる。			
13回	予習復習の内容			
	授業内容	市内図書館での実習② 実習館が指定する業務を行う		
学習成果	司書の業務全般について概要を理解し、改善を図りながら基本的な業務を行うことができる。			
14回	予習復習の内容			
	授業内容	市内図書館での実習③ 実習館が指定する業務を行う		
学習成果	司書の業務全般について概要を理解し、改善を図りながら基本的な業務を行うことができる。			
15回	予習復習の内容			
	授業内容	実習報告会 実習の報告とまとめ		
学習成果	司書の業務全般について概要を理解し、改善を図りながら基本的な業務を行うことができる。			
	予習復習の内容	報告会での発表に備え、グループで準備を行う。		

科目名	ビジネス心理学				担当者	ナガノアツシ						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期集中
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的 学習成果	①	心理学発達の歴史について説明できる。										
	②	人と人で行われるコミュニケーションのメカニズムについて説明ができる。										
	③	人間の感情、思考、行動のメカニズムについて説明ができる。										
	④	ビジネス場面における、メンタルヘルスとコミュニケーションの重要性について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	心理学の歴史を学ぶことを通じて、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	人間の総合的判断力のメカニズムについて理解し、適切に活用することができる。(専門的学習成果①③④に関連)										
	(3)	コミュニケーションのメカニズムを理解し、その能力を適切に活かし、社会に貢献することができる。(専門的学習成果②③④に関連)										
授業概要	心理学は、心の科学である。しかし、心というものを目で見て観察することは難しく、そのため、行動そのものが研究対象となったり、無意識という領域を想定し、研究の対象としている。そのすべてを網羅し深く学んでいくことは、心理学者であったとしても不可能といえるかもしれない。本授業では、心理学という考え方が誕生した経緯を踏まえ、現代の社会が抱える諸問題に上手に適応し、毎日を過ごしやすいようにしていくための知恵とスキルを学んでいく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	100	5回実施し、各回20%を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	西川泰夫・高砂美樹		『心理学史』						放送大学教材			
	海保博之・木野木祐明・岡市広成		『心理学研究法』						放送大学教材			
	アルフレッド・ベンジャミン		『カウンセリング入門 支援する心と技術』						春秋社			
	河合隼雄		『カウンセリングの実際問題』						誠信書房			
	アブラハム・H・マスロー		『完全なる人間 魂のめざすもの』						誠信書房			
	大森守・廣尚典・市川佳居		『職場のメンタルヘルス100のレシピ』						金子書房			
森田正馬		『神経質の本態と療法 森田療法を理解する必読の原点』						白揚社				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①1年次の夏休みに行う集中講義である。配布資料を基に、1コマに対し、予習2時間、理解不足を補う復習1時間を行い、学習を深めること。 ②課題の小テストについては、随時コメントを添え返却することでフィードバックとする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	心理学が生まれる前までの歴史	2回目終了時、1回目と2回目の理解について問う小テストを実施する。
	学習成果	歴史上の事象から人間の心のメカニズムについて解説できる。	
	予習復習の内容	人間の“心理”が強く影響したことによって起こった歴史的な出来事について調査する。	
	授業内容	心理学史(1) 心理学の誕生	
2回	学習成果	哲学的心理学、科学的心理学について説明できる。	
	予習復習の内容	ウェーバー、フェヒナー、ヘルムホルツ、ヴェントの業績について調査する。	
3回	授業内容	心理学史(2) ユングとフロイト	4回目終了時、3回目と4回目の理解について問う小テストを実施する。
	学習成果	ユングとフロイトの業績の意義と、二人の相違について説明できる。	
	予習復習の内容	ユングとフロイト、それぞれの活動内容について調査する。	
	授業内容	心理学史(3) 発達心理学	
4回	学習成果	発達心理学の歴史と意義を踏まえ、職場での応用方法について説明できる。	
	予習復習の内容	エリクソンとスーパーの、発達心理学上の貢献について調査する。	
5回	授業内容	自己実現とは何かについて考える。	6回目終了時、5回目と6回目の理解について問う小テストを実施する。
	学習成果	自己実現という考え方が発生した経緯と、その実際について説明できる。	
	予習復習の内容	西洋において教会による支配力が衰退した経緯について調査する。	
	授業内容	心理学の考え方と各種技法(1) リラックス	
6回	学習成果	漸進的筋弛緩法を自律的に行うことができる。	
	予習復習の内容	指定された動画を見て、漸進的筋弛緩法の練習を行う。	
7回	授業内容	心理学の考え方と各種技法(2) カウンセリング	8回目終了時、7回目と8回目の理解について問う小テストを実施する。
	学習成果	来談者中心療法の思想とコミュニケーションのメカニズムについて解説できる。	
	予習復習の内容	指定された動画を見て、カウンセリング的コミュニケーションを練習する。	
	授業内容	心理学の考え方と各種技法(3) メンタルヘルス	
8回	学習成果	現代日本社会のビジネス場面で発生する心理学的課題について説明できる。	
	予習復習の内容	心・メンタルに関連しておこる職場の問題について調査する。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
10回	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
12回	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
14回	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	発酵食品概論				担当者	丸山 穰						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期集中
授業時間数	16 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	①	醗酵と腐敗の違いを説明できる。										
	②	醗酵に必要な条件を説明できる。										
	③	どのような醗酵食品があるか挙げることができる。										
	④	醗酵食品の有効性を説明できる。										
	⑤	味噌・醤油・酒など、製造の過程を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食品加工の上で重要な役割をもつ醗酵の基礎を学ぶことで、社会的・職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)										
	(2)	醗酵の過程や先人たちの工夫を学ぶことで、論理的な思考を行うことができる。(専門的学習成果①②④⑤に関連)										
	(3)	正しい醗酵の知識、醗酵食品の活用方法を学ぶことで、疑似科学等を排し、健全な社会形成に貢献できる。(専門的学習成果②③④⑤に関連)										
授業概要	味噌、醤油、納豆はもちろん、パン、コーヒー、紅茶やチョコレートも醗酵の技術を利用している。醗酵というものが何なのか、そこで働く主役、酵素、微生物を知る。様々な醗酵食品を概観する。日本の食文化に特に深く関わりの深い麹菌について、諸性質や働きを知り、どこでどのように活用されているか知る。身近な食品を幾つか取り上げ、その製造過程で微生物や酵素がどのように働いているか、また我々はどう利用しているかを知る。酵素の働きや性質、醗酵食品の正しい知識を学び、生活に活用できるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	講義終了後、指定の期日内にレポートを提出。								
		平常点	50	授業の態度、関心、意欲を評価する。(授業中の口頭質問を含む。)								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②④⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②③④⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義で習得した知識を実際の生活で確認すること (各コマ2時間程度)。 ネット上などで情報を収集して講義に臨むこと。 ②それらは授業中に適宜確認し、解説を加えていく。授業後も質問を受け付ける。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	醗酵食品、醗酵とは？	その回の学習内容の確認を口頭にて行う。
	学習成果	醗酵が利用されている食品をあげ、醗酵とはなにか説明できる。	
	予習復習の内容	身近な醗酵食品や醗酵の技術の利用を調べる。	
	授業内容	醗酵の場面で活躍する微生物について	その回の学習内容の確認を口頭にて行う。
2回	学習成果	我々が利用している微生物がどのようなものでどのように働くか説明できる。	
	予習復習の内容	微生物の利用を調べる。	
	授業内容	酵素の発見、バイオテクノロジーの発展	その回の学習内容の確認を口頭にて行う。
3回	学習成果	酵素の発見やバイオテクノロジーの発展の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常生活について理解を深める。	
	授業内容	酵素の働き・性質	その回の学習内容の確認を口頭にて行う。
4回	学習成果	酵素の働きや性質が説明でき、正しく活用することができる。誇張広告を見分けることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常生活について理解を深める。	
	授業内容	麹菌の働き～麹菌の諸性質	その回の学習内容の確認を口頭にて行う。
5回	学習成果	国菌「麹菌」について性質や利用方法が説明ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常生活について理解を深める。	
	授業内容	麹菌の働き～味噌、醤油、あまさけの作り方	その回の学習内容の確認を口頭にて行う。
6回	学習成果	麹菌を利用した食品について、どのように麹菌が働いているか説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常生活について理解を深める。	
	授業内容	日本酒『巧みな並行複醗酵の活用』、ビール、ウイスキー、ワイン等の製造方法	その回の学習内容の確認を口頭にて行う。
7回	学習成果	世界の酒の作り方や並行複醗酵を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常生活について理解を深める。	
	授業内容	全体のまとめと課題レポートについて	学習内容の確認を口頭にて行う。
8回	学習成果	醗酵食品や醗酵の技術の活用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常生活について理解を深める。	
	授業内容		
9回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
10回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
11回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
12回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
13回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
14回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
15回	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	国内語学研修				担当者	ヤマカワ ナミ						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期集中
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー（初回授業で説明）か、Classroom、Eメールで行う。yamakawa.na@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	イギリスの歴史・文化を学習することにより、日本との違いを探究できる。										
	②	英会話を通じ、外国人とコミュニケーションをとることができる。										
	③	国内外の人々との触れ合いにより、生活様式を学習し日常生活に生かすことができる。										
	④	食事マナーを通して社会人としての立ち振る舞いを実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	イギリスを始め欧米諸国の研究により異文化を理解し、国際社会でも積極的に行動することができる。（専門的学習成果①②③）										
	(2)	社会人として国際的に通用するマナーを実践できる。（専門的学習成果②③）										
授業概要	交通インフラや情報インフラの整備で、世界は驚くほど近く身近なものとなっている。それに伴い海外の人々との交流も活発になっている。広く交流を深めるためには、語学だけではなく生活面においてのマナーが重要になってくる。講座では英国の歴史・文化を研究・理解し、「パスポートのいらない英国」と言われる「ブリティッシュヒルズ」に滞在することで直に外国人と触れ合う。今後社会人として国内外で活躍できる人材を育てることを目的に、実習を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	実習後のレポート提出により、実習に対する取り組みを評価する。								
		グループワーク										
	平常点	30	授業・実習に対する意欲・取り組みを評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②により評価する。 (2) は専門的学習成果②③により評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 1・2年共に受講できる。事前説明会を実施し、説明会に参加してからの履修も可能とする。研修参加費用は受講者数・諸事情により確定できないが、約3万円程を予定している。また受講者数・諸事情で中止になる場合がある。事前学習として英国についての情報を収集すること。また履修者間等での英会話を心掛ける（予習：週2時間程度）。授業後は講義内容の振り返り、疑問点等を調べ、理解を深める（復習：週2時間程度）。 ② レポートは後日返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	レポート提出
	学習成果	実習の意義を指摘できる。	
2回	予習復習の内容	英国の歴史・文化を研究する。	
	授業内容	英国の歴史・文化	
3回	学習成果	英国の歴史・文化を理解できる。	
	予習復習の内容	英国の歴史・文化を研究する。	
4回	授業内容	ブリティッシュヒルズ研究	
	学習成果	実習先施設を説明できる。	
5回	予習復習の内容	実習先を調査・研究する。	
	授業内容	世界のマナー	
6回	学習成果	主要国の文化を理解できる。	
	予習復習の内容	世界の習慣を研究する。	
7回	授業内容	食事マナー	
	学習成果	食事マナーを実践できる。	
8回	予習復習の内容	洋食マナー研究	
	授業内容	宿泊施設マナー	
9回	学習成果	ホテル宿泊のマナーを実践できる。	
	予習復習の内容	宿泊マナーの確認	
10回	授業内容	ホテル客室の利用	
	学習成果	ホテル客室内の備品を使用できる。	
11回	予習復習の内容	ホテル客室内備品研究	
	授業内容	英会話レッスン	
12回	学習成果	外国人講師と英語での挨拶・自己紹介ができる。	
	予習復習の内容	英会話レッスン	
13回	授業内容	英会話レッスン	
	学習成果	外国人講師と日常会話ができる。	
14回	予習復習の内容	英会話レッスン	
	授業内容	夕食のマナー	
15回	学習成果	洋食のマナーが実践できる。	
	予習復習の内容	ナイフ・フォークの使い方	
16回	授業内容	パブリックスペースの使い方	
	学習成果	ホテル内のパブリックスペースで他者との交わりができる。	
17回	予習復習の内容	パブリックスペースで過ごす。	
	授業内容	アクティビティ	
18回	学習成果	ホテルスタッフと英語でアクティビティを楽しむことができる。	
	予習復習の内容	英会話レッスン	
19回	授業内容	朝食マナー	
	学習成果	ホテル内朝食会場で食事マナー実践できる。	
20回	予習復習の内容	朝食マナー	
	授業内容	英会話レッスン	
21回	学習成果	外国人講師とホテル敷地内を英語を使い散歩できる。	
	予習復習の内容	英会話レッスン	
22回	授業内容	ホテル散策	
	学習成果	ホテル全般を理解できる。	
23回	予習復習の内容	実習全体をレポートにまとめる。	
	レポート提出		

科目名	ディズニーアカデミー研修				担当者	ヤマカワ ナミ							
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期集中	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー(初回授業で説明)か、Classroom、Eメールで行う。yamakawa.na@seiwa.ac.jp												
専門的 学習成果	①	欧米等の歴史や文化を研究することにより、日本との相違を探究することができる。											
	②	ディズニーランドスタッフの「ホスピタリティ」を学習し実践できる。											
	③	観光産業におけるテーマパークの位置付けと意義を論じることができる。											
	④	多くの人々が集う公共の場で、マナー実践ができる。											
汎用的 学習成果	(1)	日常英会話を通して外国人と触れ合い、国際社会で生かすことができる。(専門的学習成果①④)											
	(2)	コミュニケーションの基本である他者の考えを尊重し、思いやることができる。(専門的学習成果②④)											
	(3)	人間関係の構築に積極的に関わりを持ち行動することができる。(専門的学習成果②③)											
授業概要	国内外から年間約3000万人の観光客が訪れる東京ディズニーリゾート。オープン当初は何年で閉園するのと言われたが、現在では世界を代表するテーマパークに成長した。また来園者のリピート率は9割にもおよび驚異的な数字を挙げている。この講義では東京ディズニーリゾートで働くキャスト(東京ディズニーリゾートで働く人のこと)の生の声を聴き、「おもてなし」「仕事に対する思い」「仕事のやりがい」を学ぶ。講義後、実際にパークに足を運び体験することにより、学んだことの理解を深める。また、テーマパークの魅力を探り、観光産業が社会に及ぼす影響力を学習する。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	30	実習後のレポート提出により、実習に対する取り組みを評価する。									
		グループワーク											
		平常点	30	授業・実習に対する意欲・取り組みを評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②により評価する。 (2) は専門的学習評価②③により評価する。 (3) は専門的学習成果①②③④により評価する。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		① 1・2年共に受講できる。事前説明会を実施し、説明会に参加してからの履修も可能とする。研修参加費用は受講者数・諸事情により確定できないが、約3～5万円程を予定している。また受講者数・諸事情で中止になる場合がある。事前学習として東京ディズニーリゾート及びテーマパークについての情報を収集すること(予習:週2時間程度)。授業後は講義内容の振り返り、疑問点等を調べ、理解を深める(復習:週2時間程度)。 ②レポートは後日返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	レポート提出
	学習成果	実習の意義を指摘できる。	
2回	予習復習の内容	東京ディズニーリゾートを研究する。	
	授業内容	テーマパークの研究	
3回	学習成果	テーマパークの存在価値を説明できる。	
	予習復習の内容	テーマパークを研究	
4回	授業内容	東京ディズニーリゾート研究	
	学習成果	東京ディズニーリゾートを説明できる。	
5回	予習復習の内容	東京ディズニーリゾート施設研究	
	授業内容	東京ディズニーリゾート研究	
6回	学習成果	東京ディズニーリゾートのホスピタリティを理解できる。	
	予習復習の内容	東京ディズニーリゾート研究	
7回	授業内容	ホスピタリティ概念	
	学習成果	社会生活でのホスピタリティを理解できる。	
8回	予習復習の内容	ホスピタリティ研究	
	授業内容	東京ディズニーリゾート近隣ホテル見学	
9回	学習成果	ホテル施設を理解できる。	
	予習復習の内容	ホテル研究	
10回	授業内容	ホテル施設見学	
	学習成果	演習するホテルの施設を理解できる。	
11回	予習復習の内容	ホテル内施設研究	
	授業内容	東京ディズニーリゾートスタッフによるおもてなし講義	
12回	学習成果	東京ディズニーリゾートのおもてなしを理解できる。	
	予習復習の内容	東京ディズニーリゾートマニュアル研究	
13回	授業内容	東京ディズニーリゾートスタッフによるおもてなし講義	
	学習成果	東京ディズニーリゾートのおもてなしを理解できる。	
14回	予習復習の内容	東京ディズニーリゾートマニュアル研究	
	授業内容	東京ディズニーリゾート実地研修	
15回	学習成果	東京ディズニーリゾートの実際のおもてなしを理解できる。	
	予習復習の内容	東京ディズニーリゾート実地研究	
16回	授業内容	東京ディズニーリゾート実地研修	レポート提出
	学習成果	東京ディズニーリゾートの実際のおもてなしを理解できる。	
17回	予習復習の内容	東京ディズニーリゾート実地研究	
	授業内容	リゾートライン研修	
18回	学習成果	リゾート全体を説明できる。	
	予習復習の内容	実習全体をレポートにまとめる。	

科目名	現代会計と企業経営				担当者	ナガノアツシ						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期集中
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスパワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的 学習成果	①	現代の会計制度のしくみの概要を説明することができる。										
	②	企業がどのように会計制度を活用しているか、説明することができる。										
	③	企業の財務諸表から、企業の経営状態や経営成績について読み取り、議論することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	企業会計に関する知識を身につけ、社会的自立に必須の知見を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	多様な業種・業態・規模の企業を調査・分析することで、企業評価の実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	同業他社の企業比較を行い、分析する手法を駆使し、職業人としての実務に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	企業を評価する一つの方法は決算書から得られる情報によって分析を行うことである。社会人・職業人として必須のこの知識・技術を、会計制度が成り立つ歴史の変遷を踏まえ、現存する企業群を会計的アプローチから精査し、自分なりの見解を述べ、討議することができるようになることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	100	各回のテストにより、各回12.5%を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①1年次学生の、春休みに行う集中講義である。オンラインを介した資料配布、小テストを行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノートPCなどを持参すること。</p> <p>②小テストは、原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。</p> <p>③予習復習には、それぞれ1時間程度かけることが期待されるが、集中授業のため授業と授業の間に行うことは難しいことが予想される。そのため、事前課題、事後学習を入念に行うこと。</p> <p>④企業分析を行う予定の企業については、授業実施の際の社会状況を踏まえたり、参加学生の関心に応じて変更することがある。</p>											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	会計制度とは何か？	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	会計制度の成立について、歴史の変遷を踏まえ、理解する。	
2回	予習復習の内容	事前の課題に基づき、会計制度の歴史について資料を読み込む。	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	授業内容	企業の財務情報はどのようにして入手するか？	
3回	学習成果	有価証券報告書や決算短信の入手方法や、コンセプトの違いを理解する。	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	予習復習の内容	事前の課題に基づき、複数の決算資料の違いについての資料を読み込む。	
4回	授業内容	決算書の構成と名称	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書について学ぶ。	
5回	予習復習の内容	決算書の名称ならびに主要な勘定科目について理解・記憶する。	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	授業内容	企業分析の実際①安全性	
6回	学習成果	貸借対照表を利用した代表的分析手法を学ぶ。例：トヨタ自動車	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。	
7回	授業内容	企業分析の実際②収益性	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	損益計算書を利用した代表的分析手法を学ぶ。例：オリエンタルランド	
8回	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	授業内容	企業分析の実際③効率性	
9回	学習成果	貸借対照表と損益計算書を合わせた効率性の代表的手法を学ぶ。例：ファーストリテイリング	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。	
10回	授業内容	企業分析の実際④分析結果を総合的に評価する (1) 時系列変化	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	これまで学んだ分析手法を総合し、時系列の変化に着目し、評価する。	
11回	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	授業内容	企業分析の実際⑤分析結果を総合的に評価する (2) 同業他社比較	
12回	学習成果	これまで学んだ分析手法を総合し、同業他社を比較し評価する。	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。	
13回	授業内容		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果		
14回	予習復習の内容		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	授業内容		
15回	学習成果		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	予習復習の内容		

科目名	ベーシックゼミ				担当者	専任教員						
区分	選択必修	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法	担当教員のオフィスアワーまたは、メールアドレスを通じて連絡する。第1回目の授業以前に、メールアドレスについては告知がある。											
専門的 学習成果	①	担当教員の専門および関連する領域について、テーマを設定、調査、探求し、研究成果として作品をつくりあげ、教養を高める。										
	②	建学の精神と地域の特性を理解し、主体性・自主性を伸ばし、社会貢献する知見と技術を身に付け、機会に応じて実践する。										
	③	自身の特徴を理解し、卒業後の方向性について検討し、進路選択を明確にし、自立した社会人・職業人になる。										
汎用的 学習成果	(1)	担当教員の専門および関連する領域について、テーマを設定、調査、探求し、研究成果として作品をつくりあげる過程で、社会的・職業的自立に必要な知見および態度を獲得し、職業人として自立し、問題解決に活かすことができる。(専門的学習成果①③に関連)										
	(2)	自身の特徴を理解し、卒業後の方向性について検討し、進路選択を明確にする過程で、論理的思考を高め、自己理解を深め、アイデンティティを確立させる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	建学の精神と地域の特性を理解し、主体性・自主性を伸ばし、自らの能力を活かし、周囲と協働し、社会貢献ができる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	本学の理念である仏教精神に学びながら、自己と他者とともに慈しみ尊重する和の心をもって社会に貢献する生きる力について考え、体験する機会が与えられる。また、社会人としての基本であり、人間が生きる上で最も重要なコミュニケーション能力について、鍛錬し高めていく。更に社会生活をする上での挨拶、慣習、儀礼などについても、最低限の素養を身に付け、教養を深める。ゼミ活動および他ゼミ学生との交流を通じて、協働していく力を養う。各種活動を通じて、進路選択に向けた自立性の確立を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		研究記録	30	研究記録を1本作成する。								
		発表	20	研究について発表を行う。								
	汎用的 学習成果	平常点	50	授業・研究に取り組む意欲、姿勢、自主性、協働力								
			(1) は、専門的学習成果①③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果②③で評価を行う。									
テキスト等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①学生生活について重要な情報についての連絡を頻繁に行うため、常に、最新の正しい情報を入手するように配慮する。配布した資料については、熟読し、的確な理解をするように心がける。予習復習それぞれ週1時間程度必要になる。 ②研究については進捗状況を随時確認し、コメントする。作品完成の際についても、口頭または書面にてコメントを行う。発表については、口頭によるコメントでフィードバックを行う。平常点にかかる観点については、随時コメントを行う。											

授業計画		学習成果の評価	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス／履修計画確認	16回	授業内容	履修計画確認・取得単位数確認
	学習成果	ベーシックゼミの意義について理解し、目的意識をもって授業に取り組むことができる。自らのキャリア構築に必要な履修計画を検討する。		学習成果	キャリアの方向性と履修科目の整合性および単位数を精査検証する。
	予習復習の内容	授業の時間割を精査し、年間の授業計画をより緻密に作成する。		予習復習の内容	シラバスを熟読する。
2回	授業内容	スケジュール／履修計画再確認	17回	授業内容	履修期計再確認・取得単位数再確認
	学習成果	ベーシックゼミの年間スケジュールに合わせた自らの行動計画について検討する。履修計画については再度の検討を行う。		学習成果	履修登録の変更・修正の訂正の反映の確認ならびに、予定取得単位数の妥当性について検討する。
	予習復習の内容	研究プランについての構想づくりに着手する。		予習復習の内容	自身の単位取得可能性について、実績を踏まえ検討する。
3回	授業内容	建学の精神再確認	18回	授業内容	研究テーマに沿った、幅広い調査
	学習成果	建学の精神に立ち返り、自らの進むべき道、行うべきことについて内省する。		学習成果	研究テーマにかかる文献等について、幅広い情報の収集を行い、整理する。
	予習復習の内容	建学の精神に適った行動であったか検証してみる。		予習復習の内容	文献・資料の分量の程度を調べ、自身が調査できる範囲について特定する。
4回	授業内容	キャリア構築進捗確認／研究テーマの選択開始	19回	授業内容	研究テーマに沿った、バラエティーに富んだ調査
	学習成果	キャリア構築の進展について精査する。研究テーマについて選択を始める。		学習成果	研究テーマにかかる文献等について、多角的視点から調査し、テーマについて俯瞰的な位置づけをする。
	予習復習の内容	大きな図書館に赴き、様々な領域について、種類、書籍の分量などを調査する。		予習復習の内容	研究テーマについて、異なる学問領域からの提言や、異議申立てなどを調べる。
5回	授業内容	キャリア構築進捗相談／研究テーマの選択	20回	授業内容	研究テーマに沿った、先行文献調査
	学習成果	キャリア構築の進捗について課題等について担当教員と検討する。研究テーマについて絞り込みを始める。		学習成果	研究テーマにかかる文献のうち、最も高い信頼度と深く探求している文献を調べ、内容を精査する。
	予習復習の内容	キャリアについて教職員・専門家と相談する機会を積極的に設ける。		予習復習の内容	研究テーマの「問い」が先行研究について明らかにされているものかどうか精査する。
6回	授業内容	研究テーマの調査	21回	授業内容	研究テーマに沿った、学術論文調査
	学習成果	研究テーマについて調査を始める。		学習成果	研究テーマにかかる、最新の学術論文を調査し、先鋭的観点に触れる。
	予習復習の内容	テーマが示す範囲を特定できるよう図書館における分類方法について調査・確認する。		予習復習の内容	学術論文を模倣し、文体に慣れる。
7回	授業内容	研究テーマの多角的調査	22回	授業内容	研究記録のコンテンツのシナリオ構成
	学習成果	研究テーマについて多角的調査を始める。		学習成果	研究記録のコンテンツの要素を整理し、その配列と論理性について検証する。
	予習復習の内容	類似テーマ、真逆テーマなど、多角的な調査を、司書など専門家に相談して進める。		予習復習の内容	配列と論理性に配慮し、第一校を作成する。
8回	授業内容	研究テーマの再検討	23回	授業内容	研究記録、第一校提出
	学習成果	研究テーマの妥当性について検討する。		学習成果	第一校を提出し、担当教員と協議・相談する。
	予習復習の内容	テーマの研究としての独自性が担保されるか、司書など専門家に相談する。		予習復習の内容	第一校を訂正し、第二校を作成する。
9回	授業内容	研究テーマの明確化	24回	授業内容	研究記録、第二校提出
	学習成果	研究テーマを明確化する。		学習成果	第二校を提出し、担当教員と協議・相談する。
	予習復習の内容	研究範囲を特定し、周辺領域との差異が明確になっているか、図書館などで調べる。		予習復習の内容	第二校を訂正し、第三校を作成する。
10回	授業内容	研究テーマの叙述化	25回	授業内容	研究記録、校了
	学習成果	研究テーマについて文章化し、論理性・整合性について精査する。		学習成果	第三校を提出し、担当教員と協議・相談する。
	予習復習の内容	研究範囲を、端的な文章表現で示せるよう、推敲を繰り返す。		予習復習の内容	第三校を修正し、校了とする。口頭発表に向けた資料作りを始める。
11回	授業内容	研究テーマの叙述化の吟味	26回	授業内容	建学の精神の学習の振り返り
	学習成果	研究テーマの「問い」に焦点を当て、研究する価値の妥当性について検証する。		学習成果	2年間の活動を振り返り、建学の精神の具現化としての妥当性を検証するとともに、卒業後に活かしていく道筋について検討する。
	予習復習の内容	「問い」が以降、半年かけて探求する価値のあるものか、再度検討する。		予習復習の内容	口頭発表資料を完成させる。
12回	授業内容	学科のポリシーの再確認	27回	授業内容	研究記録口頭発表に向けたリハーサル
	学習成果	学科におけるポリシーについて再確認し、コミュニティ活動などへの参加について検討し、実行に移す。		学習成果	口頭発表の時間配分、協働の役割について確認する。
	予習復習の内容	これまでの活動履歴を振り返り、活動計画を見直す。		予習復習の内容	手順の確認をし、練習を重ねる。
13回	授業内容	研究テーマの叙述化の校正	28回	授業内容	研究記録の口頭発表
	学習成果	叙述化した研究テーマを精査し、校正する。		学習成果	口頭発表を行い、かつ、他者の発表から多様な研究の在り方について認識を持つ。
	予習復習の内容	文章としての歪み、重複、冗長性について検証する。		予習復習の内容	口頭発表を踏まえ、研究記録再度見直し、推敲する。
14回	授業内容	研究テーマの口頭発表	29回	授業内容	研究記録完成・提出
	学習成果	研究テーマについて口頭発表し、他者からのフィードバックを受ける。		学習成果	研究記録を提出し、ゼミ担当教員より、コメントを受ける。
	予習復習の内容	研究テーマが提示する問題意識の妥当性を再検証する。		予習復習の内容	研究記録作成までに得た、派生的な情報を整理し、今後の自己研鑽に役立てる準備をする。
15回	授業内容	キャリア構築進捗の振り返り	30回	授業内容	2年間の総括／卒業に向けた各種情報の案内
	学習成果	これまでのキャリア構築の道程を振り返り、自身の活動計画に反映する。		学習成果	2年間の学生生活を振り返り、今後の展望について計画を立てる。
	予習復習の内容	様々な選択肢について調査し、自身の選択の妥当性について検討する。		予習復習の内容	卒業式までの計画、および、それ以降のキャリアプランについて展望を新たに構想する。

科目名	キャリアデザインⅢ				担当者	専任教員						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				Google Classroom を活用する。								
専門的 学習成果	①	現代社会の発展を展望しつつ、課題を発見し自らに引き付けて解決していくために前向きに取り組むことができる。										
	②	社会の現在と将来について洞察し、自らのキャリアを能動的に築いていくことができる。										
	③	社会人・職業人として適応するための学習を通じて、自らの職業観を涵養していくことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会の発展を展望しつつ、課題を発見し自らに引き付けて解決する志向を高めることで、社会的・職業的自立に必要な知見および態度を獲得し、職業人としての自立に活かすことができる。(専門的学習成果①③に関連)										
	(2)	社会の現在と将来について洞察し、自らのキャリアを動的に構築することの重要性を学習することで、論理的思考を高め、自己理解を深め、社会人・職業人として協働することができる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	社会人・職業人として適応するための学習により、自らの職業観を確立する過程を通じて、地域の発展に寄与する意義を再認識し、より積極的な貢献者となる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	社会を構成する主体的な一員となり、職業人として自立していくことを視野に、社会で自らを活かせるキャリアの将来について検討・洞察するための知見と技能を開発・発展させていく(Career Development)。キャリア構築に必要な最新の情報が随時提供され、それらを取捨選択し、学習から得られた知見を自身に適用・応用させる。学生各人にとって重要な社会人・職業人として必須の知識や技術の改善・向上に取り組み、自らの可能性を広げていく。キャリア開発総合学科の必修科目である。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	15回実施する。								
		平常点	20	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。								
		言語・非言語 テスト	10	適宜、実施する(8回程度)。								
汎用的 学習成果	汎用的学習の成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	ディスコ	『進路ガイドブック 2021 - 2022』				ディスコ						
	実務教育出版教材編集部	『SPI 基礎からはじめる問題集』				実務教育出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①社会人・職業人に求められる一般常識レベルの維持・向上に努めること。学習過程において、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと。(予習:週 2 時間程度、復習:週 2 時間程度) ②課題に対しては、随時フィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	レポート①授業報告書
	学習成果	授業計画を理解し、卒業後のキャリアデザインを描くことができる。	
2回	予習復習の内容	各種メディアから、キャリアデザインの最新情報を調査する。	レポート②授業報告書
	授業内容	筆記試験対策(1)	
3回	学習成果	採用活動における筆記試験の意味を理解し、自分なりの対策を計画できる。	レポート③授業報告書
	予習復習の内容	筆記試験の対策を実践する。	
4回	授業内容	ニーズ別学習(1) 履歴書作成、面接練習など	レポート④授業報告書
	学習成果	各人が選択した課題や練習に取り組み、実践できるようになる。	
5回	予習復習の内容	自分が取り組むべき課題を認識する。授業の内容を実践する。	レポート⑤授業報告書
	授業内容	筆記試験対策(2)	
6回	学習成果	採用活動でSPIが用いられる意味を理解し、対策することができる。	レポート⑥授業報告書
	予習復習の内容	SPI対策を実践する。	
7回	授業内容	就職活動における服装など	レポート⑦授業報告書
	学習成果	就職活動にふさわしい身だしなみについて理解できる。	
8回	予習復習の内容	社会人としての基本的なマナーやエチケットを確認しておく。	レポート⑧授業報告書
	授業内容	ニーズ別学習(2) 履歴書作成、面接練習、労働法解説など	
9回	学習成果	各人が選択した課題や練習に取り組み、実践できるようになる。	レポート⑨授業報告書
	予習復習の内容	自分が取り組むべき課題を認識する。授業の内容を実践する。	
10回	授業内容	ニーズ別学習(3) 履歴書作成、面接練習(リモートを含む)、筆記試験対策など	レポート⑩授業報告書
	学習成果	各人が選択した課題や練習に取り組み、実践できるようになる。	
11回	予習復習の内容	自分が取り組むべき課題を認識する。授業の内容を実践する。	レポート⑪授業報告書
	授業内容	筆記試験対策(3)	
12回	学習成果	筆記試験に備えて実際に取り組める。	レポート⑫授業報告書
	予習復習の内容	筆記試験の種類を意識して、準備を実践する。	
13回	授業内容	ニーズ別学習(4) 志望動機書作成、履歴書作成、面接練習、ビジネス文書作成など	レポート⑬授業報告書
	学習成果	各人が選択した課題や練習に取り組み、実践できるようになる。	
14回	予習復習の内容	自分が取り組むべき課題を認識する。授業の内容を実践する。	レポート⑭授業報告書
	授業内容	卒業生との懇談会	
15回	学習成果	本学科OB/OGの進路開拓の経験聞き、自分の進路開拓に役立てることができる。	レポート⑮授業報告書
	予習復習の内容	懇談会の内容を自分自身に当てはめて考察する。	
16回	授業内容	採用担当者との懇談会	レポート⑯授業報告書
	学習成果	採用者が求める人物像や能力を知り、自分の進路開拓に役立てることができる。	
17回	予習復習の内容	懇談会の内容を自分自身に当てはめて考察する。	レポート⑰授業報告書
	授業内容	ニーズ別学習(5) 新卒応援ハローワークによる講演、面接練習、労働法解説など	
18回	学習成果	各人が選択した課題や練習に取り組み、実践できるようになる。	レポート⑱授業報告書
	予習復習の内容	自分が取り組むべき課題を認識する。授業の内容を実践する。	
19回	授業内容	ニーズ別学習(6) 履歴書作成、面接練習、ビジネス文書作成など	レポート⑲授業報告書
	学習成果	各人が選択した課題や練習に取り組み、実践できるようになる。	
20回	予習復習の内容	自分が取り組むべき課題を認識する。授業の内容を実践する。	レポート⑳授業報告書
	授業内容	ニーズ別学習(7) 新卒応援ハローワークによる講演、面接練習など	
21回	学習成果	各人が選択した課題や練習に取り組み、実践できるようになる。	レポート㉑授業報告書
	予習復習の内容	自分が取り組むべき課題を認識する。授業の内容を実践する。	
22回	授業内容	振り返り	レポート㉒授業報告書
	学習成果	自分のこれまでの活動を振り返り、今後のキャリアデザインに反映できる。	
23回	予習復習の内容	社会人・職業人に求められる姿を明確に意識し、追求に努める。	

科目名	コンピュータ会計演習				担当者	畑 中 恵 司						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。										
専門的 学習成果	①	コンピュータ会計の仕組みを述べることができる。										
	②	実践的入力演習により会計実務に対応できる。										
	③	出力帳表（貸借対照表、損益計算書、資金繰り表）から経営分析ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	コンピュータ会計を学ぶことにより、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	入力演習により、社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果②③に関連）										
授業概要	コンピュータ会計の基礎知識を習得し、会計ソフトの入力方法および出力帳表の分析方法を体系的・実践的に学習する。具体的には1コマ目に、コンピュータ会計の理論と実務の流れを学ぶ。2コマ目に、弥生会計ソフトを使って、会社の設立から、日々の取引の入力（仕訳日記帳入力・帳簿入力・伝票入力）を行い、出力帳表（仕訳日記帳、現金出納帳、預金出納帳、総勘定元帳、貸借対照表、損益計算書等）を読み解き、分析できるようになる。本講義においては、簿記の知識が無くてもコンピュータ入力を通して会計実務が習得できるように指導する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		演習テスト	60	最終回に総合演習のテストを行い評価する。								
		提出物	30	毎回の演習課題の提出状況により評価する。								
		平常点	10	授業態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②及び③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			レジュメ、資料配布									
	弥生株式会社		『令和5年度版 コンピュータ会計初級 テキスト・問題集』				実教出版					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	弥生株式会社		『令和5年度版 コンピュータ会計基本・問題集』				実教出版					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①教科書・事前配布資料をよく読んでおくこと。（予習：週1時間程度）コンピュータ会計ソフトの実践演習が必要となるので自宅のパソコン、または学校のパソコンを積極的に活用して入力演習を行うこと（復習：週1時間程度） ②提出物に対するフィードバックは、提出時に正解を示し解説する。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	コンピュータ会計の意義、データの流れ、原始証憑の見方。 入出力演習①会社登録	
	学習成果	コンピュータ会計の全体像と原始証憑について説明できる。	
3・4回	予習復習の内容	コンピュータのデータの流れと原始証憑について調べておく。会社登録方法を確認する。	
	授業内容	会計データの把握①経費に関する処理（現金、クレジット） 入出力演習②科目登録（補助科目）	
5・6回	学習成果	経費に関する処理（現金、クレジット）について説明できる。	
	予習復習の内容	経費に関する処理（現金、クレジット）について調べておく。科目登録（補助科目）方法を確認する。	
7・8回	授業内容	会計データの把握②経費に関する処理（銀行自動振替の場合） 入出力演習③残高登録	
	学習成果	経費に関する処理（銀行自動振替の場合）について説明できる。	
9・10回	予習復習の内容	経費に関する処理（銀行自動振替の場合）について調べておく。残高登録方法を確認する。	
	授業内容	会計データの把握③仕入に関する処理（商品購入と代金支払） 入出力演習④消費税設定	
11・12回	学習成果	仕入に関する処理（商品購入と代金支払）について説明できる。	
	予習復習の内容	仕入に関する処理（商品購入と代金支払）について調べておく。消費税設定方法を確認する。	
13・14回	授業内容	会計データの把握④売上に関する処理（商品販売と代金回収） 入出力演習⑤仕訳帳入力	
	学習成果	売上に関する処理（商品販売と代金回収）について説明できる。	
15・16回	予習復習の内容	売上に関する処理（商品販売と代金回収）について調べておく。仕訳帳入力方法を確認する。	
	授業内容	会計データの把握⑤給料に関する処理（給与明細の内容） 入出力演習⑥通帳入力	
17・18回	学習成果	給料に関する処理（給与明細の内容）について説明できる。	
	予習復習の内容	給料に関する処理（給与明細の内容）について調べておく。通帳入力方法を確認する。	
19・20回	授業内容	会計データの把握⑥商品在庫と売上原価に関する処理 入出力演習⑦振替伝票入力	
	学習成果	商品在庫と売上原価について説明できる。	
21・22回	予習復習の内容	商品在庫と売上原価について調べておく。 振替伝票入力方法を確認する。	
	授業内容	会計データの把握⑦固定資産の購入と減価償却に関する処理 入出力演習⑧帳簿入力	
23・24回	学習成果	固定資産の購入と減価償却に関する処理について説明できる。	
	予習復習の内容	固定資産の購入と減価償却に関する処理について調べておく。 帳簿入力方法を確認する。	
25・26回	授業内容	会計データの把握⑧出力帳表の種類 入出力演習⑨仕訳日記帳出力	
	学習成果	出力帳表の種類について説明できる。	
27・28回	予習復習の内容	出力帳表の種類について調べておく。 仕訳日記帳出力方法を確認する。	
	授業内容	会計データの把握⑨出力帳表の見方（貸借対照表） 入出力演習⑩総勘定元帳出力	
29・30回	学習成果	出力帳表（貸借対照表）について説明できる。	
	予習復習の内容	出力帳表（貸借対照表）について調べておく。 総勘定元帳を出力し確認する。	
31・32回	授業内容	会計データの把握⑩出力帳表の見方（損益計算書） 入出力演習⑪補助科目出力	
	学習成果	出力帳表（損益計算書）について説明できる。	
33・34回	予習復習の内容	出力帳表（損益計算書）について調べておく。補助科目出力方法を確認する。	
	授業内容	会計データのバックアップとリストアについて 入出力演習⑫データ保存とリストア	
35・36回	学習成果	会計データのバックアップの重要性とリストアについて説明できる。	
	予習復習の内容	会計データのバックアップの重要性とリストアについて調べておく。 データ保存とリストア方法を確認する。	
37・38回	授業内容	総合演習問題の実践演習	
	学習成果	実務上の一連の会計処理を総合演習問題により理解できる。	
39・40回	予習復習の内容	あらかじめ総合演習問題の内容を調べ、仕訳の確認を行う。	
	授業内容	総合演習問題の解説	
41・42回	学習成果	実務上の一連の会計処理を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	模擬試験問題に目を通しておく。 再度入力内容を確認する。	
43・44回	授業内容	総合演習実践テスト	
	学習成果	総合演習実践テストにより、入力スピードが速くなり実務に対応できる。	
45・46回	予習復習の内容	模擬試験問題にチャレンジする。間違い箇所の再チェックをする。	

科目名	オフィススタディ				担当者	富田幸重						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	30											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーについては初回の授業で連絡する。授業内容に関する質問は毎回、授業前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	ビジネス実務について深く理解し、実践できる。										
	②	マナー・接遇について深く理解し、実践できる。										
	③	場面や状況に応じた的確な判断と人間関係に配慮した表現を習得し、適切な行動ができる。										
	④	ビジネス社会の現状や自己のキャリア形成についての課題を把握し、適切な指針を提示することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	実践的なビジネス能力を学ぶことを通して、社会的職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	ビジネスに必要とされるコミュニケーション能力が養われ、他者を理解し自己表現ができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	ビジネス社会の課題や自己のキャリア形成について自ら考えることができ、その解決に向けた提案をすることができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	社会人として自分に求められているものは何か。キャリア形成において必要なものは何か。企業におけるコンプライアンス・プログラムとはどのようなことを言うのか。それを踏まえながら、ビジネス実務の遂行について深い理解を持ち、業務全般に関して、的確な知識・技能を発揮できる。さらには、ビジネス社会や時事問題に興味関心を持ち、社会の一員となるべく、就職活動にも積極的に行動するよう学びを積み重ねることにより、魅力的な自己表現力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	テーマに沿ったレポートの評価 (体裁・内容・根拠・独創性にて評価する。)								
		筆記試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価する。								
汎用的 学習成果	平常点	10	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。									
		(1) は専門的学習成果①～④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④にて評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前学習として、日常的に新聞、マナーテキスト本及び関連した資料などを利用し、授業内容の理解を深めておくこと (計30時間)。事後学習としては、授業の内容を復習し、就職における情報収集や、専門的知識を身につけ、自主的に学びを発展させるようにすること (計30時間)。 ②提出された課題・レポート・試験は、全体的な解説・講評・アドバイスをもってフィードバックとする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 日本の会社と業界地図	講義時に配付する資料・ワークシートへの取り組み・活用
	学習成果	日本の様々な業界を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	業種・業界の知識 様々な業種と近年の動き 産業と経済知識	
	学習成果	日本における様々な業界の近年の動向を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	就職活動における業界研究に役立つようにする。	
3回	授業内容	会社組織① 会社の存在意義と特徴 売り上げ・利益	
	学習成果	株式制度、売り上げと利益の仕組みを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、会社の組織について理解を深める。	
4回	授業内容	会社組織② ガバナンスとコンプライアンス 労働法 雇用契約	
	学習成果	企業倫理・コンプライアンス・ガバナンスの重要性、近年の具体事例を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、希望する企業・職種のコンプライアンス・プログラムを調べておく。	
5回	授業内容	会社組織③ 人事・労務に関する用語 ビジネス用語	
	学習成果	ビジネスでよく使用するビジネス用語を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	新聞・経済に関する雑誌を読み、ビジネス用語を復習し確認する。	
6回	授業内容	マスメディアを利用した情報収集・分析① 新聞記事の活用	
	学習成果	新聞記事を読むポイントを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	興味のある新聞記事を読み、理解を深める。	
7回	授業内容	マスメディアを利用した情報収集・分析② 統計データの読み方・まとめ方	
	学習成果	数値情報のための表やグラフを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表とグラフ・統計データの特徴・重要性の理解を深める。	
8回	授業内容	オフィススタディ① 求められる能力 様々な事例研究 (営業・事務・接客など)	レポート課題の提出 テーマ及び詳細は授業内で指示 10回目までに提出 講義時に配付する資料・ワークシートへの取り組み・活用
	学習成果	様々な事例研究を通して、仕事上求められる能力を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、求められる能力の理解を深める。	
9回	授業内容	オフィススタディ② 効率的・合理的な仕事の進め方 事例研究	
	学習成果	効率よく仕事を進めるための目的と手段を理解し、説明ができる。	
	予習復習の内容	PDCA サイクル、定型業務と非定型業務、マニュアル化の目的と効果を確認しておく。	
10回	授業内容	オフィススタディ③ 社会保障と税金 企業会計・税務の知識	
	学習成果	社会保障制度、税制度を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	社会保険と税金の仕組みを事前に調べておく。	
11回	授業内容	マナー・接遇① ビジネス会話 いろいろな状況への対応 顧客へのアプローチ	
	学習成果	場や状況を判断し、効果的な話し方を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	様々な団体・企業毎の、客への言葉づかいを調べてみる。	
12回	授業内容	マナー・接遇② 交際の業務 慶弔時の知識と対応の仕方	
	学習成果	交際の業務を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、慶弔時の理解を深める。	
13回	授業内容	マナー・接遇③ 日本文化 (伝統行事・歴史) 礼法の知識 席次	
	学習成果	日本文化及び、応接室・車・列車の席次を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	興味のある日本文化について調べてみる。	
14回	授業内容	マナー・接遇④ ホスピタリティサービス 事例から学び取るホスピタリティサービスのポイント	
	学習成果	ホスピタリティとは何かを理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	ホスピタリティ・スキルを確認しておく。	
15回	授業内容	マナー・接遇⑤ CS (顧客満足度) 事例研究	
	学習成果	CSを考えることにより、働く目的や自身の成長実感に繋がることを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	記憶に残るサービスとはどのようなものか考えてみる。	

科目名	エントリー試験対策講座Ⅱ				担当者	岩 淵 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	IT パスポート試験に合格できる。										
	②	IT パスポート試験の範囲である、ストラテジ系の概要を説明できる。										
	③	IT パスポート試験の範囲である、マネジメント系の概要を説明できる。										
	④	IT パスポート試験の範囲である、テクノロジー系の概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	IT パスポート試験に合格し、情報処理技術者としての職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	ストラテジ系を通じて、企業活動や経営戦略などビジネスインダストリに関する技術を習得し、IT 社会に役立つ行動ができる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	マネジメント系を通じて、情報システムの開発や運用に関する技術を習得し、将来の情報システムの在り方を探求することができる。(専門的学習成果③に関連)										
	(4)	テクノロジー系を通じて、コンピュータシステムに関する知識を習得し、問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	1年次の情報科学、情報処理論、エントリー試験対策Ⅰに続く講座である。この講座は、IT パスポート国家試験に完全に合格することを目標とした対策講座である。この講座期間中に合格した学生には、さらに上のスキルを目指してもらうために、基本情報処理技術者試験の対策も個別に行う。また、2020年から小学校教育に導入されるプログラミング教育に関して、指導者の立場からアドバイスできる人材を育成する。また、AI 技術に関して、今後の社会に対する倫理などについても講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	小テストは毎回実施し、各2%ずつ正解率(0点、1点、2点)に沿って評価を行う。								
		平常点	10	授業の態度・感心・意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①で評価を行う。 (2) は専門的学習評価②で評価を行う。 (3) は専門的学習評価③で評価を行う。 (4) は専門的学習評価④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	岡崎裕史	IT パスポート合格教本				技術評論社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前に配布した資料を読んでおくこと。(予習：週2時間程度) 板書した内容は、必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を理解すること。(復習：週2時間程度) ②単元ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ストラテジ系①企業活動	小テスト(企業活動に関する過去問題)
	学習成果	企業活動に関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	
	2回	授業内容	ストラテジ系②関連業務
	学習成果	関連業務に関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	
	3回	授業内容	ストラテジ系③経営戦略
	学習成果	経営戦略に関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	
	4回	授業内容	ストラテジ系④ビジネスインダストリ
	学習成果	ビジネスインダストリに関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	
	5回	授業内容	ストラテジ系⑤情報関連法規
	学習成果	情報関連法規に関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	
	6回	授業内容	マネジメント系①システム開発
	学習成果	システム開発に関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	
	7回	授業内容	マネジメント系②プロジェクト管理
	学習成果	プロジェクト管理に関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	
	8回	授業内容	マネジメント系③スケジュール管理
	学習成果	スケジュール管理に関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	
	9回	授業内容	マネジメント系④サービスマネジメント
	学習成果	サービスマネジメントに関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	
	10回	授業内容	マネジメント系⑤システム監査
	学習成果	システム監査に関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	
	11回	授業内容	テクノロジー系①情報理論
	学習成果	情報理論に関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	
	12回	授業内容	テクノロジー系②データ構造
	学習成果	データ構造に関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	
	13回	授業内容	テクノロジー系③アルゴリズム
	学習成果	アルゴリズムに関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	
	14回	授業内容	テクノロジー系④セキュリティ
	学習成果	セキュリティに関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	
	15回	授業内容	テクノロジー系⑤ AI 技術
	学習成果	AI 技術に関する過去問題を理解できる。	
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。	

科目名	韓国語会話実践Ⅱ				担当者	文 慶 話						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	韓国語会話実践Ⅰで学んだ技術を基にハングルの「聞く」「話す」の応用ができる。										
	②	韓国語の構成（願望・羅列・逆説・勧誘・尊敬）を理解して会話ができる。										
	③	韓国語の文型を読解することができる。										
	④	韓国語で自分の意思表示ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	外国語を学ぶ学習スキルとそれに伴う教養を身に付け、多文化グローバルな社会を生きる力を付けることができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
	(2)	自分の母国語とは違う外国語を学ぶことによって、国際的な感覚を身に付けることができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
	(3)	隣国の言語や文化を理解し、自分達の言語の特徴や良さを理解することができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
	(4)	積極的な自己発信ができ、また他者を理解する力を付け、多様な人と共に生きることができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
授業概要	韓国語会話実践Ⅱでは、「韓国語会話実践Ⅰ」で学んだ韓国語の技術を基にして、会話能力即ち「聞く」「話す」ことに重点を置いて行う。日常生活で良く使われている表現を中心に、相手に通じる韓国語の習得を目指す。そのために授業中には二人ずつ組んで会話の練習をする。また、韓国文化にも触れるため韓国ドラマや映画等も取り入れて行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	学期内まで学習した内容に基づき、記述式の問題を課し、成績評価を行う。								
		レポート										
		平常点	50	授業参加態度や課題提出等を総合して評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文慶話他		『かんたん！韓国語』						朝日出版社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①声を出して練習すること。 宿題や課題を真面目に提出すること。 ②毎回一時間程度で終わる課題を課す。課題は添削して返す。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	「～する」用言の過去表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の「～する」用言の過去表現が分かる	
	予習復習の内容	「～する」用言の過去形を作り、その関連の課題をする	
	授業内容	「～する」用言の過去文とその実践	毎回小テストをする
2回	学習成果	韓国語の「～する」用言の過去文の会話ができる	
	予習復習の内容	「～する」用言の過去文の例文を作り、その関連の課題をする	
3回	授業内容	動詞・形容詞の過去表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の動詞・形容詞の過去表現文型が分かる	
	予習復習の内容	動詞・形容詞の過去表現文型を作り、その関連の課題をする	
	授業内容	動詞・形容詞の過去文とその実践	毎回小テストをする
4回	学習成果	韓国語の動詞・形容詞の過去文の会話ができる	
	予習復習の内容	動詞・形容詞の過去文の例文を作り、その関連の課題をする	
5回	授業内容	願望を表わす表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の願望を表す表現が分かる	
	予習復習の内容	願望を表す表現法を覚え、その関連の課題をする	
	授業内容	願望表現の実践会話とその練習	毎回小テストをする
6回	学習成果	韓国語の願望を表す表現の会話ができる	
	予習復習の内容	願望を表す表現の例文を作り、その関連の課題をする	
7回	授業内容	羅列と逆接の表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の羅列と逆接の表現が分かる	
	予習復習の内容	羅列と逆接の表現法を覚え、その関連の課題をする	
	授業内容	羅列と逆接表現の実践会話と練習	毎回小テストをする
8回	学習成果	韓国語の羅列と逆接の表現の会話ができる	
	予習復習の内容	羅列と逆接の表現の例文を作り、その関連の課題をする	
9回	授業内容	目的と勧誘表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の目的と勧誘を表す表現が分かる	
	予習復習の内容	目的と勧誘表現を覚え、その関連の課題をする	
	授業内容	目的と勧誘表現の実践会話と練習	毎回小テストをする
10回	学習成果	韓国語の目的と勧誘を表す会話ができる	
	予習復習の内容	目的と勧誘表現の例文を作り、その関連の課題をする	
11回	授業内容	尊敬形式の表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の尊敬を表す表現が分かる	
	予習復習の内容	尊敬形式の表現を覚え、その関連の課題をする	
	授業内容	尊敬形式の実践会話と練習	毎回小テストをする
12回	学習成果	韓国語の尊敬形式の表現の会話ができる	
	予習復習の内容	尊敬形式の表現の例文を作り、その関連の課題をする	
13回	授業内容	意志を表わす表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の意志を表す表現が分かる	
	予習復習の内容	意志を表す文型を覚え、その関連の課題をする	
	授業内容	意志表現の実践会話と練習	毎回小テストをする
14回	学習成果	韓国語の意志を表す表現の会話ができる	
	予習復習の内容	意志を表す表現の例文を作り、その関連の課題をする	
15回	授業内容	計画を表わす文と実践会話	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の計画を表す表現の会話ができる	
	予習復習の内容	計画を表す表現の例文を作り、その関連の課題をする	

科目名	ドラマで学ぶ英語の世界 ～シェイクスピアから鬼滅の刃まで～				担当者	ナガノアツシ 永野篤						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスパワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール										
専門的 学習成果	①	言語としての英語の全体像の概略について説明できる。										
	②	現代英語における言語におけるリスニング力を向上させる。										
	③	現代英語コミュニケーションに求められる単語、文法力を向上させる。										
	④	英語によるドラマの視聴を通じて英語圏の文化、世界観について洞察できる。										
汎用的 学習成果	(1)	英語に関する歴史・発展の知識を身に付け、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	英語の単語力の向上を通じて、場面に応じた単語選択を可能とする。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	英語の文法力の向上を通じて、場面に応じた表現の違いの認識を可能とする。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(4)	英語のリスニング力の向上を通じて、シチュエーションに応じた使い分けについての理解を可能とする。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	グローバル化の進展とユビキタス社会の発展に伴い、人類共通言語の一つとしての英語の重要性はこれまでになく高まっている。簡単なオーラルコミュニケーションから難解な英語論文でさえ、AIによる自動翻訳によってある程度意味を知ることができる。しかし、異なる言語の背景となる文化的相違の理解や、我々の考え方、感性を規定する枠組みの一つである言語の性質を知ることは自らの経験によって身につけていく。本授業では、ドラマ等を通じて英語という非母国語に触れ、多言語、多文化の理解を深めるものである。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	100	各回実施し、各回6.6%を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (4) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①オンラインを介した資料配布、小テスト、実力査定アンケートを行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノートPCなどを持ち込んでください。 ②小テストは原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。受講者全体の中に占める自身のポジションを確認し、かつ、誤った記憶や理解を正し、資格取得へ向上する姿勢を身に付けることを期待しています。 ③予習復習には、それぞれ1時間程度かけることが期待される。難易度は高くないが、繰り返しの発声練習が必要とされることが想定されるため、相応の空間を確保できる環境を整えるように準備してください。 ④紙または電子形式による辞書を携帯すること。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	現代英語が成立するまで。ドラマ①視聴		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	現代英語成歴史を俯瞰し、かつ英語ドラマ（アメリカ）を視聴し、言葉のスピード感に慣れる。		
	予習復習の内容	現代英語について事前課題に基づいた、単語類の理解・記憶に努める。		
	授業内容	現代アメリカ英語のリスニング。ドラマ②視聴		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
2回	学習成果	英語ドラマを視聴し、言葉のイントネーションに慣れる。		
	予習復習の内容	現代英語について事前課題に基づいた、単語類の理解・記憶に努める。		
3回	授業内容	現代アメリカ英語のリスニング。ドラマ③視聴 「鬼滅の刃」を予定		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	英語に吹き替えられた日本のドラマを視聴し、翻訳された言語に慣れる。		
	予習復習の内容	現代英語について事前課題に基づいた、単語類の理解・記憶に努める。		
4回	授業内容	現代英語の基礎となった近代イギリス英語（発音）。ドラマ④視聴		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	英語成立の歴史と、英単語類語のニュアンスの違いについて理解を深める。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。		
5回	授業内容	現代英語の基礎となった中世イギリス英語（単語）。ドラマ⑤視聴		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	英語成立の歴史と、英単語類語のニュアンスの違いについて理解を深める。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。		
6回	授業内容	現代英語の基礎となった中世イギリス英語（定型詩）。ドラマ⑥視聴		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	英語成立の歴史と、英単語類語のニュアンスの違いについて理解を深める。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。		
7回	授業内容	現代英語の基礎となった中世イギリス英語（抑揚）。ドラマ⑦視聴		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	英語成立の歴史と、英単語類語のニュアンスの違いについて理解を深める。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。		
8回	授業内容	中世イギリス英語の現代アメリカへの適用。ドラマ⑧視聴		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	イギリス英語とアメリカ英語の違いをリスニングから直感的に理解する。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英単語を理解・記憶する。		
9回	授業内容	中世イギリス英語の現代アメリカへの融合。ドラマ⑨視聴		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	イギリス英語とアメリカ英語の違いリスニングから直感的に理解する。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語文章の文法を理解し構造を記憶する。		
10回	授業内容	現代アメリカ英語の二者間の会話（プライベート）。ドラマ⑩視聴		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	アメリカ英語による親密な二者間のコミュニケーションを理解する。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶する。		
11回	授業内容	現代アメリカ英語の二者間の会話（社交）。ドラマ⑪視聴		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	アメリカ英語による二者間のコミュニケーションを理解する。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶する。		
12回	授業内容	現代アメリカ英語のスピーチ。ドラマ⑫視聴		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	アメリカ英語によるスピーチの形式と内容を理解する。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語スピーチの理解・記憶に努める。		
13回	授業内容	現代英語による、口頭によるコミュニケーション。ドラマ⑬視聴		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	ネイティブ向けに作成された英語ドラマを字幕なしで少し理解する。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶し、暗唱する。		
14回	授業内容	現代英語による、口頭によるコミュニケーション。ドラマ⑭視聴		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	ネイティブ向けに作成された英語ドラマを日本語字幕なしである程度理解する。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶し、暗唱する。		
15回	授業内容	現代英語による、口頭によるコミュニケーション。ドラマ⑮視聴		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	ネイティブ向けに作成された英語ドラマを日本語字幕なしで、視聴できる。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶し、暗唱する。		

科目名	情報環境論				担当者	イワ 岩 渕 マサ ノリ 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	コンピュータの基礎理論を説明できる。										
	②	コンピュータシステムのデータ表現とデータ構造を説明できる。										
	③	コンピュータを構成する論理回路を説明できる。										
	④	中央処理装置（CPU）の機能を説明できる。										
	⑤	メモリアーキテクチャの構成について、説明できる。										
	⑥	エンベデッドシステムの構成について、説明できる。										
	⑦	人工知能（AI）の仕組みについて、説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	エンベデッドシステムに関する概要を学ぶことを通じて、情報処理技術者としての職業自立につなげることができる。（専門的学習成果⑥に関連）										
	(2)	コンピュータの基礎理論やデータ表現とデータ構造を通して、習得した知識や技術を活用し問題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(3)	CPUの構成とメモリアーキテクチャを学ぶことを通じて、現在のメモリ環境に関して、批判的に思考することができる。（専門的学習成果④⑤に関連）										
	(4)	人工知能（AI）の仕組みを学ぶことを通じて、未来のハードウェア構成を探求することができる。（専門的学習成果⑦に関連）										
授業概要	プログラマーやシステムエンジニアの登竜門である基本情報処理技術者試験のテクノロジー分野を中心に講義する。更に、ただITを利用できる人材ではなくITを活用して業務を改善するなど、情報化を推進できる人材が求められる。そのためには、最新の情報処理技術動向や人工知能（AI）の仕組みについて理解する必要がある。さらに、2020年から小学校教育に導入されるプログラミング教育の基礎知識として十分に説明できる内容を講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	小テストを毎回実施し、各2%ずつ正解率（0点、1点、2点）に沿って評価を行う。								
	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果⑥で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。 (4) は専門的学習成果⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	岡嶋裕史	『基本情報処理技術者合格教本』				技術評論社						
①準備学習等履修上の留意点		①事前に配布した資料を読んでおくこと。（予習：週2時間程度）板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。（復習：週2時間程度）										
②課題に対するフィードバックの方法等		②小テストを返却し、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	情報理論	小テスト（情報理論について）
	学習成果	ビット、バイト、ワード、2進数について説明できる。	
	予習復習の内容	2進数の特徴について調べておく。	
2回	授業内容	データ構造	小テスト（データ構造について）
	学習成果	データ構造の特徴についての説明ができる。	
	予習復習の内容	データ構造の特徴について調べておく。	
3回	授業内容	固定小数点数	小テスト（固定小数点数について）
	学習成果	固定小数点数を説明できる。	
	予習復習の内容	固定小数点数について調べておく。	
4回	授業内容	浮動小数点数	小テスト（浮動小数点数の特徴について）
	学習成果	浮動小数点数を説明できる。	
	予習復習の内容	浮動小数点数の特徴について調べておく。	
5回	授業内容	シフト演算	小テスト（シフト演算について）
	学習成果	シフト演算の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	シフト演算について調べておく。	
6回	授業内容	基本論理回路	小テスト（基本論理回路）
	学習成果	基本論理回路の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	基本論理回路について調べておく。	
7回	授業内容	応用論理回路	小テスト（応用論理回路）
	学習成果	応用論理回路の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	応用論理回路について調べておく。	
8回	授業内容	フリップフロップ回路	小テスト（フリップフロップ）
	学習成果	フリップフロップ回路の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	フリップフロップ回路について調べておく。	
9回	授業内容	CPU	小テスト（CPU）
	学習成果	CPUの動作について説明ができる。	
	予習復習の内容	CPUの動作について調べておく。	
10回	授業内容	メモリアーキテクチャ	小テスト（メモリアーキテクチャ）
	学習成果	メモリアーキテクチャの特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	メモリアーキテクチャについて調べておく。	
11回	授業内容	インタフェース	小テスト（インタフェース）
	学習成果	インタフェースの種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	インタフェースについて調べておく。	
12回	授業内容	エンベデッドシステム	小テスト（エンベデッドシステム）
	学習成果	エンベデッドシステムのしくみについて説明できる。	
	予習復習の内容	エンベデッドシステムについて調べておく。	
13回	授業内容	ディープラーニング	小テスト（ディープラーニング）
	学習成果	ディープラーニングについて説明できる。	
	予習復習の内容	ディープラーニングの仕組みについて調べておく。	
14回	授業内容	人工知能（AI）	小テスト（人工知能）
	学習成果	人工知能（AI）について説明できる。	
	予習復習の内容	人工知能（AI）について調べておく。	
15回	授業内容	量子コンピュータ	小テスト（量子コンピュータ）
	学習成果	量子コンピュータについて説明できる。	
	予習復習の内容	量子コンピュータについて調べておく。	

科目名	コンピュータネットワーク				担当者	丸山 穰						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	①	コンピュータネットワークの概要を説明できる。										
	②	ネットワークを支える技術に関する用語を説明できる。										
	③	スマホやPC、家電製品などにおけるネットワークの活用方法を説明できる。										
	④	運用上の問題点を理解し、説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会のインフラとなったネットワークの基本知識を学ぶことで、社会的・職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	ネットワークの基本技術・原理を学ぶ事を通して、論理的な思考を行うことができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(3)	セキュリティやプライバシーについて学ぶ事で、健全な社会形成に貢献できる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	昨今、コンピュータはネットワークに接続されていることが当たり前となっている。コンピュータネットワークは現代社会を支える重要な基盤である。この環境の下で家庭や産業の場でも様々な機器にコンピュータは内蔵され、我々の社会・生活は大きく変わろうとしている。こうしたネットワークを支える技術の基本を学ぶとともに運用していく上での、技術的問題点、ソフトウェアの問題点などにも触れ、安全に、実践的に活用できる知識を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格とする。								
		レポート										
		平常点	30	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	網野衛二	『図解でやさしくわかる ネットワークのしくみ超入門』				技術評論社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	関勝寿	『ネットワークと情報セキュリティ』				PDF 版配布：http://www2.toyo.ac.jp/~seki_k/security/						
	きたみりゅうじ	『【改訂5版】図解でよくわかる ネットワークの重要用語解説』				技術評論社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義で習得した知識を実際の生活で確認すること(週2時間程度)。 講義中に次回の予告をするので、ネット上などで情報を収集して講義に臨むこと(週2時間程度)。 ②それらは授業中に適宜確認し、解説を加えていく。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	概要(コンピュータネットワークがもたらすもの)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	コンピュータネットワークの概要を説明できる。	
2回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	サーバ、クライアント	
3回	学習成果	サーバ、クライアントの概要を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	
4回	授業内容	IP address、パケット	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	IP address、パケットの概要を説明できる。	
5回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	ルータ、スイッチ	
6回	学習成果	ルータ、スイッチの概要を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	
7回	授業内容	ゲートウェイ、防火壁	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	ゲートウェイ、防火壁の概要を説明できる。	
8回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	ネットワークの基本的技術 telnet, FTP	
9回	学習成果	telnet, FTPについて概要を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	
10回	授業内容	ネットワークの基本的技術 http	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	httpについて概要を説明できる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	ネットワークの基本的技術 SMTP, POP3	
12回	学習成果	SMTP, POP3について概要を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	
13回	授業内容	ネットワークの基本的技術 DNS	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	DNSについて概要を説明できる。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	ネットワークの応用 LAN, web	
15回	学習成果	LAN, webについて概要を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	
16回	授業内容	ネットワークの応用 mail, 動画配信など	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	mail, 動画配信などについて概要を説明できる。	
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	LANを構築する	
18回	学習成果	LAN構築について、概要を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	
19回	授業内容	セキュリティ、プライバシーについて	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	ネットワーク利用上のセキュリティ、プライバシーについて注意点を挙げられる。	
20回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	迷惑行為や犯罪について	
21回	学習成果	ネットワークを利用する上で注意すべき迷惑行為や犯罪を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	
22回	授業内容	まとめ(安全に活用していくために)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	ネットワークを安全に活用していくための注意点を挙げられる。	
23回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常利用について理解を深める。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。

科目名	データベース演習				担当者	大 澤 栄 子 (実務家教員)						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		oosawa.eiko@seiwa.ac.jp 授業中、授業前後、オフィスアワー(1回目授業で説明)で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	リレーショナルデータベースシステムの知識と技能を習得し、データベースファイルを設計し作成できる。										
	②	基本オブジェクトについての知識と技能を習得し、新規作成および編集できる。										
	③	オブジェクトの関係性を理解し、用途に応じてデータを編集加工できる。										
	④	課題を分析し、解決に必要なデータベースファイルを設計開発できる。										
汎用的 学習成果	(1)	データベースファイルの設計を通して、論理的思考、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果①④に関連)										
	(2)	データベースファイルの作成を通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	資格取得に向けた演習を通して、社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し実践できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	データベースシステムはエンジニアが分析、設計、運用する状況から、誰でもがパソコンで操作できる普遍的なビジネスインフラになっている。そこで世界的に普及しているリレーショナルデータベースソフトウェア「Access」の基本操作とデータ構造の習得から始まり、簡単なデータベースファイルシステムを開発できるところまでを、教員のシステムエンジニアとしての経験を元にニーズの高い機能の操作を中心に演習していく。また、MOS Access 試験が合格できる実践力も養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		確認問題	25	5回実施し、各回5%を配点する。								
		実技試験	25	26回目後半でMOS試験相当の模擬問題を実施し、基礎および応用操作スキルを評価する。								
		演習課題	25	27回目授業で提示する最終課題が、適切に分析設計されニーズが実現されているかを評価する。								
平常点	25	演習や実習への取り組み・意欲・態度により評価する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③により評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	富士通エフ・オー・エム株式会社	『MOS Access 2019 対策テキスト&問題集』				FOM 出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	富士通エフ・オー・エム株式会社	『よくわかる Access 2019 基礎』				FOM 出版						
	富士通エフ・オー・エム株式会社	『よくわかる Access 2019 応用』				FOM 出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①「データベース概論」を履修しているか、ExcelのMOS試験レベルの操作に慣れていることが望ましい。欠席した場合、授業は前回の継続となるので次の受講までに、必ず欠席した内容を補習しておくこと。また、テキストを読み不明点を明確にしておくことや、得られる演習結果の確認などの授業準備、提出課題作成などに30時間程度の時間外学習が必要である。 ②提出物について、授業時間内または次の時間に結果のフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス、データベースの基本操作	
	学習成果	本授業の内容を理解し、データベースの基本操作ができる。	
3・4回	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。ガイダンスの内容をふまえて学習計画を立てる。	
	授業内容	データベースの管理、テーブルの作成	
5・6回	学習成果	データベース、テーブルの新規作成ができる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。データベースとテーブルの基本について理解を深める。	
7・8回	授業内容	フィールドの作成と編集、レコードの並べ替えとフィルター	
	学習成果	フィールドの作成と編集ができる。レコードの並べ替えと抽出ができる。	
9・10回	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。テーブルのビューについて理解を深める。	
	授業内容	リレーションシップの設定、データのインポート	
11・12回	学習成果	リレーションシップが設定できる。外部データをインポートできる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。リレーションシップ、インポートについて理解を深める。	
13・14回	授業内容	フォームの作成と編集、フォームのデザインオプション	
	学習成果	フォームの新規作成と編集ができる。	
15・16回	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。フォームの編集について理解を深める。	
	授業内容	フォームの配置オプション、フォームの書式オプション	
17・18回	学習成果	フォームにおける配置や書式のオプション設定ができる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。コントロールプロパティについて理解を深める。	
19・20回	授業内容	クエリの作成と編集、ソーステーブルとリレーションシップ	
	学習成果	クエリの新規作成と編集ができる。	
21・22回	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。クエリの基本とテーブルとの関連について理解を深める。	
	授業内容	クエリによるフィールドの操作、レコード抽出	
23・24回	学習成果	フィールドおよびレコード操作ができるクエリが作成できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。選択クエリの基本理解を深める	
25・26回	授業内容	クエリによる集計と演算	
	学習成果	集計と演算を実行するクエリが作成できる。	
27・28回	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。クエリによる集計、演算について理解を深める	
	授業内容	レポートの作成と編集、レポートのコントロール設定	
29・30回	学習成果	レポートの構造を理解し、レポート新規作成、編集ができる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。レポートの構造について理解を深める。	
1・2回	授業内容	レポートのコントロールプロパティと書式の設定	
	学習成果	コントロールのプロパティを理解し設定できる。	
3・4回	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。コントロールプロパティについて理解を深める。	
	授業内容	資格試験ガイダンス、資格試験模擬問題演習(1)、資格試験模擬問題演習(2)	
5・6回	学習成果	資格試験の概要を理解し、自らの学習予定を計画できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。学習を振り返り未習得の理解を固める。	
7・8回	授業内容	資格試験模擬問題演習(3)、総合模擬演習	
	学習成果	資格試験本番の流れを理解し、受験への意欲を高めることができる。	
9・10回	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。学習を振り返り未習得の理解を固める。	
	授業内容	データベースシステム設計および開発演習(1)	
11・12回	学習成果	課題を分析し適切なデータベースファイルが作成できる	
	予習復習の内容	これまでを振り返り、課題の分析とオブジェクトの設計を進める。	
13・14回	授業内容	データベースシステム設計および開発演習(2)、まとめ	
	学習成果	課題を解決する Access データベースファイルが作成できる。	
15・16回	予習復習の内容	これまでを振り返り、Accessによるシステム化の理解を深める。	

科目名	プログラミング演習				担当者	大 澤 栄 子 (実務家教員)						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		oosawa.eiko@seiwa.ac.jp 授業中、授業前後、オフィスアワー(1回目授業で説明)で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	マクロ/VBAの概要を理解し、開発環境の基本操作ができる。										
	②	変数と制御構造を活用した変数と制御構造を活用したモジュールを作成できる。										
	③	適切な手法を選択したデバッグができる。										
	④	ニーズを分析し入力から出力までのデータ活用が設計できる。										
汎用的 学習成果	(1)	ワークシートおよびモジュールの設計を通して、論理的思考、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果①④に関連)										
	(2)	ワークシートおよびモジュールの開発を通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	資格取得に向けた演習を通して、社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し実践できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	Excelに組み込めるプログラミング言語「VBA (Visual Basic for Application)」を用い、Excelによる日常業務をさらに効率よく遂行する為のスキルを身につける。また、ワークシートを基本とする簡単なシステムを開発することにより、ニーズの分析、設計、デバッグ、テスト、運用など一連の開発手法の基礎を教員のシステム開発の現場のエピソードも交えながら習得する。さらに、VBAエキスパート試験への道筋を示し、合格への挑戦意欲と実践力も養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		確認問題	30	6回実施し、各回5%を配点する。								
		演習課題	40	27回目授業で提示する最終課題が、適切に分析設計されニーズが実現されているかを評価する。								
汎用的 学習成果	平常点	30	演習や授業への取り組み・意欲・態度により評価する。									
テキスト 等	著者・編集者名	書名										出版社名
	富士通エフ・オー・エム株式会社	『よくわかる Microsoft Excel 2019 マクロ/VBA』										FOM 出版
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名										出版社名
	富士通エフ・オー・エム株式会社	『よくわかる Excel 2019 応用』										FOM 出版
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①「基礎プログラミング演習」を履修しているか、ExcelのMOS試験レベルのスキルがあることが望ましい。欠席した場合、授業は前回の継続なので受講までに必ず補習しておくこと。この場合の補習以外に、テキストを読み、不明点を明確にしておくことや得られる演習結果の確認などの授業準備、提出課題作成等に30時間程度の時間外学習が必要である。 ②課題について、授業時間内または次の時間に結果のフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1・ 2回	授業内容	ガイダンス、マクロ/VBAの概要、基本的なマクロの作成	4回目授業後半で「記録マクロ」に関する確認問題演習を実施
	学習成果	本授業の内容およびマクロ/VBAの概要を理解し、記録マクロの基本操作ができる。	
3・ 4回	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。ガイダンスの内容をふまえて学習計画を立てる。	
	授業内容	複数の処理のマクロ化、マクロの保存と削除	
5・ 6回	学習成果	複数処理のマクロの作成ができる。マクロの保存と削除ができる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返りマクロの理解を深める。	
7・ 8回	授業内容	VBEの基本操作、マクロの編集	10回目授業後半で「モジュールとプロシージャ」に関する確認問題演習を実施
	学習成果	VBEの基本操作を理解し、記録マクロの編集ができる。	
9・ 10回	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返りVBE基本理解を深める。	
	授業内容	モジュールとプロシージャの概要	
11・ 12回	学習成果	モジュールとプロシージャの概要、プロシージャの構成要素が理解できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り、モジュールとプロシージャの理解を深める。	
13・ 14回	授業内容	プロシージャの作成と登録	14回目授業で変数、分岐構造に関する確認問題演習を実施
	学習成果	基本的なメソッド、プロパティを理解し、それらを活用したプロシージャが作成できる。	
15・ 16回	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返りメソッド、プロパティの理解を深める。	
	授業内容	変数と制御構造の概要、分岐構造 (If～Then)	
17・ 18回	学習成果	変数の使い方、If～Thenステートメントが理解でき、それらを活用したプロシージャが作成できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り変数、If～Thenの理解を深める。	
19・ 20回	授業内容	分岐構造 (Select～Case)、変数と分岐構造のまとめ演習	16回目授業でFor～Nextに関する確認問題演習を実施
	学習成果	Select～Caseステートメントが理解でき、それらを活用したプロシージャが作成できる。	
21・ 22回	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り分岐構造全般の理解を深める。	
	授業内容	繰り返し構造 (For～Next)	
23・ 24回	学習成果	For～Nextステートメントが理解でき、それらを活用したプロシージャが作成できる。	18回目授業Do～Loopに関する確認問題演習を実施
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り分岐構造全般の理解を深める。	
25・ 26回	授業内容	繰り返し構造 (Do～Loop)	
	学習成果	Do～Loopステートメントが理解でき、それらを活用したプロシージャが作成できる。	
27・ 28回	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り繰り返し構造全般の理解を深める。	26回目授業でシステム化に関する確認問題演習を実施
	授業内容	デバッグ、販売管理システムの概要	
29・ 30回	学習成果	エラーの種類を理解し適切なデバッグができる。Excelを用いた業務のシステム化が理解できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り、デバッグ手法、システム化の理解を深める。	
27・ 28回	授業内容	販売管理システム作成 (対話形式のプログラム、データ抽出の自動化、印刷の簡便化)	最終課題としてワークシートおよびプロシージャを開発し提出する。
	学習成果	対話形式、データ抽出、印刷に関する関数、メソッド、プロパティが理解でき、それらを活用したプロシージャが作成できる。	
29・ 30回	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。対話形式、データ抽出、印刷に関する関数、メソッド、プロパティの理解を深める。	
	授業内容	販売管理システム作成 (ユーザ定義関数、モジュールのインポート、データ入力の簡便化)	
27・ 28回	学習成果	ユーザ定義関数、モジュールのインポート、データ入力の簡便化に関する関数、メソッド、プロパティが理解でき、それらを活用したプロシージャが作成できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。ユーザ定義関数、モジュールのインポート、データ入力の簡便化に関する関数、メソッド、プロパティの理解を深める。	
29・ 30回	授業内容	販売管理システム作成 (アプリケーションの仕上げ)	
	学習成果	アプリケーションの仕上げとして必要な内容と設定が理解でき、操作できる。	
27・ 28回	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り、システム化の理解を深める。	
	授業内容	VBAによる開発演習課題 (1)	
29・ 30回	学習成果	課題を分析し適切なシート、プロシージャが作成できる	
	予習復習の内容	これまでを振り返り、課題の分析とプログラミング設計を進める。	
27・ 28回	授業内容	VBAによる開発演習課題 (2)、まとめ	
	学習成果	課題を解決するExcelブックが作成できる。	
29・ 30回	予習復習の内容	これまでを振り返り、Excelによるシステム化の理解を深める。	

科目名	ソーシャル e スポーツ					担当者	クワ ハウ ヨシ ナリ 桑 原 吉 成					
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業	演習	学年	2 年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間	形態					
教員との連絡方法 質問等の受付方法		yoshipen@inakano.wor Discord の授業用サーバー、授業中、授業前後、オフィスアワー（1 回目授業で説明）で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	e スポーツの概略について理解でき、e スポーツの一般的な概念を説明できる。										
	②	世界や日本でプロの競技シーンで行われている主な e スポーツ・タイトルを実践し、競技としての e スポーツを理解し実践できる。										
	③	ソーシャル的観点から e スポーツの活用方法について考察し、教育や社会福祉分野、まちづくりなど様々な分野で活用し実践できる。										
	④	常に進化する e スポーツで使用される機材やネットワークを理解することで、ハードウェア及びソフトウェアの選定やイベントの運営ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	e スポーツに関する学修を通して、e スポーツ業界での職業的自立をはじめ、他分野や他業種に e スポーツを取り入れて課題解決に向け行動できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	e スポーツの演習、イベントの企画運営を通して、論理的思考、自己表現、他者理解ができ、協働して動くことができる。(専門的学習成果②④に関連)										
	(3)	e スポーツを通してデジタル機器やネットワーク環境を活用するのに必要な知識と技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要		若者を中心に「e スポーツ」という言葉が浸透しつつあるが、日本においてはまだ黎明期であり、海外の歴史や事例から「e スポーツとは何か？」を紐解き、e スポーツの概念と日本の e スポーツ事情について整理する。e スポーツが身体や心理に与える効果や影響について学び、e スポーツ業界はもとより教育分野での活用や社会的課題解決の観点で活用できる対応力を養う。演習では世界で主流となっている「MOBA（マルチオンラインバトルアリーナ）」や「タクティカルシューター」、また日本でよく行われている e スポーツの代表的なゲームタイトルをプレイし、知識や技能だけでなく、戦略戦術、意思決定、コミュニケーションスキルの重要性について理解する。e スポーツのコミュニティイベントを企画運営することにより実践力を養う。										
評価方法 基準等		学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準							
専門的 学習成果	定期試験											
	レポート		20	1 回実施する。テーマに沿ったレポートの評価（体裁・文脈・内容・根拠・独創性）を行う。								
	実技試験		35	5 回実施（1～2 回目10％、3～5 回目5％）ゲームシステム（ルールやチーム構成、ロールなど）を理解してコミュニケーションが取られていることを重視して評価します。								
	イベント運営		15	学校内で行うイベント企画運営の取り組み・意欲・態度により評価する。								
	平常点		30	演習や授業への取り組み・意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果		汎用的学習成果の評価は、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	磯貝浩久、西菌秀嗣、ほか		『e スポーツの科学』				ベースボール・マガジン社					
	ローランド・リー(訳) 小浜 杏		『ライズ・オブ・e スポーツ ゲーマーの情熱から生まれた巨大ビジネス』				白揚社					
	黒川文雄		『プロゲーマー、業界のしくみからお金の話まで e スポーツのすべてがわかる本』				日本実業出版社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等												
①教科書や配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前に参考書・参考文献をはじめ、日頃から e スポーツに関するニュースやイベントなどの情報に興味を持って触れておくこと。演習で行う e スポーツタイトルについては、事前学修として公式 web サイトや攻略サイトや動画などを視聴し理解を深めておくこと。事後学修として授業内容の振り返りを行い、e スポーツの大会やイベントなどを視聴するなど理解を深めること。 ②レポートに関するフィードバックは、担当者が読んだあと、評価ポイントのフィードバックを行う。 実技試験に関するフィードバックは、授業時間内または次の時間にフィードバックを行う。												

授業計画		学習成果の評価		授業計画		学習成果の評価	
1 回	授業内容	講義：ガイダンス、e スポーツとは何か？	3 回目授業後半に小テストを実施します。 ・e スポーツの概略 ・e スポーツの歴史	16 回	授業内容	ゲーム演習Ⅱ「シューター」③～各マップの守り/攻めの基本方針	20 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施
	学習成果	本授業の内容および e スポーツの概略について、説明できる。			学習成果	マップを覚えチームとしての基本的な動き方について理解して、チームを組んでコミュニケーションをとりながらプレイできる。	
	予習復習の内容	事前にシラバス及び e スポーツに関連する資料などを読み e スポーツのイメージをつかむ。ガイダンスの内容を踏まえて学修計画を立てる。			予習復習の内容	演習で行うゲームタイトルの攻略サイトや大会動画を見て、ゲーム概要の理解を深める。基本的な操作ができるように練習する。	
2 回	授業内容	ゲーム演習「MOBA」①～MOBA の概要、チュートリアル	10 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	17 回	授業内容	講義：e スポーツのユニバーサルな可能性	レポート提出 課題「e スポーツの未来」 社会的課題解決の観点から考察する。 23 回目授業までに提出。25 回授業時にフィードバックする
	学習成果	MOBA (Multi Online Battle Arena) の基本的なゲームシステムを理解できる。キーボード&マウスによる基本的な操作を習得できる。			学習成果	e スポーツやゲームが性差や障害の有無に関係なく側面があることを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	ガイダンスで説明したゲームタイトルの公式サイトや関連する攻略サイトや大会動画を見て、ゲームの概要を理解する。			予習復習の内容	障害者を対象にした e スポーツイベントなどの事例について調べておくこと。学修内容を振り返り、障害者福祉への活用について考える。	
3 回	授業内容	講義：ゲームと e スポーツの発展の歴史	3 回目授業後半に小テストを実施します。 ・e スポーツの概略 ・e スポーツの歴史	18 回	授業内容	ゲーム演習Ⅱ「シューター」④～チーム戦の連携(意識疎通)	20 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施
	学習成果	e スポーツの歴史を理解し、世界と日本の発展の違いについて説明できる。			学習成果	ゲームの全体像を把握するために必要な技術を理解し、チームを組んでコミュニケーションをとりながらプレイできる。	
	予習復習の内容	学修内容を振り返り、世界と日本の e スポーツの差異について理解を深める。			予習復習の内容	演習で行うゲームタイトルの攻略サイトや大会動画を見て、ゲーム概要の理解を深める。基本的な操作ができるように練習する。	
4 回	授業内容	ゲーム演習「MOBA」②～ロール(役割)の理解と戦略の組み立て	10 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	19 回	授業内容	講義：e スポーツと高齢者福祉	レポート提出 課題「e スポーツの未来」 社会的課題解決の観点から考察する。 23 回目授業までに提出。25 回授業時にフィードバックする
	学習成果	ゲームの流れを把握し、キャラクター毎の役割や立ち回りを理解して、MOBA をプレイできる。			学習成果	e スポーツと高齢者の認知機能やフレイル予防効果についての研究成果を把握し、今後の活用について論じることができる。	
	予習復習の内容	演習で行うゲームタイトルの攻略サイトや大会動画を見て、ゲーム概要の理解を深める。基本的な操作ができるように練習する。			予習復習の内容	高齢者を対象にした e スポーツイベントなどの事例について調べておくこと。学修内容を振り返り、高齢者福祉への活用について考える。	
5 回	授業内容	講義：e スポーツに必要な機材・ネットワーク環境	7 回目授業後半に小テストを実施します。 ・機材とネットワーク環境 ・ゲームの開発と問題行動の対策	20 回	授業内容	ゲーム演習Ⅱ「シューター」⑤～カスタムマッチ	20 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施
	学習成果	e スポーツで使用される機材について説明でき、環境を構築して使用することができる。			学習成果	カスタムマッチ機能を理解して、大会を聞くことができる。	
	予習復習の内容	学修内容を振り返り、ゲーミング PC などの機材について理解を深める。			予習復習の内容	演習で行うゲームタイトルの攻略サイトや大会動画を見て、ゲーム概要の理解を深める。基本的な操作ができるように練習する。	
6 回	授業内容	ゲーム演習「MOVA」③～ゲーム序盤の知識と立ち回り	10 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	21 回	授業内容	講義：e スポーツにおけるコミュニティの重要性	レポート提出 課題「e スポーツの未来」 社会的課題解決の観点から考察する。 23 回目授業までに提出。25 回授業時にフィードバックする
	学習成果	チームを組んでコミュニケーションをとりながら序盤の動き方について理解し、プレイできる。			学習成果	e スポーツにおけるコミュニティの重要性を理解し、企業参画や地域社会コミュニティなど e スポーツが生み出す社会的価値について論じることができる。	
	予習復習の内容	演習で行うゲームタイトルの攻略サイトや大会動画を見て、ゲーム概要の理解を深める。基本的な操作ができるように練習する。			予習復習の内容	自治体や企業、団体などが行っている e スポーツイベントなどの事例について調べておくこと。学修内容を振り返り、e スポーツが生み出す社会的価値について考える。	
7 回	授業内容	講義：e スポーツ(ゲーム)の開発と問題行動への対策	7 回目授業後半に小テストを実施します。 ・機材とネットワーク環境 ・ゲームの開発と問題行動の対策	22 回	授業内容	ゲーム演習Ⅲ「日本の e スポーツ」①バズルゲーム	授業後半で、実技試験としてミニ大会を実施
	学習成果	e スポーツにおける問題行動とその対策などについて理解し、説明できる。			学習成果	日本の e スポーツタイトルについて理解し、プレイと説明することができる。	
	予習復習の内容	学修内容を振り返り、e スポーツを取り巻く問題行動とゲーム会社の対策について理解を深める。			予習復習の内容	ガイダンスで説明したゲームタイトルの公式サイトや関連する攻略サイトや大会動画を見て、ゲームの概要を理解する。	
8 回	授業内容	ゲーム演習「MOVA」④～ゲーム全体の大局的な戦略(マクロ)の基礎知識	10 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	23 回	授業内容	講義：e スポーツのイベントとゲーム配信	修得した知識や技能の活用したイベントを企画・運営
	学習成果	ゲーム全体の大局的にみた戦略や戦術(マクロ)について理解し、コミュニケーションをとりチームとしてプレイできる。			学習成果	e スポーツイベントでの配信の重要性と必要な機材やスキルを理解し、配信することができる。	
	予習復習の内容	演習で行うゲームタイトルの攻略サイトや大会動画を見て、ゲーム概要の理解を深める。基本的な操作ができるように練習する。			予習復習の内容	事前に興味のある e スポーツやゲームの配信番組について分析すること。学修内容を振り返り、配信に必要な機材やスキルについて理解を深める。	
9 回	授業内容	講義：日本の e スポーツ事情～関連する法律と産業構造	13 回目授業後半に小テストを実施します。 ・日本の e スポーツ事情 ・トレーニング理論 ・身体や心理への影響	24 回	授業内容	ゲーム演習Ⅲ「日本の e スポーツ」②格闘ゲーム	授業後半で、実技試験としてミニ大会を実施
	学習成果	現在の日本の e スポーツ事情について理解し、説明できる。			学習成果	日本の e スポーツタイトルについて理解し、プレイと説明することができる。	
	予習復習の内容	事前に日本で e スポーツに関連した企業が団体について調べておくこと。学修内容を振り返り理解を深める。			予習復習の内容	ガイダンスで説明したゲームタイトルの公式サイトや関連する攻略サイトや大会動画を見て、ゲームの概要を理解する。	
10 回	授業内容	ゲーム演習「MOVA」⑤～集団戦の立ち回りとコミュニケーション	10 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	25 回	授業内容	講義：イベントの企画の仕方	修得した知識や技能の活用したイベントを企画・運営
	学習成果	ゲーム終盤戦の立ち回り、またチームゲームにおいて必要な情報伝達の理解を深め、コミュニケーションをとりチームとしてプレイできる。			学習成果	イベントの企画立案の考え方について理解し、計画を立てることができる。	
	予習復習の内容	演習で行うゲームタイトルの攻略サイトや大会動画を見て、ゲーム概要の理解を深める。基本的な操作ができるように練習する。			予習復習の内容	自分が参加したことがあるイベントについて主催者の視点で振り返ってしておくこと。学修内容を振り返り、イベントの企画立て方について理解を深める。	
11 回	授業内容	講義：e スポーツのトレーニング理論とコンディショニング	13 回目授業後半に小テストを実施します。 ・日本の e スポーツ事情 ・トレーニング理論 ・身体や心理への影響	26 回	授業内容	ゲーム演習Ⅲ「日本の e スポーツ」③スポーツゲーム	授業後半で、実技試験としてミニ大会を実施
	学習成果	科学的なアプローチからフィジカルとインテリジェンスのトレーニング理論について理解し、説明できる。			学習成果	日本の e スポーツタイトルについて理解し、プレイと説明することができる。	
	予習復習の内容	学修内容を振り返り、科学的な見地からゲーム上達方法について理解を深める。			予習復習の内容	ガイダンスで説明したゲームタイトルの公式サイトや関連する攻略サイトや大会動画を見て、ゲームの概要を理解する。	
12 回	授業内容	ゲーム演習Ⅱ「シューター」①～タクティカルシューターの概要、チュートリアル	20 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	27 回	授業内容	e スポーツにおけるコミュニティイベントの意義と企画運営	修得した知識や技能の活用したイベントを企画・運営
	学習成果	タクティカルシューターの基本的なゲームシステムを理解できる。キーボード&マウスによる基本的な操作を習得できる。			学習成果	e スポーツイベントの開催に必要な知識・役割・機材などを理解し、イベントを企画から運営まで完結できる。	
	予習復習の内容	ガイダンスで説明したゲームタイトルの公式サイトや関連する攻略サイトや大会動画を見て、ゲームの概要を理解する。			予習復習の内容	e スポーツイベントや大会を主催者の視点で考察しておくこと。学校内で行うミニイベントの企画立案を考える。	
13 回	授業内容	講義：e スポーツがもたらす健康への効果と影響	13 回目授業後半に小テストを実施します。 ・日本の e スポーツ事情 ・トレーニング理論 ・身体や心理への影響	28 回	授業内容	e スポーツ・コミュニティイベント(プランニング)	
	学習成果	ゲームがもたらす身体や心理への効果と影響について理解を深め、説明できる。			学習成果	e スポーツにおけるコミュニティイベントを企画することができる。	
	予習復習の内容	学修内容を振り返り、科学的な見地から身体や心に及ぼす効果や影響について理解を深める。			予習復習の内容	コミュニティイベントの開催を企画して、必要な準備を行う。	
14 回	授業内容	ゲーム演習Ⅱ「シューター」②～ロール(役割)の理解と戦略の組み立て	20 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	29 回	授業内容	e スポーツ・コミュニティイベント(運営準備)	
	学習成果	基本的なキャラクター操作方法を理解し、基本的な動きをプレイできる。			学習成果	e スポーツにおけるコミュニティイベントの開催に向けて、制作や準備を行うことができる。	
	予習復習の内容	演習で行うゲームタイトルの攻略サイトや大会動画を見て、ゲーム概要の理解を深める。基本的な操作ができるように練習する。			予習復習の内容	コミュニティイベントの開催に向けて、必要な準備を行う。	
15 回	授業内容	講義：e スポーツの教育的価値と活用について	レポート提出 課題「e スポーツの未来」 社会的課題解決の観点から考察する。 23 回目授業までに提出。25 回授業時にフィードバックする	30 回	授業内容	e スポーツ・コミュニティイベントの運営	
	学習成果	教育現場における e スポーツ・ゲームを活用について知見を深め、意義について説明できる。			学習成果	e スポーツにおけるコミュニティイベントの開催して、運営することができる。	
	予習復習の内容	steam 教育やゲーミフィケーションについて調べておくこと。学修内容を振り返り、e スポーツがもたらす教育的効果について考察すること。			予習復習の内容	学修内容をふりかえり、良かった点、反省点などをしっかりと捉えて、イベント運営の理解を深める。	

科目名	Webプログラミング				担当者	大澤 栄子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後、オフィスアワー(初回授業で説明)、メール (oosawa.eiko@seiwa.ac.jp) で行う。											
専門的 学習成果	①	Webページの基本的な仕組みを理解している。										
	②	変数、制御構造、配列などプログラミングの基本文法を理解し、簡単なプログラムが作成できる。										
	③	Webページを動的にコントロールする技術要素を理解し、活用できる。										
	④	実践的なWebアプリケーションの開発手法を理解し、開発できる。										
汎用的 学習成果	(1)	Webプログラミング作成を通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を取得し実践できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	Webプログラミング作成を通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。(専門的学習成果③④に関連)										
	(3)	Webプログラミング作成を通して、論理的思考、自己表現を身につけ協働できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	JavaScriptはWebブラウザ内で動くプログラム言語である。WebアプリやWebサービスの中で、ユーザが直接操作する部分を作るために使われている。授業では、年月を指定できる「万年カレンダー」を例題に、JavaScriptの文法はもちろん、Webアプリケーションの開発手法や開発環境の基本についても学んでいく。 また、Webサイトの仕組みやプログラミングの基本を復習するとともに、アプリケーション開発をとおして、問題解決能力を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		演習課題	50	13回目授業までに10個の課題を提示し、作成したプログラムが正しく動くかを評価する。各課題につき5%を配点する。								
		最終課題	25	14回目授業で提示する最終課題が、適切に分析設計され仕様が実現されているかを評価する。								
	汎用的 学習成果	平常点	25	授業や課題への取り組み・意欲・態度により評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果③④で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	大川晃一・小澤慎太郎	『30時間アカデミック JavaScript 入門』				実教出版株式会社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	狩野祐東	『確かな力が身につく JavaScript「超」入門 第2版』				SBクリエイティブ株式会社						
	及川卓也	『スラスラ読める JavaScript ふりがなプログラミング増補改訂版』				株式会社インプレス						
	桜庭洋之、望月幸太郎	『スラスラわかる JavaScript 新版』				株式会社翔泳社						
	金子平祐・Grodet Aymeric・Bahadur MD Rakib・新居雅之	『JavaScript 基礎ドリル穴埋め式』				株式会社オーム						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①仕組みの理解と、プログラミング経験が重要になってくる。(予復習：週2時間程度) よって事前に教科書に目とおし、不明点を洗い出ししておくこと。 また、授業で作成した例題プログラムは、正常に動くように授業外の時間を有する場合がある。課題の提出も求めるので、授業以外にプログラミングにあたる時間が必要となる。(計30時間程度) ②授業内で発生した課題に対しては、その場で解説と補足を行う。 授業外で発生した課題に対しては、授業前後の時間、または、Office アワーで対応する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、教室の利用方法、Webページの基礎	
	学習成果	授業の目的と動的Webサイトの開発環境・手法を理解する。	
2回	予習復習の内容	Webページの基本について確認する。	演習課題① (定数と演算について) 第2回に提示
	授業内容	JavaScriptの仕組みと基本文法	
3回	学習成果	ScriptをHTMLに埋め込み、変数・定数による演算、文字列操作ができる。	演習課題② (条件判断文の利用について) 第3回に提示
	予習復習の内容	JavaScriptの仕組み、変数、定数、演算、文字列操作について確認する。	
4回	授業内容	制御構造-条件分岐	演習課題③ (繰り返し文の利用について) 第4回に提示
	学習成果	if文、if文の入れ子、論理演算を使った複数条件分岐、switch文が活用できる。	
5回	予習復習の内容	if文、if文の入れ子、論理演算を使った複数条件分岐、switch文について確認する。	演習課題④ (配列の利用について) 第5回に提示
	授業内容	制御構造-繰り返し	
6回	学習成果	while文、for文による繰り返し構文が作成できる。	演習課題⑤⑥ (DOM操作基本、タイマー処理について) 第6回に提示
	予習復習の内容	while文、for文による繰り返し構文について確認する。	
7回	授業内容	配列、関数	演習課題⑦ (CSS値変更について) 第7回に提示
	学習成果	配列の表示、要素の更新、ループ活用による配列表示、連想配列が利用できる。関数の利用法が理解できる。	
8回	予習復習の内容	配列、連想配列、関数について確認する。	演習課題⑧ (設定メニューについて) 第9回に提示
	授業内容	DOM操作-イベントとタイマー処理	
9回	学習成果	クリックイベントの設定、タイマー処理が実装できる。	演習課題⑨ (設定メニューについて) 第10回に提示
	予習復習の内容	DOM、クリックイベント、タイマーについて確認する。	
10回	授業内容	DOM操作-コンテンツ内容	演習課題⑩ (jQueryについて) 第13回に提示
	学習成果	DOM操作を利用して動的なページが作成できる。	
11回	予習復習の内容	DOM、動的ページについて確認する。	最終課題 仕様要求に基づくWebアプリを設計開発する。
	授業内容	Webアプリの作成-表示機能設定	
12回	学習成果	Webアプリ開発環境設定、カレンダー表示、月変更ボタンが作成できる。	
	予習復習の内容	Webアプリ開発環境、カレンダー表示、月変更ボタンについて確認する。	
13回	授業内容	Webアプリの作成-カレンダー機能設定	
	学習成果	祝休日設定、日付選択処理、装飾CSS、設定メニューが作成できる。	
14回	予習復習の内容	カレンダー機能について確認する。	
	授業内容	Webアプリの作成-保存機能	
15回	学習成果	Webストレージによる保存機能が理解できる。	
	予習復習の内容	Webストレージ、JavaScriptで使えるDB、IndexDBについて確認する。	
16回	授業内容	IndexDBの利用	
	学習成果	IndexDBによるデータ追加更新削除、データ検索ができる。	
17回	予習復習の内容	IndexDBによるデータ追加更新削除、データ検索について確認する。	
	授業内容	JavaScriptライブラリーの利用	
18回	学習成果	JavaScriptの代表的なライブラリー、フレームワークとの違いが理解できる。	
	予習復習の内容	JavaScriptライブラリーについて確認する。	
19回	授業内容	jQueryの利用	
	学習成果	jQueryの利用方法、jQueryUIの利用方法が理解できる。	
20回	予習復習の内容	jQuery、jQueryUIについて確認する。	
	授業内容	Webアプリの開発演習(1)	
21回	学習成果	与えられた課題を分析し、必要な処理が設計できる。	
	予習復習の内容	これまでの振り返り課題の分析と処理の設計を進める。	
22回	授業内容	Webアプリの開発演習(2)	
	学習成果	Webアプリの開発演習(1)の設計をもとに、プログラム開発ができる。	
23回	予習復習の内容	これまでの振り返り設計にもとづくプログラム開発を進める。	

科目名	Web サイト管理演習				担当者	村上航士						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。											
専門的 学習成果	①	コンテンツ・マネジメント・システム（CMS）の基本的な知識とスキルを用い、Web サイト管理について説明できる。										
	②	CMS を操作し、基本的なサイト管理が行える。										
	③	CMS を利用した、簡単な Web サイトの作成ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	CMS の仕組みと作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習成果①～③に関連）										
	(2)	CMS を学ぶことで、オウンドメディアでの情報発信などに役立てる事ができる。（専門的学習成果①～③に関連）										
	(3)	目的を明確に設計する事で、問題解決に向けた提案ができる。（専門的学習成果②～③に関連）										
授業概要	CMS は、ショッピングサイトやオウンドメディア（自分で保有するメディア）など、ビジネスの現場でも個人の情報発信においても広く使われ、今やビジネスでは必須のツールとなっている。この授業では、その CMS の基本的な知識と運用法に加え、自ら簡単なページの設計ができることを目的としている。またこれまでに習得した IT スキルを用いて、企画から制作、サーバー管理から運用まで、全体の設計を習得していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。								
		平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的評価①～③で評価を行う。 (2)は専門的評価①～③で評価を行う。 (3)は専門的評価②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	泰道ゆりか	『ゼロから学ぶはじめての Wordpress』				SB クリエイティブ						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週2時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、アプリケーションの基礎知識-1	実習課題1（WEBサイトの提出）
	学習成果	使用するアプリケーションの準備を行う。	
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、使用するツールの用語などを確認する。		
	授業内容	アプリケーションの基礎知識-2	
2回	学習成果	CMS の操作の基本を理解する。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返り、基本操作を確認する。	
3回	授業内容	Wordpress 開設の準備	
	学習成果	サーバーとドメインの仕組みについて理解する。	
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。		
	4回	授業内容	
4回	学習成果	Wordpress の初期設定について理解する。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
5回	授業内容	Web サイトの制作～テーマの設定	
	学習成果	Wordpress のテーマの設定について理解する。	
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。		
	6回	授業内容	Web サイトの制作～投稿ページの設定
6回	学習成果	投稿ページの制作を通して、投稿ページの仕組みについて理解する。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
7回	授業内容	Web サイトの制作～固定ページの設定	
	学習成果	トップページ・メニューページの制作を通して、固定ページの仕組みについて理解する。	
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。		
	8回	授業内容	Web サイトの制作～プラグインの追加
8回	学習成果	プラグインによる機能の追加と注意点を理解する。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
9回	授業内容	ネットショップの制作-1	
	学習成果	EC サイトの特性とカート機能について理解する。	
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。		
	10回	授業内容	ネットショップの制作-2
10回	学習成果	EC サイトの特性とカート機能について理解する。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
11回	授業内容	Web サイトの集客	実習課題2（WEBサイトの提出）
	学習成果	運用と SEO について理解する。	
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。		
	12回	授業内容	
12回	学習成果	CMS を用いた Web サイト企画し作成する。	
	予習復習 の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイトを完成させる。	
13回	授業内容	総合演習	
	学習成果	CMS を用いた Web サイト企画し作成する。	
予習復習 の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイトを完成させる。		
	14回	授業内容	
14回	学習成果	CMS を用いた Web サイト企画し作成する。	
	予習復習 の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイトを完成させる。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。	
予習復習 の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイト制作の理解を深める。		

科目名	Web プランニング				担当者	村上航士						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。										
専門的 学習成果	①	デザイン思考を身につけ、問題解決に役立てることができる										
	②	UI/UX について理解し、それに基づいた画面設計を考えることができる										
	③	ユーザー心理を読み解くことができる										
	④	課題を発見し、デザインの思考で問題解決の方法を提示できる										
汎用的 学習成果	(1)	UI/UX を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	情報を分析していくことで、問題点の洗い出しができる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	デザインを用いて、問題解決に向けた提案ができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
授業概要	この授業では、Web サイトの企画から制作・運用に至るまでの知識と考え方を学習していく中で、問題を発見しを解決していく方法を習得していく。また近年、ビジネスの現場で取り上げられている「デザイン思考」を中心に、情報を整理から解決までの道筋を、論理立ててつくり出せることを目的としている。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		課題	70	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。								
		平常点	30	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的評価①で評価を行う。 (2)は専門的評価②③で評価を行う。 (3)は専門的評価①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	伊東庄平、益子貴寛、久保知己、宮田優希、伊藤由暁		『Web デザインの基本 きちんと入門』				SB クリエイティブ					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	坂本伸二		『デザイン入門教室』				SB クリエイティブ					
	川合俊介、大本あかね		『ノンデザイナーでもわかる UX + 理論で作る Web デザイン』				マイナビ出版					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週4時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス、Web デザインの基本とデザイン思考	実習課題1 (レポートの提出)	
	学習成果	Web デザインのワークフローとデザイン思考について理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
2回	授業内容	レイアウトの原則		
	学習成果	レイアウトにおける基本原則について理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
3回	授業内容	配色		
	学習成果	配色におけるイメージコントロールについて理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
4回	授業内容	写真と図版		実習課題2 (WEB サイトの提出)
	学習成果	Web サイトにおける写真の役割と効果について理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
5回	授業内容	タイポグラフィ		
	学習成果	書体の基礎知識や書体による印象の違いを理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
6回	授業内容	デザイン思考		
	学習成果	デザイン思考についてさらに深く理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
7回	授業内容	デザイン思考～ケーススタディ		
	学習成果	デザイン思考についてさらに深く理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
8回	授業内容	デザイン思考～実践		
	学習成果	デザイン思考についてさらに深く理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
9回	授業内容	HTML5 と CSS3		
	学習成果	HTML5 と CSS3 について振り返り、レイアウト設計の理解を深める。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
10回	授業内容	インタラクションデザインと UI		
	学習成果	インタラクションデザインの基本原則を理解し、目的に合わせた UI を設計できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
11回	授業内容	運用とマーケティング-1		
	学習成果	Web サイトの運用とマーケティングの方法について理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
12回	授業内容	運用とマーケティング-2	実習課題3 (WEB サイトの提出)	
	学習成果	Web サイトの運用とマーケティングの方法について理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
13回	授業内容	総合演習		
	学習成果	運用まで含めた、Web サイトの企画書を作成する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
14回	授業内容	総合演習		
	学習成果	運用まで含めた、Web サイトの企画書を作成する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
15回	授業内容	まとめ		
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。		
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイト制作の理解を深める。		

科目名	図書館制度・経営論				担当者	稲 雄 次						
区 分	選 択	2	単 位	授業回数	15	回	授 業 形 態	講 義	学 年	2 年	開 講 期	後 期
				授業時間数	30	時 間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中、講師室、授業内で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	図書館制度を理解でき、それを説明できる。										
	②	図書館経営を理解でき、それを説明できる。										
	③	図書館法を理解でき、それを説明できる。										
	④	図書館関連法規を理解でき、それを説明できる。										
	⑤	図書館と国との役割を理解でき、それを説明できる。										
	⑥	図書館と自治体との役割を理解でき、それを説明できる。										
	⑦	図書館経営形態を理解し、未来の図書館について構想を提案できる。										
汎用的 学習成果	(1)	図書館制度の中の司書の役割を果たすことができる。(専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連)										
	(2)	図書館経営における司書の任務を遂行できる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	図書館経営形態を理解して、司書の位置確認ができるようにする。(専門的学習成果②③に関連)										
	(4)	図書館の多様な施設を考えて経営に参加することができるように準備する。(専門的学習成果⑦に関連)										
授業概要	図書館の役割は1知識蓄積、2知識伝達、3知的創造、4生涯学習、5読書推進の5つである。この科目においては図書館の制度の法規を学び、日本国憲法から教育基本法、社会教育法、そして図書館法と続くことを理解する。また、現在の図書館経営の多様化を説明しながら、その代表的なものとして図書館指定管理者制度を解説する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	授業内において回答してもらい、その後に説明をする。								
		筆記試験	70	授業後半に筆記試験形式で設問に答えてもらう。								
		平常点	10	授業内で説明する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果は①～⑦で評価する。 (2) は専門的学習成果は②③で評価する。 (3) は専門的学習成果は②③で評価する (4) は専門的学習成果は⑦で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名									出版社名	
	稲雄次	『図書館指定管理者制度』									北方風土社	
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名									出版社名	
	安藤友張	『図書館制度・経営論』									ミネルヴァ書房	
	柳与志夫	『図書館制度・経営論』									学文社	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①現在の図書館は運営から経営に変わった。学習内容は図書館制度と経営の多様化を理解すること。公共図書館においては直営方式と業務委託方式があることを理解する。(週4時間) ②筆記試験は試験後に返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ライブラリーマネジメント入門	適宜、レポートを課し、評価する。
	学習成果	図書館制度と経営について説明できる。	
予習復習 の 内 容	公共図書館を事前に利用してみること。		
	授業内容	図書館の役割	
2回	学習成果	図書館の社会的役割を制度と経営から説明できる。	
	予習復習 の 内 容	公共図書館の中の広域自治体の県図書館と基礎自治体の市図書館を利用してみること。	
3回	授業内容	図書館の関連法規	
	学習成果	図書館関連法規について説明できる。	
予習復習 の 内 容	憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法について調べておくこと。		
4回	授業内容	図書館と国	
	学習成果	国と図書館の関係を説明できる。	
予習復習 の 内 容	図書館法について調べておくこと。		
5回	授業内容	図書館と地方公共団体(自治体)	
	学習成果	自治体と図書館の関係を説明できる。	
予習復習 の 内 容	地方自治法を調べておくこと。		
6回	授業内容	図書館職員の司書資格	
	学習成果	図書館専門職司書について説明できる。	
予習復習 の 内 容	図書館法における司書を調べておくこと。		
7回	授業内容	図書館職員の専門性	
	学習成果	専門とは何かを説明できる。	
予習復習 の 内 容	いわゆる専門家を調べておくこと。		
8回	授業内容	図書館施設及び設備	
	学習成果	図書館建築と設備について説明できる。	
予習復習 の 内 容	図書館の書架、床材、椅子とキャレル、サインを調べておくこと。		
9回	授業内容	図書館の物理的危機管理と心理的危機管理	
	学習成果	危機管理の種類を説明できる。	
予習復習 の 内 容	自然災害、情報トラブル、病原体、人的トラブル、盗難盗撮などを調べておくこと。		
10回	授業内容	図書館経営とマーケティング	
	学習成果	フリーエージェント社会における公共図書館を説明できる。	
予習復習 の 内 容	宮城県図書館や仙台市民図書館を利用してみること。		
11回	授業内容	図書館経営形態とアウトソーシング	
	学習成果	図書館経営の多様化を説明できる。	
予習復習 の 内 容	教科書をよく読んでおくこと。		
12回	授業内容	図書館経営形態とPFIと市場化テスト	
	学習成果	PFIと市場化テストを説明できる。	
予習復習 の 内 容	教科書をよく読んでおくこと。		
13回	授業内容	図書館経営形態と指定管理者制度	
	学習成果	図書館指定管理者制度を説明できる。	
予習復習 の 内 容	仙台市広瀬図書館、仙台市榴岡図書館、仙台市若林図書館、多賀城市立図書館を見ること。		
14回	授業内容	ライブラリーマネジメントと自治体	
	学習成果	小規模公共図書館を説明できる。	
予習復習 の 内 容	北海道夕張市、福島県矢祭町、鳥根県海士町の図書館を調べる。		
15回	授業内容	図書館ニューウェイブ(マイクロライブラリー、私設図書室etc)、まとめ	
	学習成果	未来の図書館を説明できる。	
予習復習 の 内 容	今までの補助教材を復習しておくこと。		

科目名	情報サービス論				担当者	庄 子 隆 弘						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	情報サービスの種類や特徴を挙げて、説明できる。										
	②	情報サービスを司書、図書館員の視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げるができる。										
	③	レファレンスサービスの理論と実際について説明できる。										
	④	情報サービスを経営的視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げるができる。										
	⑤	情報サービスに関わるテクノロジーやツールを挙げて、説明できる。										
	⑥	情報サービスに関する現代の課題や解決案を議論できる。										
汎用的 学習成果	(1)	情報サービスの基礎的な学習スキルを身につけることで、司書、図書館員として職業的自立につなげることができる。 (専門的学習成果①～③⑤に関連)										
	(2)	情報サービスを通じたコミュニケーションによって、複雑化する現代社会における課題の解決や、主体的行動をとることができる。 (専門的学習成果②～④に関連)										
	(3)	情報サービスの特性を学び、活用方法を議論することで、地域社会の課題解決や発展に積極的に貢献することができる。 (専門的学習成果①③⑥に関連)										
授業概要	図書館はただ単に本を借りる場所ではない。人びとが必要としている情報をいかに提供することができるかは、図書館員の専門性が問われる資質である。本授業では、その基本的な理論を学ぶと共に、情報検索の実践的テクニックやレファレンス（参考調査）と呼ばれる情報サービスのプロセスや手法を実例を交えて解説する。また、多様な情報源に対応するための研修、積極的に利用してもらうための発信型サービスや利用者教育などを解説する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	20	2回実施し、各回10%を配点する。3～5回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
		筆記試験	80	第15回の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回の講義内容の理解について評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③⑥で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名			出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名			出版社名						
	山口真也、千錫烈、望月道浩		『情報サービス論』			ミネルヴァ書房						
	田村俊作		『情報サービス論』			東京書籍						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前に前回授業の資料を読みポイントを把握した上で（計15時間）授業に臨み、実際に短大図書館や近隣の公共図書館で情報サービスを利用し、学んだことを体験することで、講義内容の理解を深めておく（計30時間）。また、小テスト、筆記試験の準備を行い（計15時間）、理解の定着に努めること。 ②フィードバックとして、小テスト、筆記試験は返却し解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス：前期授業概要と授業計画の説明。情報サービスとは何か		小テスト（情報サービスの概要について）を第3回に実施。
	学習成果	授業の概要を理解、到達目標を説明することができる。		
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読んでおく。授業計画と目標を理解し、全体を把握する。		
	授業内容	情報社会と図書館の情報サービス		
3回	学習成果	情報社会と図書館の情報サービスの関連を提示し説明できる。		
	予習復習の内容	情報サービスと図書館の関係性を理解する。		
4回	授業内容	情報サービスの種類。館種別の特徴		
	学習成果	情報サービスの種類、館種別の特徴を挙げて、説明できる。		
5回	予習復習の内容	館種毎の情報サービスの特徴を理解する。		
	授業内容	個別支援型サービス①レファレンスサービスの定義、種類、機能		
6回	学習成果	レファレンスサービスの定義、種類、機能を挙げて、説明できる。		
	予習復習の内容	レファレンスサービスの基礎的な理論を理解する。		
7回	授業内容	個別支援型サービス②レファレンスプロセス		
	学習成果	レファレンスプロセスを系統立てて説明できる。		
8回	予習復習の内容	調べたい情報を1つ準備しておく。		
	授業内容	個別支援型サービス③レファレンスインタビュー		
9回	学習成果	レファレンスインタビューにおける質問とその分析の実際を挙げるができる。		
	予習復習の内容	レファレンスインタビューの方法と注意点を理解する。		
10回	授業内容	個別支援型サービス④レファレンスコレクション		
	学習成果	レファレンスコレクションの特徴を挙げて、説明できる。		
11回	予習復習の内容	図書館でレファレンスブックを1冊手にとってみる。		
	授業内容	個別支援型サービス⑤レファレンス事例の活用		
12回	学習成果	ウェブや冊子のレファレンス事例を比較して論じることができる。		
	予習復習の内容	「レファレンス共同データベース」のウェブサイトを見ておく。		
13回	授業内容	情報検索の理論と方法、実践		
	学習成果	情報検索の理論と方法を元に、効率的に検索することができる。		
14回	予習復習の内容	1つ以上の事柄を検索ツールを使って調べておく。		
	授業内容	発信型情報サービス		
15回	学習成果	発信型情報サービスの定義と種類を挙げ説明できる。		
	予習復習の内容	2つ以上の発信型情報サービスにアクセスし、比較してみる。		
16回	授業内容	新しい技術を使ったサービスと情報サービスのこれから		
	学習成果	情報サービスに関わるテクノロジーやツールを挙げて、説明できる。		
17回	予習復習の内容	2つ以上の発信型情報サービスにアクセスし、比較してみる。		
	授業内容	利用環境の整備～レファレンスカウンター、ラーニングコモンズなど～		
18回	学習成果	効率的な情報サービスを展開するために必要な利用環境について説明できる。		
	予習復習の内容	短大図書館のカウンターを見学しておく。		
19回	授業内容	レファレンスライブラリアン～人材と研修～		
	学習成果	情報サービスに必要な人材育成と研修の必要性について論じることができる。		
20回	予習復習の内容	レファレンスライブラリアンに必要な資質を挙げられる。		
	授業内容	利用者教育・情報リテラシー教育		
21回	学習成果	情報サービスを利用する際に必要な利用者教育・情報リテラシー教育について説明できる。		
	予習復習の内容	図書館で調べるメリットとデメリットをを考えておく。		
22回	授業内容	課題と解決方法を議論する		
	学習成果	情報サービスに関する現代の課題や解決案を議論できる。		
23回	予習復習の内容	議論した内容に関する資料を探してみる。		

科目名	情報サービス演習				担当者	ショウ ジ ユウ カ ヒロ 庄 子 隆 弘							
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期	
				授業時間数	60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	情報サービスの意義について、利用者の質問に適切な情報を提供できるための技法やツールを挙げて、説明できる。											
	②	情報サービスの中心となるサービスである「レファレンスサービス」について、その技法やツールを挙げて、説明できる。											
	③	図書館情報資源毎の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。											
	④	発信型情報サービスの種類を挙げ、活用及び作成することができる。											
	⑤	レファレンス共同データベースの事例等を参考にレファレンス記録を作成し、それらを評価することができる。											
汎用的 学習成果	(1)	情報サービスの実践的な演習を重ねることで、司書、図書館員として職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)											
	(2)	多様なテーマの情報サービス演習を扱うことによって、他者の課題を理解し、論理的なプロセスによって、解決に導くことができる。(専門的学習成果③に関連)											
	(3)	情報サービスは、人びとや地域社会の課題解決に関わる内容であることが多いため、演習によってそのスキルを伸ばし、活用することができる。(専門的学習成果①③に関連)											
授業概要	情報サービスにおけるレファレンスサービス、文献調査、読書案内などの直接サービス、レファレンス記録やパスファインダーの作成などの間接サービスの概要を学ぶ。それらのサービスを提供するためには、図書館情報資源（ネットワーク、冊子体）の特徴を把握しているだけでなく、利用者とのコミュニケーションスキル（レファレンスインタビュー）やレファレンス支援ツールの活用なども必要となる。利用者の求めに応じ、適切な情報を提供できるよう演習を通して、実践的な能力を養成する。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		演習課題	80	8回実施し、各回10%を配点する。1回分の演習内容について理解の程度を評価する。									
		小テスト	10	1回実施し、10%を配点する。8回分の講義内容について理解の程度を評価する。									
	筆記試験	10	第30回の授業後半に筆記試験形式で行い、全30回の講義内容の理解について評価する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①及び③で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名						
	中山愛理		『情報サービス演習』				ミネルヴァ書房						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①各自に与えられた演習課題は、毎回独自に調査し、発表する授業なので、主体的に取り組むこと。演習時間内で解決できない場合や、大学図書館に参考文献が足りない場合は、最寄りの公共図書館で調査し、次回の授業前までに提出することとする。(計30時間) ②フィードバックとして、小テスト、筆記試験は返却し解説を行う。発表はその場で講評、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1・ 2回	授業内容	ガイダンス：授業計画、図書館における情報サービスの構築	
	学習成果	現代の情報社会と図書館で行う情報サービスに関連について説明できる。	
3・ 4回	予習復習 の内容	情報社会を象徴する事例を調べておく。	
	授業内容	レファレンス情報源の評価と整備	
5・ 6回	学習成果	レファレンスツールとレファレンスコレクションについて説明できる。	
	予習復習 の内容	図書館で、レファレンスツールに触れておく。	
7・ 8回	授業内容	レファレンスの受付とインタビューの技法と実際	
	学習成果	利用者とのコミュニケーションの大切さを理解し、質問への対応を実践できる。	
9・ 10回	予習復習 の内容	レファレンスインタビューにおけるコミュニケーションの重要性を理解する。	
	授業内容	情報探索の技法	
11・ 12回	学習成果	情報探索に必要な技法やツールを理解し、活用できる。	
	予習復習 の内容	図書館のOPACなどで、キーワードを入力し、情報探索を行う。	
13・ 14回	授業内容	図書情報の探し方	
	学習成果	図書情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
15・ 16回	予習復習 の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
	授業内容	新聞・雑誌情報の探し方	
17・ 18回	学習成果	新聞・雑誌情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
	予習復習 の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
19・ 20回	授業内容	言語、事物、概念に関する情報の探し方	
	学習成果	言語、事物、概念に関する情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
21・ 22回	予習復習 の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
	授業内容	法令、条例、判例、政府・行政情報の探し方	
23・ 24回	学習成果	法令、条例、判例、政府・行政情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
	予習復習 の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
25・ 26回	授業内容	知的財産系情報の探し方	
	学習成果	知的財産系情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
27・ 28回	予習復習 の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
	授業内容	人物、企業、団体情報の探し方	
29・ 30回	学習成果	人物、企業、団体情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
	予習復習 の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
29・ 30回	授業内容	生活に関わる情報の探し方	
	学習成果	生活に関わる情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
29・ 30回	予習復習 の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
	授業内容	レファレンス質問に課する総合演習	
29・ 30回	学習成果	冊子体情報資源及びネットワーク情報資源を使って適切な情報を探索できる。	
	予習復習 の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
29・ 30回	授業内容	発信型情報サービスの実際	
	学習成果	発信型情報サービスの種類を挙げ、活用及び作成することができる。	
29・ 30回	予習復習 の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
	授業内容	情報サービスの回答と評価	
29・ 30回	学習成果	レファレンス記録を作成し、それらを評価することができる。	
	予習復習 の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
29・ 30回	授業内容	筆記試験（全30回分の内容を問う）第30回後半に実施。	
	学習成果	筆記試験（全30回分の内容を問う）第30回後半に実施。	

科目名	図書館情報技術論				担当者	川 辺 博						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				kawabe.hiroshi@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。								
専門的 学習成果	①	図書館の業務に必要な基礎的な情報通信技術（ICT）を説明できる。										
	②	OPACなどの資料探索ツールや電子資料のしくみと特性を理解し、活用できる。										
	③	ICTの発展に連動した図書館業務の変化を議論できる。										
汎用的 学習成果	(1)	図書館業務に関わるICTの概要を理解することにより、司書としての職業的自立につなげることができる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	ICTと図書館の関わりを学ぶことを通じて、現在と将来の図書館のありかたを探求することができる。（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	社会における情報通信技術（ICT）普及の影響は図書館にも及んでいる。図書館はいまや書籍の単なる貯蔵庫ではなく電子化された資料も扱うようになった。インターネット上の情報資源のようにパッケージ化されていない「資料」や電子書籍への対応も求められており、業務におけるICT活用の重要性は増している。この授業ではICTの基本的なしくみや歴史的背景の知識を、図書館の業務に関連づけながら解説する。これにより、日々発展するICTの動向を把握し、図書館の将来の変化に対応できることをめざす。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	論述形式の出題により、講義内容の理解度を把握する。								
		レポート										
		小テスト	30	予習による理解度を測定するため、毎回実施する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②で評価をおこなう。 (2)は専門的学習成果③で評価をおこなう。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日高昇治		『図書館情報技術論 第3版』				学文社					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業は、受講生がテキストの少なくとも1章分を前もって読んで下調べしてあることを前提に展開する。前もって専門用語を確認したり、司書資格科目の他の科目の内容を確認したりしておくこと（予習：週2時間程度）。授業のほとんどの時間は、テキストの説明ではなく、具体例の追加やテキスト発行後のICTの発展による変化などの補足説明に費やす。授業後は、テキストの内容と解説の内容とを各自で整理・統合すること。（復習：週2時間程度）。 ②小テストや提出物は返却し、その際に解説をおこなう。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス、コンピュータとネットワークの基礎		小テスト
	学習成果	この授業の学習方法を身につける。コンピュータの基本構造を説明できる。		
	予習復習の内容	他の司書資格科目で学習した内容をまとめておく。		
	授業内容	館内LANの構成、プロトコル		小テスト
2回	学習成果	LANを構成する機器の種類や「プロトコル」がなにかを説明できる。		
	予習復習の内容	ネットワーク機器の名称と機能を整理する。		
3回	授業内容	コンピュータシステムの管理		小テスト
	学習成果	「セキュリティポリシー」など、システム管理の考え方を説明できる。		
	予習復習の内容	システム管理の各要素の内容と、相互の関係をまとめる。		
	授業内容	データベースの仕組み		小テスト
4回	学習成果	データベースの構造と機能を説明できる。		
	予習復習の内容	身近な場面におけるデータベースの利用を思い出し、教科書の内容と関連づける。		
5回	授業内容	図書館業務システムの仕組み		小テスト
	学習成果	図書館業務におけるデータベースの構築などを説明できる。		
	予習復習の内容	一般的なデータベースを図書館業務に適用する際の注意点をまとめる。		
	授業内容	館内ネットワークの仕様および仕様書		小テスト
6回	学習成果	館内LANを設計・構築するための手順や、仕様を定める際の注意点を説明できる。		
	予習復習の内容	「もし自分がLANを構築することになったら」という視点でこの章を読み返す。		
7回	授業内容	図書館における情報技術活用の現状		小テスト
	学習成果	「書誌コントロール」の重要性を説明できる。		
	予習復習の内容	ICTの発展と図書館サービスの展開の関係をまとめる。		
	授業内容	電子資料の管理技術		小テスト
8回	学習成果	電子資料の特性と図書館における管理の技術を説明できる。		
	予習復習の内容	電子書籍など身近な電子資料の活用を思い出し、図書館業務に関連づける。		
9回	授業内容	電子図書館とデジタルアーカイブ		小テスト
	学習成果	電子図書館とはなにか、資料をどのようにして電子化するかを説明できる。		
	予習復習の内容	アナログ資料をデジタル化するための手法と注意点を整理する。		
	授業内容	最新の情報技術と図書館		小テスト
10回	学習成果	ICTの発達と図書館業務の変化を関連づけて説明できる。		
	予習復習の内容	ICTの発達の歴史を振り返っておく。		
11回	授業内容	情報技術と社会		小テスト
	学習成果	「パソコン」と「インターネット」が社会に及ぼした影響を説明できる。		
	予習復習の内容	パソコンおよびインターネットの誕生と発展を整理する。		
	授業内容	インターネットと図書館		小テスト
12回	学習成果	インターネットの特徴と、図書館との関わりを説明できる。		
	予習復習の内容	WWW、URL、DNSなどの専門用語を整理する。		
13回	授業内容	サーチエンジンの仕組み		小テスト
	学習成果	サーチエンジン（検索エンジン）の仕組みを説明できる。		
	予習復習の内容	サーチエンジンの仕組みと発展の歴史を整理する。		
	授業内容	Web 2.0と Library 2.0		小テスト
14回	学習成果	「Web 2.0」と呼ばれたインターネット上の変化と図書館への影響を説明できる。		
	予習復習の内容	情報発信のありかたの変化をとらえ、図書館業務と関連づけて整理する。		
15回	授業内容	今後の展望		小テスト
	学習成果	今後のICTの発展を想定しながら将来の図書館の変化を考察できる。		
	予習復習の内容	電子化の進展により、将来の図書館はどう変化するかをまとめる。		

科目名	情報資源組織演習					担当者	熊谷慎一郎					
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中以外の質問や相談は、メール又は講師控室で受付ける。										
専門的 学習成果	①	多様な情報資源に対し、演習により分類記号付与についての知識を獲得する。										
	②	主題からのアプローチを可能とさせるため、件名付与についての知識を獲得する。										
	③	演習により、情報資源に関する書誌データの作成についての知識を獲得する。										
	④	図書館（公共、大学等）の作成する蔵書目録から、書誌所在情報について、その機能及び構造の説明ができる。										
	⑤	社会における新しいメディアの普及と、図書館で扱う情報資源の急速な変化に対する知識と理解を深める。										
汎用的 学習成果	(1)	大学における他の講義のための課題や予習のために必要な情報検索手法を身につけることができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	地域の公共図書館を自由に活用できるスキルを獲得し、幅広い教養を積むのに役立つことができる。（専門的学習成果③④に関連）										
	(3)	生涯学習施設である図書館の情報発信の役割を学ぶことにより、社会人としても向上し続ける手段を身につけるとともに地域社会の発展に貢献できる。（専門的学習成果④⑤に関連）										
授業概要	「情報資源組織法」で学んだ情報資源の組織化について、通年にわたる演習を通して実践的な手法を身につける。演習は、様々な形態・内容の情報資源に関する書誌データの作成練習を中心に、多様な情報資源の書誌事項を、検索可能な書誌データの形式に変換する実践的な技術を身に付けられるように進めていく。このため、「日本十進分類法」、「日本目録規則」、「基本件名標目表」の構造や使用法を学習することによって、情報資源組織業務についての基本的な知識を獲得する。次に、多様な情報資源に関する主題分析、統制語彙の適用、分類作業、書誌データの作成、メタデータの作成等の技術を習得し、情報資源に違いに応じた、主題から検索キー付与等の書誌データ作成作業を重ねて、情報資源組織化の実務に役立つ能力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		演習課題	50	演習課題は毎回発表または提出し、理解の程度および完成度の評価を行う。								
		筆記試験	50	第15回目と第30回目の授業後半に筆記試験を実施し、理解の程度および達成度の評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	志保田努・高鷲忠美編 書、平井尊士共著		『情報資源組織法 第3版』							第一法規		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	日本図書館協会分類委員会		『日本十進分類法 新訂10版』							日本図書館協会		
	日本図書館協会目録委員会		『日本目録規則 1987年版改訂3版』							日本図書館協会		
	日本図書館協会件名委員会		『基本件名表目標 第4版』							日本図書館協会		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①教科書の各回部分を事前に予習として読んでおくこと（各回1時間）。資料の組織化には、学術上の知識体系を蓄積しておくことが必要であるから、週1時間以上は大学図書館で所蔵する学術書を始め、できる限り多くの資料に触れる時間を持つこと。最寄りの公共図書館等を活用し、毎週1冊は何らかの本を読了すること。 ②演習課題は、その都度仕上げ、完成後、発表または提出するものとする。各演習回中に解答及び解説を行うので、間違えた箇所は朱書き訂正して提出すること。筆記試験は次回の演習時に解答及び解説並びに講評を行いフィードバックする。										

		授業計画		学習成果の評価	授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	前期授業概要と授業計画、主題からの検索		分類規程に関する課題演習は第3回に実施	16回	授業内容	後期授業概要と授業計画	書誌データの参考事例を見ながらの記入演習を第3回に実施
	学習成果	主題からの検索の必要性を理解しそのしくみを説明できる。				学習成果	情報資源の組織化について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの「序説」を読み、図書館学の科目全体の概要と、授業の目的を理解する。				予習復習の内容	「書誌」と「目録」と「索引」の違いについて、まず一般的な説明を事前に調べておく。	
2回	授業内容	「日本十進分類法」補助表の説明		2回	17回	授業内容	目録作成総説、コンピュータによる目録	
	学習成果	補助表の役割を理解し説明できる。				学習成果	目録作成規則の意義を理解し説明できる。	
3回	予習復習の内容	『日本十進分類法（相関索引・使用法編）p274～の「分類構築」を読み、分類記号合成の仕組みを理解してから授業にのぞむこと。		3回	18回	授業内容	書誌データ作成の参考事例と記入演習	
	授業内容	一般分類規程の演習				学習成果	目録作成の事例を参考に書誌の記入項目を確認する。	
	学習成果	分類規程を理解し説明できる。				予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。	
4回	授業内容	「基本件名標目表」による統制語彙演習		4回	19回	授業内容	図書館資料の記述1	課題演習
	学習成果	「件名」という図書館独特の統制方法を理解し説明できる。				学習成果	目録記述（タイトル）を理解し身につける。	
5回	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		5回	20回	授業内容	図書館資料の記述2	課題演習
	授業内容	1類 哲学・宗教の分類演習				学習成果	目録記述（責任表示）を理解し身につける。	
	学習成果	哲学・宗教分野の分類手法を身につける。				予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。	
6回	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		6回	21回	授業内容	図書館資料の記述3	課題演習
	授業内容	2類 歴史・地理の分類演習				学習成果	目録記述（版・出版事項）を理解し身につける。	
	学習成果	歴史・地理分野の分類手法を身につける。				予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。	
7回	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		7回	22回	授業内容	図書館資料の記述4	課題演習
	授業内容	7類 芸術の分類演習				学習成果	目録記述（形態）を理解し身につける。	
	学習成果	芸術分野の分類手法を身につける。				予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。	
8回	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		8回	23回	授業内容	図書館資料の記述5	課題演習
	授業内容	8類 語学の分類演習				学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。	
	学習成果	語学分野の分類手法を身につける。				予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。	
9回	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		9回	24回	授業内容	図書館資料の記述6	課題演習
	授業内容	9類 文学の分類演習				学習成果	目録記述（シリーズ）を理解し身につける。	
	学習成果	文学分野の分類手法を身につける。				予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。	
10回	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		10回	25回	授業内容	図書館資料の記述7	課題演習
	授業内容	3類 社会科学の分類演習				学習成果	目録記述（全集や多巻もの）を理解し身につける。	
	学習成果	社会科学分野分類手法を身につける。				予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。	
11回	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		11回	26回	授業内容	各種資料の記述1 視聴覚資料	課題演習
	授業内容	4類 自然科学の分類演習				学習成果	視聴覚資料について自力で書誌を作成できるようにする。	
	学習成果	自然科学分野の分類手法を身につける。				予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。	
12回	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		12回	27回	授業内容	各種資料の記述2 電子資料	課題演習
	授業内容	5類 技術・工学の分類演習				学習成果	電子資料について自力で書誌を作成できるようにする。	
	学習成果	技術・工学分野の分類手法を身につける。				予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。	
13回	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		13回	28回	授業内容	継続資料の記述	課題演習
	授業内容	6類 産業の分類演習				学習成果	継続資料について自力で書誌を作成できるようにする。	
	学習成果	産業分野の分類手法を身につける。				予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。	
14回	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		14回	29回	授業内容	オンライン資料・古典籍資料の記述	課題演習
	授業内容	0類 総記の分類演習				学習成果	オンライン資料・古典籍資料について自力で書誌を作成、またその特殊性を理解し説明できるようにする。	
	学習成果	総記分野の分類手法を身につける。				予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。	
15回	授業内容	分類の留意点総括、筆記試験		15回	30回	授業内容	筆記試験	全分野の分類筆記試験
	学習成果	各分野における分類手法の要点を理解し説明できる。				学習成果	情報資源の組織化の手法や考え方を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体についてテキストと配付資料を整理・確認しておくこと。				予習復習の内容	この授業の内容全体についてテキストと配付資料を整理・確認しておくこと。	

科目名	絵本の知識				担当者	関根俊二・他						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内および授業直後に受け付ける										
専門的 学習成果	①	絵本に関する専門的な知識をもち、絵本の楽しさや奥深さを説明することができる。										
	②	絵本を活用する専門的な知識をもち、児童のさまざまな要望に応えることができる。										
	③	絵本と児童と出会うさまざまな場面について理解し、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	聞き手や状況に配慮したコミュニケーションができる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(2)	着実で計画的なコーディネート力により課題に適切に対応できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
授業概要	絵本に係る専門的な知識と技術について学び、絵本を手掛かりにして児童の読書活動推進に貢献できることをめざす。まず絵本の表現特性、ジャンルの多様性、子供の成長と関わりなど絵本について知識を深める。次に絵本と児童が出会うさまざまな場面について理解する。さらに児童に絵本を伝える技術の広がりについて学ぶ。講師を務める多くのゲストスピーカーは、息をひそめて子供が絵本を見つめる絵本享受の現場に精通しており、絵本の本当の楽しさや可能性について学ぶことができるだろう。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	100	授業内または授業後に課す。講義の理解度で評価を行う。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	絵本専門士委員会課程 認定部会認定絵本士養成 講座テキスト作成 ワーキンググループ	『認定絵本士養成講座 テキスト』				絵本専門士委員会 独立行政 法人国立青少年教育振興機構						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	中川素子	『絵本学講座① 絵本の表現』				朝倉書店						
	石井光恵	『絵本学講座② 絵本の受容』				朝倉書店						
	松本猛	『絵本学講座③ 絵本と社会』				朝倉書店						
	中川素子	『絵本学講座④ 絵本ワークショップ』				朝倉書店						
	生田美秋 他	『ベーシック 絵本入門』				ミネルヴァ書房						
	藤本朝巳	『絵本のしくみを考える』				日本エディタースクール出版部						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①右ページの「授業計画」を参考にして、テキストの該当箇所をあらかじめ読んだ上で、授業に臨むこと。 関心がある部分については資料やインターネットを利用して、さらに理解を深めておく。(授業ごと事前学習2時間、事後学習2時間程度) また、授業で紹介される多くの絵本を、日常的に鑑賞しておくことが望ましい。認定絵本士養成講座修了要件は8割以上の出席。 ②レポートは評価をした上で返却する。 (受講にあたっての連絡) 受講人数は40人程度とする。これを超えた場合は、まず司書課程履修者の受講を優先する。次に、それ以外の履修希望者に対して抽選を行って受講の可否を決定することができる。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	認定絵本士講座オリエンテーション	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	認定絵本士の役割、本講座の仕組みについて説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	絵本とは何か	受講時に課すレポートによる。
2回	学習成果	絵本の特性、多様性について説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
3回	授業内容	絵本の歴史、絵本賞	受講後に提出するレポートによる。
	学習成果	絵本の歴史、絵本賞について説明できる。	
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
4回	授業内容	絵本の視覚・言語表現	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	絵本の資格・言語表現の基礎を説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	子供の発達と絵本	受講時に課すレポートによる。
5回	学習成果	子供の発達と絵本との関わりについて説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
6回	授業内容	メディアとしての絵本	受講後に提出するレポートによる。
	学習成果	情報メディアとしての絵本、著作権などについて説明できる。	
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
	授業内容	物語絵本	受講時に課すレポートによる。
7回	学習成果	物語絵本の特性や表現について説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	昔話・童話絵本	
8回	学習成果	昔話・童話絵本の特性や広がりについて説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	科学絵本	
9回	学習成果	科学絵本の広がりや活用方法について説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	絵本との出会い	
10回	学習成果	乳幼児向けの絵本やブックスタートについて説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
11回	授業内容	保育と絵本	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	保育現場での絵本の活用について説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
12回	授業内容	絵本の活用	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	図書館の児童サービスや地域の読書推進活動について説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	絵本の売り場づくり	受講時に課すレポートによる。
13回	学習成果	絵本の流通、書店での売り場づくりについて説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	絵本レファレンス	
14回	学習成果	絵本を探す多様な手段について説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	絵本ワークショップ	
15回	学習成果	絵本を活用したワークショップについて説明できる。	
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	

科目名	絵本をめぐる技術と感性				担当者	関根俊二・他						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内および授業直後に受け付ける										
専門的 学習成果	①	絵本に関する専門的な知識をもち、絵本の楽しさや奥深さを説明することができる。										
	②	絵本を活用する専門的な知識・技術をもち、児童のさまざまな要望に応えることができる。										
	③	絵本に児童が会うさまざまな場面について理解し、基本的に実行することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	聞き手や状況に配慮したコミュニケーションができる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(2)	着実で計画的なコーディネート力により課題に適切に対応できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
授業概要	絵本に係る専門的な知識と技術について学び、絵本を手掛かりにして児童の読書活動推進に貢献できることをめざす。まず、絵本を紹介する方法やお話し会について深く学び、これらを理解し実践できることをめざす。次に、絵本による心のケア、大人と絵本など、絵本の持つさまざまな力について理解する。合わせて、絵本に向き合う子供たちそのものを考察するために、子供の遊びや子供向け商業施設の現状を探る。さらに、絵本を生み出す作家、編集者の言葉に耳を傾け、絵本の本質に迫る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	100	授業内または授業後に課す。講義の理解度で評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	絵本専門士委員会課程 認定部会認定絵本土 養成講座テキスト作成 ワーキンググループ		『認定絵本土養成講座 テキスト』				絵本専門士委員会 独立行政 法人国立青少年教育振興機構					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	中川素子		『絵本学講座① 絵本の表現』				朝倉書店					
	石井光恵		『絵本学講座② 絵本の受容』				朝倉書店					
	松本猛		『絵本学講座③ 絵本と社会』				朝倉書店					
	中川素子		『絵本学講座④ 絵本ワークショップ』				朝倉書店					
	生田美秋 他		『ベーシック 絵本入門』				ミネルヴァ書房					
	藤本朝巳		『絵本のしくみを考える』				日本エディタースクール出版部					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①右ページの「授業計画」を参考にして、テキストの該当箇所をあらかじめ読んだ上で、授業に臨むこと。 関心がある部分については資料やインターネットを利用して、さらに理解を深めておく。(授業ごと事前学習2時間、事後学習2時間程度) また、授業で紹介される多くの絵本を、日常的に鑑賞しておくことが望ましい。認定絵本土養成講座修了要件は8割以上の出席。 ②レポートは評価をした上で返却する。 (受講にあたっての連絡) 受講人数は40人程度とする。これを超えた場合は、まず司書課程履修者の受講を優先する。次に、それ以外の履修希望者に対して抽選を行って受講の可否を決定することがある。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	絵本の提案	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	絵本の情報収集を理解し、さまざま児童に絵本を提供できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	絵本ブックトーク	受講後に提出するレポートによる。
学習成果	絵本ブックトークを理解し、基本的に実行できる。		
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
	授業内容	絵本の書評・紹介	受講時に課すレポートによる。
学習成果	絵本書評の在り方について説明できる。		
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	支援が必要な人々と絵本	受講後に提出するレポートによる。
学習成果	障がい者を支援する多様な絵本について説明できる。		
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
	授業内容	おはなし会とは	受講後に提出するレポートによる。
学習成果	お話し会の在り方について説明できる。		
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
	授業内容	おはなし会実践	受講後に提出するレポートによる。
学習成果	お話し会について理解し、基本的に実践できる。		
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
	授業内容	絵本の可能性	受講時に課すレポートによる。
学習成果	さまざまな角度から絵本を見ることができる。		
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	絵本と心のケア	受講時に課すレポートによる。
学習成果	心のケアに絵本がどう使われているか説明できる。		
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	絵本レイアウト	受講時に課すレポートによる。
学習成果	魅力的に絵本レイアウトについて説明できる。		
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	子供の興味・関心	受講時に課すレポートによる。
学習成果	現在の子供の興味、子供を引きつける方法について説明できる。		
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	大人の心を豊かにする絵本	受講後に提出するレポートによる。
学習成果	絵本と大人の心にどう働きかけるか説明できる。		
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
	授業内容	ホスピタリティに学ぶ	受講時に課すレポートによる。
学習成果	絵本以外で人を楽しませる手法について説明できる。		
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	絵本創作	受講後に提出するレポートによる。
学習成果	絵本の作り手の思いについて説明できる。		
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
	授業内容	絵本の編集	受講時に課すレポートによる。
学習成果	絵本制作における編集者の重要性について説明できる。		
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	ディスカッション今後へ向けて	受講後に提出するレポートによる。
学習成果	今後、認定絵本土資格を生かし、どう活動できるか説明できる。		
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	

科目名	ノンフィクションを読む				担当者	関根俊二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー（初回授業で説明）										
専門的 学習成果	①	ビジネス教養、地域理解など、ノンフィクションを通して社会生活に必要な教養情報をもち説明できる。										
	②	調査の活動を通して培われる自主的な学習力を活用できる。										
	③	わかりやすい適切な説明で発表が行える。										
汎用的 学習成果	(1)	調査・発表を通して物事を的確に説明、紹介する能力をもち実践できる。（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	<p>教養書、ビジネス書、スポーツ書、伝記、タレント本、地域本など各種のノンフィクション資料を読んで教養を広げる。ノンフィクション資料の著者は普通、各界の一流人々であり、彼らから学ぶ教養はたんなる文化的飾りにとどまらず、時には私たちの生き方の指針ともなるだろう。そして、使える教養として学んでほしい。必要に応じて会話や暮らしの中で活用できる、社会人にふさわしい実践的な教養として身につけてほしい。</p> <p>授業は各テーマごとに講義から発表へという流れで展開する。</p>											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		発表	60	資料に基づく10～15分の発表を6回行う。その内容で各回10%の評価を行う。								
	授業への取り 組み	40	学習全体を振り返るためのレポートによる。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果③の評価で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			印刷物配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
			DVD『プロフェッショナル 仕事の流儀シリーズ』				NHK					
	秋山 利輝		『丁稚のすすめ—夢を実現できる、日本伝統の働き方』				幻冬社					
	松田公太		『すべては一杯のコーヒーから』				新潮社					
	松岡恵理		『アンのゆりかご - 村岡花子の生涯』				新潮社					
田久保善彦		『東北初10人の新リーダー - 復興にかける志』				河北新報社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等			<p>①自分で調べた情報について発表を行うので、その準備をしっかり行ってもらいたい。とりあつかう資料の決定、読み込みにも多くの時間が必要で、計7回の発表を予定しているが、各回7.5時間程度の準備学習が必要である。最終回に提出するまとめのレポートも同様。</p> <p>②発表についてはそのつど受講者全員で意見を交わし、担当者の評価も伝える。</p>									

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	オリエンテーション 授業の内容と進め方、発表例の紹介	発表①（第4回に実施。課題-ビジネス関連の発表）		
	学習成果	ノンフィクション資料についての教養をもち説明できる。			
予習復習 の内容					
2回	授業内容	ビジネス書の理解			
	学習成果	紹介されたビジネスマンについて特徴を理解し説明できる。			
予習復習 の内容					
3回	授業内容	ビジネス書の理解			
	学習成果	紹介されたビジネスマンについて特徴を理解し説明できる。			
予習復習 の内容	発表の準備を行う。				
4回	授業内容	ビジネス書に学ぶ			
	学習成果	興味・関心をもったビジネスマンについて特徴を説明できる。			
予習復習 の内容					
5回	授業内容	スポーツ書の理解		発表②（第6回に実施。課題-アスリートについての発表）	
	学習成果	紹介されたアスリートについて特徴を理解し説明できる。			
予習復習 の内容	発表の準備を行う。				
6回	授業内容	スポーツ書に学ぶ			
	学習成果	興味・関心をもったアスリートについて特徴を理解し説明できる。			
予習復習 の内容					
7回	授業内容	地域活性化本の理解	発表③（第8回に実施。課題-地域活性化事業についての発表）		
	学習成果	紹介された地域活性化のプロジェクトについて特徴を理解し説明できる。			
予習復習 の内容	発表の準備を行う。				
8回	授業内容	地域活性化本に学ぶ			
	学習成果	興味・関心をもった地域活性化のプロジェクトについて特徴を理解し説明できる。			
予習復習 の内容					
9回	授業内容	タレント本の理解			発表④（第10回に実施。課題-タレント関連の発表）
	学習成果	紹介されたタレントについて特徴を理解し説明できる。			
予習復習 の内容	発表の準備を行う。				
10回	授業内容	タレント本に学ぶ			
	学習成果	興味・関心をもったタレントについて特徴を理解し説明できる。			
予習復習 の内容					
11回	授業内容	教養書の理解		発表⑤（第12回に実施。課題-教養情報関連の発表）	
	学習成果	紹介された教養情報について説明できる。			
予習復習 の内容	発表の準備を行う。				
12回	授業内容	教養書に学ぶ			
	学習成果	興味・関心をもった紹介された教養情報について特徴を理解し説明できる。			
予習復習 の内容	発表の準備を行う。				
13回	授業内容	伝記の理解	発表⑥（第14回に実施。課題-伝記の人物関連の発表）		
	学習成果	紹介された人物について特徴を理解し説明できる。			
予習復習 の内容					
14回	授業内容	伝記に学ぶ			
	学習成果	興味・関心をもった人物について特徴を理解し説明できる。			
予習復習 の内容					
15回	授業内容	まとめ ノンフィクション資料に学んだこと			レポート（学習の振り返り）
	学習成果	興味・関心をもった人物について特徴を理解し説明できる。			
予習復習 の内容					

科目名	書き言葉				担当者	大 泉 浩						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に対応する。										
専門的 学習成果	①	「伝わる文章」のポイントを活用することができる。										
	②	講義時間内に実際に書くことで高い水準の文章が書けるようになる。										
	③	コミュニケーションや言葉について、深く考察することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果の①②③に関連)										
	(2)	人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、協働することができる。(専門的学習成果の①②に関連)										
	(3)	習得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。(専門的学習成果の②③に関連)										
授業概要	就職活動に役立ち、社会人として生きて行くためにも必須の、文章力を上げるための授業。解説するポイントに気をつけて毎回200文字から800文字の作文を書くことで、読みやすく分かりやすい文章を書く力を身につける。また教員の説明を聞き、テーマに基づいた作文を書くことで、コミュニケーション能力と考える力を養う。あわせて就職試験を想定した漢字や熟語の学習を、中学・高校の復習レベルから SPI レベルまで行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		作文課題	100	毎回作成し提出する。条件を守って作成できているかで評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
			印刷物等配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	木下是雄		『理科系の作文技術』						中公新書			
	木下是雄		『レポートの組み立て方』						筑摩書房			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①文章力を向上させたいという意欲があれば、文章を書くことや高校までの国語科目が苦手でも履修に問題はない。新聞や書籍を積極的に読み、自らテーマを設定して文章を書いてみるなど、準備学習に努めること。必要な時間は1週あたり4時間である。 ②提出された課題に問題があれば指摘して修正を求めたり、優れた点があれば具体的に口頭で評価するなどして、より良い文章作りにつながるよう指導する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	「伝わる文章」の書き方 (1) 400字	課題作文による
	学習成果	文章を通して自らを伝える工夫ができるようになる。	
	予習復習 の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。	
	2回	授業内容	「伝わる文章」の書き方 (2) 200字
	学習成果	文章を通して手順を伝える工夫ができるようになる。	
	予習復習 の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。	
3回	授業内容	「伝わる文章」の書き方 (3) 200字	課題作文による
	学習成果	文章を通して自らが学んでいる内容を伝える工夫ができるようになる。	
	予習復習 の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。	
	4回	授業内容	情報を伝える文章の書き方 (1) 200字
学習成果		文章を通して自らの経験を伝える工夫ができるようになる。入門編	
	予習復習 の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。	
	5回	授業内容	情報を伝える文章の書き方 (2) 200字
学習成果		文章を通して自らの経験を伝える工夫ができるようになる。初級編。	
	予習復習 の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。	
	6回	授業内容	情報を伝える文章の書き方 (3) 200字
学習成果		文章を通して自らの経験を伝える工夫ができるようになる。中級編。	
	予習復習 の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。	
	7回	授業内容	情報を伝える文章の書き方 (4) 200字
学習成果		文章を通して自らの経験を伝える工夫ができるようになる。応用編。	
	予習復習 の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。	
	8回	授業内容	意見・考えを伝える文章の書き方 (1) 400字
学習成果		文章を通して自らの意見・考えを伝える工夫ができるようになる。入門編	
	予習復習 の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。	
	9回	授業内容	意見・考えを伝える文章の書き方 (2) 400字
学習成果		文章を通して自らの意見・考えを伝える工夫ができるようになる。初級編	
	予習復習 の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。	
	10回	授業内容	意見・考えを伝える文章の書き方 (3) 400字
学習成果		文章を通して自らの意見・考えを伝える工夫ができるようになる。中級編	
	予習復習 の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。	
	11回	授業内容	意見・考えを伝える文章の書き方 (4) 400字
学習成果		文章を通して自らの意見・考えを伝える工夫ができるようになる。応用編	
	予習復習 の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。	
	12回	授業内容	意見・考えを伝える文章の書き方 (5) 400字
学習成果		文章を通して自らの意見・考えを伝える工夫ができるようになる。発展編	
	予習復習 の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。	
	13回	授業内容	実際のテーマで文章を書く (1) エントリーシート編
学習成果		文章を通して事実に基づいて意見を伝える工夫ができるようになる。	
	予習復習 の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。	
	14回	授業内容	実際のテーマで文章を書く (2) 就職試験対策編
学習成果		文章を通して事実に基づいて意見を伝える工夫ができるようになる。	
	予習復習 の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。	
	15回	授業内容	まとめ
学習成果		思考力を問われるテーマに対し、800文字・60分以内で文章が作成できる。	
	予習復習 の内容	授業で学んだ内容を就職活動や仕事に生かす。	

科目名	IT時代の表現				担当者	カワベヒロシ 博						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	kawabe.hiroshi@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。											
専門的 学習成果	①	電子メール、ワープロ、プレゼンテーション・ソフトの特性を理解し、効果的に運用することができる。										
	②	インターネットを利用した情報発信の利点、社会的意義、問題点を指摘し、論じることができる。										
	③	メディア・リテラシーの意識を高め、社会（職場）や日常生活のなかで実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	IT機器の操作とその背後にある論理を身につけることで、知識と技能をもった社会人として自立できる。（専門的学習成果の①②③に関連）										
	(2)	ネットを活用した情報伝達の特性に気を配りながら、自分の考えを発信したり周囲の意見を受信したりできる。（専門的学習成果の②③に関連）										
	(3)	向上させたメディア・リテラシーを生かして、さまざまな場面で指導的な立場に立つことができる。（専門的学習成果の③に関連）										
授業概要	現代社会においては、IT機器を積極的に活用して、効率的な情報伝達をおこなう能力が求められている。この授業では、ビジネスの現場を念頭に置き、ワープロを利用した文書作成やプレゼンテーション・ソフトを利用したスライド作成など、各種ソフトウェアの機能を生かした表現技術を学ぶ。また社会人の基本的な通信手段である電子メールを使いこなせるようになる。一方、各種SNSなどインターネットを使った情報発信の特性と問題点を知り、主体的に参加するための意識を高める。受講者より授業についての質問やIT機器についての疑問を毎回受け付け、それに回答することで受講者全員の理解を深める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	論述形式の出題により、講義内容の理解度を把握する。								
		レポート										
		提出物	30	授業ごとの「質問と感想」カードの記述内容と、授業時間中に指示する課題の提出物による。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③によって評価をおこなう。 (2) は専門的学習成果②③によって評価をおこなう。 (3) は専門的学習成果③によって評価をおこなう。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		印刷物等配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	高橋佑磨、片山なつ	『伝わるデザインの基本』				技術評論社						
	ガー・レイノルズ	『シンプルプレゼン』				日経BP社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① ITを活用した身近な表現活動を日頃から意識して観察し、内容と手法を批判的に見るよう努め、記録に留めること（予習：週2時間程度）。授業中に説明するコンピュータ操作は、授業外の時間実際に試し、習熟しておくこと（復習：週2時間程度）。 ②提出物や期末試験は返却し、その際に解説をおこなう。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、情報の「よい」発信者になるために	毎回回収する「質問と感想」カードの記述内容により評価
	学習成果	IT機器の発展が社会にもたらした影響を、自分の経験にもとづいて説明できる。	
	予習復習の内容	これまでの自分や周囲のIT機器の利用について振り返り、まとめておく。	
2回	授業内容	メディア・リテラシー(1) メディアとしてのインターネット	
	学習成果	インターネットによる情報発信の特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	出版や放送などのメディアとの違いをまとめておく。	
3回	授業内容	メディア・リテラシー(2) 従来のマスメディアとインターネット	
	学習成果	従来のマスメディアとインターネットによる情報発信の違いを説明できる。	
	予習復習の内容	個人情報の流出や「炎上」などの事例を収集しておく。	
4回	授業内容	メディア・リテラシー(3) ネットによる情報発信と人権	
	学習成果	ネットによる情報発信で注意すべき人権（著作権やプライバシー権）を説明できる。	
	予習復習の内容	著作権やプライバシー権について事前に調べ、実際に起きた事例をまとめる。	
5回	授業内容	電子メールの作法(1) 電子メールの特性	
	学習成果	電子メールの特徴が説明でき、ビジネス上不適切な電子メールの問題点を指摘できる。	
	予習復習の内容	自分がやりとりした電子メールの文面を振り返っておく。	
6回	授業内容	電子メールの作法(2) 効率的でマナーにしたがった電子メール	
	学習成果	件名、使うべきではない文字、BCC:などの注意点を説明できる。	
	予習復習の内容	技術的な観点から絵文字や機種依存文字の特徴をまとめておく。	
7回	授業内容	電子メールの作法(3) ビジネス・ツールとしての電子メール	
	学習成果	電子メール以外の連絡方法との違いを意識しながら、電子メールが作成できる。	
	予習復習の内容	注意点を念頭に置きながら、実際に電子メールを作成する。	
8回	授業内容	ワープロで読みやすい文書を作るコツ(1) 書体の違いと選択	
	学習成果	ワープロの普及による社会の変化と、書体の種類と使い分けを説明できる。	
	予習復習の内容	ワープロを操作して、書体の違いによる印象の変化を確かめる。	
9回	授業内容	ワープロで読みやすい文書を作るコツ(2) 文字の修飾	
	学習成果	文字に修飾をほどこす際の基本的な考え方を説明できる。	
	予習復習の内容	ワープロを操作して、文字に修飾を加える効果を確かめる。	
10回	授業内容	ワープロで読みやすい文書を作るコツ(3) 文字の配置	
	学習成果	文字間隔や行間隔による読みやすさの違いを説明できる。	
	予習復習の内容	ワープロを操作して文字間隔や行間隔が与える印象を確かめる。	
11回	授業内容	ワープロで読みやすい文書を作るコツ(4) 検索、スタイル	
	学習成果	検索やスタイルの機能を使うことで読みやすい文書をすばやく作れるようになる。	
	予習復習の内容	ワープロを操作して、検索やスタイルという機能に習熟する。	
12回	授業内容	魅力的なスライドを作るコツ(1) スライドショーを使った発表の特性	
	学習成果	プレゼンテーション・ソフトの特性を説明できる。	
	予習復習の内容	スライドを用いた発表で印象的なものを思い出し、まとめておく。	
13回	授業内容	魅力的なスライドを作るコツ(2) プレゼンテーションの実例	
	学習成果	すぐれた発表の実例を見て、その特徴を指摘できる。	
	予習復習の内容	プレゼン・ソフトを操作して、文字の配置による印象の変化を確かめておく。	
14回	授業内容	魅力的なスライドを作るコツ(3) 文字の配置	
	学習成果	スライドに文字を配置する際の注意点を説明できる。	
	予習復習の内容	プレゼン・ソフトを操作して、アニメーションによる印象の変化を確かめておく。	
15回	授業内容	魅力的なスライドを作るコツ(4) スライドの装飾、アニメーション	
	学習成果	スライドに装飾をほどこす際の基本的な考え方を説明できる。	
	予習復習の内容	これまでに自分が作ったスライドを振り返り、改善点をまとめる。	

科目名	雑誌製作				担当者	大 泉 浩 一						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に対応する。										
専門的 学習成果	①	企画から完成まで、印刷メディアの作成を体験し、その知識を活用できる。										
	②	印刷物製作の知識と技術を活用できる。										
	③	グループ課題の製作を通して高いコミュニケーション能力を発揮できる。										
汎用的 学習成果	(1)	社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果の①②に関連)										
	(2)	人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、協働することができる。(専門的学習成果の③に関連)										
	(3)	習得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。(専門的学習成果の②③に関連)										
授業概要	企画・編集・原稿作成・レイアウト・印刷など、印刷物を制作する過程とポイントについて学ぶ。グループによるフリーペーパー制作を目標とし、文章の作成はもちろん、誌面構成や進行管理など、印刷物の制作に必要な幅広い内容について実践的にトレーニングする。グループで1冊のフリーペーパーを製作することで、読み手とのコミュニケーション、メンバー同士のコミュニケーションについて体験的に学ぶことができる。製作にはパソコンソフト「パワーポイント」を用いる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		個人課題	30	条件を守って作成できているかで評価する。								
	グループ課題	70	提出日に間に合わせ、条件を守って作成できているかで評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
			『編集ハンドブック』				グヴィッド社					
			『レイアウトひらめき事典』				河出書房新社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①パソコンの「パワーポイント」の基本操作を身につけていることと、1年後期に「絵本製作」を履修していることが望ましいが、履修の条件ではない。雑誌について図書館などで調べる。締め切りに間に合うよう製作課題を仕上げ、グループ製作に必要な打ち合せ・作業を行うなど、準備学習に努めること。必要な時間は1週あたり4時間である。 ②提出された課題に問題があれば指摘して修正を求めたり、優れた点があれば具体的に口頭で評価するなどして、より良い作品作りにつながるよう指導する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	個人課題による
	学習成果	教員が紹介する雑誌を通して、作り手の工夫に目を向けることができる。	
予習復習 の内容	様々な雑誌を読んで、自らの作品の参考にできる。		
	授業内容	企画・編集 (1)	
2回	学習成果	実際の作業を通して企画・編集の発想と方法が身につく。基礎編。	
	予習復習 の内容	様々な雑誌の構成に学び、自らの作品の参考にできる。	
3回	授業内容	企画・編集 (2)	
	学習成果	実際の作業を通して企画・編集の発想と方法が身につく。応用編。	
予習復習 の内容	様々な雑誌の構成に学び、自らの作品の参考にできる。		
	4回	授業内容	
4回	学習成果	読み手を意識したテキストの書き方が身につく。基礎編。	
	予習復習 の内容	様々な雑誌のテキストに学び、自らの作品の参考にできる。	
5回	授業内容	テキスト原稿 (2)	
	学習成果	読み手を意識したテキストの書き方が身につく。応用編。	
予習復習 の内容	様々な雑誌のテキストに学び、自らの作品の参考にできる。		
	6回	授業内容	ビジュアル原稿
6回	学習成果	写真やイラストなどビジュアル原稿の作成方法が身につく。	
	予習復習 の内容	様々な雑誌のビジュアルに学び、自らの作品の参考にできる。	
7回	授業内容	レイアウト	
	学習成果	レイアウトのデザイン方法が身につく。	
予習復習 の内容	様々な雑誌のレイアウトに学び、自らの作品の参考にできる。		
	8回	授業内容	パソコン操作
8回	学習成果	パワーポイントでページデータを作成する方法を活用できる。	
	予習復習 の内容	様々な雑誌のレイアウトに学び、自らの作品の参考にできる。	
9回	授業内容	グループ製作実習 (1)	グループ課題による
	学習成果	読み手を意識した雑誌の企画ができる。	
予習復習 の内容	雑誌に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かすことができる。		
	10回	授業内容	
10回	学習成果	効果的なページの割り付けができる。	
	予習復習 の内容	雑誌に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かすことができる。	
11回	授業内容	グループ製作実習 (3)	
	学習成果	テキスト原稿の表現を工夫できる。	
予習復習 の内容	雑誌に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かすことができる。		
	12回	授業内容	
12回	学習成果	ビジュアル原稿の表現を工夫できる。	
	予習復習 の内容	雑誌に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かすことができる。	
13回	授業内容	グループ製作実習 (5)	
	学習成果	レイアウトを工夫できる。	
予習復習 の内容	雑誌に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かすことができる。		
	14回	授業内容	グループ製作実習 (6)
14回	学習成果	印刷・製本して雑誌を仕上げるることができる。	
	予習復習 の内容	雑誌に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かすことができる。	
15回	授業内容	自己評価・相互評価	
	学習成果	他の作品との比較を通して自らの作品の客観的な評価ができる。	
	予習復習 の内容	友人・家族・知人などに作品を紹介し、意見や感想を次の機会に生かすことができる。	

科目名	創作演習				担当者	関根俊二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)										
専門的 学習成果	①	表現行為に自覚的になり、言葉を選び表現することができる。										
	②	表現する立場からさまざまな作品に触れることで、文学作品の理解が深まり説明できる。										
	③	グループ活動を通して円滑なコミュニケーションを実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	相手の立場に立ち相手の本意に向き合おうとする他者理解を行うことができる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(2)	自覚的で選択的な自己表現を行うことができる。(専門的学習成果①③に関連)										
授業概要	エッセイ、童話、短編小説、シナリオの創作にチャレンジする。人の心に届く作品を目指して、内容の選択、構成・表現への配慮に通常よりも時間をかけて執筆してもらう。 授業の流れとしては、まずそれぞれの分野で自分が関心をもつ作品について説明、ジャンルの表現特徴について確認した上で執筆に取り組んでもらう。創作後は作品を朗読し意見交換して、自分の作品を客観的に振り返ってもらう。 作品は冊子の形に取りまとめて3月に配布する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		提出物	100	執筆した作品を4回にわたって提出する。各回、25点を配点する。独創性と表現力を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果②③の評価で行う。 (2) は専門的学習成果①③の評価で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			印刷物等配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
			『文章の工房 2019』（前年度の成果報告書）									
			河北新報投稿欄「ティータイム」				河北新報社					
	江国香織		『すいかの匂い』				新潮社					
	さくらももこ		『もものかんづめ』				集英社					
	佐野洋子		『100万回生きたねこ』				講談社					
	いなつぐかつら他		『ゆきのひのくまさん』				鈴木出版					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①開講前に、また、授業と並行して参考文献またはそれに準じた作品に触れてほしい(計16時間程度)。4回実施する作品の執筆は授業で行うが、それで完了しない場合は教室外での執筆となる。意見交換後の振り返りに基づき作品の手直しもする。ジャンルによってかかる時間は異なるが、各ジャンルごとに平均11時間取り組む。 ②執筆された作品については、教室内で発表の機会を与え、講評を伝える。3月に成果報告書『文章の工房2019』を配布する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 授業の進め方 作品紹介(『文章の工房 2019』を中心に)	
	学習成果	前年度の授業成果報告書に触れて具体的に目標を設定できる。	
2回	予習復習の内容	参考文献の作品を読んでおく。	
	授業内容	作品紹介の続き(参考文献など)	
3回	学習成果	さまざまな作品に触れながら柔軟に構想を立てられる。	
	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。	
4回	授業内容	エッセイ創作 エッセイの表現 さまざまなエッセイ	
	学習成果	エッセイの表現を理解し説明できる。	
5回	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。自分の作品の構想を練る。	
	授業内容	エッセイの創作 エッセイの執筆	
6回	学習成果	内容・表現を追求してエッセイを執筆できる。	
	予習復習の内容	エッセイを完成する。	
7回	授業内容	エッセイの創作 発表と意見交換	
	学習成果	自分のエッセイについて客観的に評価できる。	
8回	予習復習の内容	振り返りに基づき作品を調整する。	
	授業内容	童話の創作 童話の表現 さまざまな童話	
9回	学習成果	童話の表現を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。自分の作品の構想を練る。	
10回	授業内容	童話の創作 童話の執筆	
	学習成果	内容・表現を追求して童話を執筆できる。	
11回	予習復習の内容	童話を完成する。	
	授業内容	童話の創作 発表と意見交換	
12回	学習成果	自分の童話について客観的に評価できる。	
	予習復習の内容	振り返りに基づき作品を調整する。	
13回	授業内容	コトの創作 コトの表現 さまざまなコト	
	学習成果	コトの表現を理解し説明できる。	
14回	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。自分の作品の構想を練る。	
	授業内容	コトの創作 コトの執筆	
15回	学習成果	内容・表現を追求してコトを執筆できる。	
	予習復習の内容	コトを完成する。	
16回	授業内容	コトの創作 発表と意見交換	
	学習成果	自分のコトについて客観的に評価できる。	
17回	予習復習の内容	振り返りに基づき作品を調整する。	
	授業内容	短編小説の創作 短編小説の表現 さまざまな短編小説	
18回	学習成果	短編小説の表現を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。自分の作品の構想を練る。	
19回	授業内容	短編小説の創作 短編小説の執筆	
	学習成果	内容・表現を追求して短編小説を執筆できる。	
20回	予習復習の内容	短編小説を完成する。	
	授業内容	短編小説の創作 発表と意見交換	
21回	学習成果	自分の短編小説について客観的に評価できる。	
	予習復習の内容	振り返りに基づき作品を調整する。	
22回	授業内容	まとめ 各作品の入力 『文章の工房2019』について	
	学習成果	自分の創作について客観的に評価できる。	
23回	予習復習の内容	入力を完了し提出する。	

科目名	公務員試験対策講座Ⅱ（政策提案）				担当者	堀 良 平 ・ 鳴 海 渉						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） classroom（登録必須）での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。								
専門的 学習成果	①	自己を分析し、今後の生き方について考えを述べることができる。										
	②	自己の持っている能力を上げることができる。課題発見・解決の能力、コミュニケーション能力、調整能力等を活用できる。										
	③	グループ討議、集団討論について基礎的な技能を修得し、論ずることができる。										
	④	面接技術、会話についての基礎的な技能を修得し、応用することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	面接、討議等を通して公務員に必要な知識と技能を修得し、実践につなげることができる。 （専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	市民との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、協働することができる。 （専門的学習成果①②④に関連）										
	(3)	公務員として地域課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。 （専門的学習成果④に関連）										
授業概要	公務員として地域住民のコンセンサスを得て安全・安心を確保するためには、課題発見能力や課題解決能力、コミュニケーション能力、調整能力に加えて、地域住民と役所全体で取り組むという協調性が必要となる。公的機関としての考えや方向性についてアクティブラーニングの手法等を用いて実地調査や事例研究、グループ討議を行いながら地域研究を行い、公務員に求められる資質を獲得すると同時に公平性、対処法、加えて接遇などについて学び、今後予想される課題解決のための専門知識や技能を学び、公務員試験等に対応できるように授業を展開する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	毎回の講義で授業の感想・次回の予習を期日までに Web 上で提出するとともに、定期的に記述式の800字程度の論作文を提出し、その内容を評価する。								
		面接	20	面接技術、対話能力に応じて評価を行う。								
		討 論	20	討論、発表への理解・積極度等に応じて評価を行う。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) については、専門的学習成果の①②③④により行う。 (2) については、専門的学習成果の①②④により行う。 (3) については、専門的学習成果の④により行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	小紫雅史		『公務員面接を勝ち抜く力』						実務教育出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	小紫雅史		『地方公務員の新しいキャリアデザイン』						実務教育出版			
	春日文生		『現職採点官が教える！合格面接術』						実務教育出版			
	成美堂出版編集部		『成功する！公務員の面接採用試験』						成美堂出版			
	大森彌, 大杉覚		『これからの地方自治の教科書』						第一法規			
①準備学習等履修上の留意点 授業計画に従い時間外学習を行うこと。 ＜事前学習＞テキストや事前配布資料、参考資料に目を通し、地方自治体等の各種施設やまちおこし等の各種行事から目的、課題等を抽出し、公務員としてどのように行動しなければならないのかを主眼に授業展開する。週に1時間程度の学習をすること。 ＜事後学習＞面接や討議、接遇等については公務員として必要な基礎知識が必要となることからグループワークを通して身につける必要があり、討論された内容のポイントを確認、資料等の整理を行うこと。 ②フィードバックの方法等 ・各種討論等の課題については、面接や集団討議等で必要となることからコメントに対して必ず熟読し次の課題に対してフィードバックを行う。 ・レポート等に関するコメントに関しては、評価ポイントを示し、フィードバックを行う。 ③その他 公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JA などを目指す学生も対象となる。												

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス（自治体の求める人材とは）	
	学習成果	公務員試験の現状を理解し、自分自身の進路を検討することができる。	
	予習復習の内容	自身の進路について検討し、情報を収集する。	
2回	授業内容	公務員を取り巻く環境①少子高齢化と人口減少、自治体職員の現状とサービスの多様化	
	学習成果	現代の諸問題を踏まえて自治体職員の在り方を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、自治体職員の現状を理解する。	
3回	授業内容	公務員を取り巻く環境②地方創生と働き方改革	
	学習成果	地方創生について説明することができ、かつ働き方改革について検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、地方創生や働き方改革の現状を理解する。	
4回	授業内容	公務員を取り巻く環境③市民の意識変化、AI化と国際化	
	学習成果	現代の諸問題を踏まえた市民の在り方やIT活用、国際化について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、AI化や国際化について理解する。	
5回	授業内容	これからの公務員に求められる能力	
	学習成果	これまでの授業内容を踏まえ、公務員に求められる能力を説明できる。	
	予習復習の内容	2～5回目の内容を復習する。	
6回	授業内容	自己分析①基本	
	学習成果	自分の体験を振り返り、自己について省察し表現できる。	
	予習復習の内容	自分の特性やこれまでの経験についてまとめる。	
7回	授業内容	自己分析②実践	
	学習成果	面接カードの様式に沿って、自己について概略を表現できる。	
	予習復習の内容	自己分析で気付いたことについて項目に合わせてまとめる。	
8回	授業内容	論作文	
	学習成果	論作文の書き方を理解し、自身の経験や考えを表現できる。	
	予習復習の内容	自己分析とともに、自治体の状況や最新の時事について確認する。	
9回	授業内容	個人面接①基本	
	学習成果	個人面接の手法について理解し、自己を表現する方法を検討することができる。	
	予習復習の内容	自己分析でまとめた内容について話せるようにする。	
10回	授業内容	個人面接②実践	
	学習成果	個人面接を通して自己を表現することができる。	
	予習復習の内容	個人面接の様式に合わせて自身のことを話せるようにする。	
11回	授業内容	集団面接①基本	
	学習成果	集団面接の手法について理解し、自己を表現する方法を検討することができる。	
	予習復習の内容	自己分析でまとめた内容について話せるようにする。	
12回	授業内容	集団面接②実践	
	学習成果	集団面接を通して他者の中においても自己を表現することができる。	
	予習復習の内容	集団面接の様式に合わせて自身のことを話せるようにする。	
13回	授業内容	グループ討議①基本	
	学習成果	グループ討議の手法について理解し、自分の考えをまとめることができる。	
	予習復習の内容	自治体の状況や最新の時事について確認する。	
14回	授業内容	グループ討議②実践	
	学習成果	グループ討議を通して具体的な事例に対する意見を他者と協力して表現できる。	
	予習復習の内容	自治体を取り巻く諸問題に対し自身の考えを整理しておく。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	講義、実践で得たことを整理し、自己のアピールにつなげていくことができる。	
	予習復習の内容	これまでの学習内容を整理してまとめておく。	

学習内容を整理し、レポートとして提出する。

科目名	公務員試験対策講座Ⅵ（一般知能・実践）				担当者	堀 良 平 ・ 星 伸 之						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） classroom（登録必須）での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。											
専門的 学習成果	①	公務員試験に必要な対策について再確認し、効果的な取り組みを進められる。										
	②	公務員試験の主要科目である一般知能科目の要点を理解し、適切な解法ができる。										
	③	過去問等の実践的な問題に取り組み、応用ができるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	実践的な問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策が進捗する。（専門的学習成果①・②・③に関連）										
	(2)	社会人として必要とされる一般教養について実践的に理解を深めることができる。（専門的学習成果②・③に関連）										
授業概要	公務員試験で出題される一般知能における数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈の科目内容に沿って、公式や基本的な解法を触れながら、実践的な問題演習・解答解説を行い、出題内容の理解、解法の習得、そこから見える各自の弱点の把握を通して、来たる公務員試験にむけて具体的な対策を進める。公務員志望者に即した内容とはなるが、一般企業などで多く課されるSPI試験等の内容にも対応している。 受講人数や理解度に応じ、個人の希望をふまえたレベル別クラス編成を行う可能性がある。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	60	毎回授業の最初に実施し、各回5%程度を配点する。前回の授業内容についての理解の程度を評価する。								
		まとめ テスト	40	第15回目に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①・②・③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②・③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	資格試験研究会	『公務員試験 [高卒程度・社会人] らくらく総まとめ 判断・数的推理』				実務教育出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ地方初級<教養試験>過去問350』				実務教育出版						
	公務員試験専門喜治塾	『無敵の地方公務員初級過去問クリア問題集』				高橋書店						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JAなどを公的機関を目指す学生も対象となる。 広範な範囲にわたるため15回の授業としてはある程度を分野を絞らざるをえないので、授業で扱わない問題についても自ら積極的に学習し、継続的に学習することが望ましい。 ②毎回の小テストは評価の対象として最重視するので、講義内容を十分復習して臨むこと（復習：週1時間程度）。 評価後、次回の授業時に返却するので、間違いや苦手を理解しさらに復習に努めること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、公務員試験に向けてのスケジューリング	小テストを行う。毎回の授業の最初に行い、前回授業内容についての確認の内容となる。
	学習成果	講義の進め方を踏まえつつ、公務員試験に向けての学習計画を立てることができる。	
2回	予習復習の内容	インターネットなどを通して公務員試験の概要について確認する。	
	授業内容	数的推理①数の計算、約数・倍数、記数法など	
3回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
4回	授業内容	数的推理②方程式、濃度・割合・比	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
5回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	数的推理③速さ、時計算・年齢算、仕事算・ニュートン算	
6回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
7回	授業内容	数的推理④確率	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
8回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	判断推理①暗号、集合、命題	
9回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
10回	授業内容	判断推理②対応関係、位置関係	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
11回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	判断推理③試合、発言の真偽、操作の方法、数量	
12回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
13回	授業内容	判断推理④経路と距離、方位と方角、位置関係	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
14回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	空間把握①図形の切断と構成、折り紙と模様	
15回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
まとめテスト・解説	授業内容	空間把握②点の移動と軌跡、図形のつながり、立体の組立て	まとめテストを実施する。すべて授業内容からの出題とする。
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、その解説講義を通して一般知能全般について解答することができる。	
予習復習の内容	授業内容を復習しておく。		

科目名	公務員試験対策演習（過去問演習）				担当者	堀 良平 ・ 星 伸之 ・ 本吉 祥子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。											
専門的 学習成果	①	公務員試験に必要な対策について確認し、効果的な取り組みを進められる。										
	②	公務員試験出題科目それぞれの要点を理解し、適切な解法が実践できる。										
	③	公務員試験における適性試験ならびに作文、面接試験について理解し、効果的な対策を検討することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策が進捗する。（専門的学習成果①・②・③に関連）										
授業概要	公務員試験において出題される科目について講義で基本的な解法パターンや学習方法を示し、教材を通して各自での学習を効率よく進めることができることを目的とする。今期においては一般知能科目（数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈）ならびに一般知識科目を中心に講義を行う。 公務員試験合格を目標とする講義となることから、講義を受動的に受講するだけでなく、主体的に家庭学習を進められる姿勢を強く求める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		習熟度テスト &レポート	100	講義実施内容についての習熟度を確認するテスト&レポートを最終回に行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①・②・③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	資格試験研究会		高卒・短大卒程度公務員コース【通信講座教材】						実務教育出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ地方初級 教養試験 過去問350』						実務教育出版			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ国家一般職（高卒・社会人）教養試験 過去問350』						実務教育出版			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ高卒警察官 教養試験 過去問350』						実務教育出版			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義時に学習方法等の指示を行うので、その内容に沿って各自家庭学習を進めること。 ②習熟度テストは実施後適宜解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	
	学習成果	講義の進め方を踏まえつつ、公務員試験に向けての学習計画を立てることができる。	
2回	予習復習の内容	インターネットなどで試験情報の収集などを行う。	
	授業内容	過去問演習（数的推理・資料解釈）	
3回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
4回	授業内容	過去問演習（数的推理・資料解釈）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
5回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	過去問演習（判断推理・空間把握）	
6回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
7回	授業内容	過去問演習（判断推理・空間把握）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
8回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	過去問演習（判断推理・空間把握）	
9回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
10回	授業内容	過去問演習（文章理解）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
11回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	過去問演習（政治・経済）	
12回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
13回	授業内容	過去問演習（政治・経済）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
14回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	適性試験、作文・面接試験 基礎	
15回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの講義内容を振り返り、今後の学習に繋げることができる。	
	予習復習の内容	この期間内の学習内容を振り返る。	
			習熟度テスト&レポートを実施する。

科目名	公務員試験対策演習（直前編）				担当者	堀 良平 ・ 星 伸之 ・ 本吉 祥子						
区分	選択	2	単位	授業回数	10	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	前期集中
				授業時間数	20	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。											
専門的 学習成果	①	公務員試験に必要な対策について確認し、効果的な取り組みを進められる。										
	②	公務員試験出題科目それぞれの要点を理解し、適切な解法が実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策が進捗する。（専門的学習成果①・②に関連）										
授業概要	9月に実施される国家公務員並びに地方公務員採用試験に向けて、暗記系科目（日本史・世界史・地理、社会・労働・国際関係）の重要ポイントの整理や一般知能の予想問題の演習・解説、二次試験に向けた実践形式の講義を行う。また、模擬試験を実施し、解説講義を通して弱点の把握を目指す。 公務員試験合格を目標とする講義となることから、講義を受動的に受講するだけでなく、主体的に家庭学習を進められる姿勢を強く求める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		模擬試験	100	模擬試験を実施しその内容で評価を行う。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①・②で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	資格試験研究会	高卒・短大卒程度公務員コース【通信講座教材】				実務教育出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ地方初級 教養試験 過去問350』				実務教育出版						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ国家一般職（高卒・社会人）教養試験 過去問350』				実務教育出版						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ高卒警察官 教養試験 過去問350』				実務教育出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義時に学習方法等の指示を行うので、その内容に沿って各自家庭学習を進めること。また指定されたコース教材を購入するとともに、公務員試験対策演習（過去問演習）の受講を必須とする。 ②模擬試験を実施したのち、解説講義を実施する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	一般知能全般	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
3・4回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	社会・労働・国際関係	
5・6回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
7・8回	授業内容	日本史・世界史・地理	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
9・10回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	適性試験、作文・面接試験対策 実践	
11・12回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
13・14回	授業内容	模擬試験、解説・まとめガイダンス	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
15・16回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容		
17・18回	学習成果		
	予習復習の内容		
19・20回	授業内容		
	学習成果		
21・22回	予習復習の内容		
	授業内容		
23・24回	学習成果		
	予習復習の内容		
25・26回	授業内容		
	学習成果		
27・28回	予習復習の内容		
	授業内容		
29・30回	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	薬理学				担当者	ワタナベ シゲ ヨ 渡 部 成 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等には、各講義の前後に対応する。										
専門的 学習成果	①	医薬品とは何かを説明できる。										
	②	医薬品を取扱う上での規則が説明できる。										
	③	医薬品の人体への作用を説明できる。										
	④	主な疾患に適用される医薬品を挙げて、その薬理作用を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療事務職員として、医療スタッフのサポートが適切に行える。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	医療事務職員として、患者さんからの質問や相談に適切に対応できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	医薬品の性質や人体に及ぼす作用を学び、医薬品を安全に取り扱える知識を学ぶ。また、薬事法による医薬品の規制を学び、医薬品を適切に取り扱える知識を習得する。主な疾患の治療には、どのような医薬品が使われているのか学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	90	講義で説明した学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		平常点	10	講義中に行う理解度テストの解答内容から、授業への態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	井上 肇		『検査・薬理学』				健帛社					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストを授業前に読んで、問題集の問題を解く(2時間程度)。講義終了後に内容を復習する(2時間程度)。 ②教本の記載内容が理解できない、練習問題が解けない場合は質問すること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	医薬品、日本薬局方	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	医薬品、日本薬局方について説明できる。	
	予習復習の内容	医薬品、日本薬局方の概要を理解する。	
	授業内容	医薬品の名称と分類	理解度テストを実施し、評価する。
2回	学習成果	医薬品の名称と分類について説明できる。	
	予習復習の内容	医薬品の分類方法を理解する。	
	授業内容	医薬品の安定性と剤型	理解度テストを実施し、評価する。
	3回	学習成果	
予習復習の内容		医薬品の安定性と剤型の概要を理解する。	
	授業内容	医薬品の体内での働きについて	理解度テストを実施し、評価する。
	4回	学習成果	
予習復習の内容		医薬品の体内での働きを理解する。	
	授業内容	薬理作用の分類、特徴、薬物間相互作用	理解度テストを実施し、評価する。
	5回	学習成果	
予習復習の内容		薬理作用の分類、特徴、薬物間相互作用の概要を理解する。	
	授業内容	反復作用、主作用と副作用、薬物療法の分類	理解度テストを実施し、評価する。
	6回	学習成果	
予習復習の内容		反復作用、主作用と副作用、薬物療法の分類の概要を理解する。	
	授業内容	医薬品の投与方法、包装、販売	理解度テストを実施し、評価する。
	7回	学習成果	
予習復習の内容		医薬品の投与方法、包装、販売の概要を理解する。	
	授業内容	調剤薬局業務<処方箋について>、ジェネリック医薬品	理解度テストを実施し、評価する。
	8回	学習成果	
予習復習の内容		調剤薬局業務<処方箋について>、ジェネリック医薬品の概要を理解する。	
	授業内容	末梢神経作用薬、中枢神経作用薬	理解度テストを実施し、評価する。
	9回	学習成果	
予習復習の内容		末梢神経作用薬、中枢神経作用薬の概要を理解する。	
	授業内容	消化器系疾患に用いる薬、循環器系疾患に用いる薬	理解度テストを実施し、評価する。
	10回	学習成果	
予習復習の内容		消化器系疾患に用いる薬、循環器系疾患に用いる薬の概要を理解する。	
	授業内容	代謝系疾患に用いる薬、呼吸器系疾患に用いる薬	理解度テストを実施し、評価する。
	11回	学習成果	
予習復習の内容		代謝系疾患に用いる薬、呼吸器系疾患に用いる薬の概要を理解する。	
	授業内容	アレルギー性疾患治療薬、抗炎症薬	理解度テストを実施し、評価する。
	12回	学習成果	
予習復習の内容		アレルギー性疾患治療薬、抗炎症薬の概要を理解する。	
	授業内容	ホルモン・ビタミン製剤、貧血および血液系疾患治療薬	理解度テストを実施し、評価する。
	13回	学習成果	
予習復習の内容		ホルモン・ビタミン製剤、貧血および血液系疾患治療薬の概要を理解する。	
	授業内容	感染症治療薬および抗悪性腫瘍薬	理解度テストを実施し、評価する。
	14回	学習成果	
予習復習の内容		感染症治療薬および抗悪性腫瘍薬の概要を理解する。	
	授業内容	輸血製剤	演習問題を使い、評価する。
	15回	学習成果	
予習復習の内容		輸血製剤の概要を理解する。	

科目名	公衆衛生学				担当者	ワタナベ トシヒコ 渡部俊彦						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等にはメールで対応する メールアドレス： twatanab@tohoku-mpu.ac.jp										
専門的 学習成果	①	健康とは何か説明できる。										
	②	公衆衛生の現状や人の健康を守る制度について説明できる。										
	③	主な疾病の特徴や病因を説明できる。										
	④	生活習慣・生活環境と健康との関係について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療事務職員として、患者さんに衛生的な環境の作り方を提案できる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	医療事務職員として、健康に関する患者さんの質問に対応できる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	公衆衛生を学ぶ意義と公衆衛生の現状を学ぶ。健康とは何か、また主な疾病の特徴やその原因は何かを学ぶ。生活習慣や生活環境が、人の健康にどのような影響を与えているかを学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	100	講義で説明した内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	全国製菓衛生師養成施設協会	テキストは使用せずプリントを配布する。										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義前、講義後に講義内容に関する確認試験を行う。 その日講義する内容を教科書で確認すること(予習：2時間程度)。 また、講義終了後は確認試験を活用し、講義内容を理解できているか確認する。 理解できていない部分は、しっかりと復習すること(復習：2時間程度)。 ②確認試験を回収し、正解率が悪い項目については、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	公衆衛生の概要	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	公衆衛生を学ぶ意義を説明することができる。	
	予習復習の内容	公衆衛生の定義を理解する。	
	2回	授業内容	公衆衛生のための設備
	学習成果	公衆衛生を維持するための施設を説明することができる。	
	予習復習の内容	公衆便所、公衆浴場の公衆衛生上の役割を理解する。	
	3回	授業内容	感染症発生動向調査
	学習成果	国内外に蔓延している感染症について説明することができる。	
	予習復習の内容	天然痘、マラリア、エイズ、結核について理解する。	
	4回	授業内容	環境保健
	学習成果	人と環境の関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	生態系の仕組みを理解する。	
	5回	授業内容	炭素の循環
	学習成果	二酸化炭素、メタンガスと環境との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	地球温暖化の原因と影響を理解する。	
	6回	授業内容	カリウム、窒素、リンの循環
	学習成果	カリウム、窒素、リンと環境との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	カリウム、窒素、リンの自然界での役割を理解する。	
	7回	授業内容	大気の組成
	学習成果	大気を構成する成分と環境との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	大気を構成する成分には、何があるか理解する。	
	8回	授業内容	大気圧
	学習成果	大気圧と生活や健康との関係を説明できる。	
	予習復習の内容	大気圧の定義を理解する。	
	9回	授業内容	水
	学習成果	水と健康の関係を説明できる。	
	予習復習の内容	脱水症状、硬水、軟水とは何か理解する。	
	10回	授業内容	衣服
	学習成果	衣服と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	衣服の素材には何があるか理解する。	
	11回	授業内容	住居
	学習成果	住居と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	快適な生活を送るための換気および照明の方法を理解する。	
	12回	授業内容	廃棄物
	学習成果	廃棄物の適切な処理方法を説明できる。	
	予習復習の内容	一般廃棄物と産業廃棄物の廃棄方法について理解する。	
	13回	授業内容	公害(大気汚染)
	学習成果	大気汚染の原因と健康への影響を説明できる。	
	予習復習の内容	四日市喘息、光化学スモッグ、PM2.5について理解する。	
	14回	授業内容	公害(水質汚染)
	学習成果	水質汚染の原因と健康への影響を説明できる。	
	予習復習の内容	水俣病、イタイイタイ病について理解する。	
	15回	授業内容	公害(騒音、振動、悪臭)
	学習成果	騒音、振動、悪臭の健康への影響を説明できる。	
	予習復習の内容	騒音、振動、悪臭の発生要因について理解する。	

科目名	医療事務演習Ⅱ				担当者	加藤 淳子						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
授業時間数	60											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	多くの診療行為の中で、組み合わせにより特殊な計算をする項目の算定ができる。										
	②	数多くの問題を解く事で知識と技術の幅を広げることができる。										
	③	診療報酬請求事務の総括作業ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療事務の複雑に絡み合う診療行為の算定方法を理解し、正しく診療報酬の請求ができるようになる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	乳幼児から高齢者、外来、入院と多くのカルテ問題を解き、迅速に正確に請求書の作成ができるようになる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	医療機関で作成された請求書は特定の規則によって集計され、まとめられている。この総括作業を理解し実践する。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	1年次で学んだ医療事務演習Ⅰに引き続きカルテを読み請求書の作成と点検を行うが、診療内容がとても濃い内容のカルテになるため、一つひとつ算定方法を正確に確認をする。また全体の診療内容を把握することと診療行為の組み合わせなどを読み取り、間違いのない請求書の作成ができるようになる。医療機関で実際に行われている、診療報酬明細書のまとめ方、提出の仕方の総括作業を理解し、実際に仕分けし総括表の作成をする事で医療事務全体の作業を理解できる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
		筆記試験	80	第30回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全30回分の授業内容の理解について評価を行う。								
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
		1年の医療事務で使用した教材一式										
		プリント配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前にテキストの該当部分を読み、ポイントを把握した上で授業に臨む。(予習：週1時間程度) ②多くのカルテ問題を練習する事で、知識と技術の向上を図るため、宿題課題を課し翌週に提出してもらい、採点、添削の上返却する。(復習：週1時間程度)											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	外来カルテ問題① 十二指腸潰瘍、びらん性胃炎等の診療内容	課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	造影剤使用撮影、内視鏡検査、特定疾患管理料等の算定ができる。	
3・4回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	授業内容	外来カルテ問題② 大腿部挫創、不眠症等の診療内容	
5・6回	学習成果	緊急手術等の算定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
7・8回	授業内容	外来カルテ問題③ 大腸癌、脳動脈瘤の疑い等の診療内容	
	学習成果	外来化学療法、腫瘍マーカー検査等の算定ができる。	
9・10回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	授業内容	入院カルテ問題① 虫垂穿孔性急性腹膜炎等の診療内容	
11・12回	学習成果	緊急入院、緊急手術等の算定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
13・14回	授業内容	入院カルテ問題② 慢性胆のう炎、胆のう結石症等の診療内容	
	学習成果	胆のう摘出術等の算定ができる。	
15・16回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	授業内容	入院カルテ問題③ 肝細胞癌、C型慢性肝炎等の診療内容	
17・18回	学習成果	輸血、肝切除術等の算定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
19・20回	授業内容	外来カルテ問題④ 下腿部裂創(乳幼児)等の診療内容	
	学習成果	乳幼児加算、時間外加算、手術等算定ができる。	
21・22回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	授業内容	外来カルテ問題⑤ 尿管結石、水腎症(高齢者)等の診療内容	
23・24回	学習成果	CT撮影、尿管結石破碎術等の算定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
25・26回	授業内容	入院カルテ問題④ 高血圧症、脳腫瘍等の診療内容	
	学習成果	輸血、頭蓋内腫瘍摘出術等の算定ができる。	
27・28回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	授業内容	入院カルテ問題⑤ すい臓がん、2型糖尿病等の診療内容	
29・30回	学習成果	麻酔困難者の麻酔、すい体尾部腫瘍摘出術等の算定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
27・28回	授業内容	筆記問題① 医療保険制度、公費負担制度、初再診料、入院料問題	課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	医療保険制度から入院料までの問題を解くことができる。	
23・24回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	授業内容	筆記問題② 高齢者医療、医学管理料、在宅医療、投薬、注射料問題	
25・26回	学習成果	高齢者医療から注射料問題を解くことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
27・28回	授業内容	筆記問題③ 処置、手術、検査、画像診断料問題	
	学習成果	処置、手術、検査、画像診断料の問題を解くことができる。	
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	授業内容	診療報酬請求事務 総括① 請求書の仕分け	
27・28回	学習成果	診療報酬明細書の保険者別に仕分けができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、保険者毎の特徴を理解する。	
29・30回	授業内容	診療報酬請求事務 総括② 請求書のまとめ方、総括表の記入	
	学習成果	診療報酬明細書のまとめと、総括表の記載ができる。	
27・28回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、総括表を作成する。	

科目名	医療事務演習Ⅲ（調剤報酬）				担当者	丸山 稜・加藤 淳子						
区分	選択	2	単位	授業回数	23	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	46	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	①	調剤報酬の算定の制度についての知識を活用できる。										
	②	調剤報酬請求明細（レセプト）の作成ができる。										
	③	調剤薬局における患者対応がスムーズにできるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	調剤報酬の算定の制度を学ぶことを通して、調剤事務員として職業自立につなげることができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	処方箋から調剤報酬を算定する方法を学ぶことを通して、問題解決の能力をもつことができる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(3)	習得した専門知識を活用し、正しい保険医療の啓蒙や、調剤事務員として社会で活躍できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	1枚の処方箋がどのように流れて処理されていくのか？ 調剤薬局での事務職の基礎となる知識を学ぶと同時に、調剤報酬と調剤レセプトの作成について学ぶ。また、コンピュータによる調剤報酬請求事務や薬歴管理等について学ぶ。期間の前半7回は講義形式で、処方箋の見方や、健康保険医療における調剤報酬の算定方法を習得する。後半は2コマ連続の8回（16コマ）で、調剤会計事務専用のパソコンソフトを用い、実践的能力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		確認試験	60	学習内容に基づき、学習習熟度に関してのテスト等を実施し、評価を行う。								
	平常点	40	演習への取り組み、意欲、態度により判断する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	NI メディカルオフィス編		『調剤報酬請求事務 基礎知識とレセプト作成』				一ツ橋書店					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①前半の7回分は講義を行う（予習復習として週に4時間必要）。 後半の8回（16コマ）は2コマ連続の演習形式の授業を行う（授業後、作業内容の振り返りとして週1時間必要）。後半の演習では、USB フラッシュメモリを各自用意すること。履修にあたり、1年次のレセプト作成の学習をしっかりと身につけておくこと。 ②随時解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	調剤薬局における事務職の役割	授業中に小テストを行い知識の定着を促す。
	学習成果	調剤薬局における事務職の役割を説明できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り再確認すること。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。	
2回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接客マナー	授業中に小テストを行い知識の定着を促す。
	学習成果	受付業務と接客マナーを実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。	
3回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接客マナー	授業中に小テストを行い知識の定着を促す。
	学習成果	受付業務と接客マナーを実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。	
4回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接客マナー	授業中に小テストを行い知識の定着を促す。
	学習成果	受付業務と接客マナーを実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。	
5回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接客マナー	授業中に小テストを行い知識の定着を促す。
	学習成果	受付業務と接客マナーを実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。	
6回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接客マナー	授業中に小テストを行い知識の定着を促す。
	学習成果	受付業務と接客マナーを実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。	
7回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接客マナー	授業中に小テストを行い知識の定着を促す。
	学習成果	受付業務と接客マナーを実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。	
8・9回	授業内容	調剤報酬請求事務処理用 PC について、電子化の概要	口頭で確認
	学習成果	調剤薬局における事務処理の電子化の概要を説明できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、目的を再確認すること。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、目的を再確認すること。	
10・11回	授業内容	PC ソフトの使い方	作業の進捗状況から評価
	学習成果	調剤事務ソフトウェアの概要を説明できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。	
12・13回	授業内容	処方箋よりレセプトの作成と点検（初期設定、患者登録）	作業の進捗状況から評価
	学習成果	初期設定と患者登録ができる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。	
14・15回	授業内容	処方箋よりレセプトの作成と点検（調剤報酬算定）	作業の進捗状況から評価
	学習成果	調剤報酬算定ができる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。	
16・17回	授業内容	処方箋よりレセプトの作成と点検（レセプト点検）	作業の進捗状況から評価
	学習成果	レセプト作成と点検ができる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。	
18・19回	授業内容	練習問題（レセプトの作成と点検）	練習問題から評価
	学習成果	レセプト作成と点検ができる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。	
20・21回	授業内容	実践的練習問題（総合）	練習問題から評価
	学習成果	処方箋から会計とレセプトを作成できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。	
22・23回	授業内容	修了試験	修了試験
	学習成果	調剤薬局における事務全般について概要を把握できる。	
予習復習の内容	授業内容全体について、整理・確認しておくこと。		
	予習復習の内容	授業内容全体について、整理・確認しておくこと。	

科目名	医事接遇マナー				担当者	加藤 淳子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	接遇の必要性を学び、身近な問題として理解し応用できる。										
	②	一般的な接遇と医療接遇の違いが比較できる。										
	③	医療接遇の必要性を学んだ上で、接遇の技術を実施できる。										
	④	様々な患者様やご家族の立場を理解し、適切な接遇が実施できる。										
汎用的 学習成果	(1)	なぜ接遇が必要なのか、また具体的にどのようなサービスが必要なのかを理解し実践につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	一般的な接遇と医療接遇の違いを学ぶことで、より一層相手を思いやる接遇ができる。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	医療従事者のそれぞれの役割を理解しどのように振る舞うのか、という技術を習得し実践につなげることができる。(専門的学習成果③④に関連)										
	(4)	医療従事者と患者様とのコミュニケーションを高めるための、知識と技術を習得し積極的に行動がとれる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	医療機関で働くスタッフは、「なぜ、医療接遇が必要なのか」また「具体的にどんなサービスが必要なのか」を身近な問題として理解していく必要がある。医療機関に対する患者様の不満は、「患者様への声掛け」といったほんの少しのサービスの前進で解決できる事も少なくない。この授業では医療接遇の基本的な部分を理解し、患者様一人ひとりに合う接遇ができるように、患者様の特性や医療接遇の知識を学ぶことで技術を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
	筆記試験	80	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回分の授業内容の理解について評価を行う。									
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③④で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③④で評価を行う。 (4) は、専門的学習成果③④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
		プリント配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
	ニチイ学館	『医療事務講座 患者接遇マナー』							ニチイ学館			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①配布資料や参考資料を事前学習として授業内容理解のため読み予習してくる。 (予習：週2時間程度) 事後学習としては、単元ごとに小テストを実施するため復習をしっかりとすること (復習：週2時間程度) ②授業で学んだ箇所の問題を解き適宜説明をする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	社会人、組織人としての心構えとは	
	学習成果	社会は多くの人と関わるため、人間関係を円滑にするポイントを説明できる。	
2回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ポイントについて理解を深める。	
	授業内容	医療とは、病院とは	
3回	学習成果	医療提供の理念、医療の歴史、病院組織、部門ごとの従事者を学び理解ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、医療の在り方、病院組織について説明できるようにする。	
4回	授業内容	患者様の来院時における心のあり方、ホスピタリティとは	
	学習成果	患者様の心理、接遇の意義を学び理解ができる。	
5回	予習復習の内容	接遇に必要なポイントは何か、の学習内容を振り返り理解を深めておく。	
	授業内容	サービス業としての医療、プロフェッショナルとしての条件	
6回	学習成果	医療はサービス業であり第三者から評価される事や、プロとして必要な考えを学び理解できる。	
	予習復習の内容	仕事をしていく上で必要な事について復習しておく。	
7回	授業内容	今後の医療に求められる接遇	
	学習成果	高齢社会を迎え変わる患者意識を学び理解ができる。	
8回	予習復習の内容	患者様の意識を理解し、間接的接遇やサポート接遇の必要性を復習しておく。	
	授業内容	病院を決める第一印象 (1) 表情・動作・姿勢	
9回	学習成果	TPOに合わせた顔、身体、姿勢の変化について理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表情や姿勢など実践する。	
10回	授業内容	病院を決める第一印象 (2) あいさつ・身だしなみ	
	学習成果	あいさつの重要性、おしゃれと身だしなみの違いについて説明ができる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深め復習しておく。	
	授業内容	言葉美人になるために、電話応対の決めて	
12回	学習成果	話し言葉の正しい使い方や感じ良く話す、電話対応の基本を学び、実践できる。	
	予習復習の内容	正しい話し方を実践する。	
13回	授業内容	部門別接遇ポイント (1) 受付窓口の心構え	
	学習成果	受付対応の基本ポイントを学び、実践できる。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、窓口対応の基本を復習しておく。	
	授業内容	部門別接遇ポイント (2) 会計窓口・薬局窓口	
15回	学習成果	会計窓口の接遇に必要な基本や薬局窓口での基本ポイントを学び、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの基本を復習しておく。	
16回	授業内容	部門別接遇ポイント (3) 医師・看護師など	
	学習成果	医師、看護師などが行う接遇の基本ポイントを学び理解ができる。	
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの基本を復習しておく。	
	授業内容	患者様別接遇ポイント (1) 高齢者・ご家族	
18回	学習成果	高齢の方や患者様のご家族への対応を学び、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの対応の理解を深めておく。	
19回	授業内容	患者様別接遇ポイント (2) 身体障害者の方	
	学習成果	聴覚、視覚、肢体不自由の患者様を理解し、接遇のポイントを学び実践できる。	
20回	予習復習の内容	それぞれの接遇ポイントを振り返り、実践する。	
	授業内容	情報の管理、一般文書、医療文書について	
21回	学習成果	医療機関での個人情報の取り扱いや、ビジネス文書、医療文書について理解できる。	
	予習復習の内容	個人情報の取り扱いや、文書作成など実践する。	
22回	授業内容	社会人に必要なマナーについて。筆記試験実施。	
	学習成果	冠婚葬祭、食事のマナーなど社会人に必要なマナーを学び実践できる。	
23回	予習復習の内容	マナーのポイントを振り返り、実践する。	

科目名	医療事務特別講座Ⅱ				担当者	加藤 淳子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	医学分野と併せて学習する事で、疾病の特徴や治療方法を関連付けることができる。										
	②	薬剤と疾病の関係を理解する事で、カルテ内容をより深く理解し関連付けることができる。										
	③	診療報酬請求事務の明細書作成で、正解率を高めることができる。										
	④	多くの資格を取得するために、技術を高めることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	診療内容を読み診療費を算定する医療事務では、身体の構造、疾病の特徴、薬剤との関連性を理解する技術を活用できる。(専門学的成果①②に関連)										
	(2)	複雑な診療内容であっても、正しく請求書を作成する技術を活用できる。(専門学的成果③に関連)										
	(3)	主催が異なる検定試験では出題傾向が変わるため、医療事務全体をより深く理解する技術を活用できる。(専門学的成果③④に関連)										
授業概要	医療は医学の知識、薬剤との関係がとても大きく関わっている。疾病の特徴と治療方法、関連性のある薬剤の専門知識を習得する事で、カルテに記載された診療内容をしっかり読み込むことが出来るようになる。カルテの患者の疾病原因から治療する一連の流れを把握すると共に、複雑な診療内容のカルテから正しく診療費の算定が出来る。目標とする資格の取得の他に、主催が異なる医療事務関連の資格取得を目指す。出題傾向が変わるためより広く深く医療事務の知識と技術を身につける事が出来る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
		筆記試験	80	全15回分の授業内容の理解について評価を行う。								
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			1年次の医療事務特別講座Ⅰで使用した教材一式									
			プリント配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点		①事前にテキストの該当部分を読み、ポイントを把握した上で授業に臨む。(予習：週2時間程度)										
②課題に対するフィードバックの方法等		②多くのカルテ問題を練習する事で、知識と技術の向上を図るため、宿題課題を課し翌週に提出してもらい、採点、添削の上返却する。(復習：週2時間程度)										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	人体の構造、各器官の名称	課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	体の仕組みや各器官の名称や働きについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
2回	授業内容	疾病と薬剤、治療との関係	
	学習成果	疾病と関連する薬剤とその治療について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
3回	授業内容	学科問題① 医療用語、明細書の記載要領問題	
	学習成果	専門的な医療用語や、明細書の記載要領について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
4回	授業内容	学科問題② 医学、薬学の基礎知識問題	
	学習成果	医療事務に必要な医学と薬剤の知識について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
5回	授業内容	学科問題③ 医療関係法規問題	
	学習成果	医療に関係する各法規について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
6回	授業内容	学科問題④ 総合問題	
	学習成果	医学、薬学、法規など様々な問題について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
7回	授業内容	明細書作成① 脂質異常症、黄色腫、糖尿病の疑い等の外来診療内容	
	学習成果	糖負荷試験、医学管理、検査料等の算定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
8回	授業内容	明細書作成② 副腎瘤、慢性腎不全等の入院診療内容	
	学習成果	人口腎臓に関連する薬剤、全身麻酔、手術等の算定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
9回	授業内容	明細書作成③ 頭部挫創、拇指捻挫等の外来診療内容	
	学習成果	矯正固定、CT撮影、縫合手術等の算定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
10回	授業内容	明細書作成④ 変形性頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア等の入院診療内容	
	学習成果	手術前医学管理料、全身麻酔、手術、呼吸心拍監視等の算定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
11回	授業内容	明細書点検① 急性胃炎、胃潰瘍の外来明細書、くも膜下出血の入院明細書	
	学習成果	それぞれの明細書の間違い箇所を見つけ、正しい請求ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
12回	授業内容	明細書点検② てんかん、耳垢栓塞の外来明細書、化膿性尿管のう胞の入院明細書	
	学習成果	それぞれの明細書の間違い箇所を見つけ、正しい請求ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
13回	授業内容	明細書点検③ 腰椎椎間板ヘルニアの外来明細書、第5指中節関節内骨折の入院明細書	
	学習成果	それぞれの明細書の間違い箇所を見つけ、正しい請求ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
14回	授業内容	明細書作成と点検① 白内障等の診療内容、薬物アレルギー、じん麻疹等の診療内容	
	学習成果	白内障、じん麻疹に関連する診療内容を理解し、明細書の作成と点検ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
15回	授業内容	明細書作成と点検② 溶連菌感染症等の診療内容、膝半月板損傷等の診療内容	
	学習成果	溶連菌感染症、膝半月板損傷に関連する診療内容を理解し、明細書の作成と点検ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	

科目名	調剤事務資格特別講座				担当者	横 尾 由 香							
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	後期	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	処方箋について詳しく理解し、正しく扱うことができる。											
	②	調剤報酬を正確に算定できる。											
	③	調剤薬局に関連する保険制度を理解し、説明することができる。											
汎用的 学習成果	(1)	処方箋について詳しく理解することにより、職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②に関連)											
	(2)	様々な調剤報酬、保険制度を学ぶことにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果②③に関連)											
授業概要	処方箋について正しく理解し、正確に調剤報酬を算定できるようになることにより、認定試験合格を目指す。調剤報酬算定だけでなく、薬についての基本知識や各種医療保険制度、保険請求の流れなど、2年前期までの学習内容をより深く学習することで、調剤薬局事務員としての実践的能力を養う。また、近年重視されている在宅患者への医療やかかりつけ制度についても学習することで、幅広い知識をもった医療関連職員になることを目指す。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		小テスト	20	小テストを2回実施し、正答率に沿って評価を行う。									
		筆記試験	70	筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。									
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
		『医療保障制度』(テキスト1)				ソラスト							
		『調剤薬局事務 テキスト2 3』				ソラスト							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
		『調剤試験問題集』				ソラスト							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては、随時小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること。(復習：週2時間程度) ②小テストに対するフィードバックは、実施後に正解を示し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	薬局の基礎知識	小テスト①を第5回に実施する
	学習成果	薬局と医薬品販売業の違い等を理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
2回	授業内容	処方箋の基礎知識	
	学習成果	処方箋の様式や記載内容を把握し、正しく取り扱うことができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
3回	授業内容	算定の基礎知識	
	学習成果	処方欄の内容を理解し、正しく読み取ることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
4回	授業内容	調剤基本料、調剤料について理解し、正確な算定をすることができる。	
	学習成果	調剤基本料、調剤料について理解し、正確な算定をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
5回	授業内容	調剤料の加算	
	学習成果	様々な加算を理解し、正確な算定をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
6回	授業内容	薬学管理料	小テスト②を第10回に実施する
	学習成果	様々な管理料を理解し、正確な算定をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
7回	授業内容	調剤レセプト	
	学習成果	様々な調剤レセプトのパターンを知り、正確な算定をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
8回	授業内容	「検定試験」対策学科問題	
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
9回	授業内容	「検定試験」対策学科問題	
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
10回	授業内容	「検定試験」対策学科問題	
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
11回	授業内容	「検定試験」対策実技問題	筆記試験を実施する
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
12回	授業内容	「検定試験」対策実技問題	
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
13回	授業内容	「検定試験」対策実技問題	
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
14回	授業内容	まとめ	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	総復習をする。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	総復習をする。	

科目名	医療情報演習（電子カルテ含む）				担当者	ヨコ 横 尾 由 香						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	電子カルテシステムについて理解し、概要を説明できる。										
	②	電子カルテを使って代行入力、オーダーリング、医療文書作成をすることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	電子カルテシステムの特徴、扱いに必要な知識を習得し、専門的スキルを活用した業務に取り組むことができる。（専門的学習成果①②に関連）										
授業概要	電子カルテシステムとは何か、医療の現場で起きている IT 化の流れと診療録等の電子化について理解し、電子カルテシステムの定義と機能について学修する。また、電子カルテシステムの関連知識と、地域医療情報システム等、今後の展開について理解を深める。電子カルテシステムの操作方法を習得するなかで診療録、各種診断書・意見書、診療情報提供書等も電子カルテシステムを使って作成できるようになり、現場における実践力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	課題提出をさせ、内容に沿って評価を行う。								
		試験	80	筆記試験と入力試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
			『医師事務作業補助者養成講座 テキスト1・2』						ソラスト			
			『診療報酬点数表』						社会保険研究所			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
			『電子カルテシステムの理解と演習』						ケアアンドコミュニケーション			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①[医師事務補助ユニット]履修者。2コマ連続授業。飲食物持ち込み厳禁。USBメモリーを各自用意すること。事前学習として、入力するカルテの内容を詳しく調べておくこと。事後学習として授業中に習得した入力上の注意点を各自ノート等にまとめておくこと。(週1時間程度) ②随時入力のチェックを行い、その都度解説をしていく。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	電子カルテシステムとは？(全体俯瞰) IT化の流れと診療録の電子化への道	
	学習成果	電子カルテシステムの全体像を把握することにより、今後の学習概要がつかめる。	
3・4回	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	入力演習：診療所（外来）	
5・6回	学習成果	電子カルテと医事会計の違いに注意しながら入力できる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
7・8回	授業内容	電子カルテの定義、機能、関連知識	
	学習成果	電子カルテシステムの定義、電子カルテシステムの役割を説明することができる。	
9・10回	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	入力演習：診療所（外来）、文書作成	
11・12回	学習成果	カルテ入力とあわせて文書作成ができる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
13・14回	授業内容	医師事務作業補助者とは、電子カルテの代行入力	
	学習成果	医師事務作業補助者の加算、代行入力の注意点を説明することができる。	
15・16回	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	入力演習：病院（外来）	
17・18回	学習成果	診療所との違いを理解し、病院の電子カルテの入力ができる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
19・20回	授業内容	文書作成の代行入力	
	学習成果	文書の代行作成に必要な知識を学ぶことにより、正しい文書を作成することができる。	
21・22回	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	入力演習：病院（外来）、文書作成	
23・24回	学習成果	カルテ入力と合わせて文書作成ができる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
25・26回	授業内容	入力演習：病院（外来・オーダーリング）、文書作成	
	学習成果	オーダーリングシステムを使った病院の電子カルテの入力ができる。	
27・28回	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
	授業内容	入力演習：病院（外来・問答形式）	
29・30回	学習成果	SOAPをしっかりと区別しながら入力ができる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
29・30回	授業内容	入力演習：病院（入院、オーダーリング）	
	学習成果	オーダーリングシステムを使った入院カルテの入力ができる。	
29・30回	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
	授業内容	入力演習：総合演習	
29・30回	学習成果	システム管理の重要性を理解し、実践を想定した入力ができる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
29・30回	授業内容	まとめ	
	学習成果	知識の確認をすることができる。	
29・30回	予習復習の内容	全体の総復習をしていく。	

科目名	医師事務補助特別講座Ⅱ				担当者	横尾由香						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	医療文書作成に必要な知識を深め、各種の医療文書を作成することができる。										
	②	電子カルテの基本操作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	医師事務作業補助者に必要な業務スキルを習得することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	電子カルテの基本操作ができることにより、現代社会に対応できる医療従事者に近づくことができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	傷病・疾病についての理解、カルテの読解力を高めることにより、医療文書作成の力を総合的に高め、「医師事務作業補助者」に求められる知識を習得する。また、電子カルテの代行入力と合わせて「電子カルテシステム」を使った医療文書の作成を行い、迅速かつ正確に紹介状や診断書、証明書等の文書を作成できるようになることを目指す。実践を意識した内容を盛り込むことにより、医療機関に求められる「医師事務作業補助者」になることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	レポートを1回提出させ、内容に沿って評価を行う。								
		筆記試験	80	筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
		小テスト										
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『医師事務作業補助者養成講座 テキスト1・2』				ソラスト						
		『医療関連法規』				ソラスト						
		『医学入門』				ソラスト						
		『医師事務作業補助者 検定試験問題集』				ソラスト						
		『医療保障制度』(テキスト1)				ソラスト						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①「医師事務補助ユニット」履修者。 医療事務、医療の制度、医事薬事法規を1年時に履修していること。 テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては授業中に行う練習問題の復習をしっかりとすること。(復習：週2時間程度) ②授業中に行う練習問題に対して、その場でチェック・解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	骨格、筋肉系	随時、小テストを行う。
	学習成果	骨格、筋肉系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
2回	授業内容	循環器系	
	学習成果	循環器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
3回	授業内容	消化器系	
	学習成果	消化器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
4回	授業内容	呼吸器系	
	学習成果	呼吸器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
5回	授業内容	泌尿器系	
	学習成果	泌尿器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
6回	授業内容	内分泌系	
	学習成果	内分泌系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
7回	授業内容	感覚器系	
	学習成果	感覚器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
8回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(診療所)	全体の内容の筆記試験を実施する。
	学習成果	基本的な操作方法を習得する。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する。	
9回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(診療所)	
	学習成果	診療所の基本的な電子カルテの入力ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する入力内容を予習復習する。	
10回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(診療所)、文書作成	
	学習成果	電子カルテによる簡単な文書作成ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する。	
11回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(診療所)、文書作成	
	学習成果	電子カルテによる簡単な文書作成ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する入力内容を予習復習する。	
12回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(病院)、文書作成	
	学習成果	病院の基本的な電子カルテの入力ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する。	
13回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(病院)、文書作成	
	学習成果	病院の基本的な電子カルテの入力ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する。	
14回	授業内容	まとめ	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	全体の総復習をする。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	全体の総復習をする。	

科目名	クリエイティブデザイン				担当者	カナザワチキ晶						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
授業時間数				60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。										
専門的 学習成果	①	ファッションショーの構成（企画）を提案し、ショーのテーマに添った衣装のデザインを考え、衣装製作ができる。										
	②	高度な縫製テクニックや立体裁断など応用し、衣装をイメージ通りに創作することができる。										
	③	衣装に合わせたファッションモデルのヘア・メイクのトータルコーディネート提案することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	衣装の製作の学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	自由な発想によるデザインおよび製作を通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(3)	縫製テクニックやコーディネート、ヘアメイクを学習することを通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	ファッションショーを構成する諸要素を理解し、衣装製作・企画・演出・モデルウォーキング等の体験を通して、衣装のデザイン感覚、造形技術の向上を目指す。 ファッションショー開催のために必要な役割を具体的に分担することによって、その完成に導く行動力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	第15回目に製作した作品に関するレポートについて評価を行う。								
		作品提出	60	第15回目に製作した作品について評価を行う。								
		平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			印刷物等配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続の授業。布地等の材料は各自準備する。洋裁用備品については一部貸出可能。事前に作成手順の資料を準備するので、作業内容について、授業前に資料をよく読んでおくこと（計30時間）。 ②製作した作品が評価の対象となるため、毎時間ごとに製作した修正点などを見直し、手直し作業を行うこと。製作した部分について、毎時間、授業の時に点検し、講評する。										

授業計画			学習成果の評価	
1・2回	授業内容	ファッションショー打合せ・材料および作業分担の確認		ファッションショーの企画の確認と作業分担への取り組み
	学習成果	ファッションショーの企画の打ち合わせを行い、材料及び作業分担の確認をすることができる。		
3・4回	予習復習の内容	ファッションショーの企画の打ち合わせと、今後の作業分担を確認する。		型紙作製への取り組み
	授業内容	前半のシーンの衣装製作（型紙作製）		
5・6回	学習成果	衣装の型紙作製をすることができる。		型紙作製への取り組み
	予習復習の内容	衣装の型紙作製をする。		
7・8回	授業内容	前半のシーンの衣装製作（型紙作製）		型紙作製への取り組み
	学習成果	衣装の型紙作製をすることができる。		
9・10回	予習復習の内容	衣装の型紙作製をする。		布の裁断への取り組み
	授業内容	前半のシーンの衣装製作（布の裁断）		
11・12回	学習成果	衣装の布の裁断をすることができる。		衣装の縫製への取り組み
	予習復習の内容	衣装の布の裁断をする。		
13・14回	授業内容	前半のシーンの衣装製作（布の縫製）		衣装の縫製への取り組み
	学習成果	衣装の布の縫製をすることができる。		
15・16回	予習復習の内容	衣装の布の縫製をする。		型紙作製への取り組み
	授業内容	後半のシーンの衣装製作（型紙作製）		
17・18回	学習成果	衣装の型紙作製をすることができる。		型紙作製への取り組み
	予習復習の内容	衣装の型紙作製をする。		
19・20回	授業内容	後半のシーンの衣装製作（型紙作製）		型紙作製への取り組み
	学習成果	衣装の型紙作製をすることができる。		
21・22回	予習復習の内容	衣装の型紙作製をする。		布の裁断への取り組み
	授業内容	後半のシーンの衣装製作（布の裁断）		
23・24回	学習成果	衣装の布の裁断をすることができる。		衣装の縫製への取り組み
	予習復習の内容	衣装の布の裁断をする。		
25・26回	授業内容	後半のシーンの衣装製作（布の縫製）		衣装の縫製への取り組み
	学習成果	衣装の布の縫製をすることができる。		
27・28回	予習復習の内容	衣装の布の縫製をする。		衣装の補正作業
	授業内容	衣装製作（試着・補正）		
29・30回	学習成果	衣装を試着し補正作業をすることができる。		レポート及び作品提出により評価を行う
	予習復習の内容	体型に合わせて補正を行い調整をする。		
29・30回	授業内容	まとめ・衣装撮影・衣装提出		レポート及び作品提出により評価を行う
	学習成果	衣装を完成させ撮影を行い、レポートの記入及び衣装の作品提出をすることができる。		
	予習復習の内容	完成した衣装の撮影をして、レポートの記入及び衣装の作品提出をする。		

科目名	ステージショー演出				担当者	カナザワチアキ 金澤千晶						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。										
専門的 学習成果	①	衣装に合わせたヘアセット・メイクを他者にすることができる。										
	②	ショーのイメージに合わせた映像の製作、音響と照明を検討し、ステージ上で演出することができる。										
	③	ショーのためのウォーキング方法、ポーズ、ルートを考え、モデルに指示を出し、ショーを作り上げることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	ステージでのショー演出の方法に関する学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	ステージ上のウォーキングパターンの学習を通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(3)	映像や音響、ヘアメイクのテクニックの学習を通して、修得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	ショーのイメージに大きく影響する演出について、ショーに登場するモデルに関わるヘアメイクからウォーキングを練習し、完成度の向上を目指す。 ステージ上に映し出す映像の製作、音響（ショー用のテンポ）、照明の色などについて演出方法を具体的に考え、実際にショーを実施する能力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		作品提出	40	映像やヘアメイクなど製作した作品について評価を行う。								
		平常点	60	授業の態度・関心・意欲・ファッションショーへの取り組み姿勢を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			印刷物等配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続の授業。授業ごとに取り組んだ内容を振り返り、練習をすること（計30時間）。 ②練習した成果が次回の授業内容に反映されるので、その際に上達具合をチェックし、講評する。										

授業計画			学習成果の評価	
1・2回	授業内容	ショーのコンセプトおよび衣装の確認・映像製作・ヘアメイク材料について		ファッションショーの企画の確認と授業内容の理解
	学習成果	ファッションショーの企画の確認を行い、半期の流れ、材料について理解することができる。		
3・4回	予習復習の内容	ファッションショーの企画の確認を行い、半期の流れ、材料について理解する。		CG映像製作・BGM選曲への取り組み
	授業内容	CG映像製作・BGM選曲		
5・6回	学習成果	CG映像製作及びBGMの選曲を行うことができる。		CG映像製作・BGM選曲への取り組み
	予習復習の内容	CG映像製作及びBGMの選曲を行う。		
7・8回	授業内容	CG映像製作・BGM選曲		CG映像製作・BGM選曲への取り組み
	学習成果	各シーンを全員で検討、確認、修正しながら、CG映像製作及びBGMの選曲を行うことができる。		
9・10回	予習復習の内容	話し合いを通して、CG映像製作及びBGMの選曲を行う。		CG映像完成・BGM決定への取り組み
	授業内容	CG映像製作の完成・BGMの決定		
11・12回	学習成果	CG映像が完成し、BGMを決定することができる。		ファッションショーのヘアメイク検討への取り組み
	予習復習の内容	話し合いを通して、CG映像製作及びBGMの選曲を行う。		
13・14回	授業内容	ファッションショーのヘアメイク検討・計画		ファッションショーのヘアメイクの時間計測
	学習成果	ファッションショーのヘアメイクを検討することができる。		
15・16回	予習復習の内容	衣装に合わせたファッションショーのヘアメイクを検討する。		ファッションショーのヘアメイクの時間計測
	授業内容	ファッションショーのヘアメイク（タイムチェック）		
17・18回	学習成果	ファッションショーのヘアメイクを実際に行い、タイムを計測する。		ウォーキング基礎のテスト
	予習復習の内容	ファッションショーのヘアメイクが規定の時間内に終わるように練習する。		
19・20回	授業内容	ウォーキング基礎（姿勢・ターン・ポーズ・テスト）		ウォーキング（タイムチェック）への取り組み
	学習成果	ウォーキング基礎（姿勢・ターン・ポーズ）を修得することができる。		
21・22回	予習復習の内容	ウォーキング基礎（姿勢・ターン・ポーズ）を修得する。		ウォーキング（タイムチェック）への取り組み
	授業内容	ウォーキングルート検討		
23・24回	学習成果	ウォーキングルート検討をすることができる。		ウォーキング（タイムチェック）への取り組み
	予習復習の内容	ウォーキングルート検討をする。		
25・26回	授業内容	ステージレイアウト・照明の検討		ステージレイアウト・照明の検討への取り組み
	学習成果	ステージレイアウト・照明の色について話し合いをして決定することができる。		
27・28回	予習復習の内容	話し合いを通して、ステージレイアウト・照明の色を決定する。		ウォーキング（タイムチェック）への取り組み
	授業内容	ウォーキング（タイムチェック・再考）		
29・30回	学習成果	ステージ上のウォーキングルートに合わせてウォーキングの時間を確認することができる。		ファッションショーの取組姿勢で評価を行う
	予習復習の内容	ステージ上のウォーキングルート時間を調整し、ルート変更をする。		
29・30回	授業内容	ウォーキング（タイムチェック・再考）		ウォーキング（タイムチェック）への取り組み
	学習成果	ステージ上のウォーキングルートに合わせてウォーキングの時間を確認することができる。		
29・30回	予習復習の内容	ステージ上のウォーキングルート時間を調整し、ルート変更をする。		ウォーキング（タイムチェック）への取り組み
	授業内容	リハーサル（衣装着用・ヘアメイク含む）		
29・30回	学習成果	衣装着用し、ヘアメイクを行って実際の時間計測をすることができる。		リハーサル（衣装着用・ヘアメイク含む）への取り組み
	予習復習の内容	衣装着用し、ヘアメイクを行って実際の時間計測をして、調整する。		
29・30回	授業内容	ファッションショー実施（ヘアメイク・ステージショー運営）		ファッションショー実施の取り組み
	学習成果	ヘアメイク、衣装着用、ショーの運営および開催をすることができる。		
29・30回	予習復習の内容	ヘアメイクを行い、衣装着用し、実際にショーを実施する。		ファッションショーの取組姿勢で評価を行う
	授業内容	ショーの振り返り		
29・30回	学習成果	ファッションショーの振り返りを行い、改善点等を話し合うことができる。		ファッションショーの取組姿勢で評価を行う
	予習復習の内容	話し合いを通して、ファッションショーの振り返りを行い、改善点等を話し合う。		

科目名	カフェスキル演習				担当者	マツオ 松尾	イサオ 勲	カネコ 兼子	ミキヒロ 貢紀弘	ドイ 土井	カオリ 香織	
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	飲食店、カフェで活用できるメニュー撮影や SNS 発信できる写真撮影方法を実践できる。										
	②	飲食店、カフェで活用できるチョークアートでの POP 製作を実践できる。										
	③	飲食店インテリアの基本と表現方法について理解して、実践できる。										
	④	飲食店、カフェの空間デザインを提案できる。										
汎用的 学習成果	(1)	空間プロデュースを学ぶことにより創造的に思考することができる。(専門的学習成果④に関連)										
	(2)	カフェスキルの技術を修得することで、社会的、職業的自立に繋げることができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(3)	制作した作品を発表することで自己表現と他者理解ができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	近年カフェは老若男女と大変人気となっている。オープンカフェスタイルカフェ、雑貨に囲まれたカフェ、自家焙煎カフェ、チェーン展開のカフェ等そのスタイルは多様化している。多くのカフェでは飲食サービスだけではなく、その個性を出そうと時間や空間に付加価値を見出し、利用するお客様に提供している。この授業では、カフェの空間を個性的に演出する技術を修得する。インテリア・チョークアート・写真撮影の知識と技術を学び、将来、飲食店やカフェで働くことを想定した実践的な技能を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		作品課題	80	各授業で制作した作品を評価する。								
	平常点	20	授業態度、意欲、理解度の総合評価。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
			『Monique CHALK ART』						MCA 協会			
			『夢いるチョークアート』						日貿出版社			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続授業、2クラス編成。教材費として16,000円徴収する。 ○インテリア：リアルなサイズ感を感じてもらうために使っているテーブルや椅子などを自ら測って図面化する作業がある。 ○写真撮影：カフェ・飲食に関する本やネットで素敵だと思う写真を常に見つける努力が必要。本は購入するか、ネットであれば保存しておくこと。自分で撮影する際はその見本を真似ることが大切。 ○チョークアート：授業時間に実習に必要な材料(ボード)が配られ、時間内に作品を製作することを原則とし、最後の授業時に作品を製作して提出する。 ○各自で準備するもの：(インテリア授業 色鉛筆・定規) (チョークアート授業 エプロン・作品持ち帰りの袋) (写真撮影授業 デジタルカメラ・見本の写真) 予習復習あわせて週2時間程度必要。 ②課題等は解説及び結果のフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	デザインの手法「表現と方法」(松尾)	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	デザインの手法における「表現と方法」を理解して実践できる。	
2回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	授業内容	ブランニングの手法「イメージの具体化」(松尾)	
3回	学習成果	ブランニングの手法における「イメージの具体化」を理解して実践できる。	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
4回	授業内容	飲食店のブランニング「計画図の作成/文書」(松尾)	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	飲食店のブランニングにおける「計画図の作成/文書」を理解して実践できる。	
5回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	インテリア授業課題提出
	授業内容	飲食店のブランニング「計画図の作成/図面」(松尾)	
6回	学習成果	飲食店のブランニングにおける「計画図の作成/図面」を理解して実践できる。	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
7回	授業内容	チョークアートの理解、道具の使い方、チョークアートの基礎技術、小品の製作 (李)	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	チョークアートの理解、道具の使い方、チョークアートの基礎技術を理解して小品の製作ができる。	
8回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	授業内容	レタリングと花の表現演習 (李)	
9回	学習成果	レタリングと花の表現を製作できる。	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
10回	授業内容	ガラスの表現とパンの表現のテクニック (李)	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	ガラスの表現とパンの表現のテクニックを理解して実践できる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	授業内容	メニューボードの構図と表現 (李)	
12回	学習成果	バランスと構成を理解し表現できる	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
13回	授業内容	メニューボード作品製作(評価) (李)	チョークアート課題提出
	学習成果	チョークアートの技術を使いメニューボードが完成できる。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	授業内容	素敵だと思う飲食の写真を、本やネットで見つける(兼子)	
15回	学習成果	写真撮影の題材を探しの必要性を理解して実践できる。	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
16回	授業内容	その気に入った写真を見本に真似て撮影してみる(兼子)	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	撮影技術を理解して実践できる。	
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	授業内容	撮影した写真を添削して、その後見本に近い写真を撮る(兼子)	
18回	学習成果	写真加工の方法を理解し、実践できる。	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
19回	授業内容	指定された撮影題材をイメージ通りに撮影する(兼子)	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	写真加工の方法を理解し、実践できる。	
20回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	写真撮影課題提出
	授業内容	さらに憧れの写真を見つけて、自分なりに工夫と真似て撮影する(兼子)	
21回	学習成果	さらに憧れの写真を見つけて、自分なりに工夫と真似て撮影する(兼子)	写真撮影課題提出
	予習復習の内容	課題製作に取り組み完成できる。	
22回	授業内容	さらに憧れの写真を見つけて、自分なりに工夫と真似て撮影する(兼子)	写真撮影課題提出
	学習成果	課題製作に取り組み完成できる。	
23回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	写真撮影課題提出
	授業内容	さらに憧れの写真を見つけて、自分なりに工夫と真似て撮影する(兼子)	

科目名	カフェデザート実習				担当者	サガラ 相良 ナツ 奈津 (実務家教員)・芳賀 ハガ スグル 卓 スグダ ヨシダ ヲダシ 正						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	sagara.natsu@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	カフェデザートメニューを提供できる。										
	②	カフェデザートメニューの新しい商品を提案できる。										
	③	菓子製造を通じておもてなしの心を考え実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	カフェデザート実習を通じて、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	カフェデザートの製作を通じて、他者との協力や材料の特性などを理解できる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	カフェデザートの製作を通じて習得した専門知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献できる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	昨今のカフェブームに伴い、カフェにおけるデザートについて学習する。この授業で習得するのは和菓子・洋菓子の基本的なレシピである。和・洋菓子で使用する専門的な食材、器具、器材の知識、使用法などを学習し、カフェで提供できる和・洋菓子製造を習得を目的とする。菓子製造を通じておもてなしの心を考え実践できる。洋菓子の実習は、ホテルパティシエールとしての実務経験を生かした、デザートの皿盛りや提供方法等も指導する。実習時に必要な他者との協力体制の実践力や実習を行う上での身だしなみ等の衛生的管理について知識を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	6回目、10回目、14回目、18回目、22回目、26回目の授業終わりに提出。内容により評価する。								
		筆記試験	20	カフェデザート実習の総合的な理解について30回目に筆記試験を行い評価する。								
		平常点	50	実習への取り組み・意欲・態度・身だしなみにより評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う (2) は専門的学習成果②③により評価を行う (3) は専門的学習成果②③により評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	吉田菊次郎	『物語に出てくる楽しいお菓子の作り方』				朝文社						
	津田洋子	『さくさくクッキー』				文化出版局						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続授業。実習費として8,000円徴収する。平常点の身だしなみとして、カフェ実習服・製菓実習服のいずれかを必ず着用すること。衛生面(髪・爪・化粧・香水・アクセサリ)には特に注意して実習すること。配布したレシピを元に毎回必ず復習を1時間程度行うこと。 ②提出されたレポートは全体的な講評を行い添付して返却する。(30回目)										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	1回目ガイダンス、2回目実習の心得	実習への取り組みを評価
	学習成果	1回目、本授業の内容を理解し、説明できる。2回目実習の心得を理解し、衛生管理や身だしなみの必要性が説明できる。	
3・4回	予習復習の内容	1回目、シラバスを事前に読み、その内容を理解する。2回目ガイダンス内容を踏まえて学習計画を立てる。	
	授業内容	3回目クレープ、4回目小麦粉とは	
5・6回	学習成果	クレープ(3回目)小麦粉(4回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、クレープ(3回目)、小麦粉(4回目)について理解を深める。	
7・8回	授業内容	5回目パウンドケーキ、6回目ベーキングパウダーとは	
	学習成果	5回目パウンドケーキに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。6回目ベーキングパウダーの特性について説明ができる。	
9・10回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、パウンドケーキ(5回目)、ベーキングパウダー(6回目)について理解を深める。	
	授業内容	7回目おしるこ、8回目白玉について	
11・12回	学習成果	おしるこ(7回目)、白玉(8回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、おしるこ(7回目)、白玉(8回目)について理解を深める。	
13・14回	授業内容	9回目クッキー、10回目バターとは	
	学習成果	9回目クッキーに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。10回目バターの特性について学習し、説明ができる。	
15・16回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、クッキー(9回目)、バター(10回目)について理解を深める。	
	授業内容	11回目杏仁豆腐、12回目ゼラチンとは	
17・18回	学習成果	杏仁豆腐(11回目)、ゼラチン(12回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、杏仁豆腐(11回目)、ゼラチン(12回目)について理解を深める。	
19・20回	授業内容	13回目プリン、14回目卵とは	
	学習成果	13回目、プリンに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。10回目、卵の特性について学習し、説明ができる。	
21・22回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、プリン(13回目)、卵(14回目)について理解を深める。	
	授業内容	15回目スコーン、16回目バターとは	
23・24回	学習成果	スコーン(15回目)、バター(16回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、スコーン(15回目)、バター(16回目)について理解を深める。	
25・26回	授業内容	17回目レアチーズケーキ、18回目チーズとは	
	学習成果	17回目、レアチーズケーキに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。18回目、チーズの特性について学習し、説明できる。	
27・28回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、レアチーズケーキ(17回目)、チーズ(18回目)について理解を深める。	
	授業内容	19回目マフィン、20回目アレンジ食材とは	
29・30回	学習成果	マフィン(19回目)、アレンジ食材(20回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、マフィン(19回目)、アレンジ食材(20回目)について理解を深める。	
29・30回	授業内容	21回目ブラウニー、22回目チョコレートについて	
	学習成果	21回目ブラウニーに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。22回目チョコレートの特性について学習し、説明できる。	
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ブラウニー(21回目)、チョコレート(22回目)について理解を深める。	
	授業内容	23回目パンケーキ、24回目メレンゲとは	
29・30回	学習成果	パンケーキ(23回目)、メレンゲ(24回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、パンケーキ(23回目)、メレンゲ(24回目)について理解を深める。	
29・30回	授業内容	25回目アップルパイ、26回目パイ生地について	
	学習成果	25回目、アップルパイに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。26回目、パイ生地の特性について学習し、説明できる。	
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、アップルパイ(25回目)、パイ生地(26回目)について理解を深める。	
	授業内容	27回目イチゴのショートケーキ、28回目スポンジについて	
29・30回	学習成果	イチゴのショートケーキ(27回目)、スポンジ(28回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、イチゴのショートケーキ(27回目)、スポンジ(28回目)について理解を深める。	
29・30回	授業内容	29回目まとめ、30回目筆記試験	
	学習成果	カフェデザート実習で学習した内容を生かして、新メニューの提案ができる。	
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、カフェデザート実習について理解を深める。	

科目名	カフェドリンク実習Ⅰ				担当者	オノデワ 小野寺 靖忠・吉田 正・細貝 涼哉・ ヨシダ 薫・梅津 裕子									
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期		
				授業時間数	60	時間	時間								
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。													
専門的 学習成果	①	カフェ(珈琲)の生産国事情を知り、生豆原料基礎知識について述べることができる。													
	②	飲料原料、加工原料への加工工程を説明できる。													
	③	カフェの現場で働く為の基本的な知識と技術を実践できる。													
	④	カフェ(コーヒー)飲用がもたらす効果について論じることができる。													
	⑤	エスプレッソ、カプチーノ、カフェラテ、紅茶の抽出方法及びオペレーションが実践できる。													
汎用的 学習成果	(1)	知識と技術を習得することにより、社会的、職業的な自立に繋がる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連する)													
	(2)	飲食に関連した知識を活用して、食の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献することができる。(専門的学習成果①②③④に関連する)													
	(3)	習得した知識技能を活用して、飲食業界で課題に取り組み、問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果⑤に関連する)													
授業概要	カフェ業界はここ数年目まぐるしい発展と変化が起きている。個人事業でも大手企業でもコーヒービジネスでは知識と技能は必要不可欠である。この授業では、コーヒーマイスター(Meister:独)、コーヒーバリスタ(barista:伊)に必要な知識を取得する為に写真、表、グラフにて解り易く理解を深める。味覚(風味)と嗜好の違いを認識して正しいカフェ(コーヒー)を啓蒙できる。又、実践的な技術を習得する為に受講生全員が抽出実習を行う。基本的なエスプレッソ、スペシャルティコーヒー(カプチーノ、カフェラテ)と紅茶の抽出工程を理解し実践する。														
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準											
	専門的 学習成果	定期試験													
		レポート													
		筆記試験	50	講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。											
		作品課題	40	実習作品を評価する。											
		平常点	10	授業態度、意欲、理解度の総合評価											
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2)は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3)は専門的学習成果⑤で評価を行う。														
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名					
	全日本コーヒー検定委員会		『コーヒー検定教本』							全日本コーヒー商工組合連合会					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		① 2 コマ連続授業。2 クラス編成 ○実習費、テキスト代として12,000円徴収する。○ 1 ～ 10 は里館先生 11～20は小野寺先生21～24は細貝先生 25～30は吉田先生が担当する(担当教員の授業日程は開講期に知らせる)。実習着を着用する。特に衛生面(頭髪・化粧・爪・アクセサリー)には注意する。※前回の授業内容を踏まえた上での実技指導となる為、授業の復習(技術注意点の再確認や配布資料の知識)がないと次回授業の実技に進むことができない。2 回目以降は授業前に必ず前回までの復習や見直しをしておく。事前学習時間として15時間、反復学習時間として15時間を必要とする。 ②レポート・課題については評価、解説の後、返却する。実技指導はその都度行う。													

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	カフェ(珈琲)に関わる小売り業界と飲食業界 コーヒーインストラクター検定について(里館)	
	学習成果	カフェ(珈琲)に関わる小売り業界と飲食業界について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
3・4回	授業内容	世界のカフェ(珈琲)と日本のカフェの歴史(里館)	
	学習成果	世界のカフェ(珈琲)と日本のカフェの歴史を理解しコーヒー抽出できる。	
	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
5・6回	授業内容	珈琲の生産国事情 1.世界のカフェを楽しむ「アフリカ大陸編」(里館)	
	学習成果	産地別のコーヒーの違いを理解し、コーヒー抽出できる。	
	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
7・8回	授業内容	珈琲の生産国事情 2.世界のカフェを楽しむ「南米大陸編」(里館)	
	学習成果	産地別のコーヒーの違いを理解し、コーヒー抽出できる。	
	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
9・10回	授業内容	抽出実習 基礎「ペーパードリップ、サイフォン、長時間抽出と短時間抽出の風味変化」(里館)	
	学習成果	ペーパードリップ、サイフォン、長時間抽出と短時間抽出の風味変化を理解して実践できる。	
	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
11・12回	授業内容	バリスタとは エスプレッソの知識(小野寺)	
	学習成果	バリスタとエスプレッソの知識を理解してエスプレッソマシンを操作できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、エスプレッソマシンについて理解を深める。	
13・14回	授業内容	エスプレッソの抽出工程のエスプレッソカリブレーション抽出調整(小野寺)	
	学習成果	エスプレッソの抽出工程エスプレッソカリブレーション抽出調整を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、抽出調整について理解を深める。	
15・16回	授業内容	エスプレッソの知識を深める エスプレッソアレンジ(小野寺)	
	学習成果	エスプレッソアレンジを理解して実践ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、エスプレッソアレンジについて理解を深める。	
17・18回	授業内容	カプチーノの作成(初級) ミルクフォーミング(小野寺)	
	学習成果	カプチーノミルクフォーミングが実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ミルクフォーミングについて理解を深める。	
19・20回	授業内容	カプチーノの作成(中級) カップに注ぐ工程(小野寺)	
	学習成果	ミルクフォーミングからカップに注ぐまでの工程を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、カップに注ぐ工程について理解を深める。	
21・22回	授業内容	カフェオーナーの基礎(1)ドリップコーヒー(細貝)	
	学習成果	ドリップコーヒーの入れ方を習得して、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ドリップコーヒーについて理解を深める。	
23・24回	授業内容	カフェオーナーの基礎(2)エスプレッソ(細貝)	
	学習成果	エスプレッソの入れ方を習得して実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、エスプレッソについて理解を深める。	
25・26回	授業内容	スイーツドリンク(1)スムージー(吉田)	
	学習成果	スムージーの作り方を習得して実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、スイーツドリンクについて理解を深める。	
27・28回	授業内容	スイーツドリンク(2)グラニータ(吉田)	
	学習成果	グラニータの作り方を習得、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、スイーツドリンクについて理解を深める。	
29・30回	授業内容	紅茶のいれ方実習(梅津)	
	学習成果	ストレートティー、アイスティーのいれ方について習得し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ストレートティー、アイスティーのいれ方について理解を深める。	

科目名	カフェドリンク実習Ⅱ				担当者	オノデラ 小野寺 靖忠・吉田 正・細貝 涼哉・ カスダグ 里館 薫・梅津 裕子 ヨシダ ヨシダ ヨシダ ヨシダ ヨシダ ヨシダ タダシ 正・細貝 涼哉・ ホソガイ エウゴ リョウキ								
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期	
				授業時間数	60	時間	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。												
専門的 学習成果	①	珈琲の種、生産国、生産方法による風味の違いを論じることができる。												
	②	コーヒー豆の焙煎を理解して実践できる。												
	③	カフェの現場で働く為の専門的な知識と技術を実践できる。												
	④	カフェ(コーヒー) 飲用がもたらす効果及びフードファディズムについて論じることができる。												
	⑤	エスプレッソ、カプチーノ、カフェラテ、紅茶の高度な抽出方法及びオペレーションが実践できる。												
汎用的 学習成果	(1)	知識と技術を習得することにより、社会的、職業的な自立に繋がる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連する)												
	(2)	飲食に関連した知識を活用して、食の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献することができる。(専門的学習成果①②③④に関連する)												
	(3)	習得した知識技能を活用して、飲食業界で課題に取り組み問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果⑤に関連する)												
授業概要	カフェ業界はここ数年目まぐるしい発展と変化が起きている。個人事業でも大手企業でもコーヒービジネスでは知識と技能は必要不可欠である。この授業では、コーヒーマイスター(Meister: 独)、コーヒーバリスタ(barista: 伊)に必要な知識を取得する為に写真、表、グラフにて解り易く理解を深める。味覚(風味)と嗜好の違いを認識して正しいカフェ(コーヒー)を啓蒙できる。又、実践的な技術を習得する為に受講生全員が抽出実習を行う。カフェドリンクⅠを発展させた、より専門的なエスプレッソ、スペシャルティコーヒー(カプチーノ、カフェラテ)と紅茶の抽出工程の理解と実践をする。 ※高度な技術習得を目指す為、カフェドリンクⅠを受講しておくことが望ましい。													
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準										
	専門的 学習成果	定期試験												
		レポート												
		筆記試験	50	講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。										
		作品課題	40	実習作品を評価する。										
	平常点	10	授業態度、意欲、理解度の総合評価											
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う。													
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名								
	全日本コーヒー検定委員会	『コーヒー検定教本』				全日本コーヒー商工組合連合会								
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続授業。2クラス編成 ○実習費として8,000円徴収する。○1～10は里館先生 11～20は小野寺先生 21～24は細貝先生 25～28は吉田先生 29～30は梅津先生が担当する(担当教員の授業日程は開講期に知らせる)。実習着を着用する。特に衛生面(頭髮・化粧・爪・アクセサリー)には注意する。※前回の授業内容を踏まえた上での実技指導となる為、授業の復習(技術注意点の再確認や配布資料の知識)がないと次回授業の実技に進むことができない。2回目以降は授業前に必ず前回までの復習や見直しをしておく。事前学習時間として15時間、反復学習時間として15時間を必要とする。 ②レポート・課題については評価、解説の後、返却する。実技指導はその都度行う。													

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	抽出実習 専門(高温度抽出と低温度抽出の風味変化)	
	学習成果	高温度抽出と低温度抽出の風味変化を理解してコーヒー抽出が実践できる。	
3・4回	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
	授業内容	コーヒー生豆から加工工程 1.焙煎実習(選別→焙煎→飲料)	
5・6回	学習成果	コーヒ焙煎を理解して焙煎を実践できる。	
	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
7・8回	授業内容	コーヒー生豆から加工工程 2.粉砕実習(粉砕→抽出→飲料) 総合判断	
	学習成果	コーヒ粉砕を理解して粉砕を実践できる。	
9・10回	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
	授業内容	焙煎工場視察	
11・12回	学習成果	焙煎工場を視察して加工工程を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
13・14回	授業内容	手煎り焙煎実習 My Coffee にチャレンジ	
	学習成果	オリジナルのブレンドコーヒー知識を習得してコーヒー抽出実践ができる。	
15・16回	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
	授業内容	カプチーノの作成(上級) カプチーノデザインアレンジ	
17・18回	学習成果	カプチーノデザインアレンジの技術を習得して実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、カプチーノアレンジについて理解を深める。	
19・20回	授業内容	カフェラテの作成(基礎) ミルクフォーミング、注ぐ工程について	
	学習成果	カフェラテミルクフォーミングを注ぐ工程を習得して、実践できる。	
21・22回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、カフェラテについて理解を深める。	
	授業内容	カフェラテの作成(応用) カフェラテデザインアレンジ	
23・24回	学習成果	カフェラテデザインアレンジの技術を習得して、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、カフェラテアレンジについて理解を深める。	
25・26回	授業内容	オリジナルカフェドリンク製作(1) オリジナルドリンク製作の説明、ポイント	
	学習成果	オリジナルドリンク製作ポイントを理解して製作できる。	
27・28回	予習復習の内容	オリジナルドリンク製作ポイントについて理解を深める。	
	授業内容	オリジナルカフェドリンク製作(2) オリジナルドリンク作成、発表	
29・30回	学習成果	オリジナルドリンクを完成させ発表できる。	
	予習復習の内容	オリジナルドリンクについて理解を深める。	
29・30回	授業内容	カフェオーナーのテクニック応用編(1) ドリップコーヒーオペレーション	
	学習成果	ドリップコーヒーを抽出する際のオペレーションを理解して実践できる。	
29・30回	予習復習の内容	オペレーション作業の理解を深める。	
	授業内容	カフェオーナーのテクニック応用編(2) エスプレッソマシンオペレーション	
29・30回	学習成果	エスプレッソを抽出する際のオペレーション理解して実践できる。	
	予習復習の内容	オペレーション作業の理解を深める。	
29・30回	授業内容	スイーツドリンク応用編 ホットスイーツドリンク	
	学習成果	ホットスイーツドリンク作成技術を習得して、実践できる。	
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、スイーツドリンクについて理解を深める。	
	授業内容	スイーツドリンク応用編 オリジナルドリンク	
29・30回	学習成果	オリジナルのスイーツドリンク考案し、制作できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、スイーツドリンクについて理解を深める。	
29・30回	授業内容	紅茶のいれ方実習 アレンジティー	
	学習成果	アレンジティーのいれ方について習得し、実践できる。	
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、アレンジティーのいれ方について理解を深める。	

科目名	製菓衛生師試験対策講座Ⅱ				担当者	岩松 秀夫 ・ 吉田 正 ・ 相良 奈津						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	前期集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後に対応する。										
専門的 学習成果	①	製菓衛生師としての食品衛生を理解し、その内容を説明できる										
	②	製菓衛生師としての公衆衛生を理解し、その内容を説明できる										
	③	製菓衛生師としての食品や栄養、法令に関することを理解し、その内容を説明できる										
	④	製菓衛生師としての製菓理論を理解し、その内容を説明できる										
	⑤	製菓衛生師として必要とされる職務知識・技能を理解し実践できる										
汎用的 学習成果	(1)	製菓衛生師養成課程を学ぶことを通して、製菓衛生師としての職業自立につなげることができる（専門的学習成果①②③④⑤に関連）										
	(2)	製菓衛生師として必要とされる実務能力を習得することによって、社会人としてその技能を活用することができる（専門的学習成果①②③④⑤に関連）										
	(3)	製菓衛生師としてふさわしい態度・人柄を理解し、身につけることによって他者理解ができコミュニケーション能力を養うことができる（専門的学習成果⑤に関連）										
授業概要	製菓衛生師試験合格のために必要な基礎知識と技能の習得を目的とする。具体的には製菓衛生師として必要とされる、食品衛生、公衆衛生、食品学、栄養学、衛生法規、衛生管理、製菓理論を製菓衛生師ユニットで学び、試験対策講座として、各都道府県の過去問題や、宮城県での製菓衛生師試験の傾向などをふまえて講座を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	毎回出される過去問題をきちんと解いてくる。								
		模擬試験	10	検定直前に模擬試験を行い、採点し評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う (2) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『これで合格 製菓衛生師試験問題集』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『新訂製菓衛生師教本』									
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書』									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2年生前期集中講義である。岩松秀夫、吉田正、相良奈津の共同授業とする。事前学習として配布される過去問題を解いて授業に臨むこと（予習、復習共に週2時間程度） ②過去問題に対しては授業内で返却し解説を行う。講義内の解答を持ってフィードバックとする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 製菓衛生師試験について	
	学習成果	製菓衛生師試験の概要を説明できる	
	予習復習の内容	製菓衛生師試験の概要を理解してくる	
2回	授業内容	過去問題①	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
3回	授業内容	過去問題②	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
4回	授業内容	過去問題③	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
5回	授業内容	過去問題④	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
6回	授業内容	過去問題⑤	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
7回	授業内容	過去問題⑥	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
8回	授業内容	過去問題⑦	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
9回	授業内容	過去問題⑧	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
10回	授業内容	過去問題⑨	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
11回	授業内容	過去問題⑩	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
12回	授業内容	過去問題⑪	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
13回	授業内容	模擬試験①今年行われた一番身近な試験の問題を解く	
	学習成果	合格点（7割以上正解）に達する	
	予習復習の内容	試験内容について復習する	
14回	授業内容	模擬試験②昨年の宮城県の試験問題を解く	
	学習成果	合格点（7割以上正解）に達する	
	予習復習の内容	試験内容について復習する	
15回	授業内容	受験準備	
	学習成果	受験に備え適切な準備を整えることができる	
	予習復習の内容	受験に必要な準備を整える	

科目名	製菓技術 I				担当者	ヨシダ 吉田 タダシ 正・加藤 カトウ 信樹・高橋 シンキ タカハシ ヨシヒロ 義弘・渡辺 ワタナベ キヨミ 靖美						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp										
専門的 学習成果	①	洋菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子分野の専門的技術を駆使した菓子製作ができる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を活用できる。										
	⑤	造形菓子の取り組みから芸術性の観点をもち菓子製作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択を行うことができる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③に関連）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を活用できる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④に関連）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。この授業ではフランス菓子以外にドイツ菓子、イタリア菓子についての知識と技術も習得する。また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。更にコンテスト出場に向けた高度なマジパン細工を習得して菓子の芸術性要素を表現できる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	洋菓子製造に必要な専門的技法（アントルメ・ドゥミセック）の実技試験を実施する。								
		レポート	30	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う (2) は専門的学習成果①③にて評価を行う (3) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う (4) は専門的学習成果②③④にて評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名										出版社名
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』										
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』										
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上・下』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名										出版社名
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続で授業を行う。製菓技術Ⅱへと続く。授業計画に沿って制作する菓子・ケーキの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週1時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる。（復習として週2時間程度）授業で使用する食材等の入荷状況により授業回数が入替わる事もある。 ②課題として提出されたノートは点検後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	マジパン細工の応用 1) テーマに基づいたマジパン作製	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。自身で作製したケーキ・菓子を記録し、レポートとして提出する。
	学習成果	マジパン造形 人形と動物を作製できる。	
3・4回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	マジパン細工の応用 2) テーマに基づいたマジパン作製	
5・6回	学習成果	マジパン造形 人形と動物を作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
7・8回	授業内容	マジパン細工の表現方法 1) コンテスト出場への取り組み	
	学習成果	土台とカバーリングを作製できる。	
9・10回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	マジパン細工の表現方法 2) コンテスト出場への取り組み	
11・12回	学習成果	デザイン構成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
13・14回	授業内容	イタリア菓子の技法	
	学習成果	ティラミスとバナナコックを作製できる。	
15・16回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	ドイツ菓子の技法	
17・18回	学習成果	ザッハトルテとリンツァートルテを作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
19・20回	授業内容	フランス菓子 1) アントルメの応用 ショコラームースとベリーームース	
	学習成果	5工程で構成される現代フランス菓子2品を作製できる。	
21・22回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	フランス菓子 2) アントルメの応用 シュー生地	
23・24回	学習成果	プロフィットロールとバリブレストを作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
25・26回	授業内容	糖化の技法	
	学習成果	パートドフリユイとキャラメルムーを作製できる。	
27・28回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	ケーキサレとケーキシュクレ	
29・30回	学習成果	野菜を使用したケーキサレとキャラメルショコラマフィンを作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
23・24回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 1) ゲル化剤の活用方法	
	学習成果	杏仁豆腐とレモンゼリーを作製できる。	
25・26回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 2) ゲル化剤の活用方法	
27・28回	学習成果	マンゴープリンとオレンジヨーグルトを作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
29・30回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 3) アニバーサリーケーキ	
	学習成果	マリアージュマドレーヌとル・レ・オ・ティベールを作製できる。	
29・30回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	課題作製	
29・30回	学習成果	各自で設定した課題で菓子を製作できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	

科目名	製菓技術Ⅱ				担当者	ヨシダ 吉田 タダシ 正・加藤 カトウ 信樹・高橋 シンキ シンキ タカハシ タカハシ ヨシヒロ ヨシヒロ ワタナベ ワタナベ キヨミ キヨミ 靖美						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp										
専門的 学習成果	①	洋菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を十分に説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が十分に実践できる。										
	③	洋菓子分野の専門的技術を駆使した菓子製作を完成できる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を十分に活用できる。										
	⑤	造形菓子の取り組みから芸術性の観点をもち菓子製作を完成できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択を適切に行うことができる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③に関連）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を活用できる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④に関連）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。この授業ではフランス菓子以外にドイツ菓子、イタリア菓子についての知識と技術も習得する。また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。更にコンテスト出場に向けたマジパン細工を習得して菓子の芸術性要素を表現できる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	洋菓子製造に必要な専門的技法（アントルメ・ドゥミセック）の実技試験を実施する。								
		レポート	30	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う (2) は専門的学習成果①③にて評価を行う (3) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う (4) は専門的学習成果②③④にて評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名										出版社名
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』										
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』										
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上・下』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名										出版社名
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続で授業を行う。製菓技術Ⅰからの続き。授業計画に沿って制作する菓子・ケーキの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週1時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる。（復習として週2時間程度）授業で使用する食材等の入荷状況により授業回数が入替わる事もある。 ②課題として提出されたノートは点検後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	マジパン細工の応用 1) テーマに基づいたマジパン作製	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。自身で作製したケーキ・菓子を記録し、提出する。
	学習成果	マジパン造形 人形と動物を完成できる。	
3・4回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	マジパン細工の応用 2) テーマに基づいたマジパン作製	
5・6回	学習成果	マジパン造形 人形と動物を完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
7・8回	授業内容	マジパン細工の表現方法 1) コンテスト出場への取り組み	
	学習成果	土台製作とカバーリングを完成できる。	
9・10回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	マジパン細工の表現方法 2) コンテスト出場への取り組み	
11・12回	学習成果	デザイン構成を完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
13・14回	授業内容	イタリア菓子の技法	
	学習成果	ティラミスとバナナコックを完成できる。	
15・16回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	ドイツ菓子の技法	
17・18回	学習成果	ザッハトルテとリンツァートルテを完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
19・20回	授業内容	フランス菓子 1) アントルメの応用 ショコラームースとベリーームース	
	学習成果	5工程以上で構成される現代フランス菓子2品を完成できる。	
21・22回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	フランス菓子 2) アントルメの応用 シュー生地	
23・24回	学習成果	ガトーカフェノアとタルトレットフロランティースを完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
25・26回	授業内容	糖化の技法	
	学習成果	パートドフリユイとキャラメルムーを完成できる。	
27・28回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	ケーキサレとケーキシュクレ	
29・30回	学習成果	野菜を使用したケーキサレとキャラメルショコラマフィンを完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
23・24回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 1) ゲル化剤の活用方法	
	学習成果	杏仁豆腐とレモンゼリーを完成できる。	
25・26回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 2) ゲル化剤の活用方法	
27・28回	学習成果	マンゴープリンとオレンジヨーグルトを完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
29・30回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 3) アニバーサリーケーキ	
	学習成果	マリアージュマドレーヌとル・レ・オ・ティベールを完成できる。	
29・30回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	課題作製	
29・30回	学習成果	各自で設定した課題で菓子を完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	

科目名	製菓技術Ⅲ				担当者	ヨシダ サガラ タカハシ カトウ ツツミダ 吉田・相良・高橋・加藤・堤田						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	洋菓子・パンの種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子・パン分野の専門的技術を駆使した菓子製作ができる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を習得する。										
	⑤	造形菓子の取り組みから菓子製作の芸術性を習得する										
	⑥	学内販売を通じて職業的自立について必要なことを習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる（専門的学習成果①②③④⑥に関連）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③⑥に関連）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④⑤⑥に関連）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④⑥に関連）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。この授業ではフランス菓子以外にドイツ菓子、イタリア菓子についての知識と技術も習得する。また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。更にコンテスト出場に向けた高度なマジパン細工を習得して菓子の芸術性要素を表現できる。又、製造した菓子・パン類を学内での販売を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	学内販売の企画・製造・販売の実施。								
		レポート	30	学内販売の企画・製造・販売についてのレポート。								
		ノート提出	20	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④⑥にて評価を行う (2) は専門的学習成果①③⑥にて評価を行う (3) は専門的学習成果①②③④⑤⑥にて評価を行う (4) は専門的学習成果②③④⑥にて評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』										
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』										
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上・下』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名			出版社名							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続で授業を行う。製菓技術Ⅱへと続く。 授業計画に沿って制作する菓子・ケーキ・パンの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。 (事前学習として週1時間程度) 授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる (復習として週2時間程度) 授業で使用する食材等の入荷状況により授業回数が入替わる事もある。 ②課題として提出されたノート・レポートは点検後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス・マジパン細工コンテスト・学内展示に向けて	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。また、自身で作製したケーキ・菓子を写真に撮り、提出用ノートに張り付ける。
	学習成果	コンテスト作品用土台焼き・カバーリング用マジパン練り	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
3・4回	授業内容	マジパン細工の表現方法 1) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
	学習成果	カバーリングとスプレー着色	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
5・6回	授業内容	マジパン細工の表現方法 2) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
	学習成果	デザイン構成の乗っ取った作品製作	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
7・8回	授業内容	マジパン細工の表現方法 3) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
	学習成果	デザイン構成の乗っ取った作品製作	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
9・10回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 1) アントルメの応用①	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
11・12回	授業内容	学内イベントで販売を目的とした菓子と技法 1) 学園祭	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子の生地とクリーム類の生地	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
13・14回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 2) アントルメの応用②	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
15・16回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 3) アントルメの応用③	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
17・18回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 4) アントルメの応用④	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
19・20回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 5) アントルメの応用⑤	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
21・22回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 2) キャリアフェスティバル	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・練り生地・気泡生地・堅果生地	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
23・24回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 6) アントルメの応用⑥	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
25・26回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 3) クリスマス	
	学習成果	クリスマスイベントで販売するケーキ類の製造	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
27・28回	授業内容	製パン店のパンと技法	
	学習成果	パンの製造について	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
29・30回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 4) 製パン	
	学習成果	高級食パンの技法を学び製造する	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		

科目名	製菓技術Ⅳ				担当者	ヨシダ サガラ タカハシ カトウ ツツミダ 吉田・相良・高橋・加藤・堤田						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	60 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	洋菓子・パンの種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子・パン分野の専門的技術を駆使した菓子製作ができる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を習得する。										
	⑤	造形菓子の取り組みから菓子製作の芸術性を習得する										
	⑥	学内販売を通じて職業的自立について必要なことを習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる（専門的学習成果①②③④⑥に関連）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③⑥に関連）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④⑤⑥に関連）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④⑥に関連）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。この授業ではフランス菓子以外にドイツ菓子、イタリア菓子についての知識と技術も習得する。また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。更にコンテスト出場に向けた高度なマジパン細工を習得して菓子の芸術性要素を表現できる。又、製造した菓子・パン類を学内での販売を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	学内販売の企画・製造・販売の実施。								
		レポート	30	学内販売の企画・製造・販売についてのレポート。								
		ノート提出	20	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④⑥にて評価を行う (2) は専門的学習成果①③⑥にて評価を行う (3) は専門的学習成果①②③④⑤⑥にて評価を行う (4) は専門的学習成果②③④⑥にて評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名										出版社名
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』										
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』										
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上・下』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名										出版社名
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続で授業を行う。製菓技術Ⅱへと続く。 授業計画に沿って制作する菓子・ケーキ・パンの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。 (事前学習として週1時間程度) 授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる (復習として週2時間程度) 授業で使用する食材等の入荷状況により授業回数が入替わる事もある。 ②課題として提出されたノート・レポートは点検後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス・マジパン細工コンテスト・学内展示に向けて	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。また、自身で作製したケーキ・菓子を写真に撮り、提出用ノートに張り付ける。
	学習成果	コンテスト作品用土台焼き・カバーリング用マジパン練り・デザインチェック	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
3・4回	授業内容	マジパン細工の表現方法 1) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
	学習成果	カバーリングとスプレー着色	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
5・6回	授業内容	マジパン細工の表現方法 2) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
	学習成果	デザイン構成の乗っ取った作品製作	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
7・8回	授業内容	マジパン細工の表現方法 3) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
	学習成果	デザイン構成の乗っ取った作品製作	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
9・10回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 1) アントルメの応用①	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
11・12回	授業内容	学内イベントで販売を目的とした菓子と技法 1) 学園祭	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子の生地とクリーム類の生地	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
13・14回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 2) アントルメの応用②	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
15・16回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 3) アントルメの応用③	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
17・18回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 4) アントルメの応用④	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
19・20回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 5) アントルメの応用⑤	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
21・22回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 2) キャリアフェスティバル	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・練り生地・気泡生地・堅果生地	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
23・24回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 6) アントルメの応用⑥	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
25・26回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 3) クリスマス	
	学習成果	クリスマスイベントで販売するケーキ類の製造	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
27・28回	授業内容	製パン店のパンと技法	
	学習成果	パンの製造について	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
29・30回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 4) 製パン	
	学習成果	高級食パンの技法を学び製造する	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		

科目名	製菓学外実習 I				担当者	ヨシダ 正							
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期	
授業時間数					60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp												
専門的 学習成果	①	職業人として社会に貢献できる専門知識と技術を習得する。											
	②	グループで協力しながら作業する事により、他者とのコミュニケーションを図れるようにする。											
	③	企画・生産・流通・販売までの流れを理解して実践できる。											
	④	ビジネスマネジメント能力を身に付ける。											
汎用的 学習成果	(1)	食に関連した職業的・社会的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④に関連)											
	(2)	協働作業の実践により自己表現と他者理解ができる。(専門的学習成果②に関連)											
	(3)	ビジネスの一連の流れを実践することにより、習得した知識や技術を活用して、地域社会に貢献できる。(専門的学習成果①③④に関連)											
授業概要	製菓衛生師養成課程で学習した専門知識と技術を基に地域のイベントに出店して活動する。イベント出店の際は企画から運営のすべてを手掛け、販売する商品については開発と製造を行う。イベント出店に先立ち、学内授業ではマーケティングとマネジメント能力の必要性を学習し、フードビジネス全般のスキルを身につけ実践できる能力を養う。また、イベント出店の際には社会人との交流が多くなりコミュニケーション力を磨く。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	20	フードマネジメントとマーケティングの理解を評価する。									
		平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
		製品発表	25	テーマに基づいた製品提案の内容により評価する。									
製品製作	25	企画に基づいた製品製作の内容により評価する。											
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果②にて評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③④にて評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
	著者・編集者名	書名				出版社名							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続授業。 校外での活動があるため、授業時間が変則的になる場合がある。事前学習として出店計画と商品製作時間に40時間程度必要となる。また事後学習として報告書作成に15時間程度必要とする。 ②課題として提出された製品は点検後に返却する。												

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス フードビジネスとは	
	学習成果	授業の概要を理解し説明できる	
3・4回	予習復習の内容	シラバスを読み授業内容を理解する	マーケティングについてのレポートを提出する
	授業内容	マーケティングの基礎	
5・6回	学習成果	マーケティングのプロセスを理解できる	市場調査に出向いた際のレポートを提出する
	予習復習の内容	授業内容を振り返りマーケティングの理解を深める	
7・8回	授業内容	マーケティングの実践	市場調査 (1) 繁盛店の実態
	学習成果	商品のスパイラル分析を理解する	
9・10回	予習復習の内容	授業内容を振り返りマーケティングの理解を深める	食分野の繁盛店を調査し、その実態を分析する
	授業内容	インターネット等を利用して仙台市内の食の繁盛店を調べる	
11・12回	学習成果	市場調査 (2) 地域イベント	試作商品の提出 1回目
	予習復習の内容	地域のイベントに出向き、マーケティングの観点から調査する	
13・14回	授業内容	仙台市内で行われている食にまつわる地域イベントを調べる	試作商品の提出 2回目
	商品開発 (1) 流行と傾向		
15・16回	学習成果	トレンド食を取り入れた製品を構築できる	完成した商品のプレゼンテーション
	予習復習の内容	流行している食について調べる	
17・18回	授業内容	商品開発 (2) 食シーンから発想する	イベント出店の企画書作成
	学習成果	季節の食材を取り入れた製品を構築できる	
19・20回	予習復習の内容	身近にある食の季節商品を調べる	一日ごとの日計表を作成する
	授業内容	商品化する製品のプレゼンテーション	
21・22回	学習成果	レシピ調整と売価・原価計算が完成できる	地域イベントへの出店準備 (1) 店舗運営の方法
	予習復習の内容	製造に向けて原材料の調達方法を考える	
23・24回	授業内容	地域イベントへの出店準備 (2) 商品製造の方法	ビジネスマネジメントの実践
	学習成果	6w1hを理解して計画を立てることができる	
25・26回	予習復習の内容	グループ内で役割分担を決め出店準備をする	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す
	授業内容	地域イベントへの出店準備 (2) 商品製造の方法	
27・28回	学習成果	目標数値の決定ができる	地域イベントでの活動
	予習復習の内容	目標数値を達成できるように計画を立てる	
29・30回	授業内容	地域イベントでの活動	ビジネスマネジメントの実践
	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
29・30回	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	イベント出店の検証と課題 まとめ
	授業内容	イベント出店の検証と課題 まとめ	
29・30回	学習成果	PCDA サイクルの理解を深め店舗運営の実践につなげる	出店したイベントについての検証と課題をレポートにまとめ提出する
	予習復習の内容	学習内容を振り返りフードビジネスについての理解を深める	

科目名	製菓学外実習Ⅱ				担当者	ヨシダ 吉 田 正							
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp												
専門的 学習成果	①	職業人として社会に貢献できる専門知識と技術を習得する。											
	②	グループで協力しながら作業する事により、他者とのコミュニケーションを図れるようにする。											
	③	企画・生産・流通・販売までの流れを理解して実践できる。											
	④	ビジネスマネジメント能力を身に付ける。											
汎用的 学習成果	(1)	食に関連した職業的・社会的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④に関連)											
	(2)	協働作業の実践により自己表現と他者理解ができる。(専門的学習成果②に関連)											
	(3)	ビジネスの一連の流れを実践することにより、習得した知識や技術を活用して、地域社会に貢献できる。(専門的学習成果①③④に関連)											
授業概要	製菓衛生師養成課程で学習した専門知識と技術を基に地域のイベントに出店して活動する。イベントでは企画から運営のすべてを手掛け、販売する商品については製品開発と製造を行う。イベント出店に先立ち、学内授業ではマーケティングの活用方法とマネジメント能力の実践方法を学習し、フードビジネス全般のスキルを身につけ実践できる能力を養う。また、PDCAサイクルを取り込み、より高度な出店スタイルを構築する。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	20	フードマネジメントとマーケティングの理解を評価する。									
		平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
		製品発表	25	テーマに基づいた製品提案の内容により評価する。									
	汎用的 学習成果	製品製作	25	企画に基づいた製品製作の内容により評価する。									
汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果②にて評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③④にて評価を行う。													
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続授業。 前期授業「製菓学外実習Ⅰ」で学習したビジネスマネジメントを理解していることが望ましい。 校外での活動があるため、授業時間が変則的になる場合がある。事前学習として出店計画と商品製作時間に40時間程度必要となる。また事後学習として報告書作成に15時間程度必要とする。 ②課題として提出された製品は点検後に返却する。												

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 出店計画	
	学習成果	授業の概要を理解し説明できる	
2回	予習復習の内容	シラバスを読み授業内容を理解する	マーケティングについてのレポートを提出する
	授業内容	マーケティングの活用	
3回	学習成果	セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングの理解	
	予習復習の内容	授業内容を振り返りマーケティングの理解を深める	
4回	授業内容	マーケティングの効率	試作商品の提出 1回目
	学習成果	マーケティングミックスを理解して実践につなげる	
5回	予習復習の内容	授業内容を振り返りマーケティングの理解を深める	試作商品の提出 2回目
	授業内容	商品開発 (1) 味を設計する	
6回	学習成果	年代で変化する嗜好と欲求を理解する	完成した商品のプレゼンテーション
	予習復習の内容	世代別での食のターゲティングを調べておく	
7回	授業内容	商品開発 (2) ネーミング・パッケージ	イベント出店の企画書作成
	学習成果	商品に付加価値をつける方法を理解する	
8回	予習復習の内容	ブランド品の魅力を調べておく	一日ごとの日計表を作成する
	授業内容	商品化する製品のプレゼンテーション	
9回	学習成果	レシピ調整と売価・原価計算が完成できる	
	予習復習の内容	製造に向けて原材料の調達方法を考える	
10回	授業内容	地域イベントへの出店準備 商品製造の方法	
	学習成果	目標数値の決定ができる	
11回	予習復習の内容	目標数値を達成できるように計画を立てる	改善計画書の作成
	授業内容	地域イベントでの活動 (1)	
12回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	一日ごとの日計表を作成する
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
13回	授業内容	地域イベントでの活動 (2)	
	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
14回	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
	授業内容	地域イベントでの活動 (3)	
15回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	2回出店したイベントについての検証と課題をレポートにまとめ提出する
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
16回	授業内容	イベント出店の検証と課題 (1) 改善計画の構築	
	学習成果	PDCAサイクルの理解を深め店舗運営の実践につなげる	
17回	予習復習の内容	出店を振り返り次回出店の問題点と課題を見つけ改善方法を探る	
	授業内容	地域イベントでの活動 (4)	
18回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
19回	授業内容	地域イベントでの活動 (5)	
	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
20回	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
	授業内容	地域イベントでの活動 (6)	
21回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
22回	授業内容	イベント出店の検証と課題 (2) まとめ	
	学習成果	PDCAサイクルの理解を深め店舗運営の実践につなげる	
23回	予習復習の内容	学習内容を振り返りフードビジネスについての理解を深める	

科目名	インターンシップ				担当者	ヨシダ 正							
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	集中	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 Tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp												
専門的 学習成果	①	企業・施設での業務活動の実際について理解する。											
	②	ビジネスマナーの理解と実践ができる。											
	③	企業・施設で基本的な業務が行えるようになる。											
	④	将来の職業について考え、志望先の業界の仕組み、仕事内容を理解する。											
汎用的 学習成果	(1)	社会人としての職業自立につなげることができる。(専門学習①②③④に関連)											
	(2)	企業研修を行うことで、自己表現と他者理解ができる。(専門学習①②③④に関連)											
	(3)	企業研修を行うことで、問題解決に向けて行動できる。(専門学習①②③④に関連)											
授業概要	業界研究及び企業研究を行い研修先を自ら選定し、7日間以上の実務研修を実施する。実務研修を通して働く意義と目的を見出す。実務研修に先立ち、学内授業においてビジネスマナーと社会人としての心得を理解し実践できる能力を身に付けた後、研修にあたる。企業の業務内容を体験することから、職業選択の際に活用できる。 ※原則として研修時期については1年次の春休み期間を利用して行う。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	10	企業研究の理解度により評価する。									
		実習報告書	40	研修先での業務日報報告書を研修終了後担当教員に提出する。内容により評価する。									
		企業評価	40	研修企業先から後日、評価が示される。									
平常点	10	出席状況、授業内容の理解度により評価する。											
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②③④にて評価を行う。 (2)は専門的学習成果①②③④にて評価を行う。 (3)は専門的学習成果①②③④にて評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
		『マナーの基本と常識』				専門教育出版							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①出席及び課題の達成度が不十分である場合は、企業・施設での研修を認めないので注意すること。 事前学習として研修先の企業調査と訪問(15時間程度)を必要とする。 ②業務日報報告書は担当教員が点検後、返却する。												

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 研修企業・業界調査	希望する研修先を選定する。 選定するにあたり企業研究を行う。希望先を調査用紙に記入し後日提出する。提出日時は1回目授業時に連絡する。
	学習成果	授業内容を理解し、研修の意義と目的を理解する	
2回	予習復習の内容	希望する研修先を選定する。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	ビジネスマナー (1) エチケットとマナー	
3回	学習成果	ビジネスとしての態度とお辞儀を理解し実践できる	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	
4回	授業内容	ビジネスマナー(2) 話し方・聞き方	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	敬語での話し方、電話対応について理解し実践できる	
5回	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	ビジネスマナー(3) ビジネス文書の基本	
6回	学習成果	企業先に提出するプロフィールとお礼状をビジネス書式で書ける	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	
7回	授業内容	ビジネスマナーの実践(1) 電話・メール	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	アポイントの取り方を理解して実践できる。	
8回	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	ビジネスマナーの実践(2) 企業訪問	
9回	学習成果	企業担当者との応対を理解して実践できる。	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	
10回	授業内容	研修前事前指導	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	企業研修にむけたビジネスマナー全般を理解して実践できる。	
11回	予習復習の内容	研修内容の確認と目標を設定する	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 1日目	
12回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
13回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 2日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
14回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 3日目	
15回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
16回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 4日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
17回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 5日目	
18回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
19回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 6日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
20回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 7日目	
21回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
22回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 8日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
23回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 9日目	
24回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
25回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 10日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
26回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 11日目	
27回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
28回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 12日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
29回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 13日目	
30回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
31回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 14日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
32回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 15日目	
33回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
34回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 16日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
35回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 17日目	
36回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
37回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 18日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
38回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 19日目	
39回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
40回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 20日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
41回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 21日目	
42回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
43回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 22日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
44回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 23日目	
45回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
46回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 24日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
47回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 25日目	
48回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
49回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 26日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
50回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 27日目	
51回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
52回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 28日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
53回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 29日目	
54回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
55回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 30日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
56回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 31日目	
57回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
58回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 32日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
59回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 33日目	
60回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
61回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 34日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
62回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 35日目	
63回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
64回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 36日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
65回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 37日目	
66回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
67回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 38日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
68回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 39日目	
69回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
70回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 40日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
71回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 41日目	
72回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
73回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 42日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
74回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 43日目	
75回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
76回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 44日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
77回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 45日目	
78回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
79回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 46日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
80回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 47日目	
81回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
82回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 48日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
83回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 49日目	
84回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
85回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 50日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
86回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 51日目	
87回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
88回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 52日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
89回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 53日目	
90回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
91回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 54日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
92回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 55日目	
93回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
94回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 56日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
95回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 57日目	
96回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
97回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 58日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
98回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 59日目	
99回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
100回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 60日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
101回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 61日目	
102回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
103回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 62日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
104回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 63日目	
105回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
106回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 64日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
107回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 65日目	
108回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
109回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 66日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
110回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 67日目	
111回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
112回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 68日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
113回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 69日目	
114回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
115回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 70日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
116回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 71日目	
117回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
118回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 72日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
119回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 73日目	
120回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
121回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 74日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
122回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 75日目	
123回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
124回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 76日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
125回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 77日目	
126回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。

科目名	観光事業論				担当者	大森信治郎						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室にて受け付ける。										
専門的 学習成果	①	観光概念や歴史、基本となる関連用語や関連分野の概要について説明することができ、発展的に応用することができる。										
	②	マーケティングマネジメントの基本を理解し、観光の分野に援用して説明することができる。										
	③	観光事業の各分野の概要を理解し、各分野の特徴、現況、展望について説明することができる。										
	④	観光事業を取り巻くグローバルな状況と、地域にとっての役割について理解し、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	観光及び観光産業の基礎を習得することによって、自身の社会生活と社会全般がより豊かになるための一助となる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(2)	観光領域の職業人としての専門的な知識を身に付け、観光のビジネスの領域で活躍できる。(専門的学習成果②～④に関連)										
	(3)	21世紀最大の産業に成長しつつある観光産業の、日本における発展に貢献できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	本講義では、観光事業を大きく三領域(三段階)に分け知識を習得する。第一段階(計3回)は観光の基礎的な知識の習得である。1年次の「観光概論」と一部重複する部分もあるが、既履修者は復習を兼ねて受講して頂きたい。「概念」「歴史」「関連用語」などについてである。第二段階(計4回)はマーケティングの基礎知識である。経営全般や観光事業を理解するにあたって避けて通れないマーケティングの知識は、将来様々な分野で活躍できる職業人として理解しておくべき知識である。第三段階が観光の分野の各事業領域についての学習である。観光は広い裾野を持つ「21世紀最大」と言われる産業分野であり、その領域も多岐にわたる。旅行業、交通、宿泊、飲食、小売業、その他の関連サービスなどの諸事業、さらに地域の視点から今後の観光のあり方を考察する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	65	学習内容について、選択式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	20	各ステップごとに3回程度、レポートを課し、評価を行う。								
		小テスト										
	平常点	15	受講態度、学習に対する意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	高橋一夫 編著		『1からの観光事業』							碩学社		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	前田勇 編著		『新現代観光総論』							学文社		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①毎回の授業で習得した知識を復習し、次の授業及びレポートに備える。事前、事後学習には4時間を要する。 ②レポートは、次回の授業までに評価の結果を付けて返却するので、それに基づいて復習を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	「観光」の基礎を学ぶⅠ。観光の「概念」「構造」「構成要素」	
	学習成果	観光の基礎的知識を身に付け、現代観光の特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	自分の体験に照らして、観光について説明してみる。	
	授業内容	観光の基礎を学ぶⅡ。観光の「歴史」	
2回	学習成果	古代ギリシャ以降の観光の世界史、奈良時代以降の観光の日本史歴史について、概観を把握し説明できる。	
	予習復習の内容	身近な人文観光資源の成り立ちから、観光の歴史について考えてみる。	
3回	授業内容	観光の基礎を学ぶⅢ。観光の関連概念「経済」「地域」「余暇」「インバウンド」	
	学習成果	観光の影響、効果について、関連の概念を用いて概説できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
	授業内容	観光のマーケティングⅠ。マーケティングの基礎Ⅰ 定義と歴史。	
4回	学習成果	事業論の基礎として「マーケティング」の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	マーケットの意味を理解し、興味ある業界を取り上げ、市場というものについて考える。	
5回	授業内容	マーケティングの基礎Ⅱ 市場調査と商品開発	
	学習成果	マーケティング リサーチとそれに基づいた商品開発の必要性について説明できる。	
	予習復習の内容	自らの発想で商品開発について考え、それについてレポートを作成する。	
	授業内容	マーケティングの基礎Ⅲ 商品のライフサイクル、価格政策	
6回	学習成果	前回のレポートを、ライフサイクル論、価格政策の面から再考し自己評価できる。	
	予習復習の内容	最近のメディア報道と学習したこととの関連性について考える。	
7回	授業内容	観光事業のマーケティング・マネジメント	
	学習成果	これまでに学んだ観光分野の知識に基づき、観光マネジメントの特性を説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
	授業内容	観光事業Ⅰ 旅行業	
8回	学習成果	旅行業の歴史、業種特性、市場構造、展望について、事例を取り上げて説明できる。	
	予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
9回	授業内容	観光事業Ⅱ 宿泊業	
	学習成果	宿泊業の歴史、業種特性、市場構造、展望について、事例を取り上げて説明できる。	
	予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
	授業内容	観光事業Ⅲ 交通業	
10回	学習成果	交通業の歴史、業種特性、市場構造、展望について、事例を取り上げて説明できる。	
	予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
11回	授業内容	観光事業Ⅳ テーマパーク	
	学習成果	テーマパークの歴史、業種特性、市場構造、展望について、事例を取り上げて説明できる。	
	予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
	授業内容	観光事業Ⅴ 小売業と食	
12回	学習成果	お土産や郷土料理などについての実際の事例を取り上げて説明できる。	
	予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
13回	授業内容	観光事業Ⅵ 地域づくり	
	学習成果	地域づくりと観光の歴史・展望について事例に基づいて説明できる。	
	予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
	授業内容	観光事業Ⅶ ディスティネーション・マーケティングと地域ブランド	
14回	学習成果	DMOや地域のブランド力について事例に基づいて説明できる。	
	予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
15回	授業内容	観光事業の未来 インバウンド、観光公害、交流人口、国際理解	
	学習成果	観光事業の今後の展望について、学習したキーワードに基づいて説明できる。	
	予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
	授業内容	観光事業の未来 インバウンド、観光公害、交流人口、国際理解	
	学習成果	観光事業の今後の展望について、学習したキーワードに基づいて説明できる。	
	予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	

科目名	観光ガイドトレーニング				担当者	尾 形 和 悦							
区 分	選 択	2	単 位	授業回数	15	回		授 業 形 態	講 義	学 年	2 年	開 講 期	後 期
				授業時間数	30	時 間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に受け付ける											
専門的 学習成果	①	時刻表にある地図を使用して、時刻表を読み取ることができる。											
	②	観光素材について説明することができる。											
	③	宿泊施設の選択のアドバイスができる。											
	④	国内旅行の日程表の作成ができる。											
	⑤	旅行会社カウンターでの接客ができる。											
	⑥	添乗員の業務内容の理解ができる。											
	⑦	旅行会社の営業の仕組みが理解できる。											
汎用的 学習成果	(1)	時刻表を読み取ることで、社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)											
	(2)	観光を理解することによって自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)											
	(3)	時刻表などの読み取りを理解し、習得した専門知識や技能を活用し問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果④⑤⑥⑦に関連)											
授業概要		旅行会社のプランナーとして、JRや航空機等を利用して、顧客に最適な旅行プランの作成、併せて宿泊、定期観光バス、レンタカーなどの素材を利用して付加価値付与の方法を学習する。また旅行会社の添乗員として、顧客に同行する添乗員の接客サービスの流れ、旅行会社でのカウンター及びアウトセールの基本を接客と接客サービスに必要な共通ポイントを学習する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	10	旅行プラン作成									
		平常点	10	受講態度									
		小テスト	30	7回実施(各回10問)									
	筆記試験	50	これまでの学習内容についての学習理解をはかる。(15回目授業時)										
	汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (2)は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (3)は専門的学習成果④⑤⑥⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
		『JR時刻表』2023年 9月号				交通新聞社							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
		授業計画のテーマに基づき、関係資料を適時配布する											
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①予習・復習を各2時間程度行うこと。 ②フィードバックとして、理解度確認テストを回収後、回答・解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション/旅行会社の業務内容及び観光ビジネスの概要	
	学習成果	観光に関する仕事について論ずることができる。	
	予習復習の内容	JR時刻表の目次に書かれている項目から、時刻表に収められている内容を把握する。	
	授業内容	国内旅行の基礎知識①-JR時刻表を読み取る(JR時刻表活用)	
2回	学習成果	JR時刻表にある地図から乗車区間の時刻を読み取ることができる。	
	予習復習の内容	JR時刻表の地図を利用し、自分の行きたい観光地への列車時刻を調べる。	
3回	授業内容	国内旅行の基礎知識②-JR時刻表を読み取る(JR時刻表活用)	
	学習成果	JR時刻表に掲載されている観光素材を読み取ることができる。	
	予習復習の内容	JR時刻表にある地図を利用して、自分が行きたい観光地への移動方法をシュミレーションする。	
	授業内容	国内旅行の基礎知識③-旅行日程表作成(JR利用)(JR時刻表活用)	
4回	学習成果	列車を利用した旅行日程表が作成できる。	
	予習復習の内容	JR時刻表にある駅構内図を利用して、列車乗り換えの時間を調べる。	
5回	授業内容	国内旅行の基礎知識④-旅行日程表作成(航空機+公共交通機関利用)	
	学習成果	航空機を利用した日程表を作成できる。	
	予習復習の内容	JR時刻表にある地図を利用して、自分が行きたい観光地への航空機プランをたてる。	
	授業内容	海外旅行の基礎知識-仙台空港発着路線(運航会社時刻表利用)	
6回	学習成果	仙台空港発着の海外路線と時差のある国間の所要時間を説明できる。	
	予習復習の内容	Google Map等を利用して、仙台空港発着便の行先を確認する。	
7回	授業内容	国内添乗業務の基礎知識①-添乗員の役目、責任	
	学習成果	添乗ガイド業務について述べるができる。	
	予習復習の内容	これまで参加した(修学)旅行の添乗員の仕事内容をレポートにまとめておく。	
	授業内容	国内添乗業務の基礎知識②-接客の技術、知識	
8回	学習成果	貸切バス、航空機を利用した添乗における接客ポイントを説明できる。	
	予習復習の内容	交通機関の遅延等によるコース変更発生時の代案を提案してみる。	
9回	授業内容	海外添乗業務の基礎知識①-出入国時のルーティーン	
	学習成果	C.I.Q.について説明し、EDカード等の記入のアドバイスができる。	
	予習復習の内容	日本帰国時の通関、検疫手続きについて調べておく。	
	授業内容	海外添乗業務②-準備、必要書類の把握	
10回	学習成果	添乗中に使用する書類の説明、変更内容を英語で述べるができる。	
	予習復習の内容	海外ホテルの部屋タイプを調べておく。	
11回	授業内容	旅行案内業務①-カウンター業務の基本	
	学習成果	カウンター業務を分類できる。	
	予習復習の内容	旅行会社のカウンターを訪ね、どんなサービスを展開しているか調べておく。	
	授業内容	旅行案内業務②-カウンター業務の接客	
12回	学習成果	接客ポイントを説明することができる。	
	予習復習の内容	旅行会社を訪れるお客さんは、旅行会社に何を求めるのか推察してみる。	
13回	授業内容	旅行案内業務③-営業セールスの基本	
	学習成果	アウトセールスに必要な語法を一般化できる。	
	予習復習の内容	飛び込みセールス(新規開拓)とルートセールスを理解しておく。	
	授業内容	旅行案内業務④-営業セールスの販売ポイント	
14回	学習成果	団体セールス業務を区別し、対応することができる。	
	予習復習の内容	手配旅行と企画型手配旅行の違いを調べておく。	
15回	授業内容	旅行案内業務⑤-接客サービスポイント	
	学習成果	接客サービスのポイントを述べるができる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理、確認しておく。	
			筆記試験 これまでの学習内容について学習理解をはかる。

科目名	ブライダル実務				担当者	今野則幸・山川奈美						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間に直接か、Classroom、Eメールで行う（アドレス：yamakawa.na@m.seiwa.ac.jp）。											
専門的 学習成果	①	挙式・披露宴で求められる行動を実践できる。										
	②	ブライダル関連商品を説明できる。										
	③	オリジナル・ウェディングを考え、実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	身のこなし方を学び、好感の持てるマナーを実践できる。（専門的学習成果①③に関連）										
	(2)	幅広いブライダル関連商品の知識を習得することで、社会人としてのコミュニケーション能力を養うことができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	1年次後期「ブライダル概論」で学んだ基礎知識を基に、ブライダル市場の変化に対応できるサービスや関連業務及び関連商品について学ぶ。これらのことを踏まえ、オリジナル・ウェディングを考え、オープンキャンパスにて実践し、発表する。新郎新婦、司会、音響、照明、装花、ブーケ・ブートニアの作成、アテンド等の役割を決め、履修者全員で挙式を作り上げる。意見を出し合い、実際に動きをつけ、修正を重ねることで、コミュニケーション能力を高め加えて社会人マナー向上を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	オリジナル・ウェディングでの自身の役割・取組み・全体を通じた感想を評価する。								
		平常点	80	オリジナル・ウェディングに対する自身の意見・取組み・意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本ホテル教育センター編	『ブライダル概論』				日本ホテル教育センター						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本ブライダル文化振興協会	『ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード』				日本ブライダル文化振興協会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①オリジナル・ウェディングの実施に向けて各人が協力して作り上げていく。自身の役割を果たすため、結婚情報誌研究、結婚式場のブライダルフェア参加、ブライダル関連商品の研究を行う（50時間）。各担当チーム間の情報交換（10時間）。 ②レポートは後期開講直後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ブライダルサービス 挙式	グループワークへの取組み
	学習成果	神前式、キリスト教式、人前式の新郎新婦の動きを説明できる。	
2回	予習復習の内容	神前式、キリスト教式、人前式を比較・整理しておく。	
	授業内容	ブライダルサービス 披露宴	
3回	学習成果	披露宴での儀式や余興を説明できる。	
	予習復習の内容	様々な式場で行われる儀式、余興等を調べておく。	
4回	授業内容	最近のブライダルコスチューム事情	
	学習成果	最新の和装・洋装について論じることができる。	
5回	予習復習の内容	結婚情報誌や衣装店を調べ、比較・検討しておく。	
	授業内容	オリジナル・ウェディング グループワーク（班でのテーマ決め）	
6回	学習成果	少人数グループに別れ、自分たちのオリジナル・ウェディングのテーマを述べるができる。	
	予習復習の内容	結婚情報誌等でテーマに沿った情報を得ておく。	
7回	授業内容	オリジナル・ウェディング グループワーク（挙式を作る）	
	学習成果	グループのテーマに基く挙式を提案することができる。	
8回	予習復習の内容	発表に備えたプレゼンテーションの準備をする。	
	授業内容	オリジナル・ウェディング グループワーク発表	
9回	学習成果	各グループで考えたオリジナル・ウェディングのプレゼンテーションができる。	
	予習復習の内容	他グループの発表を整理しておく。	
10回	授業内容	役割決定	
	学習成果	オリジナル・ウェディングを行う上での役割を決定する。	
11回	予習復習の内容	各々の役割を理解し実践する。	
	授業内容	各セッションごとの活動	
12回	学習成果	各セッションに必要なことを見つけ出し、協調し実践できる。	
	予習復習の内容	各々の役割を理解し実践する。	
13回	授業内容	各セッションごとの活動	
	学習成果	各セッションに必要なことを見つけ出し、協調し実践できる。	
14回	予習復習の内容	各々の役割を理解し実践する。	
	授業内容	全体活動	
15回	学習成果	各セッションで実践したことを通して、全体に必要なことを指摘できる。	
	予習復習の内容	全体での役割を理解し実践する。	
16回	授業内容	各セッションでの活動。	
	学習成果	各セッションに必要なことを見つけ出し、協調し実践できる。	
17回	予習復習の内容	各々の役割を理解し実践する。	
	授業内容	全体活動	
18回	学習成果	各セッションで実践したことを通して、全体に必要なことを指摘できる。	
	予習復習の内容	全体での役割を理解し実践する。	
19回	授業内容	リハーサル	
	学習成果	これまでの実践してきたことを、協調しリハーサルできる。	
20回	予習復習の内容	全体での役割を理解し実践する。	
	授業内容	本番	
21回	学習成果	集大成としてオリジナル・ウェディングを実施できる。	
	予習復習の内容	全体での役割を理解し実践する。	
22回	授業内容	各セッション・全体での反省会	
	学習成果	各人・各セッション・全体で実施したことを振り返り、良かった点・改善点を述べるができる。	
23回	予習復習の内容	オリジナル・ウェディングの反省点をまとめる。	

科目名	ゲストサービス演習				担当者	高橋見時						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー。										
専門的 学習成果	①	ホスピタリティマインド豊かな社会人として基礎的マナーを身につけることができる。										
	②	接客サービスの対応の基本を身につけることができる。										
	③	接客マナーの基本を習得できる。										
	④	「サービスマインド」と「セールスマインド」を理解することができる										
汎用的 学習成果	(1)	接客での「もてなす心」・「思いやり」の大切さを理解できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	接客対応の基本を理解できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(3)	社会人としての挨拶・返事・お辞儀の仕方の大切さを身につけることができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	ビジネスの世界では「人・物・金・情報」が大切だといわれている。企業や店が成り立つのはこの四つの要素がうまくかみ合っ て、お客様に満足していただけるからである。特に人によるサービスという目に見えない商品によりお客様に満足していただ くゲストサービスの基礎を学び、実務訓練を通して接客業務の基本である「ホスピタリティマインド」豊かな基礎的マナーを 身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		筆記試験	80	第15回目の授業後半に筆記試験を行い講義内容の理解について評価を行う。								
		平常点	20	実技への取り組み、態度、テーブルセッティングについて評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	キャリア総研		『接客サービス基本テキスト』						日本能率協会			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストを使用し授業を進めるため、必ずテキストを準備のうえ受講すること。予習・復習等の 時間外学習を週に1～2時間程度行うこと。事前学習として、テキストや資料をよく読むこと。事 後学習として、授業の内容について振り返りを行い、疑問なところがあれば調べるなどして学習内 容の理解を深めること。 ②授業の最後にその都度小テスト(理解度チェック)を行い、問題・解答についての解説を行うこ とにより、結果のフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	接客サービスの基本を理解し概要を説明できる。	
	予習復習 の内容	ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
	授業内容	接客の基本はお客様満足	授業の後半に理解度チェック
2回	学習成果	CS(顧客満足)の大切さを理解できる。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返り、「お客様満足」とは何か理解を深める。	
	3回	授業内容	真の接客をめざす
	学習成果	接客の心得と、接客に求められていることを理解できる。	
		予習復習 の内容	学習内容を振り返り、真の「接客とは何か」ということについて理解を深める。
4回		授業内容	就業中のマナーと接客時のマナー
	学習成果	仕事の基本と就業中のマナーについて理解できる。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返り、就業中のマナーと接客時のマナーについて理解を深める。	
	5回	授業内容	好印象を与えるポイント
学習成果		身嗜みや表情、立ち居振る舞いの大切さを理解できる。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返ると同時に、良い印象を与えるにはどうすれば良いか考える。	
	6回	授業内容	接客の言葉遣い
学習成果		少しの心配りから感じの良い言葉遣いができる。	
	予習復習 の内容	接客10大用語をマスターすることと、正しい敬語の使い方を考える。	
	7回	授業内容	感じの良い話し方と聞き方
学習成果		良い人間関係を生むための話し方が理解できる。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返ると同時に、相手に感じよく話すことについて理解を深める。	
	8回	授業内容	接客対応の基本
学習成果		接客サービスの流れに沿った対応ができる。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返ると同時に、さまざまなお客様の対応について理解を深める。	
	9回	授業内容	セールストークの基本
学習成果		状況に応じたセールストークについて説明できる。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返ると同時に、状況に応じたセールストークの理解を深める。	
	10回	授業内容	電話対応の基本
学習成果		感じの良い電話の受け方とかけ方ができる。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返ると同時に、友人同士での電話で理解を深める。	
	11回	授業内容	ユニバーサルサービスの基本
学習成果		障害を持ったお客様やお年寄りに対するの対応について理解できる。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返ると同時に、少しの思いやりと気配りでできることを理解する。	
	12回	授業内容	クレームへの対応の基本
学習成果		クレームへの対応の態度と言葉づかいについて理解できる。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返ると同時に、クレームの解決の仕方の理解を深める。	
	13回	授業内容	お客さま心理の理解
学習成果		基本的欲求と購買心理について理解できる。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返ると同時に、心理的ステップを理解する。	
	14回	授業内容	顧客満足
学習成果		「顧客」とは、「顧客満足」とは何か、何故大切なのか理解できる。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返ると同時に、顧客について理解する。	
	15回	授業内容	コスト感覚とお金の動き
学習成果		仕事とお金の動き(売り上げ・コスト・利益)について理解できる。	
	予習復習 の内容	学習内容を振り返ると同時に、自分の仕事の結果について理解を深める。	

科目名	ブライダルフラワービジネスⅡ				担当者	ヤマ川奈美							
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		毎授業毎に配布する小テストにて質問等を受付ける。もしくは授業中や授業後に直接。(内容によるので必要に応じて個別にメール可、アドレス：yamakawa.na@seiwa.ac.jp)											
専門的学習成果	①	1年生で習得した知識・技術を確認し、更に発展させることができる。											
	②	ブライダルフラワービジネス検定2級レベルの知識を身につけ、応用することができる。											
	③	フラワーデザインとブライダルの関わりを知り、プランニングまでを行うことができる。											
	④	ブライダルの装花に関する知識を用いて、他者に説明することができる。											
	⑤	商業ラッピング検定3級受検レベルの技術を持って作業を行うことができる。											
汎用的学習成果	(1)	1年生で習得した知識を更に向上させ、ブライダルに関する装花について説明したり、実際にプランニングができる(専門的学習成果①②③④に関連)											
	(2)	ブライダルフラワービジネス検定2級レベルの知識を身につけ、フラワーデザインに関する専門的な説明をすることができる(専門的学習成果①②③④に関連)											
	(3)	商業ラッピング検定3級受検に向けて技術を高め、サービス業に使われる技術を応用することができる(専門的学習成果⑤に関連)											
授業概要		1年生での知識、技術を発展させ、ブライダルにおけるフラワーデザインの分野を具体的に学習する。グループ作業を通じて実際に会場の装花を作成し、実技試験ではブーケを作成する。会場内装花やブーケを作成することによって、イメージが作りやすくなったところで、プランニング(チャペル装飾、ブーケ、会場装飾など)を行う。単位取得者にはブライダルフラワービジネス2級の検定の受検資格付与。ブライダルフラワービジネス検定は3、2級を授業内で受検可。(2級は3級取得者のみ受検可)商業ラッピング検定は希望者多数で校内受検可。(詳細は授業で説明)机上の学習だけでなく、個々のプレゼン能力やグループ作業を通じた協働の学習にも配慮する。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的学習成果	定期試験											
		レポート											
		筆記試験	40	講義内容全般、各講義内容に基づいた小テストから出題する筆記試験を第14回目の講義内で行う。(60分)									
		作品評価	40	講義内で2回練習したラウンドのブーケを、3回目で実技試験を行う。(60分、予定では第10回の講義)									
		平常点	20	講義中の態度、取り組み姿勢(準備物含む)、小テストの理解度・提出状況、などにより総合的に評価する。									
汎用的学習成果	汎用的学習成果(1)、(2)、(3)については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①、②、③、④により評価を行う。 (2)は専門的学習成果①、②、③、④により評価を行う。 (3)は専門的学習成果⑤により評価を行う。												
テキスト等	著者・編集者名		書名							出版社名			
	栗林 登		『全国フラワーデザイン検定テキスト』							NPO法人フラワーデザイン普及協会			
	商業ラッピング協会テキスト委員会		『ラッピングテキスト3級』							(社)商業ラッピング協会			
参考書参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名			
			ブライダル関連雑誌(ゼクシィ、ヴァンサンカンウェディングなど)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①ブライダルフラワービジネスⅠを履修した学生が受講できるものなので、1年時の内容を復習して準備しておく。引き続き刃物を扱う授業なので注意が必要。花代、資材、テキスト類の費用別途あり。(1年生履修時に使用したものがあればそのまま使用 紛失したものは再度購入)授業計画に従って、予習復習を計4時間程行うこと。予習は基本的にテキストを読むこと、講義内容はしっかり聴き、その都度行う小テストにて理解を確認する。小テストは返却するので必ず事後学習(復習)に努めること。小テストは講義中(終盤10~20分程度)、事後学習用に配布する。 ②フィードバックとして全体評価をみながら小テストの解説を行う。小テストには質疑応答の場を設けるので積極的に活用し、疑問や不明なことをそのままにしないようにする。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	1年生時の復習 ラッピング(復習、続き)	小テスト(各回共に、講義内容に関して)	
	学習成果	前年度の学習をまとめて復習し、今年度の学習へとつなげて知識を発展させることができる		
	予習復習の内容	前年度の小テスト見直し ラッピングテキストを読む		
2回	授業内容	ラッピング(斜め包み、リボンのかけ方、蝶結び)	小テスト	
	学習成果	基本のラッピングをきちんと行い、必要に応じたラッピングを施すことができる		
	予習復習の内容	テキストの読み込み ラッピングの苦手な箇所を練習		
3回	授業内容	ラッピング(斜め包み、リボンの復習、のしなど)	小テスト	
	学習成果	のしなどの基本知識を用いて、商品を提案することができる		
	予習復習の内容	テキストの読み込み ラッピングの苦手な箇所を練習 チャペルの装飾(テキスト)復習		
4回	授業内容	チャペルの装飾(装花含む) 会場の装花、ブーケなど	小テスト	
	学習成果	チャペルの装花に関連した流れで、全体を意識した内容を花の視点から論じることができる		
	予習復習の内容	チャペルについて(1年時) テキストの先の内容を話に合わせて取り入れるので先まで読み込む		
5回	授業内容	ドレスの形や色、それに合わせるブーケについて	小テスト	
	学習成果	どんなドレスにどんなブーケを合わせるとよいか、基本概念を念頭にお客様に提案できる		
	予習復習の内容	テキストはもちろん、雑誌などでドレスのコーディネートを沢山見てくる		
6回	授業内容	〈実技〉キャンドルとケーキの装花を作成する(グループ作業)	小テスト	
	学習成果	実際の会場装花を順番に作成することにより、大きさや配置などが予測でき、コーディネートに応用することができる		
	予習復習の内容	会場全体のテキスト部分をしっかりと読み込んでくる		
7回	授業内容	〈実技〉メインテーブルと卓上の装花を作成する(グループ作業)	小テスト	
	学習成果	第6回と併せて、更にコーディネートへと応用できる		
	予習復習の内容	会場全体のテキスト部分をしっかりと読み込んでくる		
8回	授業内容	〈実技〉ラウンドブーケの作成(1回目)	小テスト	
	学習成果	最もポピュラーなブーケを作成することができる		
	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する		
9回	授業内容	〈実技〉ラウンドブーケの作成(2回目)	小テスト	
	学習成果	実技試験のために復習、再確認、質問などより完成度をあげることができる		
	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する		
10回	授業内容	〈実技〉ラウンドブーケの作成 実技試験	小テスト	
	学習成果	時間内に作品を仕上げることができる		
	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する ブーケとドレスのマッチングをシミュレーションする		
11回	授業内容	〈実技〉季節を感じるアレンジメントとしてクリスマスのアレンジメントを作成	小テスト	
	学習成果	フラワーデザインにおいても重要なクリスマスをテーマに商業的な視点で議論できる		
	予習復習の内容	クリスマスだけでなく、季節を取り入れた場合を考えてみる 会場コーディネートのシミュレーション		
12回	授業内容	実際の結婚式を想定して、プランニングする(レポート提出)	第13回の講義までに、花に着目した結婚式のコーディネートをレポートにまとめて提出 詳細は講義内で説明	
	学習成果	自分の理想の結婚式を花目線で考えることにより、お客様へ対し提案することができる		
	予習復習の内容	雑誌などを利用し、自分の理想を形にする 休み明けに試験前の質問ができるよう1年時も含めて復習		
13回	授業内容	〈実技〉コサージュの作成	小テスト	
	学習成果	ワイヤリングの技術を知り、どのような仕組みで作られているのかを説明することができる		
	予習復習の内容	フラワーデザインの歴史を復習 コサージュとブートニアの違い 学科試験のための復習		
14回	授業内容	学科試験(60分)	学科試験(小テストの内容をと講義内容全般から)	
	学習成果	今までの学習内容を総括し、基礎からブライダルまで説明することができる		
	予習復習の内容	1年生の範囲も含めて小テストを中心に全てを復習する		
15回	授業内容	検定試験(希望者のみ)、学科試験・実技試験 再試験	2つの試験の成績次第でレポート提出あり(内容は必要に応じて対応するため未定)	
	学習成果	ブライダルフラワービジネス2又は3級の資格を取得できる 1回目の試験で不合格者のみ学科、実技共に再試験を受けることができる		
	予習復習の内容	学科試験の結果を発表するので全員出席 不合格の場合に備え、復習しておく		

科目名	スポーツ社会学				担当者	高 間 章							
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期	
授業時間数	30 時間												
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。												
専門的 学習成果	①	望ましいスポーツのあり方について説明できる。											
	②	現代スポーツの諸問題について説明できる。											
	③	スポーツ指導や運営に興味を持ち、意欲的に取り組むことができる。											
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたスポーツ社会学に関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。											
	(2)	スポーツ社会学を学ぶことでスポーツをめぐる現状と今後の課題を思考し、自身とこれからのスポーツの関わりに活かすことができる（専門的学習成果①②③④関連）。											
	(3)	スポーツ社会学に関わる専門的知識を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③④に関連）。											
授業概要	スポーツと社会との関係から、スポーツの意義、役割を解説する。スポーツの多様性、スポーツ振興のあり方について解説する。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		筆記試験	60	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。									
		小テスト	30	授業で実施する。60%以上の得点を合格点とする。									
		平常点	10	授業への意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
	著者・編集者名	書名				出版社名							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』				日本スポーツ協会							
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』				日本スポーツ協会							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。												

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	スポーツの価値について	1回目から5回目の内容について小テストを実施する	
	学習成果	スポーツ社会学の概要について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		
2回	授業内容	社会におけるスポーツの価値について		
	学習成果	スポーツの概念とスポーツの歴史の発展について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
3回	授業内容	文化としてのスポーツ		
	学習成果	スポーツの文化的特性、スポーツ文化の内容、スポーツマンシップとフェアプレーについて理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
4回	授業内容	スポーツ宣言日本とオリビズムにおけるスポーツの意義と価値		
	学習成果	現代社会とスポーツ、スポーツの産業化、地域生活とスポーツについて理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
5回	授業内容	スポーツの価値を守るスポーツ権		
	学習成果	グローバルゼーションと日本のスポーツ、諸外国と日本のスポーツプロモーションについて理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
6回	授業内容	スポーツの自治-ガバナンスとコンプライアンス 暴力・ハラスメントの根絶	6回目から8回目の内容について小テストを実施する	
	学習成果	現代の諸問題とジュニア期のスポーツと運動発達について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
7回	授業内容	スポーツのインテグリティ		
	学習成果	望ましいジュニア期のスポーツ指導について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
8回	授業内容	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任		
	学習成果	目指すジュニアスポーツ指導員像について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
9回	授業内容	スポーツ仲裁、スポーツ倫理		9回目から14回目の内容について小テストを実施する
	学習成果	運動と老化、運動プログラムについて理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
10回	授業内容	性的マイノリティ、多様な文化背景とスポーツ		
	学習成果	体格と身体組成など女性の体力の特徴について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
11回	授業内容	女性とスポーツ		
	学習成果	妊娠・出産・育児とスポーツなど、女性のライフスタイルとスポーツ関係について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
12回	授業内容	スポーツ組織のマネジメント		
	学習成果	スポーツ行動における性差など、女性の心理的特徴について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
13回	授業内容	スポーツ組織の特性		
	学習成果	女性の特徴に応じたスポーツプログラムについて理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
14回	授業内容	障害者とスポーツ		
	学習成果	障害者のスポーツの現状と課題について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
15回	授業内容	スポーツをめぐる現状と今後の課題	1回～14回目の内容について筆記試験を実施する	
	学習成果	これまでの学習内容について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。		

科目名	スポーツ方法実習Ⅲ（健康スポーツ）				担当者	シブ 洪 タニ 谷 ユウ 祐 子 ・ タカ マ アキラ 高 間 章						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	安全で効果的な運動プログラムを作成する。										
	②	健康スポーツ指導の理論、指導者の心構えを習得する。										
	③	健康スポーツ指導に必要なエアロビックエクササイズの指導法を習得する。										
	④	履修者や地域の方への実技指導を通してコミュニケーション能力を向上させる。										
	⑤	4泳法と補助法を習得し、実践できる。										
	⑥	水中ウォーキング、水中レジスタンストレーニングなどの水中運動を体験し、そのプログラミング法を習得する。										
	⑦	水の特性と水泳・水中運動の効果を理解する。										
汎用的 学習成果	(1)	健康スポーツに関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連）。										
	(2)	グループで協力して健康スポーツ指導を経験することから、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果③④に関連）。										
	(3)	健康スポーツ指導の専門的知識、技術を習得し、指導する経験から、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連）										
授業概要	健康体力づくりの運動であるフィットネスエクササイズについて理解し、安全で効果的な運動プログラムを構成する。水泳・水中運動、エアロビックダンスプログラム、筋力トレーニング、ストレッチングの指導法、指導上の理論、安全管理、指導者としての心構えなどを習得する。学んだことを活かして授業で高齢者に健康づくり運動の指導を実践し、指導力を身につける。さらに健康運動実践指導者、GFIの資格を取得できる実技指導能力を養成する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		平常点	50	取組・意欲・態度により評価する								
		実技試験	25	指導法の試験や、地域の方へのフィットネス指導の内容から評価する								
レポート	25	授業の感想カードの内容により評価する										
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。 (2)は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3)は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	日本スポーツ協会		『リファレンスブック』							日本スポーツ協会		
	日本スポーツ協会		『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』							日本スポーツ協会		
	健康・体力づくり事業財団		『健康運動実践指導者養成用テキスト』							南江堂		
	日本フィットネス協会		『GFIのためのフィットネス基礎理論』							日本フィットネス協会		
	日本フィットネス協会		『ADBI・ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論』							日本フィットネス協会		
	日本フィットネス協会		『SEBI・SEIのためのストレッチングエクササイズ指導理論』							日本フィットネス協会		
	日本フィットネス協会		『REBI・REIのためのレジスタンスエクササイズ指導理論』							日本フィットネス協会		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。②毎回の授業で記入する感想カードの提出後は担当教員が確認して、フィードバックを行う。										

授業計画		学習成果の評価		授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	授業の概要と進め方の説明、フィットネス指導資格の理解		16回	授業内容	授業の概要と進め方の説明、資格試験の練習計画	
	学習成果	授業の概要と進め方について理解し、指導資格について説明できる。			学習成果	後期の授業の概要と進め方について理解し、指導資格について説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
2回	授業内容	水中レジスタンストレーニングの理論 健康運動実践指導者試験		17回	授業内容	介護予防体操指導の実践方法について	
	学習成果	水中レジスタンストレーニングの試験内容を理解し、適切な指導内容を理解する。			学習成果	介護予防体操の指導法を習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
3回	授業内容	水中レジスタンストレーニングの実際 健康運動実践指導者試験		18回	授業内容	介護予防体操の指導練習	
	学習成果	水中レジスタンストレーニングの各種目の動作の指導方法を理解し、習得する。			学習成果	介護予防体操を練習し、指導法を習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
4回	授業内容	水中ウォーキングの理論 健康運動実践指導者試験		19回	授業内容	介護予防体操の指導実践	
	学習成果	水中ウォーキングの試験内容を理解し、適切な指導内容を理解する。			学習成果	地域向けの健康教室を開催し、介護予防体操の指導実践を行う。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	健康教室の準備を行い、指導を振り返り、反省点をまとめる。	
5回	授業内容	水中ウォーキングの実際 健康運動実践指導者試験		20回	授業内容	レジスタンストレーニングの理論 健康運動実践指導者試験	
	学習成果	水中ウォーキングの指導方法を理解し、習得する。			学習成果	レジスタンストレーニングの試験内容を理解し、適切な指導内容を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
6回	授業内容	水中エアロビクスの理論と実際		21回	授業内容	レジスタンストレーニングの実際 健康運動実践指導者試験	
	学習成果	水中エアロビクスの基本動作や効果について説明できる。			学習成果	レジスタンストレーニングの各種目の動作の指導方法を理解し、習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、水中エアロビクスの理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
7回	授業内容	水泳の浮き身、呼吸、キックの基本		22回	授業内容	エアロビックダンスの理論 健康運動実践指導者試験	
	学習成果	浮き身や呼吸方法、キックの基本動作について説明できる。			学習成果	エアロビックダンスの試験内容を理解し、適切な指導内容を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各種技術を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
8回	授業内容	クロール 基本的な練習方法		23回	授業内容	エアロビックダンスの実際 健康運動実践指導者試験	
	学習成果	クロールの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	エアロビックダンスの指導方法を理解し、習得する。	
	予習復習の内容	クロールの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
9回	授業内容	背泳ぎ 基本的な練習方法		24回	授業内容	ファシリテーションスキル	
	学習成果	背泳ぎの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	グループに対してファシリテーションスキルを実践し、適切な指導法を習得する。	
	予習復習の内容	背泳ぎの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
10回	授業内容	平泳ぎ 基本的な練習方法		25回	授業内容	指導者のセルフマネジメント	
	学習成果	平泳ぎの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	指導者に必要なセルフマネジメントを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	平泳ぎの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、セルフマネジメント法を習得する。	
11回	授業内容	バタフライ 基本的な練習方法		26回	授業内容	エアロビックダンスのプログラミング	
	学習成果	バタフライの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	メインエクササイズのアップ、キープ、ダウンの強度調節を理解し、プログラミングを習得する。	
	予習復習の内容	バタフライの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
12回	授業内容	安全管理・着衣泳・実技試験		27回	授業内容	エアロビックダンスのプログラミングの実際 プログラム作成	
	学習成果	クロールの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	運動強度を上げる3分間のプログラムを作成する。	
	予習復習の内容	クロールの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
13回	授業内容	介護予防体操指導の実践方法について ストレッチング運動とレジスタンス運動		28回	授業内容	エアロビックダンス指導の実際 キューイング指導	
	学習成果	介護予防体操の指導法を習得する。			学習成果	見本となる適切な動作を身につけ、作成したプログラムを多様なキューイングを使用して指導する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
14回	授業内容	介護予防体操の指導練習 ストレッチング運動とレジスタンス運動		29回	授業内容	エアロビックダンス指導の実際 指導の循環	
	学習成果	介護予防体操を練習し、指導法を習得する。			学習成果	参加者を観察し、指導の循環を用いて、適切な指導法を習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
15回	授業内容	介護予防体操の指導実践 ストレッチング運動とレジスタンス運動		30回	授業内容	エアロビックダンス指導の評価	
	学習成果	地域向けの健康教室を開催し、介護予防体操の指導実践を行う。			学習成果	エアロビックダンス指導を振り返り、修正して再指導を行い、適切な指導法を習得する。	
	予習復習の内容	健康教室の準備を行い、指導を振り返り、反省点をまとめる。			予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。	

科目名	スポーツ方法実習Ⅳ（ダンス）				担当者	高 間 章 ・ 及 川 佳 澄						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	ダンス運動の特性を理解し、ダンスの基礎的な動作を習得する。										
	②	ダンス指導を通してコミュニケーション能力を高める。										
	③	ダンス指導に必要な知識、技術を習得し、ダンスを指導できる。										
	④	ダンスの振付を習得し、グループで協力して学内で発表する。										
汎用的 学習成果	(1)	ダンスの学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	グループで協力してダンス創作し、指導する経験から、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果②③関連）。										
	(3)	ダンス指導の専門的知識、技術を習得し、指導する経験から地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果②③に関連）。										
授業概要	この授業では現代的なリズムのダンスを中心に、「踊る」「創る」「見る」活動を体験し、楽しみながらダンスの基礎的能力の習得をはかることを目的とする。対象やテーマから表したいイメージをとらえ、作品を創作したりして踊ることができる。友達や子ども達の良い動きのポイントを理解して、表現や動きを評価することができると共に、互いの違いやよさを認めることができる。授業では地域の子ども達にダンスを指導することを経験し、子ども達と地域や学内のイベントで発表を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	4回実施し、理解の程度を評価する。								
		実技試験	40	友達や子ども達への指導実践から評価する。								
平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②、③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②、③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	日本スポーツ協会		『リファレンスブック』							日本スポーツ協会		
	日本スポーツ協会		『公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト』							日本スポーツ協会		
	健康・体力づくり事業財団		『健康運動実践指導者養成用テキスト』							南江堂		
	日本フィットネス協会		『GFIのためのフィットネス基礎理論』							日本フィットネス協会		
	日本フィットネス協会		『GFIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論』							日本フィットネス協会		
	日本フィットネス協会		『SEBI・SEIのためのストレッチングエクササイズ指導理論』							日本フィットネス協会		
日本フィットネス協会		『REBI・REIのためのレジスタンスエクササイズ指導理論』							日本フィットネス協会			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後に評価を示し、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	授業の概要と進め方の説明		ダンス指導の指導案の作成、指導の反省カードを担当教員に提出する。	
	学習成果	ダンス指導を中心に授業展開することを理解し、進め方や分担といった指導計画を作成する。			
予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。				
	授業内容	ダンス指導 1・2フレーズ			
2回	学習成果	地域の児童に対してダンス指導を行う。			
	予習復習の内容	振付を習得し、ダンス指導に備える。学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。			
3回	授業内容	ダンス指導 3・4フレーズ			
	学習成果	地域の児童に対してダンス指導を行う。			
予習復習の内容	振付を習得し、ダンス指導に備える。学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。				
	授業内容	ダンス指導 5・6フレーズ			
4回	学習成果	地域の児童に対してダンス指導を行う。			
	予習復習の内容	振付を習得し、ダンス指導に備える。学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。			
5回	授業内容	ダンス指導 リハーサル指導			
	学習成果	地域イベントのリハーサル指導を行う。			
予習復習の内容	振付を習得し、ダンス指導に備える。学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。				
	授業内容	地域イベントでの発表			
6回	学習成果	児童と協力して地域イベントでダンス発表を行う。			
	予習復習の内容	ダンス指導の反省をまとめる。振付を習得し、ダンス指導に備える。			
7回	授業内容	ダンス発表会の反省 学内イベントに向けての練習 1・2フレーズ メンタリング			
	学習成果	発表会を振り返り、学内イベントに向けての発表練習を行う。			
予習復習の内容	発表会の感想をまとめる。ダンス練習を行い、振付を習得する。				
	授業内容	学内イベントに向けての練習 3・4フレーズ 時代をリードするコーチング			
8回	学習成果	学内発表会に向けて担当教員が振付したダンスを練習し、習得する。		ダンス発表について、代表者、衣装担当、練習指導担当者、リハーサル担当者に役割を分担し、役割毎に計画書を作成し、担当教員に提出する。	
	予習復習の内容	ダンス練習を行い、振付を習得する。			
9回	授業内容	学内イベントに向けての練習 5・6フレーズ 時代をリードするコーチング			
	学習成果	学内発表会に向けて担当教員が振付したダンスを練習し、習得する。			
予習復習の内容	ダンス練習を行い、振付を習得する。				
	10回	授業内容	学内ダンス発表会に向けての児童練習指導		
学習成果	学内発表会での共同発表を希望する児童に対してダンス指導を行う。				
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。			
11回	授業内容	学内イベントに向けての最終練習 チームビルディング			
	学習成果	学内発表会に向けて担当教員が振付したダンスを練習し、習得する。			
予習復習の内容	ダンス練習を行い、振付を習得する。発表会の準備を行う。				
	12回	授業内容			学内発表会 リハーサル
学習成果	学内で児童と一緒にダンス発表を行う。				
	予習復習の内容	発表会の感想をまとめる。ダンス練習を行い、振付を習得する。			
13回	授業内容	学内発表会			
	学習成果	学内で児童と一緒にダンス発表を行う。			
予習復習の内容	発表会の感想をまとめる。ダンス練習を行い、振付を習得する。				
	14回	授業内容		学内発表会の振り返り	
学習成果	授業内でこれまでの指導を振り返り、反省点や改善点をまとめる。			ダンス指導を振り返り、最終レポートを作成し、提出する。	
	予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。			
15回	授業内容	学内発表会の振り返り			
	学習成果	授業内でこれまでの指導を振り返り、反省点や改善点をまとめる。			
予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。				

科目名	スポーツ資格検定対策講座				担当者	高 間 章						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	これまでに学んできた知識を活用し、スポーツに関わる必要な問題に取り組むことができる。										
	②	スポーツ資格検定において活用できる知識を習得することができる。										
	③	様々な分野の問題に取り組むことで、知識技術を向上させることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	具体的な問題演習を通して、進路に向けた目標を明確にすることで、社会的・職業的自立に向けての意識が向上する。(専門的学習成果①②③に関連)。										
	(2)	ジュニア育成や生涯の健康づくりに必要とされる知識の理解を深めることができる。(専門的学習成果③に関連)。										
授業概要	当科目はスポーツ資格取得に必要な知識、用語の理解を習得することが目的のため、生涯スポーツ、健康スポーツユニットの授業を履修した者、またはスポーツ理論を理解する意欲が高いものが受講対象となる。スポーツ系の資格や検定で必要とされる知識を健康運動実践指導者の資格試験内容に沿って解説し、受講者の希望する資格と関連して展開する。授業内容は各章の説明と具体的な問題演習、解答解説を行う。出題内容の理解を通して効果的な試験対策を進める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	65	毎回の授業の最初に実施し、各回5%程度を配点する。前回の授業内容についての理解の程度を評価する。								
		まとめテスト	35	第15回目に筆記試験を行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本スポーツ協会		『リファレンスブック』				日本スポーツ協会					
	日本スポーツ協会		『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』				日本スポーツ協会					
	健康・体力づくり事業財団		『健康運動実践指導者養成用テキスト』				南江堂					
日本フィットネス協会		『GFIのためのフィットネス基礎理論』				日本フィットネス協会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等			①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後に評価を示し、解説を行う。									

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、スポーツ系資格試験で必要とされる一般知識について	
	学習成果	講義の進め方を踏まえて、スポーツ系資格試験における一般知識の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、内容を理解する。授業内容の理解を深める。	
	授業内容	健康づくり施策概論	
2回	学習成果	健康づくり施策概論の分野を確認し、問題に取り組み解答することができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
3回	授業内容	運動生理学 運動の発現と筋収縮の仕組みの理解	
	学習成果	運動生理学の分野を確認し、問題に取り組み解答することができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	運動生理学 呼吸循環系の機能とトレーニングによる適応	
4回	学習成果	運動生理学の分野を確認し、問題に取り組み解答することができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
5回	授業内容	運動生理学 発育発達と体力・基本的動作スキル	
	学習成果	運動生理学の分野を確認し、問題に取り組み解答することができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	機能的解剖学	
6回	学習成果	機能的解剖学の分野を確認し、問題に取り組み解答することができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
7回	授業内容	栄養摂取と運動	
	学習成果	栄養摂取と運動の分野を確認し、問題に取り組み解答することができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	体力測定と評価	
8回	学習成果	体力測定と評価の分野を確認し、問題に取り組み解答することができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
9回	授業内容	健康づくりと運動プログラム	
	学習成果	健康づくりと運動プログラムの分野を確認し、問題に取り組み解答することができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	運動指導の心理学的基礎	
10回	学習成果	運動指導の心理学的基礎の分野を確認し、問題に取り組み解答することができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
11回	授業内容	健康づくり運動の実際 ウォームアップとクールダウン、ジョギング・ウォーキング	
	学習成果	健康づくり運動の実際の分野を確認し、問題に取り組み解答することができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	健康づくり運動の実際 ストレッチング、レジスタンスエクササイズ	
12回	学習成果	健康づくり運動の実際の分野を確認し、問題に取り組み解答することができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
13回	授業内容	健康づくり運動の実際 エアロビクダンス、水泳・水中運動	
	学習成果	健康づくり運動の実際の分野を確認し、問題に取り組み解答することができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	模擬問題と解説	
14回	学習成果	模擬問題の内容を確認し、問題に取り組み解答することができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
15回	授業内容	まとめテスト・解説	
	学習成果	まとめテストの問題に取り組み解答することができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	

科目名	トレーニング実技				担当者	カ 高 マ 間 アキ 章						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	発達、成熟の過程での身体活動・運動の重要性を説明できる。										
	②	メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームといった健康問題に対して身体活動・運動の有効性を説明できる。										
	③	アيسブレイクやコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。										
	④	見学を通して健康づくりの現場の理解を深め、施設の概要や運動の内容を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた健康づくりの学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	健康づくりに関わる団体、企業の理解を深めて、自身の進路活動の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果④に関連）。										
	(3)	健康づくりの指導法を理解し、専門的知識や技能を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③④に関連）。										
授業概要	人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活、高齢者の健康について講義を行う。また健康支援・介護予防の指導に必要な知識と指導技術、特にアيسブレイクやコミュニケーションスキルについて、講義、実技、実習の学習形態を通して教授する。学内の健康づくり教室やフィットネスクラブ、デイサービスセンターの見学体験を通じて健康づくりの現場の理解を深めて、現代社会の健康問題の考察や自身の将来の職業選択に役立てる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	4回実施し、理解の程度を評価する。								
		実習評価	40	実習先の指導者からの評価シートをもとに評価を行う。								
		平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』				日本スポーツ協会						
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』				日本スポーツ協会						
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』				南江堂						
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』				日本フィットネス協会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後に評価を示し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業計画とトレーニングの運営について	
	学習成果	適切なトレーニング機器や環境、リスクマネジメントを理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、内容を理解する。授業内容の理解を深める。	
2回	授業内容	上肢の機能解剖とトレーニング	
	学習成果	上肢の機能解剖（主に骨・関節）を理解し、トレーニングを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、上肢の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。	
3回	授業内容	上肢の機能解剖とトレーニング	
	学習成果	上肢の機能解剖（主に筋肉・神経）を理解し、トレーニングを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、上肢の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。	
4回	授業内容	脊柱と胸郭の機能解剖とトレーニング	
	学習成果	脊柱と胸郭の機能解剖（主に骨・関節）を理解し、トレーニングを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、脊柱と胸郭の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。	
5回	授業内容	脊柱と胸郭の機能解剖とトレーニング	
	学習成果	脊柱と胸郭の機能解剖（主に筋肉・神経）を理解し、トレーニングを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、脊柱と胸郭の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。	
6回	授業内容	下肢の機能解剖とトレーニング	
	学習成果	下肢の機能解剖（主に骨・関節）を理解し、トレーニングを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、下肢の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。	
7回	授業内容	下肢の機能解剖とトレーニング	
	学習成果	下肢の機能解剖（主に筋肉・神経）を理解し、トレーニングを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、下肢の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。	
8回	授業内容	バイオメカニクスの基礎理論とスポーツ動作	
	学習成果	バイオメカニクスの基礎理論を理解し、身体活動・トレーニングに応用、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、バイオメカニクスの基礎理論の理解を深める。	
9回	授業内容	スポーツ動作とトレーニング動作のバイオメカニクス	
	学習成果	トレーニング動作のバイオメカニクス理論を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、トレーニング動作のバイオメカニクス理論の理解を深める。	
10回	授業内容	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの実際	
	学習成果	ウォーミングアップとクールダウンの目的と方法を正しく理解し実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ウォーミングアップとクールダウンの理解を深める。	
11回	授業内容	筋力トレーニングの実際 プログラミングとコーチング	
	学習成果	マシン、フリーウエイト等を利用した筋力アップのためのトレーニングを理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、筋力を高める方法の理解を深める。	
12回	授業内容	パワー向上トレーニングの実際 プログラミングとコーチング	
	学習成果	パワー向上のためのトレーニングを理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、パワーを高める方法の理解を深める。	
13回	授業内容	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの実際 プログラミングとコーチング	
	学習成果	フィットネスクラブを見学し、運動プログラムやレッスン内容を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	事前に実習の適切な準備を行い、学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。	
14回	授業内容	スピード向上トレーニングの実際 プログラミングとコーチング	
	学習成果	実習での学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、次回の実習の準備を行う。	
15回	授業内容	指導実践	
	学習成果	実習を振り返り、実習レポートを発表できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ジュニアスポーツについて理解を深める。	

科目名	運動障害と救急法				担当者	佐々木 秀 将 ・ 橋 本 実							
区 分	選択	3	単位	授業回数	30	回		授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	運動に関連する外傷、障害について理解し、説明できる。											
	②	発育発達段階における外傷、障害について理解し、説明できる。											
	③	各外傷、障害についての応急処置を学び、実践できる。											
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた運動障害と救急法学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する(専門的学習成果①②③に関連)。											
	(2)	運動障害の概要を学ぶことで適切な生活習慣、体力トレーニングの方法を思考し、自身の生活の問題解決に活かすことができる(専門的学習成果①②③関連)。											
	(3)	運動障害と救急法に関する運動プログラムの作成、指導に関する専門的知識を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる(専門的な学習成果①②③に関連)。											
授業概要	運動は、長期的には生活習慣病を予防する大きな効果がある反面、無理をすると重大事態に至る危険性がある。運動に関わる代表的な外傷、障害、疾患の対処法を学び、固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用法を学び、実践できるようになる。具体的には、傷害評価、意識障害、頭頸部外傷、熱中症、発熱、けいれん、胸痛、腹痛などの基本的な理解や対処法について解説し、外傷の応急処置、テーピング、および心肺蘇生法を実際に習得する。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		筆記試験	50	運動障害と救急法の基本的な理解について学期の途中で筆記試験を行い評価する。									
		レポート	30	9回実施し、内容を理解できているかを観点に評価を行う。									
	平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名						
	日本スポーツ協会		『リファレンスブック』				日本スポーツ協会						
	日本スポーツ協会		『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』				日本スポーツ協会						
	健康・体力づくり事業財団		『健康運動実践指導者養成用テキスト』				南江堂						
日本フィットネス協会		『GFIのためのフィットネス基礎理論』				日本フィットネス協会							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 理論と実技を行うので、各自A4サイズのファイルと運動の出来る服装・シューズを各自準備すること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後にコメントを記入し返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	スポーツと健康 運動中止の判定方法、メディカルチェックについて	
	学習成果	運動中止の判定方法を理解し、説明できる。	
3・4回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	内科的な急性障害 突然死、熱中症について	
5・6回	学習成果	熱中症に対する基本的な応急処置を学び、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
7・8回	授業内容	過換気症候群、運動誘発性喘息、運動時側腹部痛、運動誘発アナフィラキシーについて	
	学習成果	過換気症候群に対する基本的な応急処置を学び、実践できる。	
9・10回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	内科的な慢性障害 貧血、オーバートレーニング症候群	
11・12回	学習成果	内科的な慢性障害である貧血、オーバートレーニング症候群の予防、改善法を学び、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
13・14回	授業内容	救急蘇生法	
	学習成果	成人、子どもの救急蘇生法の内容を学び、実践できる。	
15・16回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	女性アスリートの障害、スポーツによる精神障害 ジュニア期のスポーツ医学	
17・18回	学習成果	女性アスリートの障害、スポーツによる精神障害の内容を学び、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
19・20回	授業内容	創傷処置法、止血法、ファーストエイド、搬送法	
	学習成果	創傷に対する基本的な応急処置を学び、止血法を実践できる。	
21・22回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	整形外科的障害と外科的救急処置 RICE 処置、固定法	
23・24回	学習成果	RICE 処置、三角巾、包帯を使用した固定法を学び、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
25・26回	授業内容	頭頸部傷害、肩関節周辺のスポーツ障害とテーピング	
	学習成果	頭頸部傷害の内容や基本的な応急処置を学び、脳震盪チェックを実践できる。	
27・28回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	手関節周辺、肘関節周辺のスポーツ障害とテーピング	
29・30回	学習成果	上肢のスポーツ障害の内容を理解し、予防、改善のためのテーピングを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
21・22回	授業内容	体幹部、腰部周辺のスポーツ障害とテーピング	
	学習成果	上肢のスポーツ障害の内容を理解し、予防、改善のためのテーピングを実践できる。	
23・24回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	膝関節周辺、股関節周辺のスポーツ障害とテーピング	
25・26回	学習成果	下肢のスポーツ障害の内容を理解し、予防、改善のためのテーピングを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
27・28回	授業内容	足関節周辺のスポーツ障害とテーピング	
	学習成果	下肢のスポーツ障害の内容を理解し、予防、改善のためのテーピングを実践できる。	
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	授業内容	アンチ・ドーピング	
27・28回	学習成果	アンチ・ドーピングについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
29・30回	授業内容	まとめ 実技試験・筆記試験	
	学習成果	テーピング法を習得し、運動障害と救急法の重点的な内容を理解し、説明できる。	
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	

科目名		運動処方演習				担当者	高 間 章 ・ 大 内 昭 浩						
区 分	選択	3	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演 習	学年	2 年	開講期	前期	
				授業時間数	60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	有酸素性および無酸素性体力を表す指標とその測定法を理解させ、それらのフィールド・テストについての測定ができる。											
	②	体脂肪量の測定原理および測定方法（皮脂厚法、生体電気インピーダンス法など）を理解し、測定ができる。											
	③	新体力テストの各項目と体力要素との関連を理解し、実際に測定・評価ができる。											
	④	体力テストの結果評価方法（基本的な統計量（統計値）、体力プロフィールの作成方法など）を理解し、健康・体力づくりやトレーニングに活用できる。											
	⑤	健康増進のための運動効果と運動不足が健康に与える影響を理解し、説明できる。											
	⑥	トレーニングの原則と効果について各原則の重要性を説明し、特にオーバーロードの原則に則ったプログラムについて理解し、説明できる。											
	⑦	健康づくりのための運動プログラム作成上のポイント（身体活動ピラミッド）について説明し、運動強度、時間、頻度の観点から理解し、説明できる。											
	⑧	有酸素性作業能力、筋力、平衡性、柔軟性の向上が日常生活にどのような影響を与えるのかを理解し、説明できる。											
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた健康づくりと運動プログラムに関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦⑧に関連）。											
	(2)	身体の仕組みを学ぶことで適切な生活習慣、体力トレーニングの方法を思考し、自身の生活の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦⑧に関連）。											
	(3)	健康づくりに関する運動プログラムの作成、指導に関する専門的知識を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦⑧に関連）。											
授業概要	ジュニアスポーツ指導で基礎体力や競技能力を向上させたり、健康づくりのための運動指導を効果的に行ったりするためには指導対象者の体力や運動能力を十分に理解した上で指導を行う必要がある。本科目では、体力や運動能力の特徴、体力測定の基本的な考え方について学ぶとともに、体力や運動能力の測定方法の実際について学習する。新体力テストの正しい実施方法を習得し、得られた測定結果を分析、評価し、運動・スポーツ指導での活用の仕方について習得する。さらに個々の健康や体力の維持・向上を目的とした運動プログラムを作成するに当たり、様々な学問的分野から身体の機能を考慮した上で実際の動きを観察し、その時に最善のアドバイスや運動を提供できる知識を身に付けるものとする。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	70	内容を理解できているかを観点に評価を行う。									
		平常点	30	授業への意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑧で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～⑧で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～⑧で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名			
	日本スポーツ協会		『リファレンスブック』							日本スポーツ協会			
	日本スポーツ協会		『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』							日本スポーツ協会			
	健康・体力づくり事業財団		『健康運動実践指導者養成用テキスト』							南江堂			
	日本フィットネス協会		『GFI のためのフィットネス基礎理論』							日本フィットネス協会			
	日本フィットネス協会		『ADBI・ADI のためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論』							日本フィットネス協会			
	日本フィットネス協会		『SEBI・SEI のためのストレッチングエクササイズ指導理論』							日本フィットネス協会			
日本フィットネス協会		『REBI・REI のためのレジスタンスエクササイズ指導理論』							日本フィットネス協会				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テスト及びレポートに対するフィードバックは実施後に正解を示し、解説を行う。											

		授業計画								学習成果の評価	
1・2回	授業内容	体脂肪率の測定方法 形態計測								レポート「体力プロフィールの作成」 2回目に配布、12回目に回収	
	学習成果	体脂肪率の測定方法、形態計測について理解し、説明できる。									
3・4回	予習復習の内容	体脂肪率の測定方法について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。									
	授業内容	新体力テスト 成人を対象とした測定									
5・6回	学習成果	成人を対象とした新体力テストの測定方法について理解し、説明できる。									
	予習復習の内容	新体力テストについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。									
7・8回	授業内容	新体力テスト 高齢者を対象とした測定									
	学習成果	高齢者を対象とした新体力テストの測定方法について理解し、説明できる。									
9・10回	予習復習の内容	新体力テストについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。									
	授業内容	新体力テストの総合評価 基本的な統計法 トレーニングプログラムの作成									
11・12回	学習成果	体力テストの基本的な統計法について理解し、説明できる。									
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。									
13・14回	授業内容	無酸素性作業能力を表す指標と測定法、幼児、高齢者を対象とした各種体力測定								レポート「最大酸素摂取量の推定と評価」 13回目に配布、16回目に回収	
	学習成果	無酸素性作業能力の測定や幼児、高齢者を対象とした各種体力測定について理解し、説明できる。									
15・16回	予習復習の内容	高齢者体力テストについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。									
	授業内容	有酸素性作業能力の測定（運動負荷試験による最大酸素摂取量の測定）									
17・18回	学習成果	運動負荷試験による最大酸素摂取量の測定法を理解し、説明できる。									
	予習復習の内容	最大酸素摂取量の測定について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。									
19・20回	授業内容	健康づくりのための運動指針2006、2013 エネルギー消費量の測定原理と測定方法									
	学習成果	エネルギー消費量の測定方法と共に健康づくりのための運動指針2006・2013について理解し説明できる。									
21・22回	予習復習の内容	健康づくりのための運動指針2006、2013について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。									
	授業内容	健康づくりのためのトレーニングの原則 筋力・瞬発力の測定、評価									
23・24回	学習成果	筋力・瞬発力の測定方法や健康づくりのためのトレーニングの原則について理解し説明できる。									
	予習復習の内容	健康づくりのためのトレーニングの原則について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。									
25・26回	授業内容	運動プログラム作成上のポイント 健康づくり運動の強度測定								レポート「健康づくり運動の強度測定」 17回目に配布、26回目に回収	
	学習成果	運動プログラム作成上のポイントについて理解し、説明できる。									
27・28回	予習復習の内容	運動プログラム作成上のポイントについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。									
	授業内容	健康づくりと運動プログラム作成の基礎 血圧・肺活量の測定									
29・30回	学習成果	健康づくりと運動プログラム作成の基礎について理解し、説明できる。									
	予習復習の内容	健康づくりと運動プログラム作成の基礎について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。									
21・22回	授業内容	ウォーミングアップとクーリングダウン 全身反応時間の測定									
	学習成果	ウォーミングアップとクーリングダウンについて理解し、説明できる。									
23・24回	予習復習の内容	ウォーミングアップとクーリングダウンについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。									
	授業内容	有酸素性運動とその効果									
25・26回	学習成果	有酸素運動とその効果について理解し、説明できる。									
	予習復習の内容	有酸素運動とその効果について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。									
27・28回	授業内容	レジスタンス運動とその効果									
	学習成果	レジスタンス運動とその効果について理解し、説明できる。									
29・30回	予習復習の内容	レジスタンス運動とその効果について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。									
	授業内容	ストレッチングの効果と柔軟性の測定、評価と改善方法									
21・22回	学習成果	柔軟性の測定、評価と改善方法について理解し、説明できる。								レポート「柔軟性、アライメントの測定評価とトレーニング方法」 27回目に配布、30回目に回収	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。									
23・24回	授業内容	年齢区分に適したトレーニングとコーチング トレーニングの効果									
	学習成果	年齢区分に適したトレーニング内容とその効果について説明できる。									
25・26回	予習復習の内容	有酸素運動とその効果について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。									

科目名	食文化論				担当者	梅 津 裕 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		umetsu.yuko@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	食料の確保や世界の3大食法について理解し、その概要を説明できる。										
	②	人の移動と食の創造について理解し、その概要を説明できる。										
	③	各国料理の歴史と特長及び料理様式と献立について理解し、その概要を説明できる。										
	④	食文化についてのレポートを作成し、その結果をまとめて発表できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた食文化に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	食文化についてのレポート作成及び発表を通して、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	フードコーディネーター資格取得のために必要な食文化に関する知識の習得を目的とする。食文化は、世界それぞれの地域、民族、風土に根ざした生活文化である。食材、調理法、調理器具、食事作法など歴史的そして地理的な広がりをもって現代にまで受け継がれてきた。本授業では食料の確保や世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長及び料理様式と献立等について学ぶとともに、食文化についてのレポート作成及び発表に取り組むことにより調べて書く力、表現する力を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	全講義内容の理解について定期試験期間に筆記試験を行い評価する。								
		レポート	20	レポート作成及び発表についてその内容・形式・表現により評価する。								
		小テスト	10	各回の講義内容の理解について学期の途中で小テストを行い評価する。								
	平常点	10	授業への取り組み・意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2)は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	日本フードコーディネーター協会編		『新・フードコーディネーター教本2022』						柴田書店			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①フードコーディネーター3級の資格取得に必修。授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に4時間程度行うこと。事前学習として、テキストや資料をよく読むこと。レポート課題に取り組むこと。課題の提出期限は厳守すること。レポート作成及び発表に向けて必要な準備を行うこと。小テストのための準備を行うこと。事後学習として、各回の学習内容とそれに関連する事項を調べノートにまとめること。小テスト及び授業の内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テストは返却するとともに、問題・解答についての解説を行うことにより結果のフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス、食文化とフードコーディネーター		ワークシートへの取り組み
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。		
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。		小テスト 10回目授業の後半に小テストを実施する。
	授業内容	食料の確保(1) 食物獲得形態の移り変わり		
3回	学習成果	食物獲得形態の移り変わりについて、学習した内容を説明できる。		レポート及び発表資料作成への取り組み
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、食物獲得形態の移り変わりについて理解を深める。		
4回	授業内容	レポート発表に向けて資料の作成		小テスト 10回目授業の後半に、食料の確保、世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長の理解について小テストを実施する。 レポート発表 各自関心をもった食文化について調査し、その成果をレポートとしてまとめる。レポートをもとに、その内容を紹介する発表を各回の授業において実施する。
	学習成果	レポート発表のための発表資料を作成することができる。		
5回	予習復習の内容	レポート発表に向けて必要な準備を行う。		小テスト 10回目授業の後半に、食料の確保、世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長の理解について小テストを実施する。 レポート発表 各自関心をもった食文化について調査し、その成果をレポートとしてまとめる。レポートをもとに、その内容を紹介する発表を各回の授業において実施する。
	授業内容	食料の確保(2) 世界の主食の類型及びレポート発表		
6回	学習成果	世界の主食の類型について、学習した内容を説明できる。		小テスト 10回目授業の後半に、食料の確保、世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長の理解について小テストを実施する。 レポート発表 各自関心をもった食文化について調査し、その成果をレポートとしてまとめる。レポートをもとに、その内容を紹介する発表を各回の授業において実施する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、世界の主食の類型について理解を深める。		
7回	授業内容	世界の3大食法(1) 世界の民族の食べ方の違い及びレポート発表		小テスト 10回目授業の後半に、食料の確保、世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長の理解について小テストを実施する。 レポート発表 各自関心をもった食文化について調査し、その成果をレポートとしてまとめる。レポートをもとに、その内容を紹介する発表を各回の授業において実施する。
	学習成果	世界の民族の食べ方の違いについて、学習した内容を説明できる。		
8回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、世界の民族の食べ方の違いについて理解を深める。		小テスト 10回目授業の後半に、食料の確保、世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長の理解について小テストを実施する。 レポート発表 各自関心をもった食文化について調査し、その成果をレポートとしてまとめる。レポートをもとに、その内容を紹介する発表を各回の授業において実施する。
	授業内容	人の移動と食の創造(1) 新しい食の創造及びレポート発表		
9回	学習成果	新しい食の創造について、学習した内容を説明できる。		小テスト 10回目授業の後半に、食料の確保、世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長の理解について小テストを実施する。 レポート発表 各自関心をもった食文化について調査し、その成果をレポートとしてまとめる。レポートをもとに、その内容を紹介する発表を各回の授業において実施する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、新しい食の創造について理解を深める。		
10回	授業内容	人の移動と食の創造(2) 日本での食の創造及びレポート発表		小テスト 10回目授業の後半に、食料の確保、世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長の理解について小テストを実施する。 レポート発表 各自関心をもった食文化について調査し、その成果をレポートとしてまとめる。レポートをもとに、その内容を紹介する発表を各回の授業において実施する。
	学習成果	日本での食の創造について、学習した内容を説明できる。		
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本での食の創造について理解を深める。		小テスト 10回目授業の後半に、食料の確保、世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長の理解について小テストを実施する。 レポート発表 各自関心をもった食文化について調査し、その成果をレポートとしてまとめる。レポートをもとに、その内容を紹介する発表を各回の授業において実施する。
	授業内容	各国料理の歴史と特長(1) 日本の食の生い立ち 縄文～平安及びレポート発表		
12回	学習成果	日本の食の生い立ちについて、学習した内容を説明できる。		小テスト 10回目授業の後半に、食料の確保、世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長の理解について小テストを実施する。 レポート発表 各自関心をもった食文化について調査し、その成果をレポートとしてまとめる。レポートをもとに、その内容を紹介する発表を各回の授業において実施する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本の食の生い立ちについて理解を深める。		
13回	授業内容	各国料理の歴史と特長(2) 日本の食の生い立ち 鎌倉～安土桃山及びレポート発表		小テスト 10回目授業の後半に、食料の確保、世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長の理解について小テストを実施する。 レポート発表 各自関心をもった食文化について調査し、その成果をレポートとしてまとめる。レポートをもとに、その内容を紹介する発表を各回の授業において実施する。
	学習成果	日本の食の生い立ちについて、学習した内容を説明できる。		
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本の食の生い立ちについて理解を深める。		小テスト 10回目授業の後半に、食料の確保、世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長の理解について小テストを実施する。 レポート発表 各自関心をもった食文化について調査し、その成果をレポートとしてまとめる。レポートをもとに、その内容を紹介する発表を各回の授業において実施する。
	授業内容	各国料理の歴史と特長(3) 日本の食の生い立ち 江戸及びレポート発表		
15回	学習成果	日本の食の生い立ちについて、学習した内容を説明できる。		小テスト 10回目授業の後半に、食料の確保、世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長の理解について小テストを実施する。 レポート発表 各自関心をもった食文化について調査し、その成果をレポートとしてまとめる。レポートをもとに、その内容を紹介する発表を各回の授業において実施する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本の食の生い立ちについて理解を深める。		
16回	授業内容	各国料理の歴史と特長(4) 西洋料理の発展の歴史及びレポート発表		定期試験 定期試験期間に全講義内容の理解についての筆記試験を実施する。
	学習成果	西洋料理の発展の歴史について、学習した内容を説明できる。		
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、西洋料理の発展の歴史について理解を深める。		定期試験 定期試験期間に全講義内容の理解についての筆記試験を実施する。
	授業内容	各国料理の歴史と特長(5) 中国料理の発展の歴史及びレポート発表		
18回	学習成果	中国料理の発展の歴史について、学習した内容を説明できる。		定期試験 定期試験期間に全講義内容の理解についての筆記試験を実施する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、中国料理の発展の歴史について理解を深める。		
19回	授業内容	料理様式と献立(1) 日本料理の料理様式と献立及びレポート発表		定期試験 定期試験期間に全講義内容の理解についての筆記試験を実施する。
	学習成果	日本料理の料理様式と献立について、学習した内容を説明できる。		
20回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本料理の料理様式と献立について理解を深める。		定期試験 定期試験期間に全講義内容の理解についての筆記試験を実施する。
	授業内容	料理様式と献立(2) 中国料理の料理様式と献立及びレポート発表		
21回	学習成果	中国料理の料理様式と献立について、学習した内容を説明できる。		定期試験 定期試験期間に全講義内容の理解についての筆記試験を実施する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、中国料理の料理様式と献立について理解を深める。		
22回	授業内容	料理様式と献立(3) 西洋料理の料理様式と献立及びレポート発表		定期試験 定期試験期間に全講義内容の理解についての筆記試験を実施する。
	学習成果	西洋料理の料理様式と献立について、学習した内容を説明できる。		
23回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、西洋料理の料理様式と献立について理解を深める。		定期試験 定期試験期間に全講義内容の理解についての筆記試験を実施する。

科目名	食環境コーディネーター				担当者	佐藤睦子・今野則幸						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー(初回授業で説明)か、Eメールで行う。konno.noriyuki@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	建築的側面から食空間の基礎知識を習得し、実践に応用できる。										
	②	厨房の語源・歴史・文化を説明することができる。										
	③	各種料理のテーブルマナーを実践することができる。										
	④	国際儀礼(プロトコル)を説明することができる。										
	⑤	フードコーディネーター3級資格に必要なレベルの知識を習得し、適用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	コーディネーターとして専門的な提案及びアドバイスができることにより職業的自立に繋がる知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	各種料理のテーブルマナーの習得を通して、社会人マナーを実践することができる。(専門的学習成果③④⑤に関連)										
	(3)	国際儀礼(プロトコル)の学習を通して、社会人マナーを実践することができる。(専門的学習成果④⑤に関連)										
授業概要	インテリアと建築の学習を通して、快適な食空間についての知識を習得する。近年、欧米諸国では食の安全に対応した様々な調理技術が開発され、それに伴う設備の改良・進化には目覚ましいものがある。わが国でも特に厨房施設・機器の開発はそのスピードを加速している。飲食店経営に必要な店舗設計の概要を学ぶ。また、各種料理のテーブルマナーや国際儀礼(プロトコル)を学習することにより、社会人として必要な外国人に対するマナーや食事のマナーを学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
		筆記試験	60	第5回・第15回の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回の講義内容について評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①により評価する。 (2)は専門的学習成果③④⑤により評価する。 (3)は専門的学習成果④⑤により評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本フードコーディネーター協会編	『新・フードコーディネーター教本2022』				柴田書店						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①飲食店におけるお客様側とサービス側両方の立場に立って、快適な食空間とはどのようなものかを、飲食店を訪れた時に細かく観察すること(10時間)。空間・色彩・サービスについての各自の考え方をまとめておくこと(10時間)。事前にテキストを読んでおく(20時間)。外食時、店舗設計・お客様の誘導等観察する(20時間)。また授業中にその内容を含めた課題を課し、フィードバックする。 ②試験は後期開講直後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス・1.食空間とは 2.食空間のデザインとフードコーディネーターのかかわり	
	学習成果	フードコーディネーターの役割について説明できる。	
2回	予習復習の内容	どのような業種・職種があるのか調べる。	
	授業内容	業種・業態の把握と食空間デザイン	
3回	学習成果	業種・業態による店舗構成の違いについて学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	実際に飲食店に行き、店舗構成を図案化してみる。	
4回	授業内容	平面計画における構成と動線計画・客席レイアウト・厨房のプランニング	
	学習成果	食空間の構成について学習した内容を説明できる。	
5回	予習復習の内容	実際に飲食店に行き、快適な空間寸法を検討する。	
	授業内容	客席レイアウト演習・カラーコーディネート・インテリアエレメント	
6回	学習成果	食空間における色彩の構成及びインテリアエレメントの種類を説明できる。	
	予習復習の内容	日本及び西洋の家具の歴史を調べ、その違いについて予習する。	
7回	授業内容	家具の様式・建築様式・近代デザインの歴史	
	学習成果	家具及び建築の歴史について学習した内容を説明できる。	
8回	予習復習の内容	授業の内容について、整理・確認する。	
	授業内容	ガイダンス 厨房の歴史	
9回	学習成果	飲食店にとって重要な厨房の歴史を説明することができる。	
	予習復習の内容	講義で説明したことを整理する。	
10回	授業内容	調理システムと厨房形態	
	学習成果	様々な調理システムとそれに伴う厨房形態を説明できる。	
11回	予習復習の内容	講義で説明したことを整理する。	
	授業内容	洗淨について	
12回	学習成果	飲食店にとって重要な厨房の洗淨について説明できる。	
	予習復習の内容	講義で説明したことを整理する。	
13回	授業内容	キッチンスタイルの基本	
	学習成果	様々な料理に合わせたキッチンスタイルを区別できる。	
14回	予習復習の内容	講義で説明したことを整理する。	
	授業内容	西洋料理のテーブルマナー	
15回	学習成果	フランス料理を中心としたテーブルマナーを実践することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り帰り、テーブルマナーについての理解を深める。	
16回	授業内容	日本料理のテーブルマナー	
	学習成果	日本料理のテーブルマナーを実践することができる。	
17回	予習復習の内容	学習内容を振り帰り、テーブルマナーについての理解を深める。	
	授業内容	中華料理・立食パーティーのテーブルマナー	
18回	学習成果	中華料理・立食パーティーのテーブルマナーを実践することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り帰り、テーブルマナーについての理解を深める。	
19回	授業内容	飲料	
	学習成果	アルコール飲料を区別し、説明することができる。	
20回	予習復習の内容	講義で説明したことを整理する。	
	授業内容	国際儀礼	
21回	学習成果	世界に共通する儀礼を述べるることができる。	
	予習復習の内容	講義で説明したことを整理する。	
22回	授業内容	サービスマナー	
	学習成果	様々な料理を提供することができる。	
23回	予習復習の内容	学習内容を振り帰り、テーブルマナーについての理解を深める。	
	筆記試験(10回分の内容を問う) 後半に実施		

科目名	フードショッププランニング				担当者	今野則幸						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー(初回授業で説明)か、Eメールで行う。konno.noriyuki@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	外食産業の歴史を説明できる。										
	②	日本の外食産業の文化を理解し、概要を説明できる。										
	③	飲食店経営に必要なマーケティングを説明できる。										
	④	出店に必要な計数管理を述べることができる。										
	⑤	フードコーディネーター3級資格に必要なレベルの知識を習得し、適用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	外食産業の概要を学ぶことにより、幅広い社会の産業構造を説明できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	食文化を通し、社会人に必要なマナーを実践することができる。(専門的学習成果②③⑤に関連)										
	(3)	計数管理を通し、物事を論理的に考え、比較・検討することができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	現代社会の流れは社会全体のIT化と相まって、非常に早いスピードで進化している。フードビジネスの世界でも例外ではなく、人々のライフスタイルの変化に伴い、業界のトレンドも刻々変化している。「自分の店を持つ」という考えを前提に、業態のみならず、マーケティング、経理簿記、メニュープランニング等を学ぶ。また、グループワークを通じ、履修者同士で議論を重ね店舗プランニングをしていく。フードコーディネーター3級資格にふさわしい知識を習得し、実践できるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	マーケティングの理解20%、自身の店舗計画を練り、収支計画作成に40%を配点、それを評価する。								
		小テスト	30	3回実施し、各回10%を配点する。								
		平常点	10	授業への取り組み・意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②③により評価する。 (2)は専門的学習成果②③⑤により評価する。 (3)は専門的学習成果③④により評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本フードコーディネーター協会	『新・フードコーディネーター教本2022』				柴田書店						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	柏野 満	『飲食店の店長の実務がわかる本』				旭屋出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①フードコーディネーター3級資格取得必修。翌週の授業に関するテキスト内容を把握してここと(30時間)。外食する場合、講義で学んだことの視点で、店舗・サービス・料理・飲み物等観察し自身に生かす(30時間)。 ②レポートについては、講義内でフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、フードショッププランニング	レポート提出(マーケティングの重要性について)
	学習成果	授業内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	ガイダンス内容を踏まえ、学習計画を立てる。	
	授業内容	日本のフードビジネスの歴史	
2回	学習成果	外食産業の過去から現在までの変遷を説明できる。	
	予習復習の内容	テキスト内容を整理しておく。	
3回	授業内容	マーケティング 企業戦略の歴史	
	学習成果	企業のマーケティングの歴史を説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
	授業内容	マーケティング 顧客満足	
4回	学習成果	顧客の種類による満足を説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
5回	授業内容	マーケティング 基本原理	
	学習成果	R-STPを説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
	授業内容	経営 損益計算書	
6回	学習成果	財務に必要な損益計算書を説明できる。	小テスト(損益計算)
	予習復習の内容	テキスト内容を整理しておく。	
7回	授業内容	経営 貸借対照表・キャッシュフロー	小テスト(貸借対照表)
	学習成果	貸借対照表・キャッシュフローを関連付けることができる。	
	予習復習の内容	テキスト内容を整理しておく。	
	授業内容	経営 損益分岐点	
8回	学習成果	財務に必要な損益分岐点を検討することができる。	小テスト(損益分岐点)
	予習復習の内容	テキスト内容を整理しておく。	
9回	授業内容	業態開発	
	学習成果	業種・業態、店舗コンセプトを論じることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
	授業内容	出店計画 出店戦略	
10回	学習成果	店舗コンセプトに基づき、出店計画を作成できる。	
	予習復習の内容	自身の出店店舗を考えておく。	
11回	授業内容	出店計画 事業計画書	
	学習成果	出店計画に基づき、事業計画書を作成できる。	
	予習復習の内容	出店計画を基に、財務諸表を考えておく。	
	授業内容	販売促進	
12回	学習成果	販売計画を作成できる。	
	予習復習の内容	出店計画を基に、販売計画を考えておく。	
13回	授業内容	メニュープランニング プランニングの流れ	
	学習成果	メニュー作成に必要な事項を関連付けることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
	授業内容	メニュープランニング 事例	
14回	学習成果	事例を参考に、メニュー作成ができる。	
	予習復習の内容	自身が経営する店舗のメニューを考えておく。	
15回	授業内容	店舗経営	レポート提出(店舗計画書)
	学習成果	自身が経営する店舗を総合的にプロデュースできる。	
	予習復習の内容	店舗経営できるよう計画書を作成しておく。	

科目名	調理方法と調理機器				担当者	マエサワ前澤 正人 ・ フカミ深見 信也 ・ ヨシダ吉田 正							
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期	
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。授業の内容に関する質問等は授業終了後に教室で受ける。												
専門的 学習成果	①	フードコーディネーター資格取得に関する専門知識を理解し、その内容を説明できる。											
	②	基本調理技法、知識を体験する事で習得し、実践できる。											
	③	季節の基本調理方法の実践より 栄養のバランス 食の大切さを習得し、実践できる。											
	④	調理機器と調理器具の必要な知識と技能を習得し 実践につながる操作ができる。											
汎用的 学習成果	(1)	食に関連した業界全般の職業的自立に繋がる知識 基礎技術を習得し活用できる (専門的学習成果①②③④に関連)											
	(2)	食品業界に必要な商品開発 自己表現、他者理解 問題解決能力を有し協働することができる。専門的学習成果②③④に関連)											
	(3)	フードコーディネーターの専門的知識、技能を習得活用する事で、食業界の課題解決に向け行動ができる。(専門的学習成果①②③④に関連)											
授業概要	フードコーディネーターとして資格取得し活躍する為に 多くの食材に触れ調理技法を体験し理解を深めて行く必要がある。フードコーディネーターとして商品開発、店舗開発やメニュープランニングを行う上で、基礎調理技法を知り体験することは、非常に重要な事である。授業では調理機器、器具の取り扱いや調理手順、準備 季節感、栄養、デザイン 仕上げ構成まで基礎調理を習得し、食文化に貢献できる実践力を養う。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		筆記試験	10	15回目の授業後半に筆記試験を行い、講義内容の理解について評価を行う。									
		平常点	10	授業態度、関心、意欲を評価を行う。									
	実習作品 提出	80	毎回の実習作品試験評価を行う。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) 専門的学習成果①②③④により評価する。 (2) 専門的学習成果②③④により評価する。 (3) 専門的学習成果①②③④による評価する。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名						
	日本フードコーディネーター協会編	『新・フードコーディネーター教本2022』					柴田書店						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①フードコーディネーター3級 資格取得に必修。調理実習が中心の授業なので 重要な事は実習内容を忘れない内に実習調理を自宅で繰り返し作成し行い復習、調理準備から手順 盛り付けデザイン、仕上げ味覚表現まで調理の理解を深め能力を身につける事を求める。各回ごと1時間程度。 ②前回 調理実習の正確な分量をレポート提出フィードバック、実習調理の理解を深め自らの考察をしっかりと記述する事を求める。 予習として 料理のデザイン、色調、立体感などに興味を持ち専門誌を絶えず観る様にする事を求める。												

授業計画			学習成果の評価	
1・2回	授業内容	ガイダンス、基本的な器具、調理技法、切り方、出しの説明	前澤、深見	試験での点数評価
	学習成果	実際に器具に触れ、業種による技法、基礎知識 季節感、料理の成り立ちを活用できる。		
3・4回	予習復習の内容	予習復習として、フードコーディネーター教本を読み理解を深めること。		和食の出しなどの味覚、仕上げのデザイン
	授業内容	和食 出しのとり方(親子丼、お吸い物)	前澤、深見	
5・6回	学習成果	和食出しの栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得 説明できる。		洋食の魚料理の味覚、仕上げのデザイン
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	前澤、深見	
7・8回	授業内容	洋食 魚3枚おろし(鯡の香草パン粉焼き、スープ)	前澤、深見	中華の炒め物の味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	魚の卸し方の習得、栄養バランスの習得、調理技術の習得 説明できる。		
9・10回	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。		和食の煮物の味覚、仕上げのデザイン
	授業内容	中華 炒め煮(エビのチリソース煮、レタスチャーハン)	前澤、深見	
11・12回	学習成果	中華調理技法の習得、調理機器の習得、調理技術の習得 説明できる。		洋食の蒸し焼きの味覚、仕上げのデザイン
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	前澤、深見	
13・14回	授業内容	和食 煮物(鶏肉と里芋の煮物、出し巻き玉子)	前澤、深見	中華の揚げ味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明できる。		
15・16回	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施		和食の煮魚の味覚、仕上げのデザイン
	授業内容	洋食 蒸し焼き(帆立と海老のグラタン、サラダ)	前澤、深見	
17・18回	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。		洋食の麺料理の味覚、仕上げのデザイン
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施	前澤、深見	
19・20回	授業内容	中華 炒め物(五目炒飯、スープ)	前澤、深見	中華の炒め物の味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。		
21・22回	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。		和食の揚げ物の味覚、仕上げのデザイン
	授業内容	和食 揚げ物(海鮮と野菜の天ぷら、お吸い物)	前澤、深見	
23・24回	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。		洋食の包み焼きの味覚、仕上げのデザイン
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	前澤、深見	
25・26回	授業内容	中華 包み物(焼き餃子、スープ)	前澤、深見	中華の包み物の味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。		
27・28回	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。		軽食の味覚、仕上げのデザイン
	授業内容	軽食(メニュー、オムライス、サラダ)	前澤、深見	
29・30回	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。		デザート(バナナフランベ、サンドウィッチ)
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	前澤、深見、吉田	

科目名	テーブルコーディネート				担当者	ウメ ッ ヌウ コ 梅 津 裕 子							
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	前期	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		umetsu.yuko@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	テーブルコーディネートの基本的理論について理解し、その内容を説明できる。											
	②	テーブルセッティングについての知識と基礎的な技能を習得し、実践できる。											
	③	テーブルフラワーについての知識と基礎的な技能を習得し、実践できる。											
	④	テーブルコーディネートについて習得した知識や技能を活用し、コーディネートを実践できる。											
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたテーブルコーディネートに関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連)											
	(2)	テーブルコーディネート作品の制作や発表を通して、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果④に関連)											
	(3)	テーブルコーディネートの作品制作を通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。(専門的学習成果④に関連)											
授業概要	フードコーディネーター資格取得のために必要なテーブルコーディネートに関する知識と技能の習得を目的とする。具体的には、食空間のあり方やテーブルコーディネートの全体の組み立て、料理と器の関係、テーブルの構成、テーブルアイテムとして食器、カトラリー、グラス、クロス、フィギュア類、テーブルに飾る花等、テーブルウェアやテーブルコーディネートに関する知識を習得するとともに、実際にテーブルフラワーやテーブルコーディネートの作品制作に取り組むことにより食空間演出の実践力を養う。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		筆記試験	40	テーブルコーディネートの基本的理論の理解について学期の途中で筆記試験を行い評価する。									
		作品制作・ 発表	20	テーマに基づいたテーブルコーディネート作品の制作・発表の内容により評価する。									
		提出物	10	作品紹介シートについてその内容・形式により評価する。									
	平常点	30	演習や実習への取り組み・意欲・態度により評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④により評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名						
	日本フードコーディネーター協会編	『新・フードコーディネーター教本2022』					柴田書店						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①フードコーディネーター3級の資格取得に必修。テキストを使用し授業を進めるため、必ずテキストを準備のうえ受講すること。実習費として5,300円徴収する。授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に1時間程度行うこと。事前学習として、テキストや資料をよく読むこと。作品制作や発表会に向けて必要な準備を行うこと。事後学習として、授業の内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②筆記試験は答案を返却するとともに、問題・解答についての解説を行うことにより、結果のフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、食空間とテーブルコーディネート	ワークシートへの取り組み
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	演習への取り組み及び習得した知識・技能のテーブルコーディネート作品制作への活用
	授業内容	テーブルセッティングの基本 テーブルクロスのかげ方・ナブキンの折り方	
3回	学習成果	テーブルクロスのかげ方とナブキンの折り方について習得し、実践できる。	筆記試験 8回目授業の後半に、テーブルコーディネートの基本的理論の理解について筆記試験を実施
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルセッティングについて理解を深める。	
4回	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (1) テーブルコーディネートとは	
	学習成果	テーブルコーディネートについて、学習した内容を説明できる。	
5回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルコーディネートについて理解を深める。	制作への取り組み
	授業内容	テーブルアイテム制作/テーブルマット	
6回	学習成果	説明に基づきテーブルマットを制作できる。	筆記試験 8回目授業の後半に、テーブルコーディネートの基本的理論の理解について筆記試験を実施
	予習復習の内容	制作したテーブルマットを実際に使ってみる。	
7回	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (2) 食空間の構成	
	学習成果	食空間の構成について、学習した内容を説明できる。	
8回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、食空間の構成について理解を深める。	
	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (3) テーブルリネン、テーブル装飾品	
9回	学習成果	テーブルリネン、テーブル装飾品について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルリネン、テーブル装飾品について理解を深める。	
10回	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (4) テーブルに飾る花	制作への取り組み及び習得した知識・技能のテーブルコーディネート作品制作への活用
	学習成果	テーブルに飾る花について、学習した内容を説明できる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルに飾る花について理解を深める。	
	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (5) 食器、グラス	
12回	学習成果	食器、グラスについて、学習した内容を説明できる。	作品制作及び発表 習得した知識や技能を活用しテーブルコーディネートに取り組み、作品としてクラスで発表する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、食器やグラスについて理解を深める。	
13回	授業内容	テーブルフラワー実習 (1) ラウンド	
	学習成果	ラウンドのテーブルフラワーを制作できる。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ラウンドのテーブルフラワー制作について理解を深める。	
	授業内容	テーブルフラワー実習 (2) フリースタイル	
15回	学習成果	フリースタイルのテーブルフラワーを制作できる。	作品紹介シートの作成
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、フリースタイルのテーブルフラワー制作について理解を深める。	
16回	授業内容	テーブルセッティングの実際	演習への取り組み及び習得した知識・技能のテーブルコーディネート作品制作への活用
	学習成果	テーブルセッティングを実践できる。	
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルセッティングについて理解を深める。	
	授業内容	テーブルコーディネート作品制作 (1) プランニング	
18回	学習成果	作品制作に向けて計画を立てることができる。	
	予習復習の内容	作品制作及び発表会に向けて必要な準備を行う。	
19回	授業内容	テーブルコーディネート作品制作 (2) 発表会	
	学習成果	テーブルコーディネートに取り組み、制作した作品について発表できる。	
20回	予習復習の内容	作品制作及び発表会に向けて必要な準備を行う。	
	授業内容	テーブルコーディネート作品制作 (3) 発表会	
21回	学習成果	テーブルコーディネートに取り組み、制作した作品について発表できる。	
	予習復習の内容	作品制作及び発表会に向けて必要な準備を行う。	
22回	授業内容	テーブルコーディネート作品制作 (4) まとめ	
	学習成果	制作したテーブルコーディネート作品を他者に紹介できる。	
23回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルコーディネートについて理解を深める。	

科目名	栄養学 A				担当者	梅 津 裕 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	umetsu.yuko@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	からだの仕組みと食物の取り込みについて理解し、その概要を説明できる。										
	②	栄養素の種類とその働きについて理解し、その概要を説明できる。										
	③	からだの働きを支えるエネルギーや栄養摂取の適量について理解し、その概要を説明できる。										
	④	栄養と健康における課題について理解し、改善点を示すことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた栄養学に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識を習得し活用することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	栄養と健康における課題や改善点の把握を通して、社会人として必要な論理的思考を高め課題解決に向けて行動できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	フードコーディネーター資格取得のために必要な栄養学に関する知識の習得を目的とする。近年のように複雑多様化した社会に生きるためには、食物の摂取から生命、健康の維持増進、疾病の予防、治療といった広範囲にわたる栄養学的知識が必要となっている。本授業では栄養学の成り立ち、からだの仕組みと食物の取り込み、栄養素の種類とその働き、非栄養素の栄養効果、からだの働きを支えるエネルギー、栄養摂取の適量等について学び、理解を深める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	全講義内容の理解について定期試験期間に筆記試験を行い評価する。								
		レポート										
		小テスト	10	各回の講義内容の理解について学期の途中で小テストを行い評価する。								
	平常点	30	授業への取り組み・意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
	日本フードコーディネーター協会編	『新・フードコーディネーター教本2022』							柴田書店			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①フードコーディネーター3級の資格取得に必修。授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に4時間程度行うこと。事前学習として、テキストや資料をよく読むこと。小テストのための準備を行うこと。事後学習として、各回の学習内容とそれに関連する事項を調べノートにまとめること。小テスト及び授業の内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テストは返却するとともに、問題・解答についての解説を行うことにより結果のフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価									
1回	授業内容	ガイダンス、栄養学とフードコーディネーター	ワークシートへの取り組み									
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。										
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	小テスト 7回目授業の後半に2-6回目までの講義内容の理解について小テストを実施する。									
	授業内容	栄養学の成り立ち										
学習成果	栄養学の成り立ちについて、学習した内容を説明できる。											
予習復習の内容	学習内容を振り返り、栄養学の成り立ちについて理解を深める。											
3回	授業内容	からだの仕組みと食物の取り込み (1) からだの構成単位、からだの働き										
	学習成果	からだの構成単位、からだの働きについて、学習した内容を説明できる。										
予習復習の内容	学習内容を振り返り、からだの構成単位、からだの働きについて理解を深める。											
4回	授業内容	からだの仕組みと食物の取り込み (2) 消化と吸収										
	学習成果	消化と吸収について、学習した内容を説明できる。										
予習復習の内容	学習内容を振り返り、消化と吸収について理解を深める。											
5回	授業内容	栄養素の種類とその働き (1) 熱量素 糖質										
	学習成果	熱量素 糖質について、学習した内容を説明できる。										
予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 糖質について理解を深める。											
6回	授業内容	栄養素の種類とその働き (2) 熱量素 脂質										
	学習成果	熱量素 脂質について、学習した内容を説明できる。										
予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 脂質について理解を深める。											
7回	授業内容	栄養素の種類とその働き (3) 熱量素 タンパク質										
	学習成果	熱量素 タンパク質について、学習した内容を説明できる。										
予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 タンパク質について理解を深める。											
8回	授業内容	栄養素の種類とその働き (4) 構成素 タンパク質										
	学習成果	構成素 タンパク質について、学習した内容を説明できる。										
予習復習の内容	学習内容を振り返り、構成素 タンパク質について理解を深める。											
9回	授業内容	栄養素の種類とその働き (5) 構成素 無機質										
	学習成果	構成素 無機質について、学習した内容を説明できる。										
予習復習の内容	学習内容を振り返り、構成素 無機質について理解を深める。											
10回	授業内容	栄養素の種類とその働き (6) 調節素 ビタミン										
	学習成果	調節素 ビタミンについて、学習した内容を説明できる。										
予習復習の内容	学習内容を振り返り、調節素 ビタミンについて理解を深める。											
11回	授業内容	栄養素の種類とその働き (7) 調節素 無機質										
	学習成果	調節素 無機質について、学習した内容を説明できる。										
予習復習の内容	学習内容を振り返り、調節素 無機質について理解を深める。											
12回	授業内容	非栄養素の栄養効果 食物繊維										
	学習成果	非栄養素の栄養効果 食物繊維について、学習した内容を説明できる。										
予習復習の内容	学習内容を振り返り、非栄養素の栄養効果 食物繊維について理解を深める。											
13回	授業内容	からだの働きを支えるエネルギー (1) エネルギー生成とその消費										
	学習成果	エネルギー生成とその消費について、学習した内容を説明できる。										
予習復習の内容	学習内容を振り返り、エネルギー生成とその消費について理解を深める。											
14回	授業内容	からだの働きを支えるエネルギー (2) 消費エネルギーの求め方										
	学習成果	消費エネルギーの求め方について、学習した内容を説明できる。										
予習復習の内容	学習内容を振り返り、消費エネルギーの求め方について理解を深める。											
15回	授業内容	栄養摂取の適量										
	学習成果	栄養摂取の適量について、学習した内容を説明できる。										
予習復習の内容	学習内容を振り返り、栄養摂取の適量について理解を深める。											
定期試験	定期試験期間に全講義内容の理解について筆記試験を実施する。											

科目名	介護職員初任者研修				担当者	齋藤 美香 ・ 今出川 武志 ・ 東海林 初枝						
区分	選択	3	単位	授業回数	50	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、または saito.mika@seiwa.ac.jp への連絡（学籍番号・氏名記載必須）										
専門的 学習成果	①	基本的な介護を実践するために最低限必要な知識・技術を理解できる。										
	②	介護の実践については、正しい知識とアセスメント結果に基づく適切な介護技術が必要であることを理解できる。										
	③	自立の助長と重度化防止・遅延化のために、介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させるという視点が大切であることを理解できる。										
	④	利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活を送れるようにするために、利用者一人ひとりに対する生活状況の的確な把握が必要であることを理解できる。										
	⑤	他者の生活観及び生活の営み方への共感、相手の立場に立って考えるという姿勢を持つことの大切さについて理解できる。										
	⑥	自立支援に資するサービスを多職種と協働して総合的、計画的に提供できる能力を身に付けることが、自らの将来の到達目標であることを理解できる。										
	⑦	利用者本位のサービスを提供するため、チームアプローチの重要性とその一員として業務に従事する際の役割、責務等を理解できる。										
汎用的 学習成果	(1)	在宅・施設で働くうえで必要となる基本的な知識・技術を修得することができる。（専門的学習成果①②③④⑤⑥に関連）										
	(2)	指示を受けながら、介護業務を実践することができる。（専門的学習成果⑦に関連）										
授業概要	「宮城県介護職員初任者研修実施要綱」に基づき、本学が宮城県の指定を受けて実施する。初任者研修は、在宅・施設を問わず、基本的な介護業務を実践する介護人材を養成する入職段階の研修である。介護を学ぶための基礎知識として、①職務の理解、②介護における尊厳の保持・自立支援、③介護の基本、④介護・福祉サービスの理解と医療との連携、⑤介護におけるコミュニケーション技術、⑥老化の理解、⑦認知症の理解、⑧障害の理解、⑨こころとからだのしくみと生活支援技術、⑩振り返りを学ぶ。また演習のなかでは利用者役、介護者役を実際に演じてみることで高齢者や障がいのある方への接し方や考え方を学ぶ。そして介護が必要な方に対してよりよいサービス（支援）を提供できる能力を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	40									
		平常点	20	授業参加への姿勢や積極性、授業態度等。								
		実技試験	40	基礎的な介護技術に関する実技試験。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③④⑤⑥にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果⑦にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	初任者研修テキスト ブック編集委員会編		【介護職員初任者研修課程テキスト1.2.3】						日本医療企画			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①1年次に「生活援助従事者研修」を受講し、修了証明書が交付された者のみ受講可能。 ②授業に臨む際は、該当範囲を精読し、分からない言葉は事前に調べ理解をして出席すること。 各科目、カリキュラムの進度に合わせ筆記試験やレポートを課される場合もある。筆記試験は、授業の中で正答を解説、レポートは、コメントを付けて返却する。実技試験においては、口頭で事後指導を行う。1回あたり1時間の予習・復習を要する。										

授業計画			学習成果の評価
1、2、3回	授業内容	オリエンテーション／職務の理解	
	学習成果	施設に関わる介護保険サービスについて概説できる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
4、5回	授業内容	介護における尊厳の保持・自立支援	
	学習成果	虐待防止・身体拘束禁止、個人の権利を守る制度の概要について概説できる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
6、7回 (1.3コマ)	授業内容	介護の基本	
	学習成果	介護職における安全の確保とリスクマネジメント、介護職員の安全衛生について概説できる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
8、9、10、 11回	授業内容	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
	学習成果	介護保険制度のしくみ、介護と医療の連携について概説できる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
12、13回	授業内容	認知症の理解	
	学習成果	認知症の利用者への基本的態度が身についている。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
14、15、16回	授業内容	こころとからだのしくみと生活支援技術（基本知識の学習）	
	学習成果	こころとからだのしくみの基礎的知識について概説できる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
17、18、19回 (2.3コマ)	授業内容	こころとからだのしくみと生活支援技術（快適な居住環境整備と介護）	
	学習成果	快適な居住環境整備と介護について概説できる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
20、21回	授業内容	こころとからだのしくみと生活支援技術（整容）	
	学習成果	整容に関する基礎的知識と留意点に基づき支援ができる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
22、23、24、 25、26回	授業内容	こころとからだのしくみと生活支援技術（移動・移乗）	
	学習成果	移動・移乗に関する基礎的知識と留意点に基づき支援ができる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
27、28回	授業内容	こころとからだのしくみと生活支援技術（食事）	
	学習成果	食事に関する基礎的知識と留意点に基づき支援ができる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
29、30、31、 32、33回	授業内容	こころとからだのしくみと生活支援技術（入浴）	
	学習成果	入浴に関する基礎的知識と留意点に基づき支援ができる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
34、35、36、 37回	授業内容	こころとからだのしくみと生活支援技術（排泄）	
	学習成果	排泄に関する基礎的知識と留意点に基づき支援ができる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
38、39回	授業内容	こころとからだのしくみと生活支援技術（睡眠）	
	学習成果	睡眠に関する基礎的知識と留意点に基づき支援ができる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
40、41回	授業内容	こころとからだのしくみと生活支援技術（終末期）	
	学習成果	終末期に関する基礎的知識と留意点に基づき支援ができる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
42、43、44、 45、46、47、 48回	授業内容	こころとからだのしくみと生活支援技術演習	
	学習成果	これまで学習した内容をふまえ、事例展開ができる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
49、50回	授業内容	振り返り及び試験	
	学習成果	全課程の振り返り、基礎的知識と技術についてまとめることができる。	
	予習復習の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	

科目名	障害・認知症の理解				担当者	モリ 森 モト 本 ヒロ 浩 シ 史 タカ 高 ハシ 橋 ソウ 壮						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回の授業前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	障害の概念について説明できる。										
	②	障害者福祉の基本理念及び支援の基本視点（家族への支援を含む）を列挙できる。										
	③	知的障害、発達障害、精神障害の特性について基本的な説明ができる。										
	④	認知症を取り巻く状況について説明できる。										
	⑤	認知症の中核となる症状及び随伴する BPSD の特徴について説明できる。										
	⑥	認知症の原因となる主な病気の特徴について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	障害の概念や障害の特性に関して基礎的な知識を得ることで、障害のある人の生活を支援する介護福祉士として根拠のある介護実践を行うことができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	認知症をもつ人の生活支援にあたる介護福祉士にとって、認知症に関する基礎知識を定着させることで、根拠のあるケアを行うことができる。（専門的学習成果①②③）										
授業概要	障害の理解では、障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援に関する基礎的な知識を学習する。認知症の理解では、認知症を患う人の現状を理解し、認知症は脳の病気であるという認識をもつことと、医学的な観点から病態や症状及び生活への支障について学習する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	50	障害の理解（7回目で実施）								
		小テスト	50	認知症の理解（15回目で実施）								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果（1）については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 （1）は、専門的学習成果①②③により評価を行う。 汎用的学習成果（2）については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 （2）は、専門的学習成果①②③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
	特に指定しない。必要に応じて適宜、資料を配布する。											
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①教科書、配付資料をよく読んで理解に努めること。特に授業の内容に関係する部分は、必ず目を通し、よく分からない部分は、事前に調べるまたは、授業内で質問できるように準備しておくこと。（予習：週 2 時間程度）また、授業内容が後で見返しても分かるようにまとめておくこと。小テストで誤答の内容については、特にテキストやノート、参考文献を用いて正答に直しておくこと（復習：週 2 時間程度） ②フィードバックとして、課題回収、小テストを回収後、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス／障害の基礎的理解1 我が国における障害の分類		ワークシート・課題レポートの提出
	学習成果	我が国における障害の分類について説明できる。		
	予習復習の内容	障害に対するイメージを自分の言葉でまとめておく。		
	授業内容	障害の基礎的理解2 障害の概念		ワークシート・課題レポートの提出
2回	学習成果	障害の概念の変遷について説明できる。		
	予習復習の内容	配布資料、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。		
	3回	授業内容	障害の基礎的理解3 障害者福祉の基本理念	
	学習成果	ノーマライゼーション、リハビリテーションの意味を説明できる。		
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。		
	4回	授業内容	障害の基礎的理解4 障害のある人の心理	
	学習成果	障害が及ぼす心理的影響と自己概念について説明できる。		
	予習復習の内容	配布資料、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。		
	5回	授業内容	障害の基礎的理解5 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響	
	学習成果	各障害における特性や日常生活への影響について説明できる。		
	予習復習の内容	配布資料、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。		
	6回	授業内容	障害の基礎的理解6 障害児者や家族への支援の実際と協働	
	学習成果	家族が抱える問題を理解し、家族支援の基本視点を列挙できる。		
	予習復習の内容	配布資料、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。		
	7回	授業内容	私の障害福祉観	
	学習成果	自己の障害の捉え方、障害のある人との向き合い方について自分の言葉で表現できる。		
	予習復習の内容	配布資料、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。		
	8回	授業内容	ガイダンス／認知症の基礎的理解1 認知症高齢者の現状と今後	
	学習成果	認知症を取り巻く現状と課題について説明できる。		
	予習復習の内容	配布資料、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。		
	9回	授業内容	認知症の基礎的理解2 認知症ケア・施策の歴史	
	学習成果	認知症の社会的認識の変遷について説明できる。		
	予習復習の内容	配布資料、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。		
	10回	授業内容	認知症の基礎的理解3 認知症ケアの理念	
	学習成果	認知症ケアの理念について説明できる。		
	予習復習の内容	配布資料、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。		
	11回	授業内容	認知症の基礎的理解4 認知症の人の特徴的な心理・行動	
	学習成果	BPSD の出現原因について説明できる。		
	予習復習の内容	配布資料、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。		
	12回	授業内容	認知症の基礎的理解5 認知症による障害・認知症の原因となるお主な病気の症状と特徴	
	学習成果	認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響について説明できる。		
	予習復習の内容	配布資料、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。		
	13回	授業内容	認知症の基礎的理解6 若年性認知症・病院で行われる検査・治療の実際	
	学習成果	認知症の診断に用いられる検査、治療薬について説明できる。		
	予習復習の内容	配布資料、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。		
	14回	授業内容	認知症の基礎的理解7 認知症の人や家族への支援の実際と連携と協働	
	学習成果	家族への支援、地域や他職種連携で継続的なケアを行う必要性を説明できる。		
	予習復習の内容	配布資料、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。		
	15回	授業内容	私の認知症ケア観	
	学習成果	自己の認知症の捉え方、認知症の人との向き合い方について自分の言葉で表現できる。		
	予習復習の内容	配布資料、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。		

科目名	生活学Ⅱ				担当者	宇田川 佳 浩 ・ 東海林 初 枝						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		連絡方法、質問の受付方法は、Google classroom「生活学Ⅱ」に提示する。										
専門的 学習成果	①	私たちの生活と社会保障の関係性について理解し、社会保障制度の範囲や種類について概説できる。										
	②	社会保障制度を支える負担と給付について学び、持続可能な社会保障制度について考察できる。										
	③	現代の消費社会について学び、消費生活の諸問題について概説できる。										
	④	学生を取り巻く消費生活の諸問題を理解し、賢い消費者について考察できる。										
汎用的 学習成果	(1)	社会保障や消費生活に関する学習を通して、社会的自立に繋がる知識を習得し活用できる。 (専門的学習成果①③に関連)										
	(2)	社会保障や消費に関する基礎知識をもとに自ら課題に気づき、職業人の基礎となる専門知識と技能を習得し活用できる。 (専門的学習成果①③に関連)										
	(3)	社会保障や消費生活に関わる課題及びその対応等について、他者の考えを受け止めながら自分の考えをまとめ、的確に表現できる。(専門的学習成果②④に関連)										
	(4)	社会保障や消費者生活について学ぶことにより、社会の一員として責任を自覚し、多様な人々との協働しながら地域社会に貢献できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
授業概要	第2回～10回は、個人・家族・地域・社会のしくみと地域における生活の構造、地域共生社会について学ぶとともに社会保障の基本的な考え方としくみを理解し、社会保障の現状と課題をとらえる内容である。(担当者：宇田川) 第11回～15回は、現代の消費社会の現状と問題について学び、よりよい消費社会実現のため、消費者市民として消費者の責任を果たすためにはいかにあるべきか考える内容である。授業内容に応じて、ゲストスピーカーの招聘、出前講座の受講、消費生活センター等の見学を通して、学習をする。(担当：東海林)											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	各回の振り返りレポート提出の内容及びノート提出等で講義の理解度を評価する。								
		平常点	30	授業に臨む態度・関心・意欲について評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①③にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果①③にて評価を行う。 (3) は専門的学習成果②④にて評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	椋野美智子、田中耕太郎		『はじめての社会保障 -福祉を学ぶ人へ 第19版』						有斐閣アルマ			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	細川幸一		『大学生が知っておきたい生活の中の法律』						慶應義塾大学出版会			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストの該当部分を読み要点を把握し授業に臨む。(予習週2時間程度)事後学習として振り返りを行い疑問や興味を持った事項について調べるなど復習をする。(復習週2時間程度) 授業終了後の振り返りシートを確実に行うこと。指示する資料や配布資料及びノートを適切にファイリングすること(評価の対象とする) ②レポートは返却し、コメントを付記又は授業内で解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 本科目を学ぶ意義と学び方 / 社会保障の意義・理念	ワークシートや指定課題への取組を評価する
	学習成果	社会保障の意義について説明できる	
	予習復習の内容	配布資料の精読、講義内容の要点まとめ	
2回	授業内容	社会保障の歴史と国際的動向 社会保障の課題	ワークシートや指定課題への取組を評価する
	学習成果	日本の社会保障の課題を列挙できる	
	予習復習の内容	配布資料の精読、講義内容の要点まとめ	
3回	授業内容	年金の意義・実態・しくみ 年金制度の課題	ワークシートや指定課題への取組を評価する
	学習成果	年金の意義、しくみ、課題を説明できる	
	予習復習の内容	配布資料の精読、講義内容の要点まとめ	
4回	授業内容	労働保険のしくみ・実態 雇用保険 労働者災害補償保険 制度の課題	ワークシートや指定課題への取組を評価する
	学習成果	労働に関わる保障について説明できる	
	予習復習の内容	配布資料の精読、講義内容の要点まとめ	
5回	授業内容	生活保護の目的・動向 生活保護の原理・原則 制度の課題	ワークシートや指定課題への取組を評価する
	学習成果	生活保護の原理原則を列挙できる	
	予習復習の内容	配布資料の精読、講義内容の要点まとめ	
6回	授業内容	医療・介護保障の意義 各制度のしくみ	ワークシートや指定課題への取組を評価する
	学習成果	医療保険・介護保障の意義を説明できる	
	予習復習の内容	配布資料の精読、講義内容の要点まとめ	
7回	授業内容	権利擁護 成年後見制度	ワークシートや指定課題への取組を評価する
	学習成果	成年後見制度について説明できる	
	予習復習の内容	配布資料の精読、講義内容の要点まとめ	
8回	授業内容	障害者施策・子育て支援の意義	ワークシートや指定課題への取組を評価する
	学習成果	障害者施策・子育て支援の意義について説明できる	
	予習復習の内容	配布資料の精読、講義内容の要点まとめ	
9回	授業内容	これまでの授業を振り返り、社会保障の意義、社会人としての責任について自分の見解をまとめる	学習成果について800字程度で自己の考えを論術する
	学習成果	社会保障の意義、社会人としての責任等について論じることができる	
	予習復習の内容	配布資料の精読、講義内容の要点まとめ	
10回	授業内容	消費者市民社会とは(消費者基本法 消費者市民の由来、倫理的消費等)	ワークシートや指定課題への取組を評価する
	学習成果	消費者の権利と責任について説明できる	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が聞けるようにしておく。配布資料の整理	
11回	授業内容	身近な消費生活の課題(食品、衣料品、化粧品、家庭用品の消費問題)	ワークシートや指定課題への取組を評価する
	学習成果	身近にある物の消費問題を理解し、自己の生活上の課題について考察できる	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が聞けるようにしておく。配布資料の整理	
12回	授業内容	契約トラブルから見る消費者に関する法律と制度	ワークシートや指定課題への取組を評価する
	学習成果	約束と契約の違い、契約の原則を説明できる	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が聞けるようにしておく。配布資料の整理	
13回	授業内容	契約トラブルから見る消費者に関する法律と制度	ワークシートや指定課題への取組を評価する
	学習成果	ローン・クレジットのしくみを理解し、金融トラブル被害の対処方法について説明できる	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が聞けるようにしておく。配布資料の整理	
14回	授業内容	暮らしの中の損害保険(一般社団法人 日本損害保険協会)	ワークシートや指定課題への取組を評価する
	学習成果	交通事故とその責任および自転車を取り巻くリスクとその責任	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が聞けるようにしておく。配布資料の整理	
15回	授業内容	これまでの授業を振り返り、消費生活に関する認識・賢い消費者である意義について自分の見解をまとめる	学習成果について、800字程度で自己の考えを論術する
	学習成果	「消費者の責任」「賢い消費者」について論じることができる	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が聞けるようにしておく。配布資料の整理	

科目名	防災の基礎理論				担当者	東海林 初枝・齋藤 美香・他						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		連絡方法、質問の受付方法は、Google classroom「生活学Ⅱ」に提示する。										
専門的 学習成果	①	災害の種類やその発生のしくみに関する基礎的な知識を学び、防災・減災の重要性を説明することができる。										
	②	自然災害と社会の関わりを理解し、災害発生時の状況に応じて、身を守る事ができる思考力と判断力が身につく。										
	③	災害発生時に他者と助け合い、協力して解決策に取り組むコミュニケーション力や協働する力が身につく。										
汎用的 学習成果	(1)	災害発生と被害、防災・減災に関する学習を通して、社会的自立に繋がる知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(2)	災害発生時に状況に応じて身を守る知識や技術を学び、起きうる課題の発見、課題解決に活用できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(3)	他者と助け合い、協力して解決策や対応等について学び、他者の考えを受け止めながら自分の考えをまとめ、的確に表現できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(4)	我がこととして災害をとらえる視点を持つことで、社会の一員として責任を自覚し、多様な人々との協働しながら地域社会に貢献できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
授業概要	我が国は、立地特性から常に地震や火山、台風など自然災害の脅威にさらされています。自然災害が避けては通れないものであるならば災害・防災に関する知恵を持つことは必須のこととします。災害発生メカニズムや対策に関する基礎知識を学び、災害から生き抜く力と身近な人を助けて地域に貢献できるような人材の育成の一助とすることが本授業の目指すところです。授業内容に応じて、ゲストスピーカーの招聘、出前講座の受講、震災遺構の見学、グループワーク等を通して学習を進めます。また、「災害時の生活支援」と連動的に進めていきます。テキストを用いず、適宜資料を配布したりPP等を用いますので、各自配布資料の整理（ファイリング）を確実にを行うようにしてください。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	各回のワークシート、振り返りシートの提出状況（内容・期限厳守等）から講義内容の理解を評価する。								
		平常点	30	授業に臨む態度（積極性・協調性）・関心・意欲について評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③にて評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③にて評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～③にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
			適宜、資料を配布する									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	内閣府		『防災白書』 https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/index.html									
	NHK スペシャル取材班		『巨大津波－そのとき人はどう動いたか－』						岩波書店			
	前田 潤		『被災者の心理過程とケアの継続性』						南山堂			
	小原真理子・酒井明子		『災害看護－心得ておきたい基本的な知識－』						南山堂			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①・事前に配布する資料がある場合はよく読み、要点や疑問点を把握し授業に臨む。(予習週2時間程度) 事後は、授業終了後の振り返りシートを確実に仕上げること。(復習週2時間程度) ・配布資料等及びノートを適切にファイリングし、整理すること(評価の対象とする) ②レポートは返却し、コメントを付記又は授業内で解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス 自身の災害体験を振り返る		振り返りシート・課題レポートの提出
	学習成果	本科目で扱う内容を理解できる		
	予習復習の内容	配布資料の復習		
2回	授業内容	災害エスノグラフィー(東日本大震災遺構の見学、映像視聴、関連記事・事例)		ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	災害及び災害対応に対して具体的なイメージができる		
3回	予習復習の内容	提示資料を読み込む、見学にあつては事前・事後提示する課題に取り組む		
4回	授業内容	災害の定義、災害発生のしくみと被害の種類		ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	地震・津波、気象災害・風水害、土砂・火山、火災に関する発生の仕組みと及ぼす被害について説明できる		
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が聞けるようにしておく。配布資料の整理		
6回	授業内容	災害関連情報、被害想定、災害情報の利活用仕方		ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	災害関連情報の種類や区分、情報の活かし方等について要点を説明できる		
7回	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が聞けるようにしておく。配布資料の整理		
8回	授業内容	災害と心の変化・健康課題		ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	災害時の人間のこころの特性や健康被害を理解し、自他のケアについて考察できる		
9回	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が聞けるようにしておく。配布資料の整理		
10回	授業内容	災害対策 公助 行政(公的機関)や企業などの災害対策		ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	公助の意義、範囲等を知り、学習内容について説明できる		
11回	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が聞けるようにしておく。配布資料の整理		
12回	授業内容	災害対策 自助		ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	自助の意義を理解し、学習する内容をもとに備える姿勢を身につける		
13回	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が聞けるようにしておく。配布資料の整理		
14回	授業内容	災害対策 共助(避難所の運営協力、災害時要配慮者、災害ボランティア活動等)		ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	共助の意義を理解し、学習する内容をもとに備える姿勢を身につける		
15回	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が聞けるようにしておく。配布資料の整理		
	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			

科目名	災害時の生活支援				担当者	齋藤 美香 ・ 東海林 初枝 ・ 他						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		連絡方法、質問の受付方法は、Google classroom「災害時の生活支援」に提示する										
専門的 学習成果	①	災害からいのちを守るための知識や災害時、避難所生活時に役立つ基礎的知識および技術が身につく。										
	②	防災や災害時の要援護者への支援をするうえで必要な基礎的知識や支援技術が身につく。										
	③	サスティナブルな防災を意識し、自分にできることを積極的に行動するために思考力し、行動力が身につく。										
	④	社会や地域との関わりを実感し、災害発生時に他者と助け合い、協力して解決策に取り組むコミュニケーション力や協働する力が身につく。										
汎用的 学習成果	(1)	災害からいのちを守る知識や技術を習得し、有事の際に活用できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(2)	防災や災害時の要援護者への支援に関する学習を通して、有事の際に活用できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(3)	コミュニケーション能力、協働力、思考力、行動力を持って、地域社会に貢献できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
授業概要	被災した要援護者（高齢者・障害のある方、子どもなど）への支援に加え、避難所生活に焦点をあてて、避難者の不安を軽減し、不自由な生活から要援護者守るために誰もが知っておきたい基礎知識や支援技術について学びます。避難生活と体調管理（食事、トイレ、睡眠）、災害時の食事、精神的サポートについて、グループワークの実施や避難所を想定し、実践的に役立つ知識や技術が習得できることを目指します。また、授業内容により、行政・関係団体等との協働で行う場合もあります。また「防災の基礎理論」と連動的に進めていきます。テキストを用いず、適宜資料を配布したりPP等を用いますので、各自配布資料の整理（ファイリング）を確実に行うようにしてください。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	授業内容の確認のための小課題を課す。提出状況（内容・期限厳守等）から総合的に評価し成績を決定する。								
		平常点	30	授業に臨む態度（積極性・協調性）・関心・意欲について評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④にて評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
			特に指定しない。必要に応じて適宜、資料を配布する。									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
	防災イツモプロジェクト（編集）		『防災イツモマニュアル』					ポプラ文庫				
	永田宏和・石井美恵子		『新しい防災のきほん辞典』					朝日新聞出版				
	國井 修（編集）、尾島俊之（編集）、石井 美恵子（編集）		『みんなで取り組む 災害時の保健・医療・福祉活動』					南山堂				
長谷川洋昭（著、編集）		『社会福祉・医療従事者のための災害福祉論』					学文社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①自身が経験した災害体験を振り返りながら、災害弱者のことを想像して授業に臨んでください。また、課題テーマに関して、事前に配布資料などがある場合は、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。事後は、授業終了後の振り返りシートを確実に仕上げる。配布資料の整理（ファイリング）を確実に行うこと。②行政・関係団体等との都合から授業計画が変更になる場合があります。③レポートは返却し、コメントを付記または授業内で解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス／災害への備え	
	学習成果	本科目で扱う内容を理解できる。家の安全、非常用持ち出し品について説明できる。	
2・3回	予習復習の内容	配布資料の復習、自身の家庭での防災用品の確認	
	授業内容	要配慮者への支援（移動等）・ペット支援	
4・5回	学習成果	要配慮者を支援するための基本的な技術を身につける。	
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。	
6・7回	授業内容	災害時の食事	
	学習成果	災害時の調理や食事、衛生面について説明および調理ができる。	
8・9回	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。	
	授業内容	トイレの確保・保管	
10・11回	学習成果	トイレの衛生的確保・管理の方法について説明と設置ができる。	
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。	
12・13回	授業内容	就業場所の確保・管理	
	学習成果	就業場所の確保・管理について説明と設置ができる。	
14回	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。	
	授業内容	応急手当	
15回	学習成果	止血や骨折、火傷、熱中症等の応急手当のスキルを身につける。	
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。	
16回	授業内容	救急救命の実技講習	
	学習成果	心肺蘇生・AED 操法を使った救命救急が身につく。	
17回	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。	
	授業内容	被災した人の心身のケア	
18回	学習成果	支援時の心構え、リラクゼーションの方法が身につく。	
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。	
19回	授業内容	防災×工作	
	学習成果	身近にあるもので代用品を作ることができる。	
20回	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。	
	授業内容		
21回	学習成果		
	予習復習の内容		
22回	授業内容		
	学習成果		
23回	予習復習の内容		
	授業内容		
24回	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	防災関係検定対策講座				担当者	トウカイリン ハツエ 枝 ・ 他 東海林 初 枝 ・ 他						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		連絡方法、質問の受付方法は、Google classroom「防災関係検定試験対策講座」に提示する										
専門的 学習成果	①	自分の防災に関する知識、防災力のレベルを客観的に判断できる										
汎用的 学習成果	(1)	災害、防災・減災に関するに関する学習及び検定での確認を通して、社会的自立に繋がる知識を習得し、起こりうる課題への対処、地域社会の一員としての役割を自覚し、社会貢献できる (専門的学習成果①に関連)										
授業概要	我が国は、立地特性から常に地震や火山、台風など自然災害の脅威にさらされています。自然災害が避けては通れないものであるならば災害・防災に関する知恵を持つことは必須のことで、知識は身(命)を助けるものです。全国民が一定のレベルの防災知識を修得し、その力を発揮したとき、たとえ大きな地震など災害に見舞われたとしてもその被害を最低限に抑えられることとなります。防災の基礎理論、災害時の生活支援で学習する内容を振り返りながら、知識の定着を目指して授業を展開します。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	60	各回の小テストの結果を累積								
		検定試験	40	各自挑む検定試験の結果 * 挑む試験のレベルによって調整する								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
			適宜、資料を配布する									
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	防災力検定研究会	『防災力検定 テキスト&問題集』				近代消防社						
	防災教育推進協会	『防災検定1級・2級用公式テキスト』				教育家庭新聞社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①提示する事前課題に取り組んでから授業に臨む。(予習週2時間程度) 事後は、類似する問題や関連問題を WEB 上で検索するなどして備えること。(復習週2時間程度)										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 検定試験の種類・難易度	小テスト
	学習成果	検定試験を受ける意義を理解する	
	予習復習 の内容	配布資料の復習	
2回	授業内容	災害の実相と対策に関する知識の確認1	小テスト
	学習成果	地震・津波・火山噴火・台風・豪雨・洪水に関する知識が定着する	
	予習復習 の内容	提示する事前課題の実施。類似・関連問題の検索及び実施	
3回	授業内容	災害の実相と対策に関する知識の確認2	小テスト
	学習成果	土砂災害、竜巻・雷、火災、感染症等の知識が定着する	
	予習復習 の内容	提示する事前課題の実施。類似・関連問題の検索及び実施	
4回	授業内容	災害と情報に関する知識	小テスト
	学習成果	災害関連情報、被害想定、被害情報の活用と発信について知識が定着する	
	予習復習 の内容	提示する事前課題の実施。類似・関連問題の検索及び実施	
5回	授業内容	行政の災害対策と危機管理	小テスト
	学習成果	災害対策基本法、防災・危機管理に関する行政組織、公助・応急対策について知識が定着する	
	予習復習 の内容	提示する事前課題の実施。類似・関連問題の検索及び実施	
6回	授業内容	災害対策 自助	小テスト
	学習成果	自助に関する知識が定着する	
	予習復習 の内容	提示する事前課題の実施。類似・関連問題の検索及び実施	
7回	授業内容	災害対策 共助	小テスト
	学習成果	避難所、災害時要配慮者 災害ボランティア活動に関する知識が定着する	
	予習復習 の内容	提示する事前課題の実施。類似・関連問題の検索及び実施	
8回	授業内容	救急救命処置、応急手当	小テスト
	学習成果	バイスタンダーとしての救命救急処置、応急手当について知識が定着する	
	予習復習 の内容	提示する事前課題の実施。類似・関連問題の検索及び実施	
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習 の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習 の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習 の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習 の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習 の内容		

科目名	IT パスポート試験実践講座				担当者	ナガノアツシ 永野 篤						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期集中
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール										
専門的 学習成果	①	情報処理系の資格試験の全体像と IT パスポートの位置づけについて説明できる。										
	②	IT パスポートの全体像を踏まえ、試験の意図・範囲・レベルについて説明できる。										
	③	最新の動向を踏まえ、IT パスポート試験問題の正答率を資格取得レベルに到達させる。										
汎用的 学習成果	(1)	デジタルリテラシーに関する幅広い知識を身に付け、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	ストラテジ系の学びを通じて、企業等組織のステークホルダーに資する知見を獲得する。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	マネジメント系の学びを通じて、プロジェクトおよびオペレーションの効率的・効果的運営に貢献することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(4)	テクノロジー系の学びを通じて、IT とネットワークの知見を獲得し Society5.0の構築に資することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	パーソナルコンピュータをはじめとして、タブレット端末やスマートフォン、更にはテレビ・家電製品等、ネットワークへの接続を前提とした IoT の社会化が急速に展開し、さらには、ビッグデータ、AI の駆使が促進されている。IT は人間社会の常識・哲学に衝撃を与えシンギュラリティという概念が議論される時代となった。本授業は、こうした時代の IT リテラシーの基礎をカバーした IT パスポート試験合格レベルを目指すものである。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	100	各回テストを実施し、各回分12.5%を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2年次学生の、夏休みに行う集中講義である。オンラインを介した資料配布、小テスト、実力査定アンケートを行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノート PC などを持ち込んでください。 ②小テストは原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。受講者全体の中に占める自身のポジションを確認し、かつ、誤った記憶や理解を正し、資格取得へ向上する姿勢を身に着けることを期待しています。 ③予習復習には、それぞれ1時間程度かけることが期待されますが、集中授業のため授業と授業の間に行くことは難しいことが予想されます。そのため、事前課題、事後学習を入念に行うこと。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	IT パスポート試験の概略	
	学習成果	IT パスポート試験設立の歴史の経緯・設立の意義を説明できる。	
	予習復習の内容	IT とインターネットの歴史を調べ、試験範囲に含まれる用語・概念の理解・記憶に努める。	
2回	授業内容	ストラテジ系①	
	学習成果	企業と法務、経営戦略、システム戦略の主要な基礎概念・用語類の違いを指摘できる。	
	予習復習の内容	企業と法務、経営戦略、システム戦略の主要な基礎概念・用語類の理解・記憶に努める。	
3回	授業内容	ストラテジ系②	
	学習成果	企業と法務、経営戦略、システム戦略の主要な基礎概念・用語類を的確に認識できる。	
	予習復習の内容	企業と法務、経営戦略、システム戦略の主要な基礎概念・用語類の理解・記憶の定着に努める。	
4回	授業内容	マネジメント系①	
	学習成果	開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの主要な基礎概念・用語類の違いを指摘できる。	
	予習復習の内容	開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの主要な基礎概念・用語類の理解・記憶に努める。	
5回	授業内容	マネジメント系②	
	学習成果	開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの主要な基礎概念・用語類を的確に認識できる。	
	予習復習の内容	開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの主要な基礎概念・用語類の理解・記憶の定着に努める。	
6回	授業内容	テクノロジー系①	
	学習成果	基礎理論、コンピューターシステム、技術要素の主要な基礎概念・用語類の違いを指摘できる。	
	予習復習の内容	基礎理論、コンピューターシステム、技術要素の主要な基礎概念・用語類の理解・記憶に努める。	
7回	授業内容	テクノロジー系②	
	学習成果	基礎理論、コンピューターシステム、技術要素の主要な基礎概念・用語類を的確に認識できる。	
	予習復習の内容	基礎理論、コンピューターシステム、技術要素の主要な基礎概念・用語類の理解・記憶の定着に努める。	
8回	授業内容	IT パスポート試験総合	
	学習成果	ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の基礎概念・用語類を的確に認識できる。	
	予習復習の内容	ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の基礎概念・用語類の的確な理解・記憶の定着に努める。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	MOS エキスパート (Word)				担当者	大澤 栄子						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後、オフィスアワー(初回授業で説明)、メール (oosawa.eiko@seiwa.ac.jp) で行う。										
専門的 学習成果	①	問題文や解説を読み解く力をつけ、求められたことを実践できる。										
	②	身につけたパソコンスキルを実務に応用できる。										
	③	Microsoft Office Specialist Word 365&2019 Expert 合格レベルの操作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンによる実践的なドキュメント作成および管理について学ぶ。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	MOS スペシャリスト (Word) の上級の内容になる。組織としての文書管理やデータ集計、グループワークを意識した機能や管理を目的とした機能など、組織としての事務効率向上および業務改善を重視した応用機能を中心に習得する。共同作業用文書の準備、版の管理、高度な編集機能や書式設定機能の利用、ユーザ設定ドキュメント要素の作成管理 (文書パーツ、デザインセット、索引、図表一覧など)、高度な Word 機能の利用 (フォーム・フィールド・コントロールの管理、マクロ作成編集、差し込み印刷) などの機能を実践する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		実技試験	70	15回目授業内にて実技試験を行い全授業内容の理解について評価する。								
		提出物	30	全5回の提出物で各回6%配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかるマスター MOS Word 365&2019 Expert 対策テキスト&問題集』				FOM 出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかる Microsoft Word 2019 応用』				FOM 出版						
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかる Microsoft Word 2019 演習問題集』				FOM 出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① MOS Word 365&2019の資格を取得していること。 全15回の授業終了後、別日に設定される MOS 試験を受験すること。 合格スキルに達するよう、各自必要に応じて授業外で自習すること。 機能における理解と実際の操作が連動してこそスキルとなるので、毎回の復習を欠かさないこと (復習：週1時間程度) ②授業内で発生した課題に対しては、その場で解説と補足を行う。 授業外で発生した課題に対しては、授業前後の時間、または、Office アワーで対応する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、教室の利用方法、基礎スキルの確認	
	学習成果	授業の目的と資格取得の意義を理解する。	
2回	予習復習の内容	MOS スペシャリスト (Word) スキルについて確認する。	
	授業内容	文書とテンプレートの管理	
3回	学習成果	ツールバー、リボン、セキュリティ、自動保存、テンプレート等環境設定・管理ができる。	
	予習復習の内容	管理環境について確認する。	
4回	授業内容	文書の共同作業	
	学習成果	編集制限、最終版、読み取り専用等の設定、パスワードによる保護ができる。	
5回	予習復習の内容	文書の共同作業について確認する。	
	授業内容	文書コンテンツの高度な検索、置換、貼り付け	
6回	学習成果	ワイルドカードや特殊文字による検索・置換、書式設定やスタイルの検索・置換、貼り付けオプションの適用ができる。	
	予習復習の内容	文書コンテンツの検索、置換、貼り付けについて確認する。	
7回	授業内容	段落レイアウト、スタイルの高度な設定	
	学習成果	段落レイアウトの適切なオプション設定、スタイルの作成管理ができる。	
8回	予習復習の内容	段落レイアウト、スタイルについて確認する。	
	授業内容	文書パーツの作成管理、ユーザー設定のデザイン要素の作成	
9回	学習成果	クイックパーツの作成と文書パーツ管理、ユーザー設定の配色・フォント・テーマ・スタイルセットが作成できる。	
	予習復習の内容	文書パーツの作成管理、ユーザー設定のデザイン要素について確認する。	
10回	授業内容	索引・図表一覧の作成管理	
	学習成果	索引の登録作成更新、図表番号・図表目次の挿入変更ができる。	
11回	予習復習の内容	索引作成、図表一覧作成について確認する。	
	授業内容	フォーム、フィールド、コントロールの管理	
12回	学習成果	ユーザ設定のフィールドの追加更新、標準的なコントロールの挿入設定ができる。	
	予習復習の内容	フォーム、フィールド、コントロールについて確認する。	
13回	授業内容	マクロの作成、編集	
	学習成果	簡単なマクロの記録と編集、マクロを他の文書やテンプレートにコピーできる。	
14回	予習復習の内容	マクロについて確認する。	
	授業内容	差し込み印刷	
15回	学習成果	差し込みフィールドの挿入、宛名リストの管理ができる。	
	予習復習の内容	差し込み印刷について確認する。	
16回	授業内容	模擬試験プログラム1解説	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
17回	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
	授業内容	模擬試験プログラム2解説	
18回	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
19回	授業内容	模擬試験プログラム3解説	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
20回	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
	授業内容	模擬試験プログラム自己対策	
21回	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	模擬試験プログラムを通して、組織の課題解決に活用できる。	
22回	授業内容	実技テスト 50分+解説	
	学習成果	積極的に資格取得に取り組む。	
23回	予習復習の内容	模擬試験プログラムを通して、組織の課題解決に活用できる。	
	確認問題 (文書のオプションと設定管理について) 第3回に実施		
確認問題 (高度な編集機能や書式設定機能の利用について) 第5回に実施			
確認問題 (ユーザ設定のドキュメント要素の作成について) 第7回に実施			
確認問題 (高度な Word 昨日の利用について) 第10回に実施			
実技テストにて確認 (全15回分の内容を問う) 第15回に実施			

科目名	MOS エキスパート (Excel)				担当者	大澤 栄子						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後、オフィスアワー(初回授業で説明)、メール (oosawa.eiko@seiwa.ac.jp) で行う。											
専門的 学習成果	①	問題文や解説を読み解く力をつけ、求められたことを実践できる。										
	②	身につけたパソコンスキルを実務に応用できる。										
	③	Microsoft Office Specialist Excel 365&2019 Expert 合格レベルの操作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンによるより効率的なデータ集計およびデータ管理・分析について学ぶ。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	MOS スペシャリスト (Excel) の上級内容になる。共同作業環境に必要な設定、組織として事務効率向上および業務改善を重視したデータ管理や分析を目指し、応用機能を中心に習得する。 共同作業に必要なブックの準備やバージョン管理、高度なデータ管理と書式設定、高度な関数(論理演算、データ検索、日時計算など)、データ分析やデータ予測、数式のトラブルシューティング、簡単なマクロ作成と編集、高度なグラフやテーブル管理などの機能を操作する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		実技試験	70	15回目授業内にて実技試験を行い全授業内容の理解について評価する。								
		提出物	30	全5回の提出物で各回6%配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかるマスター MOS Excel 365&2019 Expert 対策テキスト&問題集』				FOM 出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかる Microsoft Excel 2019 応用』				FOM 出版						
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかる Microsoft Excel 2019 演習問題集』				FOM 出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① MOS Excel 365&2019の資格を取得していること。 全15回の授業終了後、別日に設定される MOS 試験を受験すること。 合格スキルに達するよう、各自必要に応じて授業外で自習すること。 機能における理解と実際の操作が連動してこそスキルとなるので、毎回の復習を欠かさないこと(復習: 週1時間程度) ②授業内で発生した課題に対しては、その場で解説と補足を行う。 授業外で発生した課題に対しては、授業前後の時間、または、Office アワーで対応する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、教室の利用方法、基礎スキルの確認	
	学習成果	授業の目的と資格取得の意義を理解する。	
2回	予習復習の内容	MOS スペシャリスト (Excel) スキルについて確認する。	
	授業内容	ブック管理と共同作業	
3回	学習成果	ブックの管理、共同作業のためのブックの準備ができる。	
	予習復習の内容	ブック管理について確認する。	
4回	授業内容	ブックのオプションと設定の管理	
	学習成果	共同作業のためのブックの準備、言語オプション設定ができる。	
5回	予習復習の内容	ブック管理、共同作業について確認する。	
	授業内容	効率のよいセルへのデータ入力	
6回	学習成果	既存データ利用のセル入力、ユーザ定義表示形式、入力規則、データのグループ化の設定ができる。	
	予習復習の内容	データの管理について確認する。	
7回	授業内容	集計と詳細な条件付き書式	
	学習成果	小計や合計計算、重複レコード削除、詳細な条件付き書式やフィルターの適用ができる。	
8回	予習復習の内容	データ計算、条件付き書式・フィルターについて確認する。	
	授業内容	論理演算関数	
9回	学習成果	関数のネスト、論理演算関数が設定できる。	
	予習復習の内容	論理演算関数について確認する。	
10回	授業内容	データベース関数・高度な日付時刻関数	
	学習成果	関数でデータ検索できる。日時計算ができる。	
11回	予習復習の内容	データベース関数・日付時刻関数について確認する。	
	授業内容	データ分析、数式のトラブルシューティング	
12回	学習成果	統合、ゴールシーク、シナリオによる分析や関数によるデータ予測、数式エラーの分析ができる。	
	予習復習の内容	データ分析、数式のトラブルシューティングについて確認する。	
13回	授業内容	簡単なマクロの作成と変更	
	学習成果	マクロの記録と編集ができる。	
14回	予習復習の内容	マクロについて確認する。	
	授業内容	高度な機能を使用したグラフの作成と変更	
15回	学習成果	2軸グラフ、ヒストグラム、箱ひげグラフ、マップグラフ、サンバースト、じょうごグラフ、ウォーターフォール図が作れる。	
	予習復習の内容	高度な機能を使用したグラフについて確認する。	
16回	授業内容	ピボットテーブルとピボットグラフ	
	学習成果	ピボットテーブル、ピボットグラフが作成変更できる。	
17回	予習復習の内容	ピボットテーブルとピボットグラフについて確認する。	
	授業内容	模擬試験プログラム1解説	
18回	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
19回	授業内容	模擬試験プログラム2解説	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
20回	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
	授業内容	模擬試験プログラム自己対策	
21回	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	模擬試験プログラムを通して、組織の課題解決に活用できる。	
22回	授業内容	実技テスト 50分+解説	
	学習成果	積極的に資格取得に取り組む。	
23回	予習復習の内容	模擬試験プログラムを通して、組織の課題解決に活用できる。	

科目名	小論文応用				担当者	ナガノ アツシ ・ ホリ リョウヘイ ・ オオソノ ミヅク 永野 篤 ・ 堀 良平 ・ 大曾根 学						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期集中
授業時間数	16 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスパワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的 学習成果	①	適切・妥当な小論文を作成する志向を身に付け、評価・検討することができる。										
	②	適切・妥当な小論文に求められる、観点について意識し、評価・検討することができる。										
	③	一定時間内に、適切・妥当な小論文を構成する知見・姿勢・技術を発揮することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	論理的文章に関する技術を身に付け、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	小論文に必要な観点を踏まえ、論旨を展開し、自らの見解を述べ、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	一定時間内に小論文を構成し、適切な語彙・文体により表現する姿勢を発揮し、実務に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	既存の考え方を批判なく受容し、それらを自らの思考の結果として表明するのではなく、データを直視し、論理を構成し、まとまりのある見解に構成していく志向・姿勢をもつことは、社会を構成する一員としての重要な責任である。授業では、思考力とその表現の一つである文章化を、各自の認知傾向、文体力、論理性を踏まえ、一定時間に、小論文という形式で表現することを行っていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	100	各回の文章作成により、各回12.5%を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2年次学生の、夏休みに行う集中講義である。オンラインを介した資料配布等を行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノートPCなどを持ち込んでください。 ②文章作成の準備は予復習時に行い、文章作成は原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。 ③予復習には、それぞれ1時間程度かけることが期待されますが、集中授業のため授業と授業の間に行うことは難しいことが予想されます。そのため、事前事後の学習を入念に行うこと。 ④紙または電子形式による辞書を携帯すること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	適切な小論文とは何か?	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	適切な小論文に期待されていることは何かを理解し、適切にアプローチするマインドと技術を身に付ける。	
	予習復習の内容	複数の小論文を読み、比較検討し、評価を行う。	
2回	授業内容	小論文を作成する①300文字	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	300文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。	
	予習復習の内容	300文字程度の小論文を作成するための事前検討を行う。	
3回	授業内容	小論文を作成する②300文字	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	300文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成し評価できる。	
	予習復習の内容	300文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。	
4回	授業内容	小論文を作成する③500文字	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	500文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。	
	予習復習の内容	500文字程度の小論文を作成するための事前検討を行う。	
5回	授業内容	小論文を作成する④500文字	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	500文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成し評価できる。	
	予習復習の内容	500文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。	
6回	授業内容	小論文を作成する⑤700文字	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	700文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。	
	予習復習の内容	700文字程度の小論文を作成するための事前検討を行う。	
7回	授業内容	小論文を作成する⑥700文字	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	700文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成し評価できる。	
	予習復習の内容	700文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。	
8回	授業内容	小論文を作成する⑦1000文字	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	1000文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討・作成ができる。	
	予習復習の内容	1000文字程度の小論文を作成するための事前検討・執筆準備を行う。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	病院実習				担当者	丸山 穰・加藤 淳子						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、講師控室の場所、オフィシャルなEメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	①	医療機関での実習を通して医事接遇、医療事務の一日の流れを実践できる。										
	②	医療事務で学んだ知識を実習を通して立体的に説明できる。										
	③	実習体験を通して医療機関への探求活動にかす事ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	受付から会計までの一連の流れを確認し、医療機関で行われている業務に必要な技術を身につける。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	医療事務員に必要な知識と技術、接遇などを現場で触れる事により、より一層知識と技術を高める事ができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	実習を通して医療事務職への職業意識を深める事ができる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	医療機関で1週間程度の実習を行うために、事前に実習意欲を高めより多くの知識や技術を身につける事を目的とする。具体的には、医療保険制度、公費負担制度、受付業務、会計業務、会話のポイントなど実習先ですべき事を確認する。最終的に実習を通して医療従事者と患者様との関わりやコミュニケーションの必要性を理解し、医療事務の業務内容を立体的に把握する事で、医療事務員としての知識と技術を高め、職業的自立に活かせるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	実習報告書から理解度や取り組みの姿勢を判断し評価する。								
		実習先評価票	25	実習受入機関による実習期間中の取り組みの姿勢の評価。								
平常点	25	15回の講義の受講の態度、関心、意欲を評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の(1)(2)(3)については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①により評価を行う。 (2)は専門的学習成果①②により評価を行う。 (3)は専門的学習成果②③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			プリント配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業の進行に合わせて、これまでに学んだ知識を総動員してその日の当該部分のポイントを確認準備した上で授業に臨む。授業内容の振り返りを行い、配布されたプリント類の完成や知識の定着を行うこと。講義全体を把握した上で、1週間程度の実習(事後学習)に臨む。 ②プリント類の小問題の解答解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、医療機関について	
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて実習の意欲を高める。	
	授業内容	医療保険制度の仕組みと流れ	
3回	学習成果	医療保険制度の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、医療保険制度について理解を深める。	
4回	授業内容	公費負担医療制度について	
	学習成果	公費負担医療制度の概要を説明できる。	
5回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、公費負担医療制度について理解を深める。	
	授業内容	医療に携わる者としての心得	
6回	学習成果	医療従事者の心得を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、病院実習に向けての心得について理解を深める。	
7回	授業内容	会計業務について	
	学習成果	診療費の会計業務の算定が出来る。	
8回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、会計業務の算定について理解を深める。	
	授業内容	DPC制度について	
9回	学習成果	出来高払いの請求の他に、DPC制度を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、DPC制度について理解を深める。	
10回	授業内容	電子カルテについて	
	学習成果	紙カルテと電子カルテのそれぞれの特徴を説明できる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、電子カルテの理解を深める。	
	授業内容	言葉遣い、態度、接遇マナーの確認	
12回	学習成果	正しい言葉遣いや、態度、マナーの技術を身につける。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。	
13回	授業内容	実習日誌の書き方のポイント	
	学習成果	考察の仕方など日誌を記入するためのポイントを説明できる。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実習日誌の記入の仕方について理解を深める。	
	授業内容	正しい敬語の使い方	
15回	学習成果	尊敬語、謙譲語、丁寧語について説明ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。	
16回	授業内容	身だしなみについて	
	学習成果	身だしなみのポイントについて説明できる。	
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。	
	授業内容	話を聞くためのポイント	
18回	学習成果	話をしっかり聞く時の姿勢などのポイントについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。	
19回	授業内容	話をする時のポイント	
	学習成果	話をする時の内容や順序などのポイントについて説明できる。	
20回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。	
	授業内容	指示、報告、連絡と相談について	
21回	学習成果	指示、報告、連絡と相談の大切さを学び説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、報告連絡相談の重要性の理解を深める。	
22回	授業内容	実習前最終確認	
	学習成果	実習への意欲、知識、持参物など説明できる。	
23回	予習復習の内容	これまでの学習内容を振り返り、実習に向け理解を深める。	